

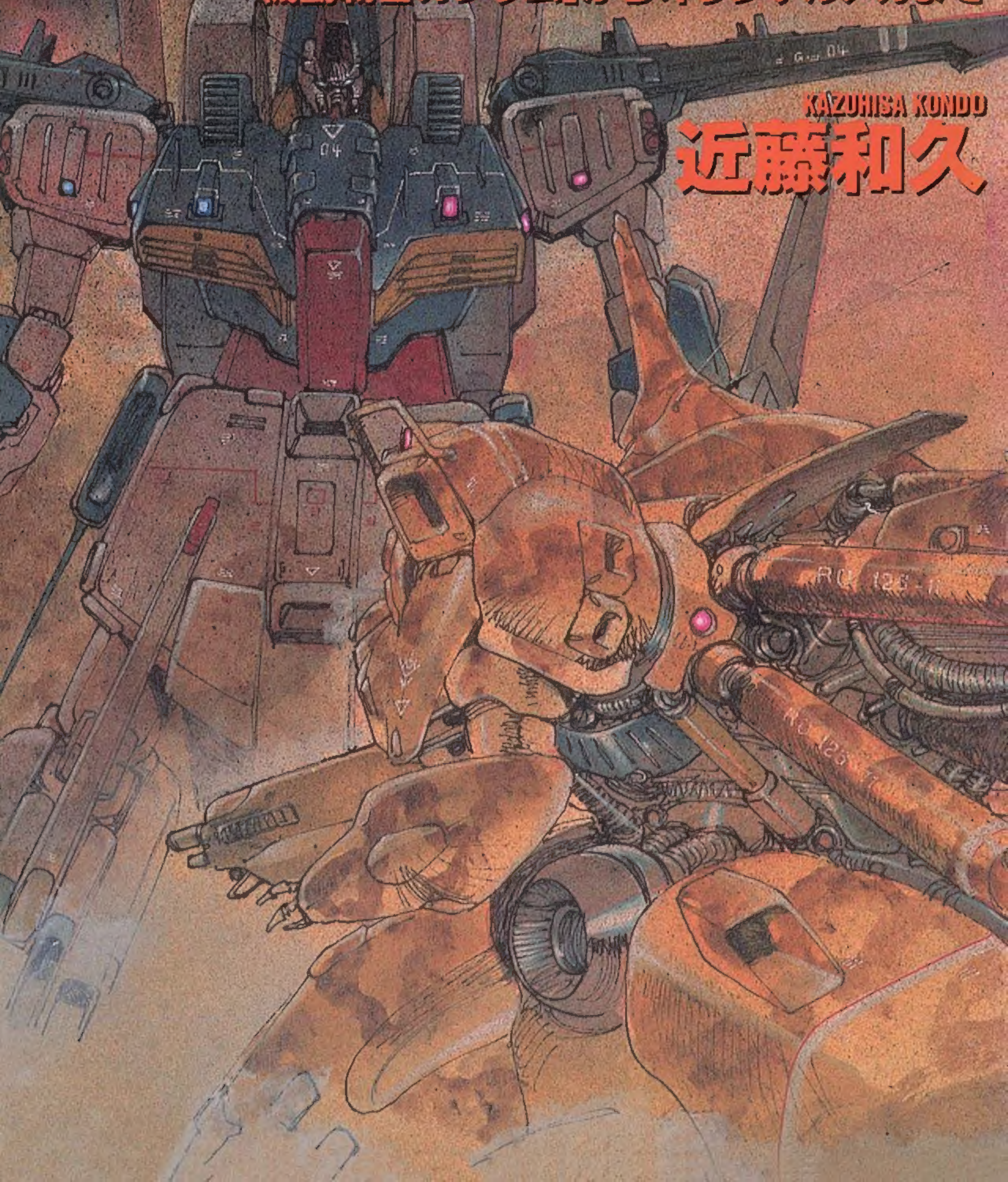
HAZUHISA KONDO 2D & 3D WORKS

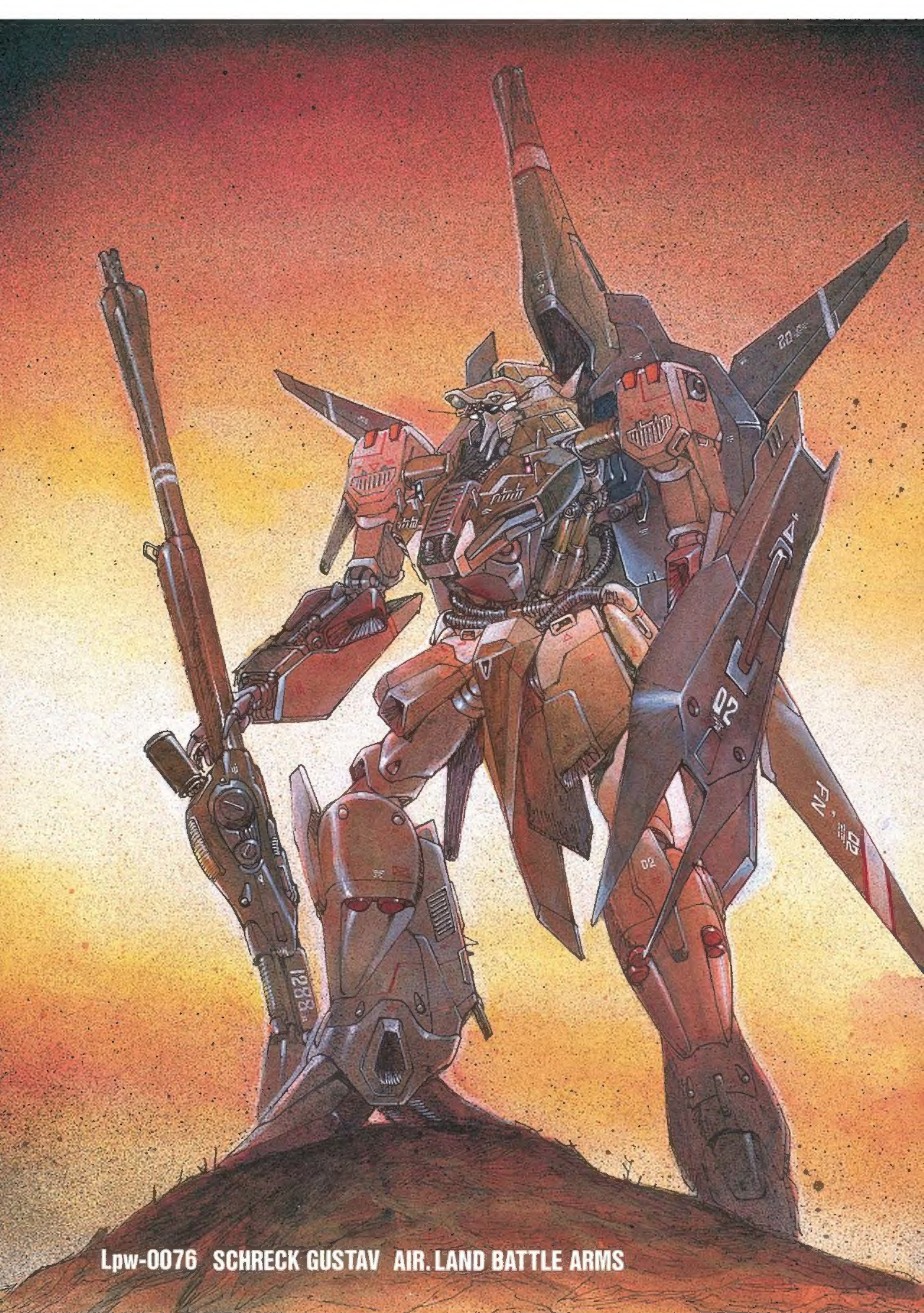
GO AHEAD

「機動戦士ガンダム」からオリジナルメカまで

HAZUHISA KONDO

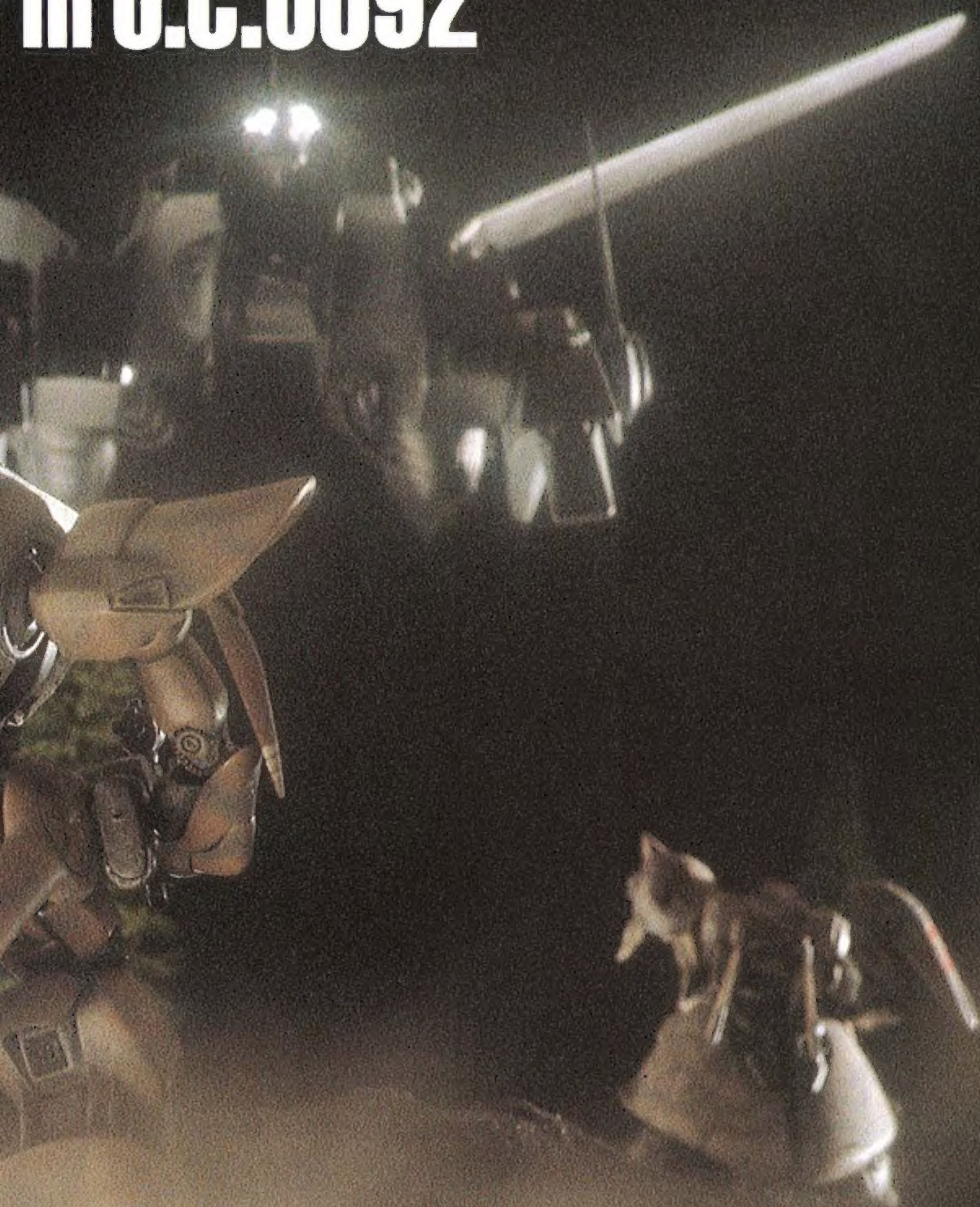
近藤和久





Lpw-0076 SCHRECK GUSTAV AIR. LAND BATTLE ARMS

in U.C.0092



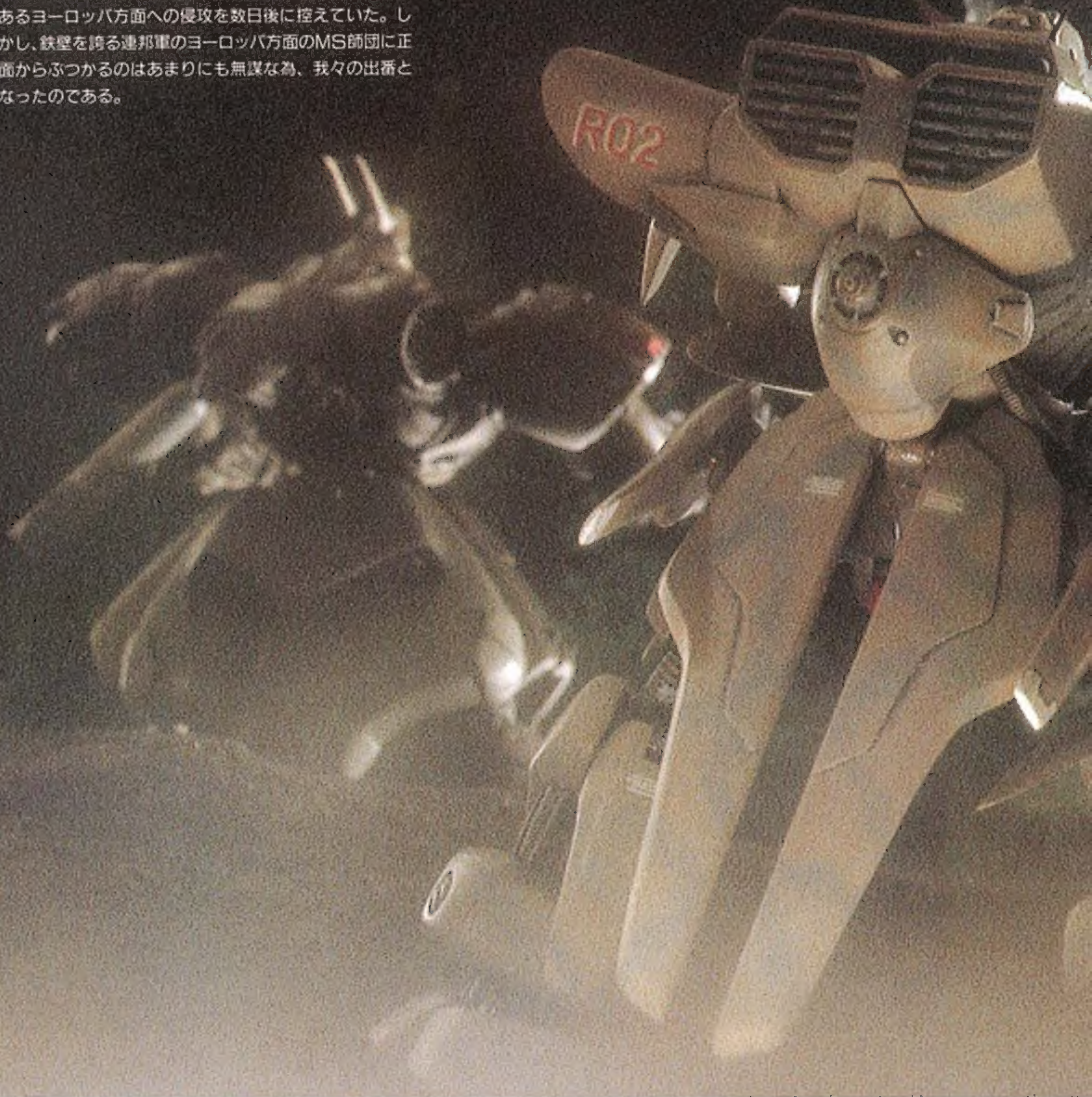
DIORAMA PHOTO STORY

SIDE OPERATION OF ZION

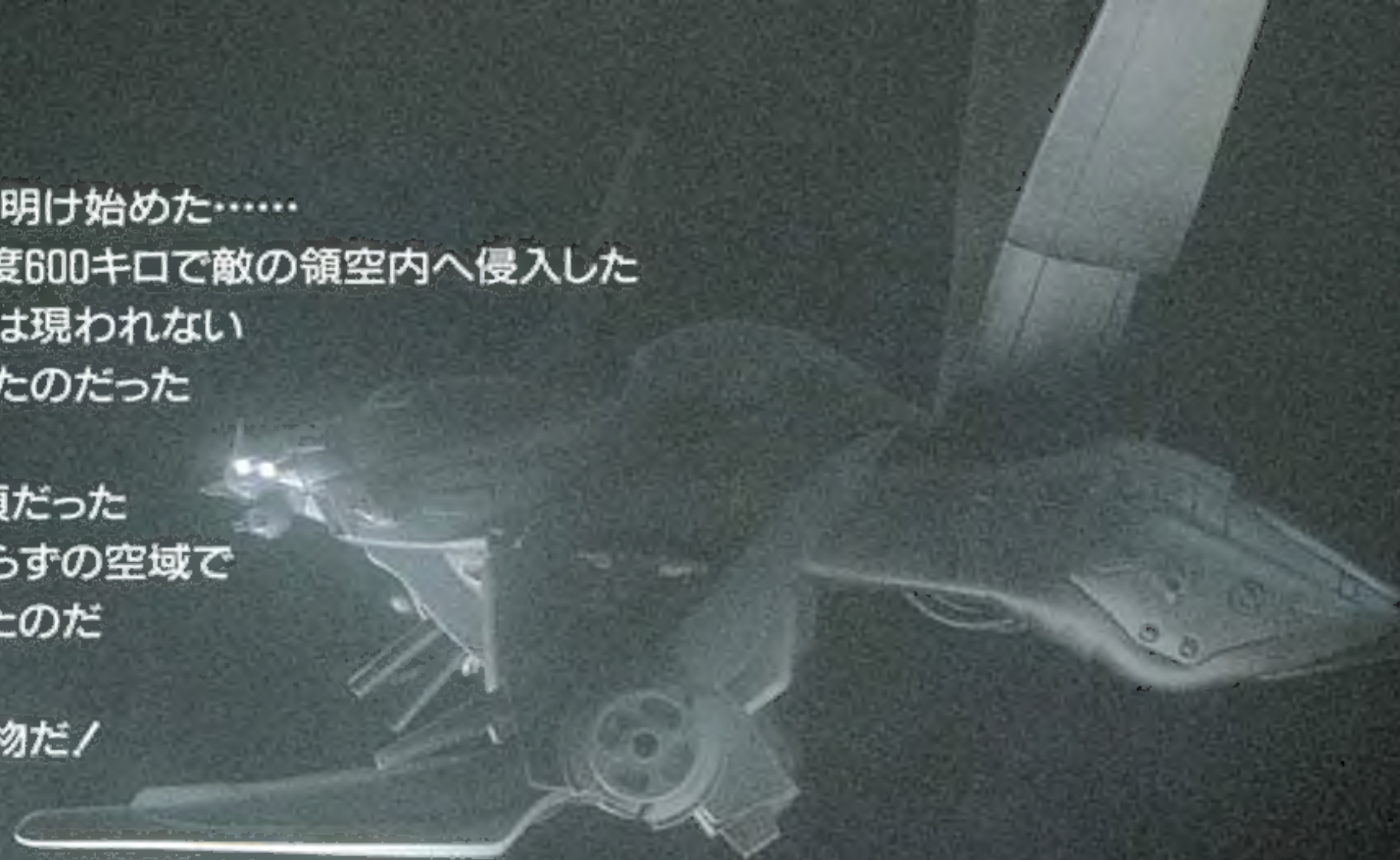
宇宙世紀0092年

新生ネオ・ジオン軍は密かに地球侵攻を開始していた
我々はヨーロッパ方面の連邦軍の拠点である
ベルリンに近いアラミダ基地へ夜明けを待たずに出撃した
しかし到着直前で奴に遭遇したのだった……

我々の目的は連邦側の拠点を後方から攪乱し、重MS大隊をヨーロッパの中心部へ移動させることであつた。とはいふものの、集められたパイロット達は私とクレイ以外は各部隊からの“精鋭”ではあつたが、コミュニケーションが上手くいくまでには1ヵ月以上を要してしまつた。すでに北米地域に侵攻を開始していた我軍は敵の拠点であるヨーロッパ方面への侵攻を数日後に控えていた。しかし、鉄壁を誇る連邦軍のヨーロッパ方面のMS師団に正面からぶつかるのはあまりにも無謀な為、我々の出番となつたのである。



午前4時、少しずつ夜が明け始めた……
高度3,200メートル、速度600キロで敵の領空内へ侵入した
不思議と敵の迎撃部隊は現われない
が、私にはこの時予感したのだった
とても嫌な予感が
最初のポイントに入る頃だった
目標地点にあと30分足らずの空域で
その嫌な予感が的中したのだ
悪夢の始まり
敵は巨大な翼を持つ怪物だ/
いったい何だ/
データにない/



翼を持った巨大な悪魔は我々の乗る輸送機を
次々と撃墜していった
3番機が
1番機もやられた/
我々は自力で機外に脱出した
目標地点にあとわずかのところで
我々の部隊はそのほとんどが
撃破されてしまったのだ
マーシがやられた、ジョシーも、エドワーズも
何ということだ……





散り散りになって地上に降下した我々を待ち受けていたのは敵の迎撃隊だった
かなりの数だ
私の目の届かない所で次々と自軍のMSが撃破されていく
一機、また一機……通信が途絶えていく
敵は完全に我々を掃討するつもりだ
皆んな、どこにいる!?
来るのは敵ばかりだ



まだ明けきらない暗闇の中でようやく他の部員と出会えた
が、それも束の間、奴の攻撃が始まった
でかい/ 何という大きさだ
敵のモビルアーマーなのか?
何のデータも入っていないぞ/
実験機なのかもしれないが、
その火力と機動力はこちらのMA以上だ
一瞬のうちに仲間のMSが撃破されていった
くそっ/ どうしたらいい?
私はクレイと共に陽動作戦に入った





私が敵を引き付ける間にクレイが
 敵の背後に飛び付いた
 奴の心臓部を撃ち抜いたが
 クレイもやられてしまった
 だが、クレイの攻撃で奴の動きが止まった
 私は残った全弾を奴に撃ち込んだ
 轟音と共に奴の姿は大地から消え去った
 悪夢は終わった
 私が闘った敵のMAはその後どこの戦線にも
 姿を現わすことはなかった
 そして私が闘ったこの事実は
 一切戦闘記録としては残されていない……

MOBILE SUIT GUNDAM 2D&3D WORKS



ORIGINAL MS 3D MODELS

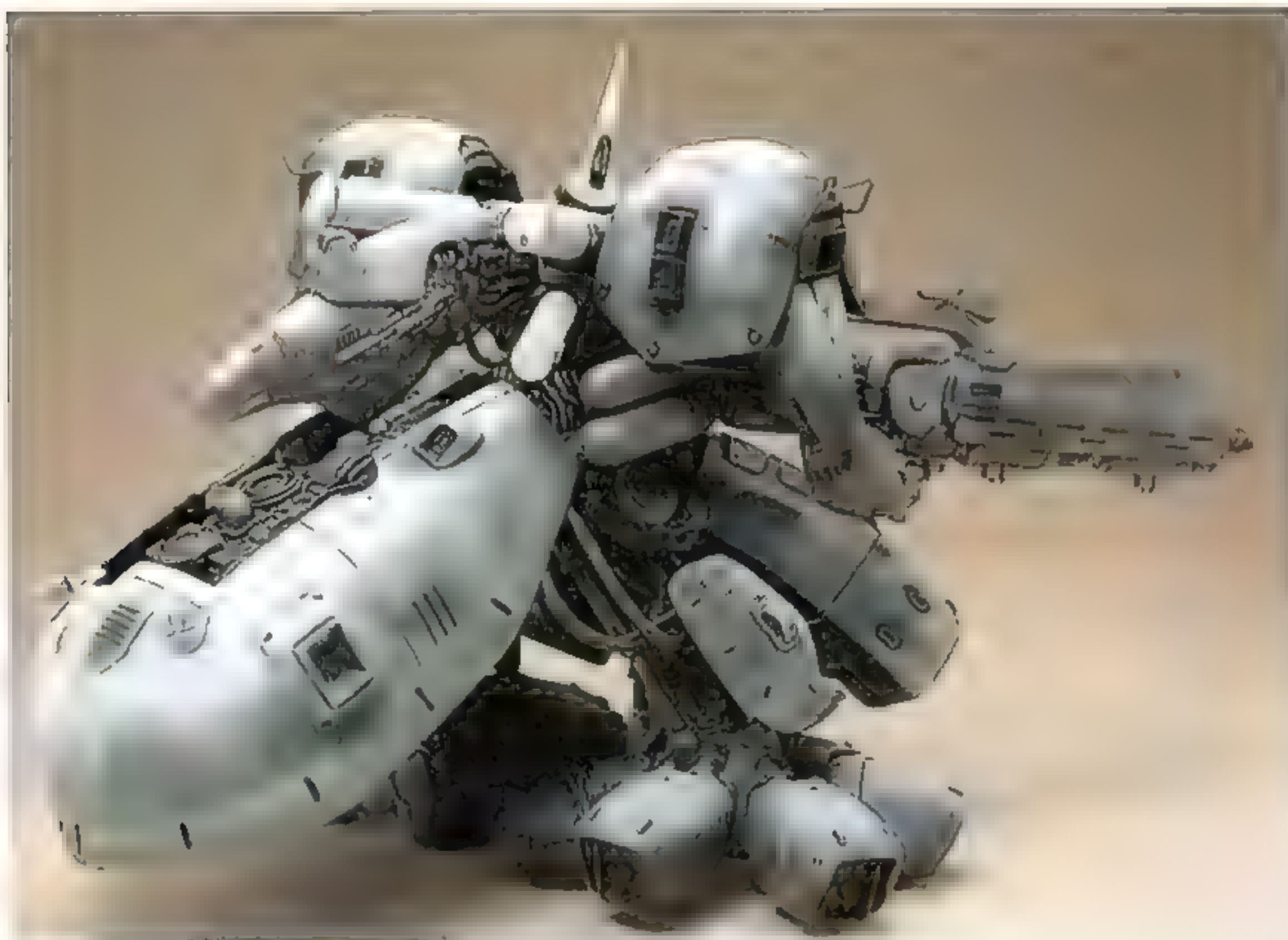
SCENE:1 冬將軍[U.C.0092]

PMX-003 THE-O II“HAUER”[”] [KOTOBUKIYA
1:220 scale resin kit]

MS-108 MARASAI-H [B-CLUB 1:220 scale resin kit]

Modeling by Masaru Kamata





▲PMX-003 THE-01 "HAUER"

コトブキヤから発売されているネオ・ジオ（デザイン／小林誠）をベースに、各部を「ジオンの再興」（ニュータイプ100%コミックス・角川書店／著者はもちろん近藤氏）のジオⅡに合わせて改造した



▲MS-108 MARASAI-H

ビークラブショップで限定発売された寒冷地用の改造パーツを使用して製作したタイプ。顔の形状はエボキシパテで修整を加えている

宇宙世紀0092年、ジオン軍の地球残存部隊は本国の統制の乱れから武器、弾薬の補給が断たれ、各戦線で苦戦を強いられていた。ジオン軍は地上からの撤退を決意していたが、すでに地上部隊のほとんどが壊滅状態にあり、撤退は不可能であった。ここ北米カナダに近いホワイトホースでも何も知らずに一個MS小隊が降りしきる雪の中で増援もなく戦闘を続けていた……。



SCENE:2 砂漠の鬼[U.C.0092] MS-109A/D GOBLIN

[GOIKENMUYO FACTORY 1:220 scale kit]

Modeling by Masaru Kamata

MSの数で劣勢にまわったネオ・ジオン軍は生産性を最優先にしたMSの開発に着手した。通常のMSの約2/3のコストで生産され、要塞の警備や局地戦を想定して作り出されたのが、このスツーカーである。しかし予想に反してその性能が優れている事が判るとただちに量産に移り、旧式になりつつあったザク系MSなどと逐次機種転換されていった。その範囲は宇宙、地上を問わず使用された。機体が他のMSよりも一回り小さいことから“ゴブリン”と呼ばれ、戦場ではもっぱらこの名の方が通っていた。

特に北アフリカで最も戦果を挙げており、この地域だけは連邦軍と対等以上に戦っていた。



▲MS-109D GOBLIN

A型のTropタイプ。砂漠での消耗戦により劣勢にたたされたジオンは、砂漠戦仕様のゴブリンを多数投入した。肩アーマーなどがAタイプとは異なる



▲MS-109A GOBLIN

初期生産のA型。小型ながら汎用性は高く大型MS並の火力を使用できる。作品は御意見無用ファクトリーから発売されているGKの原型



SCENE:3 集結[U.C.0092] AMS-119A1 GEARA DOGA

[B-CLUB 1:220 scale resin kit]

Modeling by Masaru Kamata

宇宙世紀0092年6月、ジオン再興のため地球への陨石落としが迫っていた。地上の残存部隊は徐々に戦力を立て直し、宇宙へ脱出のため、各部隊が続々と西ヨーロッパに集結し反抗作戦に備えていた。新型量産機ギラ・ドーガを軸とする第60重MS中隊もこの前線へ到着し、出撃準備を進めていた。

◀AMS-119A1 GEARA DOGA

連邦軍の量産型MSに性能や物量で対抗出来なくなってしまったマラサイなどの中型汎用MSの後継機として開発・量産された。ギラ・ドーガは旧ジオン軍の名機、ザク同様多くのバリエーションを持つが、A1タイプは火力の増大と装甲の強化を行っており、ノーマルタイプの1.5倍のパワーを有する。作品はキットを改造し、ポーズの変更を行なったもの。





SCENE: 4

激闘[U.C.0092] AMS-04B SAZABI

[B-CLUB 1:220 scale resin kit]

Modeling by Masaru Kamata

ニュータイプ用に開発されたサザビー(MSN-04)を通常指揮クラスが使用出来るように試験的に開発・生産されたタイプ。背部に装着するファンネルポッドを取り外し、ウェイトバランスを改良して地上での運動性(走行性)を高めている。さらに全身の装甲を大型化し、火力も大幅に増大している。大戦末期にはネオ・ジオン軍の物資不足から最終生産数は89機と意外に少ない。北米大陸からアフリカ、アジア方面と幅広い地域に配備されている。北アフリカでの戦闘はゴブリンの実戦配備によって、ようやくジオン側にやや有利な局面を迎えていた。しかし物資の補給がままならないため、それも長くは続かずあとはパイロットの腕に頼るしかなかった。第一重MS師団長ヨハン=ブリッツはそれまでのオレンジ色の機体をデザートイエローの単色に塗り替え、自ら前線に立ってジム系MSを27機撃破した。



▲別角度から見たジオラマの全景



AMS-04B SAZABI





SCENE: 5 STANDBY OK! [U.C.0080] RX-78NT1 GUNDAM "ALEX"

[BANDAI 1:144 scale
kit conversion]

Modeling by Masaru Kamata

一年戦争末期、連邦軍はRX-78ガンダムの後継機としてニュータイプ専用のモビルスーツの開発を進めていた。アムロ・レイが挙げた想像以上の戦果はジオン軍はもとより、連邦の開発スタッフさえも驚かせた。しかしポテンシャルがジムクラスだったため、ニュータイプの能力に対応できなくなりつつあった。これらをカバーすべく完成したのがNT-1である。実戦前にテストを繰り返していたが、結局終戦までに完全には仕上がらず、アムロの元へは届くことはなかった……。



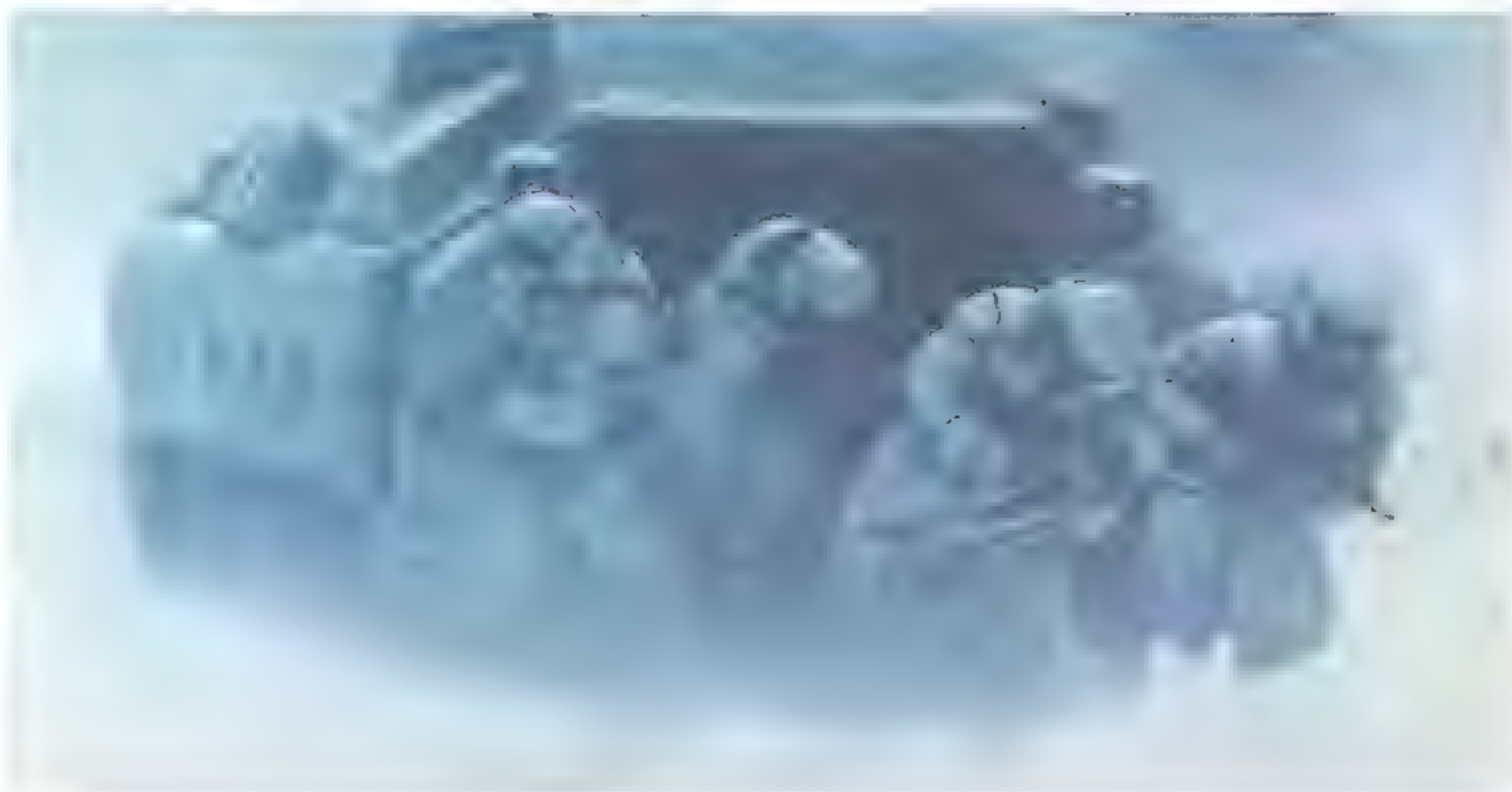


SCENE: 6 北極基地強襲[U.C.0079] MSM-07 ZUGOCK

[BANDAI 1:100 scale kit conversion]

Modeling by Masaru Kamata

宇宙世紀0079年12月、ジオン公国地球進攻軍は北極にある連邦の軍事施設を強襲した。目的は連邦が極秘に進めていた新型モビルスーツの奪取もしくはその破壊であった。十数機の水陸両用型モビルスーツと海兵隊による作戦は一時成功に見えたが、わずかな差でシャトルで脱出させてしまった。この作戦は正式には記録されておらず、その後に行われた特務部隊による作戦も全く記録には残されていない。







SCENE:7 見えない脅威 [U.C.0092] VPKW-005A STURM YEAGER

[GOIKENMUYO FACTORY 1:220 scale resin kit]

Modeling by Masaru Kamata

宇宙世紀0092年、劣勢を強いられていたネオ・ジオン宇宙軍は、連邦の可変形MS、Zグスタフに対抗できるだけのポテンシャルを持つMSの開発を続けていた。VPKW-005A、およびA1は、ORX-005を基本としているが、各部はすべて新設計である。同時期には大気圏使用型B型も開発されているが、宇宙用のA型が主に量産されており、基本スペックもB型よりも上回っている。尚、A型とA1型の基本スペックはほぼ同じであるが、A型は表面にレーダー波を吸収する特殊なコーティングが施された強襲攻撃用で、A1型は飛行時の安定性を高めた作りになっている。



SCENE: 8 MANÖVER PANZER VOR! [U.C.0092] MAN-010 G-3 (GE-DREI)

[KOTOBUKIYA 1:144 scale resin kit]

Modeling by Kazuhisa Kondo/Takaaki Haraguchi

エルメスをさらにコンパクトにしたニュータイプ用MAとして開発されたのがG-3である。MSクラスへのサイコミュ導入が可能となり、ニュータイプによる特殊部隊が結成された。彼らの駆るMAは特にG (GE) と呼称されており、G-1 (ゲイ・アイン) はエルメス級、G-2 (ゲイ・ツヴァイ) は開発が中止、そしてこのG-3 となったのである。G-3 は機動力、破壊力ともにジオンMS中最高クラスとするため、変形機構が導入されている他、多数のビーム砲、ファンネルが搭載されている。





SCENE:9 3D WORKS

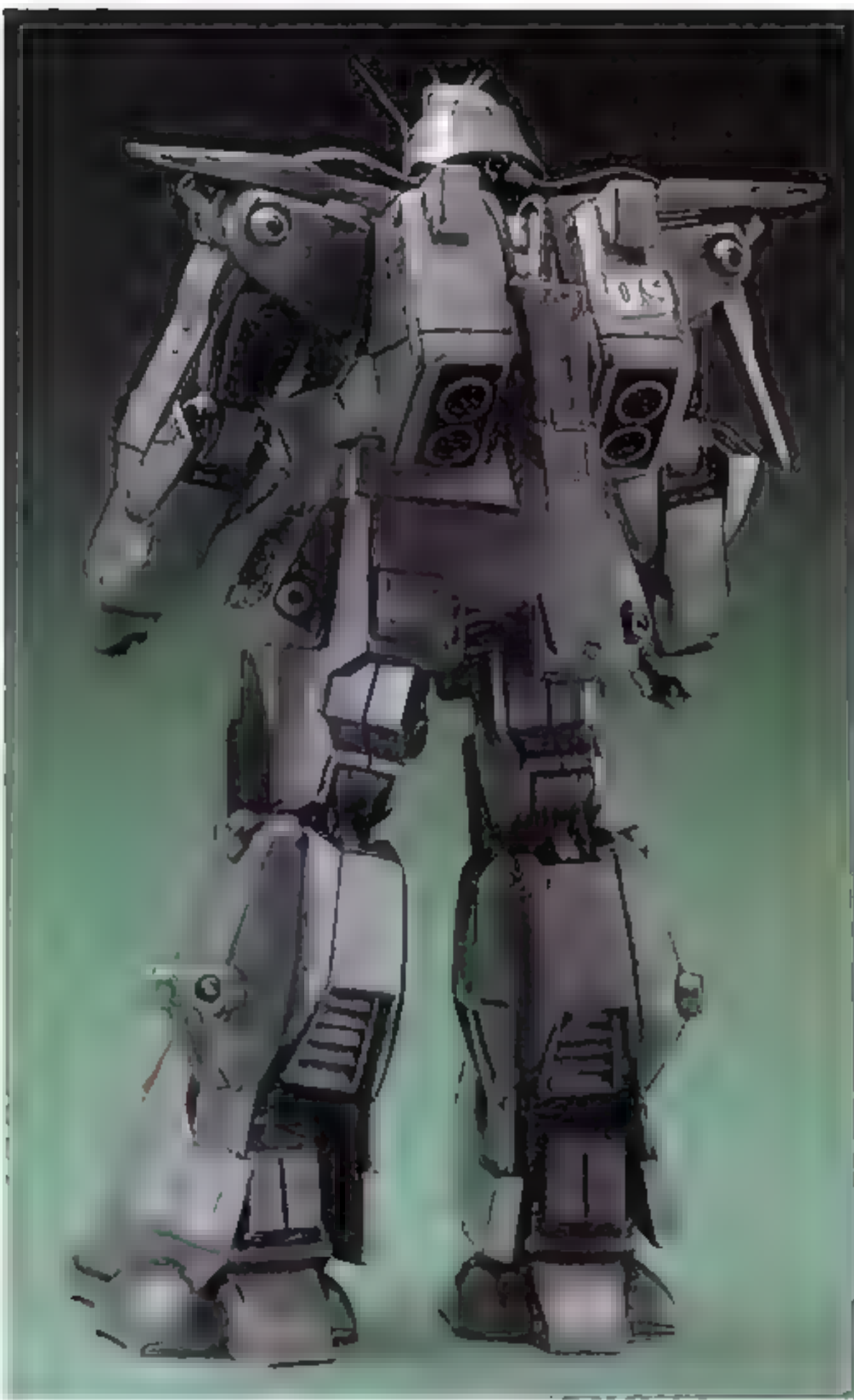
Modeling by Kazuhisa Kondo

著者も自らモデルを造る事がある。前ページのG-3をはじめ、ここで紹介するMSのようにミリタリー感覚あふれた仕上げが多い

AMS-04B SAZABI

AMS-119A1 GEARA DOGA

[B-CLUB 1:220 scale resin kit]



MRX-010 PSYCO GUNDAM Mk II

[VOLKS 1:220 scale resin kit]



MAN-010

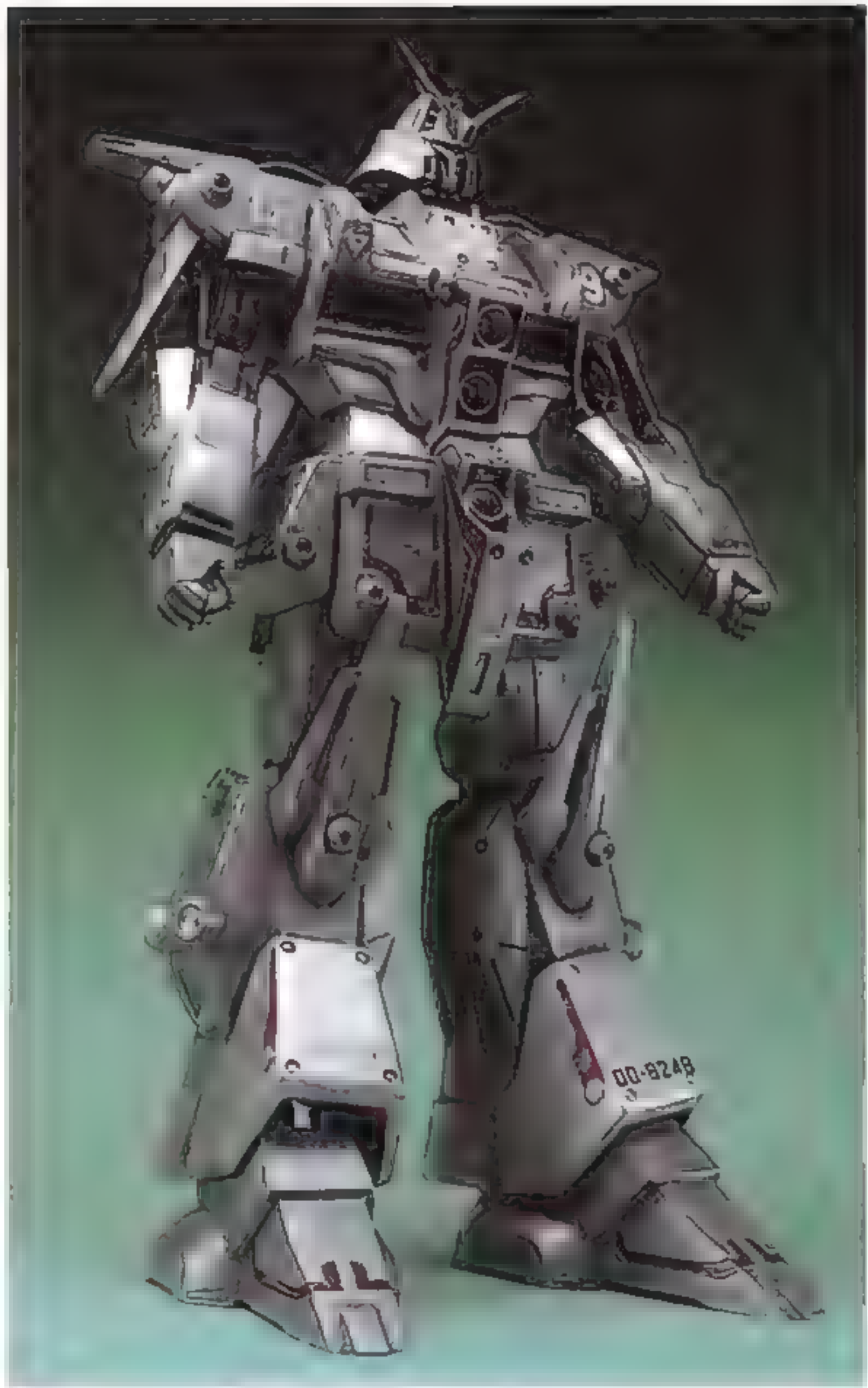
G-3 (GE-DREI)

[KOTOBUKIYA

1:144 scale resin kit]



◀コトブキヤのGK(原型/原口高陽)を近藤氏自らが製作した作品

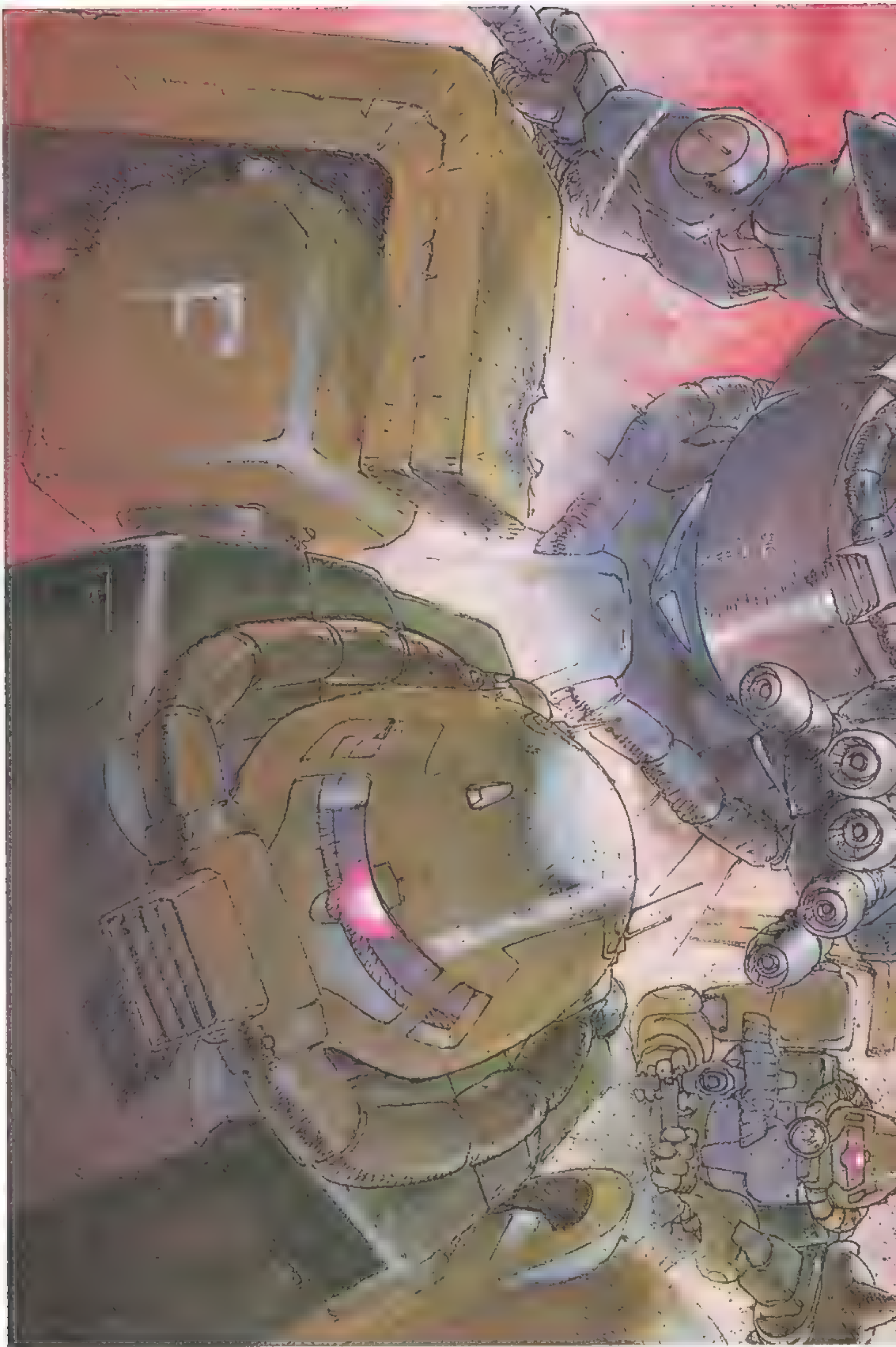


MSM-07E ZUGOCK-EXPERIMENT
MSM-08 ZOGOK
[BANDAI 1:144 scale kit]









●ランバ・ラル隊いる、ガルマ・サビ大佐の部隊による肉迫攻撃に、アムロ・レイ操るGUNDAMも苦戦を強いられている。しかしあきらかな戦力の差の無いに徐々にランバ・ラル隊はその戦力を消耗していった

[illegible]

「この映画は、それまでの『モリス』シリーズと違って、グランドとロとの関係は、必ずや別が、そして、その関係が、この映画の中心にある。そして、その関係が、この映画の中心にある。」



●アフリカ戦場の惨状を一望したシーンで、
GMの軍事力や、GMの技術力を
印象づける。GMが世界に
誇る技術は、この映像から
伝わる。









MSZ-006 Z GUNDAM

▶ ガンダム系列を踏襲するべく GUNDAM MK-Ⅰの長所とデザインワークをベースにリック・ディアスの機体ポテンシャルをミックスしたモビルスーツ。リック・ディアスとの間にヒャクシキ、メタスなどの中戦体系のモビルスーツを持つ。高速移動時ならびに大気圏突入時にウェーブライダーへと変形する

RX-178 GUNDAM MK-Ⅰ

◀ 1年戦争当時、有名をはせたRX-78 GUNDAMの後継機としてティターンズが、対エウーゴとのゲリラ戦用に開発されたモビルスーツ。しかし3機作られた試作機によるテストは軍の要求性能を満たす事が出来ず、以後の開発は中止されてしまった。試作機のため、型式番号の後にVナンバーが付けられている

RMS-108E MARASAI

▼ ハイ・ザックの発展型モビルスーツとしてティターンズが開発した。装甲にガンダリウムを採用し、耐弾性を強化している。パワーシェネラーターも強化されビーム兵器の連続使用が可能になった。しかしまた旧シオン軍モビルスーツのデザインラインが見てとれる機体である



108E
BY F. KONO
Family Sottale

[illegible]



MSZ-006 Z GUNDAM

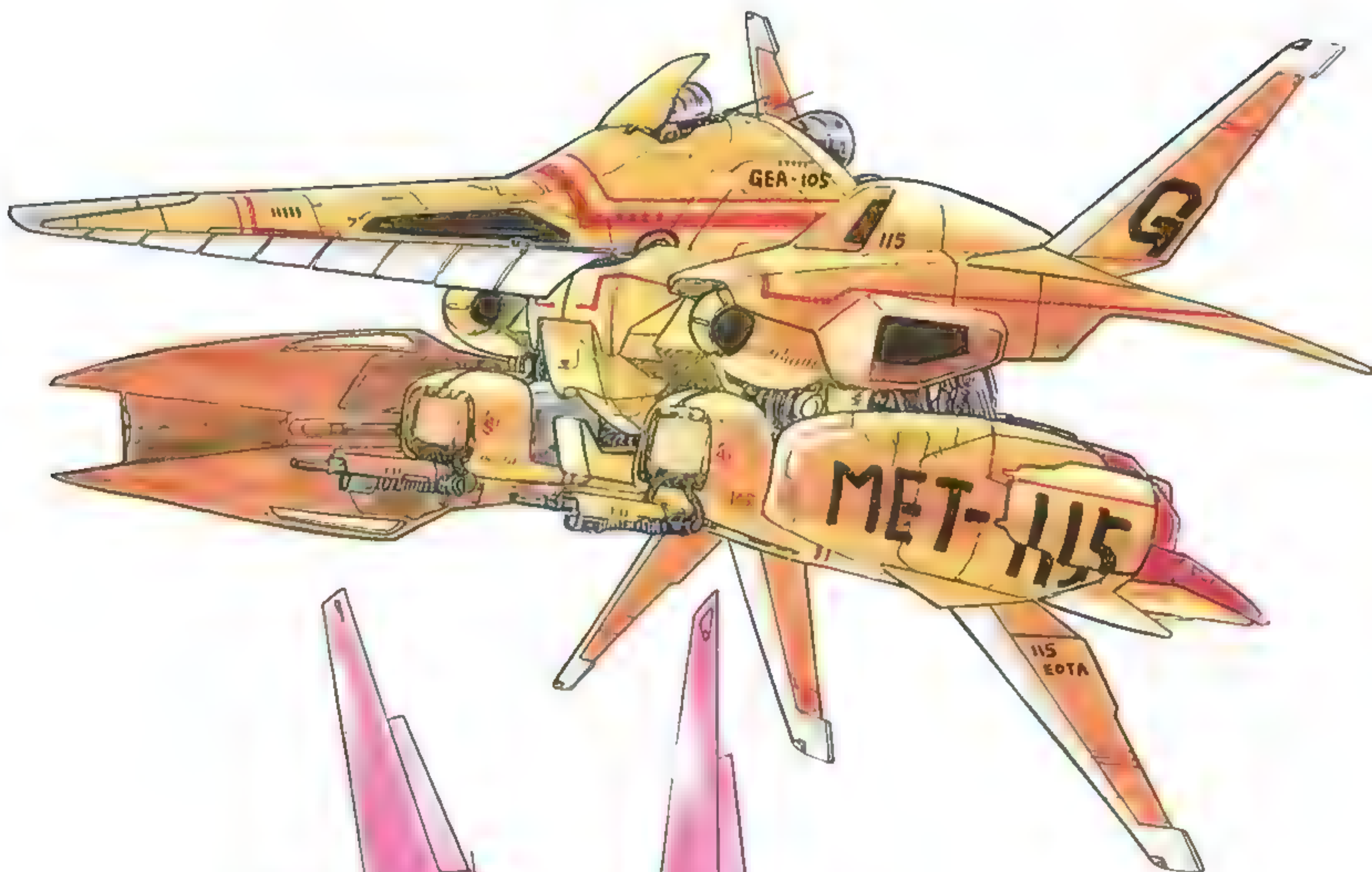
▶RX-178 GUNDAM MK-IIに旗を立ったZ計画は、機体構造用テストベツトとしてRMS-099リックディアス、MSN-100百式を経て、また大気圏突入用テストアーマーにフライングアーマー、トランスフォーメーションシステム用テストベツトとしてMSA-005メタスと多くの機体によって得られたデータの結実によって出来上がったのがMSZ-006 Z GUNDAMであった



MSZ-006 WAVE RIDER

▶通称ウェーブ・ライダーと呼ばれるこの機体はZ GUNDAMの変形後の形態を指す。それもトランスフォーメーションシステムの導入によりスピーディーな機動力、単独による大気圏突入、脱出を可能にした。このシステムの開発によりモビルスーツは大いなる可能性を得ることになった





MSA-005 METHUSS

▲エウーゴ系モビルスーツに最初にトランスフォーメーションシステムを導入したのがこのMSA-005メタスである。この機体はトランスフォーメーションシステムのテストヘットとしての色彩が強く、メタスによって得られた結果が次に開発されたモビルスーツMSZ-006 Z GUNDAMにいかにも重要なデータを与えたか計り知れない



MSN-100 TYPE100

◀百式はティターンズより奪取したRX-178 GUNDAM MK-IIにエウーゴが独自に開発したモビルスーツRMS-099リック・ディアスの機体ポテンシャルを掛け合わせた機体で、エウーゴ版ガンダムといってもよいモビルスーツである。すでに次期モビルスーツZ GUNDAMの面影が窺えてとれる機体である

PKW-209 GAHU

●難航性に達していたPKW-109ゴブリンの機体構造をそのまま持用した兵器廠直轄所PANZER WAFFENがPKW-209ガフである。外見上はゴブリンとはまったく別の機体となったため、新たに形式番号が与えられ、呼称も変わったのである。すでに数十機のゴブリンがこのガフタイプへ改装されたいわ

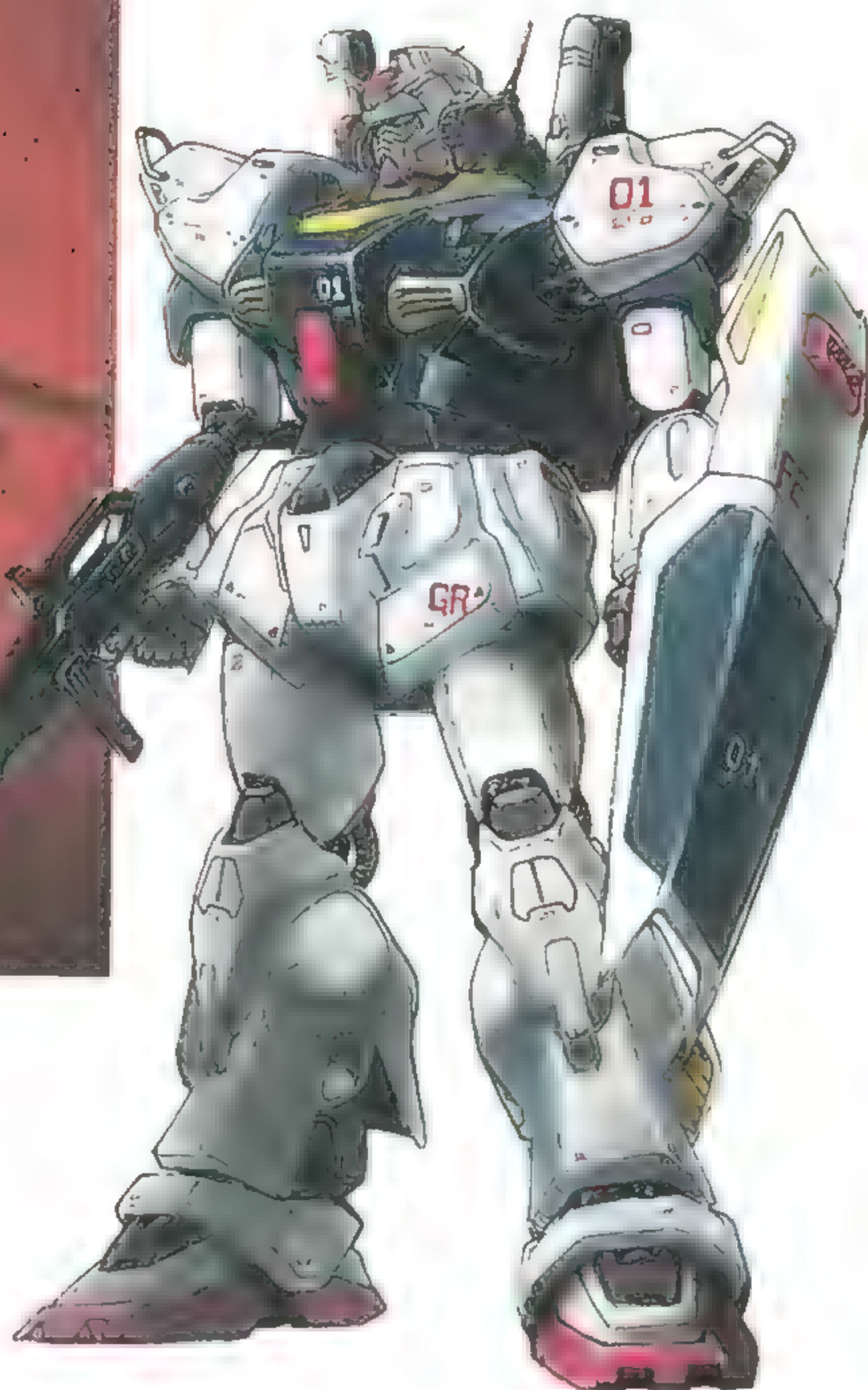






RX-178 GUNDAM MK-II

▼カミーユ・ビダンの父フランク・ビダン
を長とするチームによって開発されたティ
ターンズのモビルスーツであったGUNDAM
MK-IIだが、敵エウゴにより使用される結
果となってしまった。カラーリングはエウ
ゴ用である





A/F MSZ-007 I ZETA

▲Z GUNDAMは戦場で多くの戦果を記録し、ただちに量産化へと発展していった。しかしZETAの配備が始まる前にティターンズが崩壊してしまい、実際の戦場を記録するのはその後に見えたネオ・ジオン軍との戦いであった

●エウーゴのクワトロ・バジーナ大尉は、一年戦争当時、赤い彗星と連邦軍から恐れられたシャア・アズナブルであった。戦後の混乱期に乗じて連邦軍へ転籍をおくことができたが、しかしそれもネオ・ジオン再興の画策の一環であったことは、その後の歴史が証明している





MSZ-010 ZZ GUNDAM

●ZZ GUNDAMの最大の武器である、頭部頂上のハイメガキャノンの破壊力は絶大ではあるが、一回の使用しか出来ないというデメリットも同時に内包している

RX-93 ν GUNDAM

●ネオ・ジオン軍の戦術ハヤーン・カーンの死後、シヤア・アスナル率いるネオ・ジオン軍との戦いが激化したエゥーゴはニュータイプ用GUNDAMの開発に着手、フイソフソネルの実用化によりこのν GUNDAMは大いなる力を秘めた兵器として誕生した







UTM
ТАРНАК



F-91 GUNDAM, FORMULA F-91

● F-91 GUNDAMは、数々の出陣を遂げたGUNDAM F-91である。機中の狭く汚れた、またうイライラのある格闘場でのバトルは、さながら、機が折れるであろう。その上、宇宙版を参照しての作戦は、体力を消耗し、制するに達しない。



●GUNDAM F-91とXM-07ビギナ・ギナの対決のシーンである。既にF-91は上位を占め、回り込んで闘いを詰めようとしている。F-91の特徴であるヴェスパーがまるで翼の様に風を切るさまが見てとれる







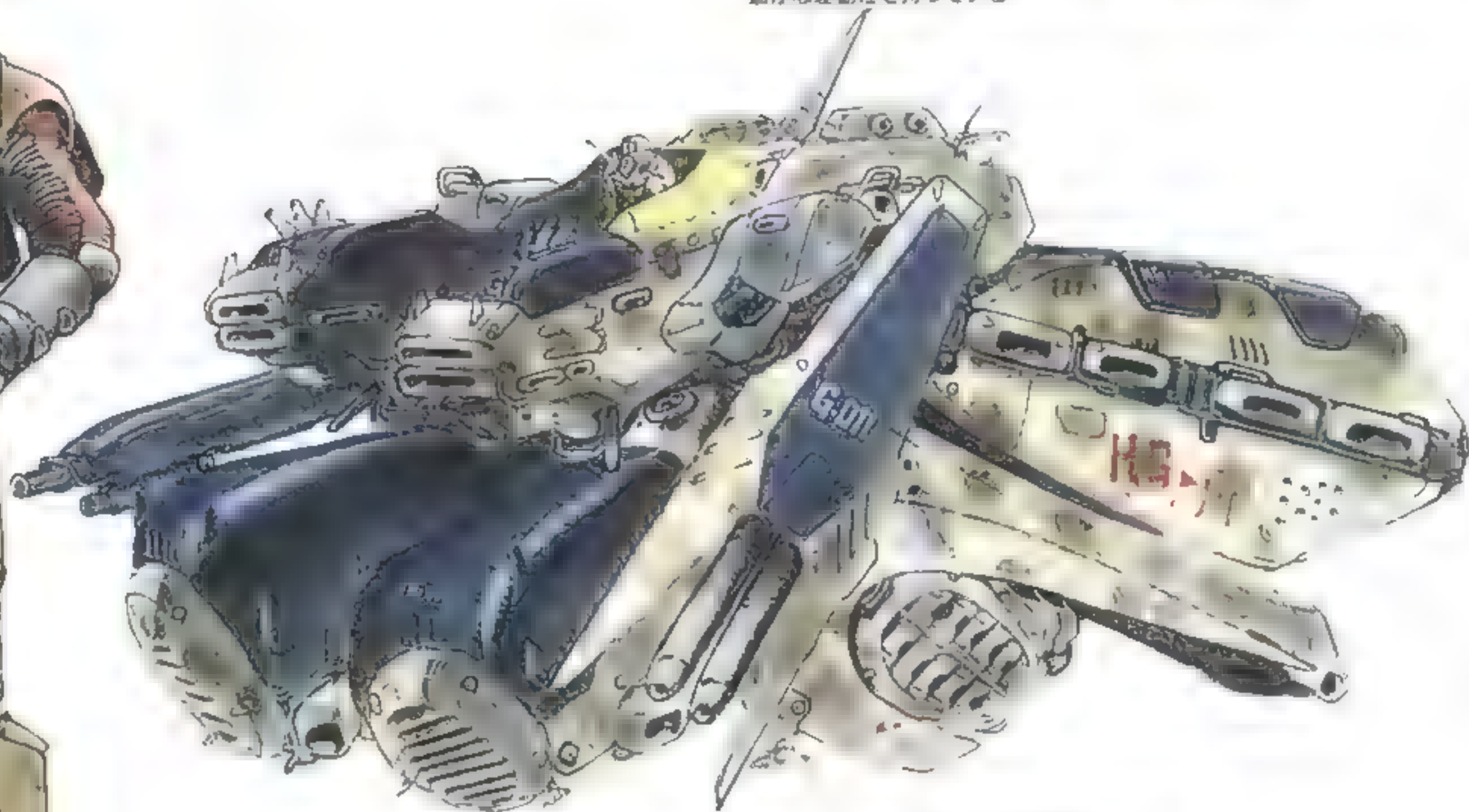
F-91 GUNDAM FORMULA F-91, XMA-01 LAFRESSIA

●クロスボーン・バンガード軍の最終モデルアーチャー、ラフレシアがF-91 GUNDAMを襲う。巨大な花を連想させる花びら型のアーチャーの下部からチェンソーの付いた無数のブレードが伸びている。ラフレシアの周りには、対人惑殺戦用兵器バグが舞っている



MF-92S G-COMMANDER・RGM-89 JEGAN

▲通常人型モビルスーツに陸戦用アーマーとホバーユニットを装備させ、さらに機動力の低下をカバーする為に小型モビルスーツを後胸部ポットに収容させているのがGコマンダーである。小型モビルスーツは無人機のため対G機動には強く、通常のモビルスーツより過大な運動性を持っている



MF-92S G-COMMANDER

▲Gコマンダーのアーマー上部には4基の単体ビーム砲座を有し、前部カバー中にはリバースポマーなる爆弾が仕込まれている。下部は完全なホバーユニットであり、コマンダー本体はその上に座る形をとっている。そして緊急時にはアーマーを強制排解する事も可能である



MSZ-006 Z GUNDAM VS MAN-010 G-3

▲Z GUNDAMとG-3の対決シーン。既にZ GUNDAMはG-3の懐に入り込みG-3のファンネルによるオールレンジ攻撃をかわそうとしている。しかしZ GUNDAMが手にしているハイパー・メガ・ランチャーは長物すぎて接近戦ではその絶大な破壊力を発揮するチャンスはないであろう

MS-15 GYAN・MS-R09 RICK DOM

◀GUNDAMを倒すべくマ・クベ大佐自らカスタムメイドのギャンで出撃した。テキサス岩礁群に拠点を仕掛け、GUNDAMをおびき出そうという作戦である。マ・クベ大佐自身は正規のパイロットではないため、ギャン本来の能力を引き出せるかどうかは未知数である

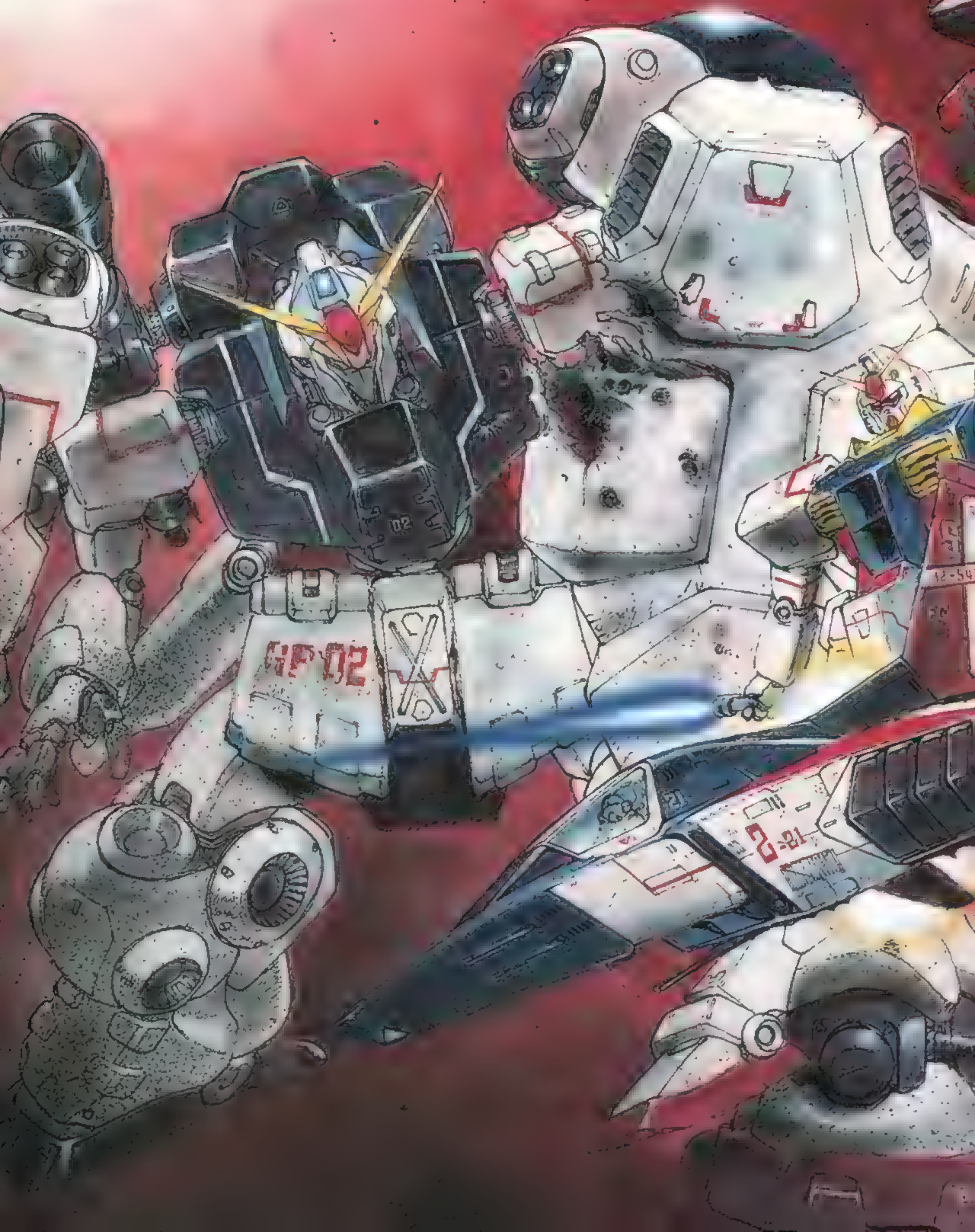
RMS-154 BARZAM

▼GUNDAM MK-IIに続くティターンズの汎用モビルスーツ。機構、規格などはGUNDAM MK-IIを踏襲しており、より構造などを簡素化し生産性を高めている。全高24.2m(アンテナ頂部まで) 基本重量40 t 全備重量62 t シェネレーター出力1 670kw スラスター総推力80 400kg





RX-78 GUNDAM/CORE FIGHTER
RX-78 GP01-Fb GUNDAM(PROTOTYPE-1) ZEPHYRANTHES FULL BURNER
RX-78 GP02A GUNDAM(PROTOTYPE-2) PHYSAIS
RX-78 GP03S GUNDAM(PROTOTYPE-3) STAMEN
RX-178 GUNDAM MK-II







RX-78 GUNDAM
RX-78 NT1 GUNDAM ALEX
RX-178 GUNDAM MK-II
MSZ-006 Z GUNDAM
RX-93 93 GUNDAM
MSZ-010 ZZ GUNDAM
F-91 GUNDAM FORMULA F-91



RX-178 GUNDAM MK-ⅡB
A/E MSZ-007 Ⅰ ZETA/WAVE RIDER
SSMS-010ZZ DOUBLE ZETA/G FORTRESS



ORIGINAL MECHANISM 3D MODELS GARAGE KIT COLLECTION 1

■近藤氏のオリジナルメカは、そのいくつかガレージキットとして発売されている。新作ではGコマンダーとラチュバムが近く発売される予定である。ここではそれらのラインナップを紹介していく。

[御意見無用ファクトリー]

- 112 Gコマンダー(G-COMMANDER) ▶ フォトストーリー「アナザーウォー」で登場した最新バージョン①原口高陽②1/220③未定④コトブキヤ
- 34 ラチュバム(LATCHBUM) ▶ 「アナザーウォー」に登場の最新メカ①今井将之②1/100 ③未定④ボークス
- 5 ジャギヤーII (JAGUAR II) ▶ アナザーウォーの主役メカ①鎌田勝②1/220③未定④コトブキヤ
- 67 ファウスト・グスタフ(FAUST GUSTAV) ▶ グスタフの陸戦型①鎌田勝②1/220③5,800円④コトブキヤ

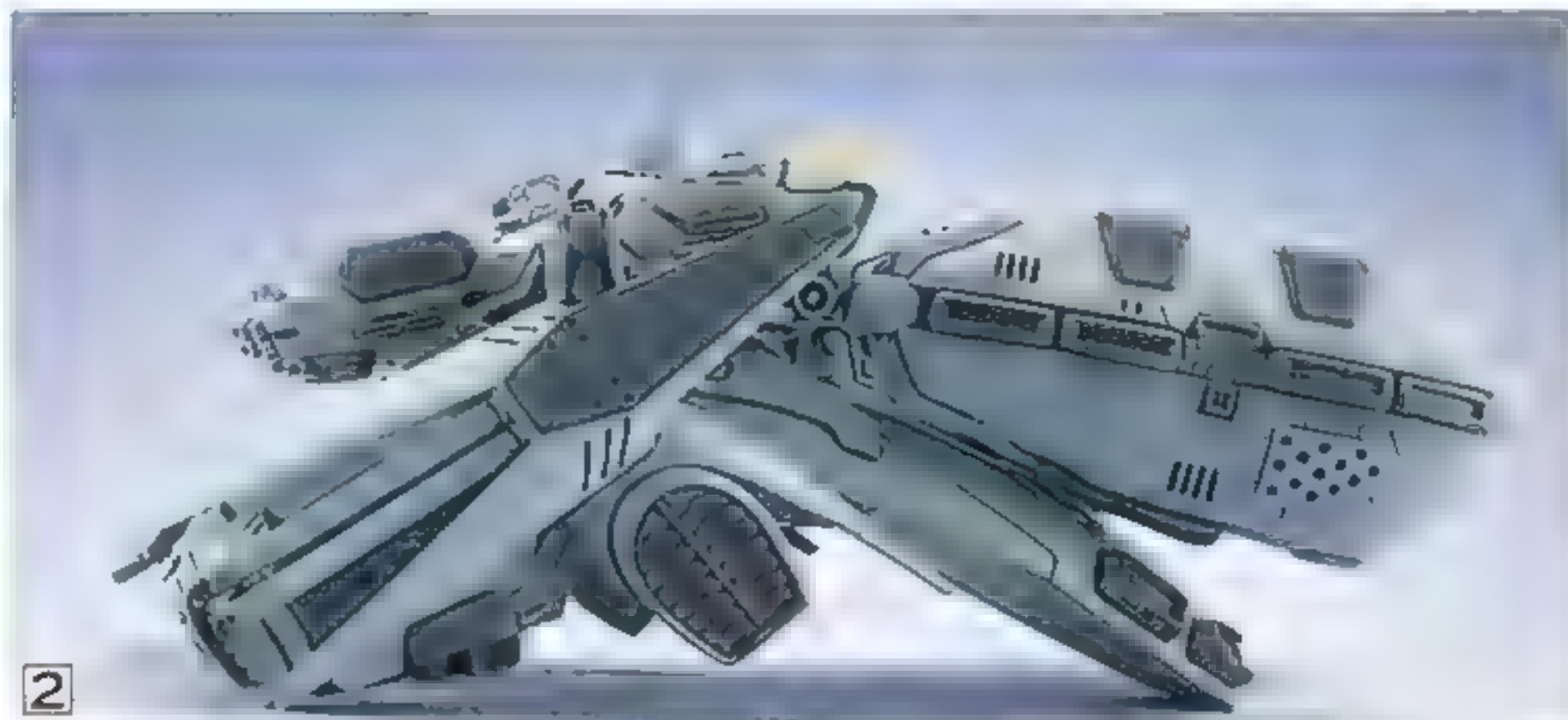
1 原型製作者 2 スケール 3 価格 4 発売元



1



5



2



6



4



7

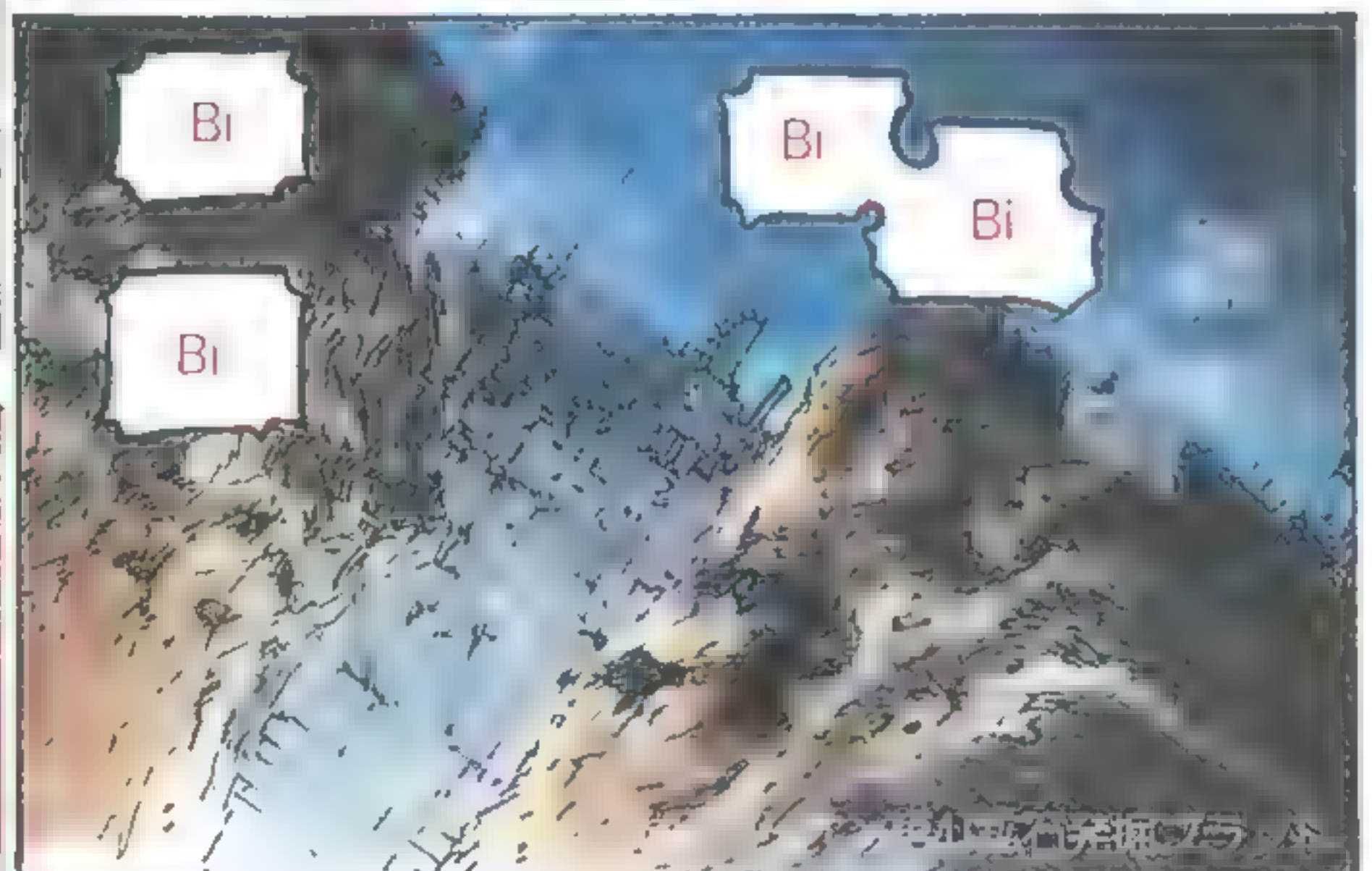
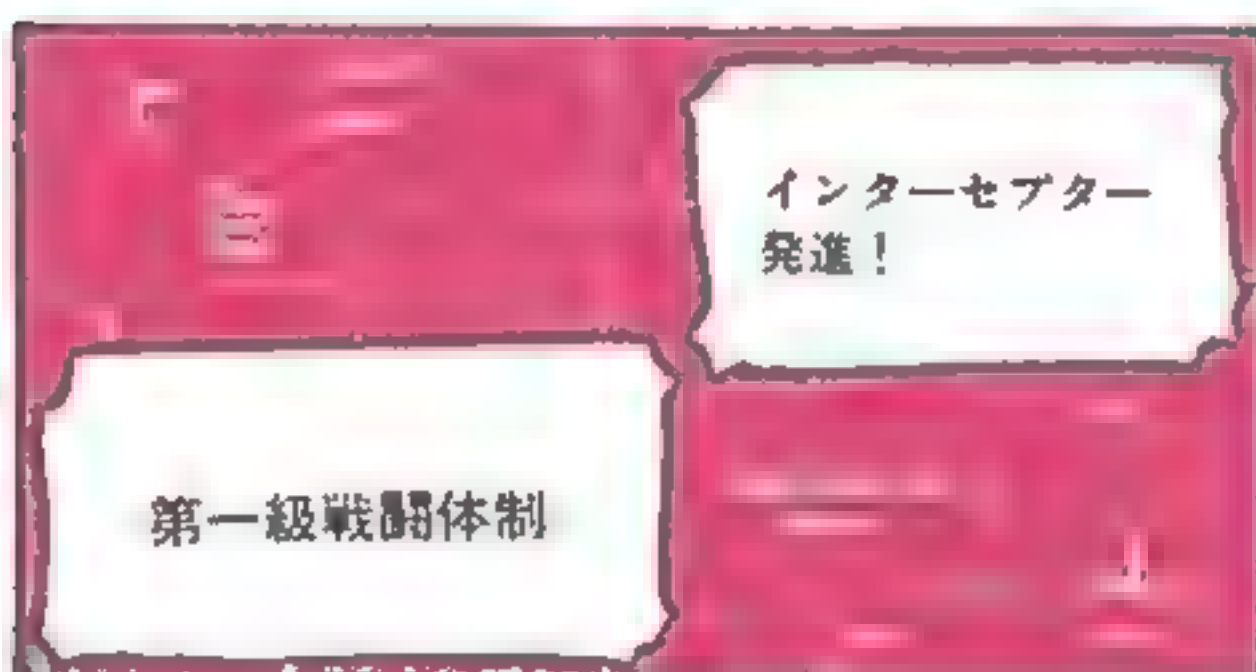
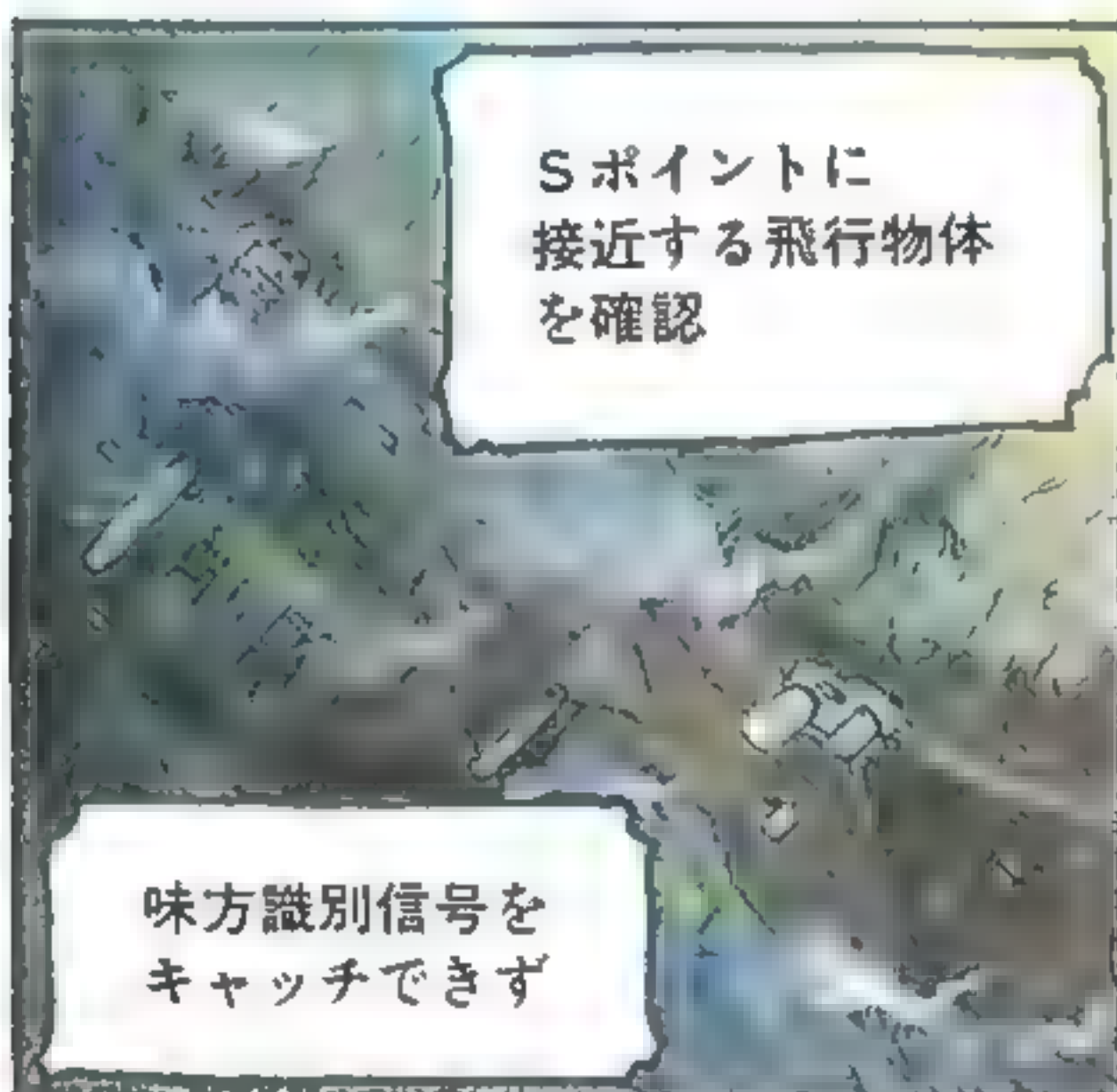


3



OPERATION TITAN

「タイタニウム」太陽系最大の惑星。その直径は142,000キロメートルもあり、およそ地球の11倍、体積は約1,300倍にもなる。自転周期は約10時間。16個の衛星を持ち、太陽から7億5000万キロの距離に在る。しかしその巨大な引力は人々の野心と欲望を引きつけて離さない。







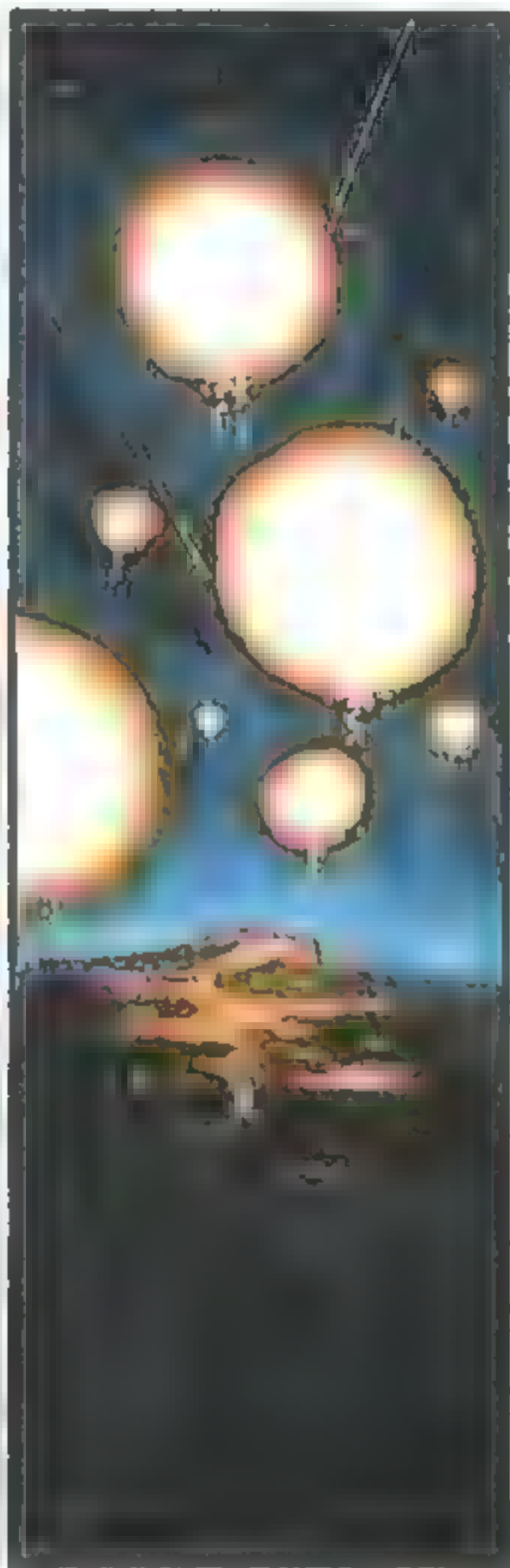
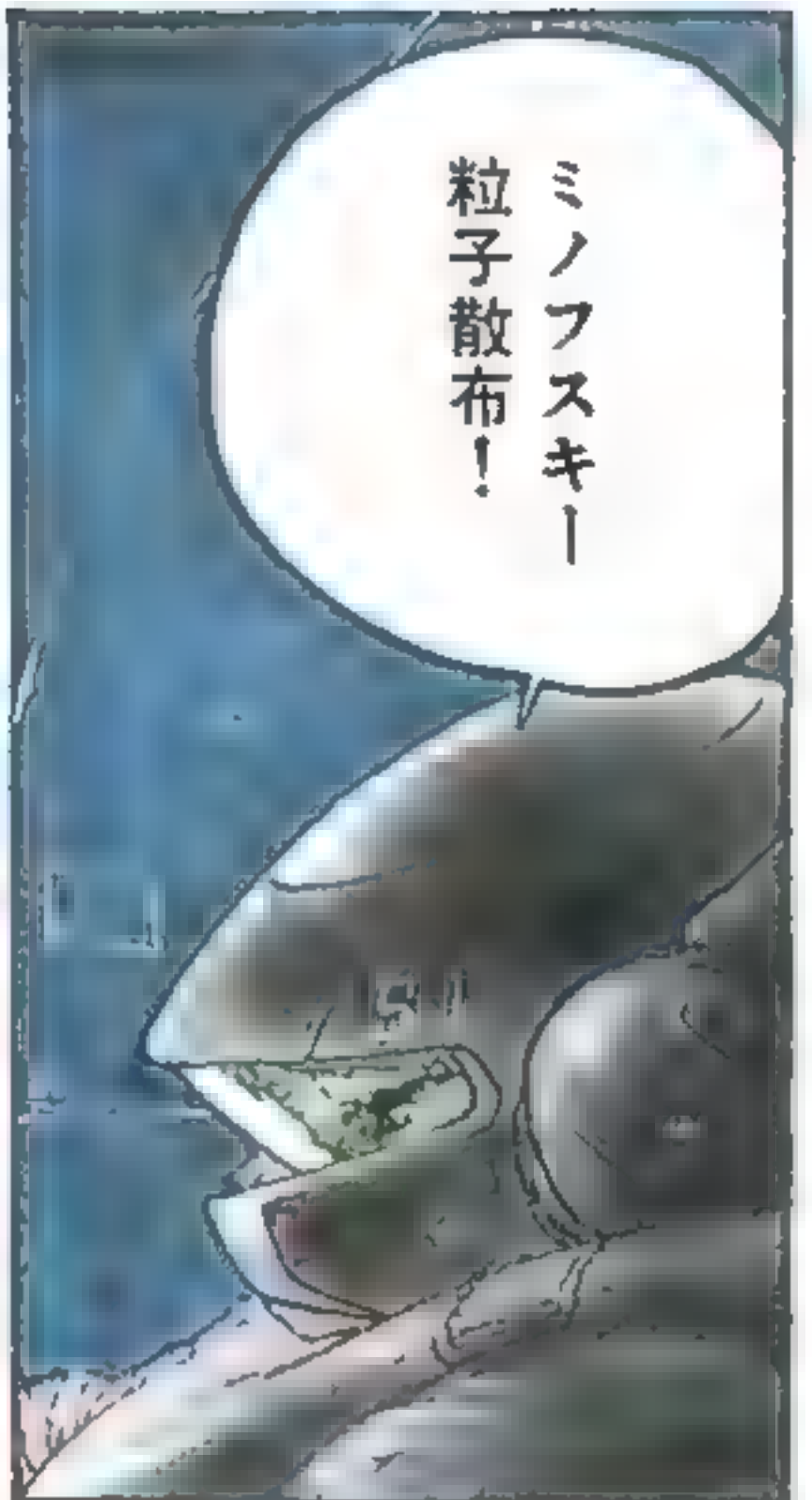
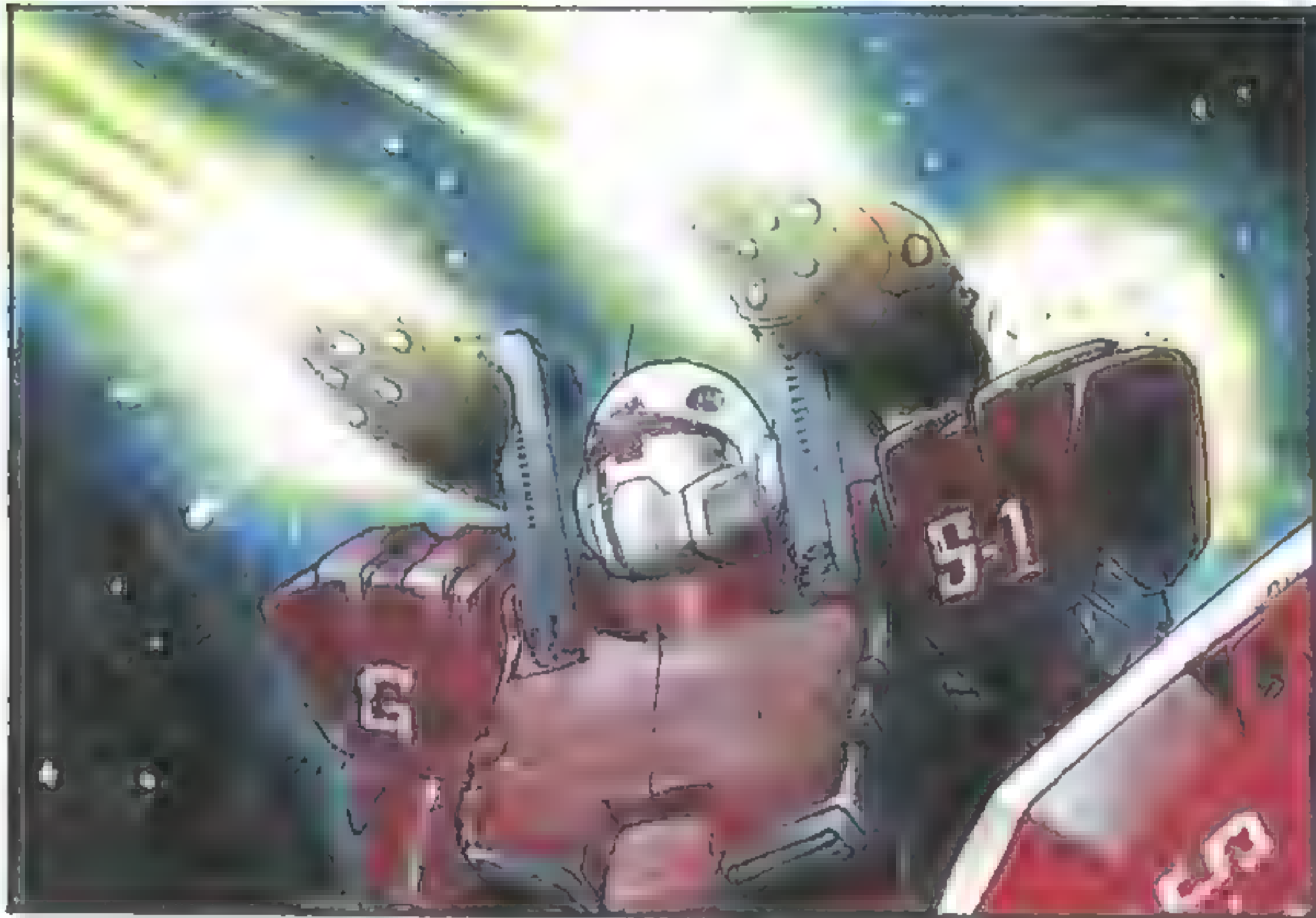
MOBILE SUIT GUNDAM
ORIGINAL-SIDE STORY

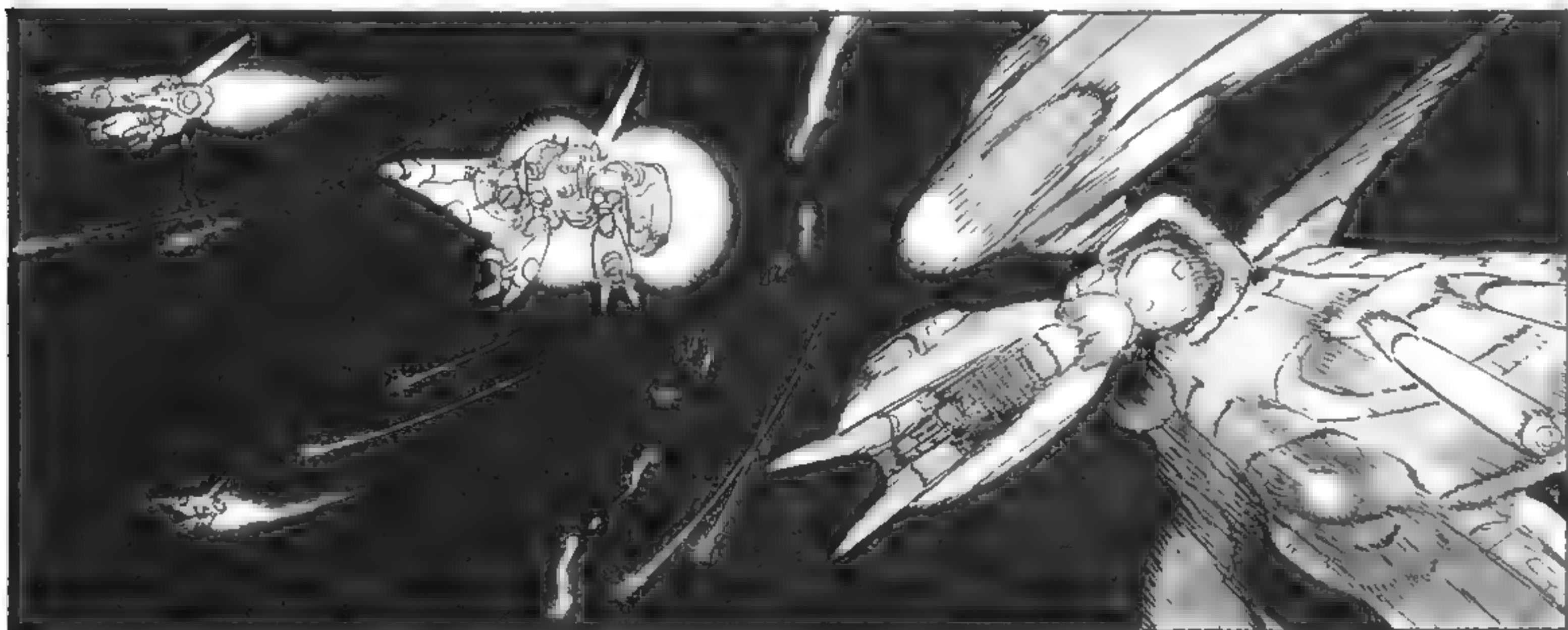
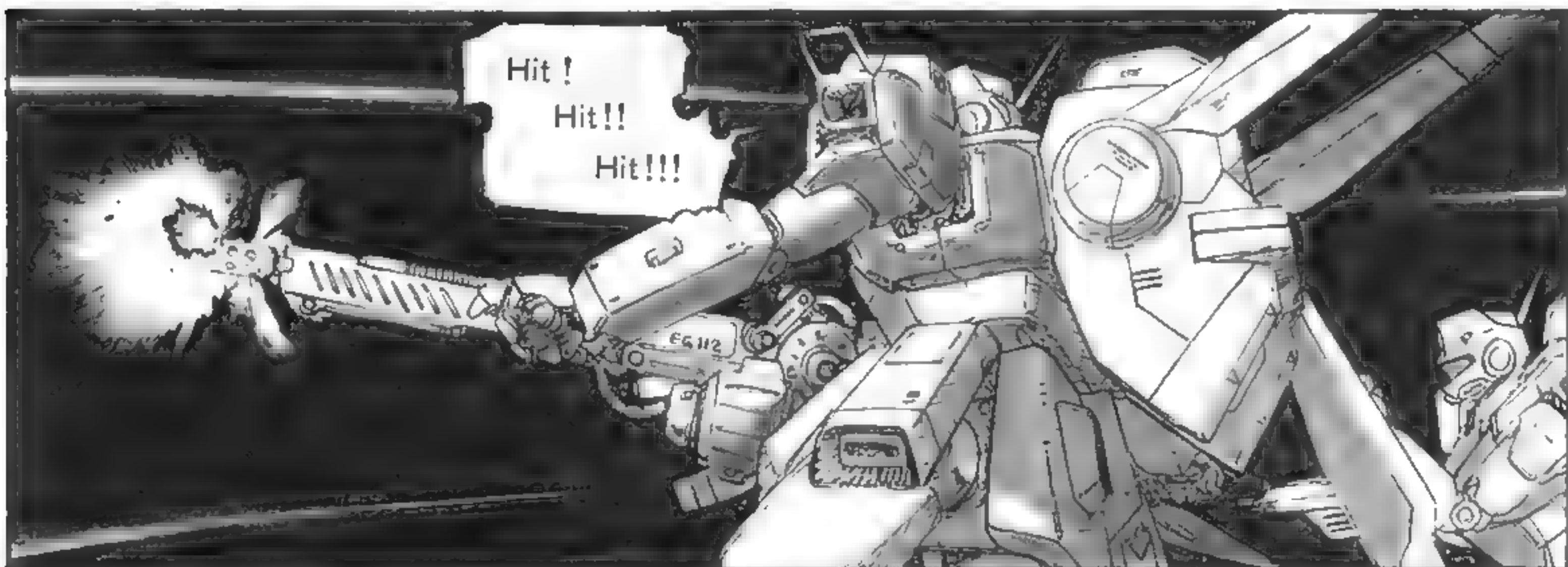
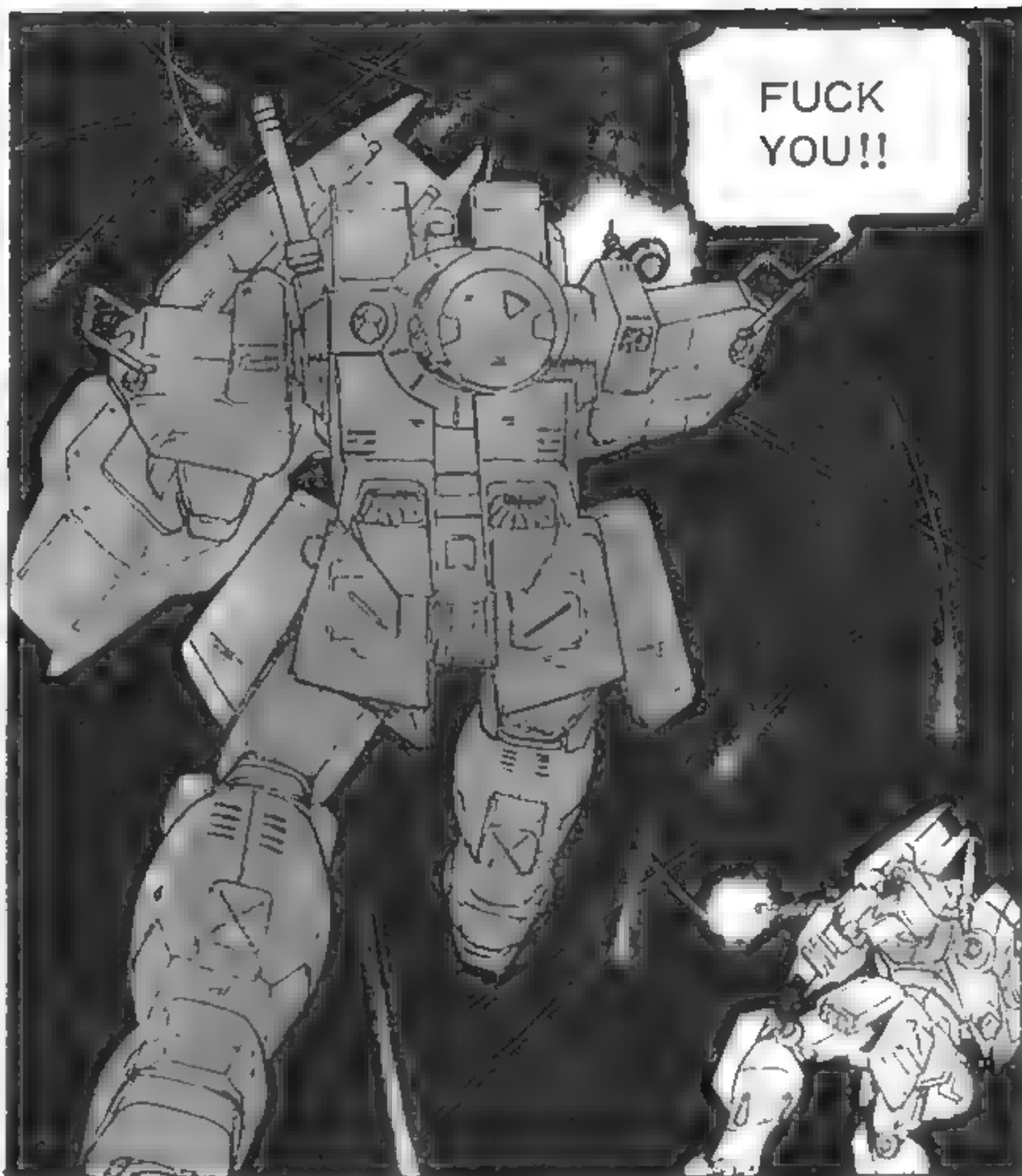
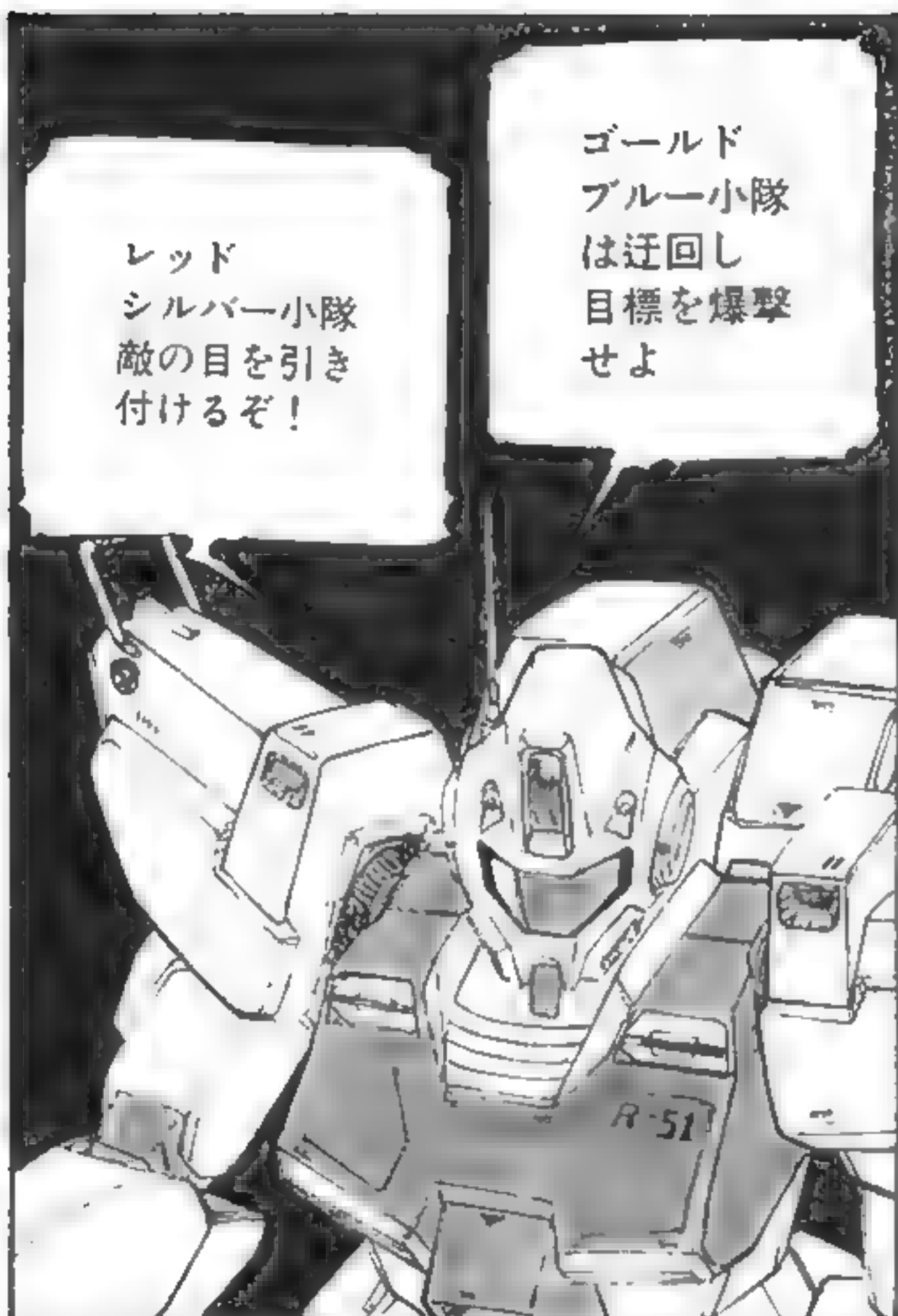
0083

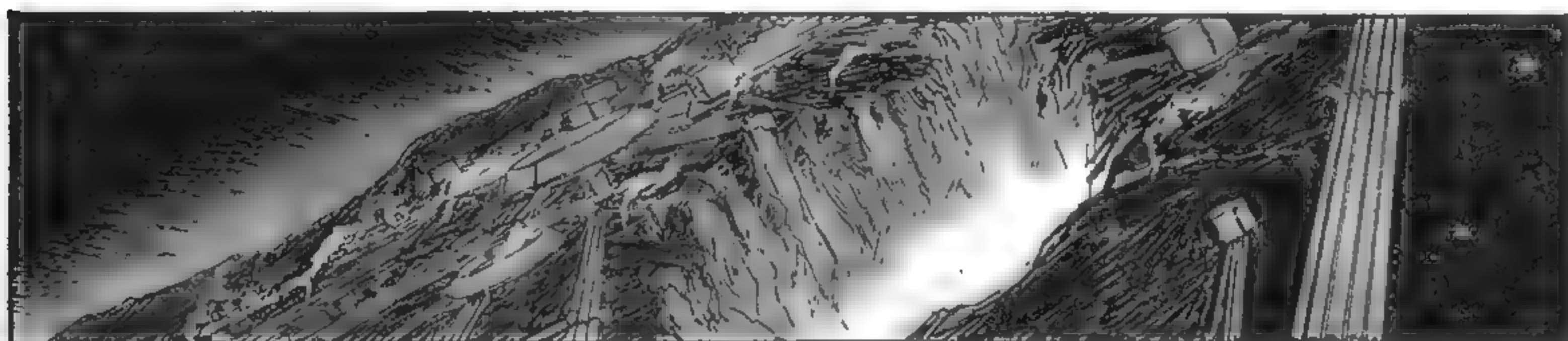
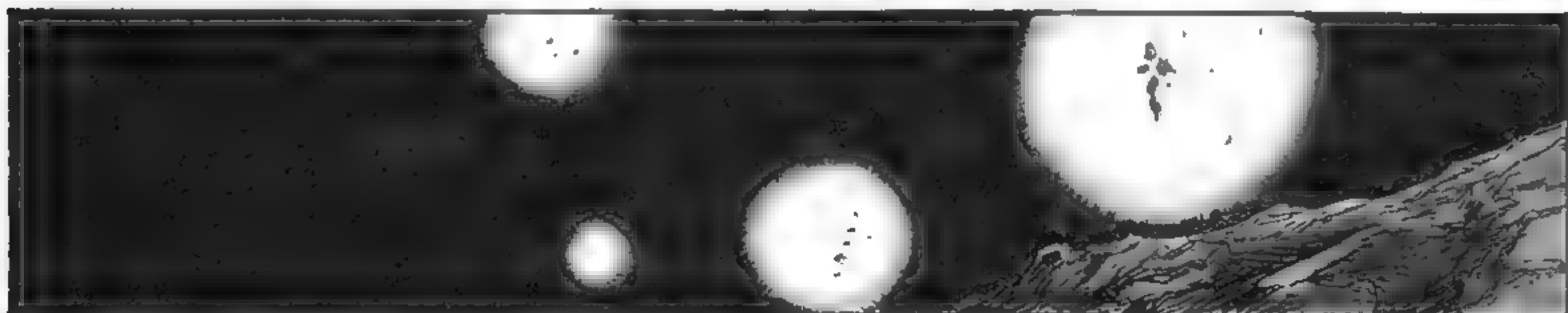
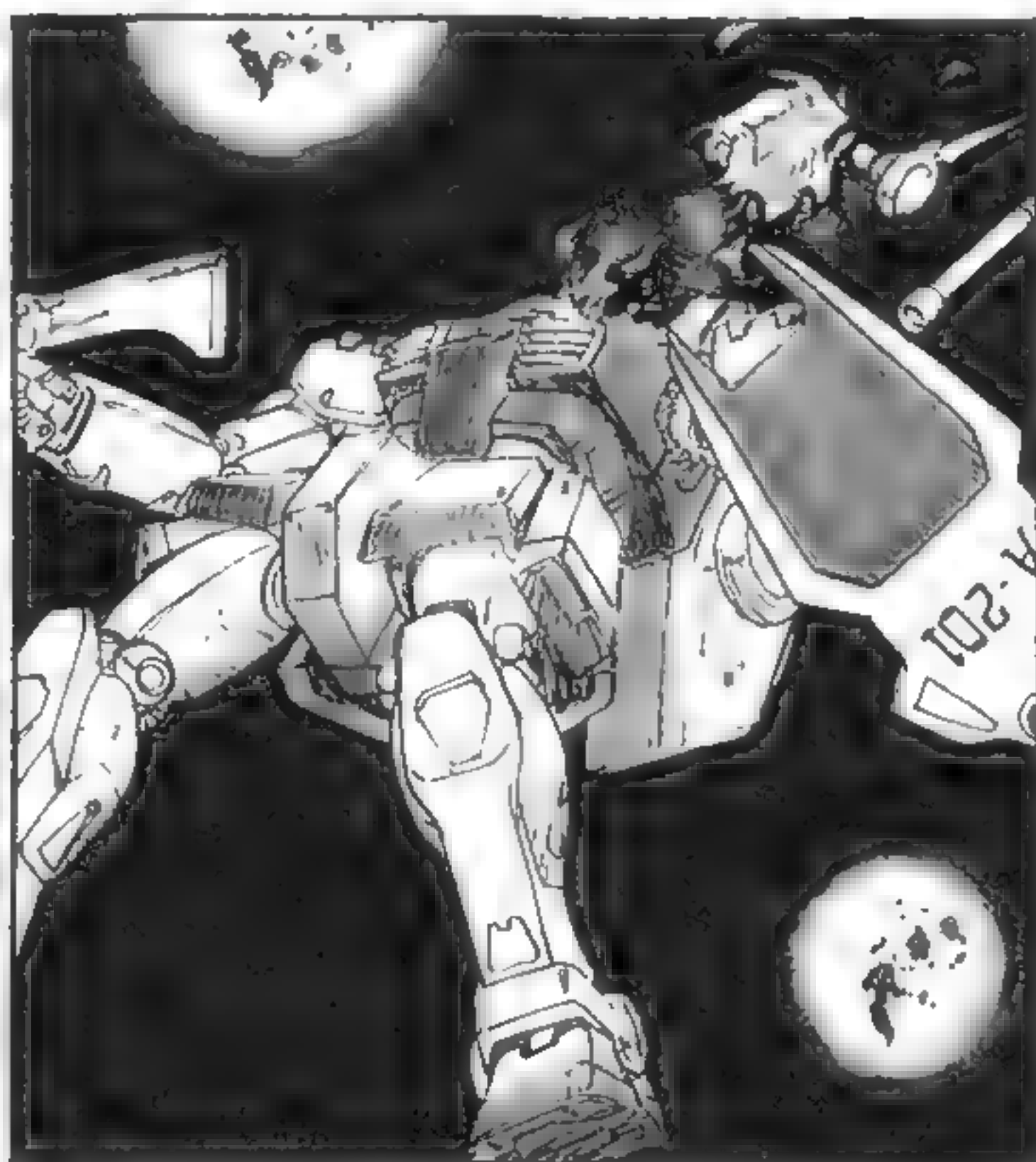
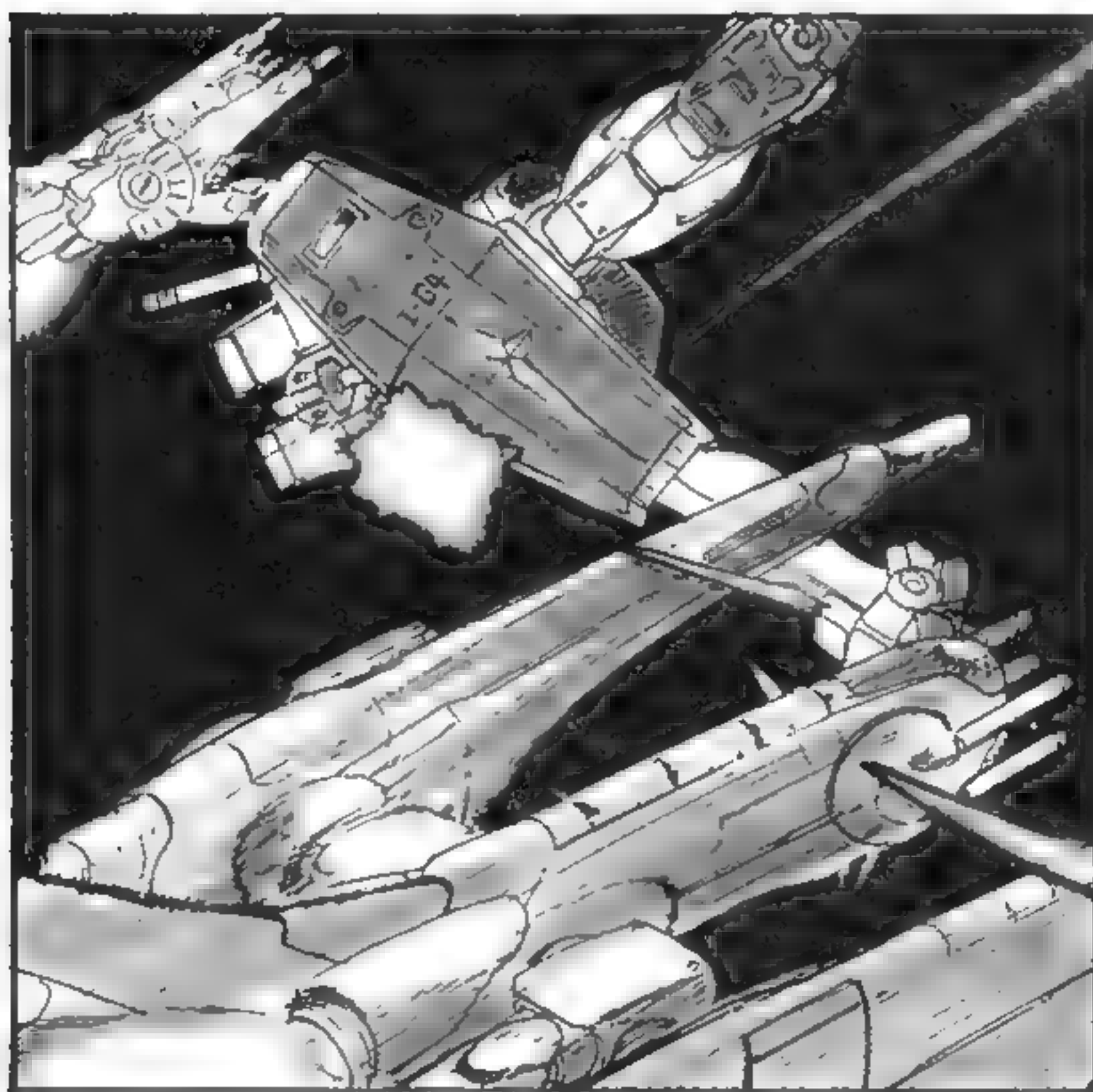
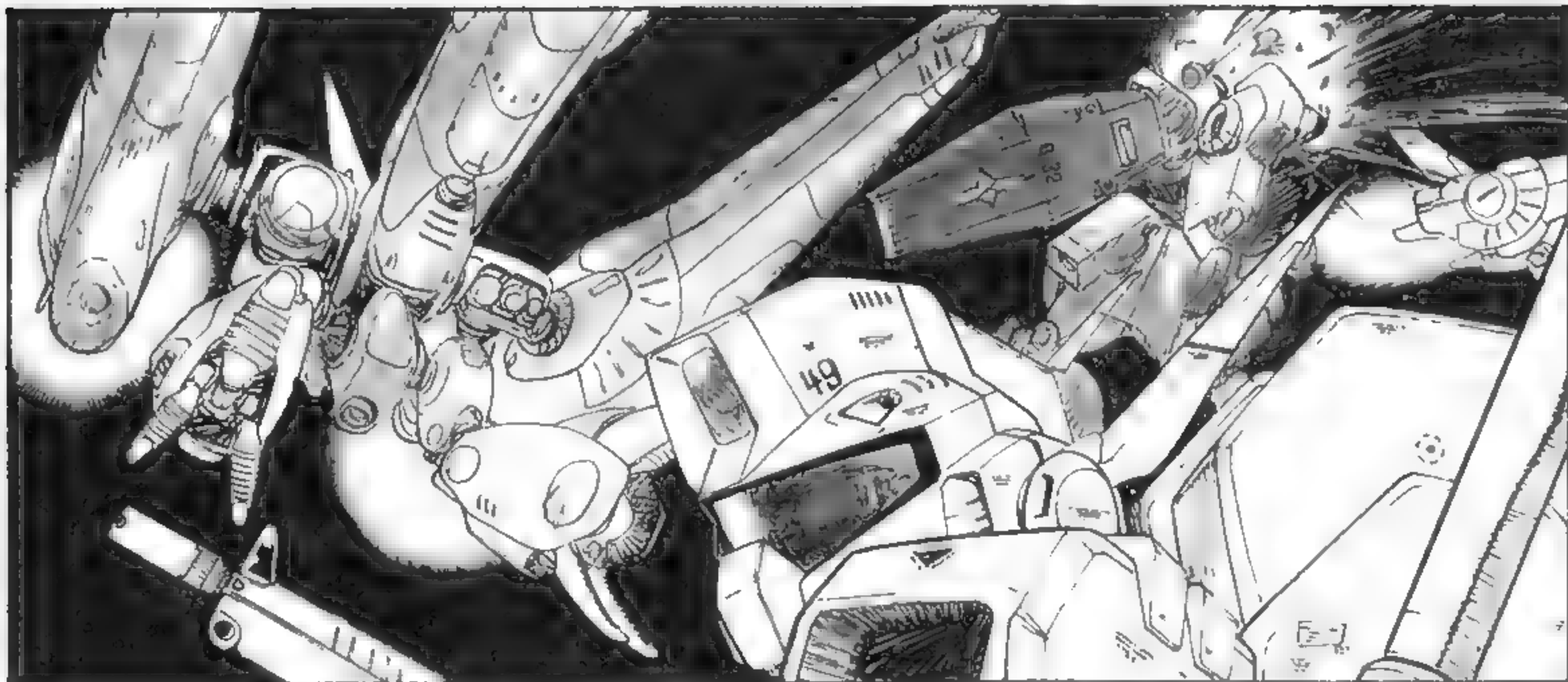
JUPITER [ZEUS]

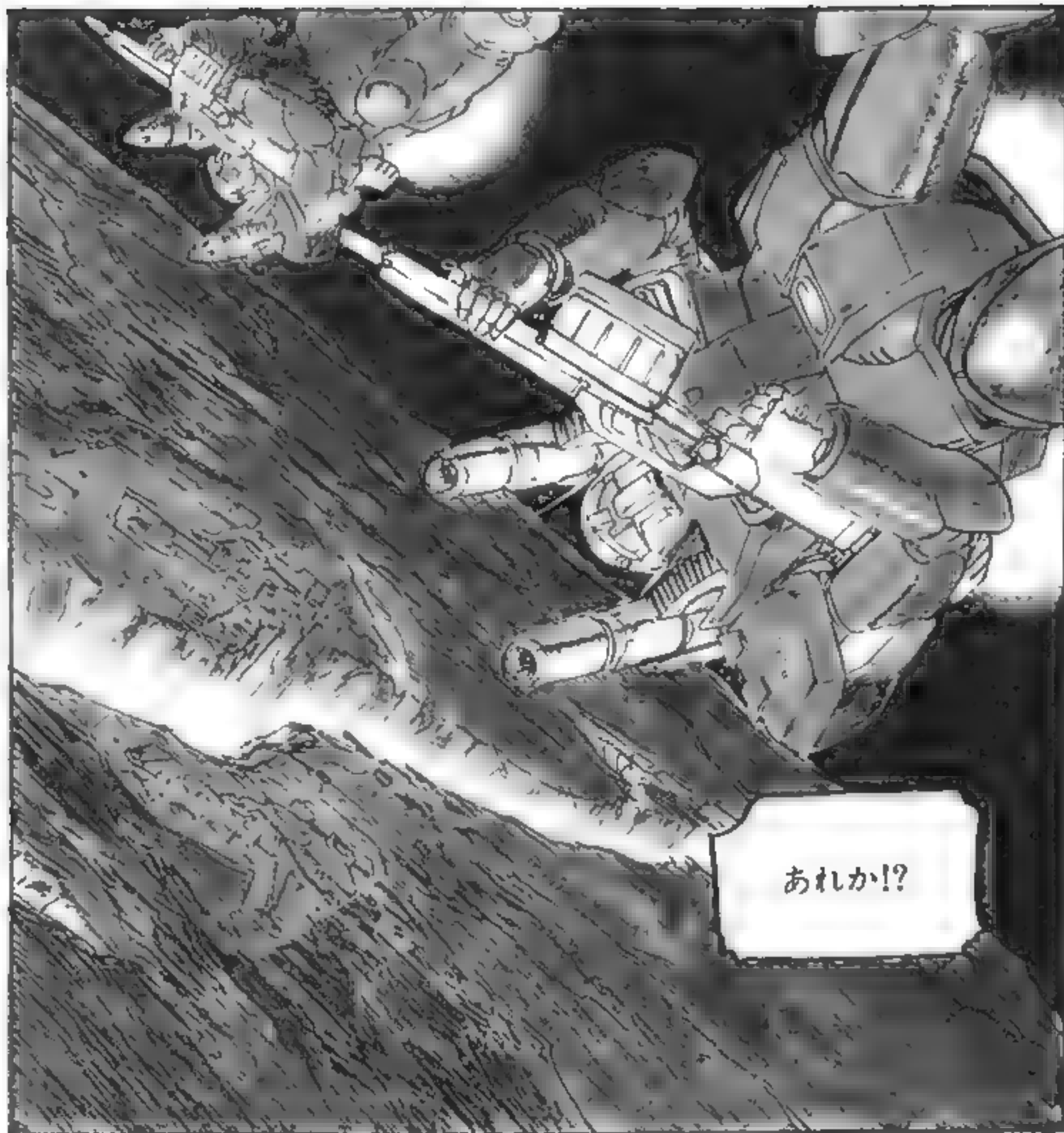
IN

OPERATION TITAN

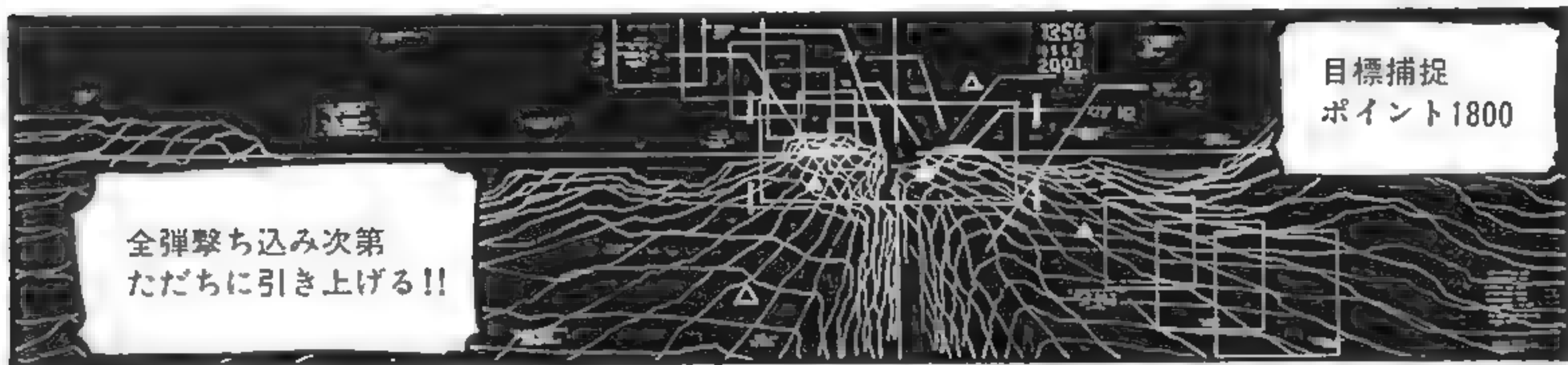






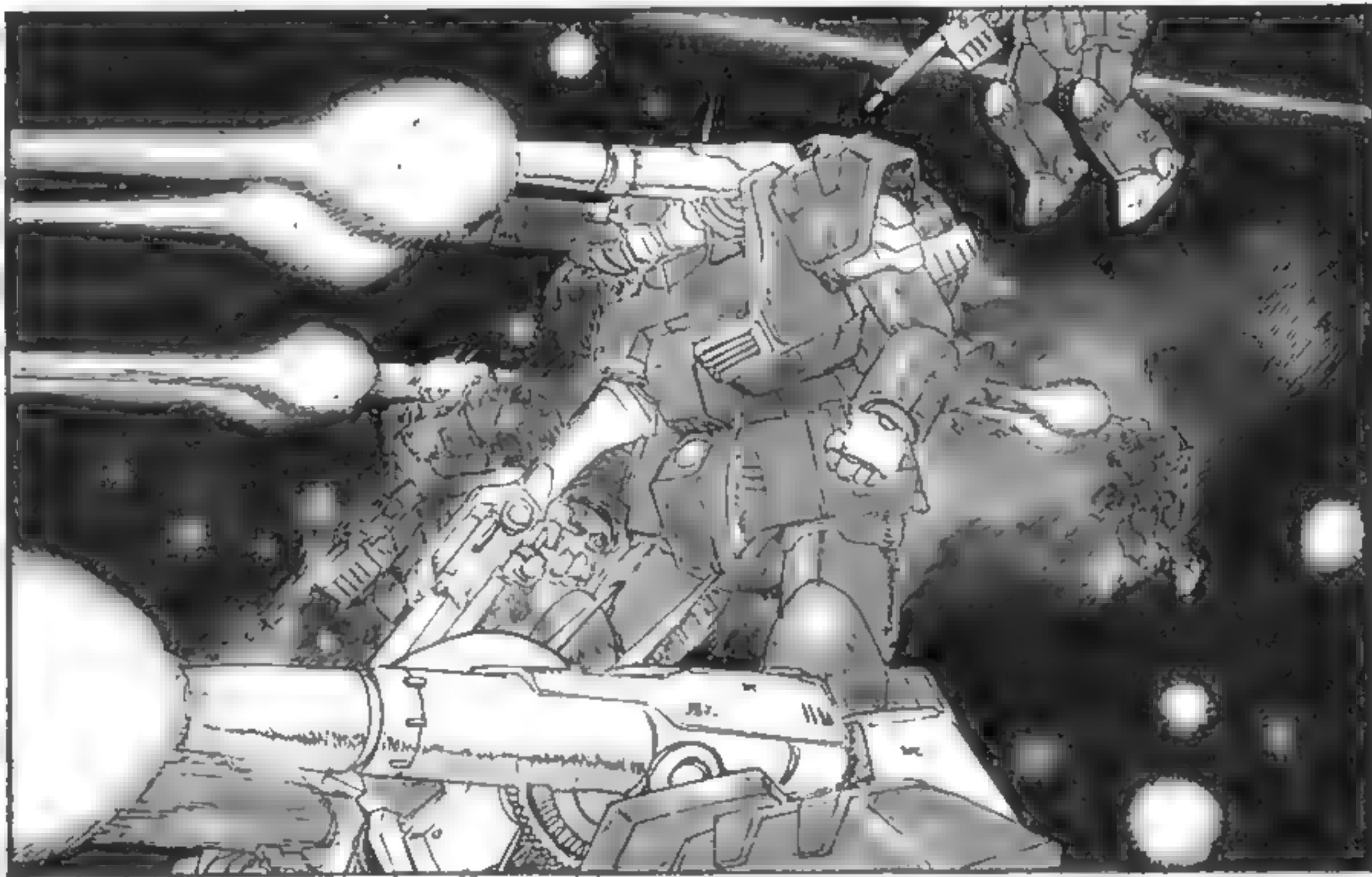


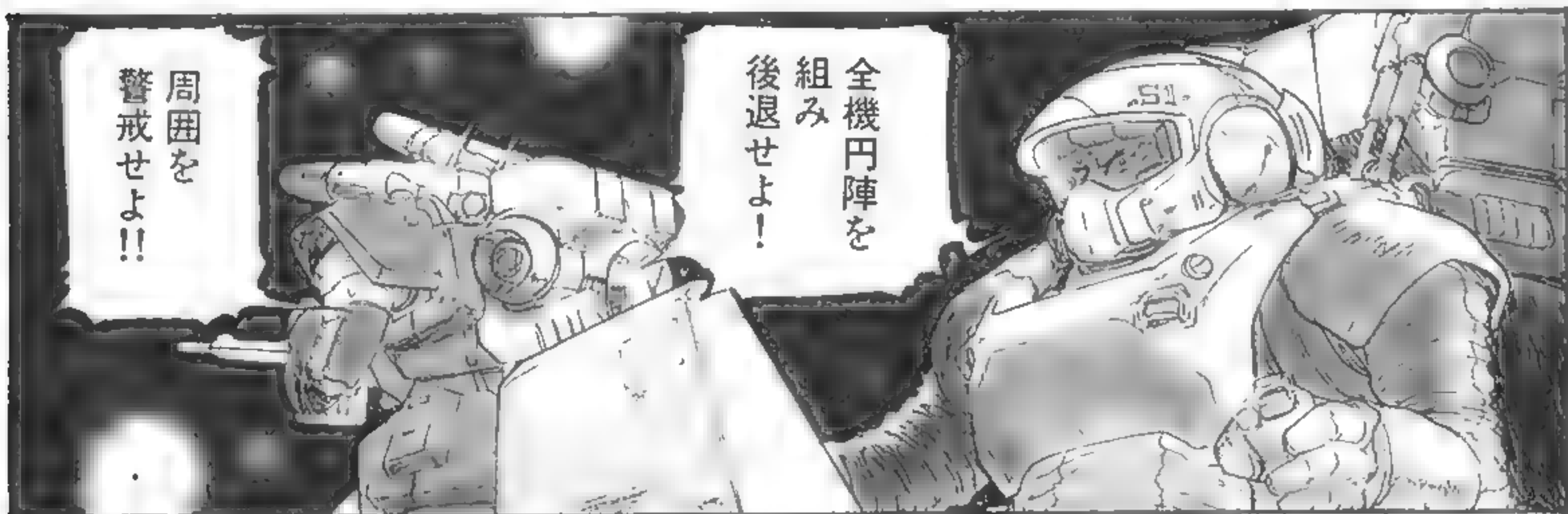
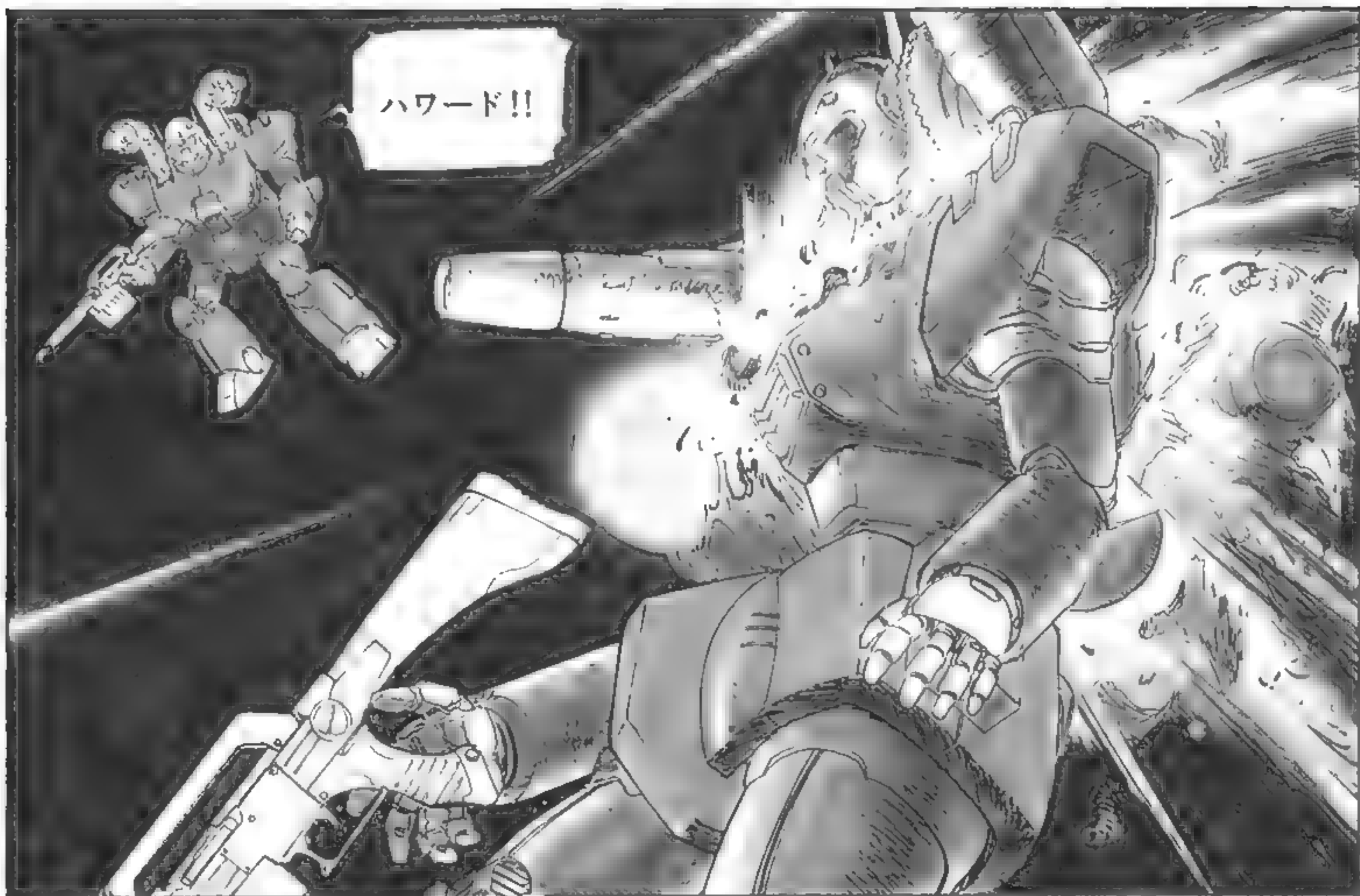
あれか!?



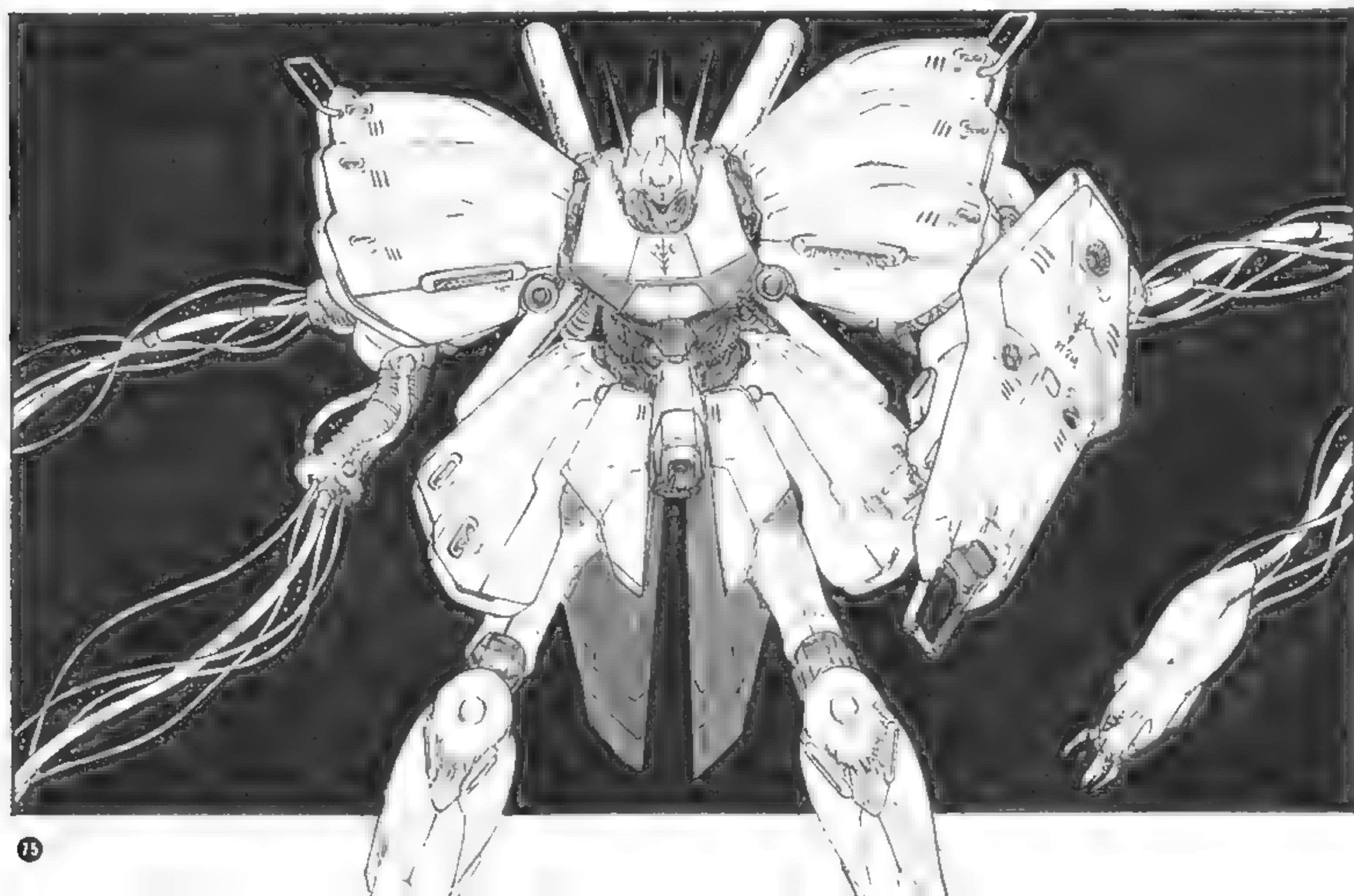
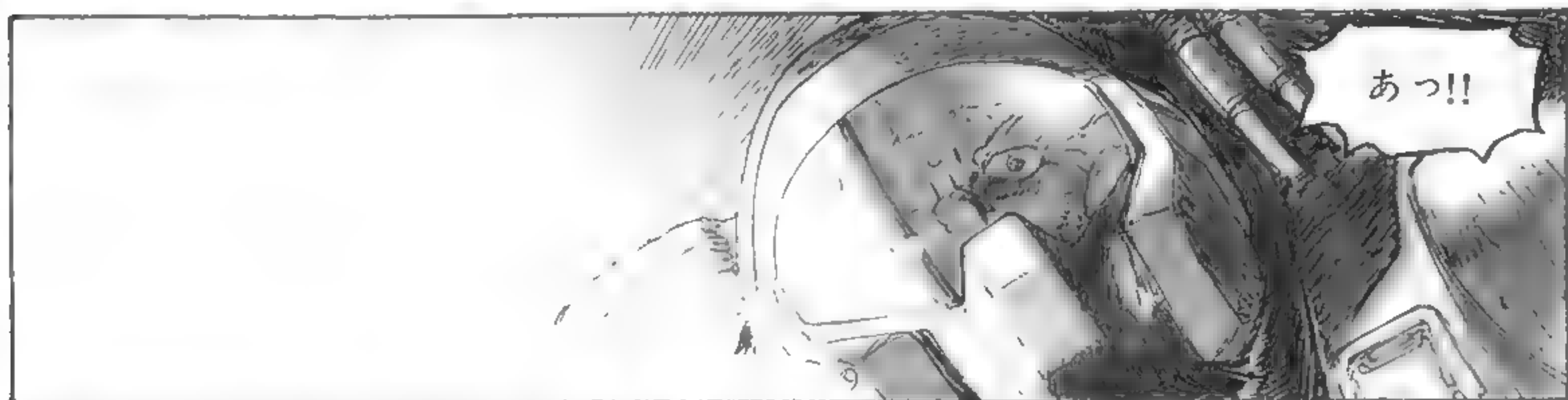
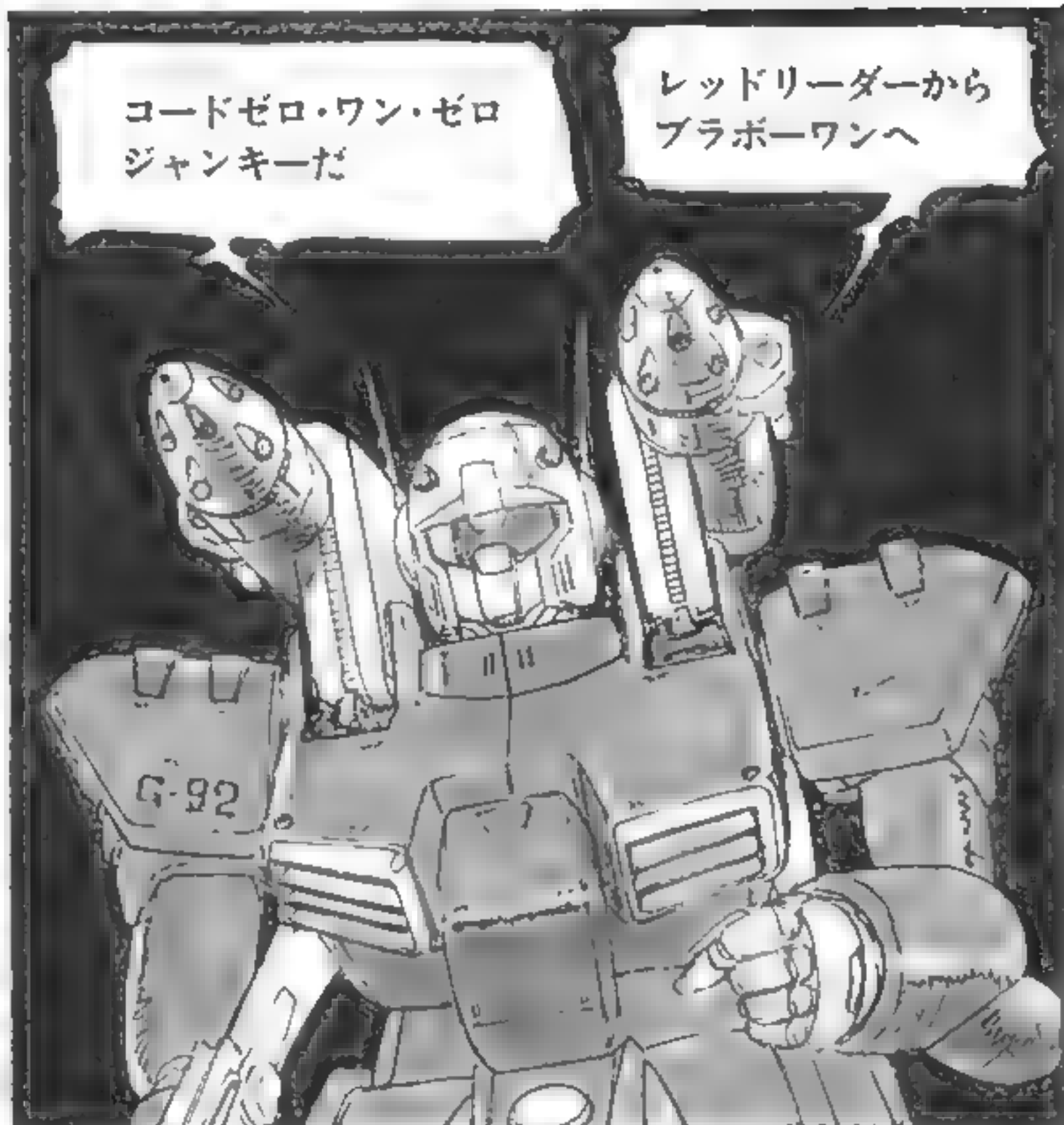
目標捕捉
ポイント1800

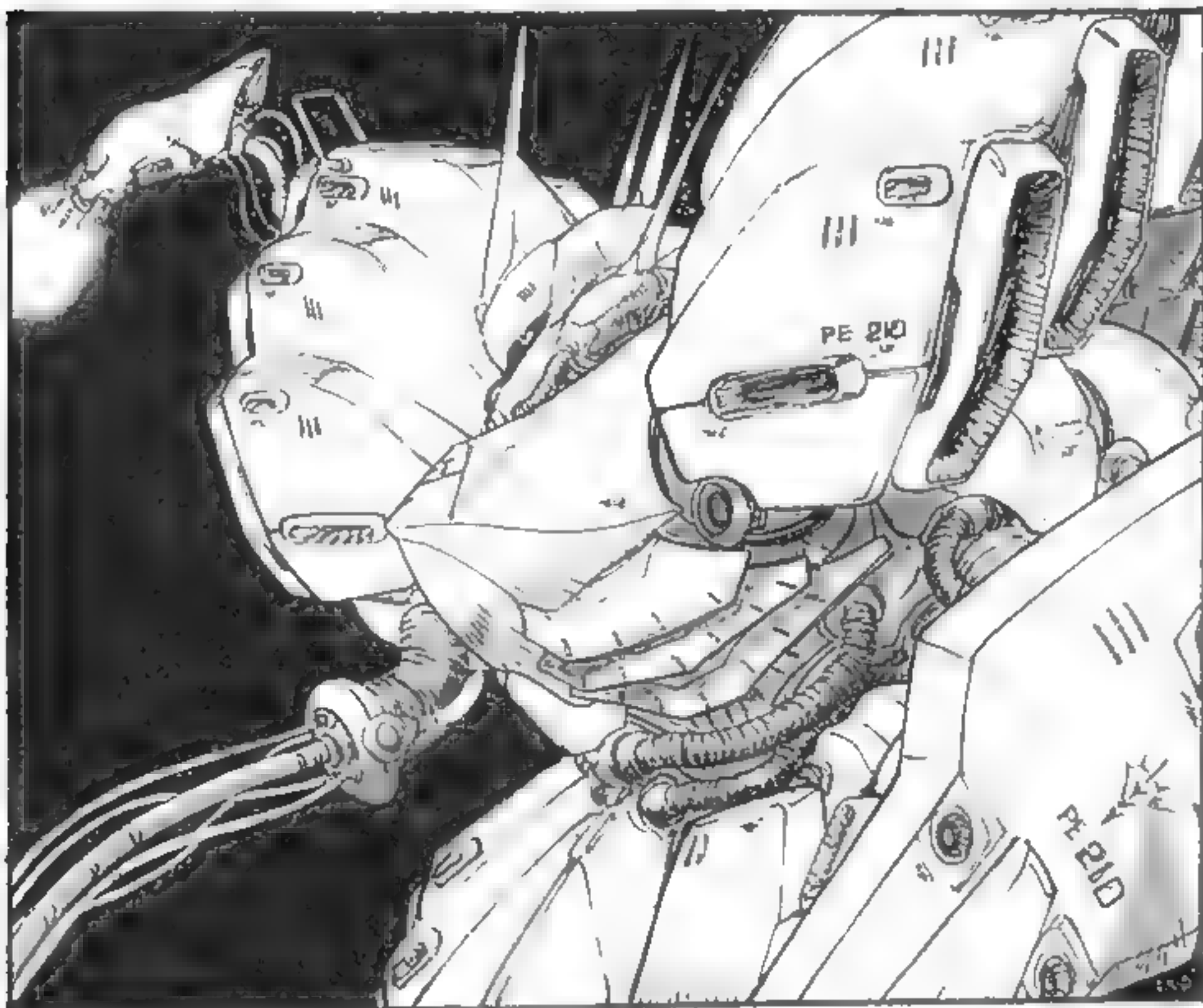
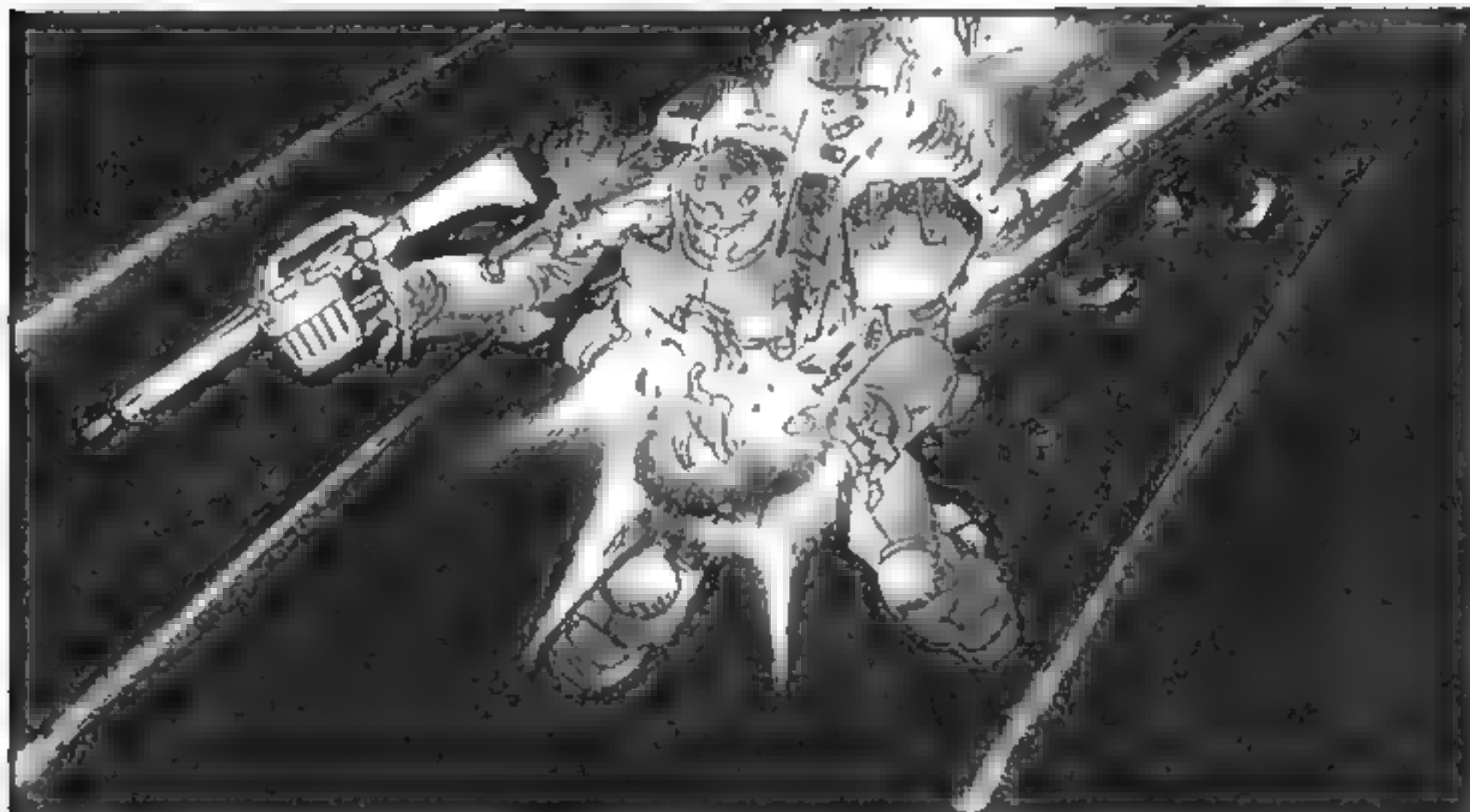
全弾撃ち込み次第
ただちに引き上げる!!

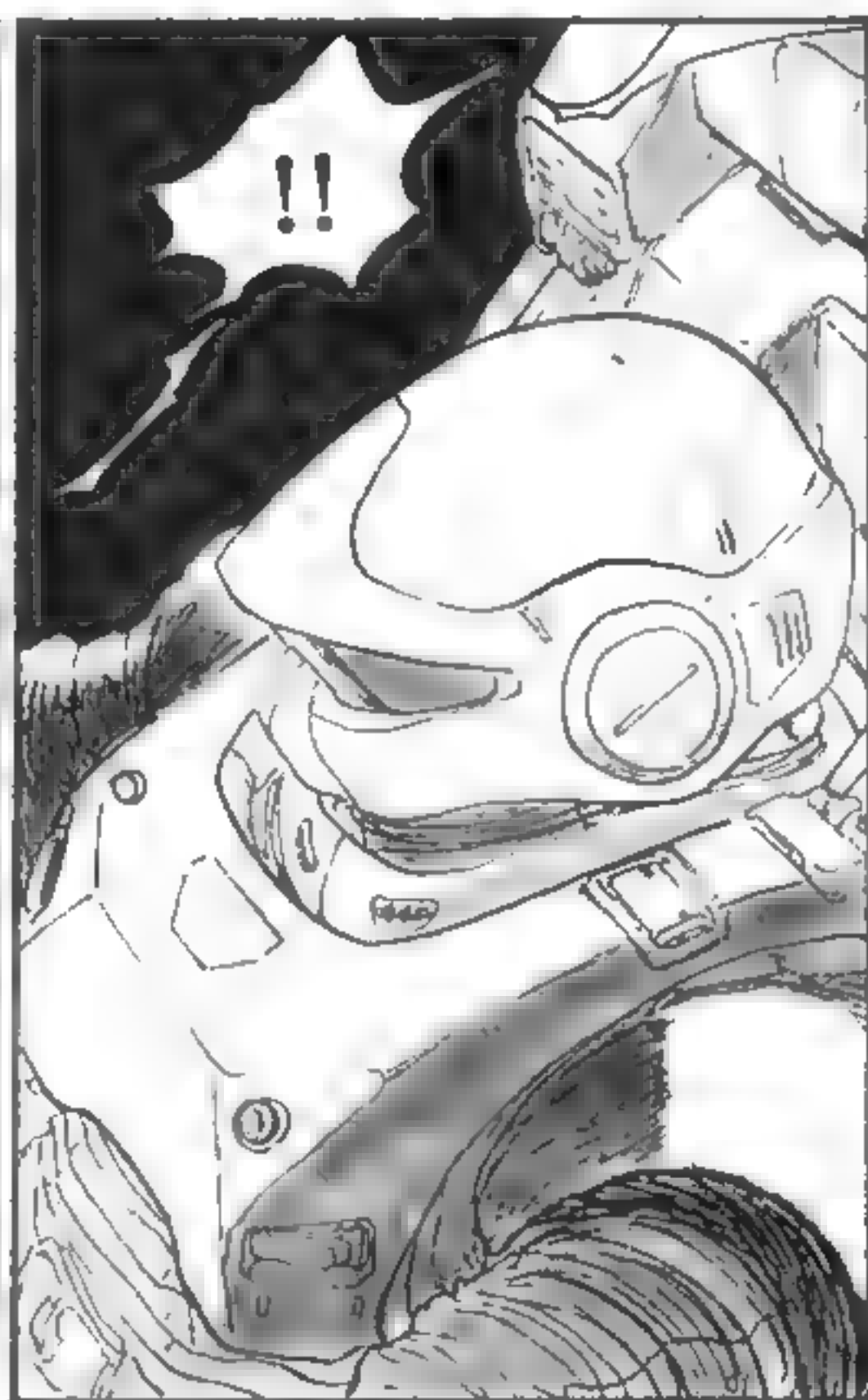
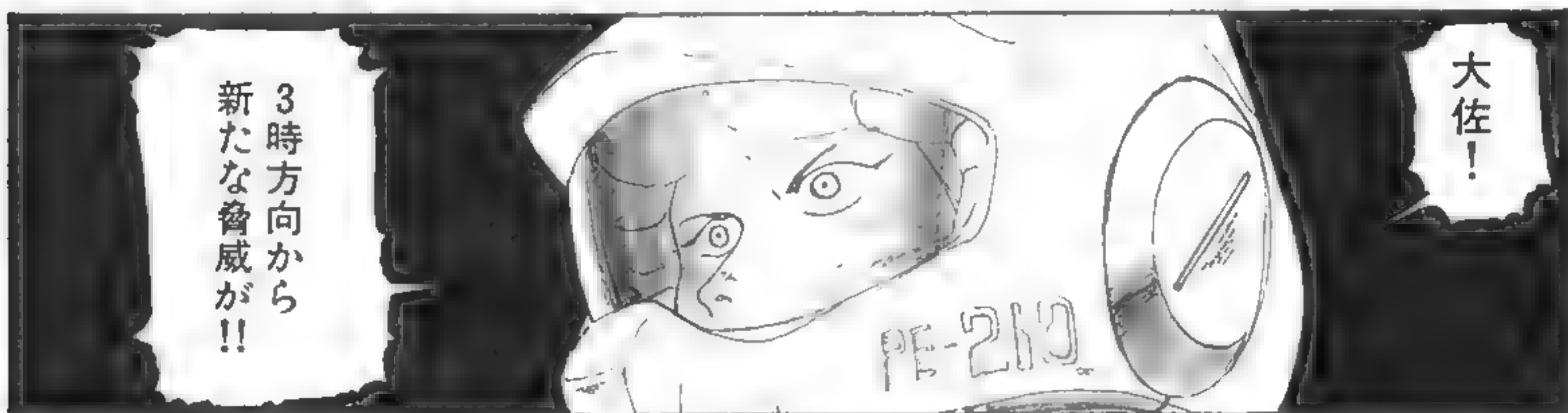
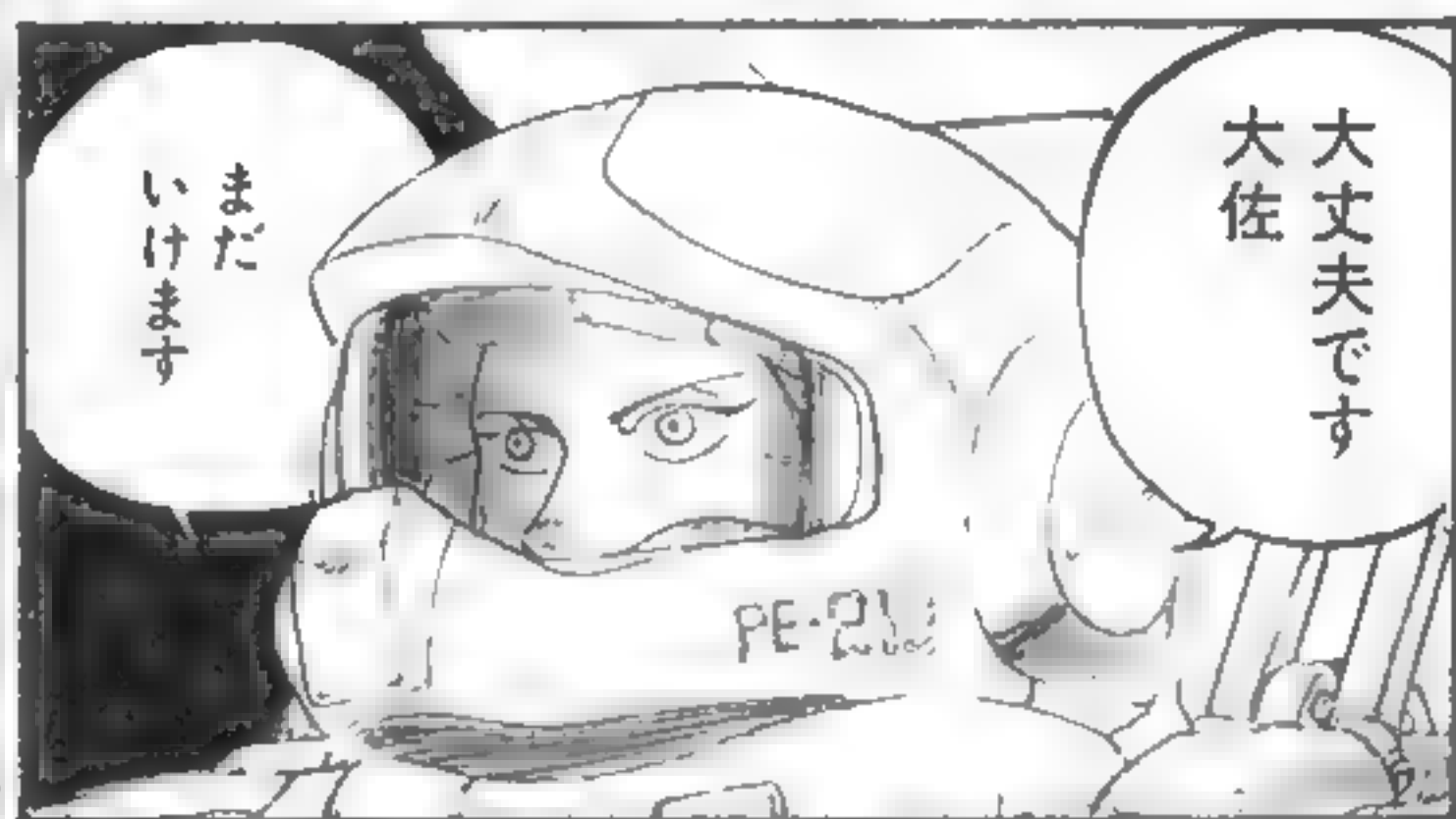


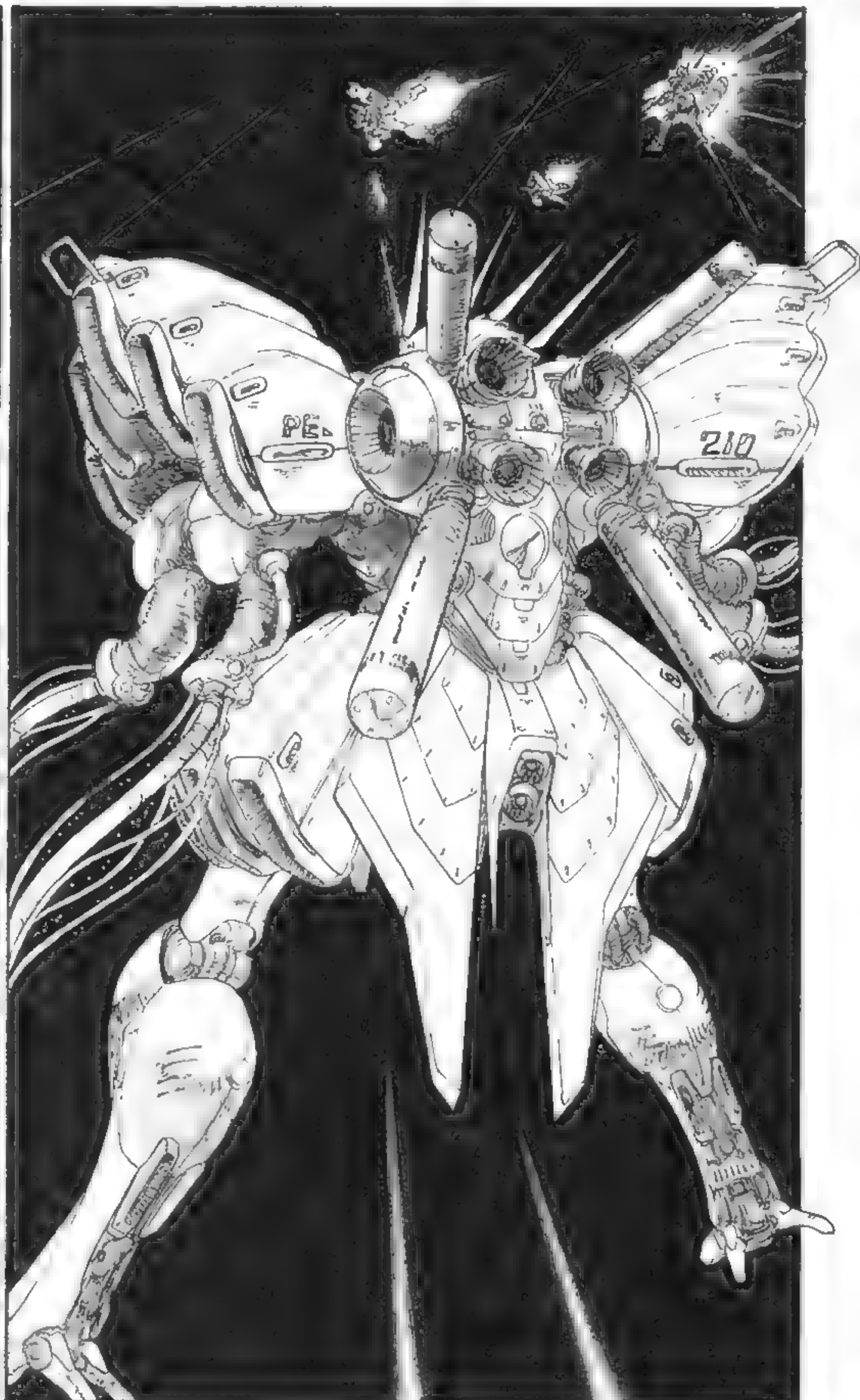
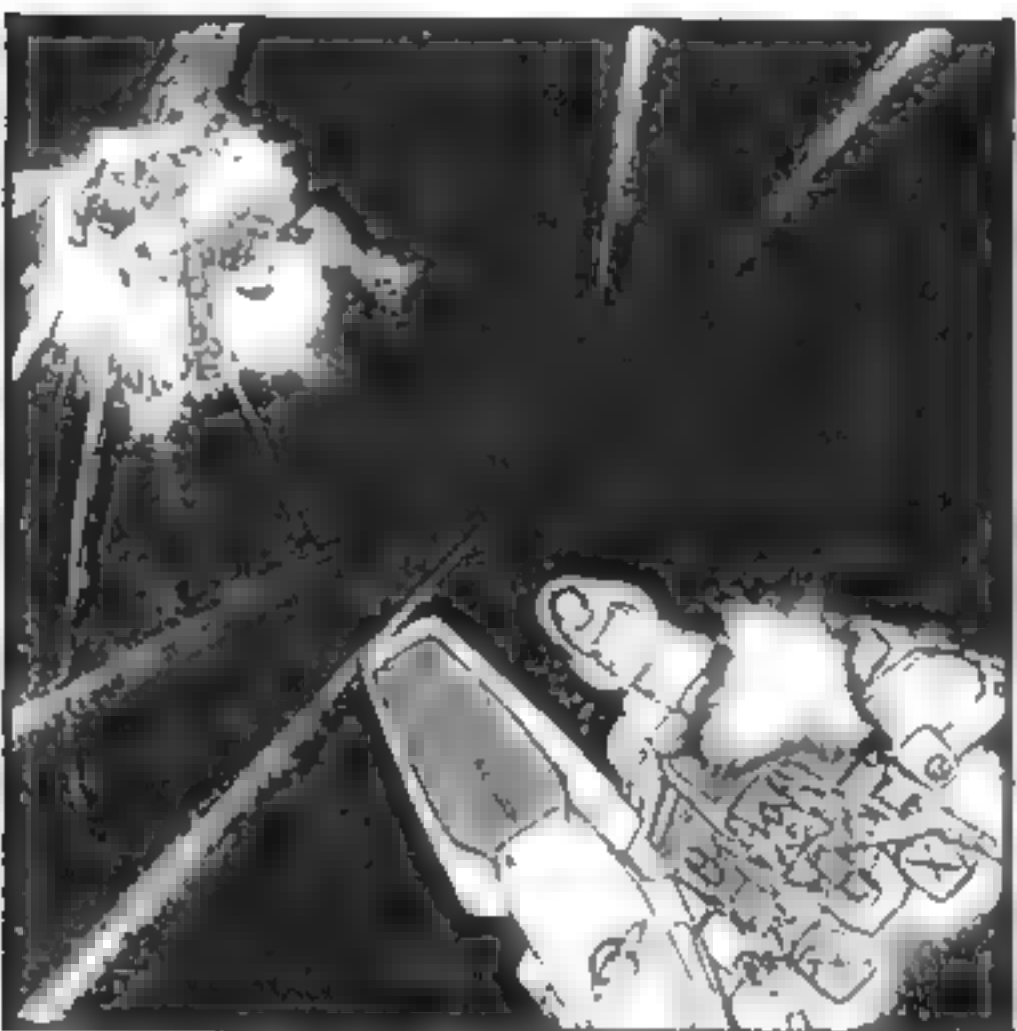
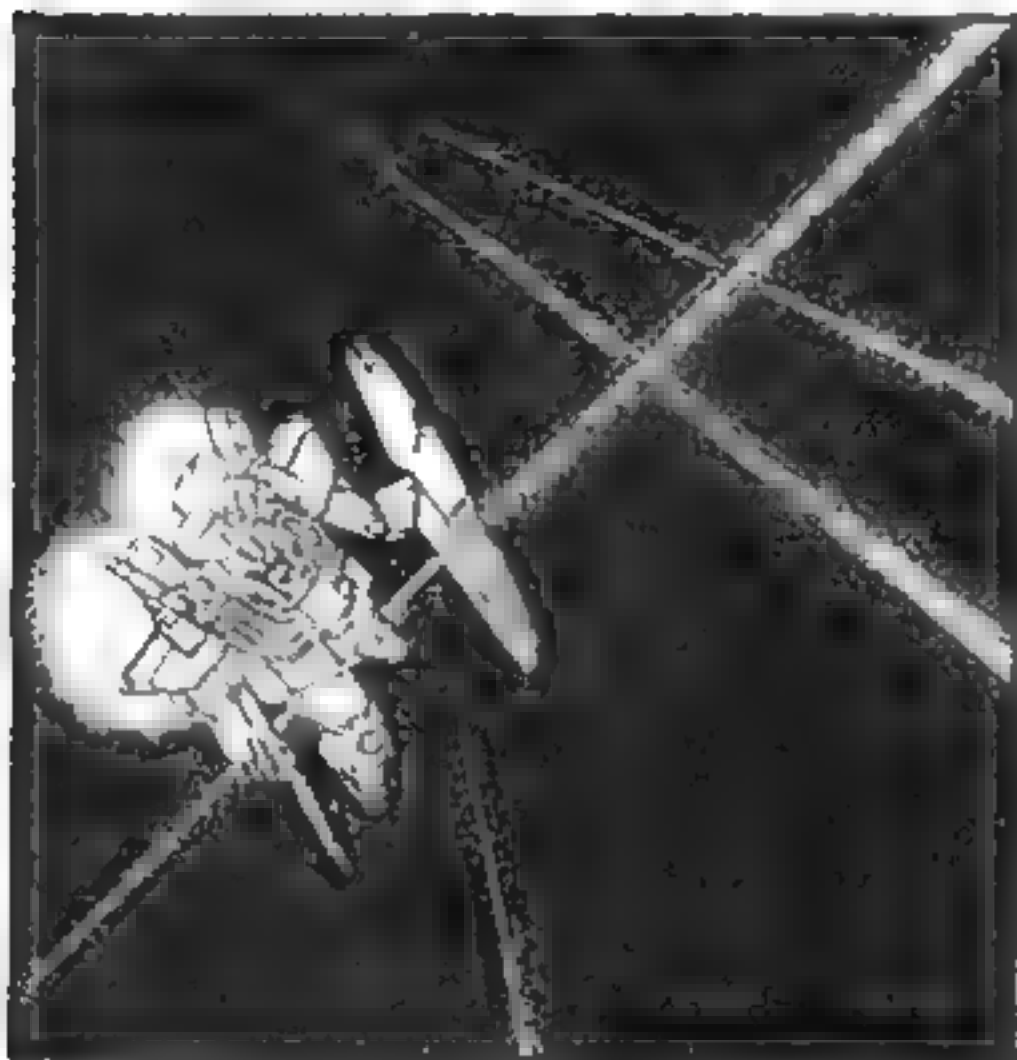
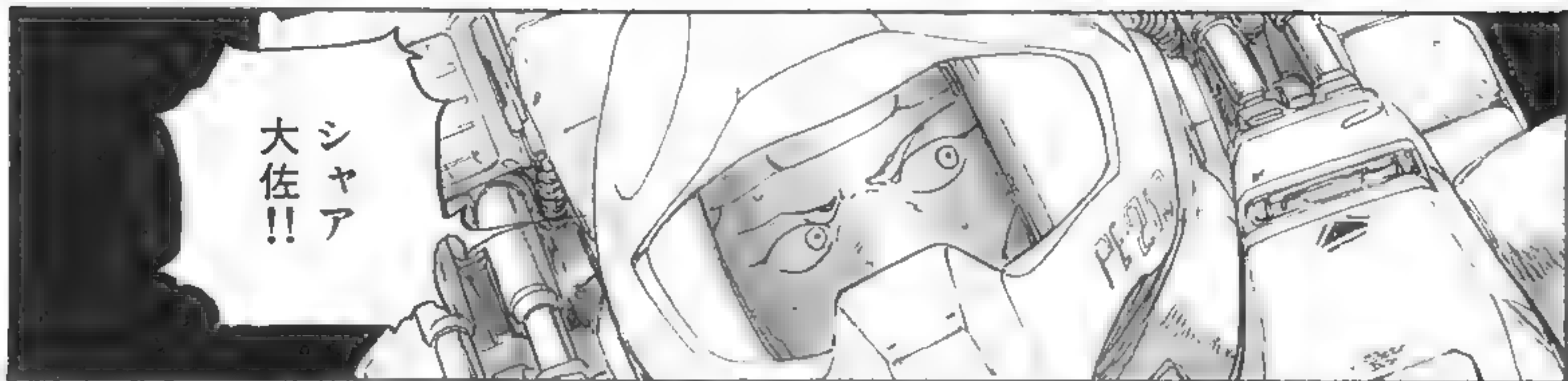


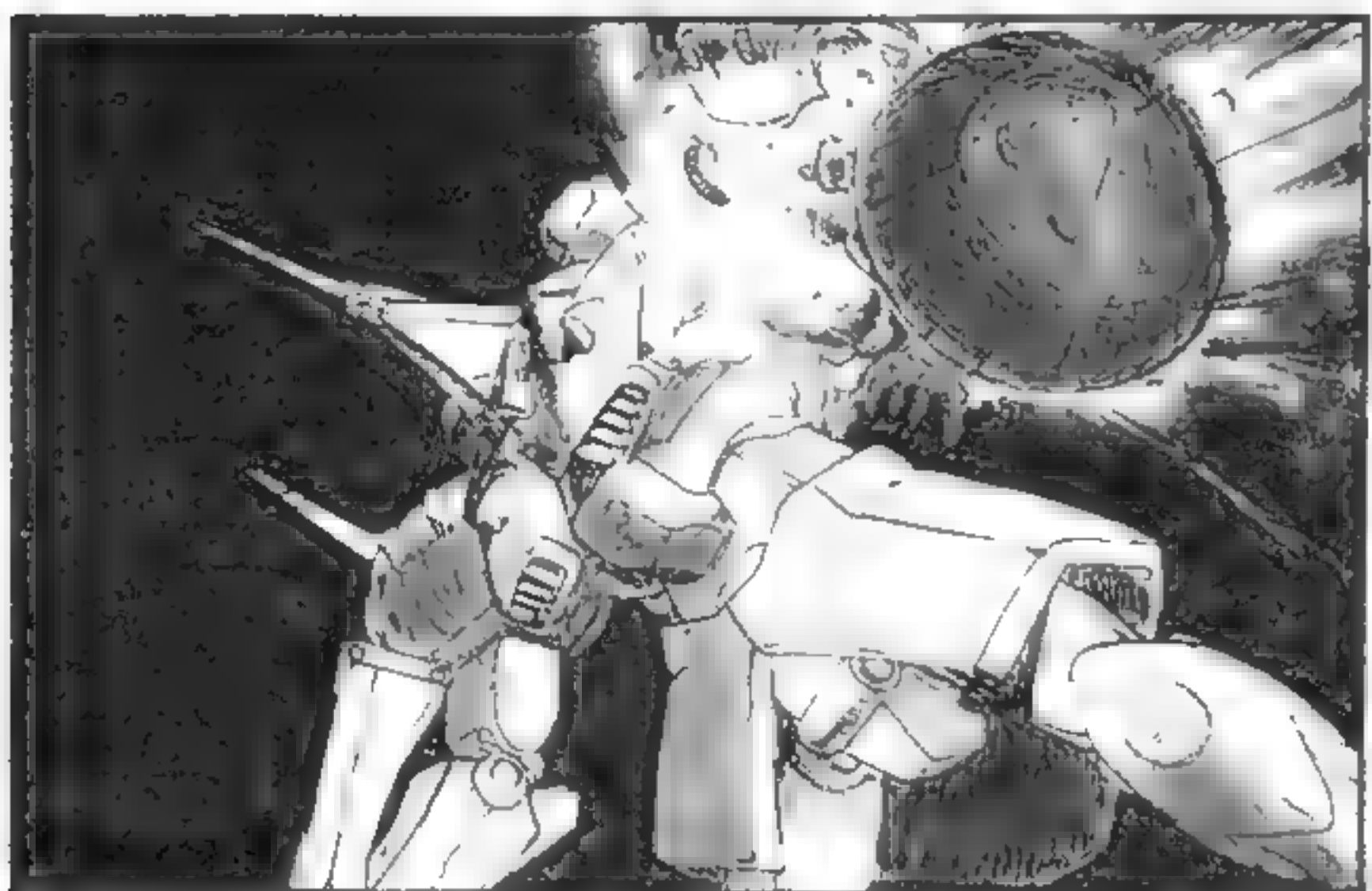
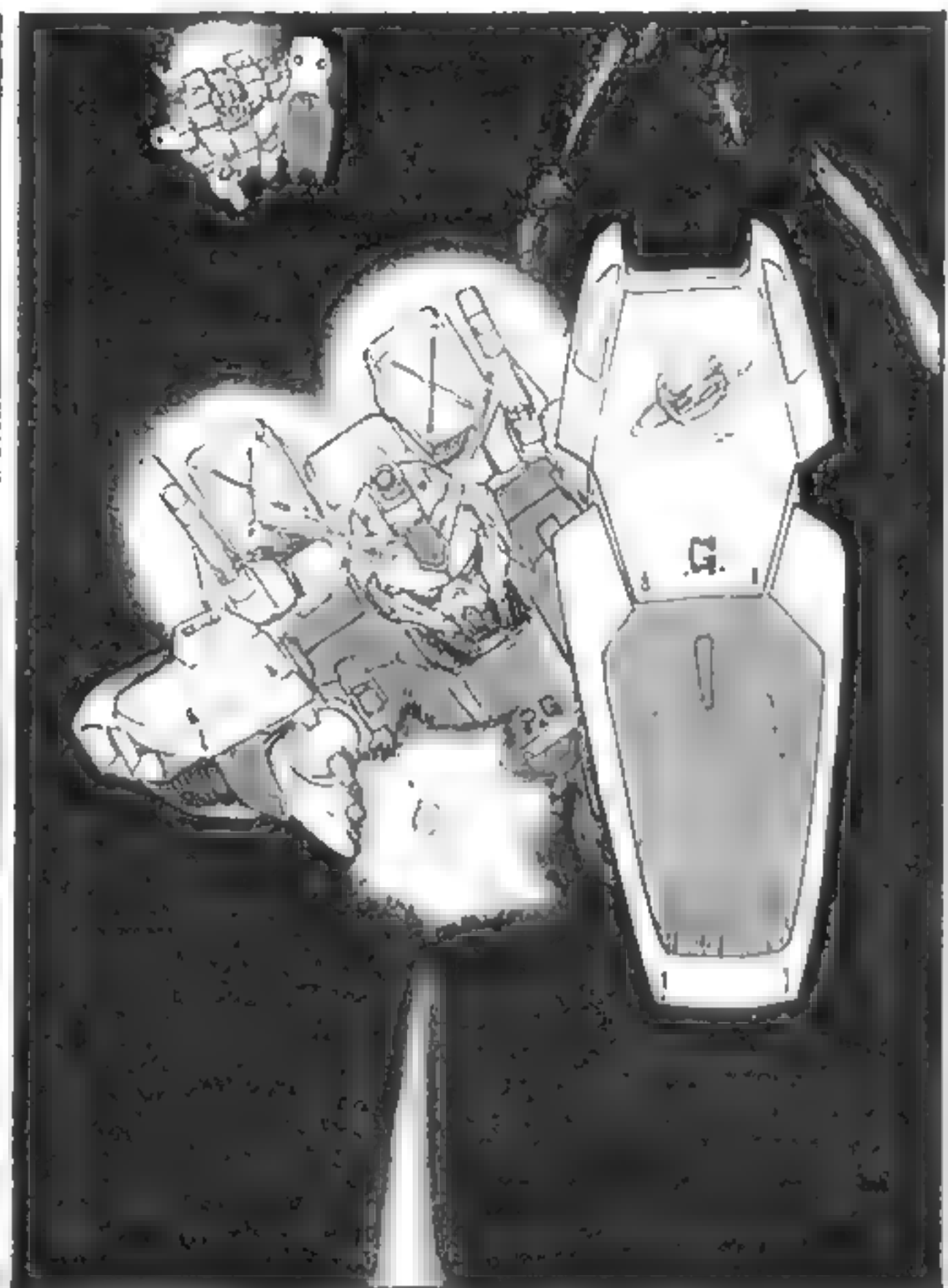
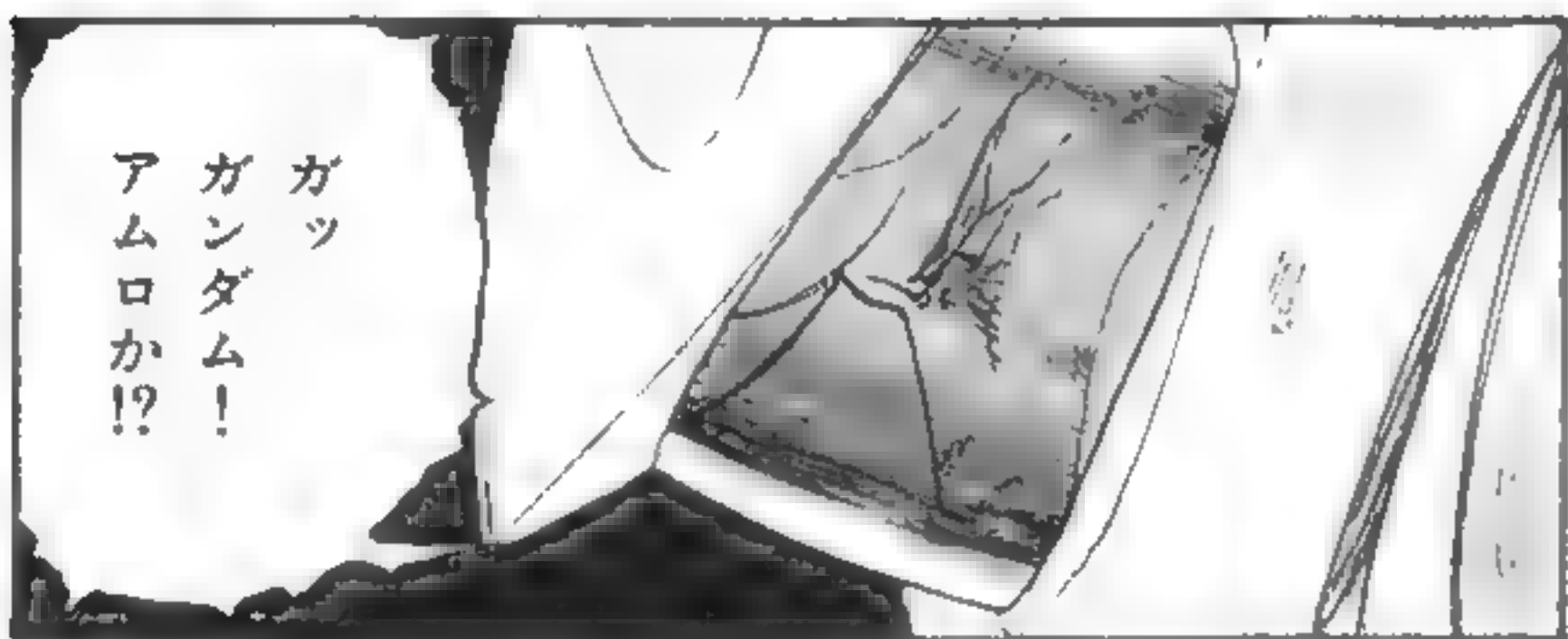
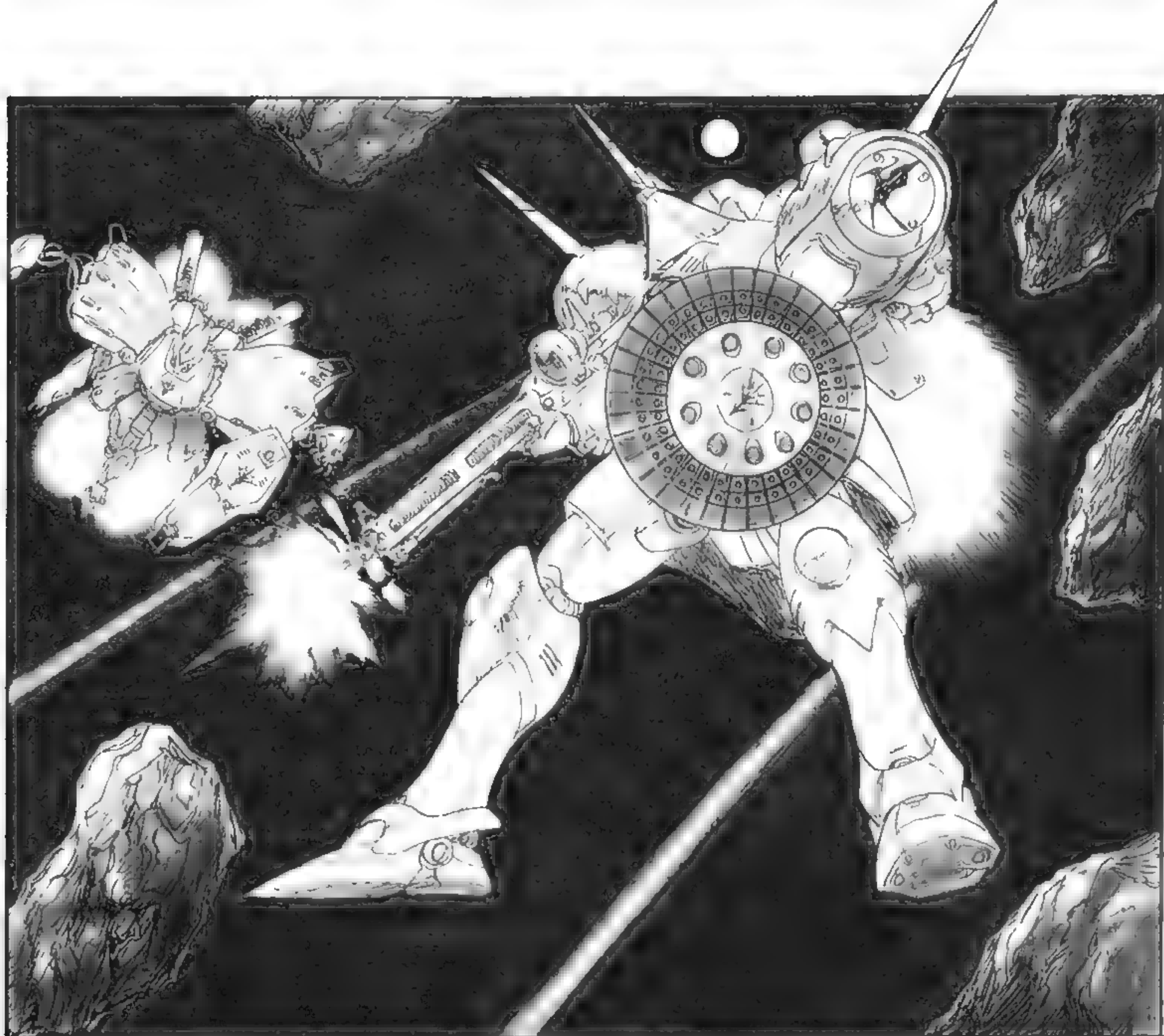
全機円陣を組み
後退せよ!

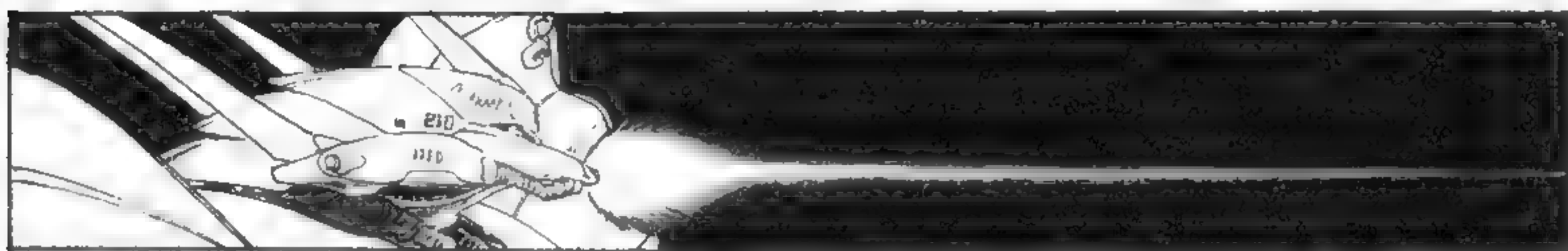
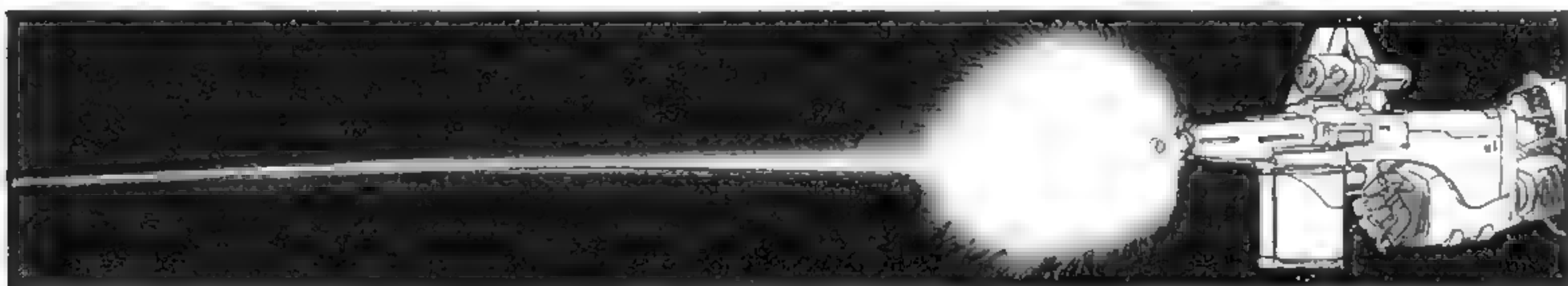
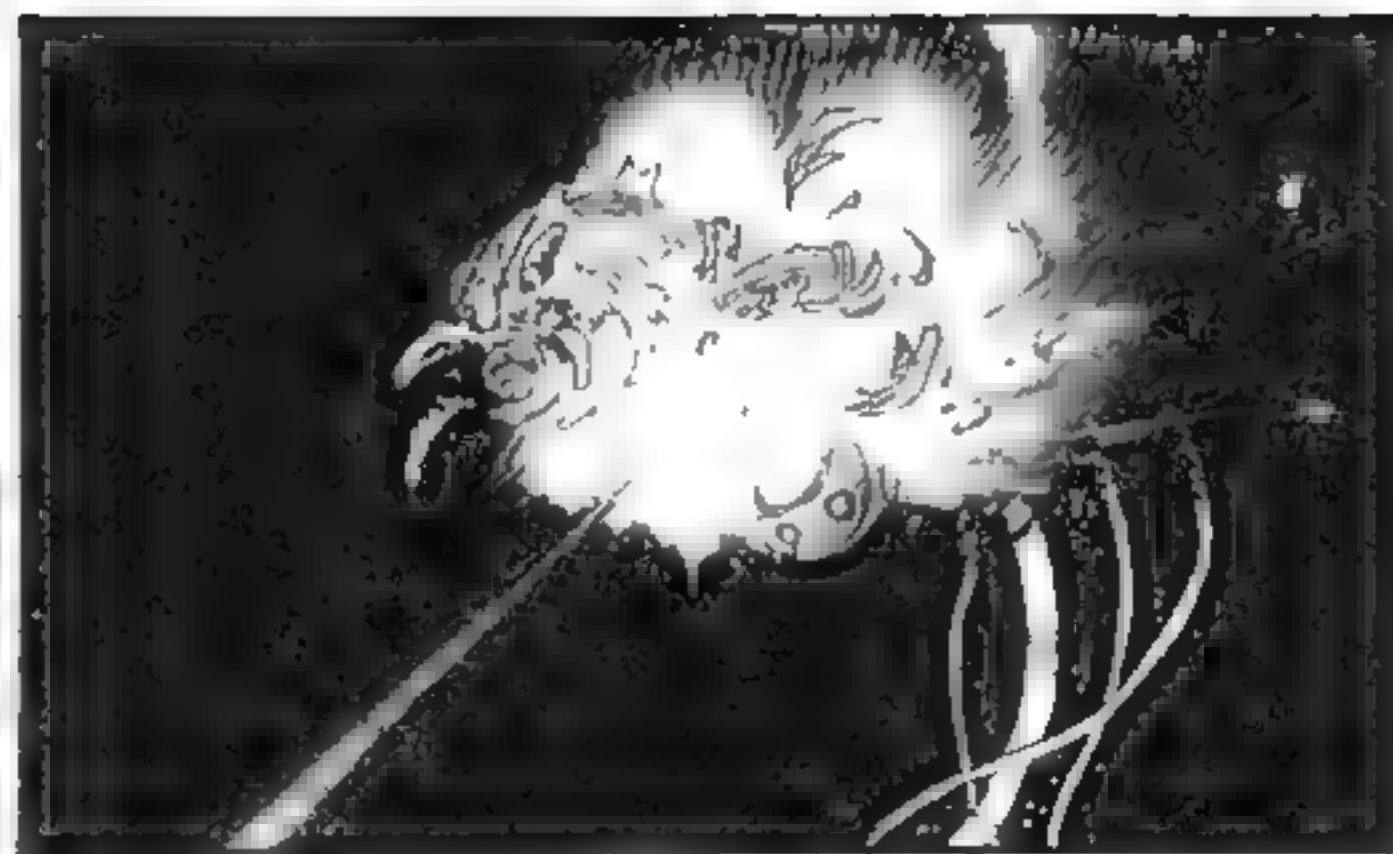


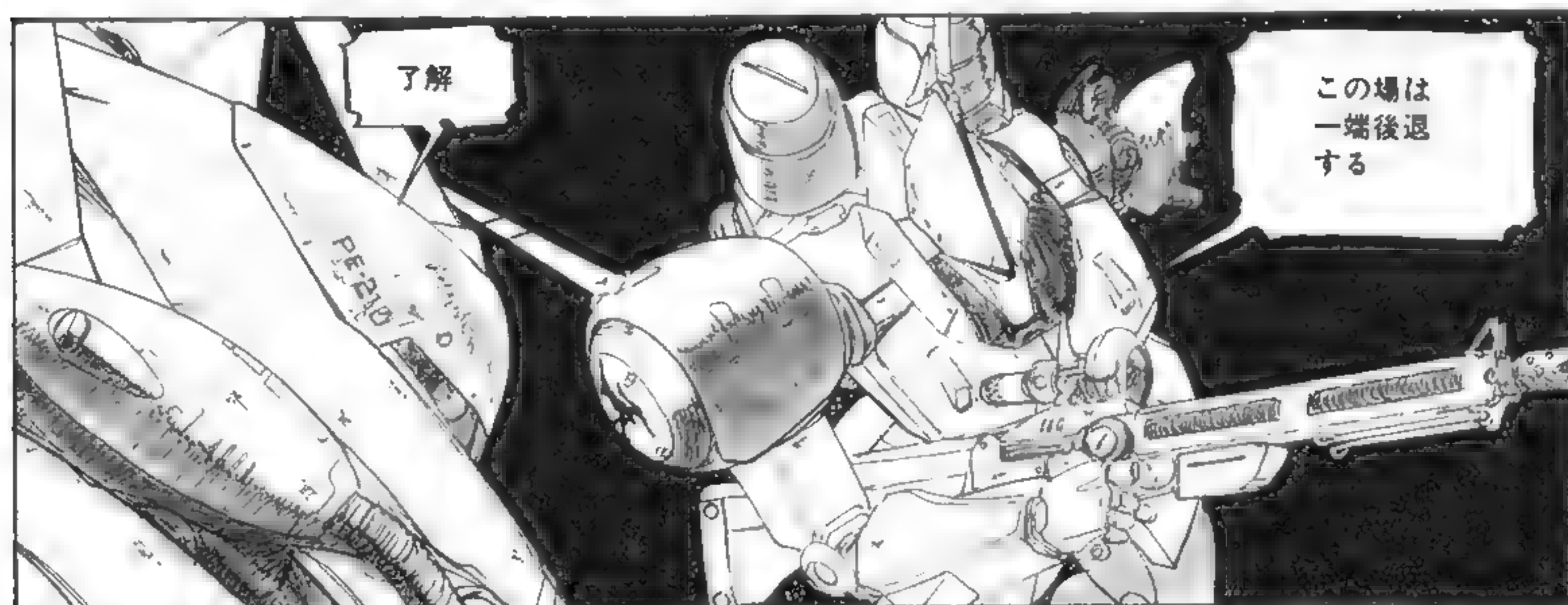
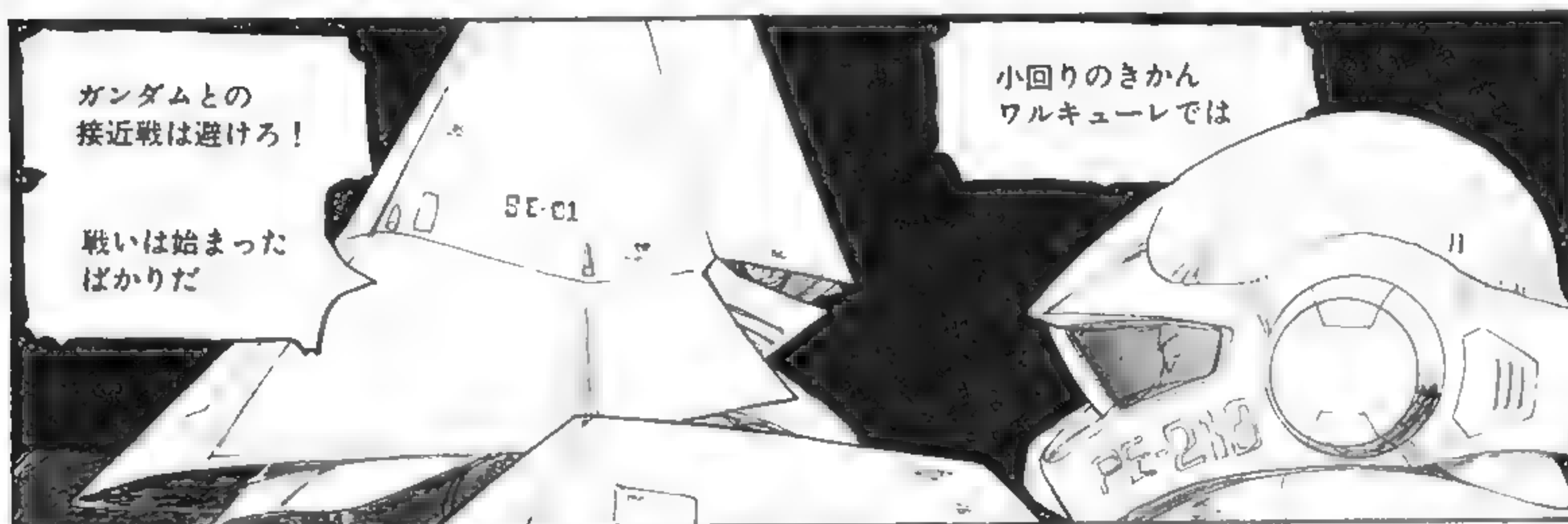
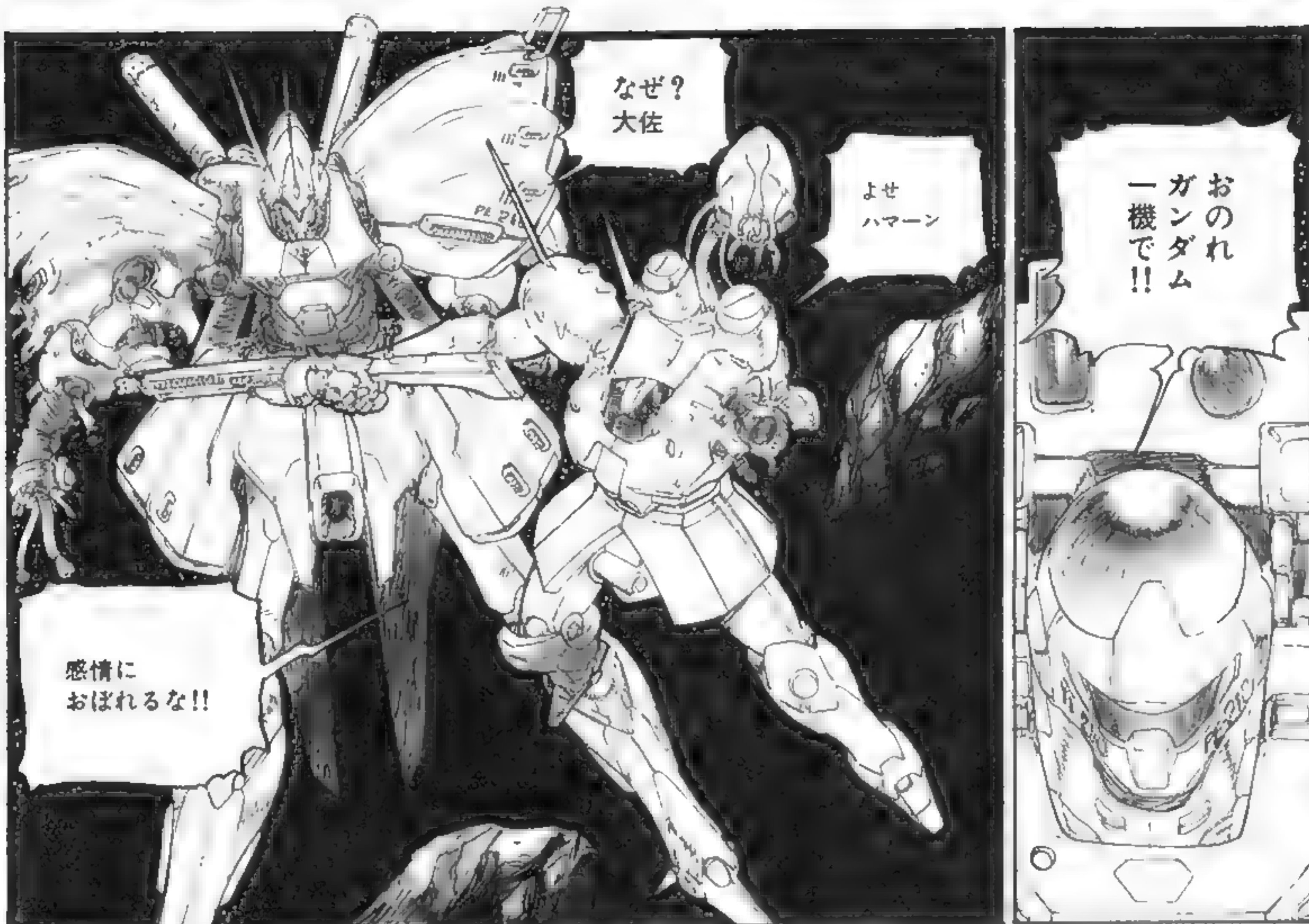


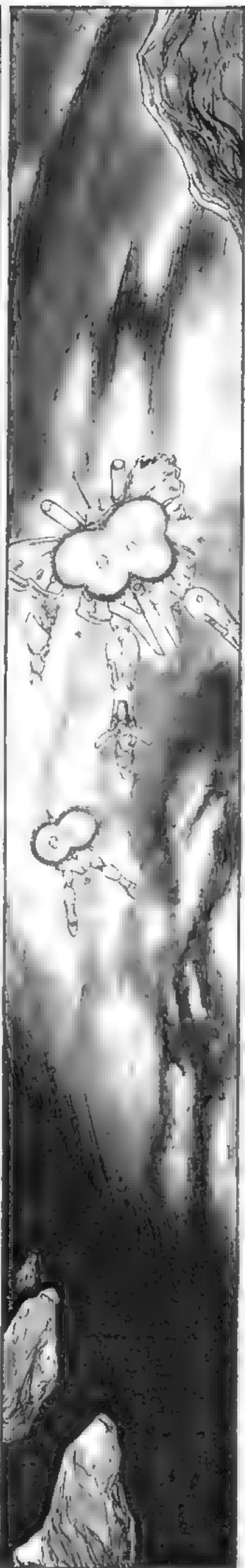
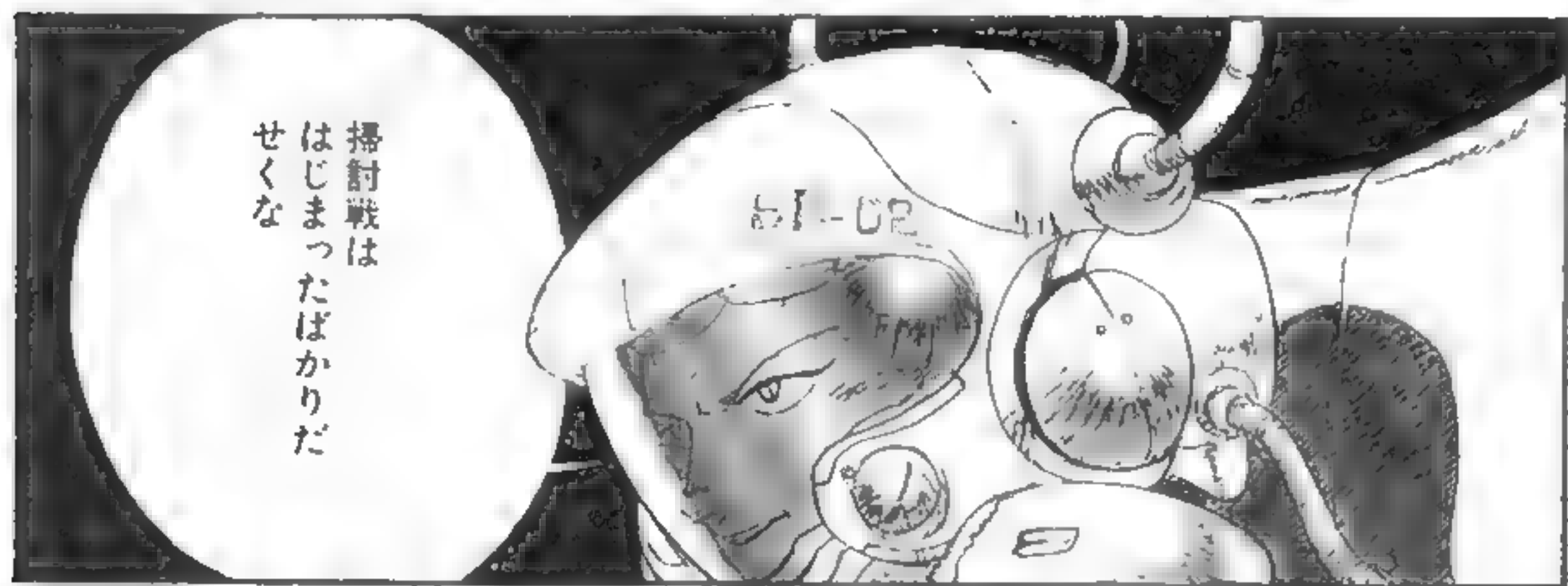










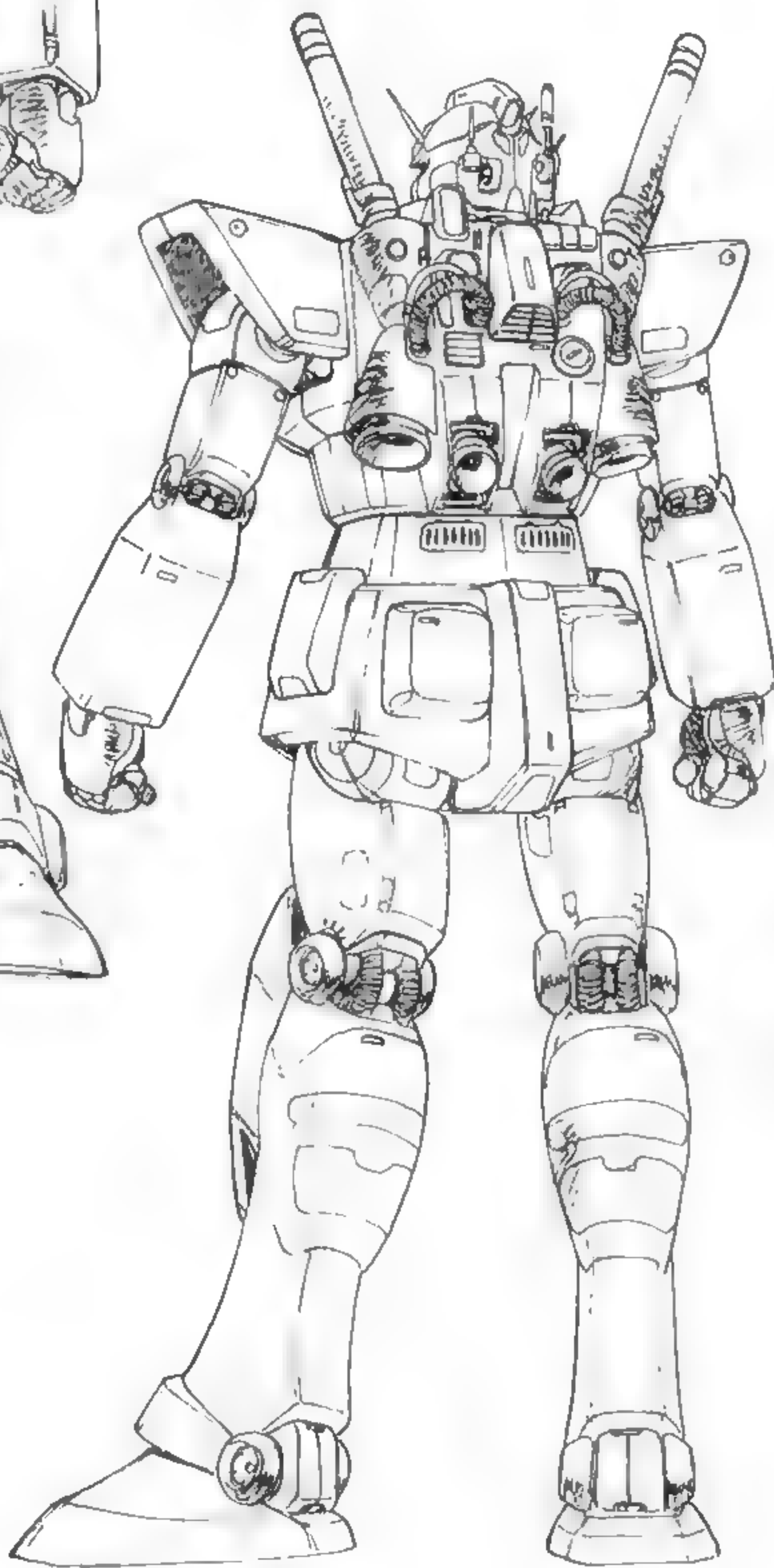
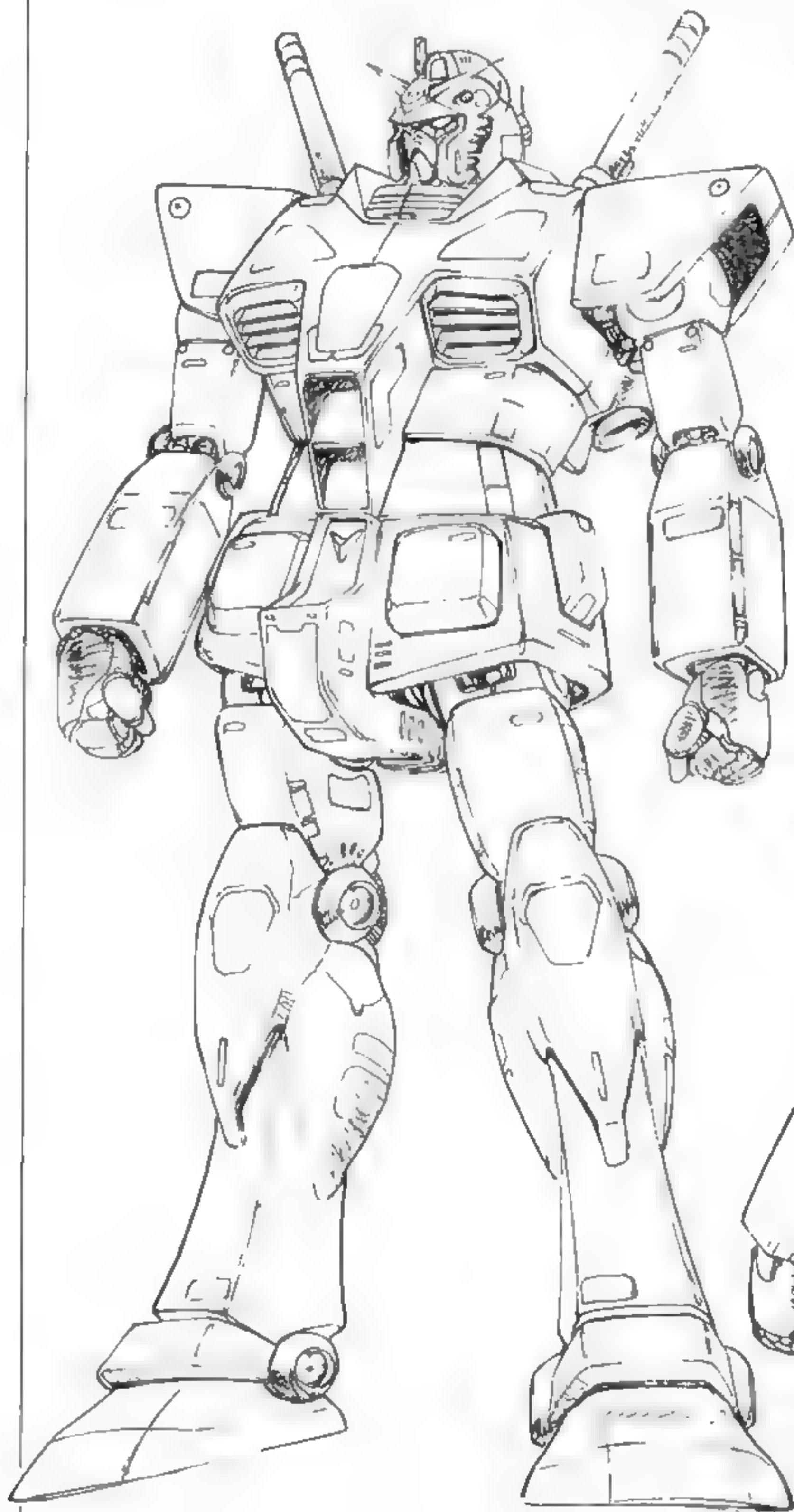


ORIGINAL MECHANISM 2D&3D WORKS



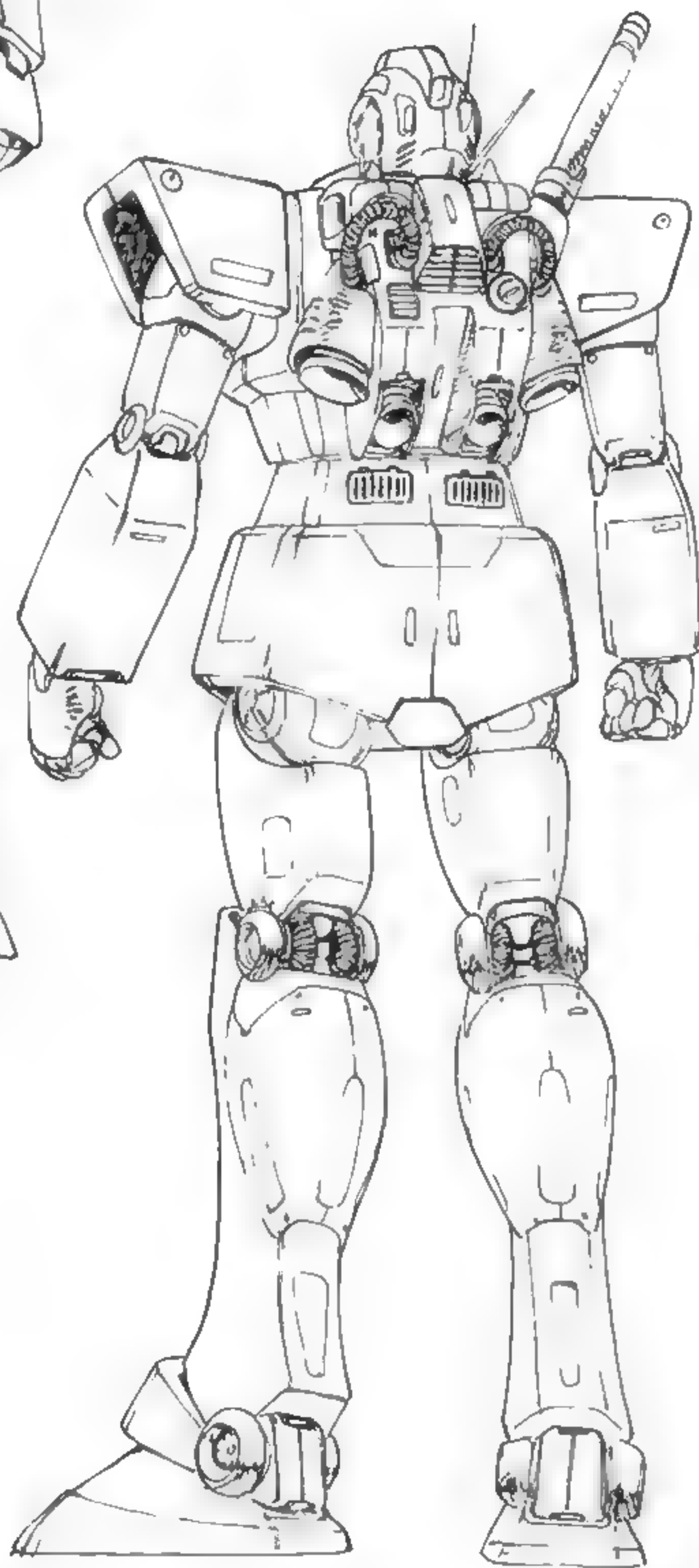
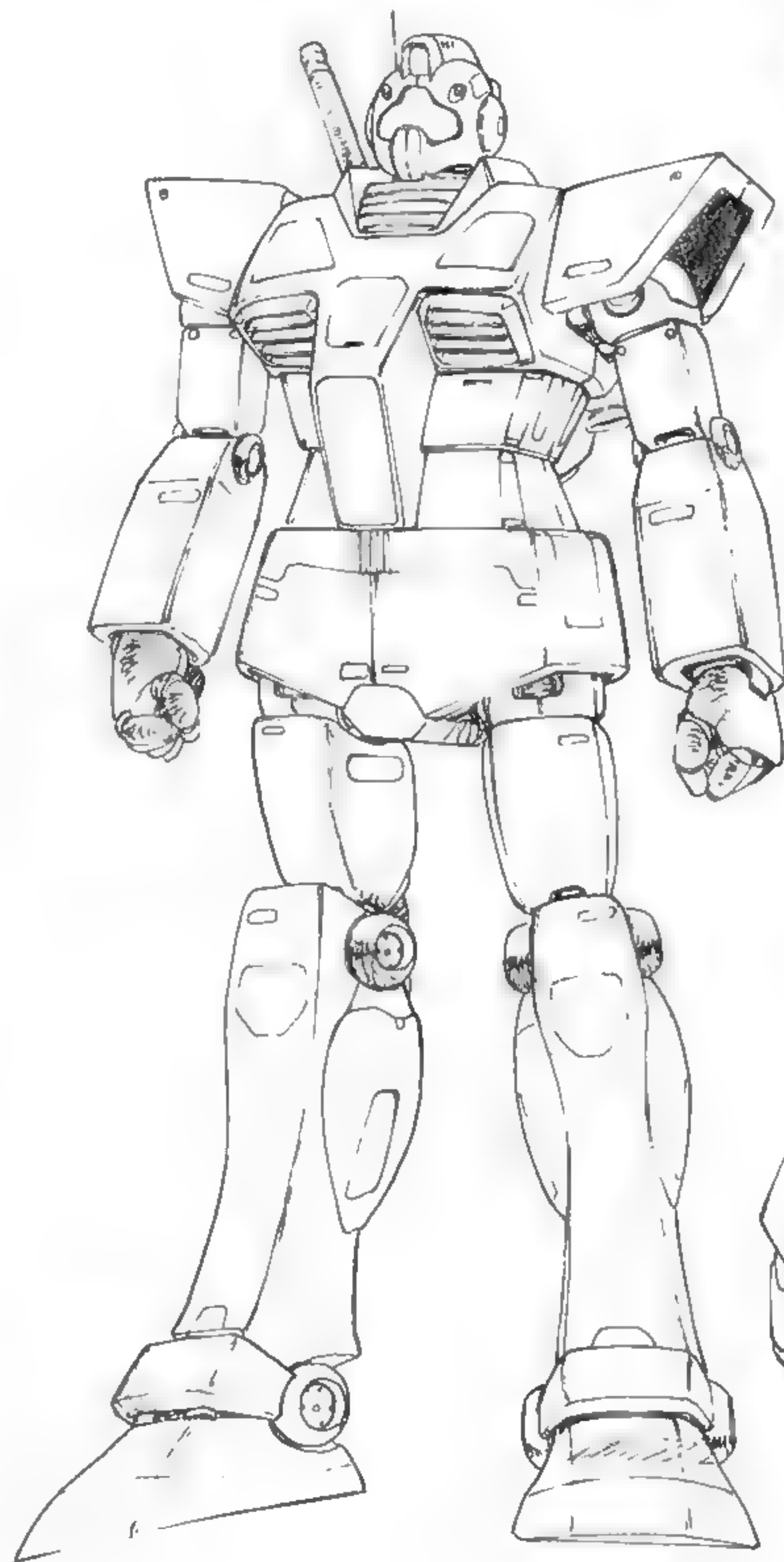
RX-78 GUNDAM

頭頂高18m、本体重量43.3t、全備重量60t、ジェネレータ出力1,380kW、スラスター総推力55,500kg、センサー有効半径5,700m、武装ビームライフル、ビームサーベル×2、60mmバルカン砲×2、ハイパーバズーカ



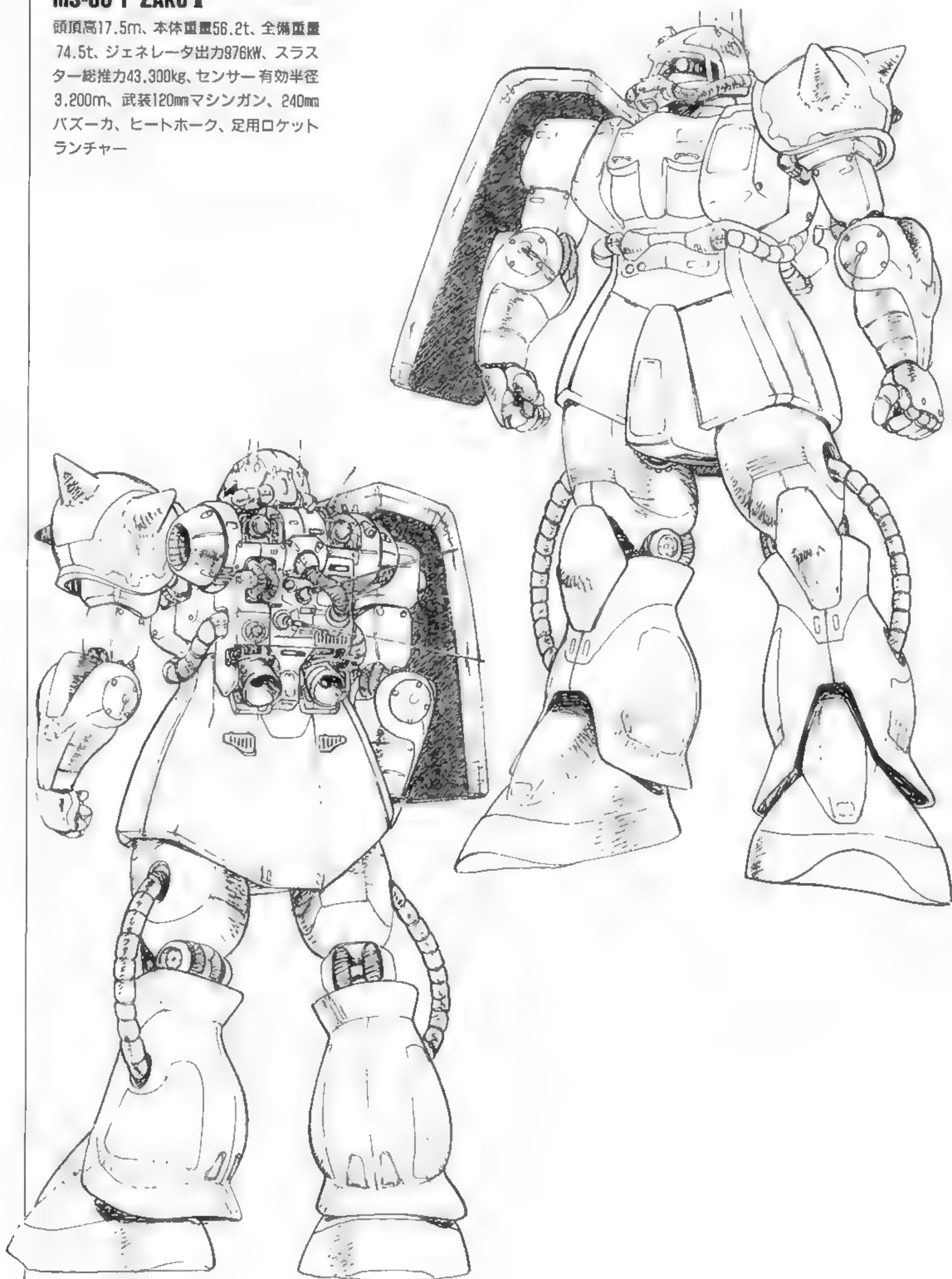
RGM-79 GM

頭頂高18m、本体重量41.2t、全機重量58.8t、ジェネレータ出力1,250kW、スラスター総推力55,500kg、センサー有効半径6,000m、武装ビームスプレーガン、ビームサーベル×1、60mmバルカン砲×2



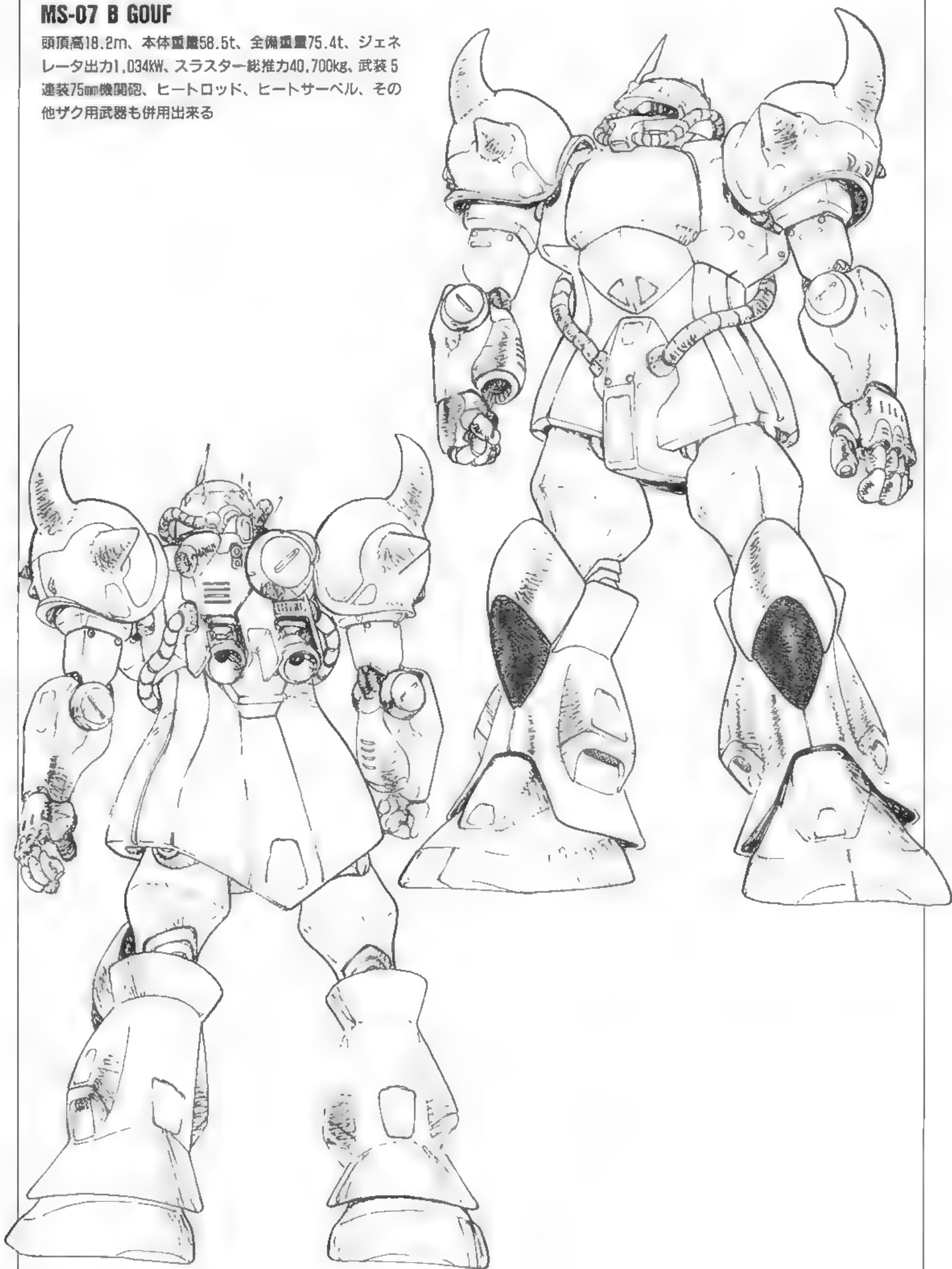
MS-06 F ZAKU II

頭頂高17.5m、本体重量56.2t、全備重量74.5t、ジェネレータ出力976kW、スラスター総推力43,300kg、センサー有効半径3,200m、武装120mmマシンガン、240mmバズーカ、ヒートホーク、足用ロケットランチャー



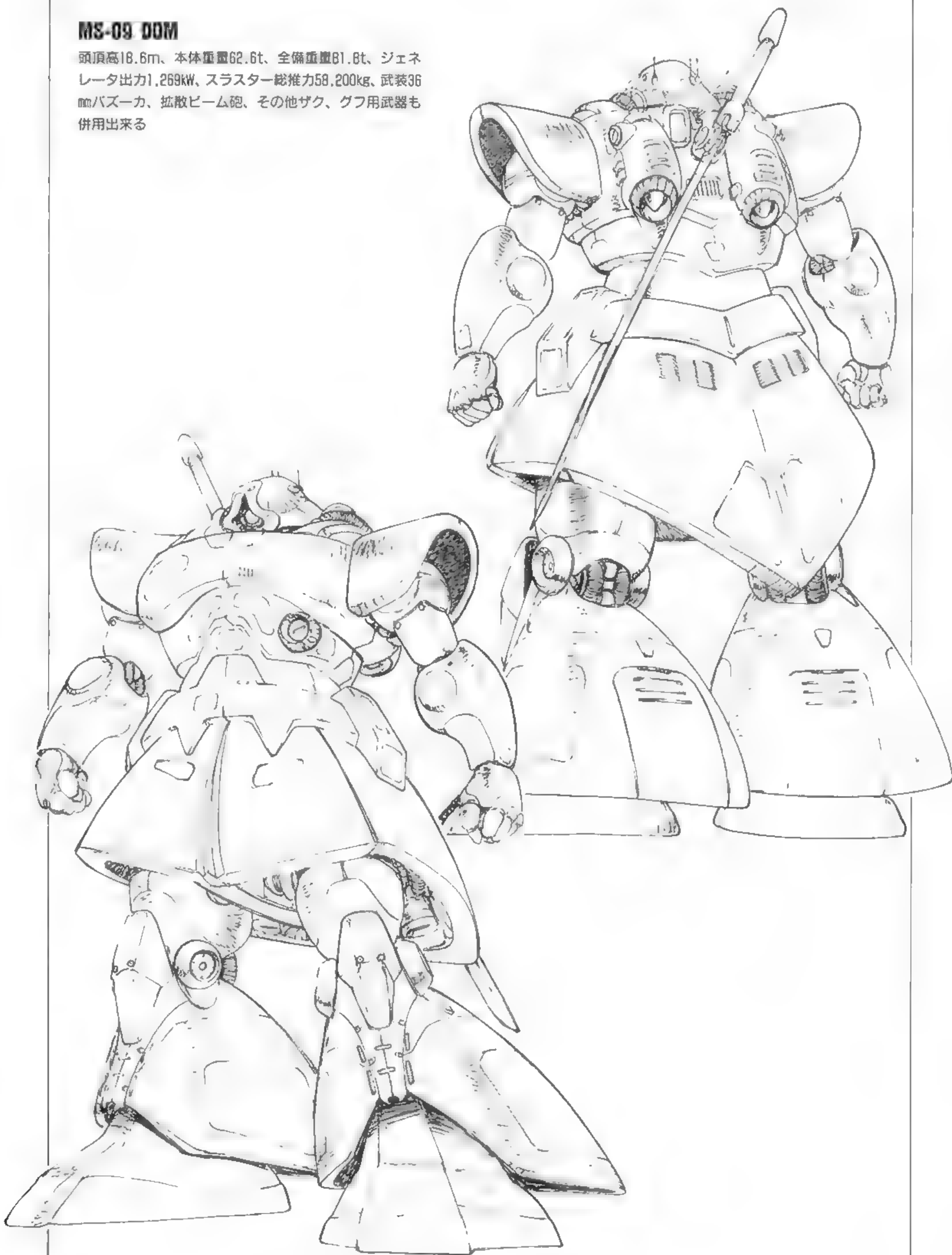
MS-07 B GOUF

頭頂高18.2m、本体重量58.5t、全備重量75.4t、ジェネレータ出力1,034kW、スラスター総推力40,700kg、武装5連装75mm機関砲、ヒートロッド、ヒートサーベル、その他ザク用武器も併用出来る



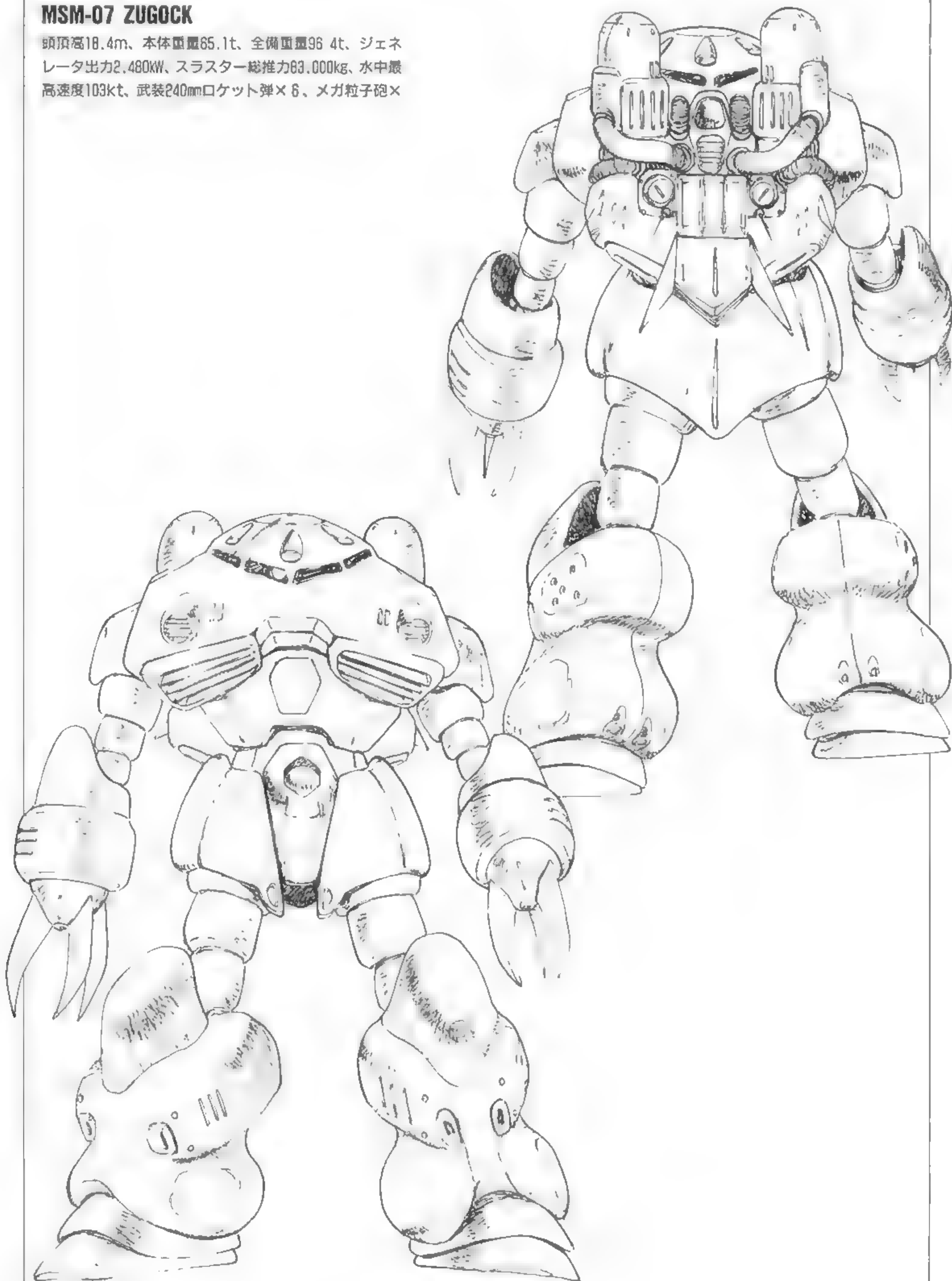
MS-09 DOM

頭頂高18.6m、本体重量62.6t、全備重量81.8t、ジェネレータ出力1,269kW、スラスター総推力58,200kg、武装36mmバズーカ、拡散ビーム砲、その他ザク、グフ用武器も併用出来る



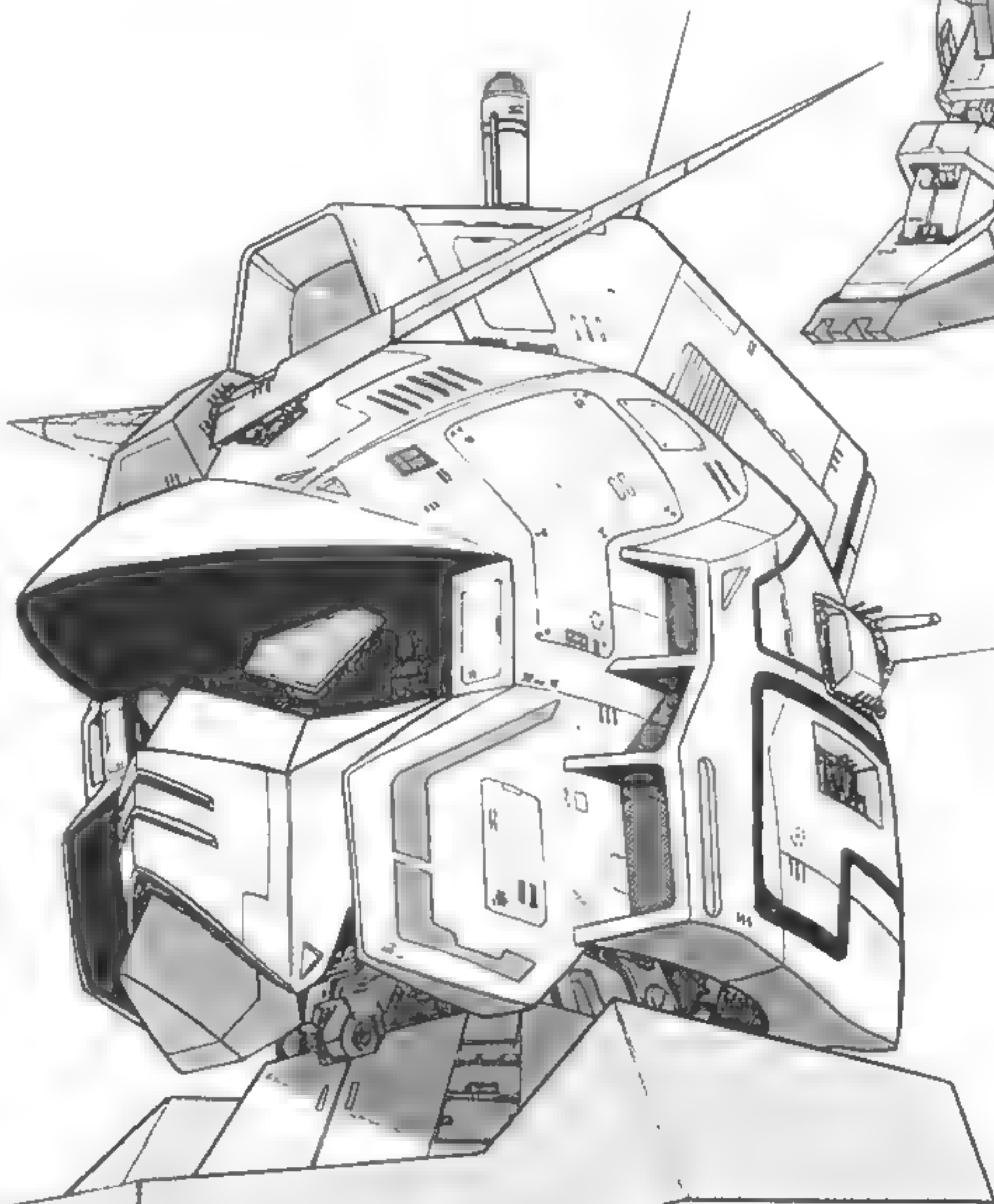
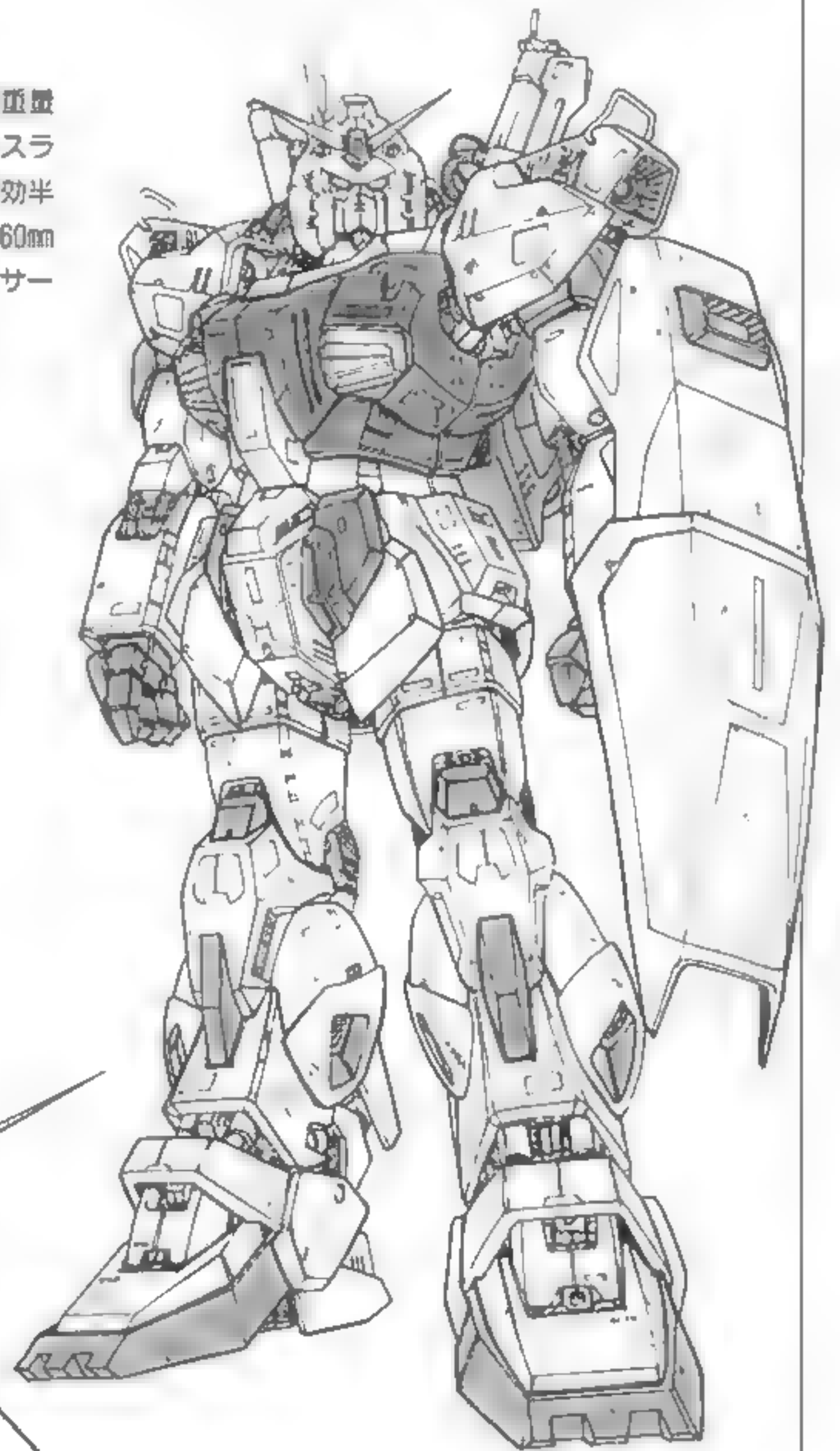
MSM-07 ZUGOCK

頭頂高18.4m、本体重量65.1t、全備重量96.4t、ジェネレータ出力2,480kW、スラスター総推力83,000kg、水中最高速度103kt、武装240mmロケット弾×6、メガ粒子砲×

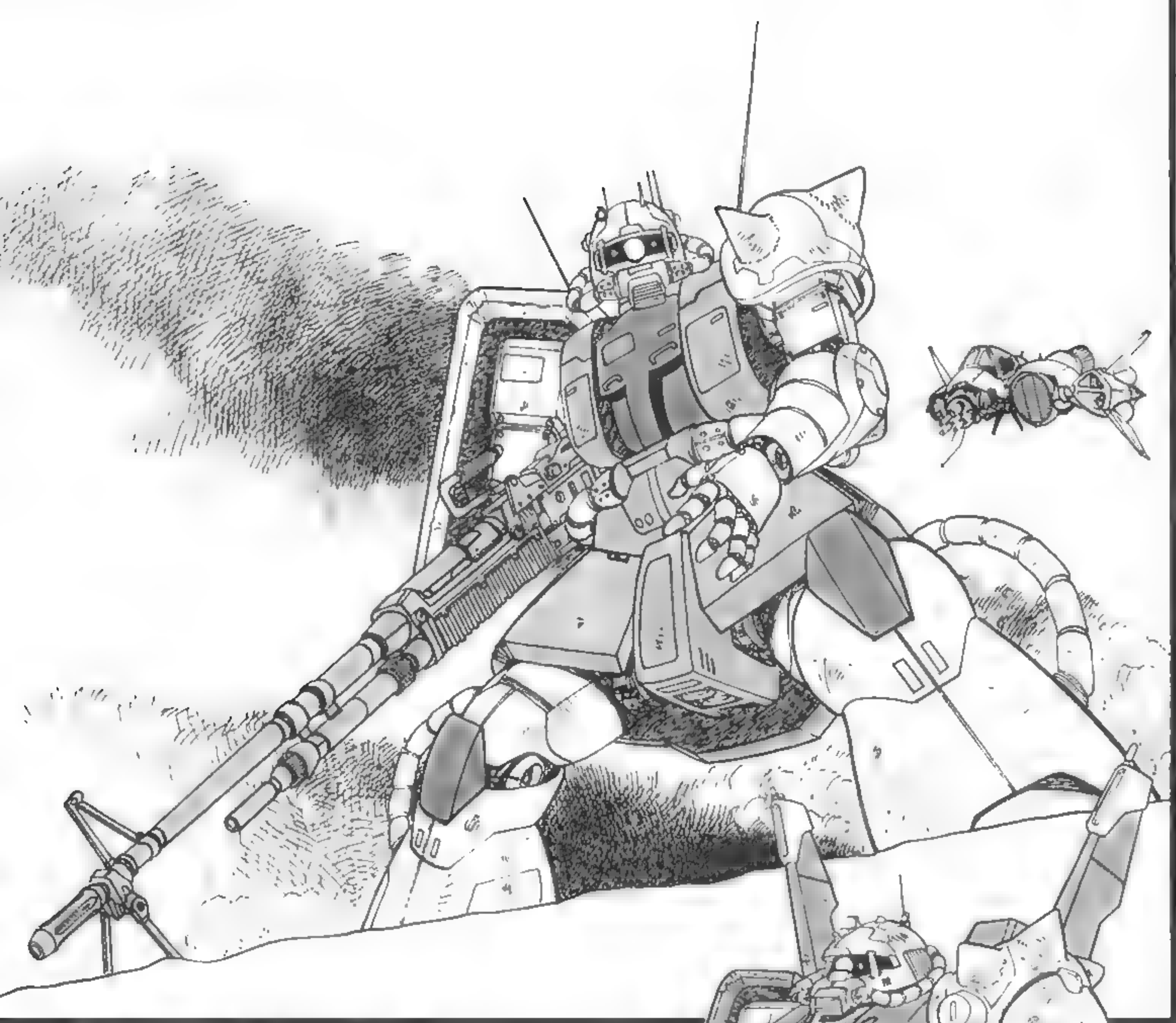


RX-178 GUNDAM MK-Ⅱ

頭頂高18.5m、本体重量33.4t、全備重量
54.1t、ジェネレータ出力1.930kW、スラ
スター総推力81,200kg、センサー有効半
径11,300m、武装ビームライフル、60mm
バルカンポッド、システム、ビームサー
ベル×2、ハイパーバズーカ



**MOBIL SUIT RX-178
GUNDAM MK-Ⅱ**

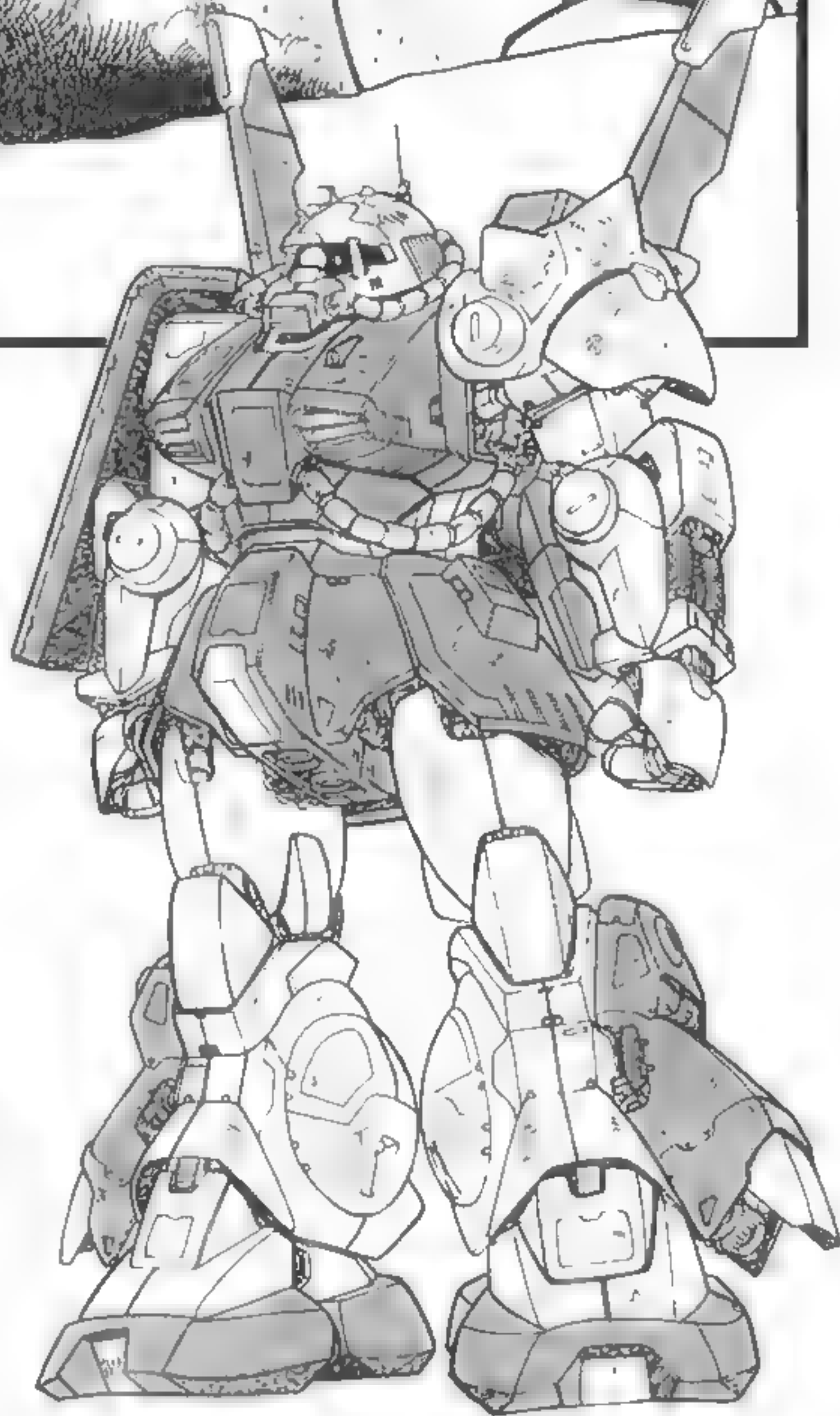


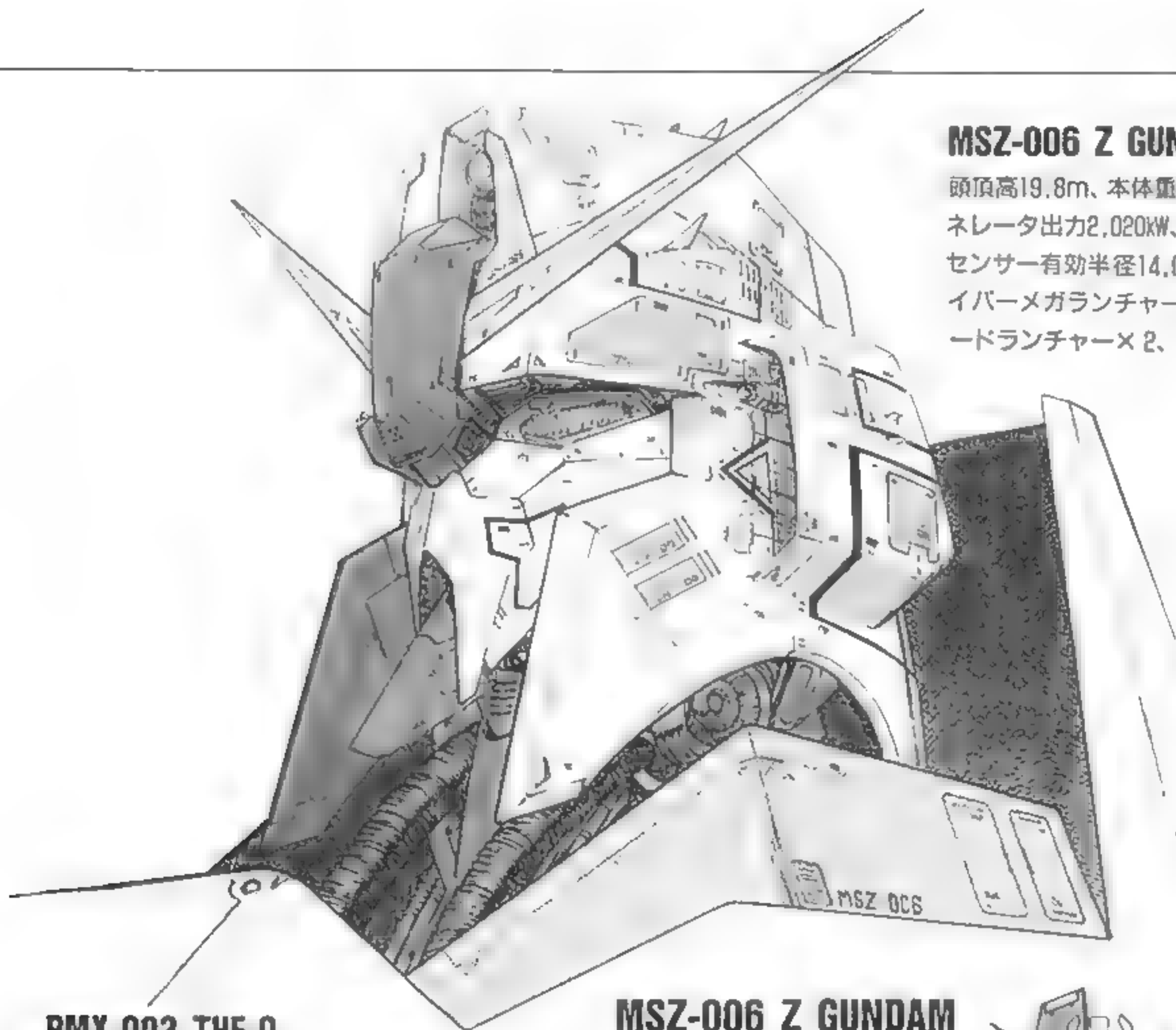
OPERATION ODYSA IN ACTION ZAKU

ジオン軍は一年戦争前に人型戦闘兵器の開発に着手し、その有用性に着目していた。それはミノフスキー粒子による誘導兵器の使用が不可能になったためである。この技術的な結果がモビルスーツザクタイプを生み出し、一年戦争へとジオン公国を導く結果となったのはなんとも皮肉である

RMS-106 HIZACK

頭頂高18m、本体重量38.7t、全備重量59.6t、ジェネレータ出力1,428kW、スラスタ総推力64,800kg、センサー有効半径8,900m、武装120mmマシンガン、ビームライフル、ビームサーベル、ヒートホーク、ミサイルポッド





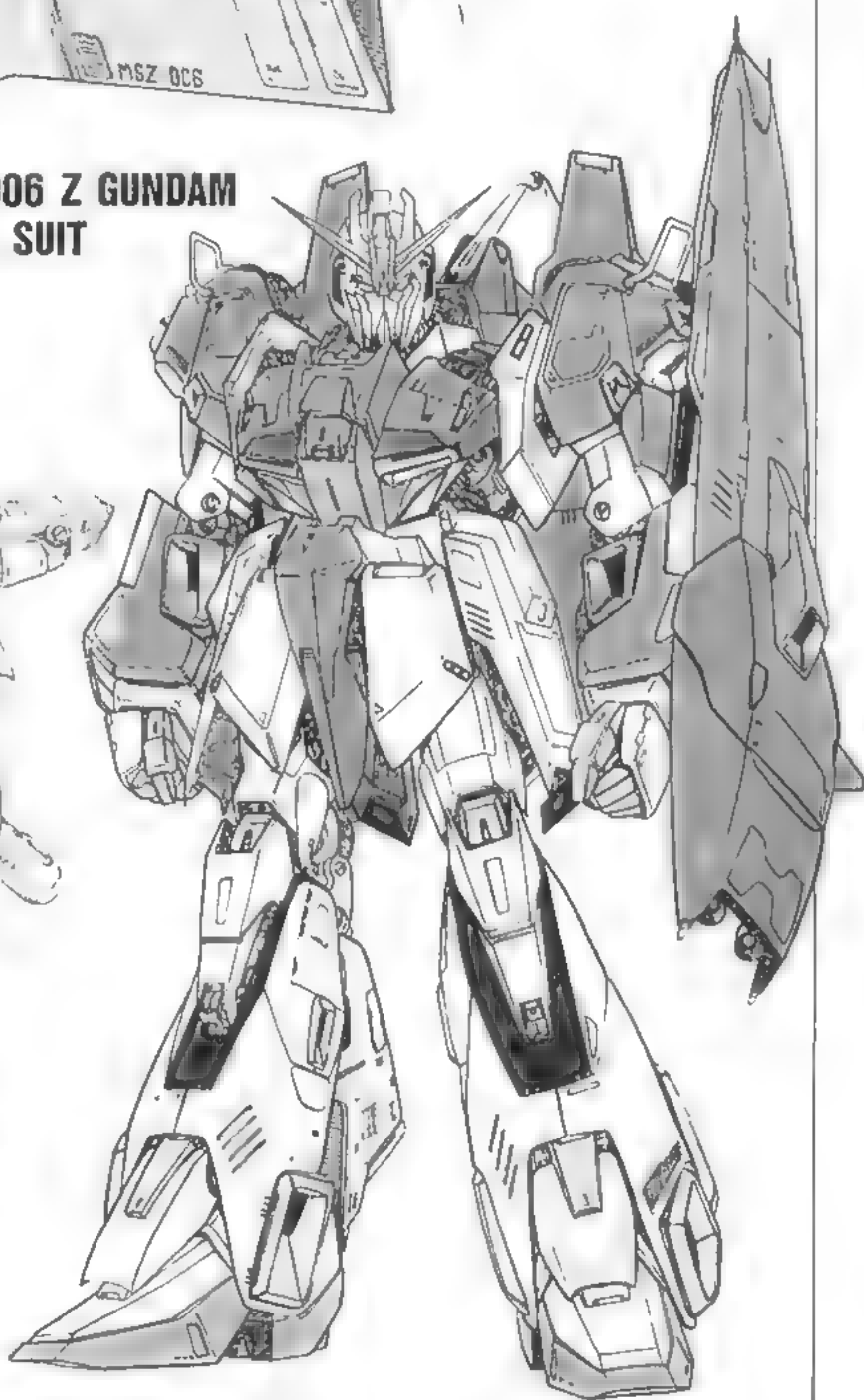
MSZ-006 Z GUNDAM

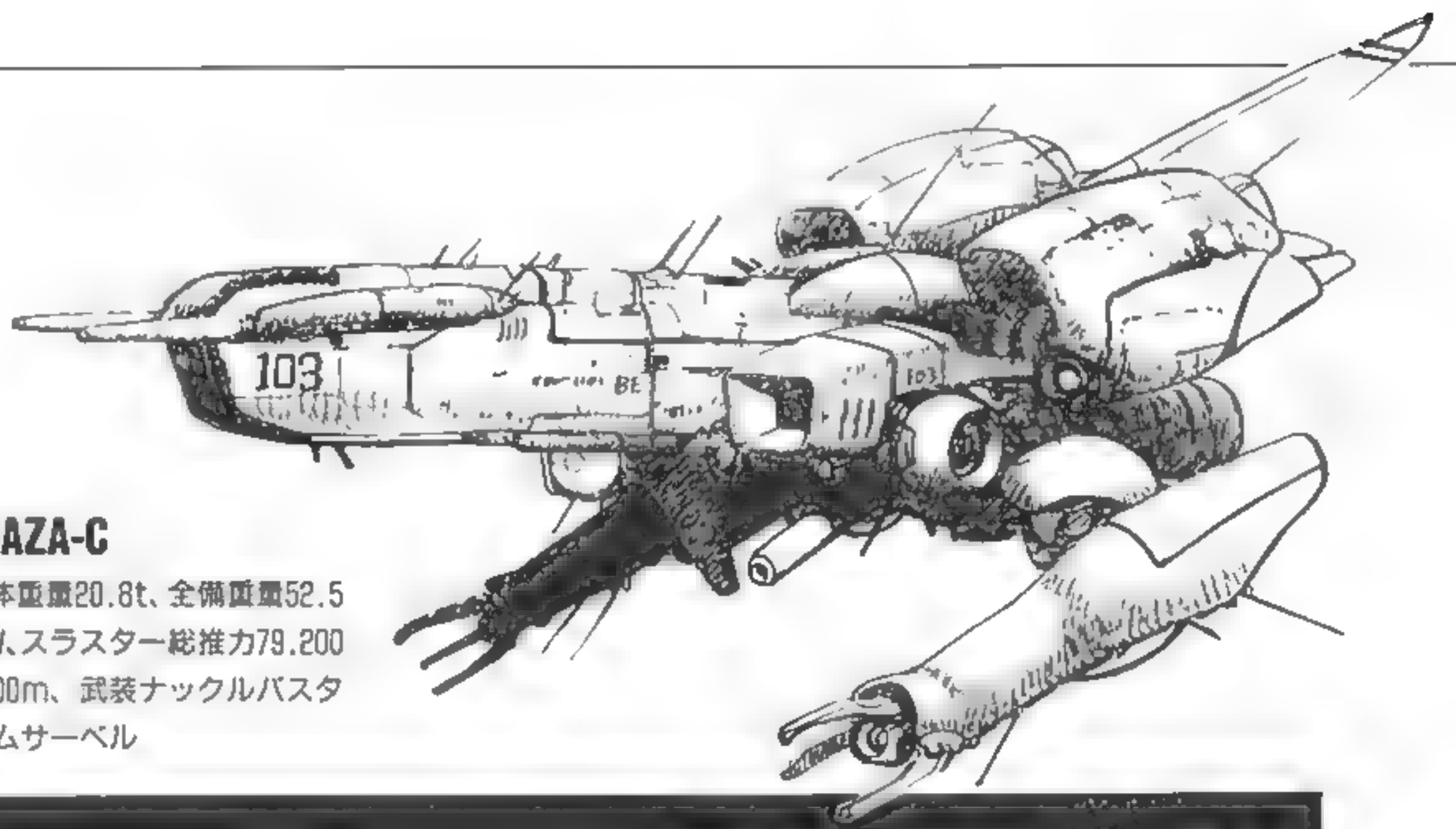
頭頂高19.8m、本体重量28.7t、全備重量 62.3t、ジェネレータ出力2,020kW、スラスター総推力112,600kg、センサー有効半径14,000m、武装ビームライフル、ハイパーメガランチャー、60mmバルカン砲×2、グレネードランチャー×2、ビームサーベル×2

PMX-003 THE-0

頭頂高24.8m、本体重量57.3t、全備重量 86.3t、ジェネレータ出力1,840kW、スラスター総推力135,400kg、センサー有効半径11,300m、武装ビームライフル、ビームソード×4

MSZ-006 Z GUNDAM MOBIL SUIT





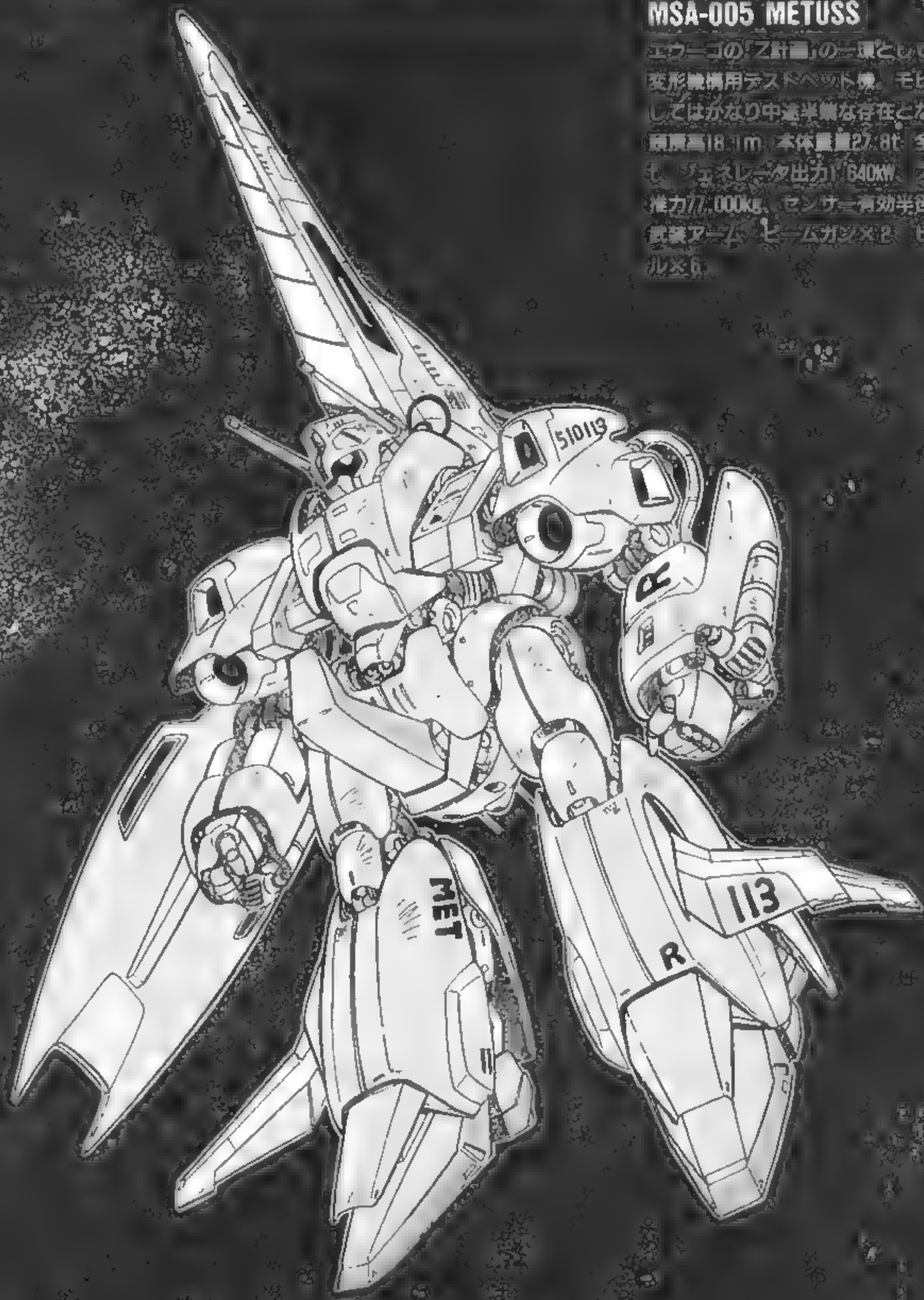
AMX-003 (MMT-1) GAZA-C

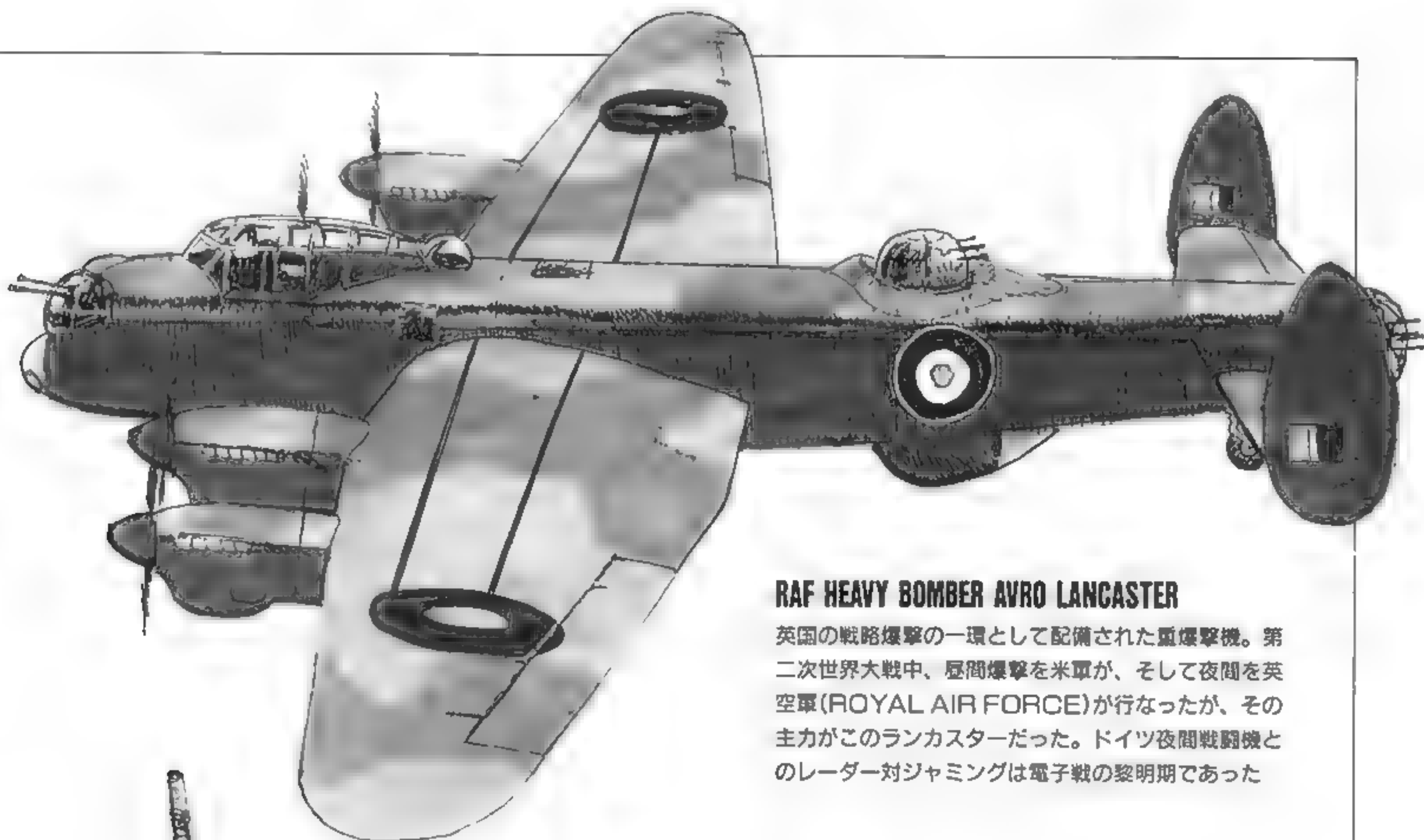
全高10m、頭頂高9.5m、本体重量20.8t、全備重量52.5t、ジェネレータ出力1,720kW、スラスター総推力79,200kg、センサー有効半径10,600m、武装ナックルバスター、ビームガン×2、ビームサーベル

MSA-005 METUSS

エウーゴの「Z計画」の一環として設計された変形機構用テストヘッド機。モビルスーツとしてはかなり中途半端な存在となっている。

頭頂高18.1m、本体重量27.8t、全備重量52.4t、ジェネレータ出力1,640kW、スラスター総推力77,000kg、センサー有効半径11,300m、武装アーム、ビームガン×2、ビームサーベル×6





RAF HEAVY BOMBER AVRO LANCASTER

英国の戦略爆撃の一環として配備された重爆撃機。第二次世界大戦中、昼間爆撃を米軍が、そして夜間を英空軍(ROYAL AIR FORCE)が行なったが、その主力がこのランカスターだった。ドイツ夜間戦闘機とのレーダー対ジャミングは電子戦の黎明期であった



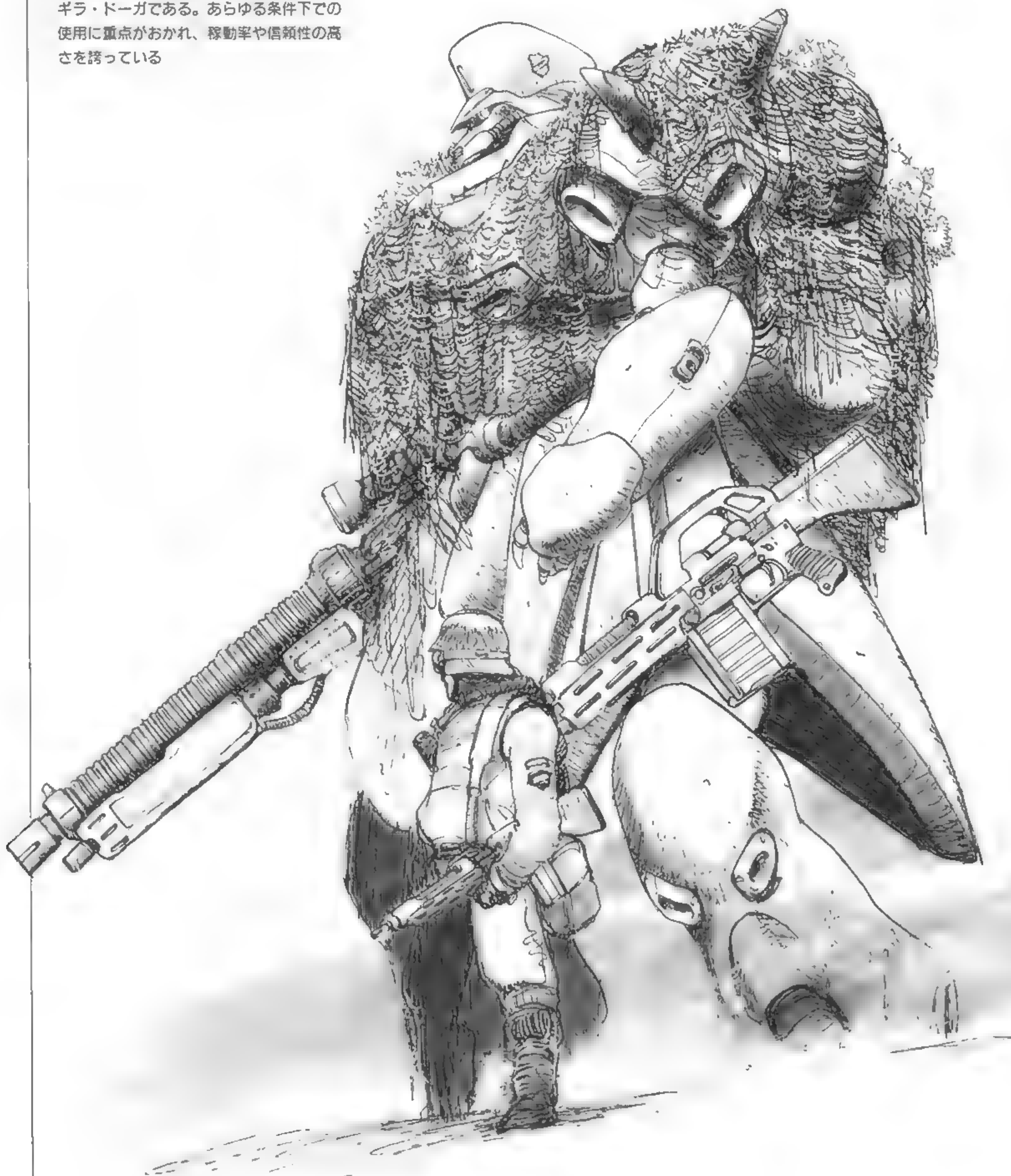
AMS-119 GEARA-DOGA

頭頂高20.2m、本体重量23.0t、全備重量50.8t、ジェネレータ出力2.160kW、スラスター総推力14,000kg×2、13,000kg×2、アポジモーター数15、センサー有効半径16,400m、武装ビームマシンガン、ビームソードアックス、グレネードランチャー、シュツルムファウスト



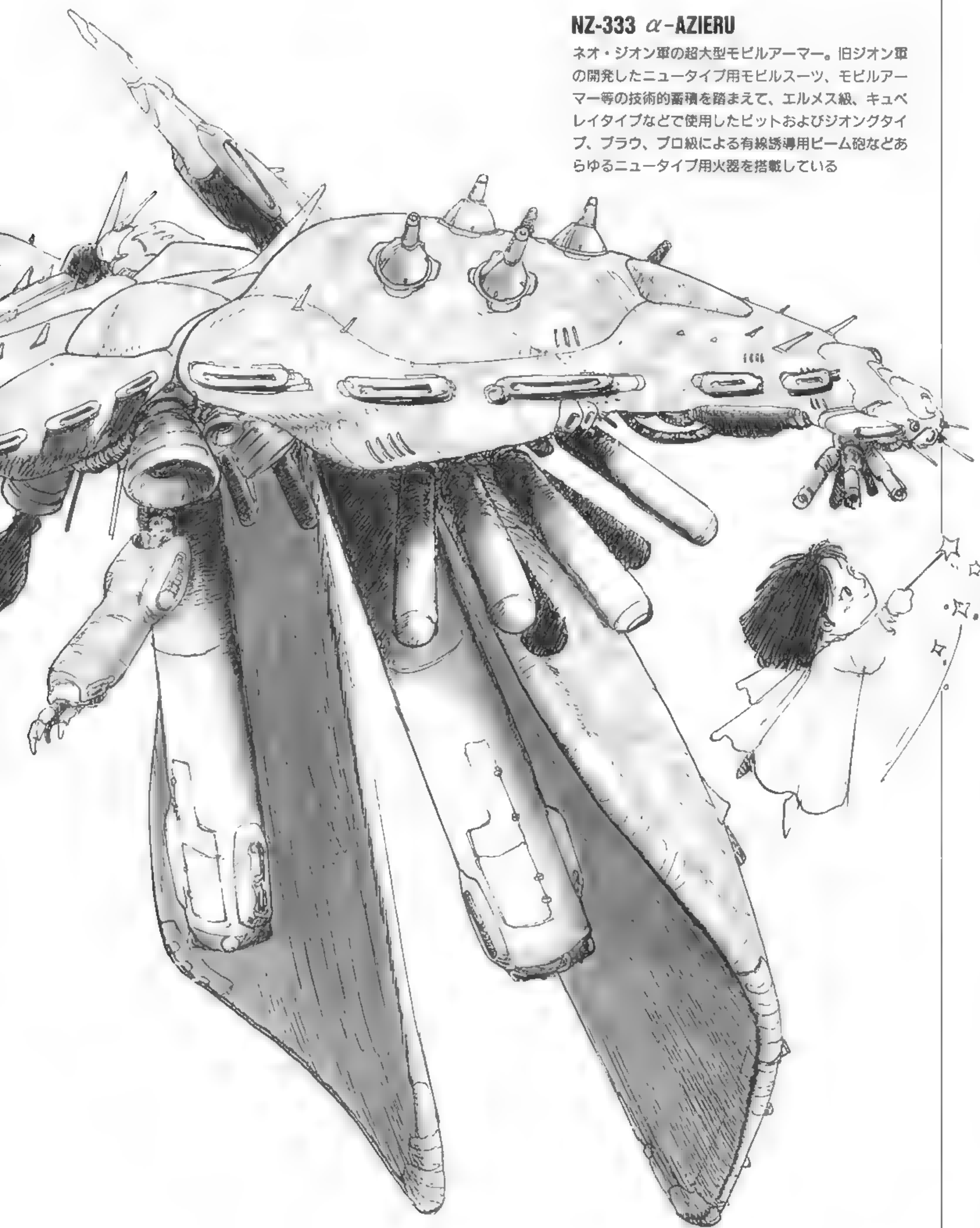
毒だからって
ポーションと
してんなよ!

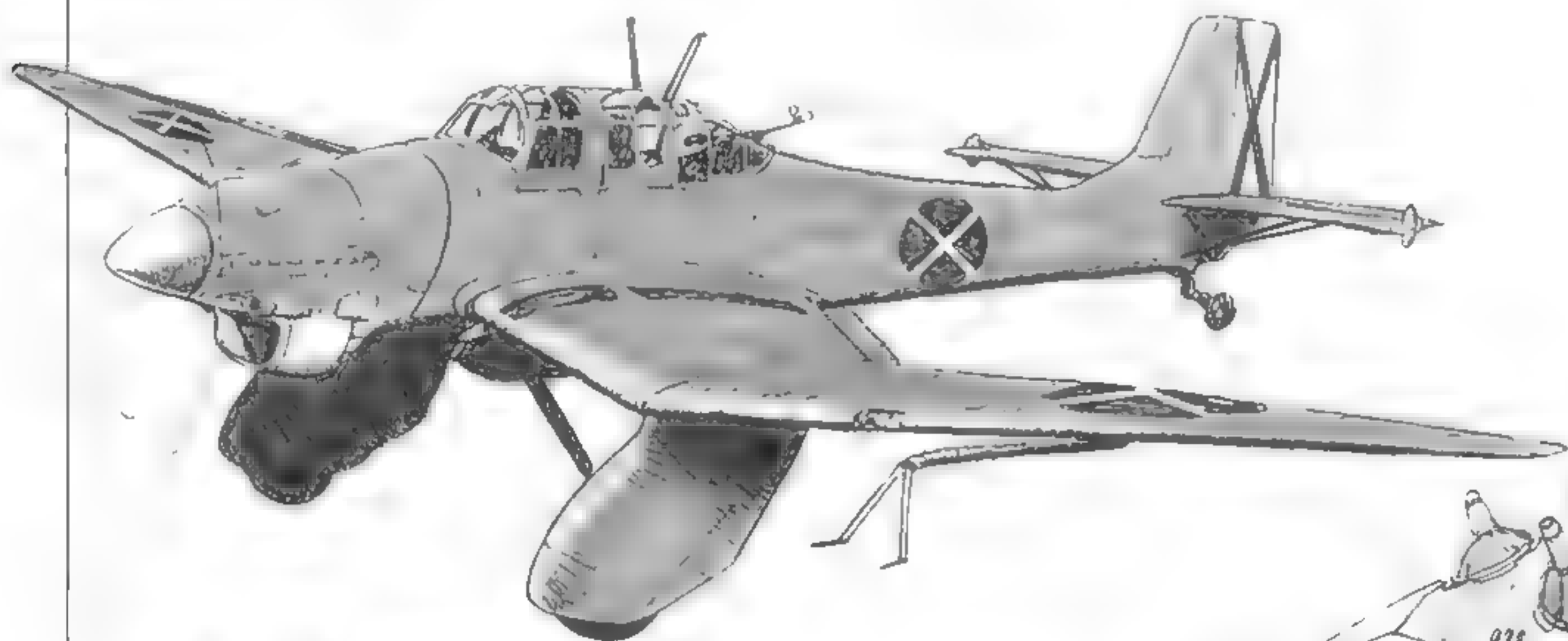
汎用モビルスーツMS-108マラサイの後継機。いかにマラサイでも、性能面ではGMⅡ、ネモなどの連邦軍新MSに対抗出来なくなった。数の上で劣勢のジオン軍が火力の充実と装甲の強化を目標に設計したMSがギラ・ドーガである。あらゆる条件下での使用に重点がおかれ、稼働率や信頼性の高さを誇っている



NZ-333 α -AZIERU

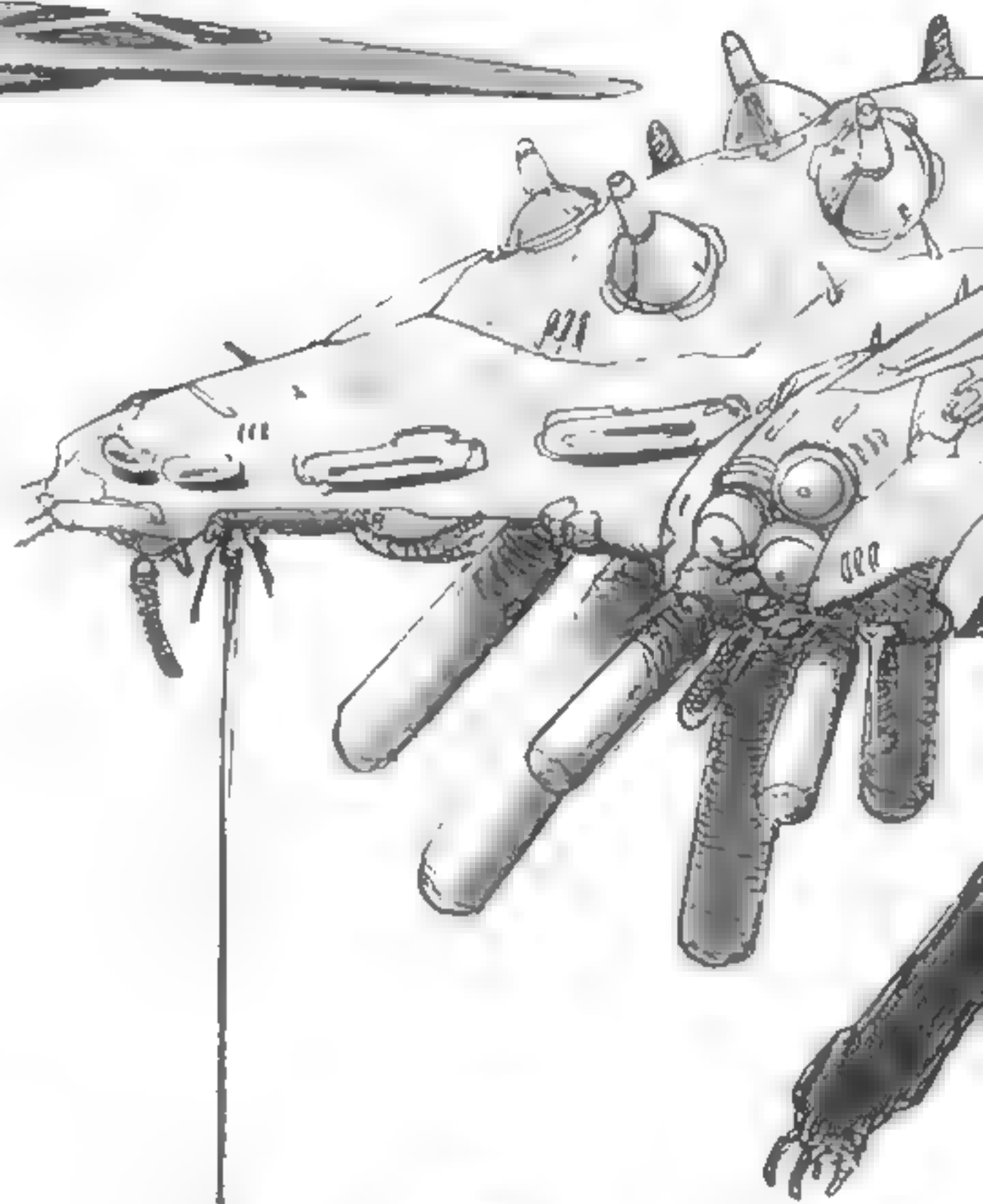
ネオ・ジオン軍の超大型モビルアーマー。旧ジオン軍の開発したニュータイプ用モビルスーツ、モビルアーマー等の技術的蓄積を踏まえて、エルメス級、キューベレイタイプなどで使用したビットおよびジオングタイプ、ブラウ、プロ級による有線誘導用ビーム砲などあらゆるニュータイプ用火器を搭載している



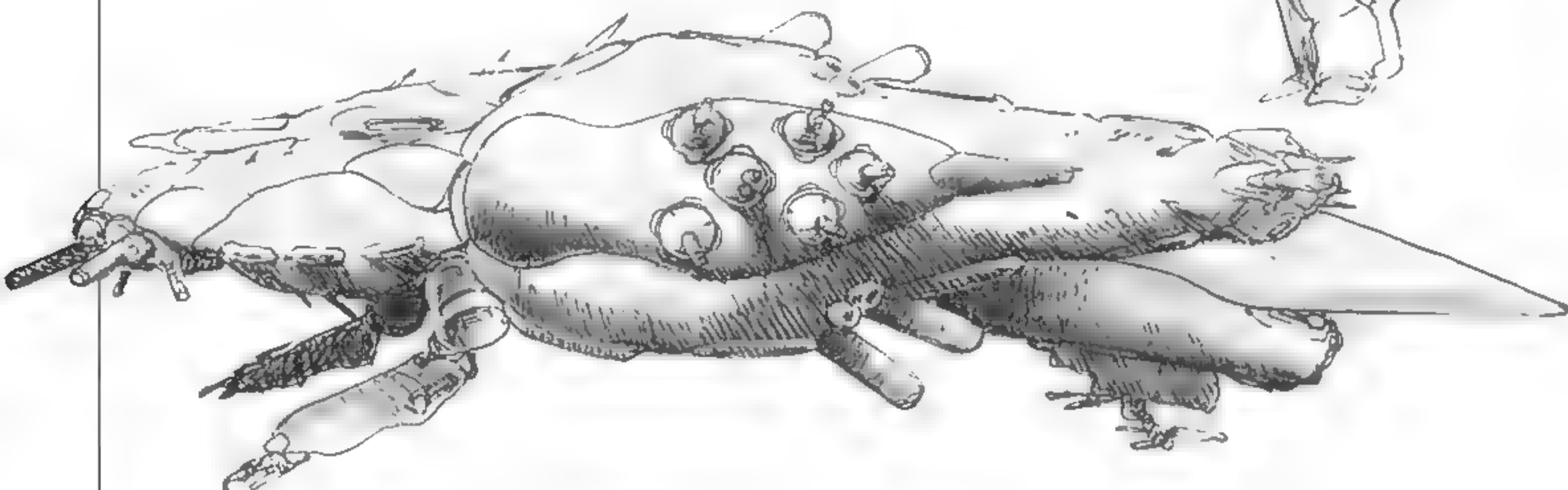


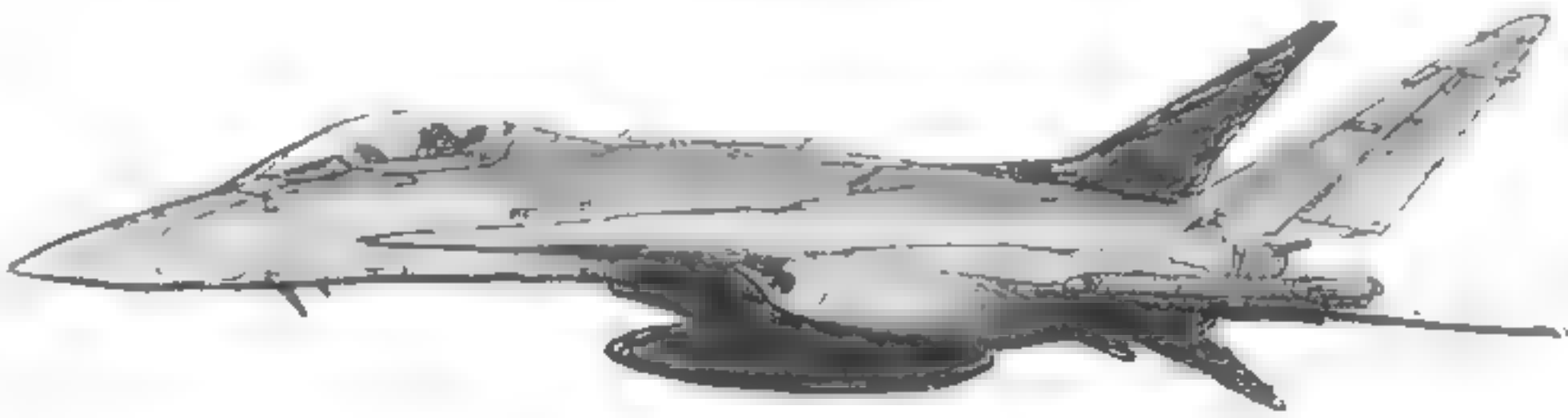
JUNKERS JU-87A STUKA

第二次世界大戦中ナチスドイツ軍が行なった、電撃戦(BLITZ KRIEG)の空の主役がこのスツーカーだった。このA型は最初の量産型で以後のタイプとは細部に相違がある。このA型が活躍したのは第二次世界大戦前のスペイン内乱の時代で、ナチスドイツ空軍が送り込んだコンドル部隊によって使用された



全長108.26m、頭頂高58.4m、本体重量128.6t、全備重量267.4t、ジェネレータ出力19,830kW、スラスター総推力933,500kg×1,468,000kg×2、87,000kg×4 アボシモーター数31、センサー有効半径23,800m、武装2連装バルカン砲、メガ粒子砲、有線サイコミュ式メガアーム砲×2、ファンネル×9





X-91 XCが随伴機に守られてテスト飛行をしている風景。テスト飛行は概ね成功のようである。

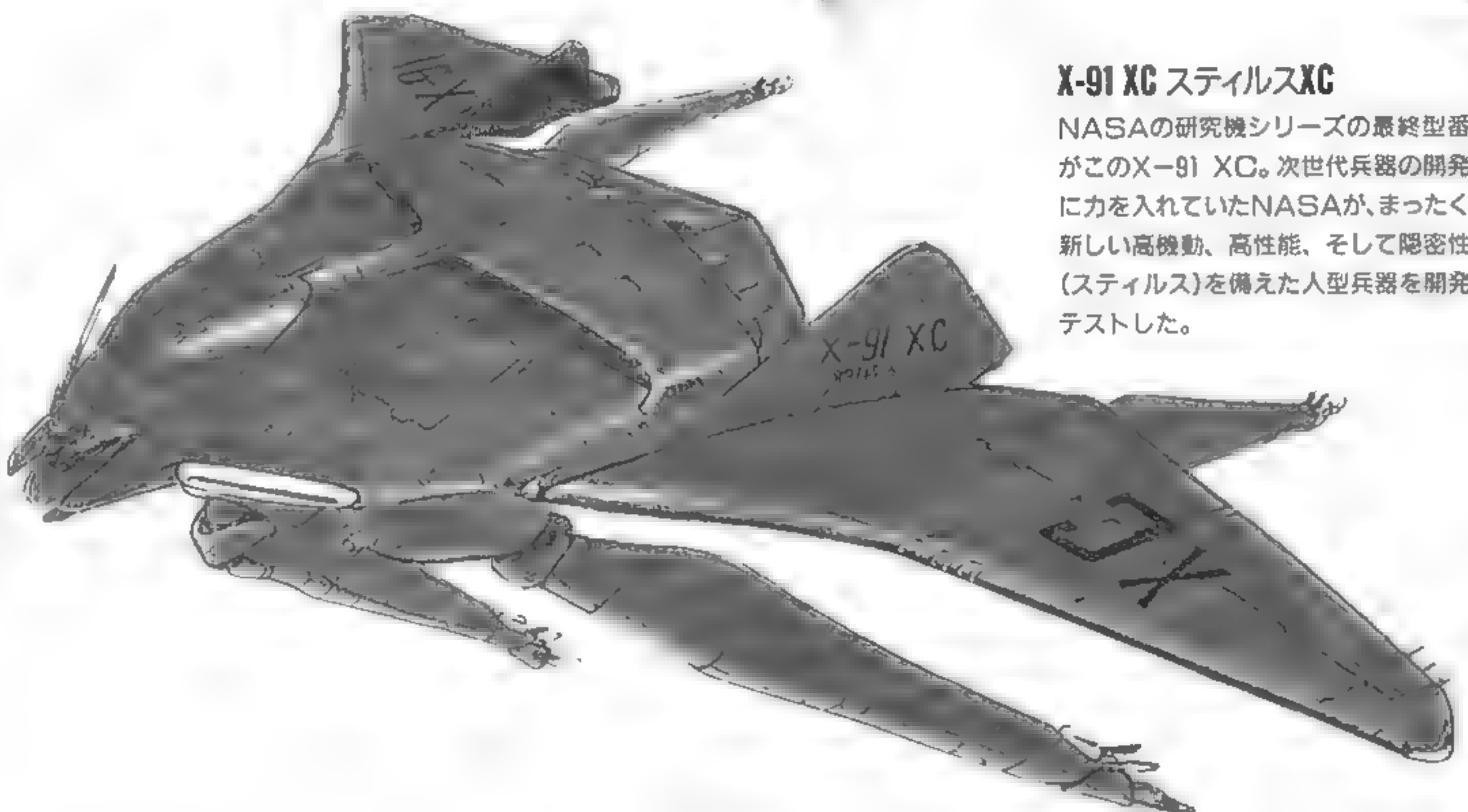
Shucks!

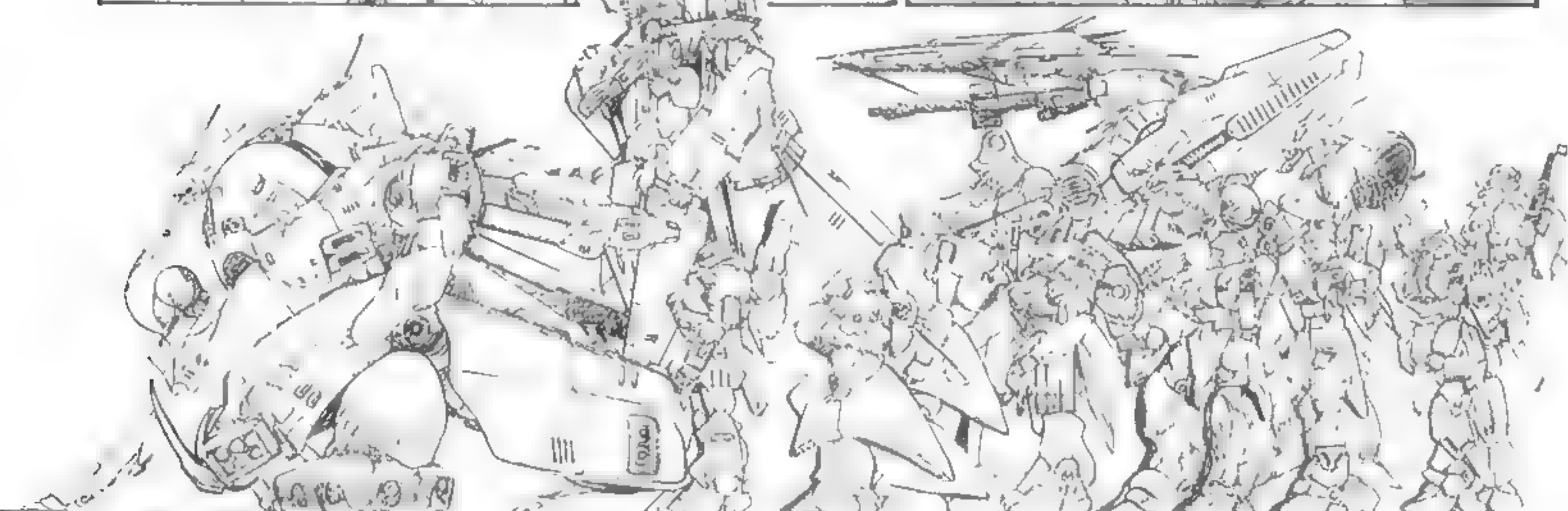
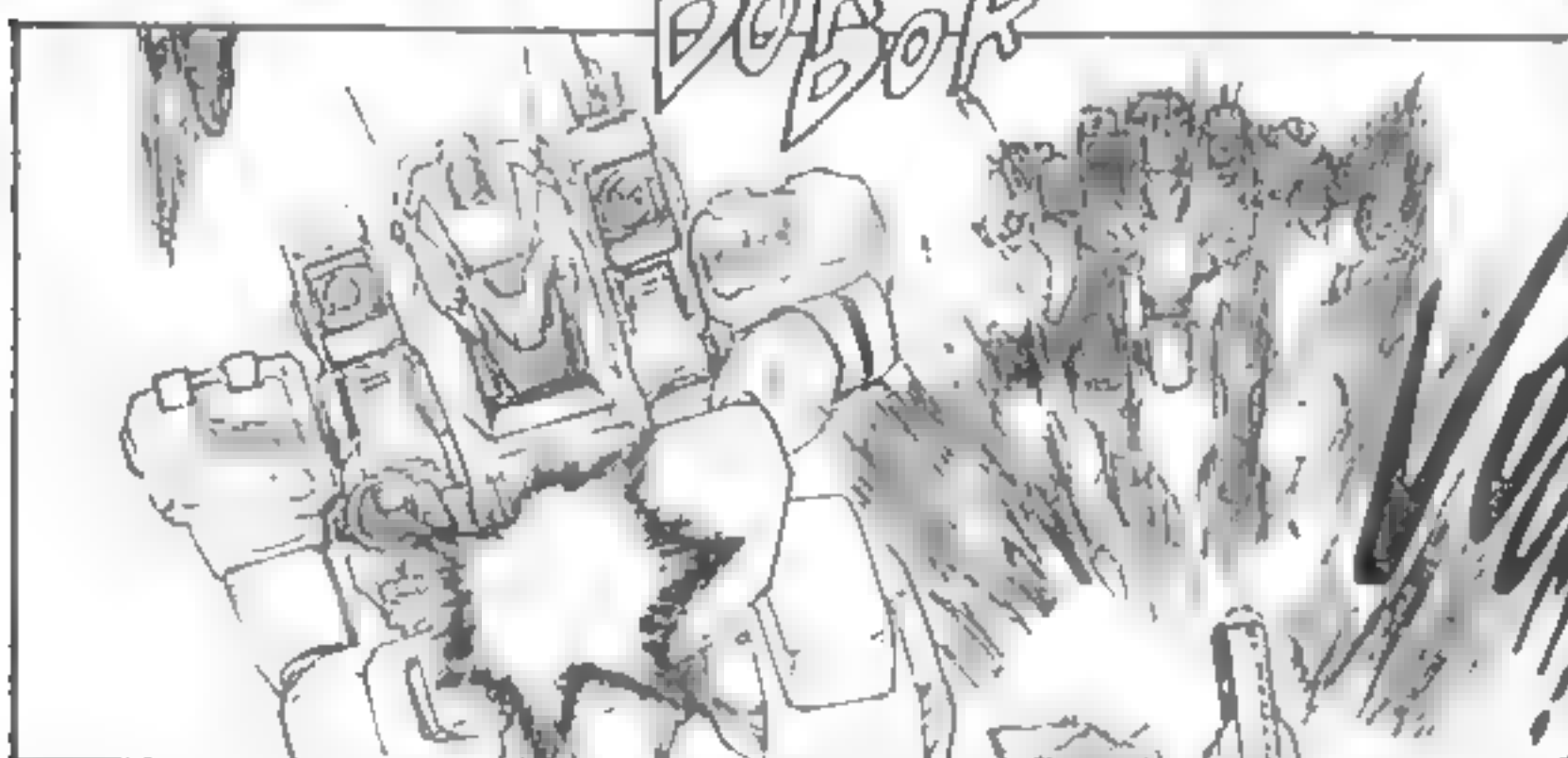
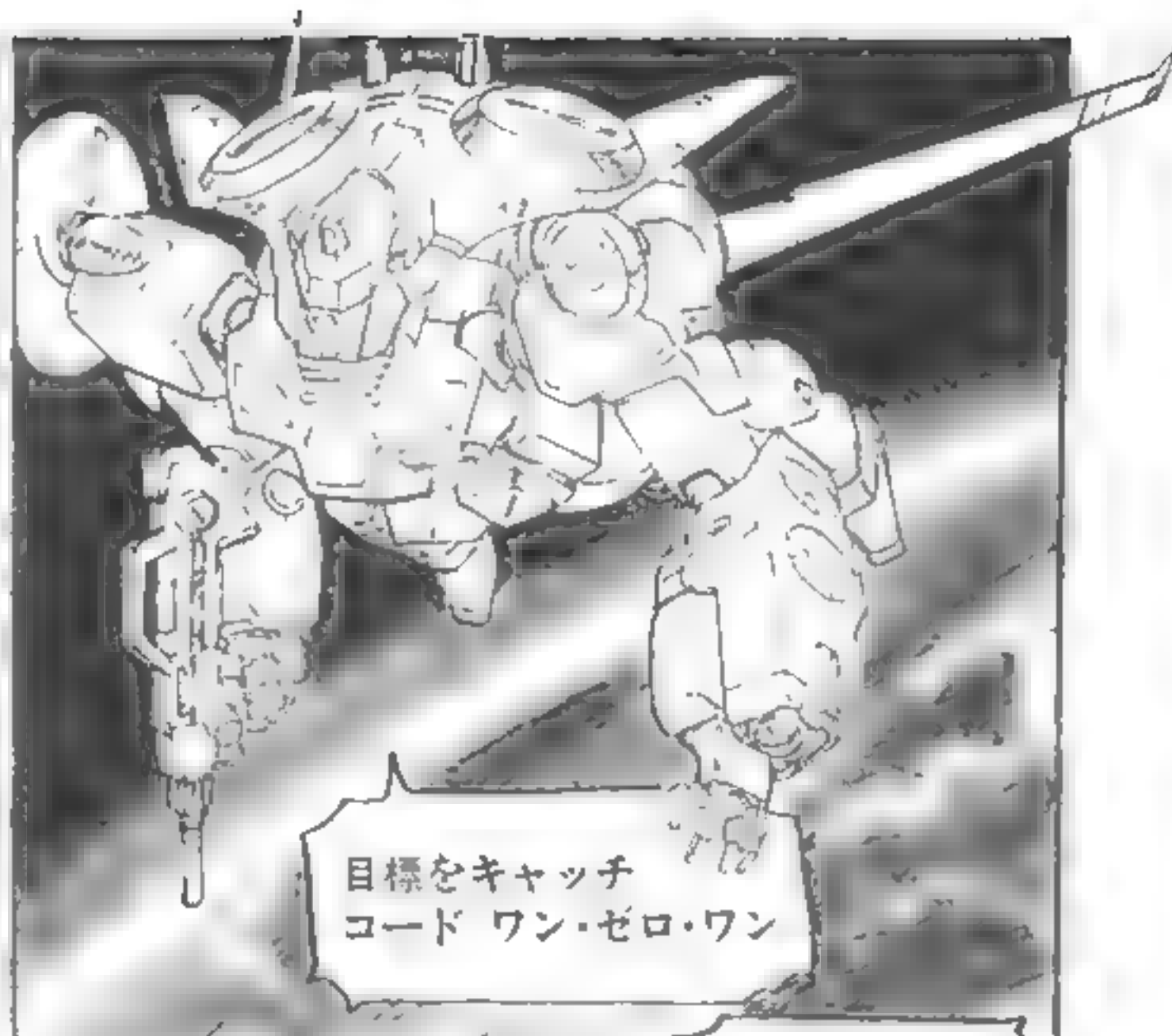
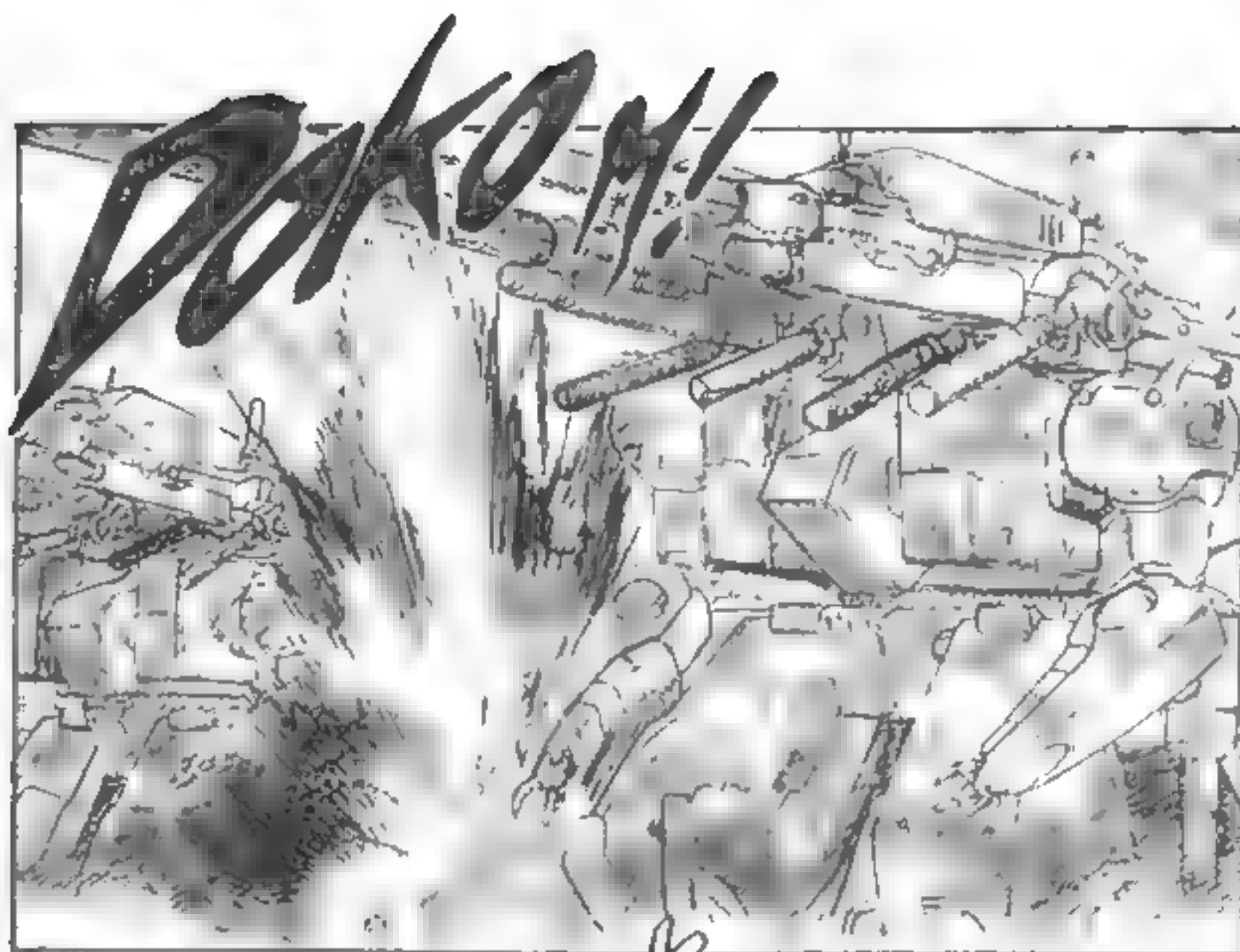
いつまで
そんな事して
んのよ!!



X-91 XC スティルスXC

NASAの研究機シリーズの最終型番がこのX-91 XC。次世代兵器の開発に力を入れていたNASAが、まったく新しい高機動、高性能、そして隠密性(スティルス)を備えた人型兵器を開発テストした。





ZION MOBILE SUIT

MAN-010 G-3 PMX-003 THE-0 ■ MS-106B HIZACK
MS-109A GOBLIN MS-09K DWADGE
MS-108G MARASAI AMS-119 GEARA DOGA
PMX-005 BREDA MSN-04B SAZABI
VPKW-005 STURM JAGUAR

BELL P-63C-51 KING COBRA

戦後、米海軍は来るべき超音速飛行時代に備えて後退翼の研究をベル社に依頼した。ベル社はその要請により、P-63C-51型2機を使用して、後退翼研究機を作った





イーグルⅠよりイーグルⅡへ
ジオンの連中は逃げ腰だ
あとはまかせたぞ

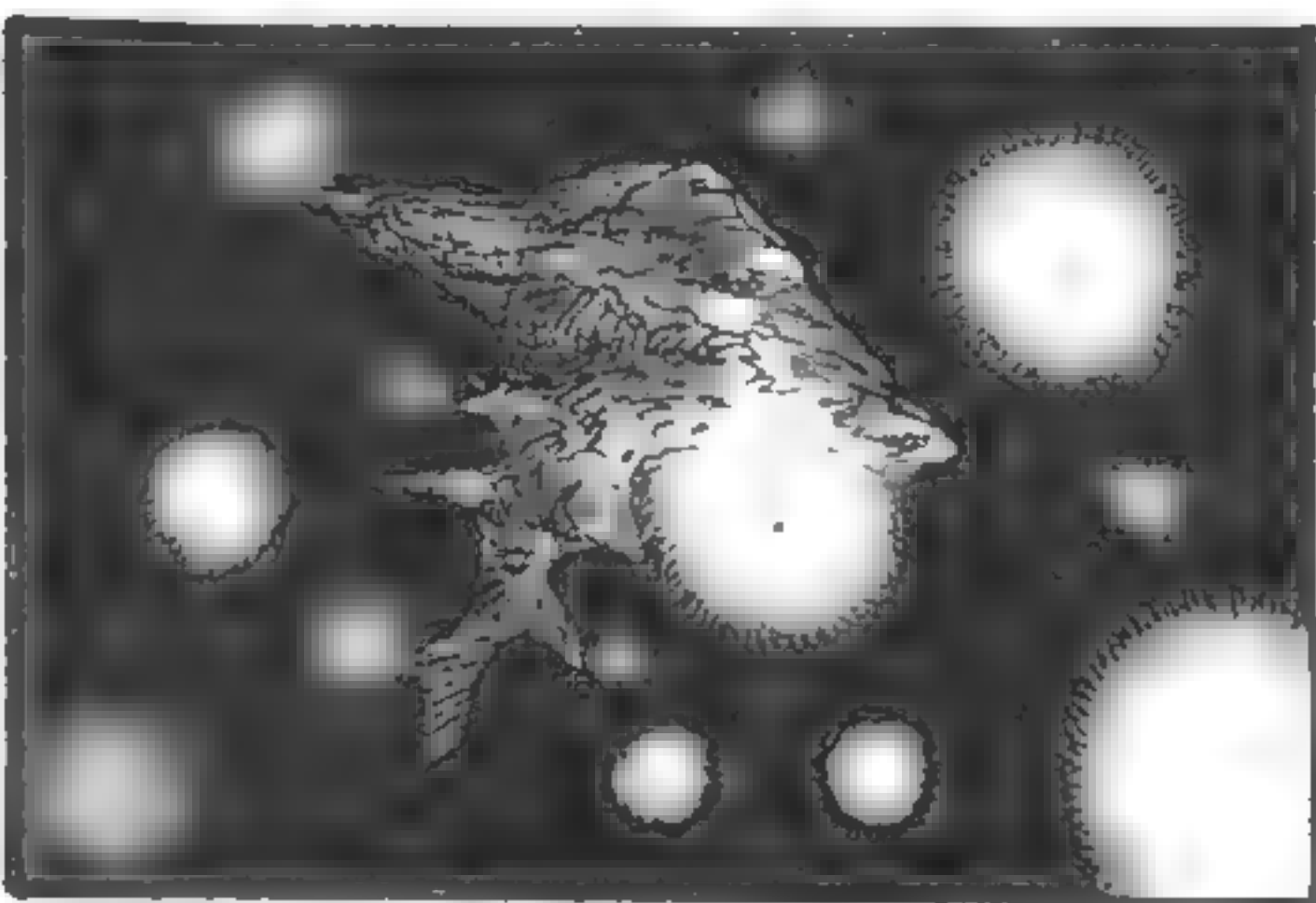
OK
フィナーレは
まかせろ



なんだ
こいつ



来な
すった
こりや
大きいぞ



フランキー
全弾撃ち
つくしたら
戦線を
離脱するぞ

しかたない
H G 弾に
切り換える

ビーム弾
じゃ歯が
たたん



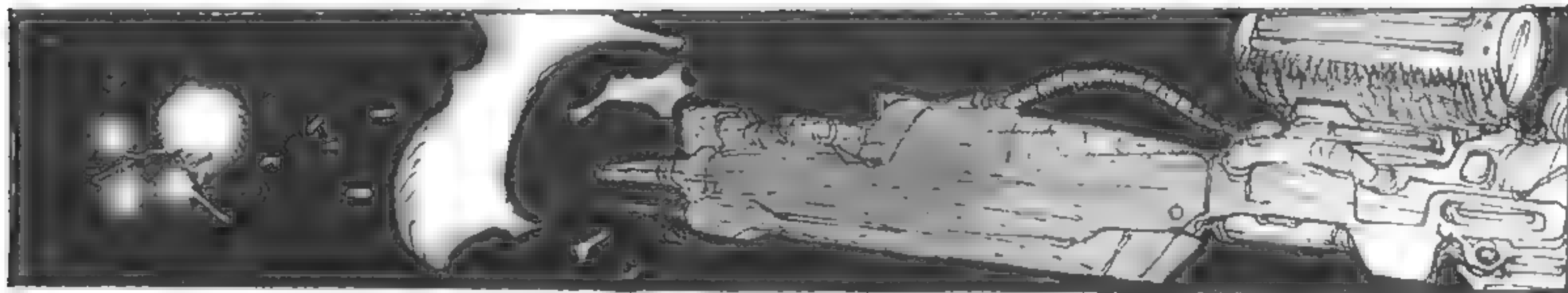
機体の周りに
エネルギー
偏向シールド
を張り
めぐらして
いやがる

セーフティロック
解除

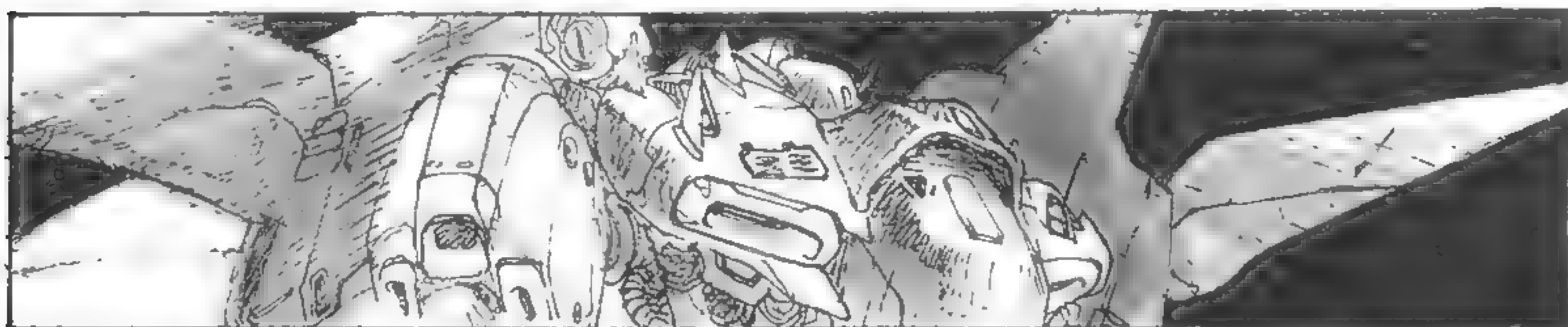
ROCK ON

FIRE

FN-201



よし
戦線を
離脱
する



ORIGINAL MECHANISM 2D&3D WORKS



ジオン公国軍トスル中将配下の3個師団を失ったソロモン戦役は、地球連邦軍側にとっても多大な犠牲を出した。戦闘から数週間たった現在、地球連邦軍は一日も早く宇宙でのジオン軍反乱作戦に備えて、要として運用出来るよう整備を急がせていた。しかし、警戒体制はまだ不十分と言えた。

OPERATION BURAN U.C.0079

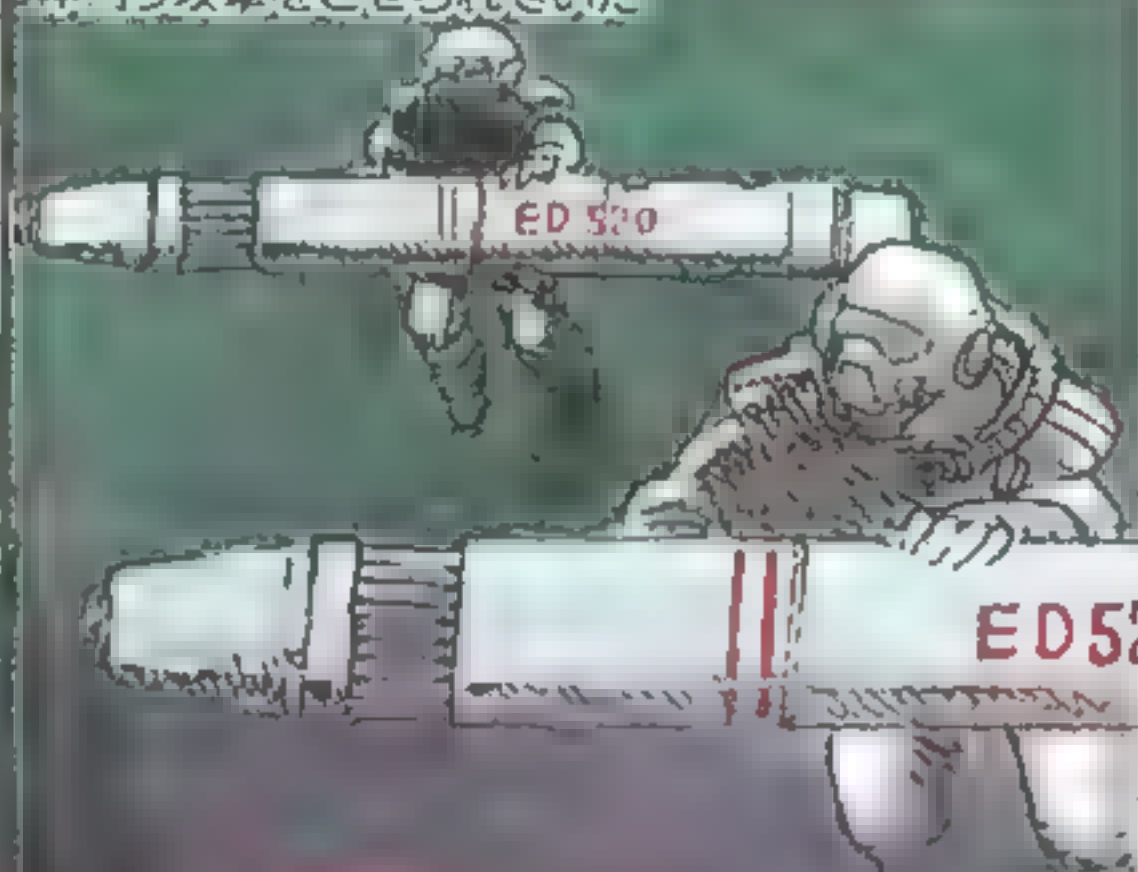
GOIKENMUYO FACTORY PRESENTS
PRODUCED BY KAZUHISA KONDO
DESIGN BY KAZUHISA KONDO
KAMATA
SENSEI AGENCY

しかしある日軍の人間が
俺に会いに来た奴の名はケイン
奴が言うにはソロモンでの戦況が
ジオン軍にとって不利になりつつある時
トスル中将の命により大型核ミサイルを
ある秘密のコンテナ・ベイに
避難させたという事らしい

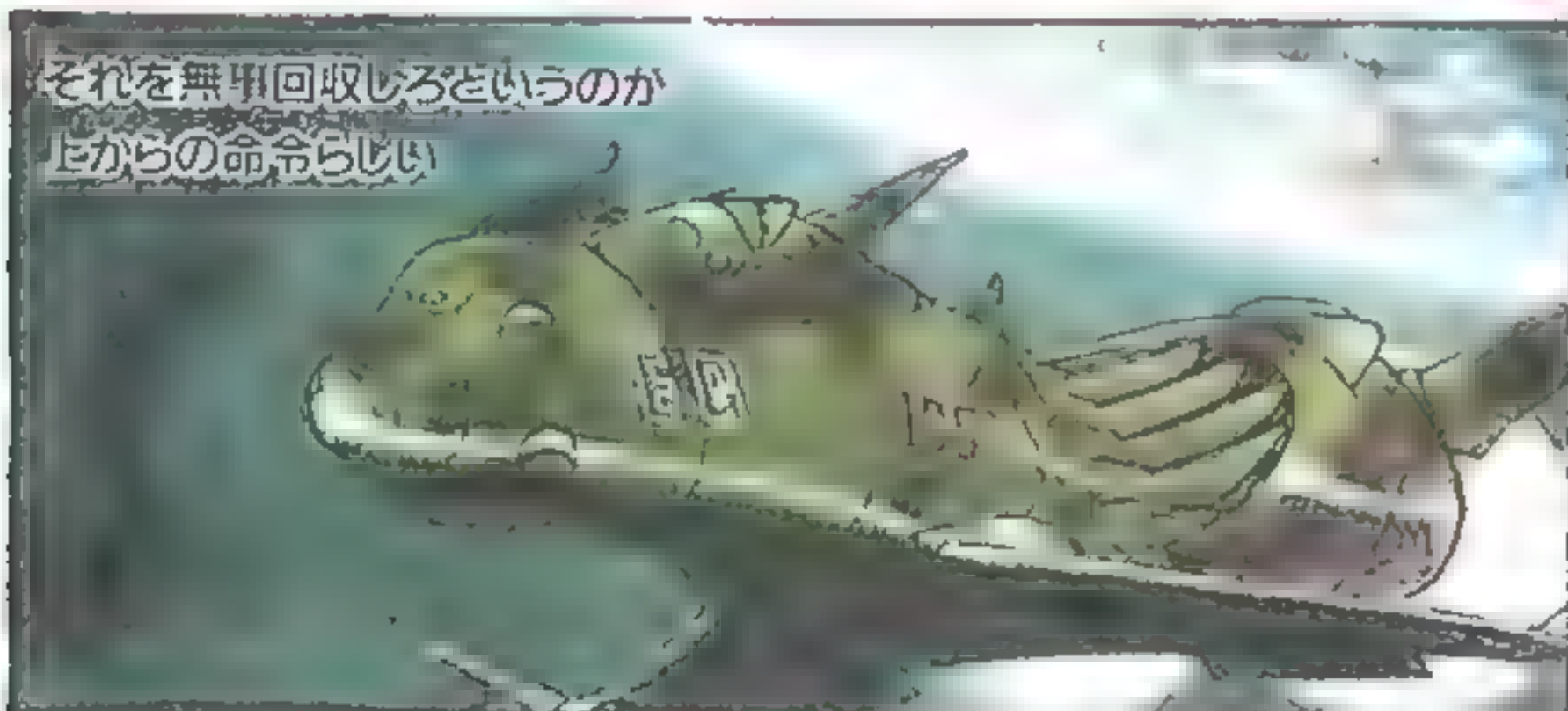


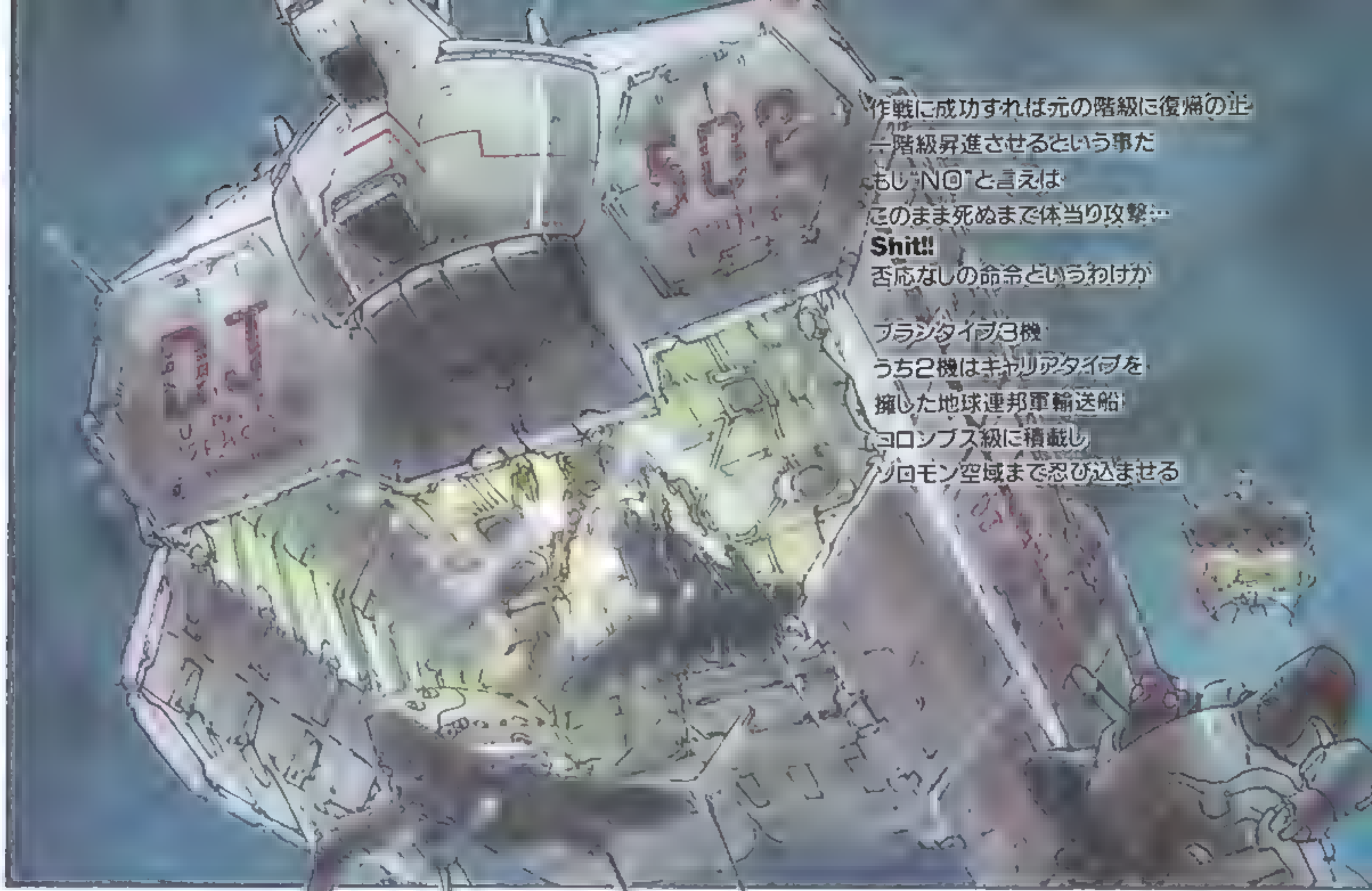
君に
幸運を持って
来てやったよ

俺の名はフレデリック・フォン・フラガン
ジオン第66突撃MS小隊隊長だ
しかし上官の無謀な死守命令を無視し部下を
敵包囲網の中から撤退させた事により指揮権を
剥奪され元部下とともにルナツー空域で
カトル搭載用ミサイルにまたがり敵MS・宇宙艦艇に
体当たり攻撃をさせられていた



それを無事回収しろというのが
上からの命令らしい





作戦に成功すれば元の階級に復帰の上
一階級昇進させるという事だ
もし「NO」と言えば
このまま死ぬまで体当たり攻撃…

Shit!!

否応なしの命令というわけか

ブラシタイプ3機

うち2機はキャリアタイプを

擁した地球連邦軍輸送船

コロンブス級に積載し

ソロモン空域まで忍び込ませる



俺達には
MSは
無いのか？



新型MSブレッタとゲルグ、ゴブリン
陸戦用だが君等ならうまく使えよう
では健闘を祈るよブラウン大尉
「Shit!!」



キャリアタイプには
2機ずつのシュトルム・
イエーガーを装備
これら陽動部隊が
敵の目を引きつけて
いる間に俺達が核を
奪取する手はずだ





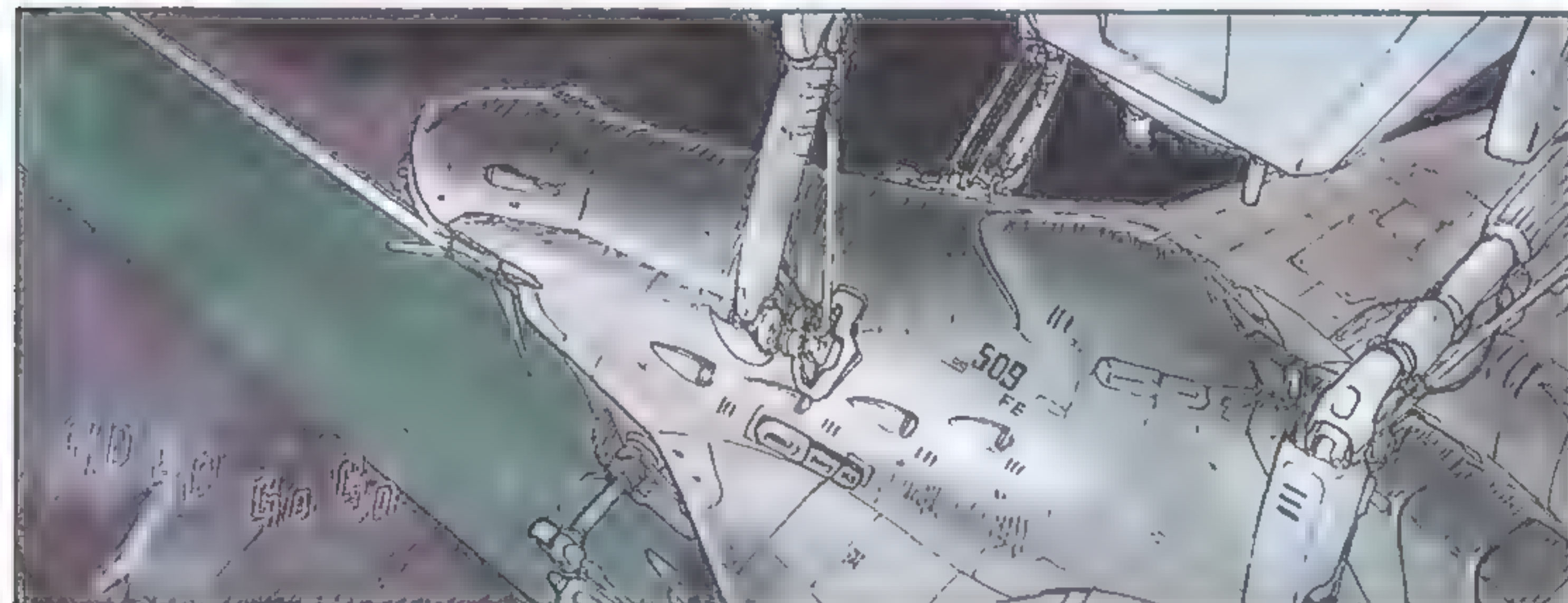
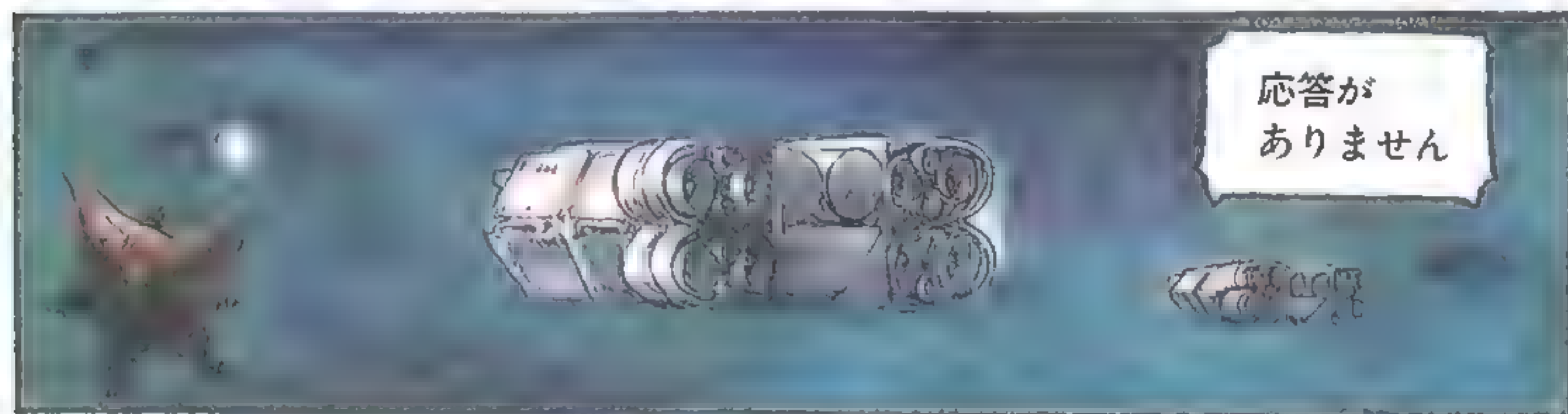
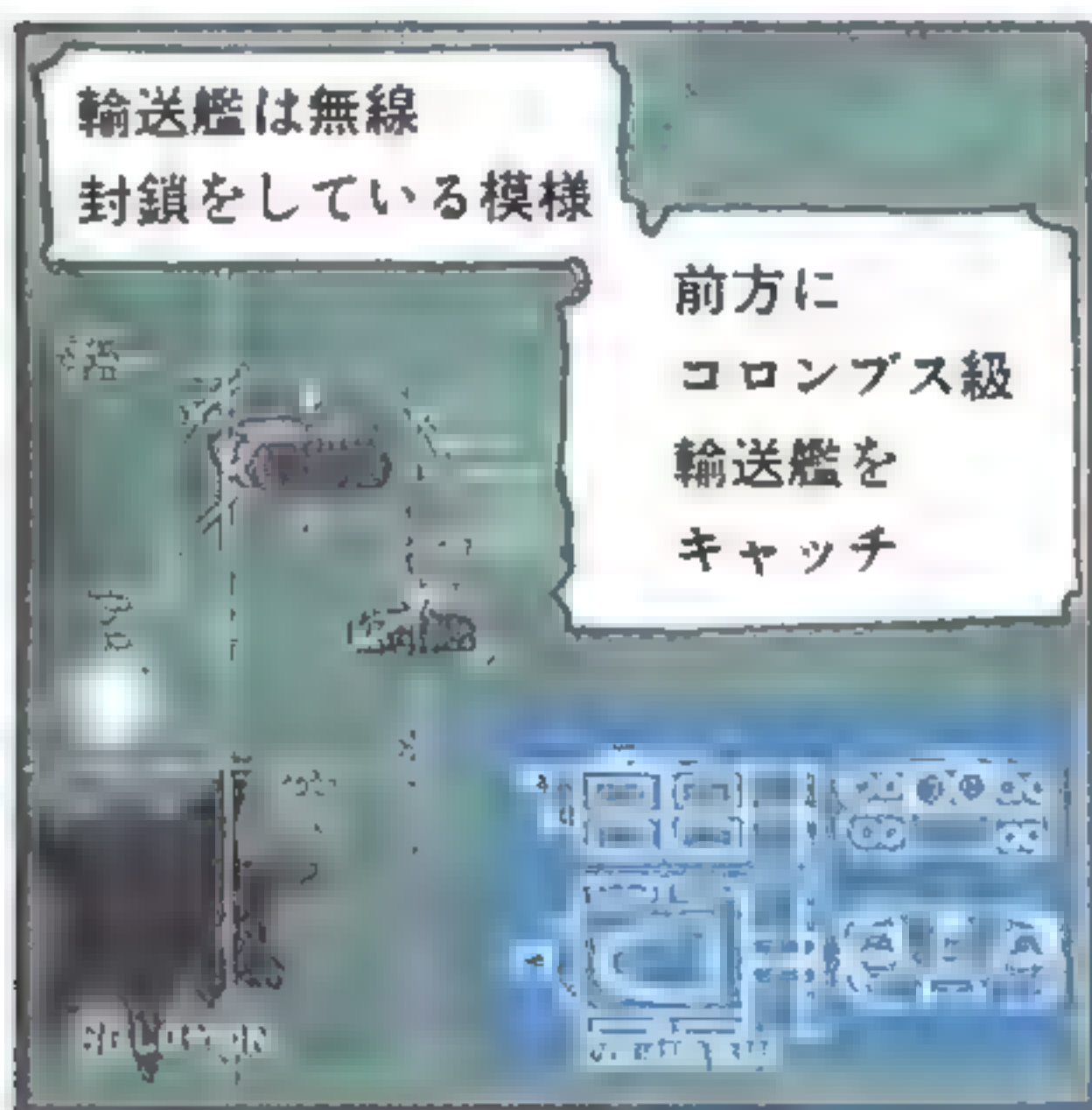
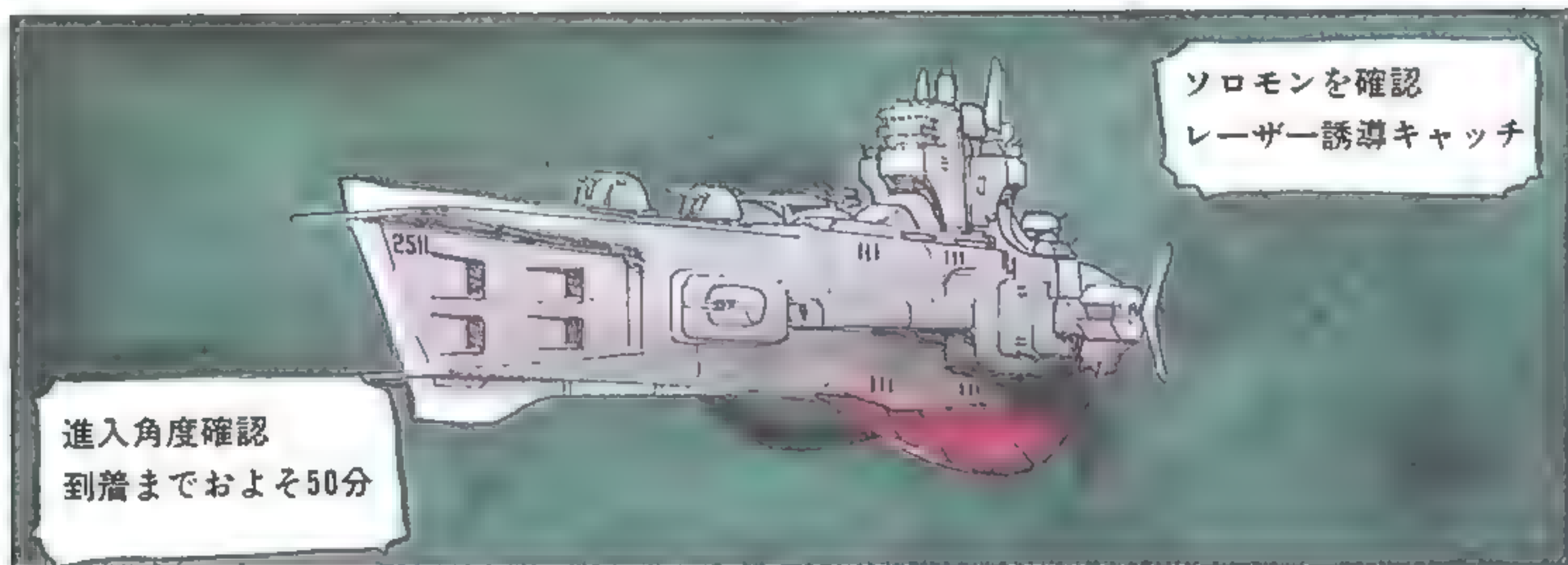
「これがブランか、大きいな。まるで
宇宙船じゃないか」

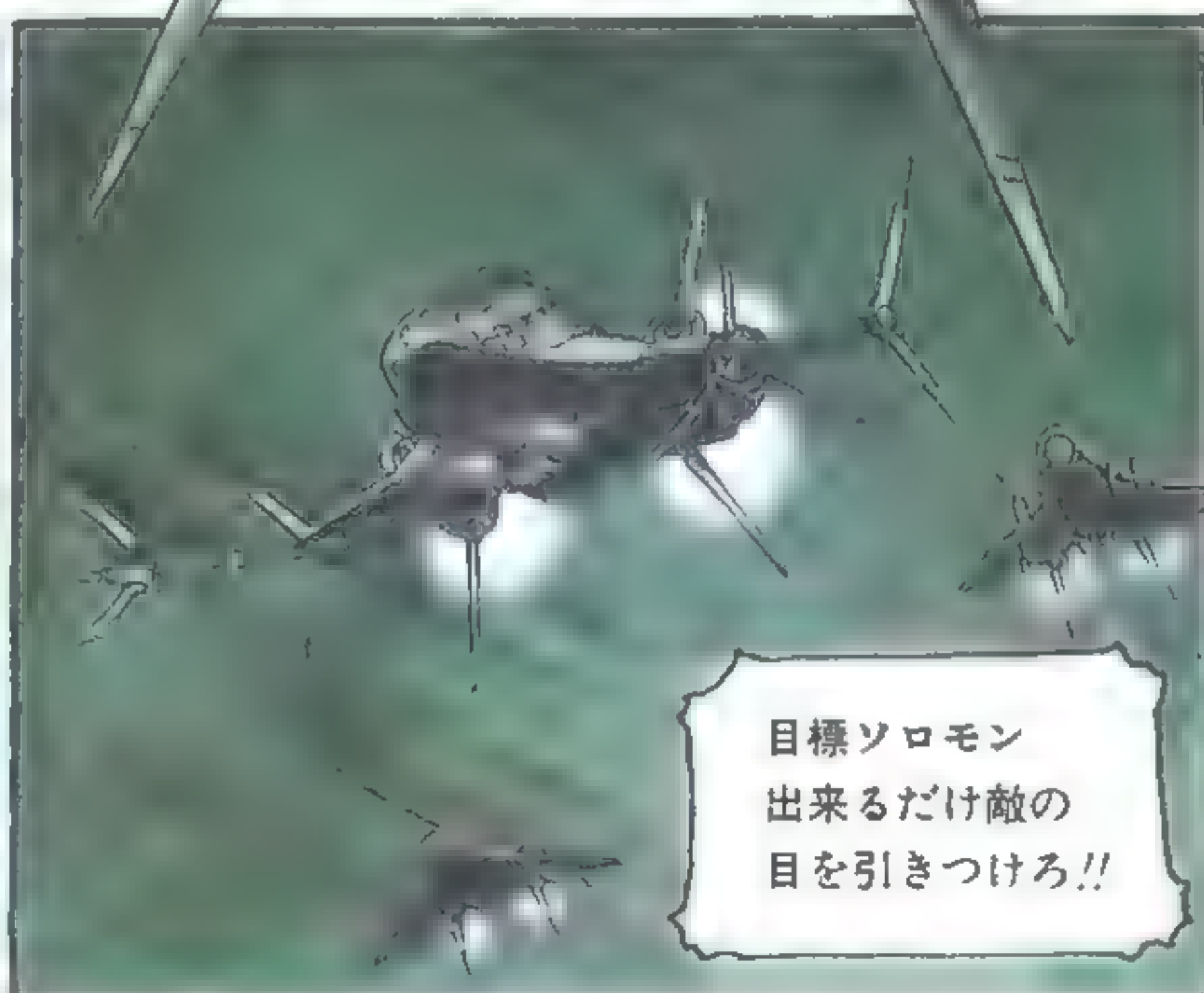
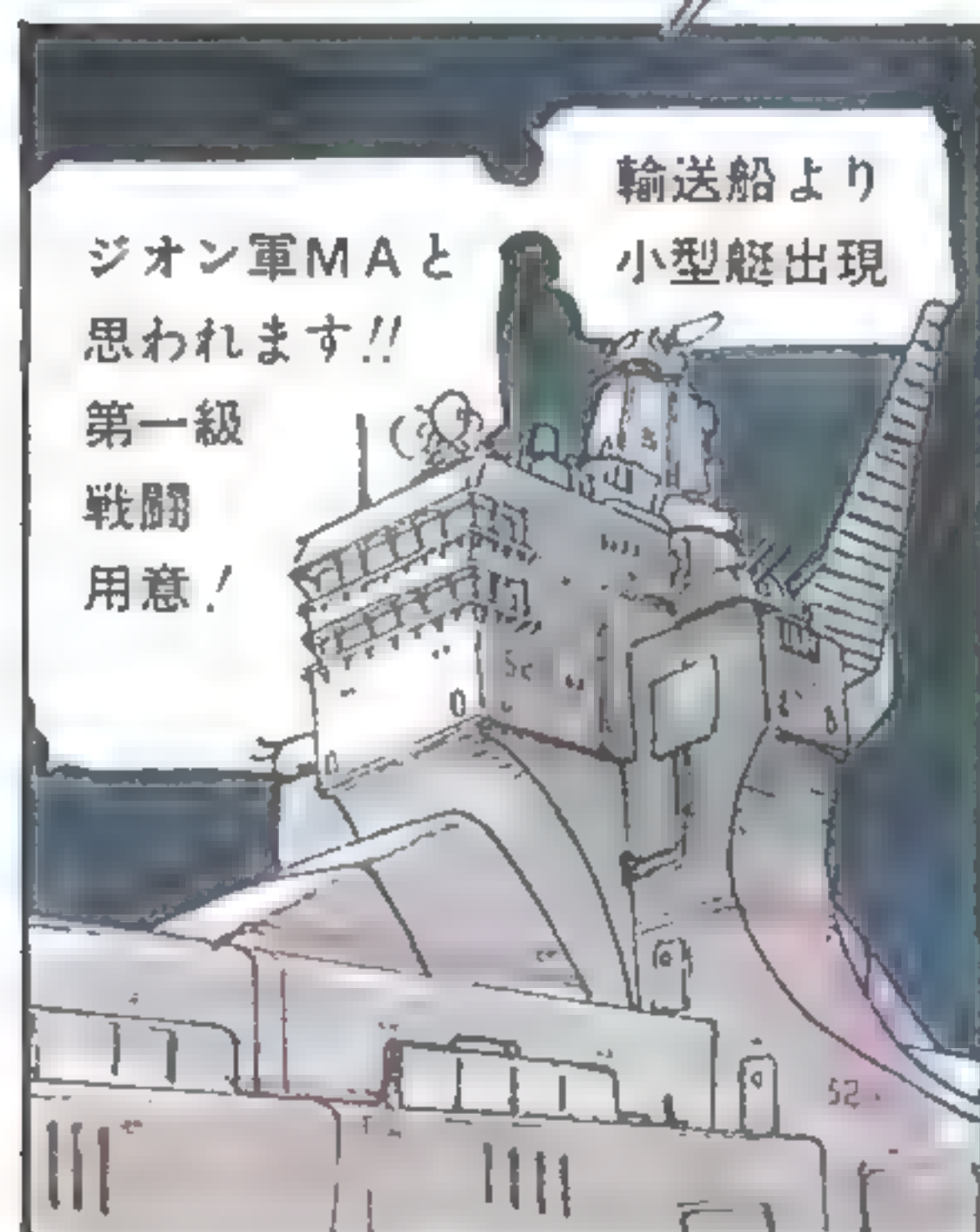
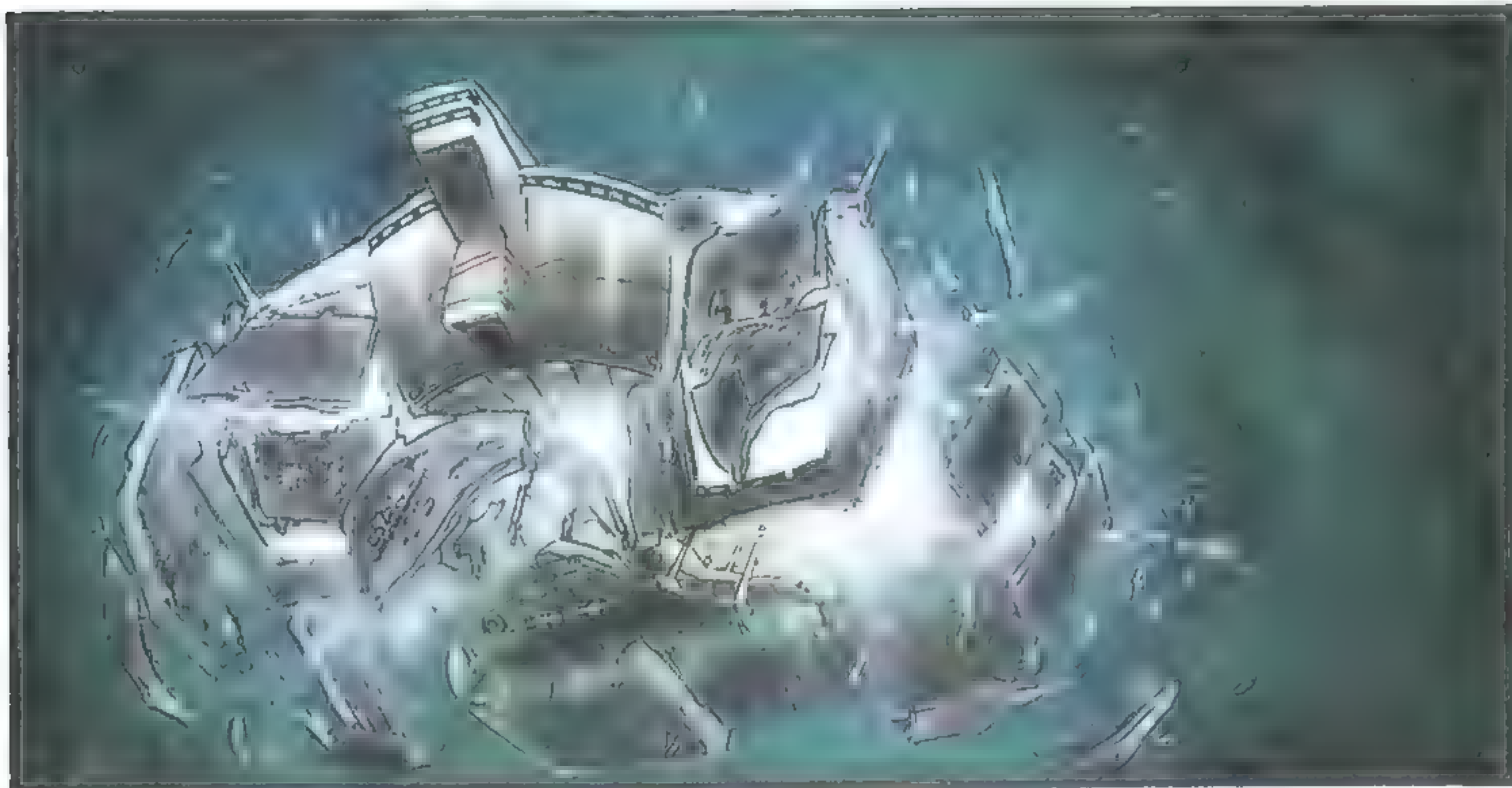
「まあ戦闘力は戦艦なみだが、機動力は
こっちの方が上だろうな」

「こんなデカイのでソロモンへ
乗り込めと言うのか？」

「いや、こいつは敵の目を引きつける
ための陽動作戦用だ」









後方から
サラムスが
攻撃して
来ます

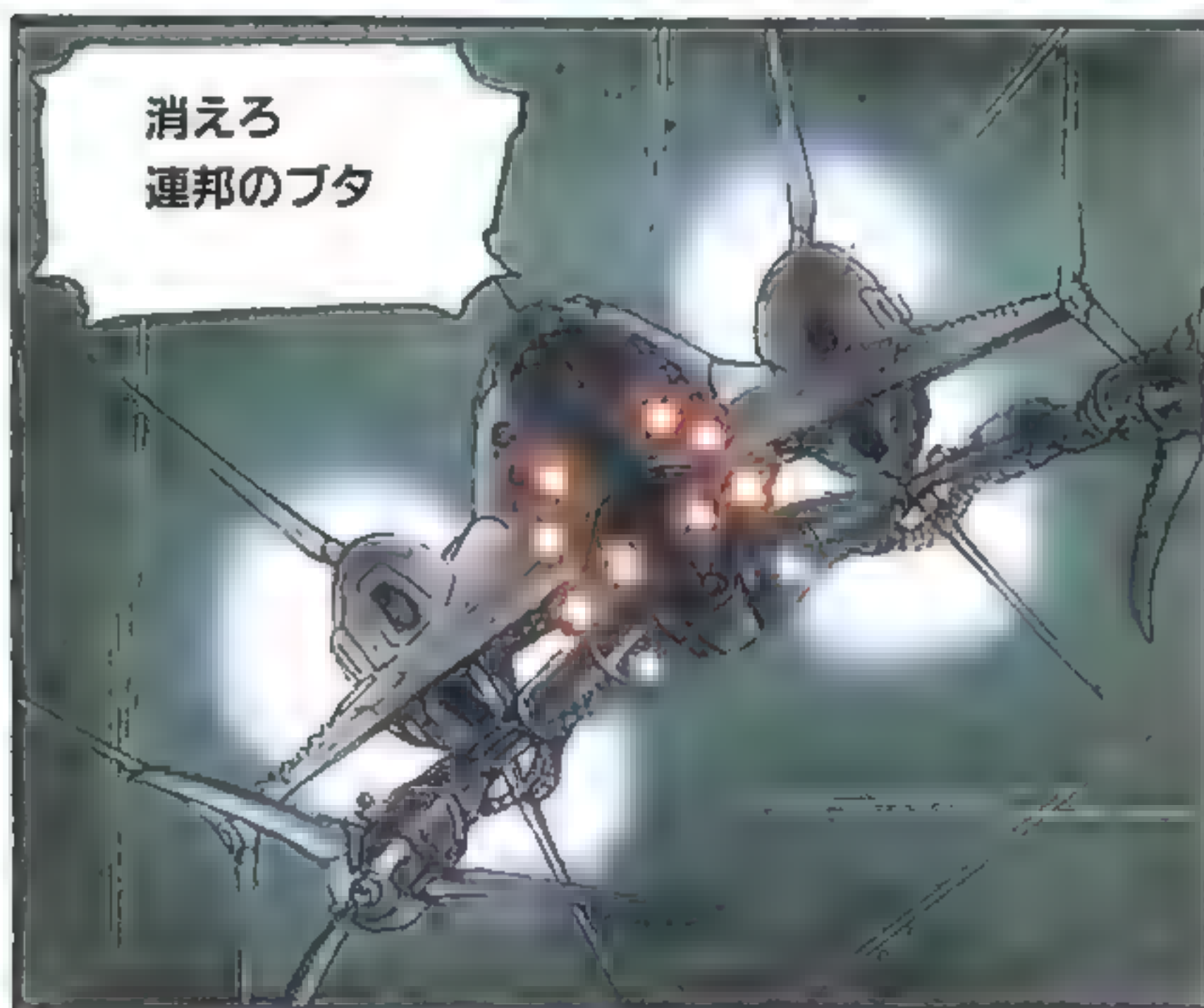


よし俺たちも
行くぞ

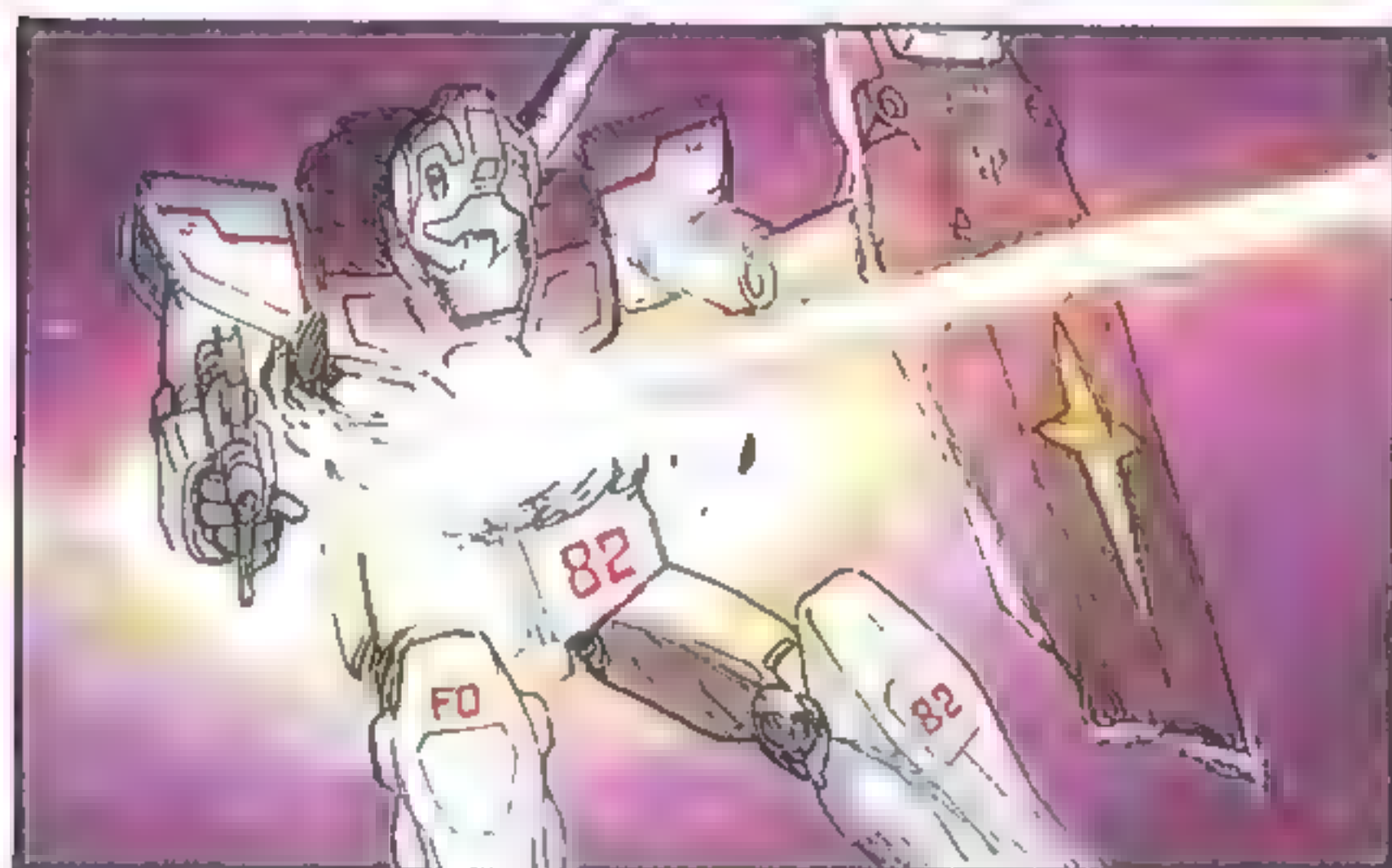


かまうな

任務遂行
にのみ
気を払え



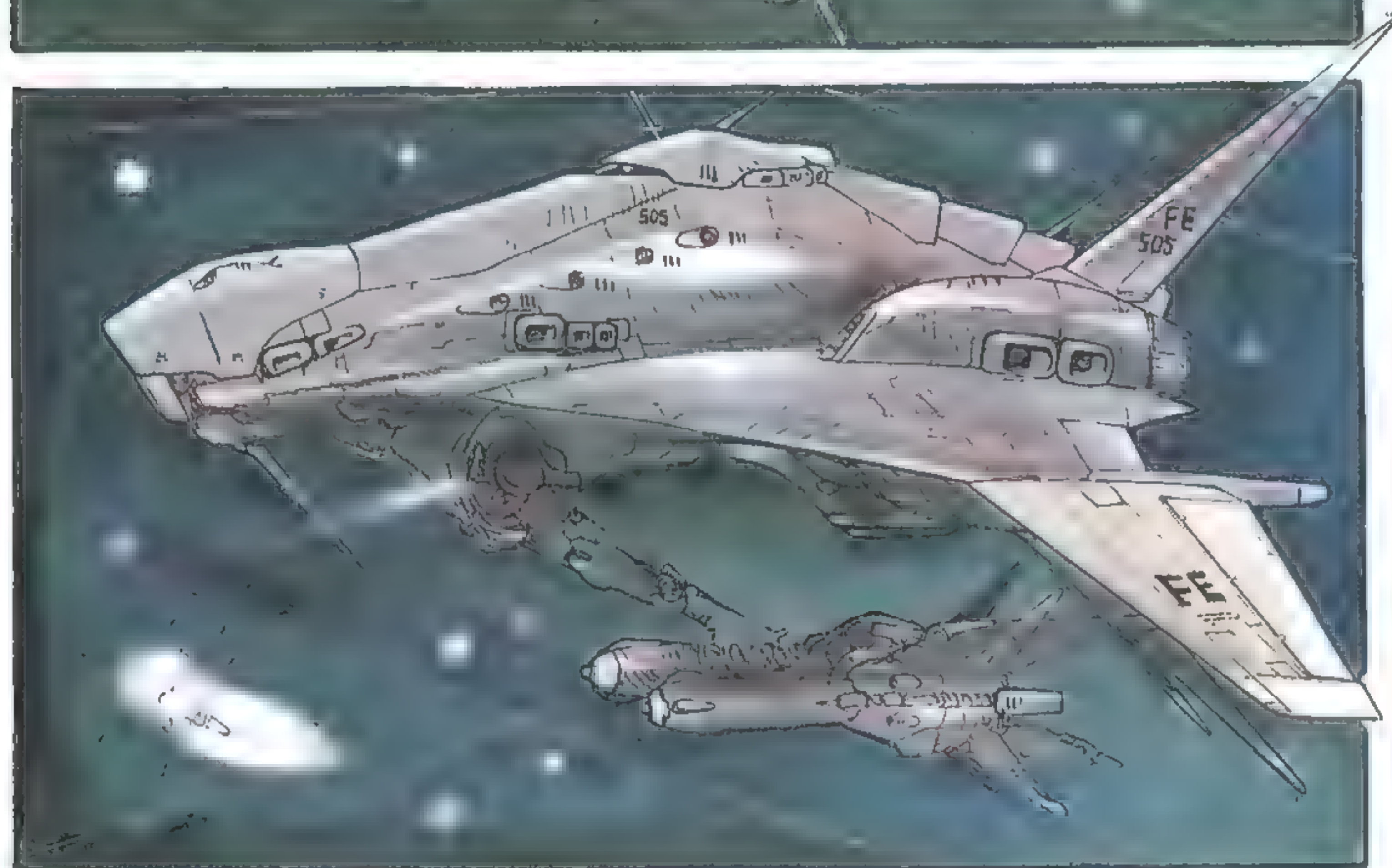
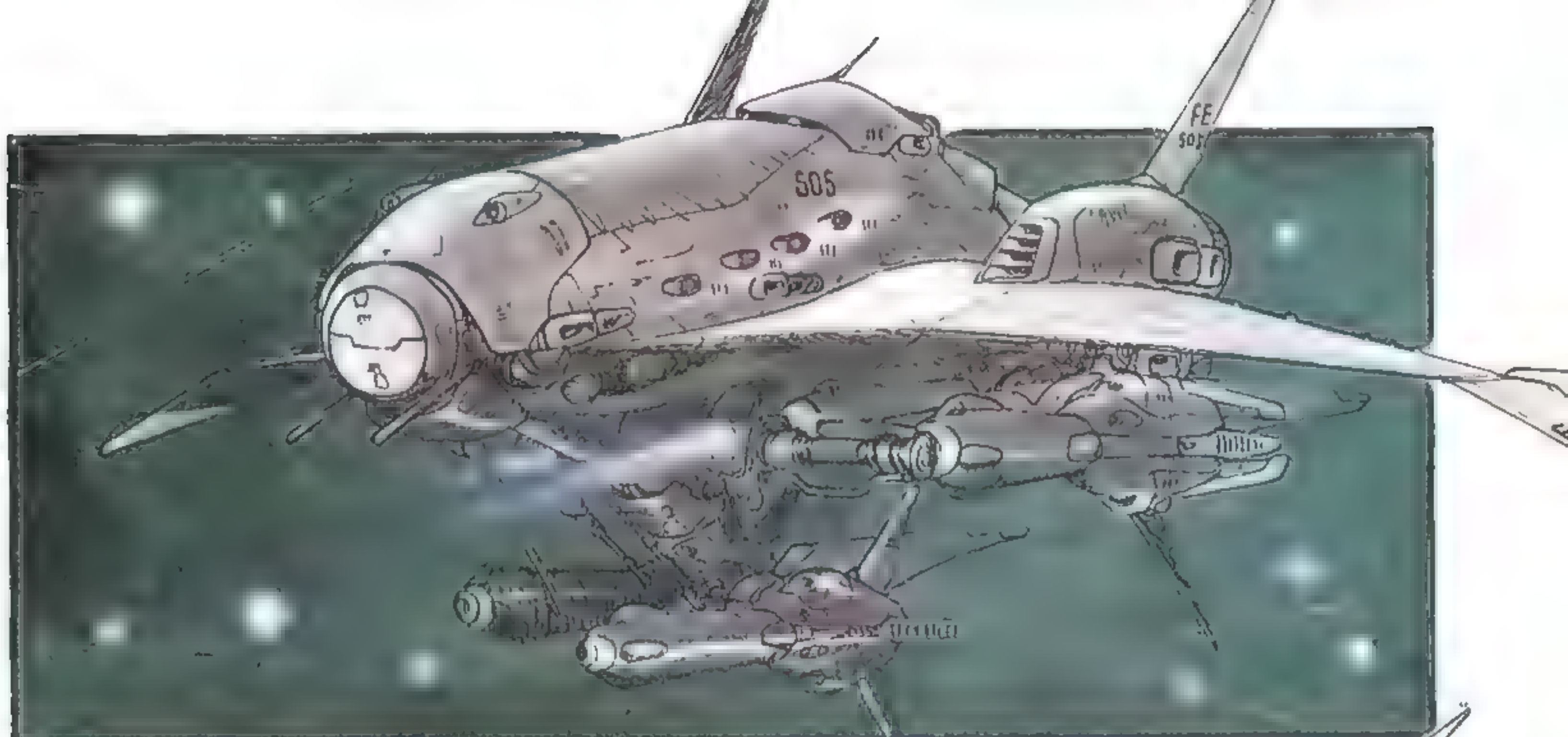
消えろ
連邦のブタ

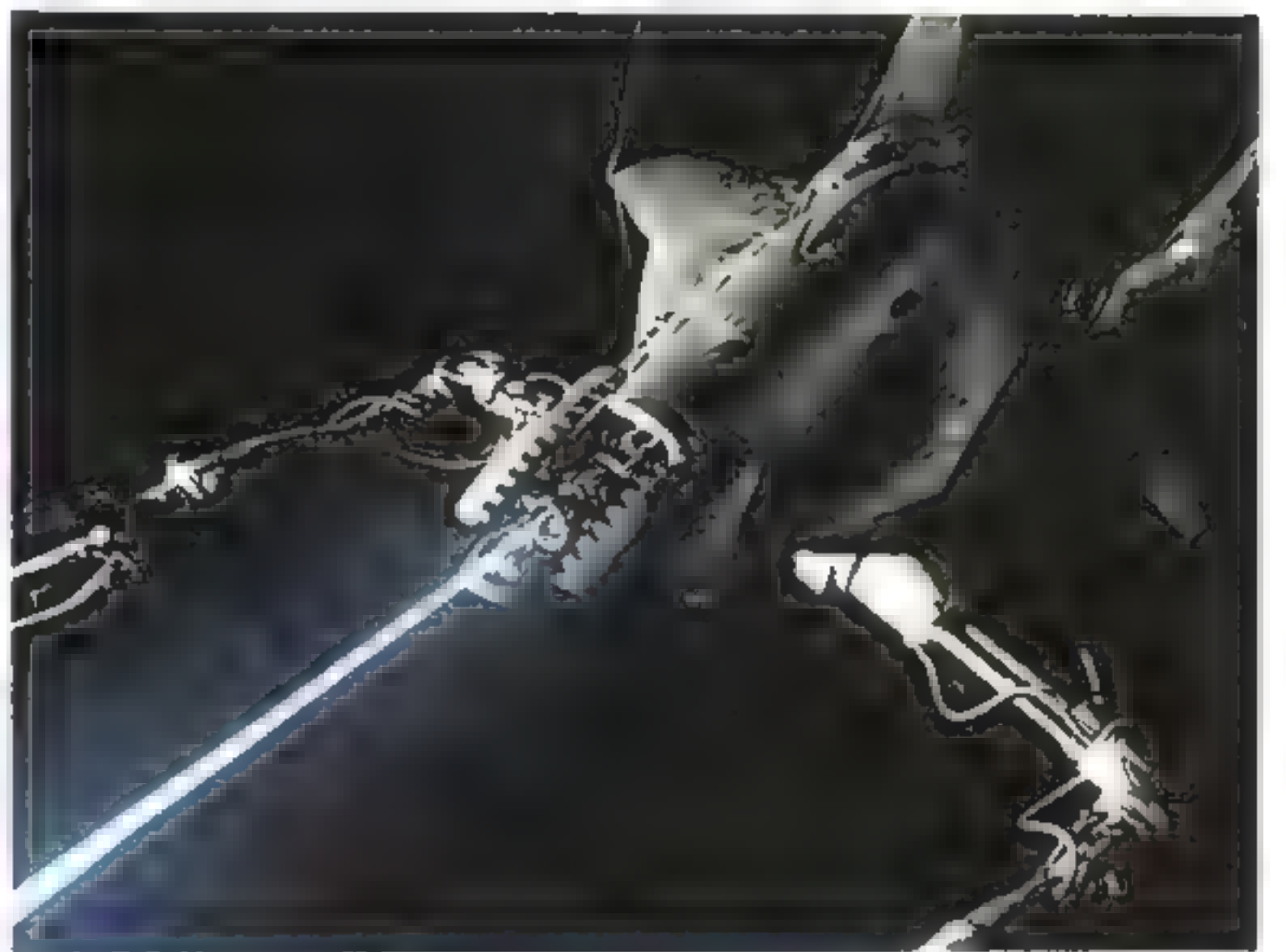
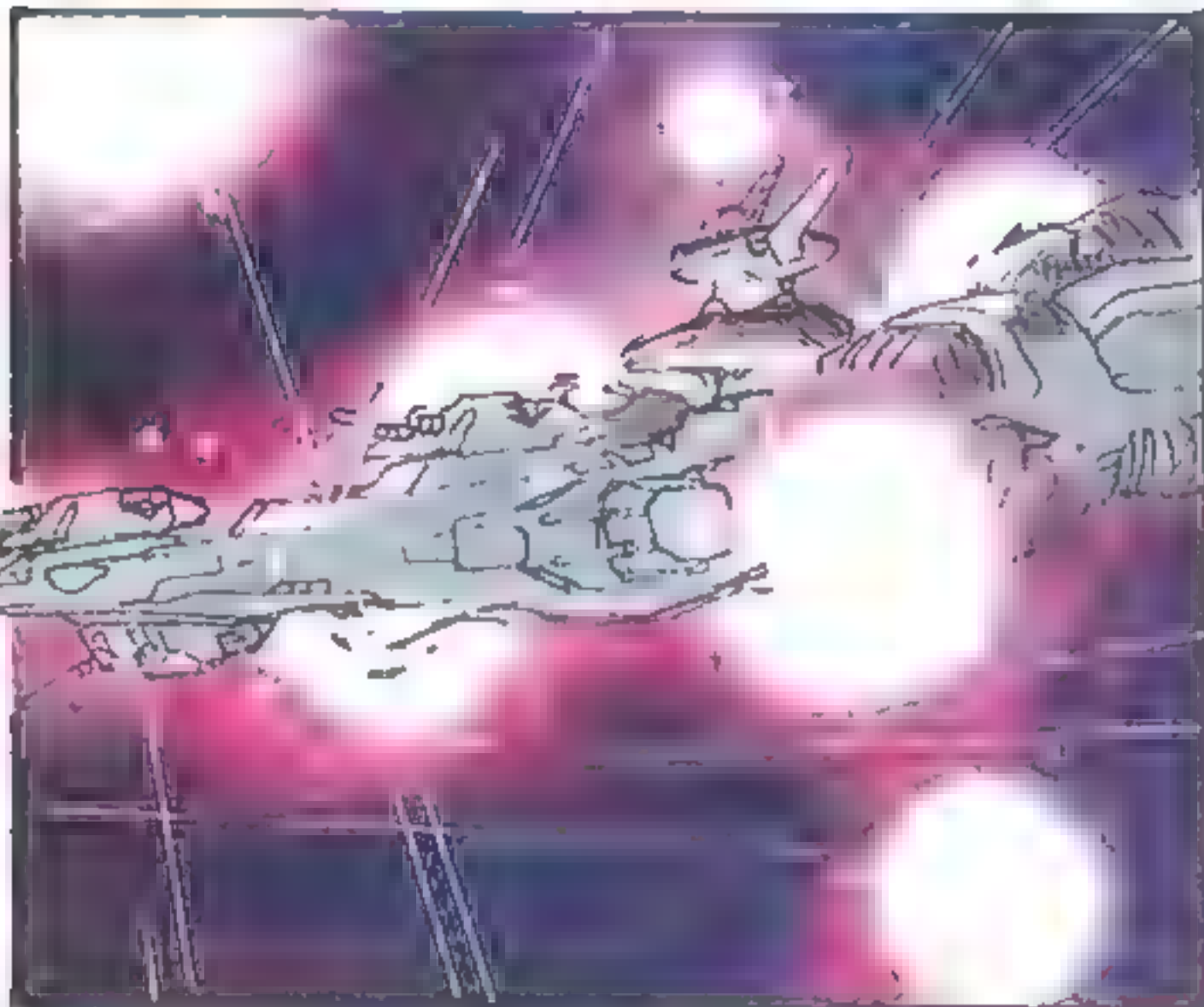
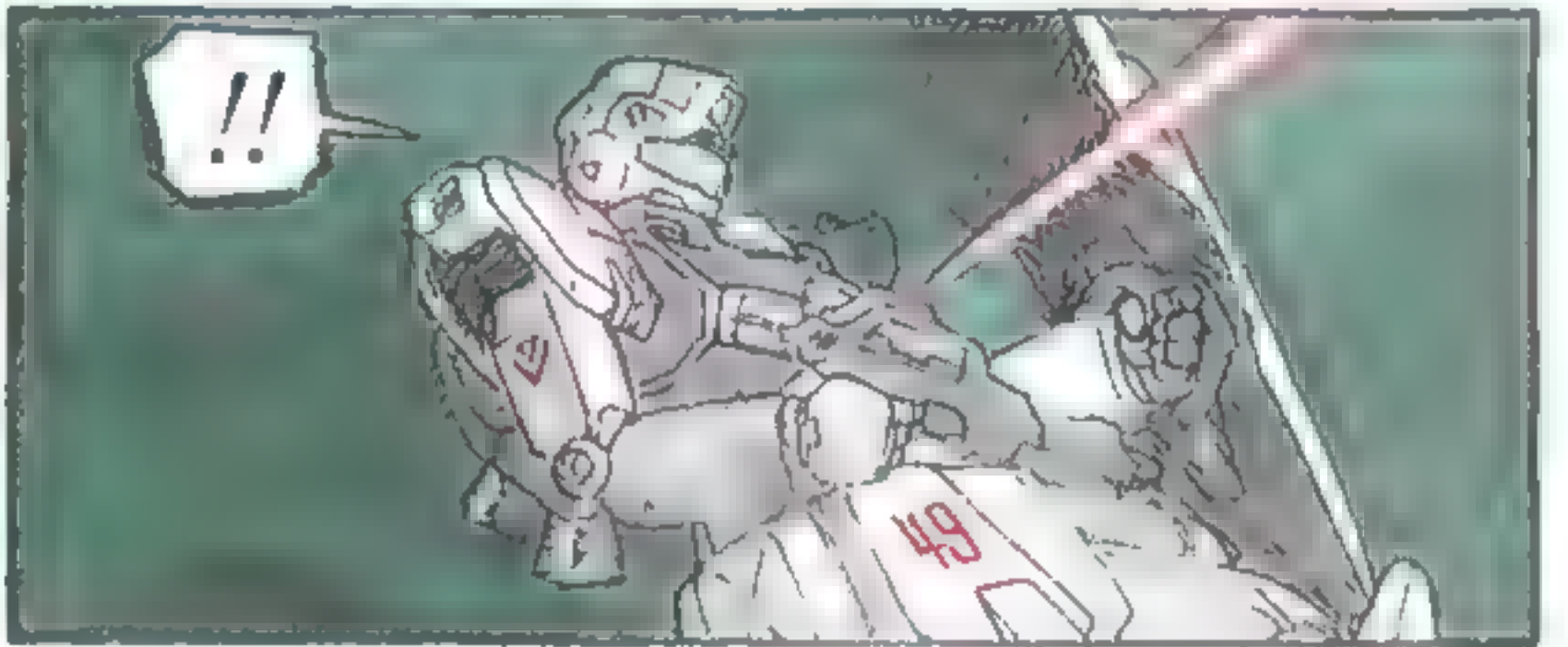
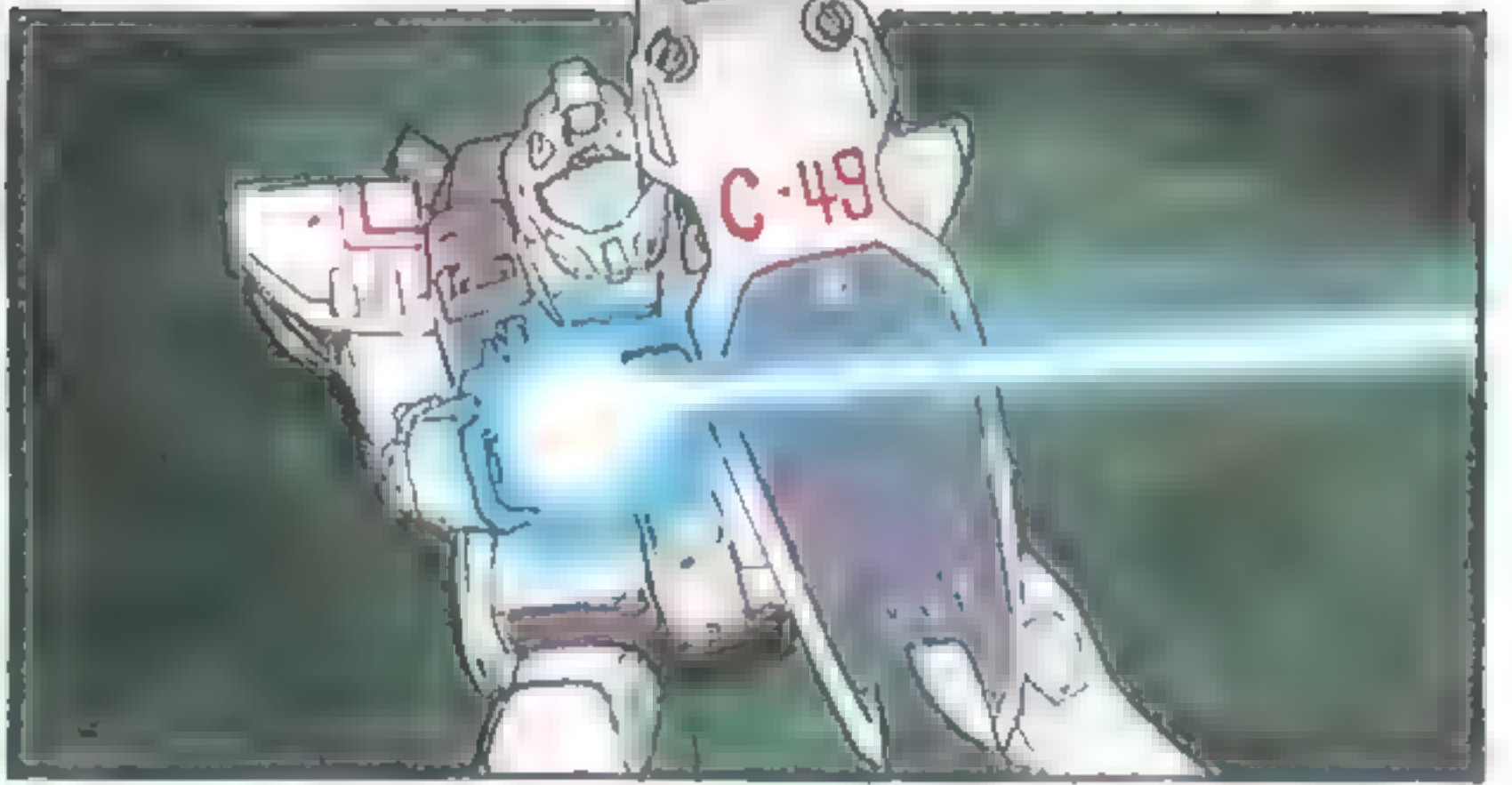


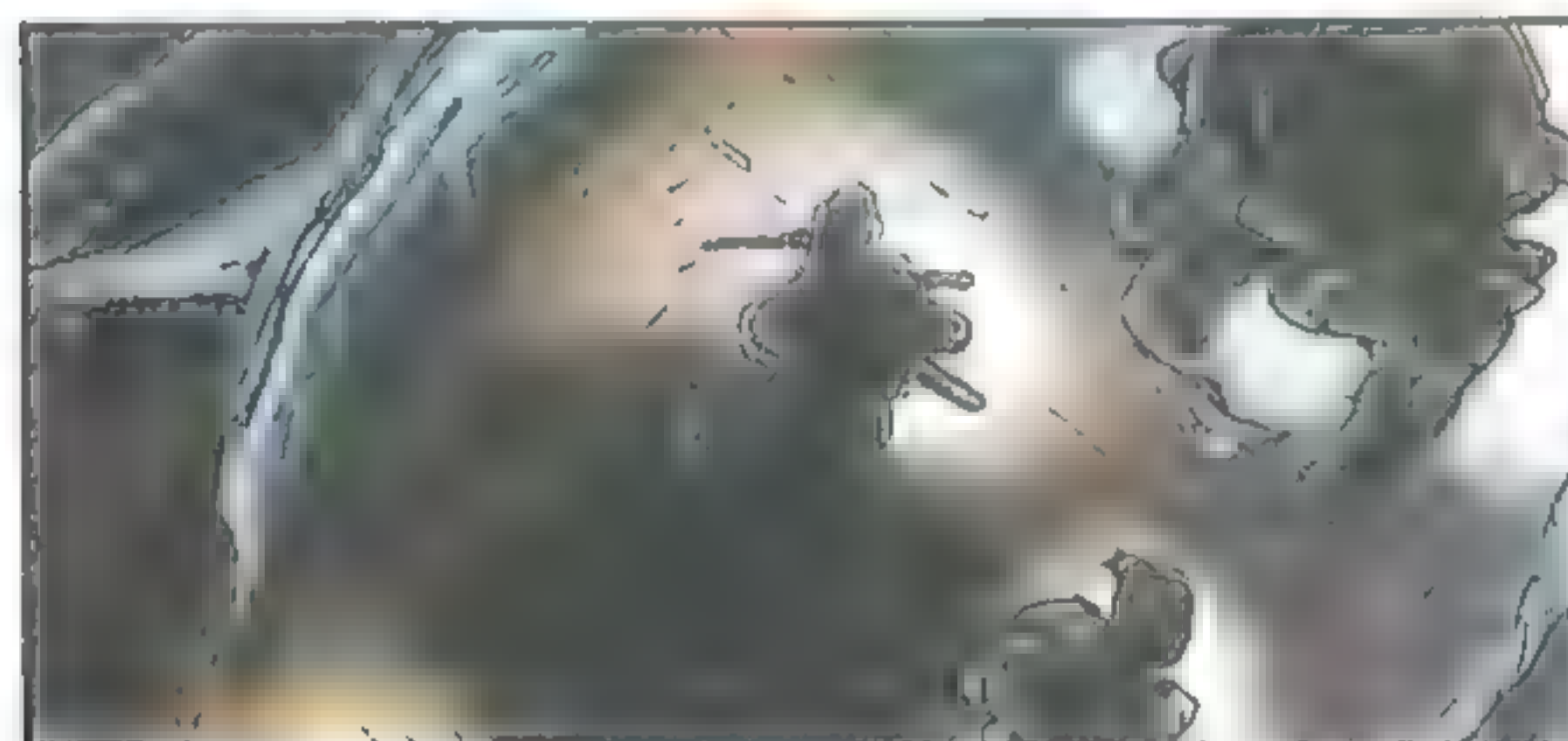
82

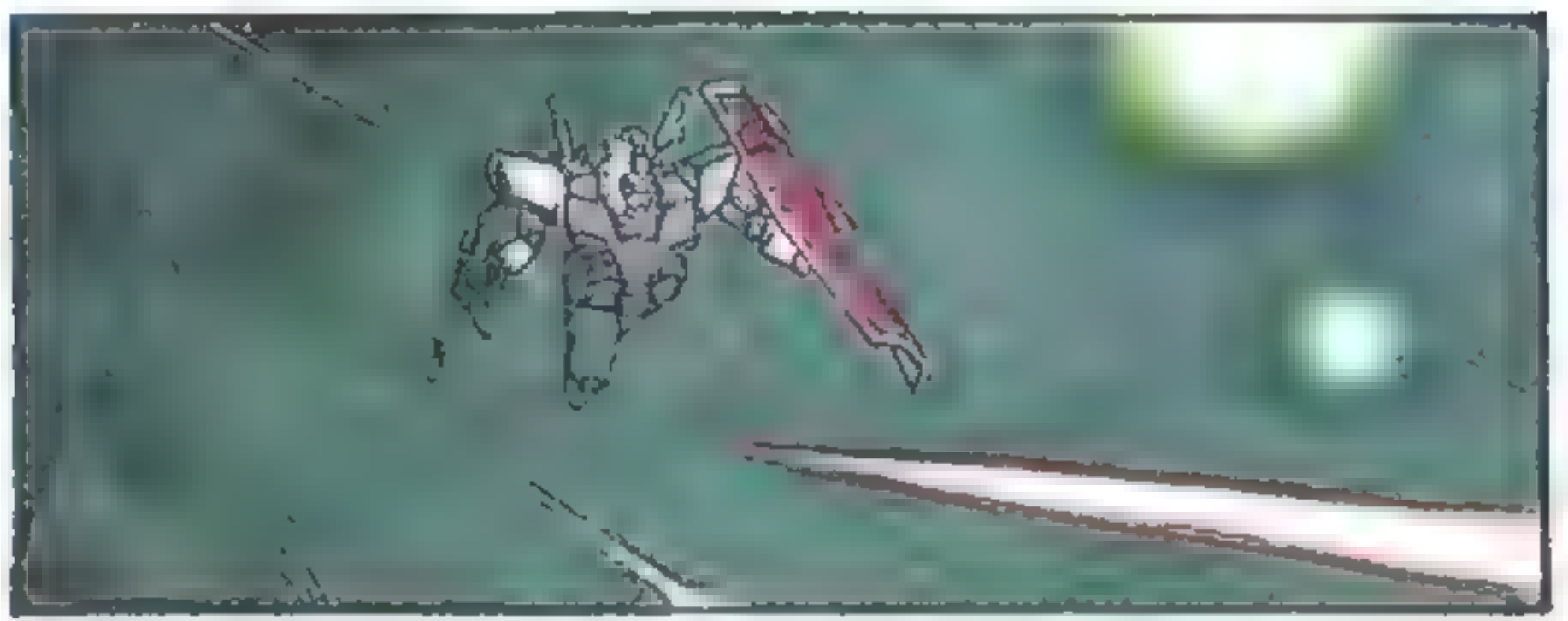
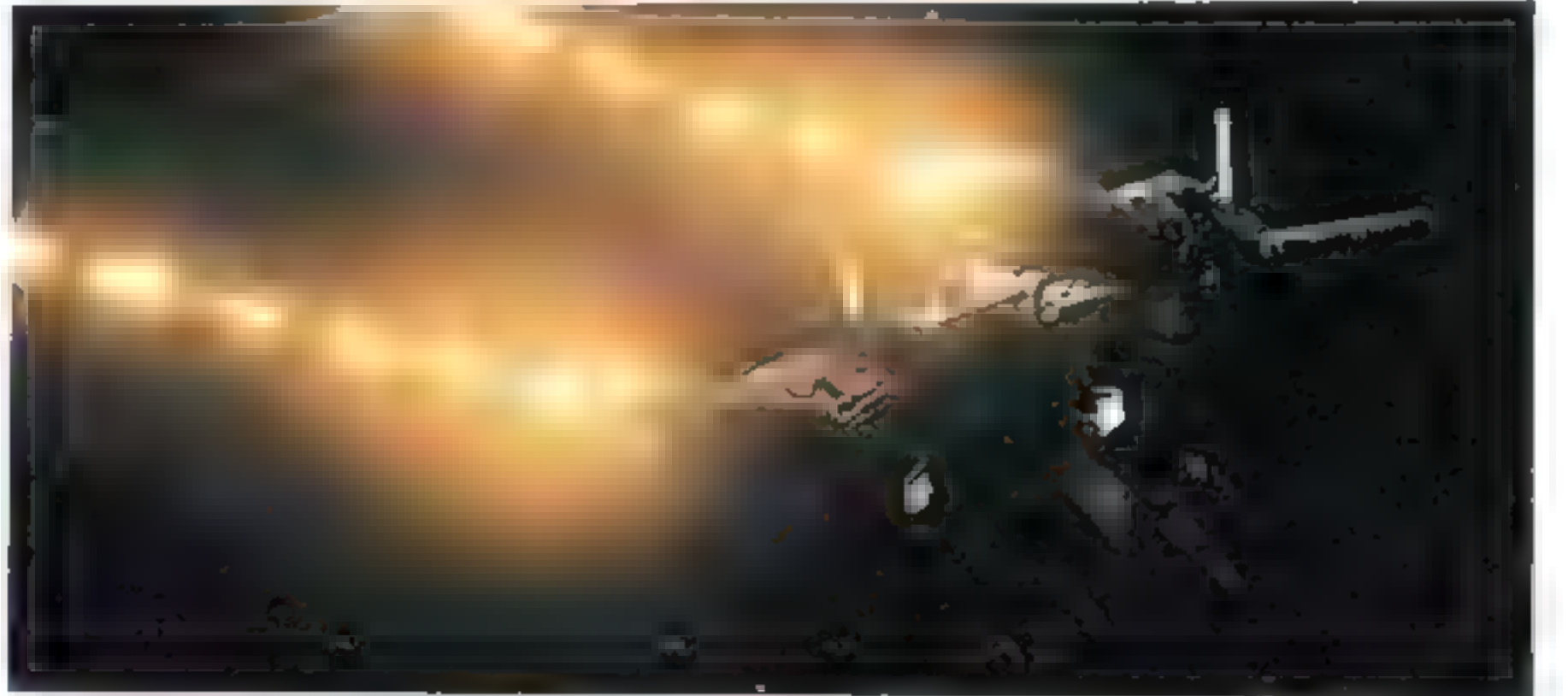
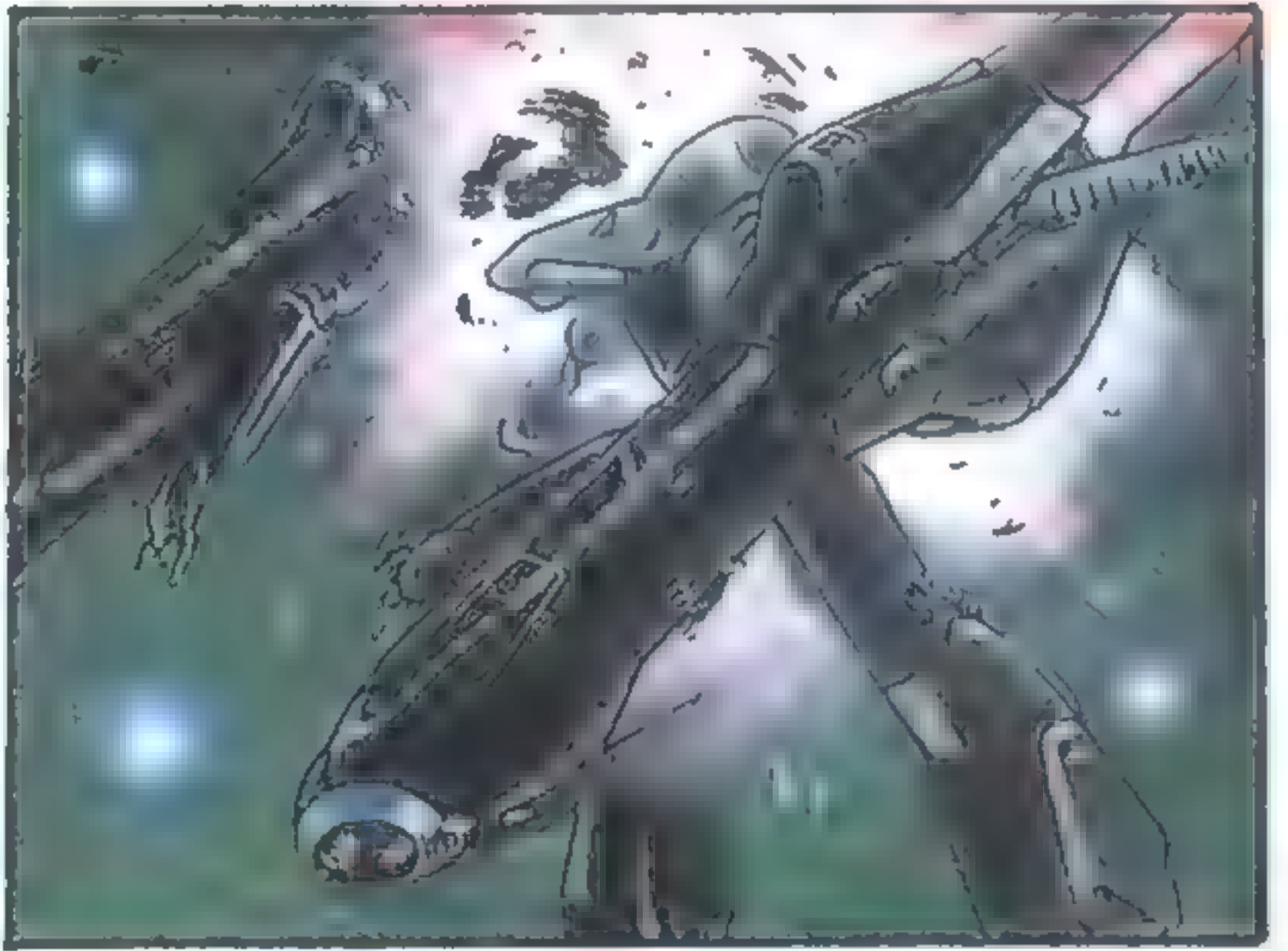
FO

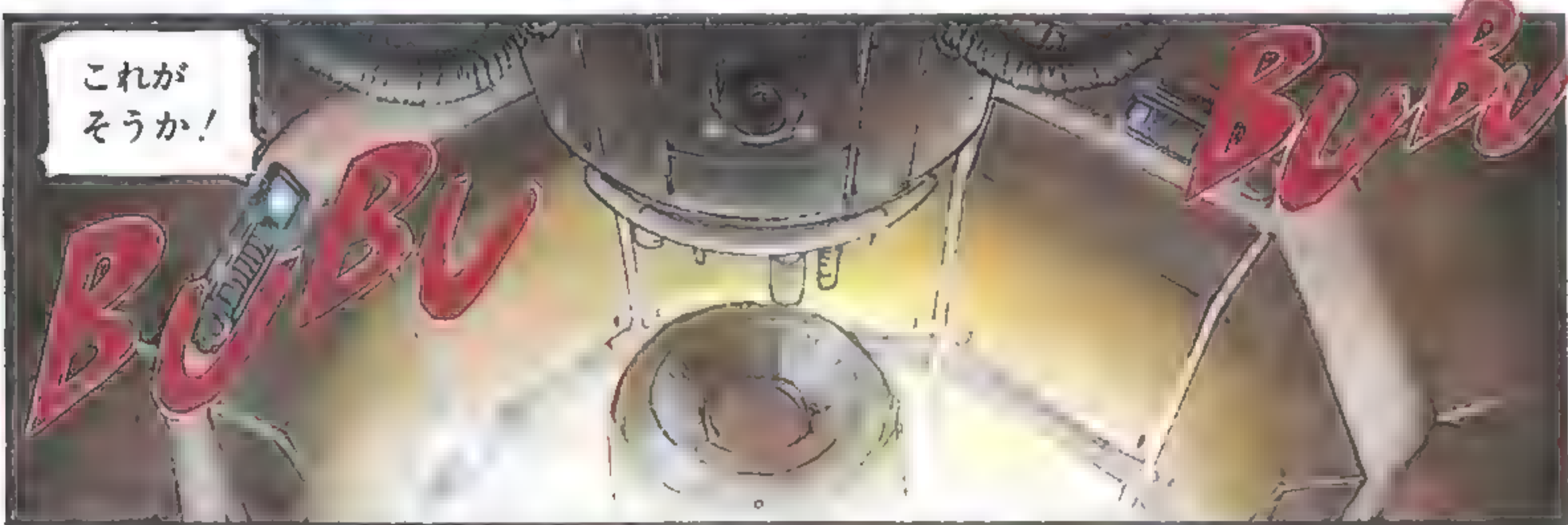
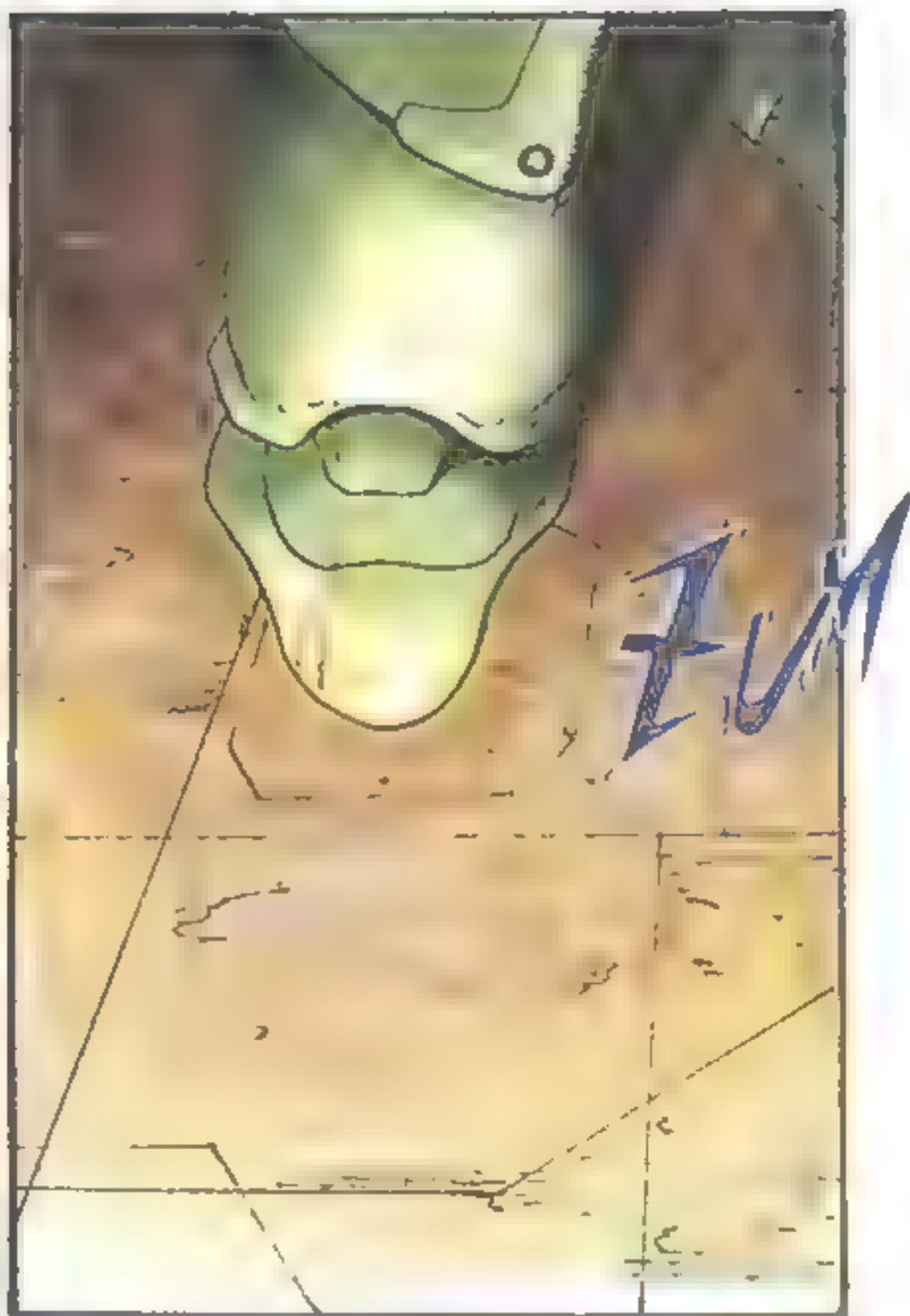
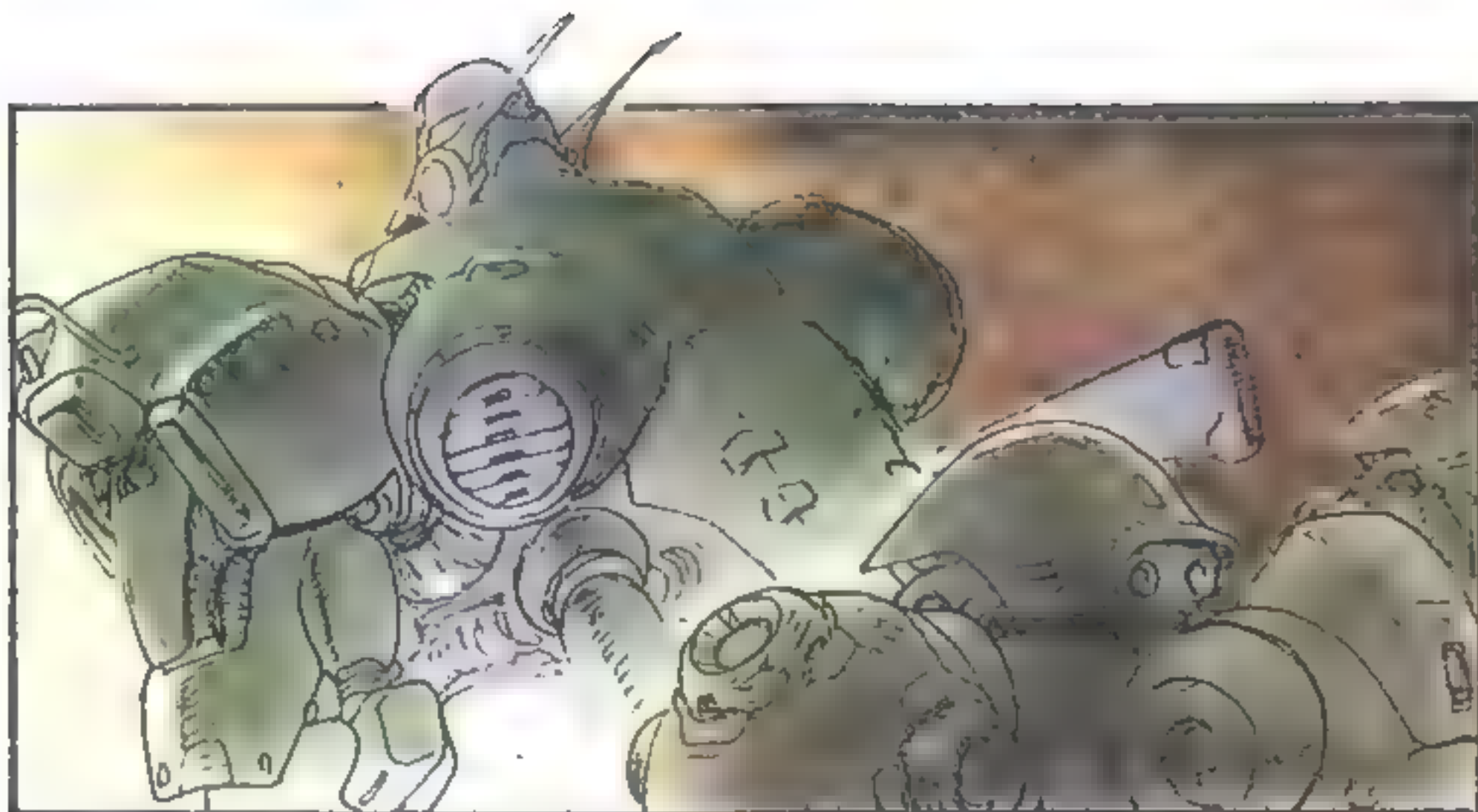
82



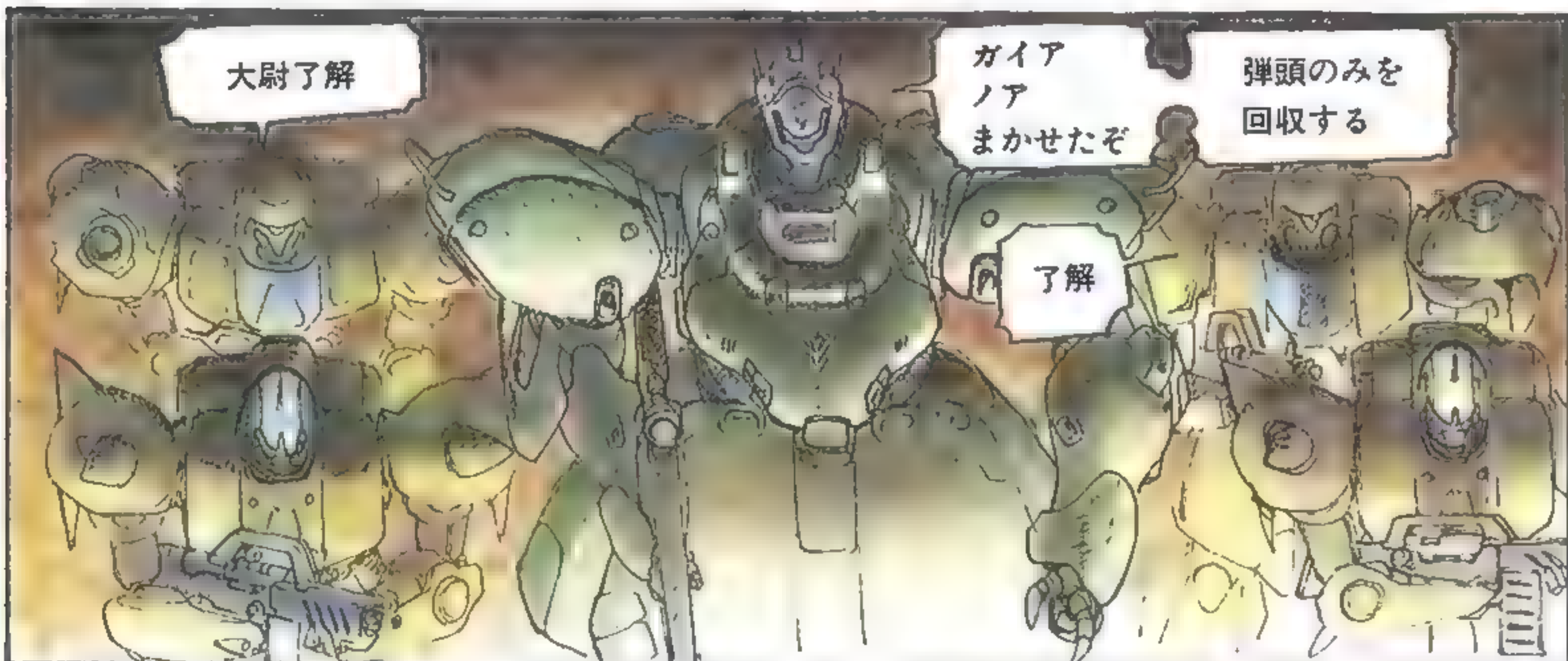








我々は遂に秘密の通路の奥に目的の物を発見した
それはモスポイルされた上に嚴重に保管されていたのだ

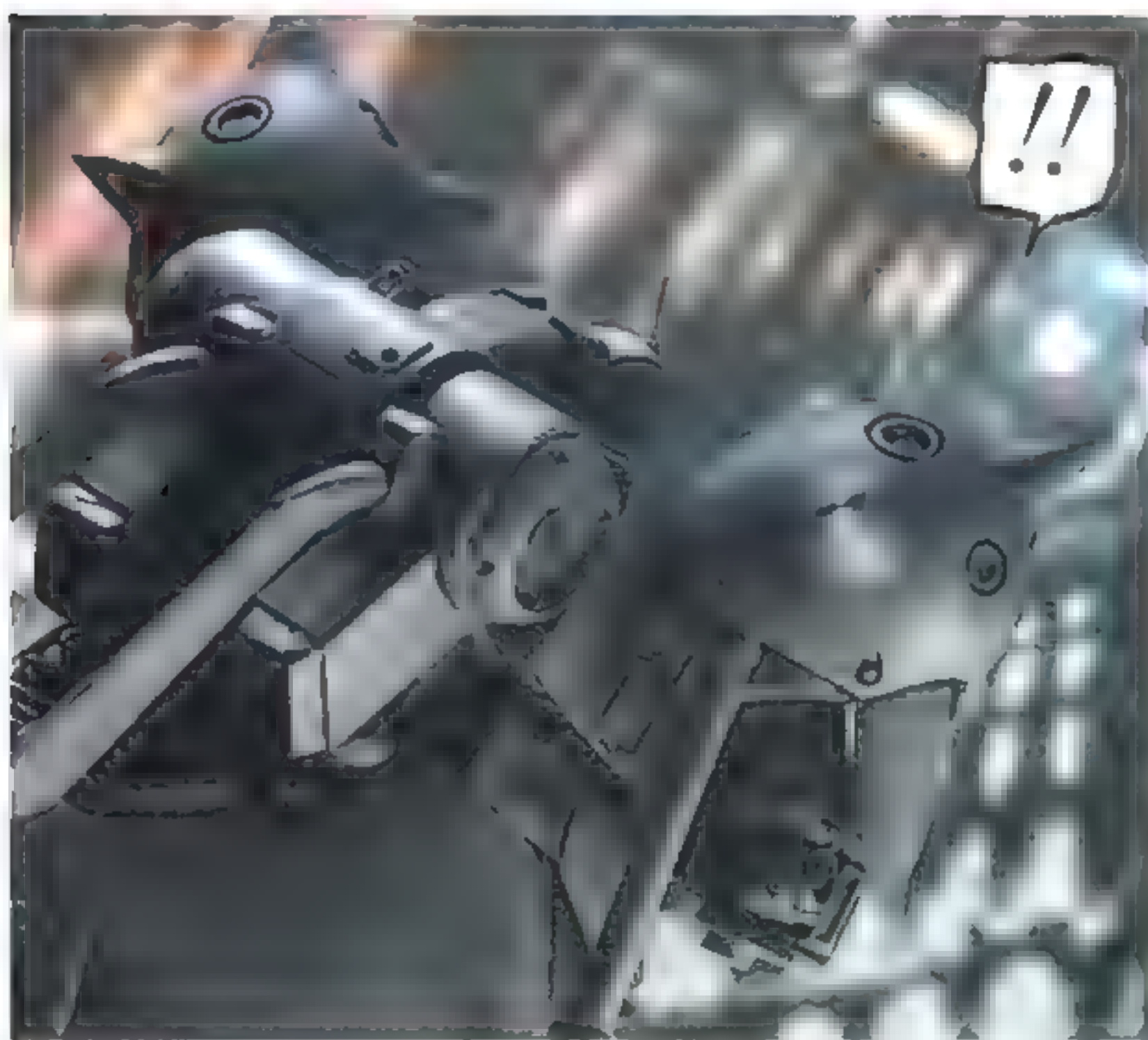


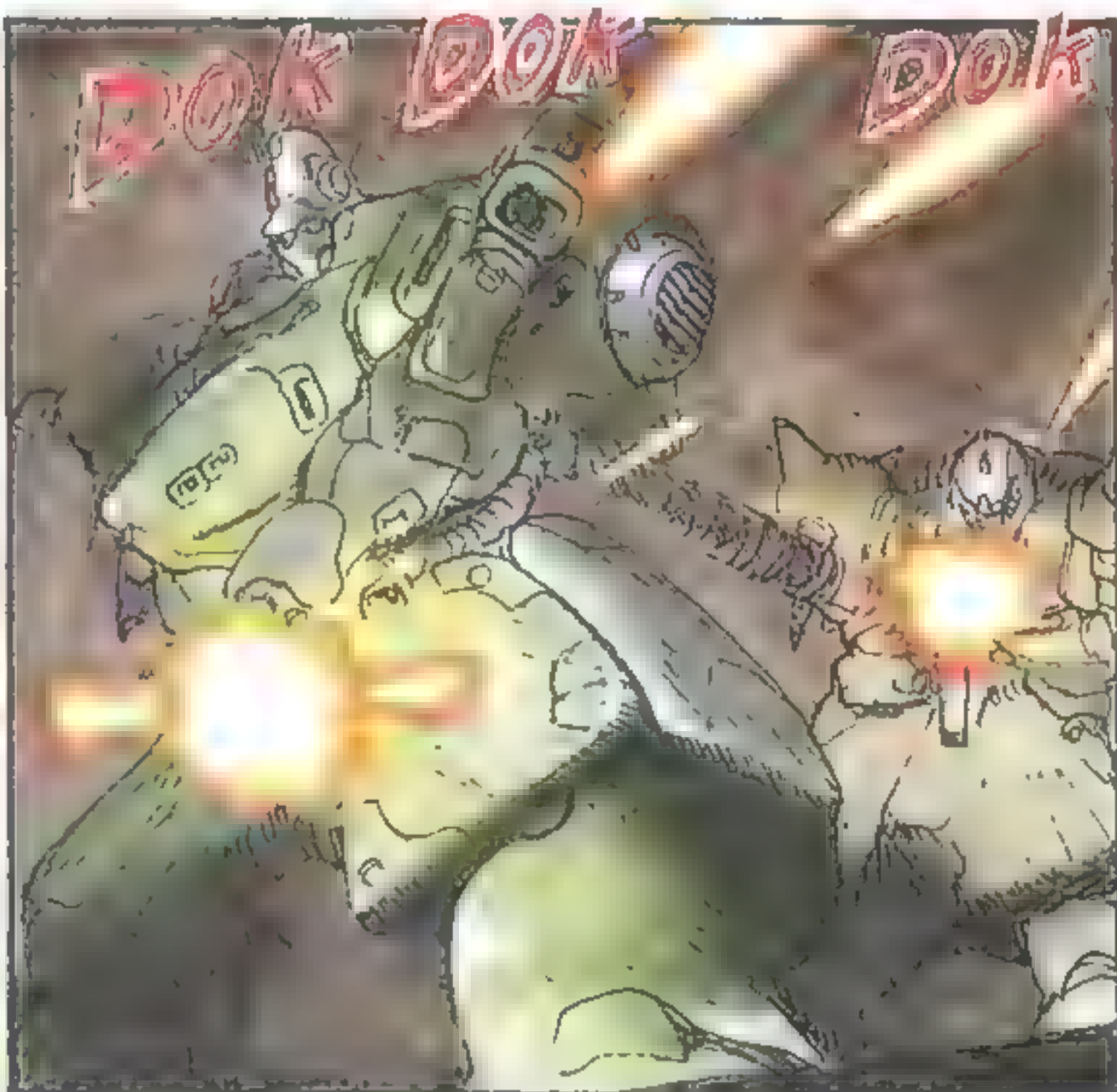
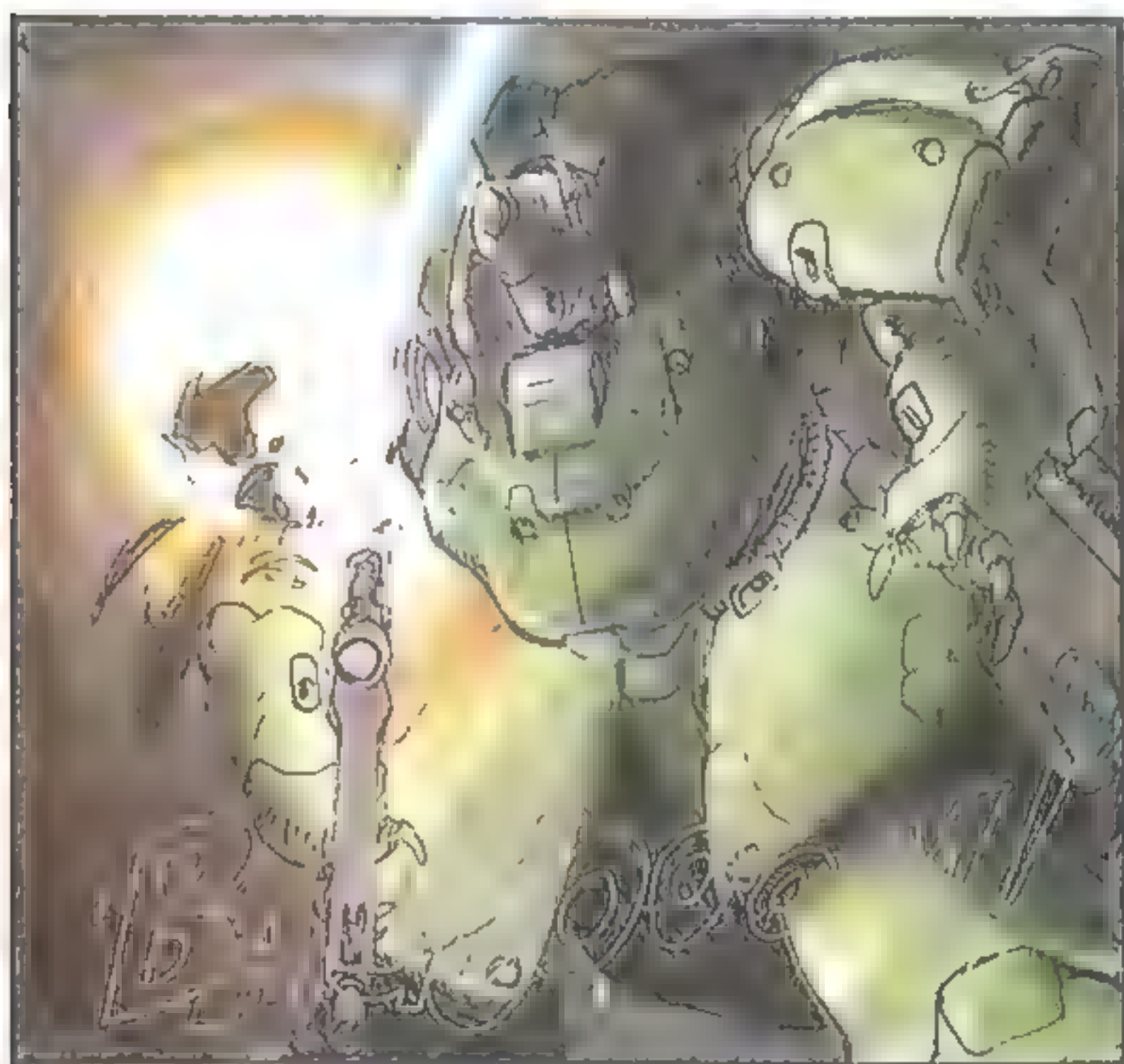
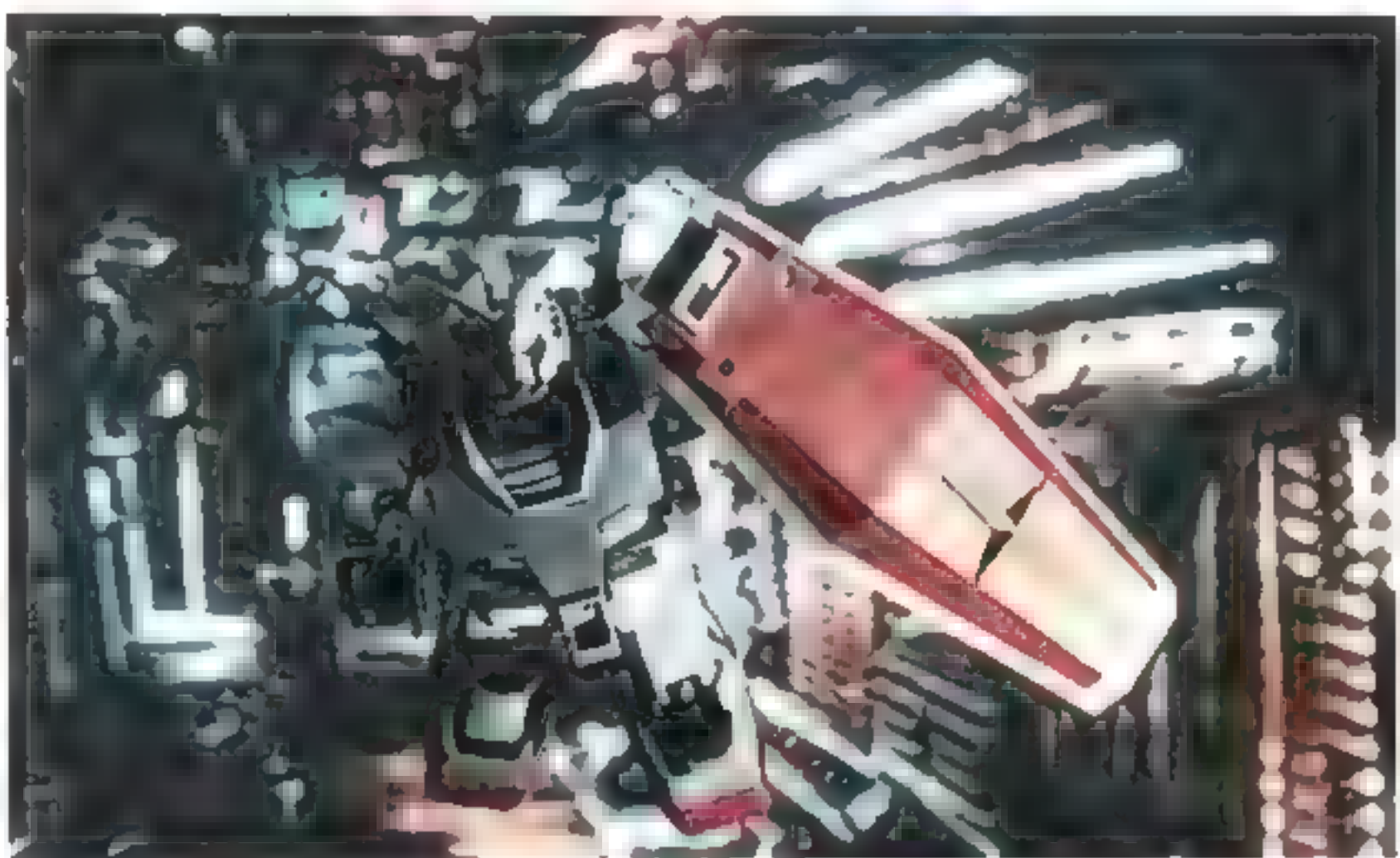
大尉了解

ガイア
ノア
まかせたぞ

弾頭のみを
回収する

了解



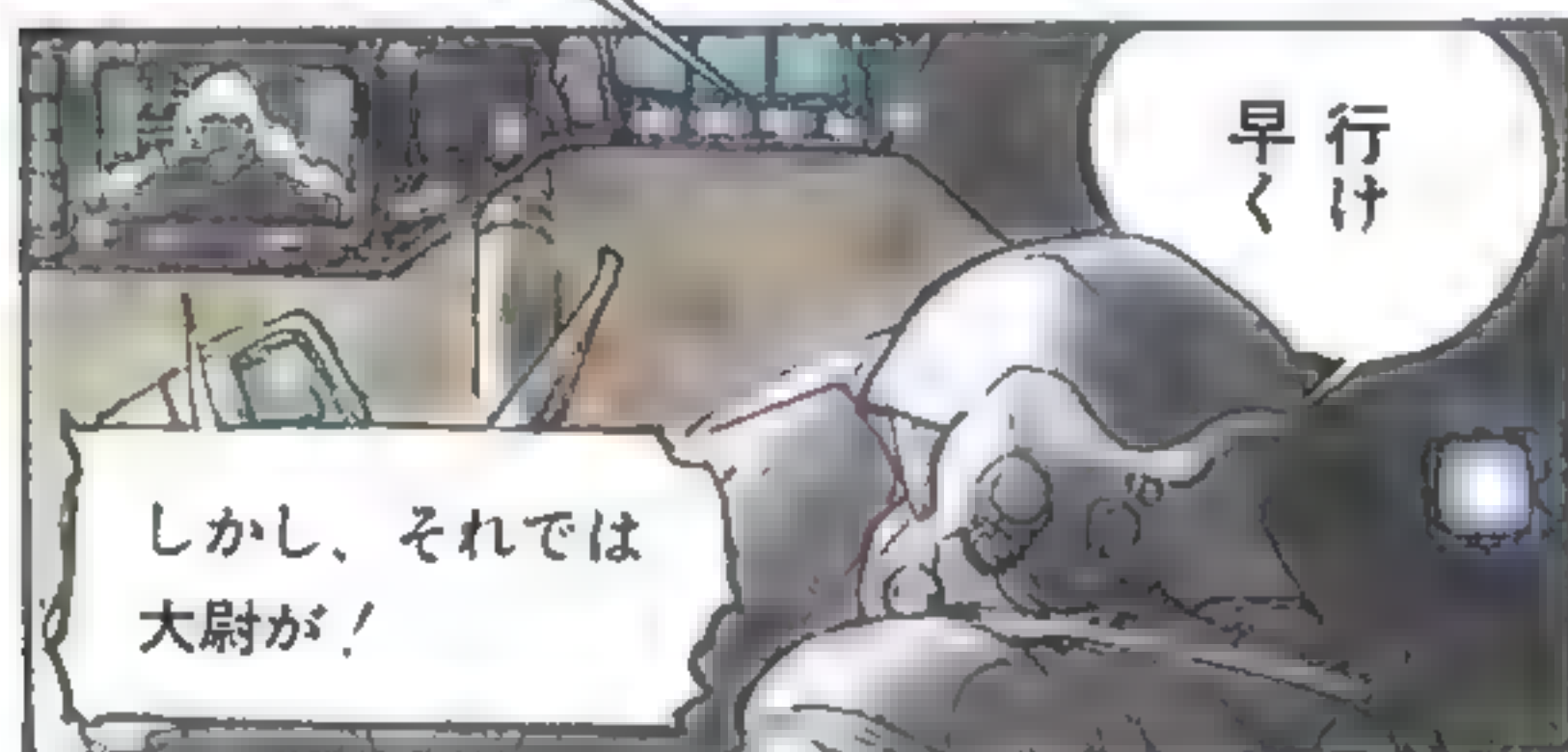




後は俺に
まかせろ全員
先へ行け!!

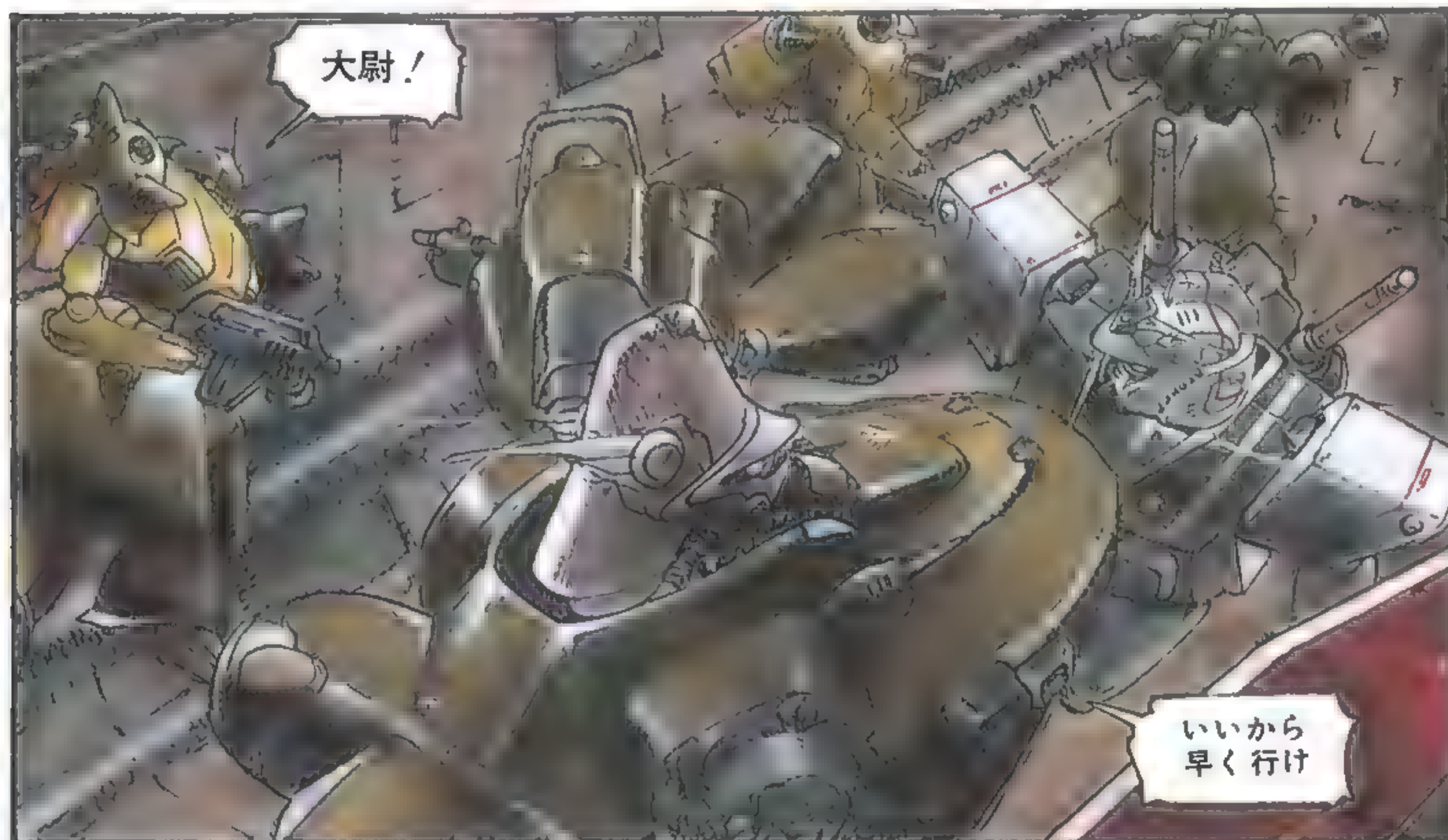


このおお!



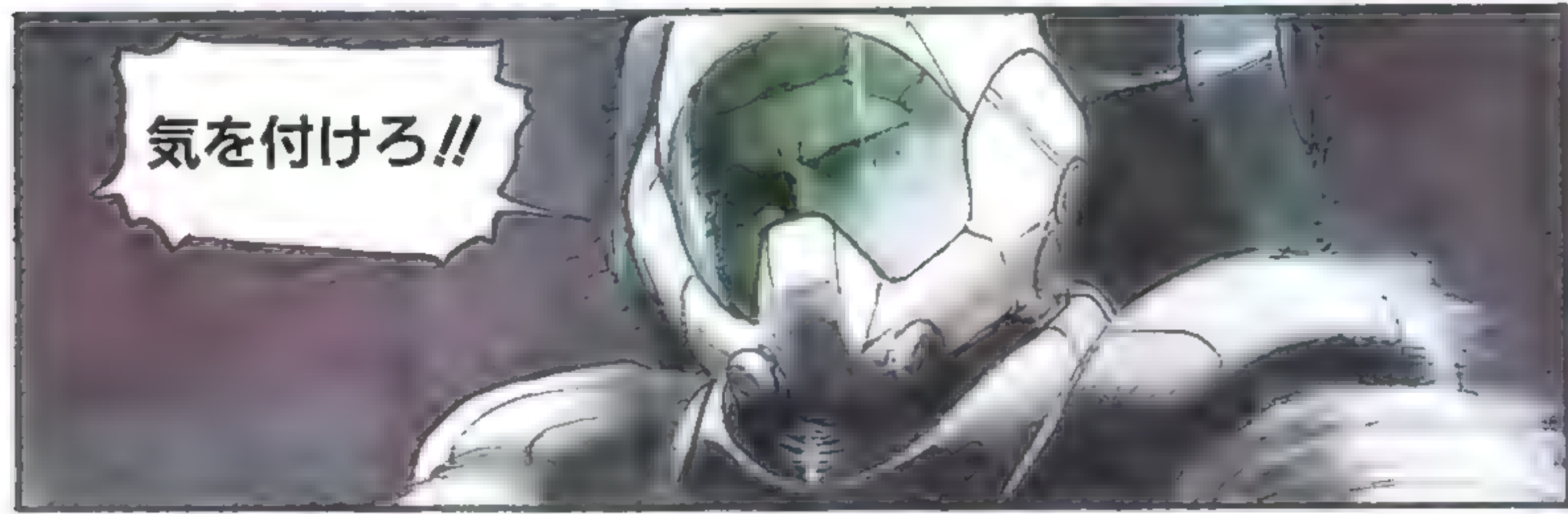
早く
行け

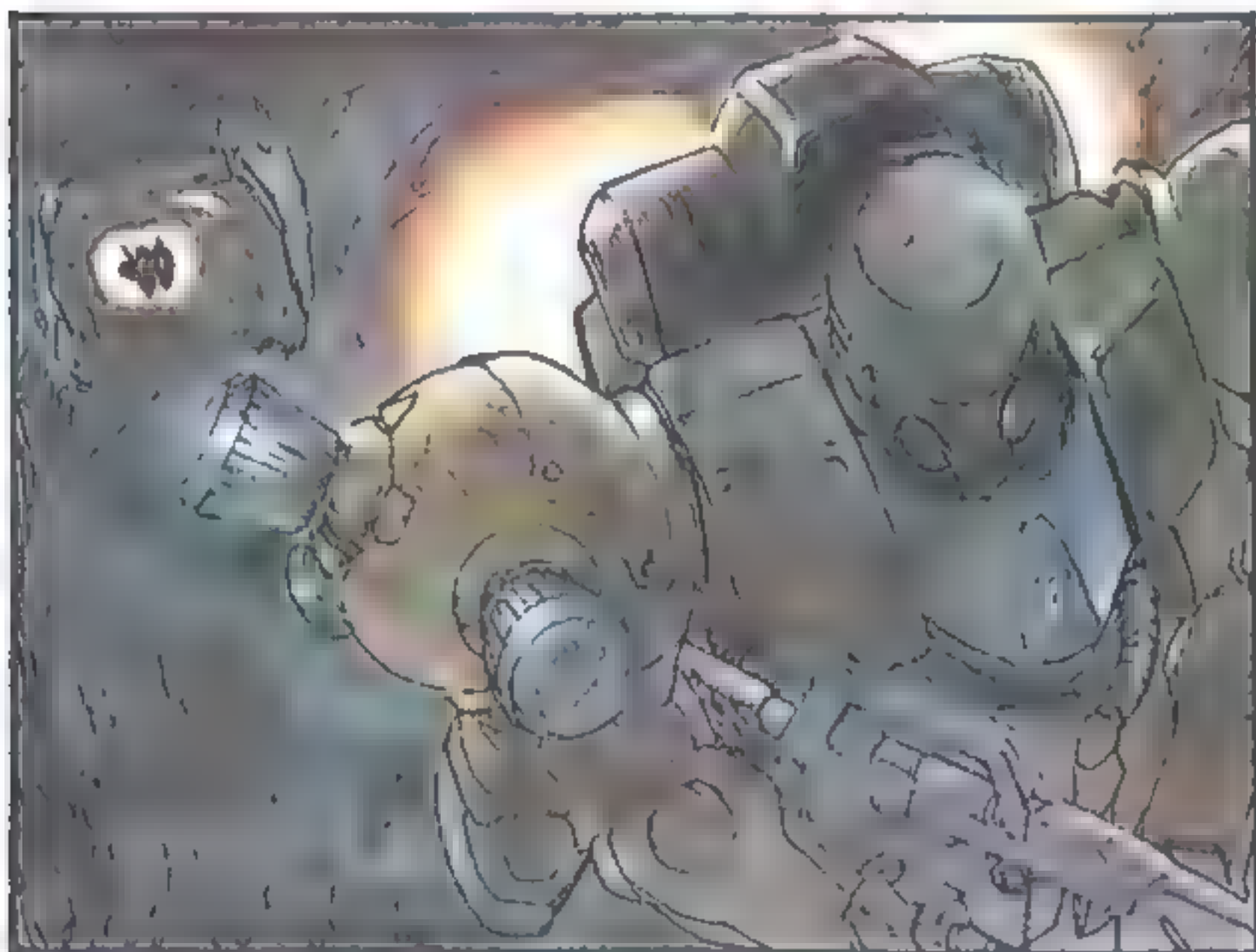
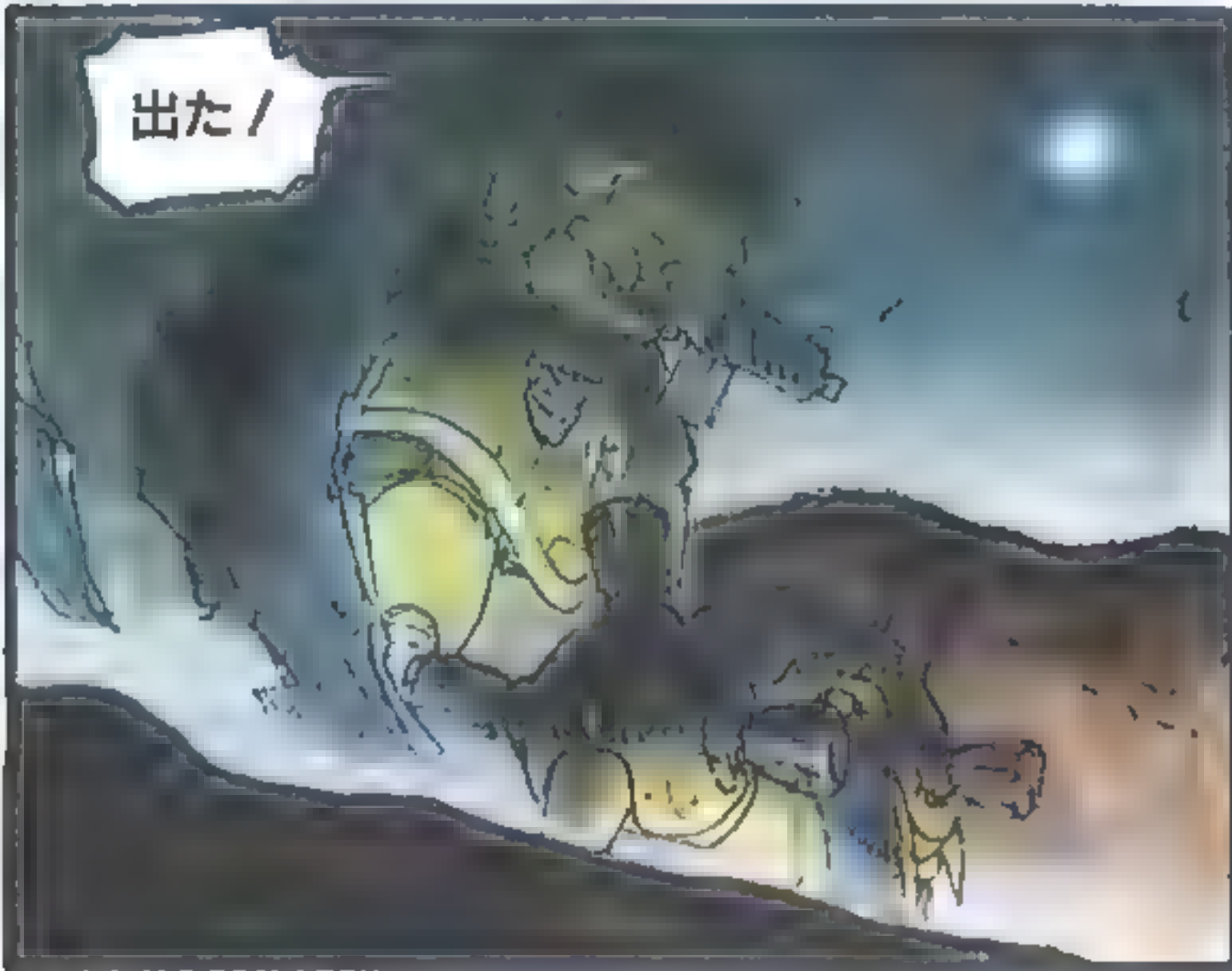
しかし、それでは
大尉が!

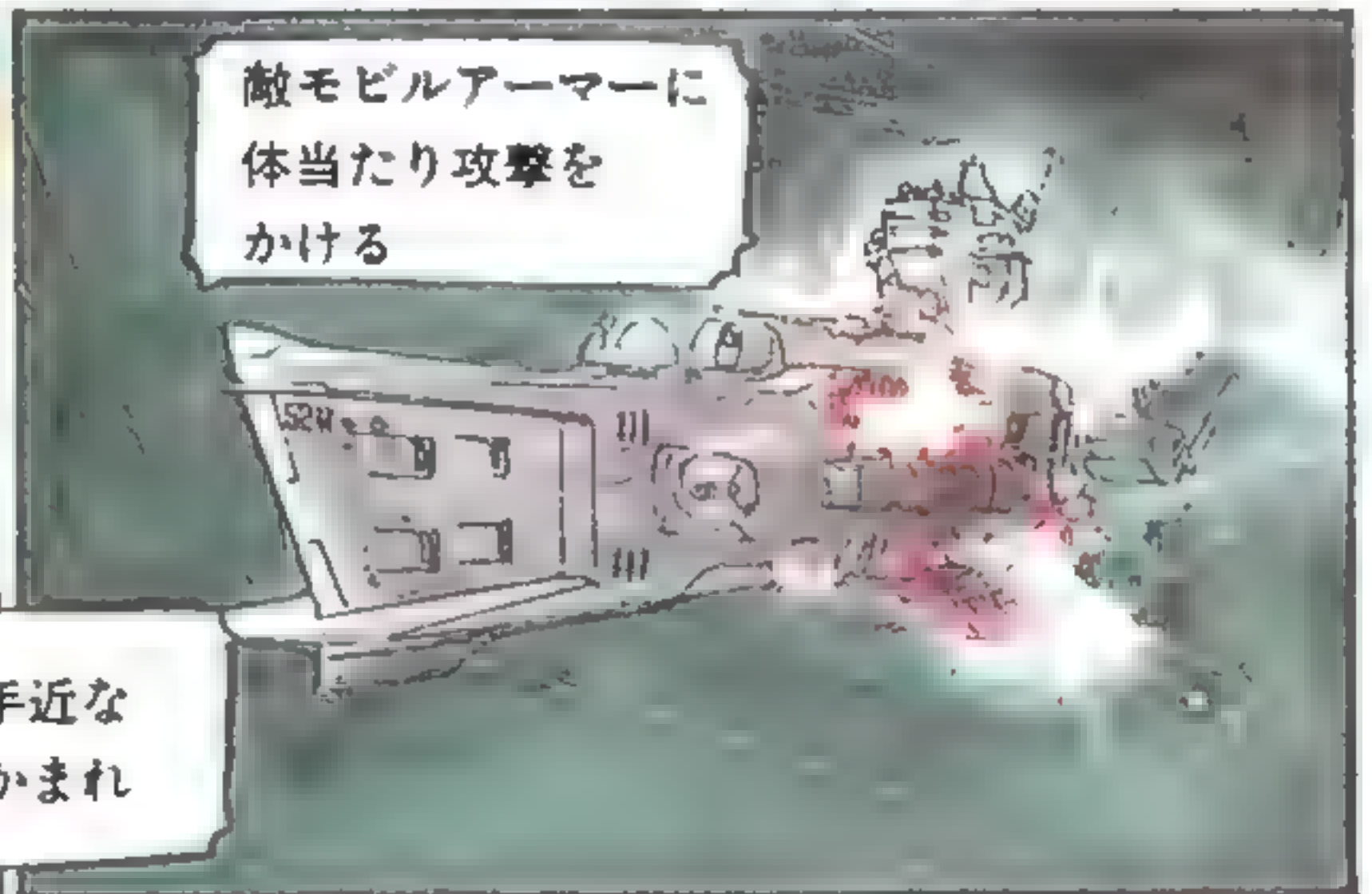
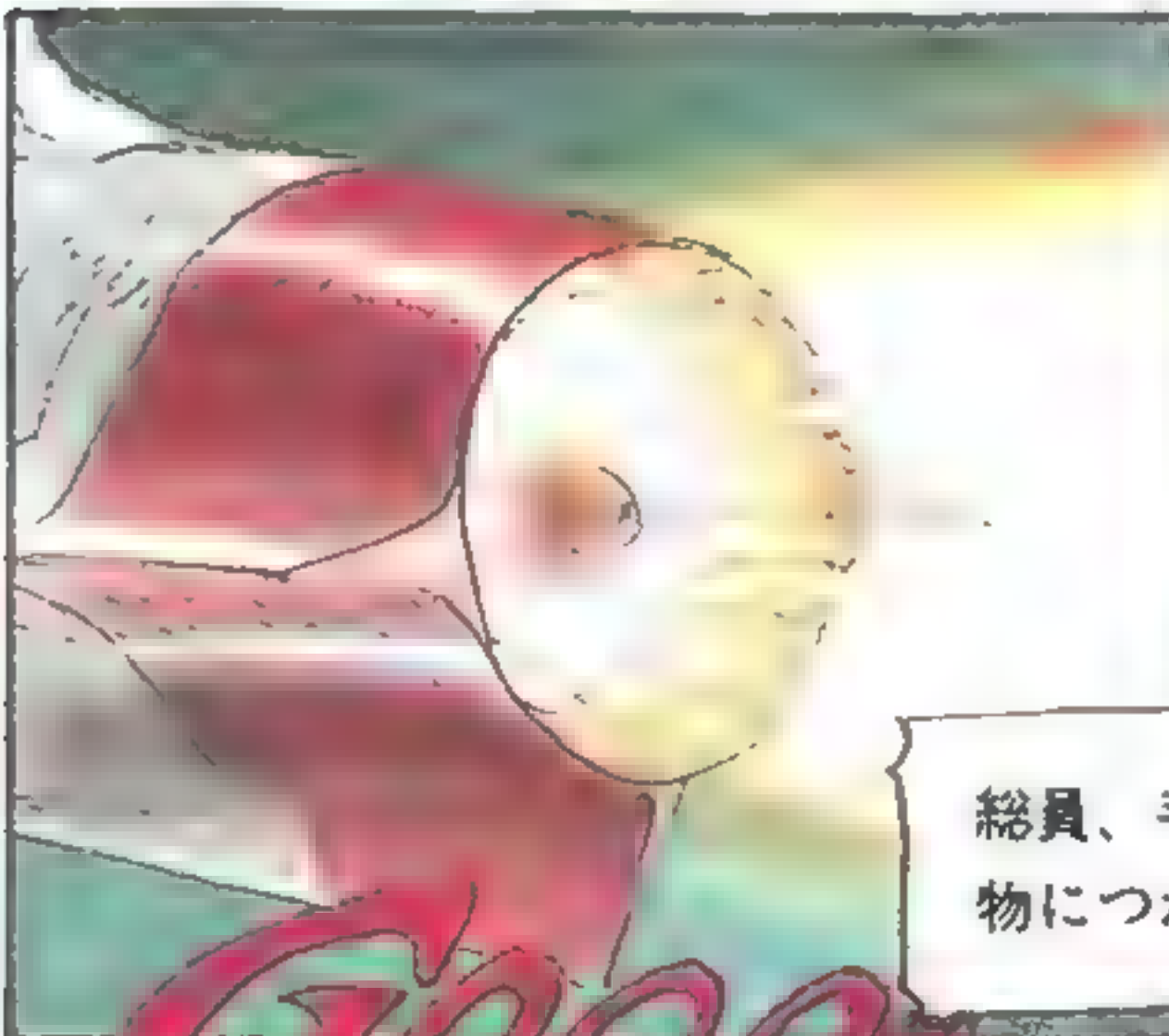
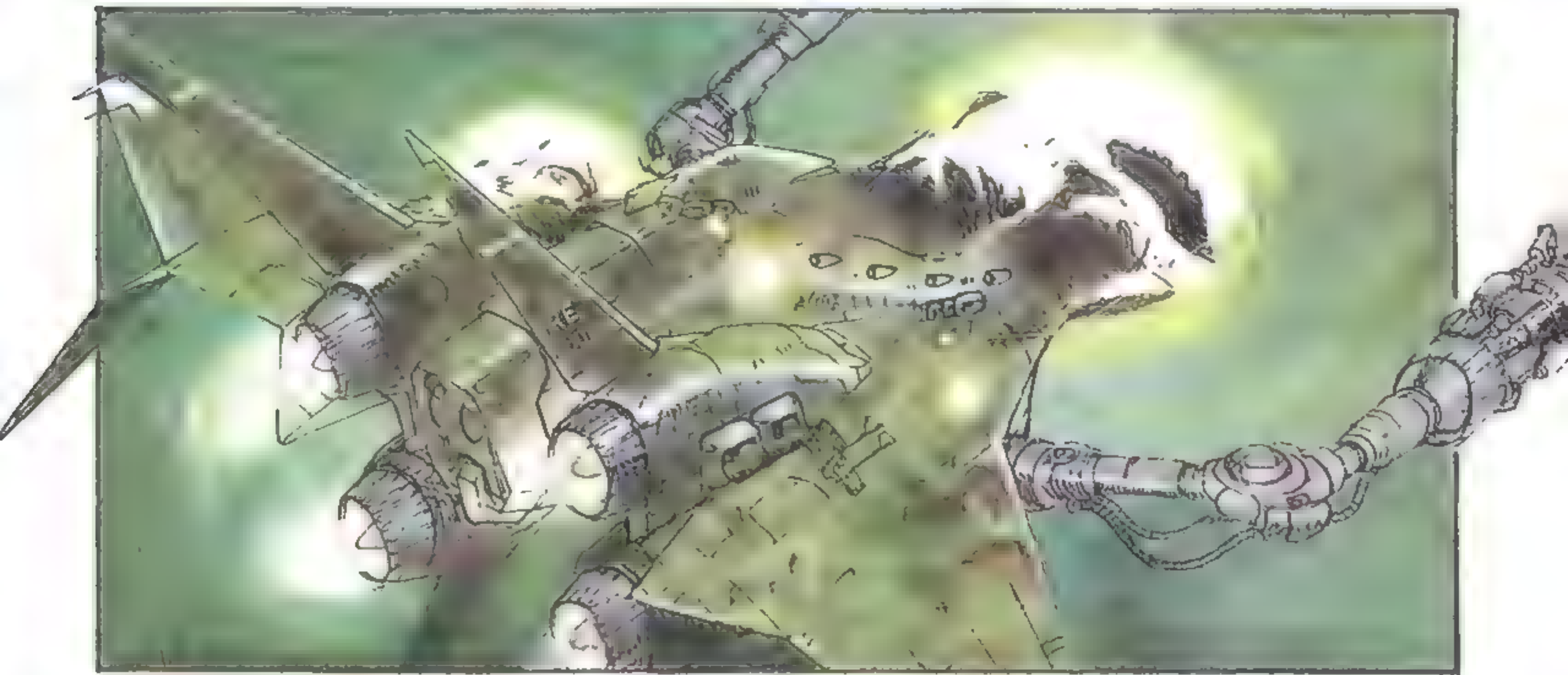
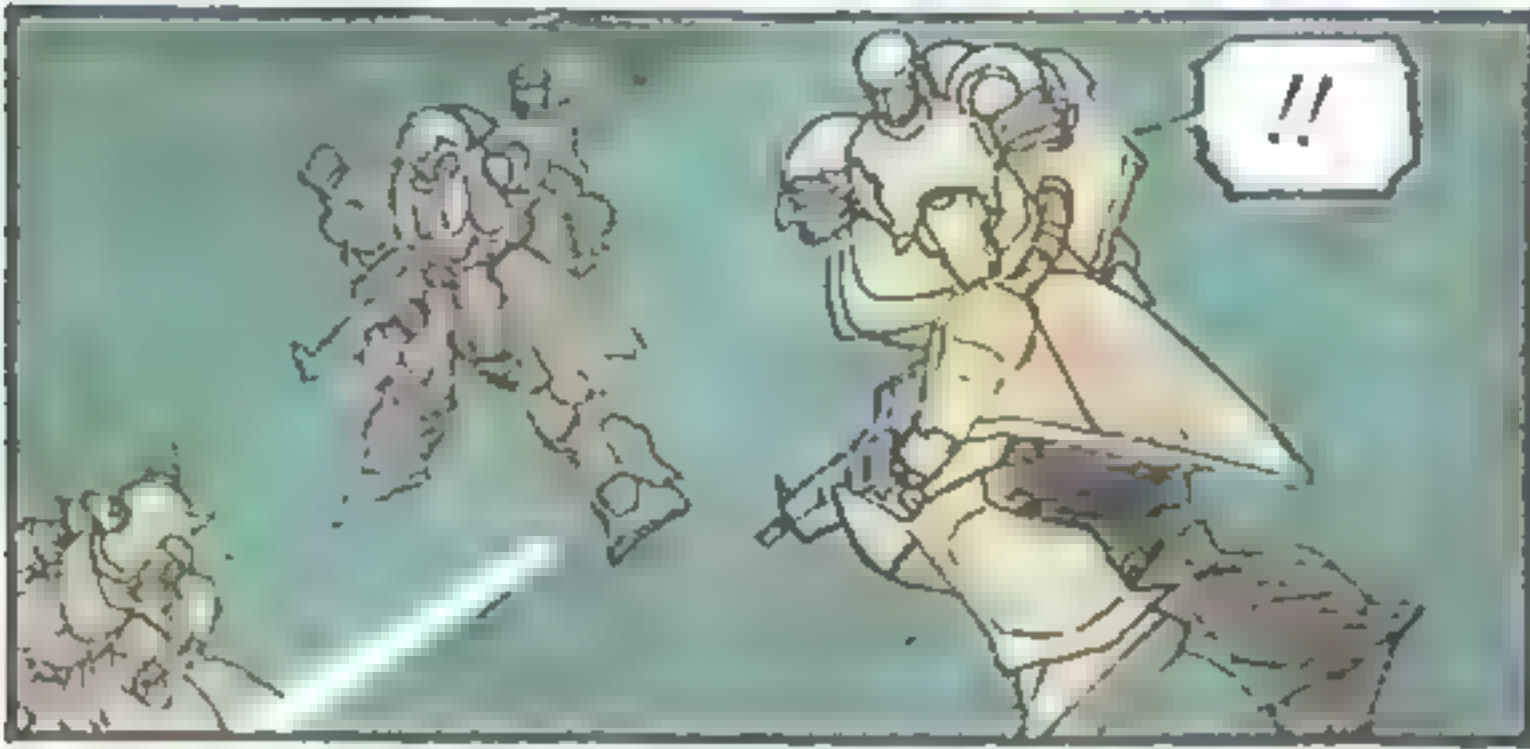
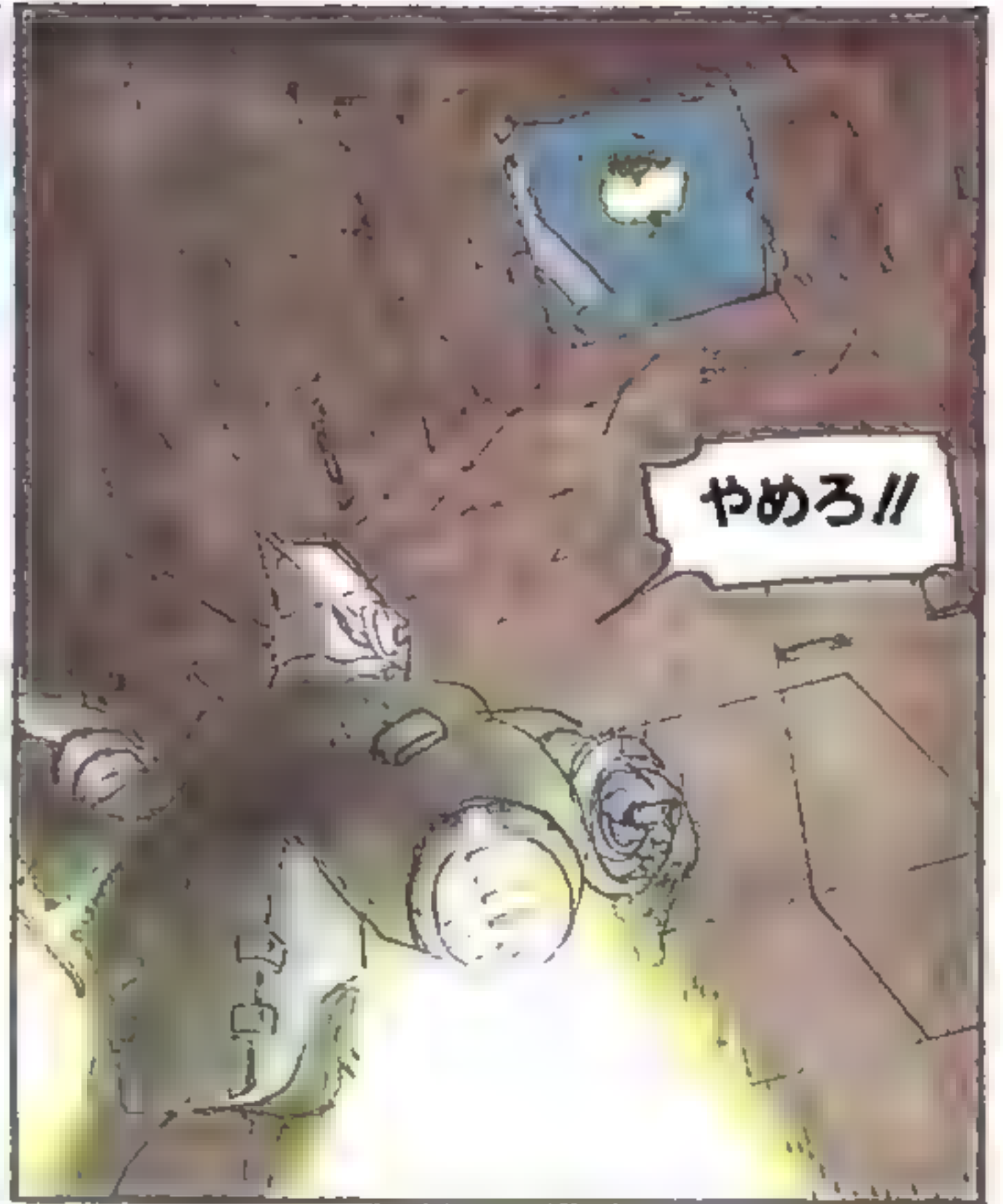


大尉!

いいから
早く行け



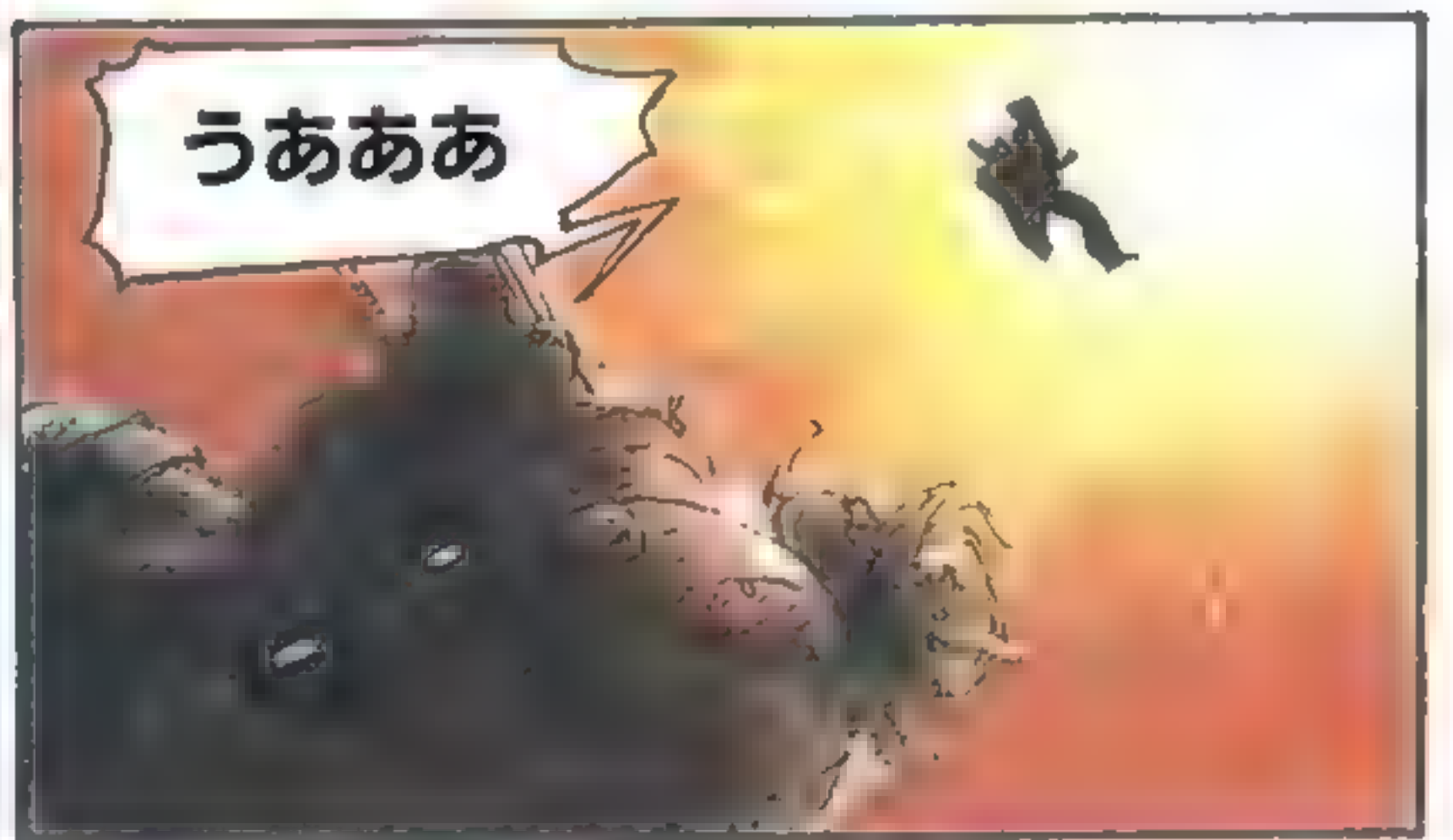
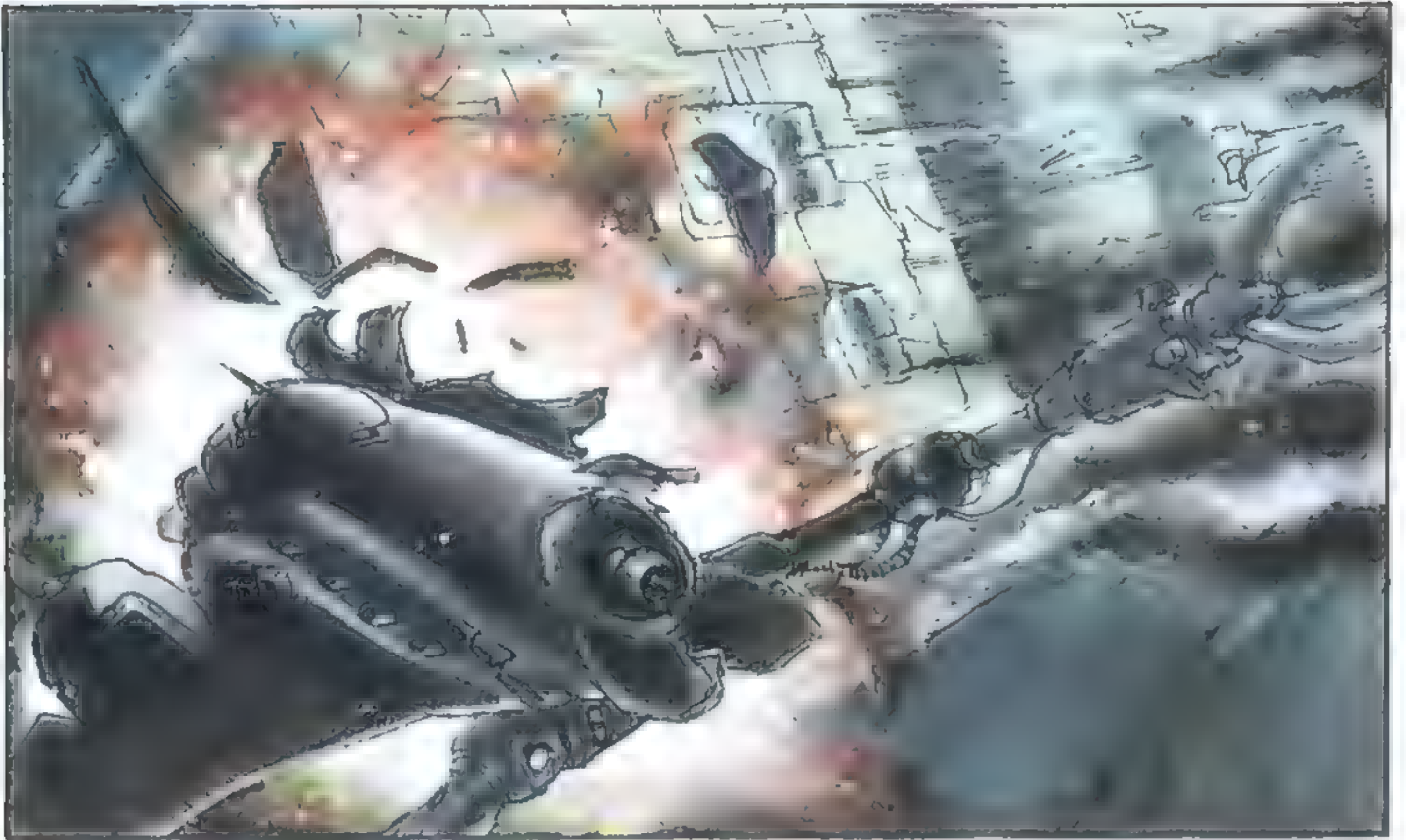




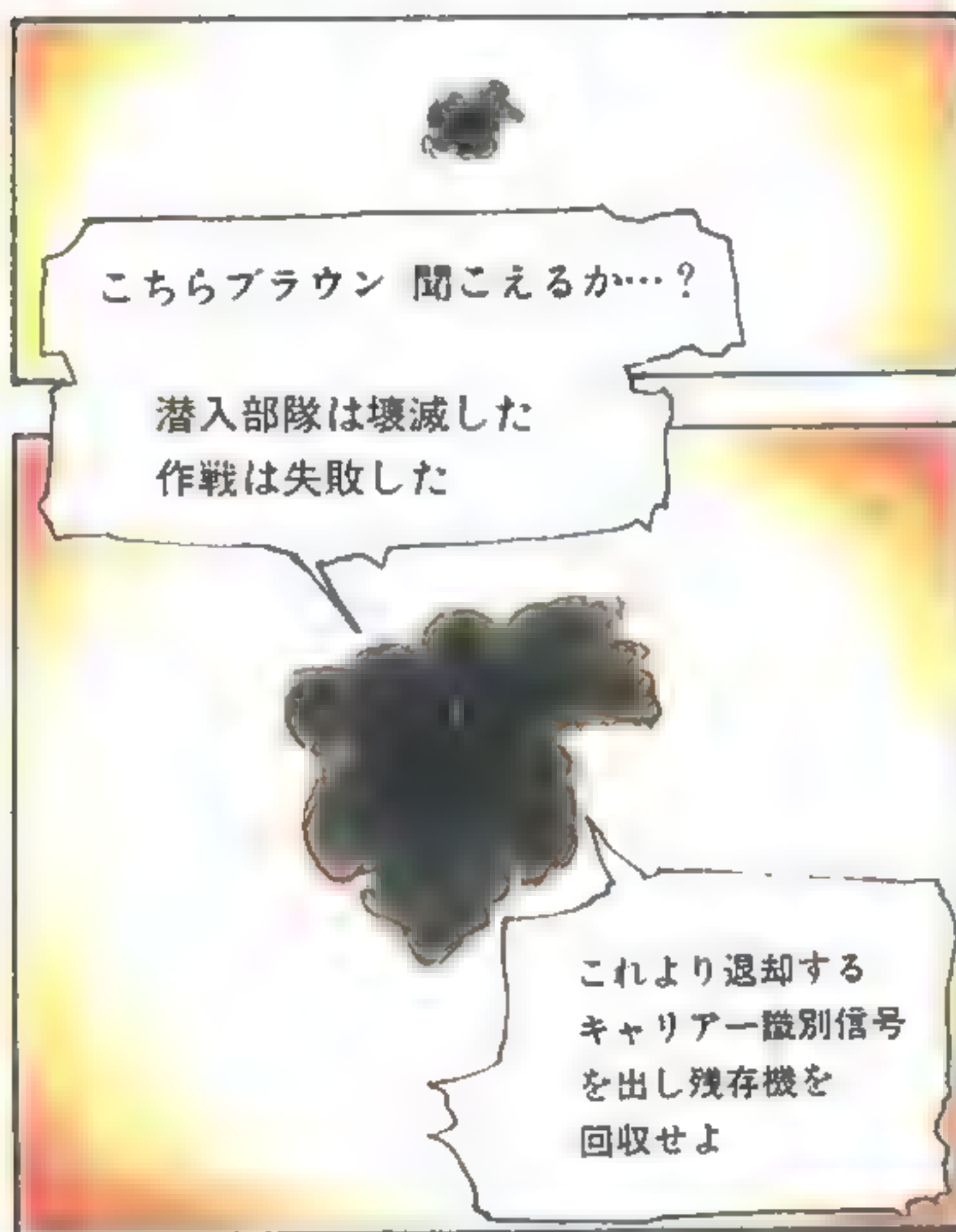
敵モビルアーマーに
体当たり攻撃を
かける

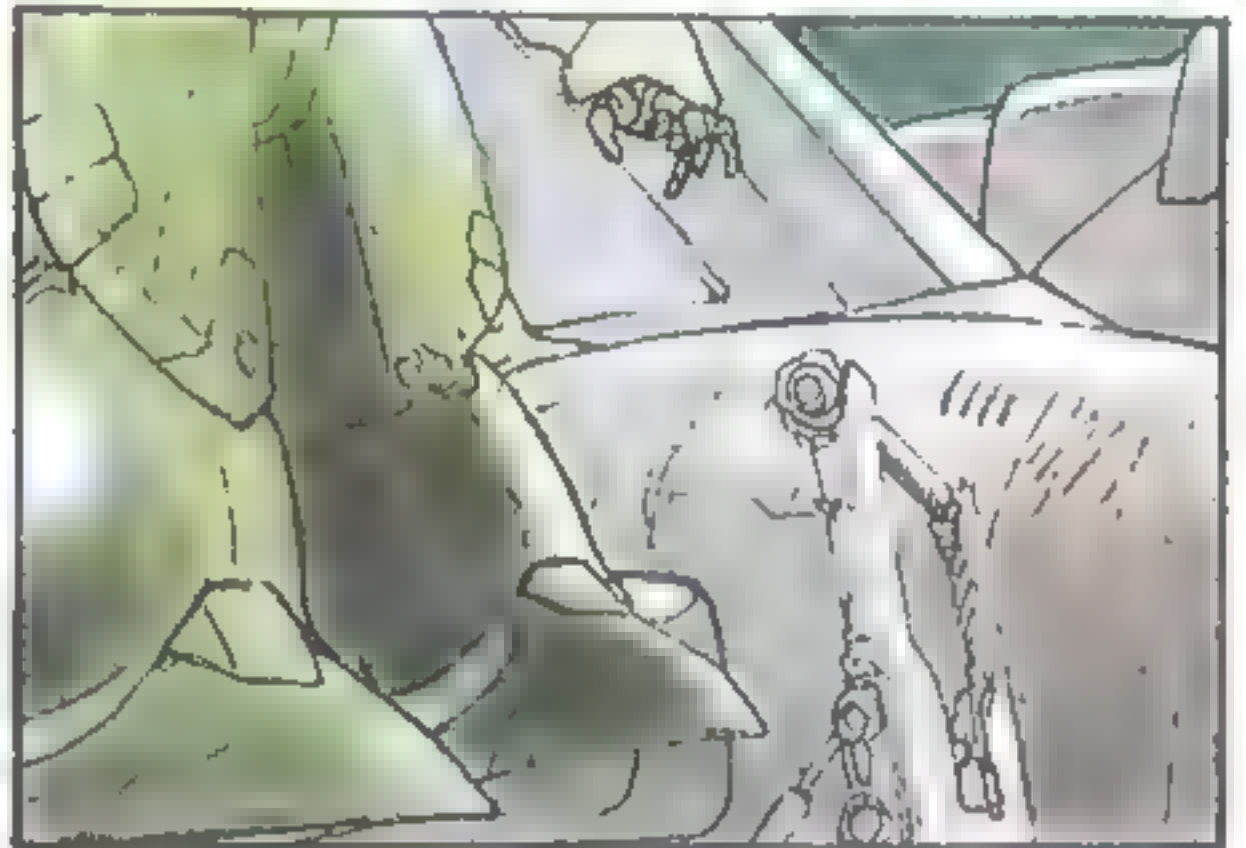
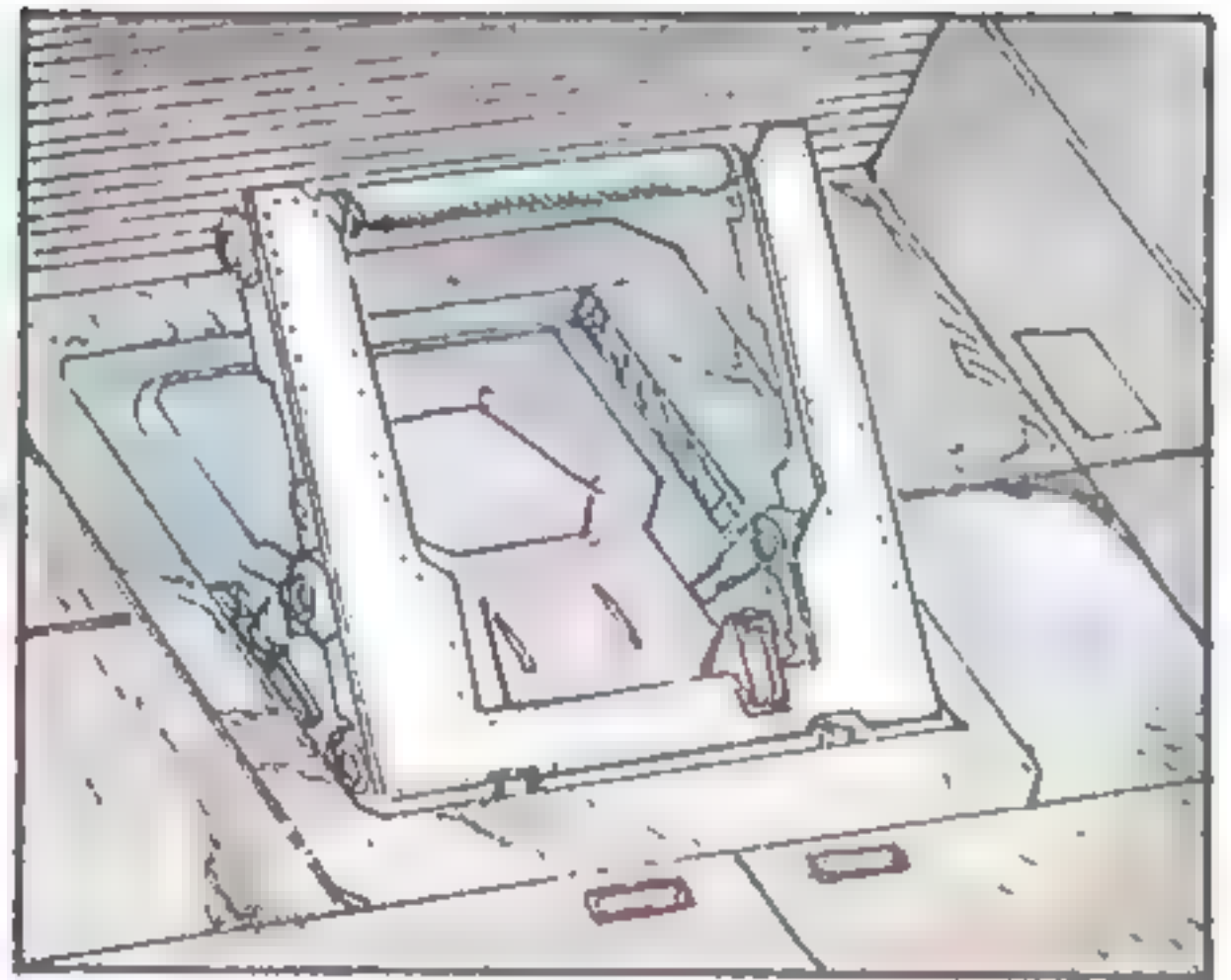
総員、手近な
物につかまれ

GOOOO

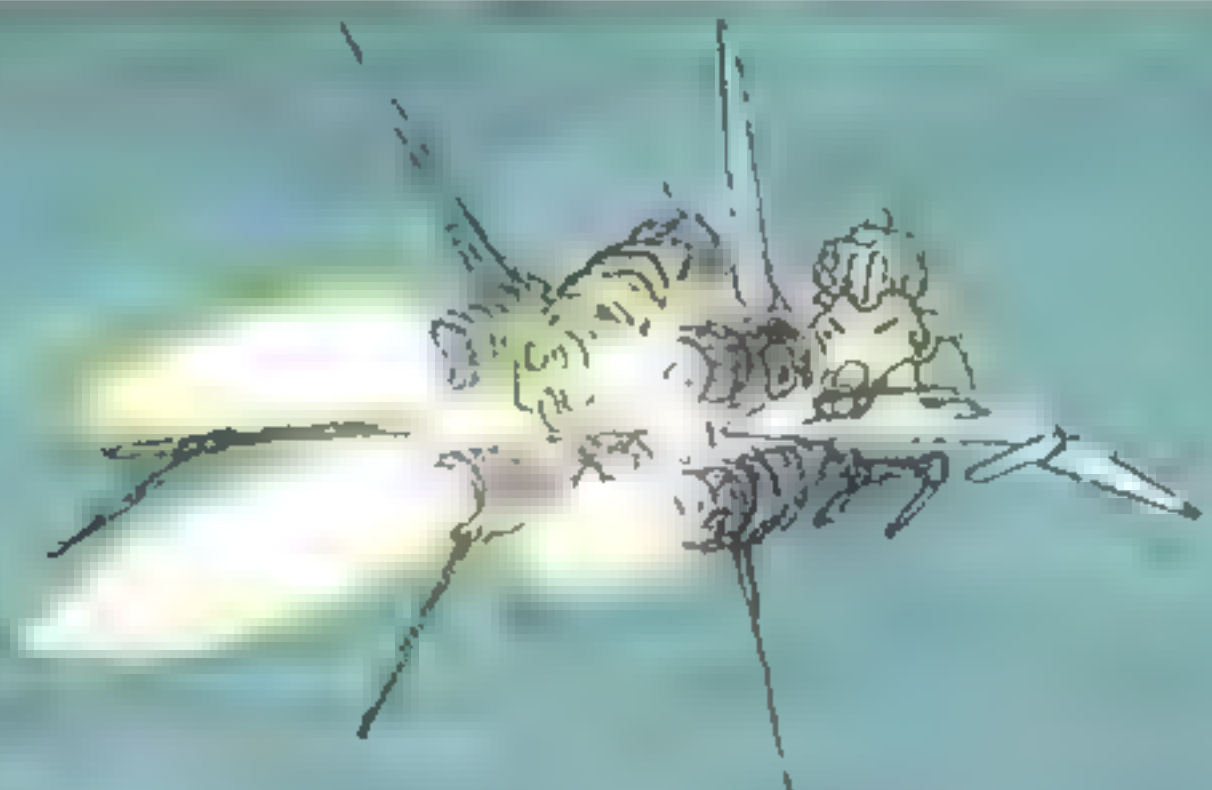


うあああ





ブラウン大尉率いるジオン第66突撃MS小隊による、
ソロモンからの「核」奪取作戦は失敗に終わった
そして、その数日後にジオン軍の最終防衛線
"ア・バオア・クー"が地球連邦軍によって陥落
その後ジオン軍と地球連邦軍の間に
終戦協定が結ばれた
時に宇宙世紀0080年初頭の事であった……



OPERATION [BURAN] U.C.0079
END

FINAL DEFENSE LINE

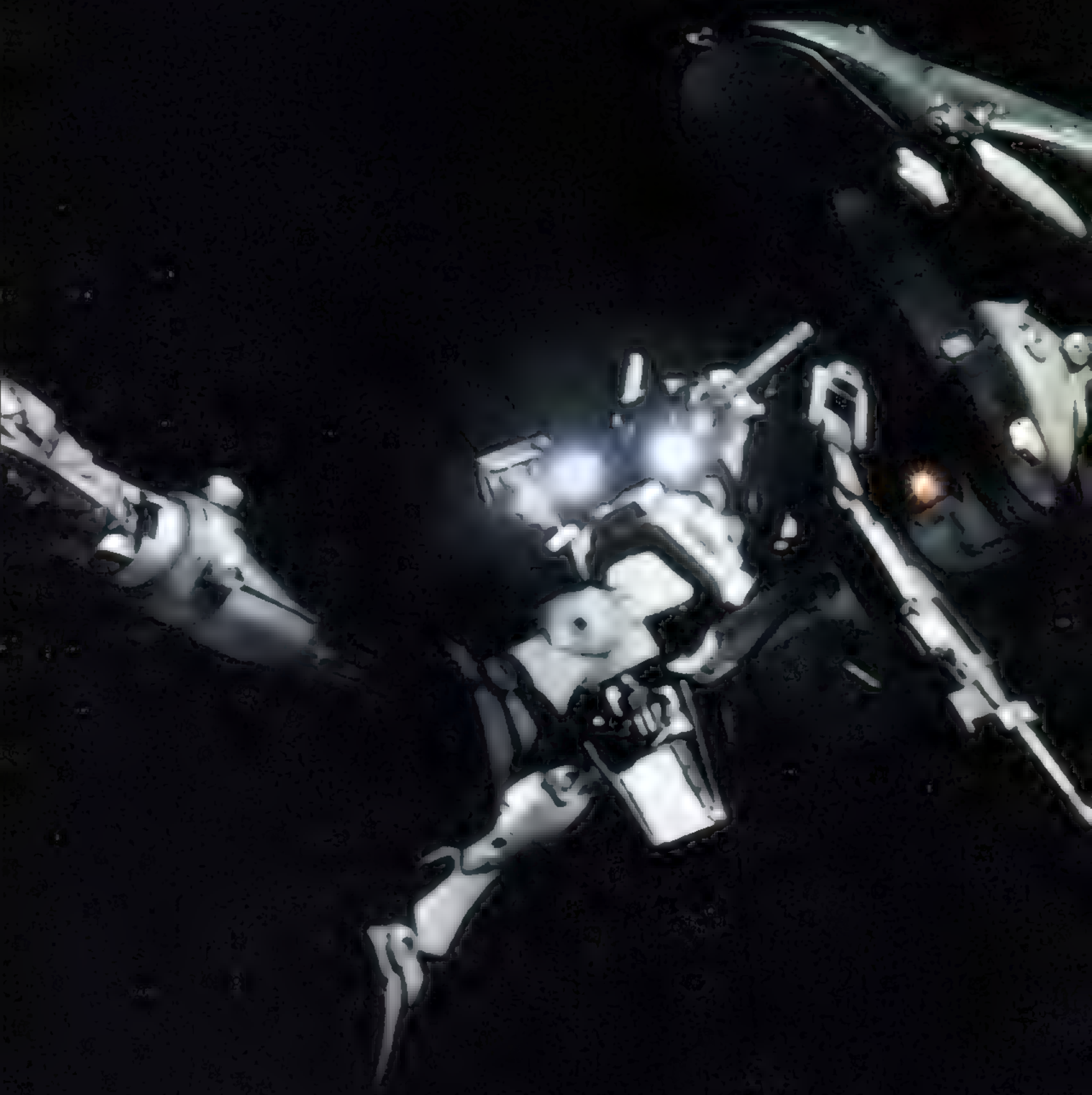


一年戦争末期、ジオン公国は戦況の打開のため、数多くの試作
モビル・スーツや試作モビル・アーマーを投入した。このMA-
05HGプランもその一機であり、宇宙での高機動、高火力に重きを
おかれているモビル・アーマーである。左下に配置するアイアン・ク
ローは連邦軍のいかなるモビル・スーツの装甲をも破壊する事が出
来る



MA-05HQ BURAN SPECIFICATION

- Height(meters):32.4
- Length(meters):66.5
- Weight(tons):200.5(dry)/310.6(combat)
- Generator(kw):26,100
- Thruster(kg):251,000
- Sensor Length(meters):111,000
- Armament:Mega-grain cannon×1
- Armament:Beam cannon×10
- Armament:Missile launcher×2





PMS-007 JAGUAR I

▶地上戦用PANZER WAFENとして開発されたジャガーは、地上での移動をスピーディーにするため脚部にハニーアを集中させ、さらに前面の装甲強化につとめた。また顔部頂点に収納させたセンサーは、夜間、悪天候でも敵を捕捉することが出来る。その後にジャガーのアップトゥーデイトバージョンが完成し、このタイプをジャガーI(アイン)と呼ぶことになった



PMS-007 JAGUAR II

▲バーダーホレンにおけるPMS-007/JAGUAR-Iの走行テスト風景。JAGUAR-Iはトレッド車が地上での高速進攻用PANZER WAFENとして開発した機体である。顔部に収められたオプティカルセンサーで、濃霧および夜間でも遠距離の敵を捕捉できる。当日は濃霧が出てJAGUAR-Iのテストにはもってこいの天候といえよう



SCHRECK GUSTAV

▶制空用PANZER WAFENとして作られたSCHRECK GUSTAVが、大出力を利用して垂直上昇に入ろうとしている。PANZER WAFENもトランスフォーメーションシステムの開発により、旧来の航空機のように迅速な移動、長距離進攻が可能になった。それは今まで以上の大馬力パワープラントの開発、機体の軽量化に成功したからであったが、その為装甲の耐弾性は低下した



LPW-007AL SCHRECK GUSTAV

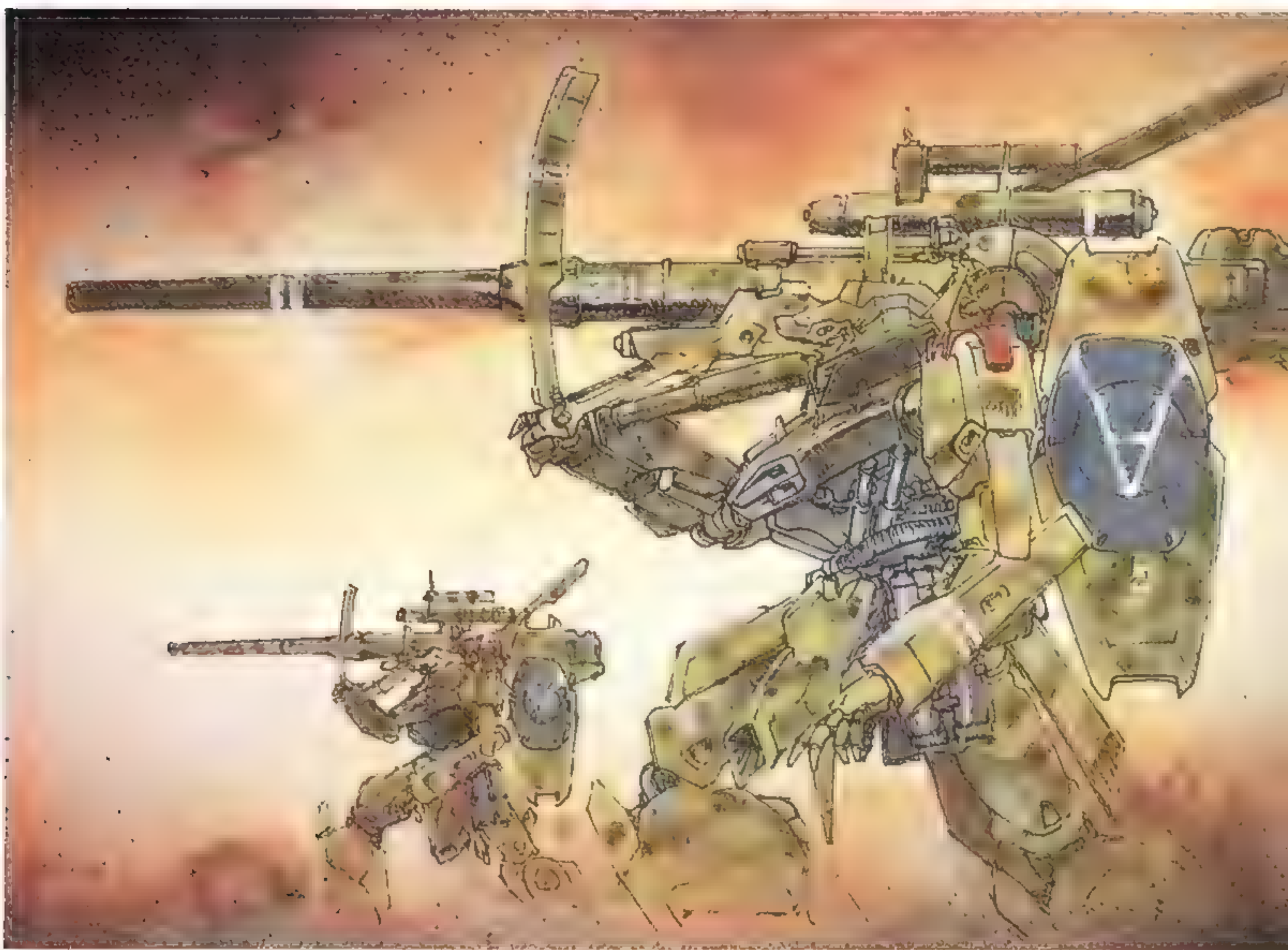
▲ガレリア軍の装備するAIR LAND BATTLE WEAPONがシュレイク・グスタフである。航空機形態により敵の陣地深く侵入し、背後より相手の虚を突く戦術から生まれた兵器である

MACHINE ROCK G

◀短時間の連続核爆発は、地球の地軸をねじ曲げ、放射能汚染した大量のチリ、煙かまざった厚い大気におおわれ、地上の様子は一変した。西側地上調査隊は三度に渡る攻撃を受け、大いなる犠牲を払った。そのためついに武力による強硬調査へと進展してしまった

LPW-007CN FAUST GUSTAV

▼グスタフのトランスフォーメーションシステムを廃し、背部に長距離支援火器を装備したタイプ。敵のいかなる機行火器よりもアウトレンジで、なにかつ一撃のもとに撃破できる威力をもっている







STURM JAGUAR EX

STURM JAGUAR EX ist ein
modulares Kampfsystem, das
aus dem STURM JAGUAR EX-100
besteht, das mit einem
modularen Kampfsystem
ausgerüstet ist, das aus
dem STURM JAGUAR EX-100
besteht.





VPKW-005 STURM JAGUAR

▲ガレリア軍A・L WEAPON、シュレイク・グスタフの登場により劣勢を感じたドレッド軍が対抗馬として作り出したのが、このシュツルム・イエーガーである。やはり可変機構をもち、地上での戦闘も行なえる左右のガンポットは、地上では長距離支援にも使え、威力は絶大である。そのためグスタフよりも二回り程大きな機体になってしまった

PKW-109 GOBLIN

▼生産性に重点を置いて開発されたのがゴブリンである。地上のあらゆる状況下においても稼働率が高く、戦線の兵士から頼もしくられたワークホースである。機体のコンパクトさからゴブリンという愛称で呼ばれ、結果的にそれが正式名称となった





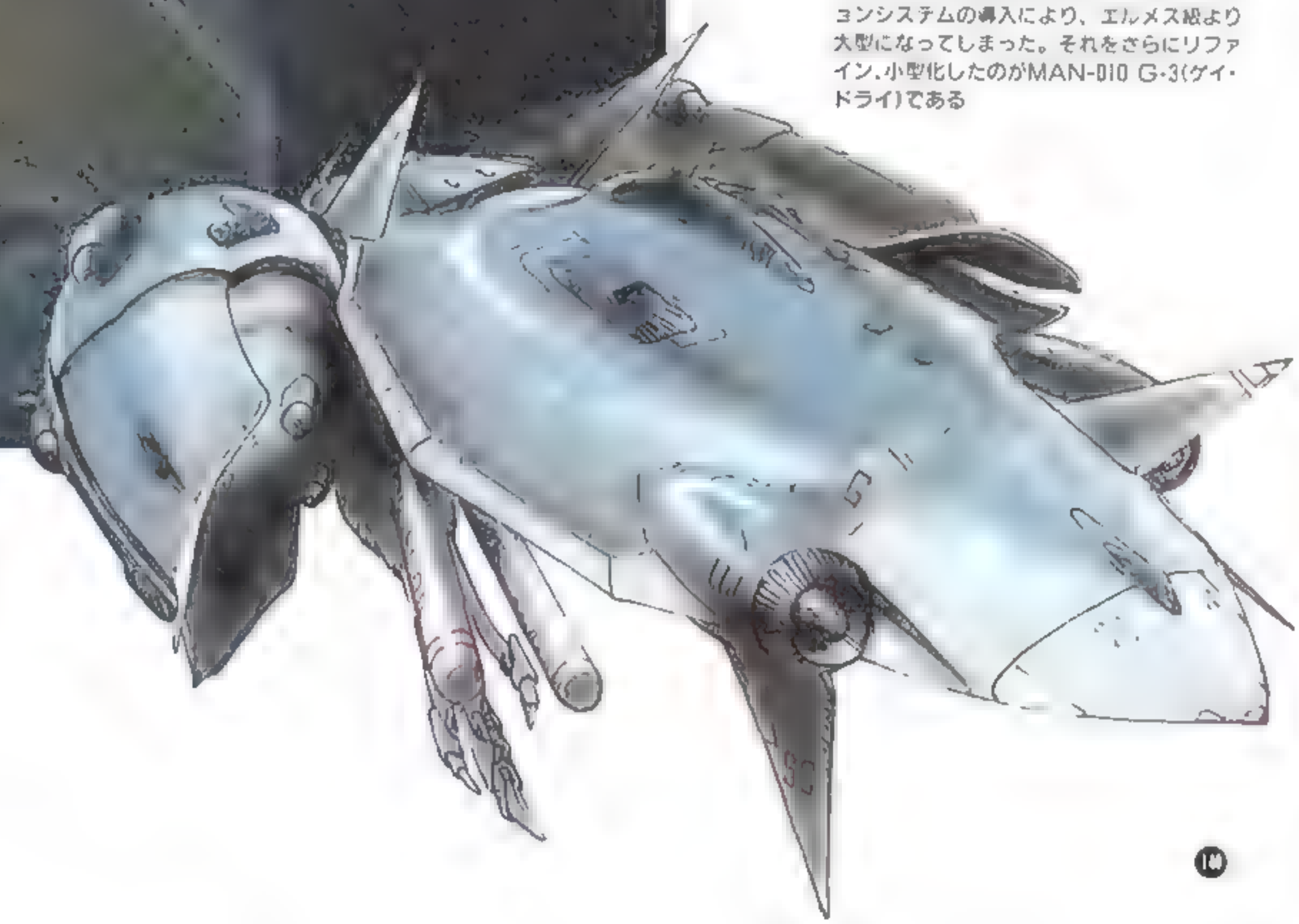
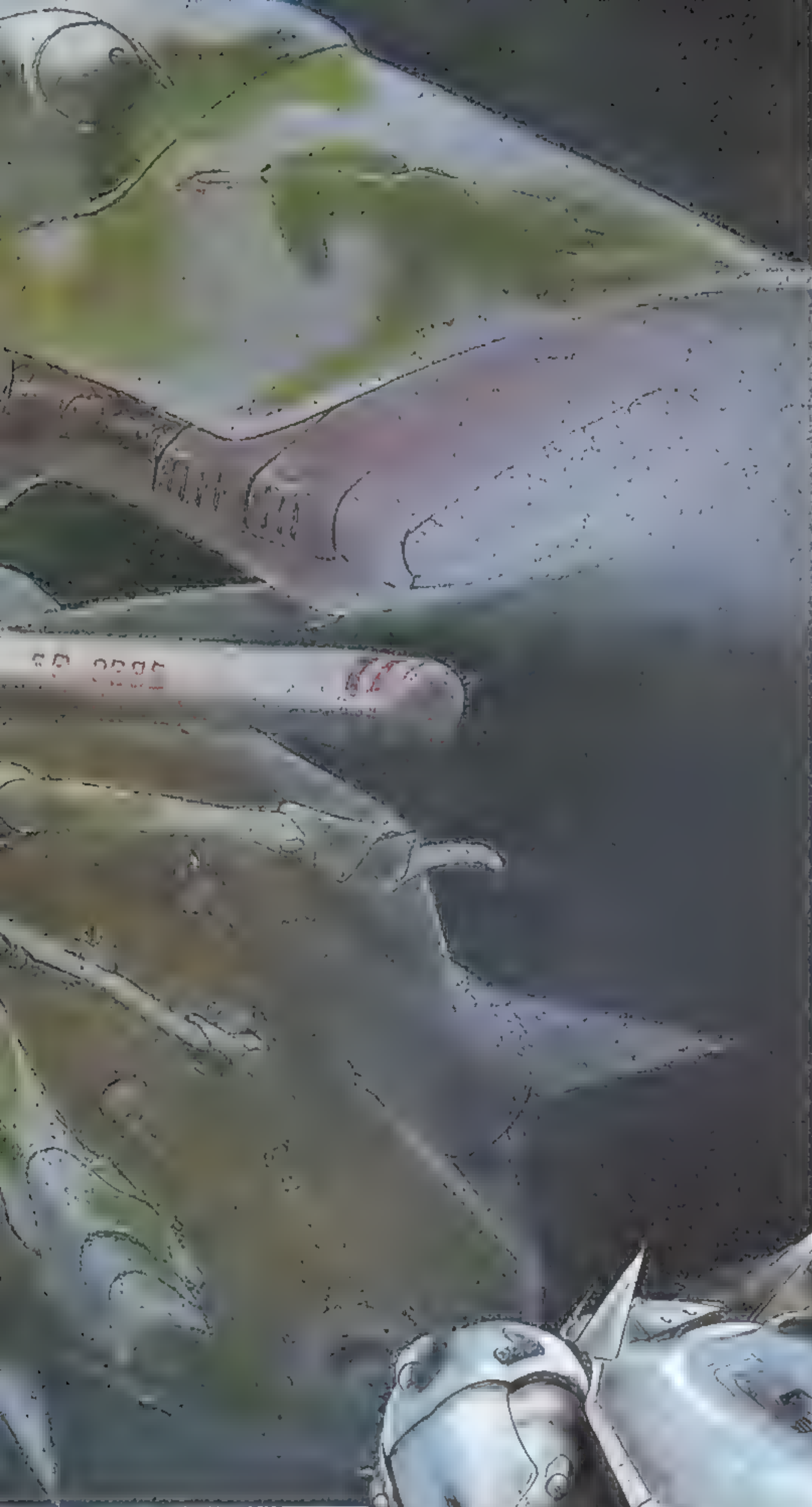
YPKW-006 BREDA

▶ガレリア軍との戦いが長期化するにしたい、ドレッド軍のP.Wは数の上では明らかに劣勢に立たされていた。そのため重P.Wの開発に力を注ぎジャギヤータイプとこのブレッダタイプが試作された。ブレッダタイプは装甲と機動力のバランスのとれた機体として地上、宇宙と幅広く使用され、一方の装甲の厚さに重点が置かれたジャギヤータイプは、ブレッダによって得られたデータをもとにジャギヤーⅡへと発展していくこととなった



PKW-107 GELB

▲汎用PANZER WAFENとして開発され、あらゆる用途に使用された機体。肩アーマーには、キャリアー用ラックを内蔵したタイプもあり、戦場での補給、運搬などもこなす便利な機体である。ゲルブ(黄色)という名称も戦線での補給物資に危険信号が出る頃に現れるところからきているようだ



MAN-010 G-3

▼ニュータイプ用MAの究極の機体がこのG-3。ニュータイプ部隊創設に力を注いだジオン軍は、ニュータイプ特殊部隊を意味する「GEIST GRUPPE(幽霊部隊)」を編成。彼等の搭乗するMAをG(ゲイ)ナンバーで呼ぶようになり、G-1は、エルメス級を指し、その後には作られたG-2はトランスフォーマー・システムを導入により、エルメス級より大型になってしまった。それをさらにリファイン、小型化したのがMAN-010 G-3(ゲイ・ドライ)である



MAN-010 G-3

▲G-3が左右の肩アーマーおよびファンネル・コンテナを展開して、攻撃を仕掛けようとしている所。ニュータイプ部隊の攻撃は目視できない遠距離攻撃のため、その戦果についての確認が難しいが、ニュータイプ部隊による戦局の変化は明らかなようである

M2A1 GRASS HOPPER

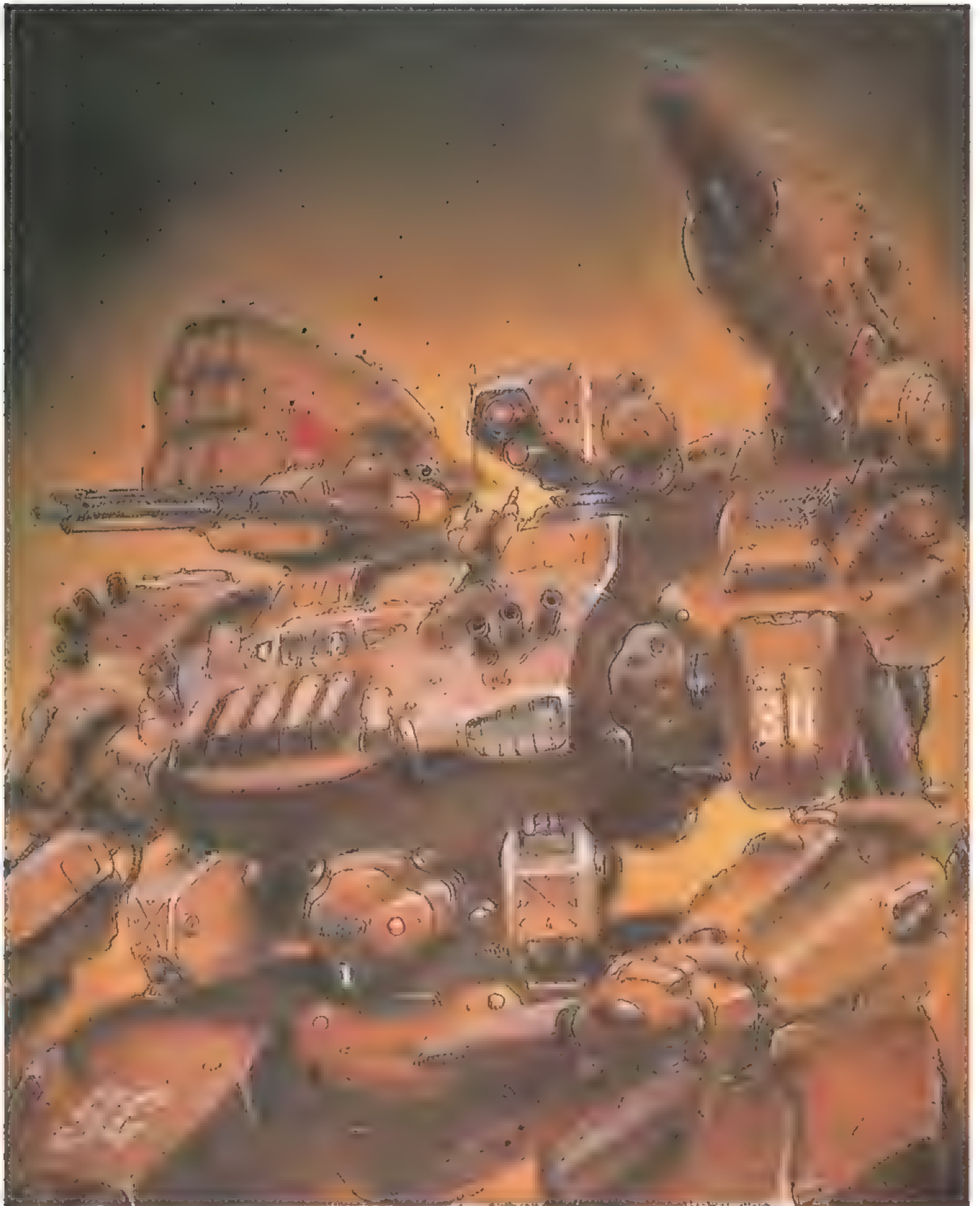
◀ 局地戦用甲殻兵器グラスホッパー(バッタ)は、ジャングルおよび沼地などの過密戦場車両の入れない地域での戦闘を想定して作られた人型兵器である。小型および汎用性に優れているが、移動の際の行動半径の短さなど、改善されなければならない問題も多い

XD-01SR DRAGONAR

▼ 全高17.6m、動力FPW4W型超小型核融合炉×2、出力24万ボルト、39.5万ボルトアフターバーナー使用時9.5万ボルトプラス。最大速度マッハ0.98、SL最大重量121.6t、出力0.987、ドライ探知装置、イメージセンサーTAS15型、重力場感知システムWG3S型、装甲トリプルハードニス型ヘビーコーティングMAX155■







MBR-5RA2C SERGEANT GUNHEAD

WH603Sサージャントクラスコンピュータ搭載火器管制システム
リトルブレイン型ベトロニクスNANDSONIC-9

基本重量88.05t、出撃重量43.7t

【GⅠモード】

全長8.7m、全幅5.4m、全高2.47m

最大速度180km/h、行動距離760km

【GⅡモード】

全長6.12m、全幅5.76m、全高6.28m

最大速度140km/h、行動距離647km

◀既に時代は、戦闘用車両AFVの時代から人型装甲兵器の時代へと移行しつつある。しかし通常二本の足で歩く以上、足がウィークポイントとなり、片足走行が可能か飛行可能な新たな装甲兵器が生まれぬ限り、人型兵器は局地的な戦闘用兵器としてしか使用されないであろう





DIDRAMA PHOTO STORY

ANOTHER WAR in U.C.0044

SCENE:1 Drohung

宇宙世紀0044年、ガレリア軍は雪解けを待って我方の前線を突破すべく大攻勢をかけてきた。人型の機動兵器「バンツァーヴァッフェン」を主勢力とした一團師団が中央から侵攻。我々も新型PW、ジャガーⅡでこれに対抗した。





しかし、ガレリア軍は我々の予想をはるかに超える兵器を戦場に送り込んでいたのだ。新鋭機ジャガーⅠの機動力を持ってしても容易に倒すことはできない。そればかりかその大型機動兵器には隠された兵器が搭載されていたのだ。我々は最大のピンチを迎えていた……

END





SCENE:2 Durchbruch

一度はガレリア軍の大攻勢により前線を突破されかかったが、新鋭機ジャガーⅡの投入によって阻止。だがガレリア軍の第二次攻勢を待たずして我軍も反撃に出た。



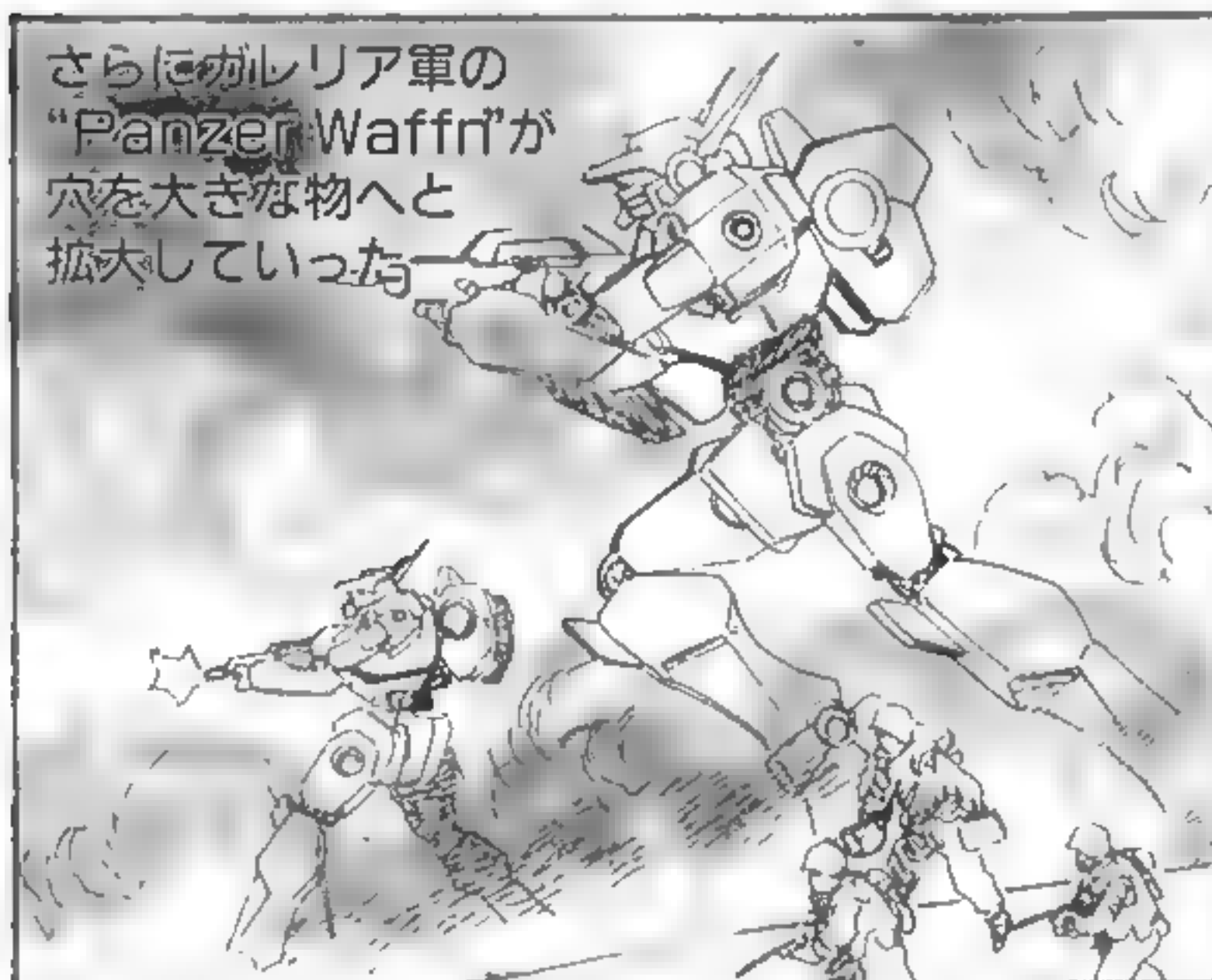


敵陣営にはすでに新型PWが配備されており、我軍の攻撃に正面から対抗してきた。思いもよらぬ苦戦を強いられたが、ファウスト・グスタフによって編成されている重機動陸兵大隊のアウトレンジからの支援によって、ドレッド軍の前線突破を阻止したのだった

END

ANOTHER WAR in U.C.0044

第一話「Drohung(脅威)」



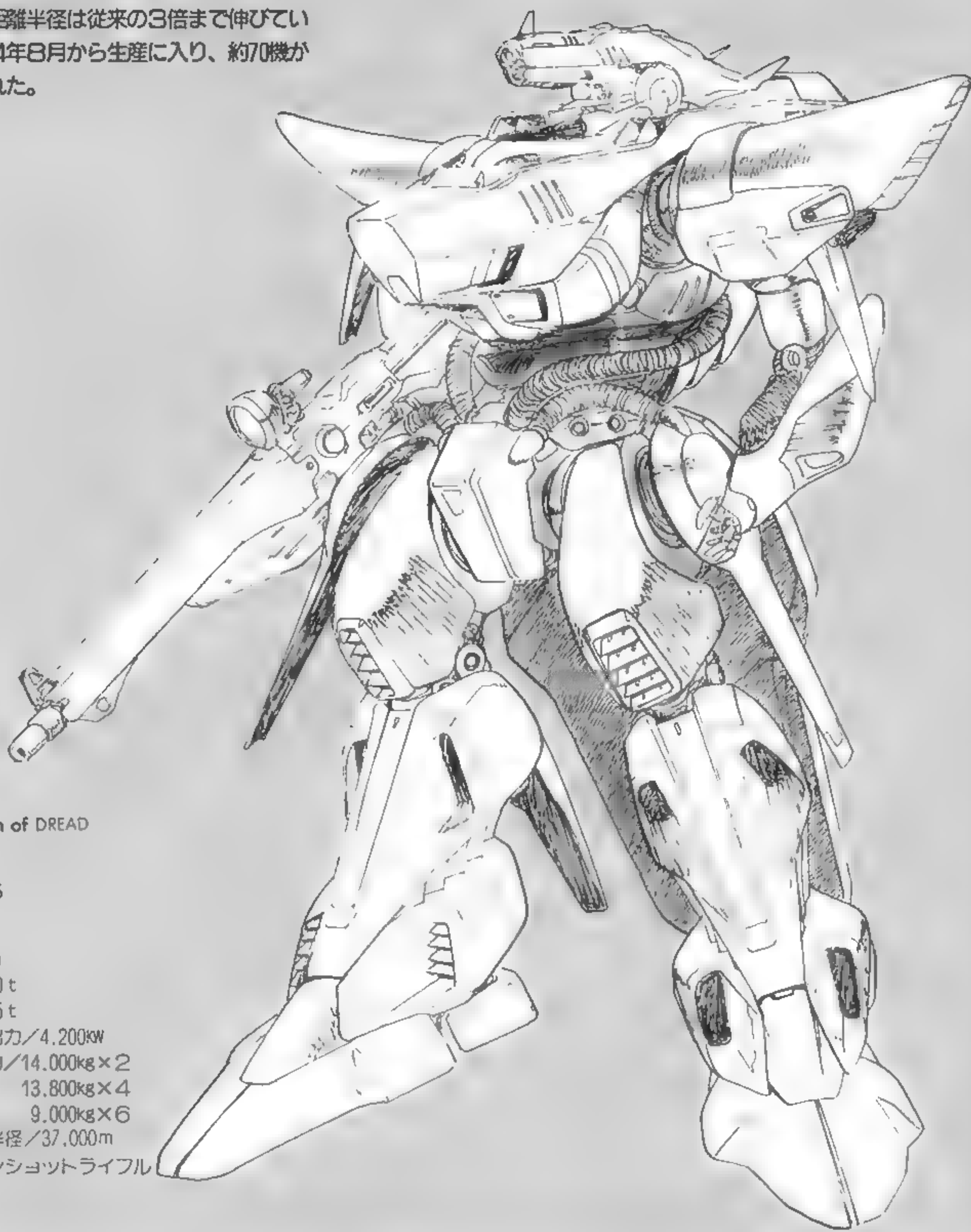


ドレッド軍

PMS-007B

JAGUAR II [Zwei]

陸戦用パンツァーヴァッフェン(Panzer Waffen)として開発されたジャガーPMS-007のアップデートバージョン。タイプIで脆弱だった前面装甲を中心に強化された他、地上での走行性能を高めるため、脚部にホバリング用のエンジンを搭載している。また、頭部のセンサー部も一新され、探知距離半径は従来の3倍まで伸びている。本機は0044年8月から生産に入り、約70機が実戦に投入された。

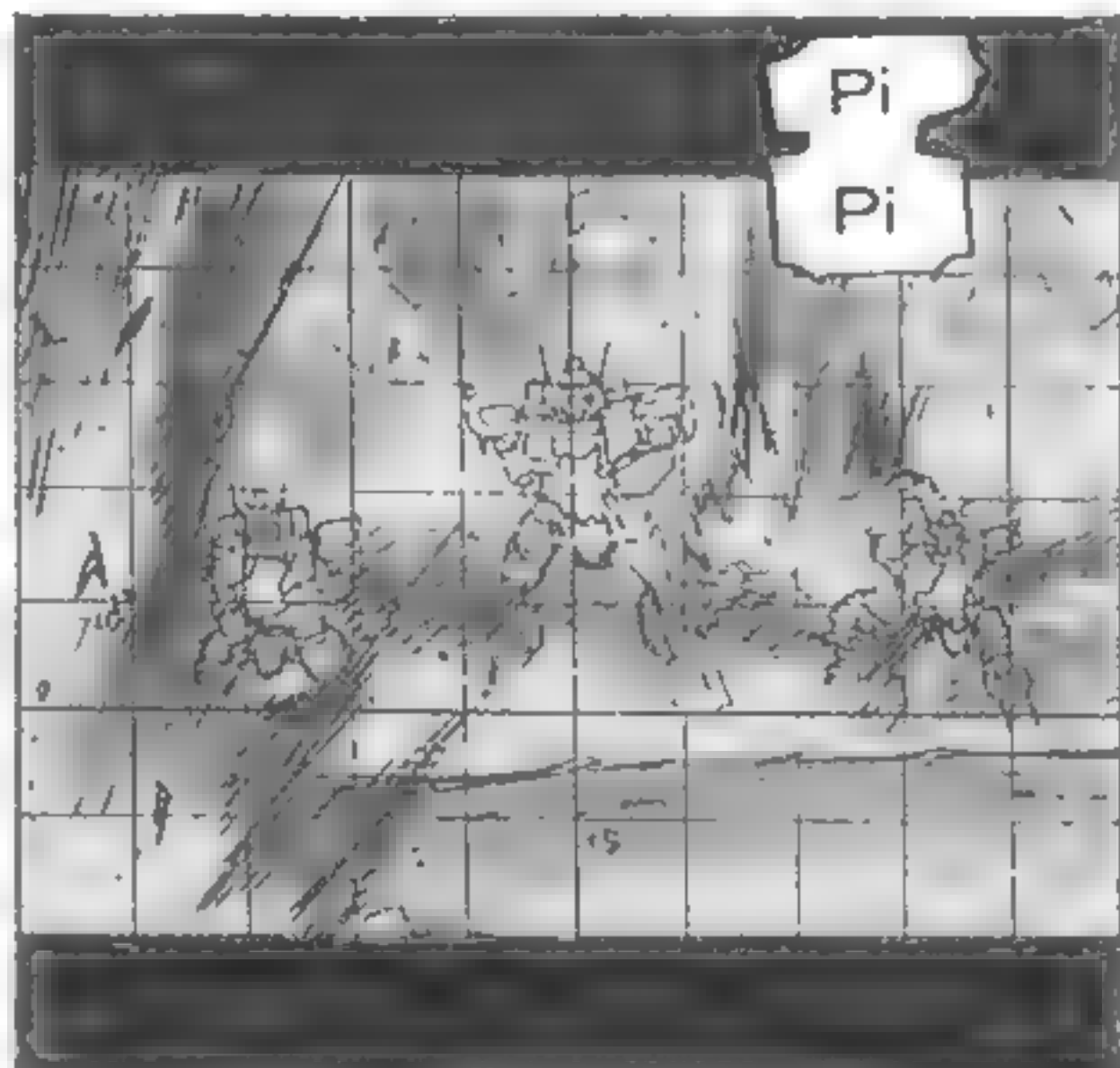


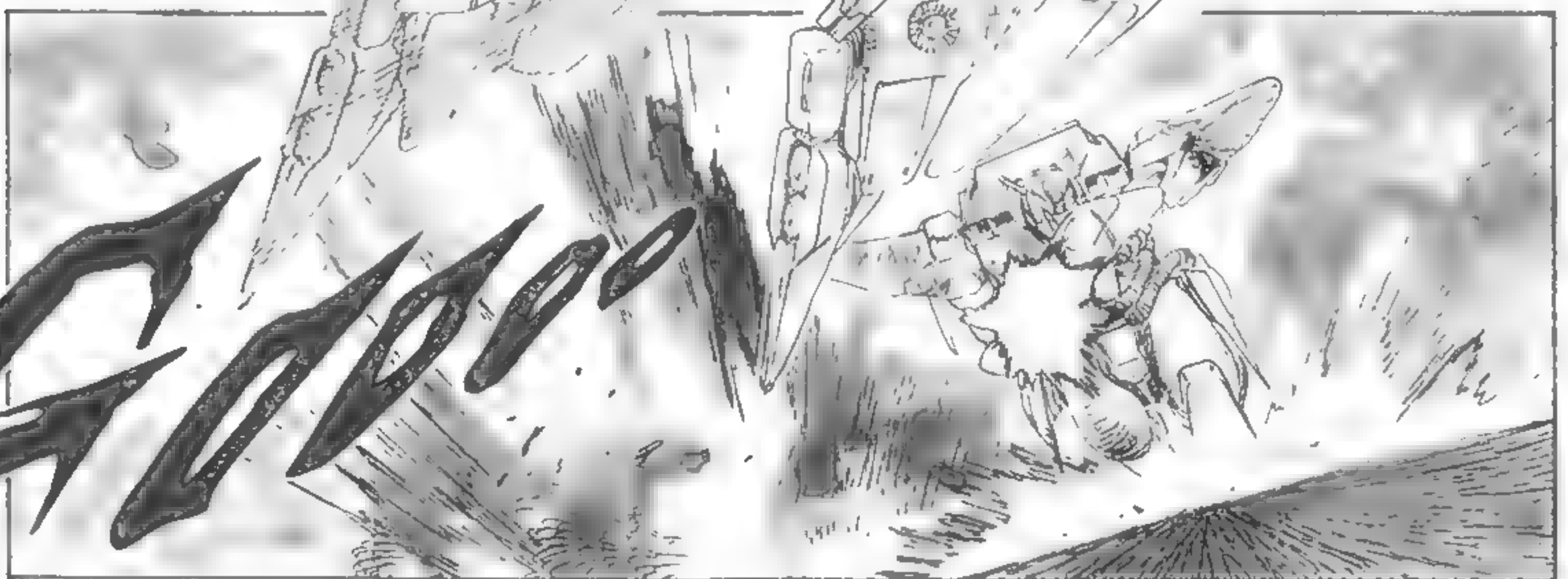
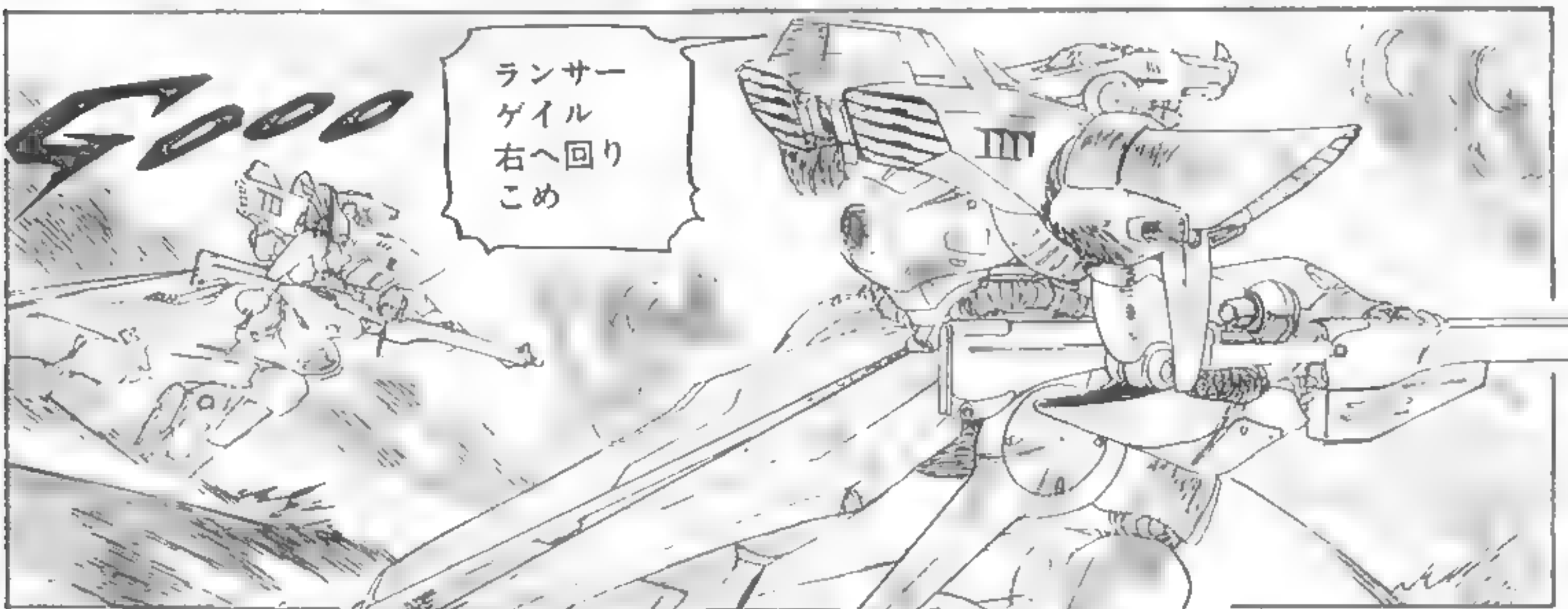
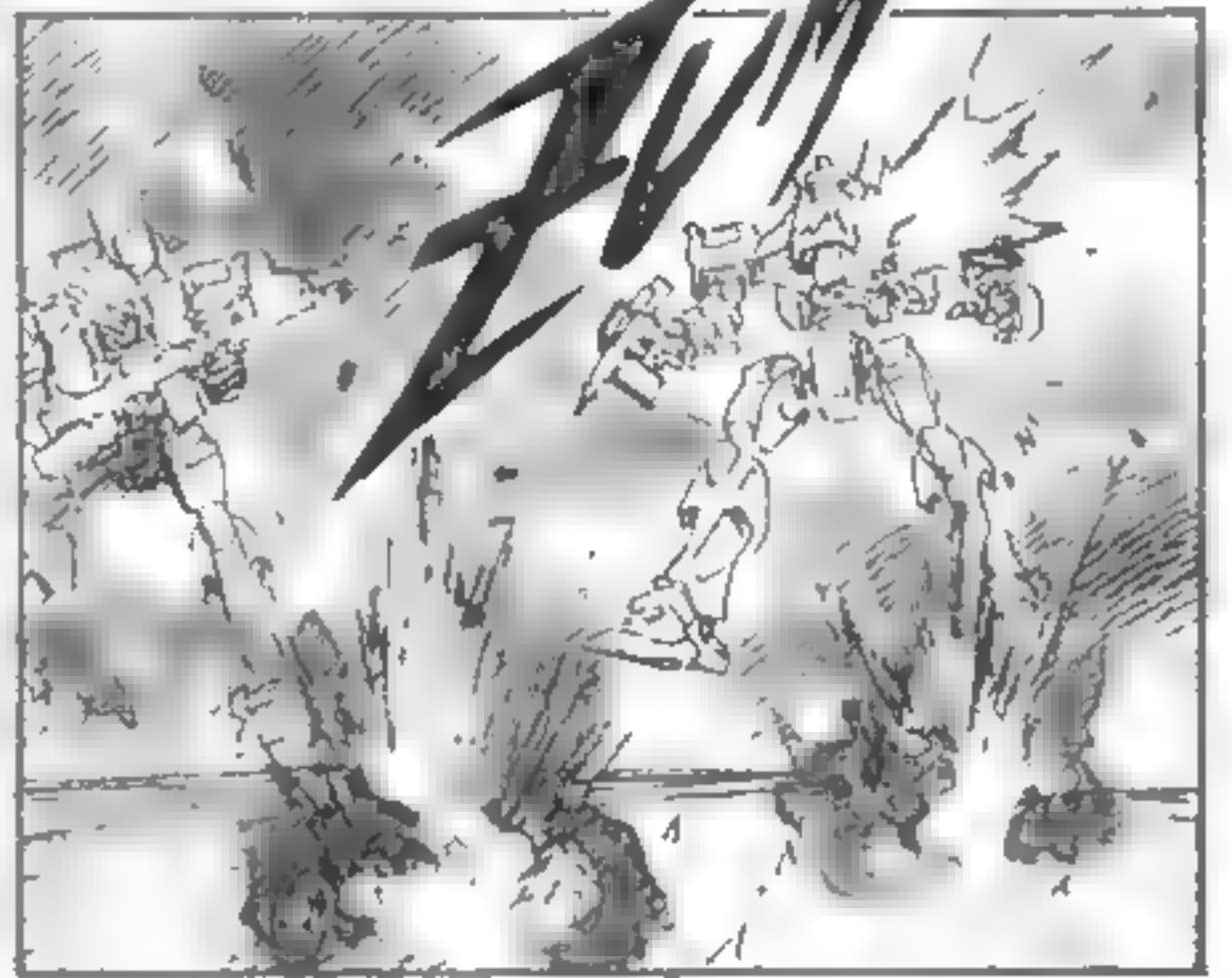
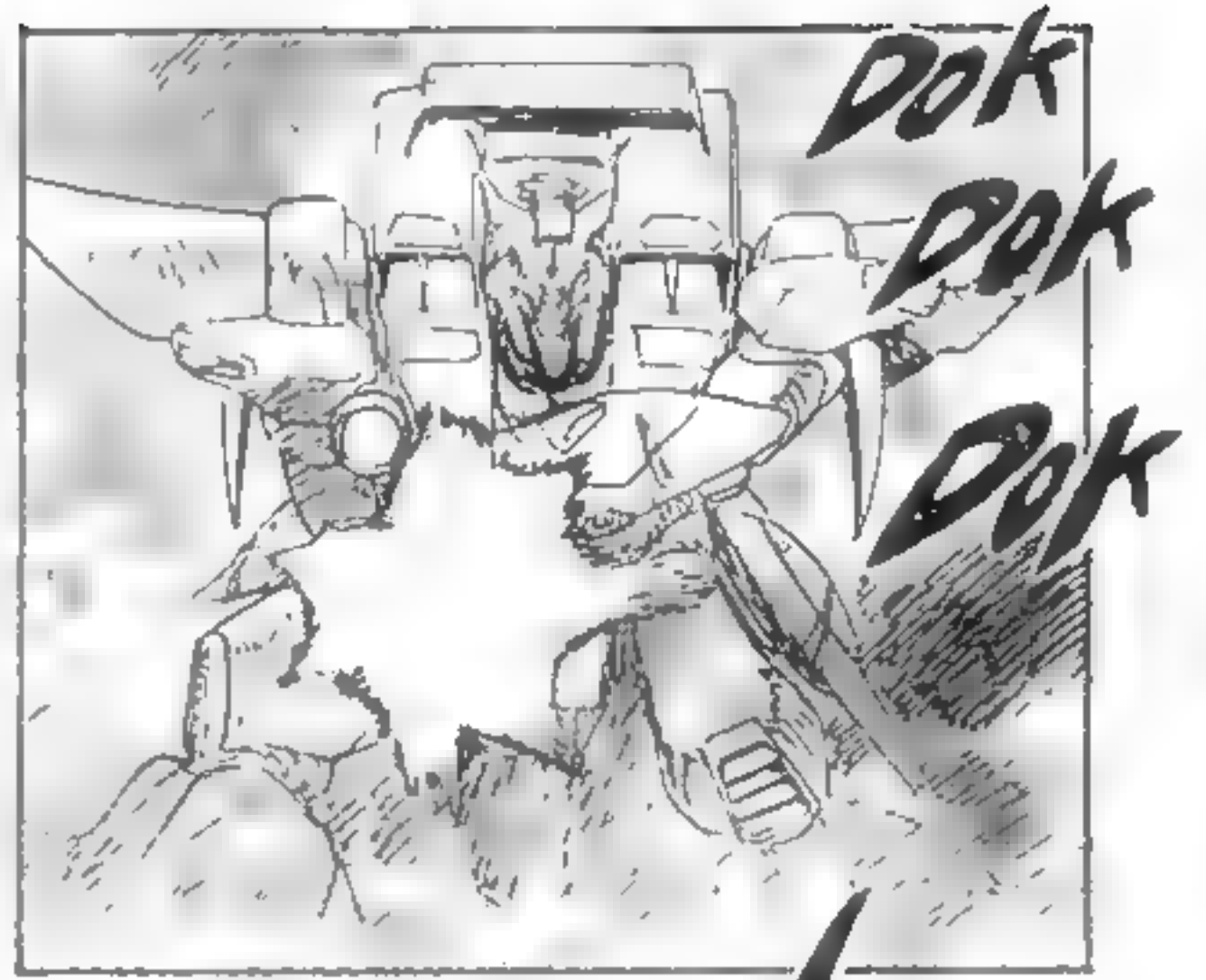
The Organization of DREAD

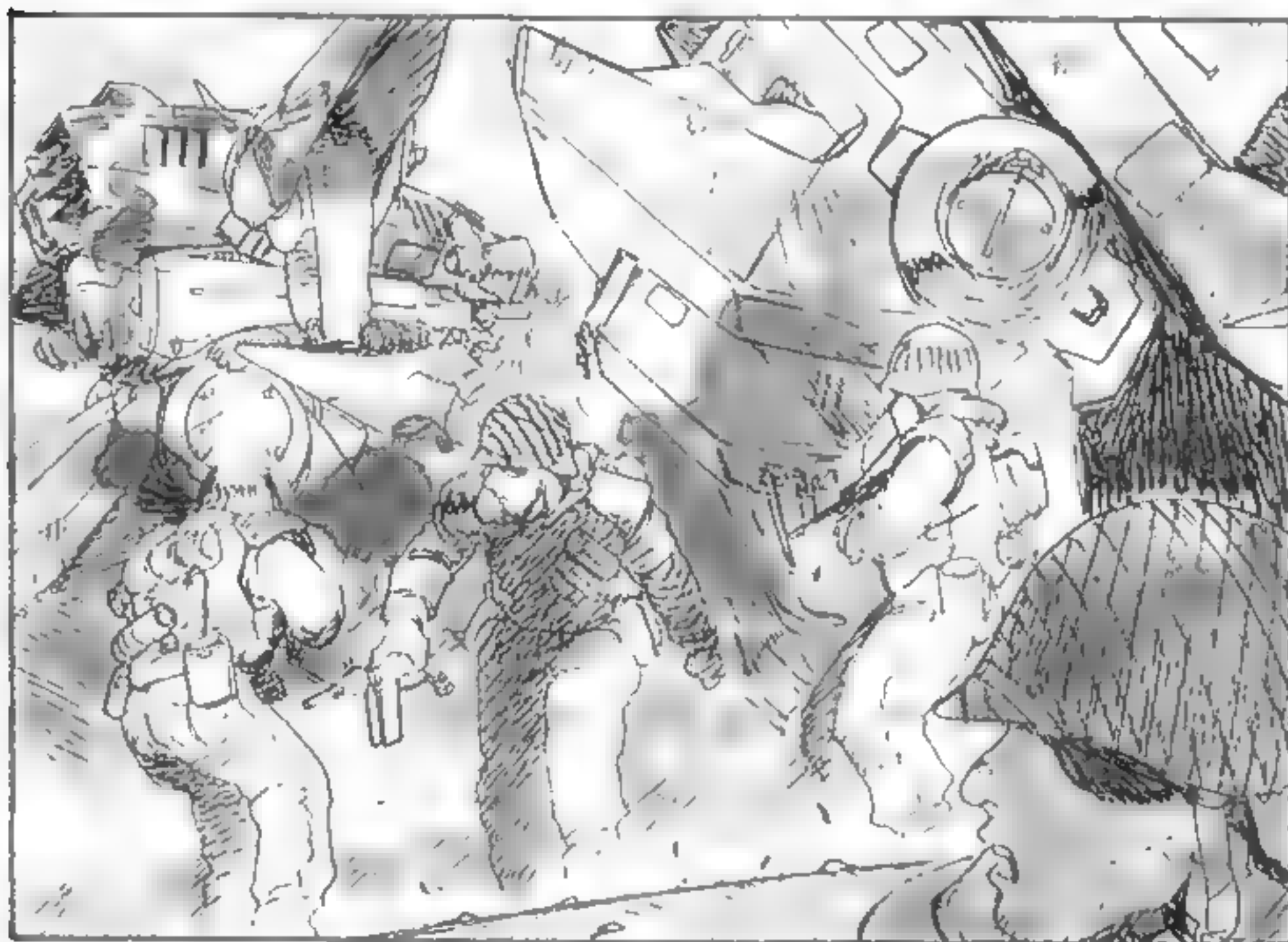
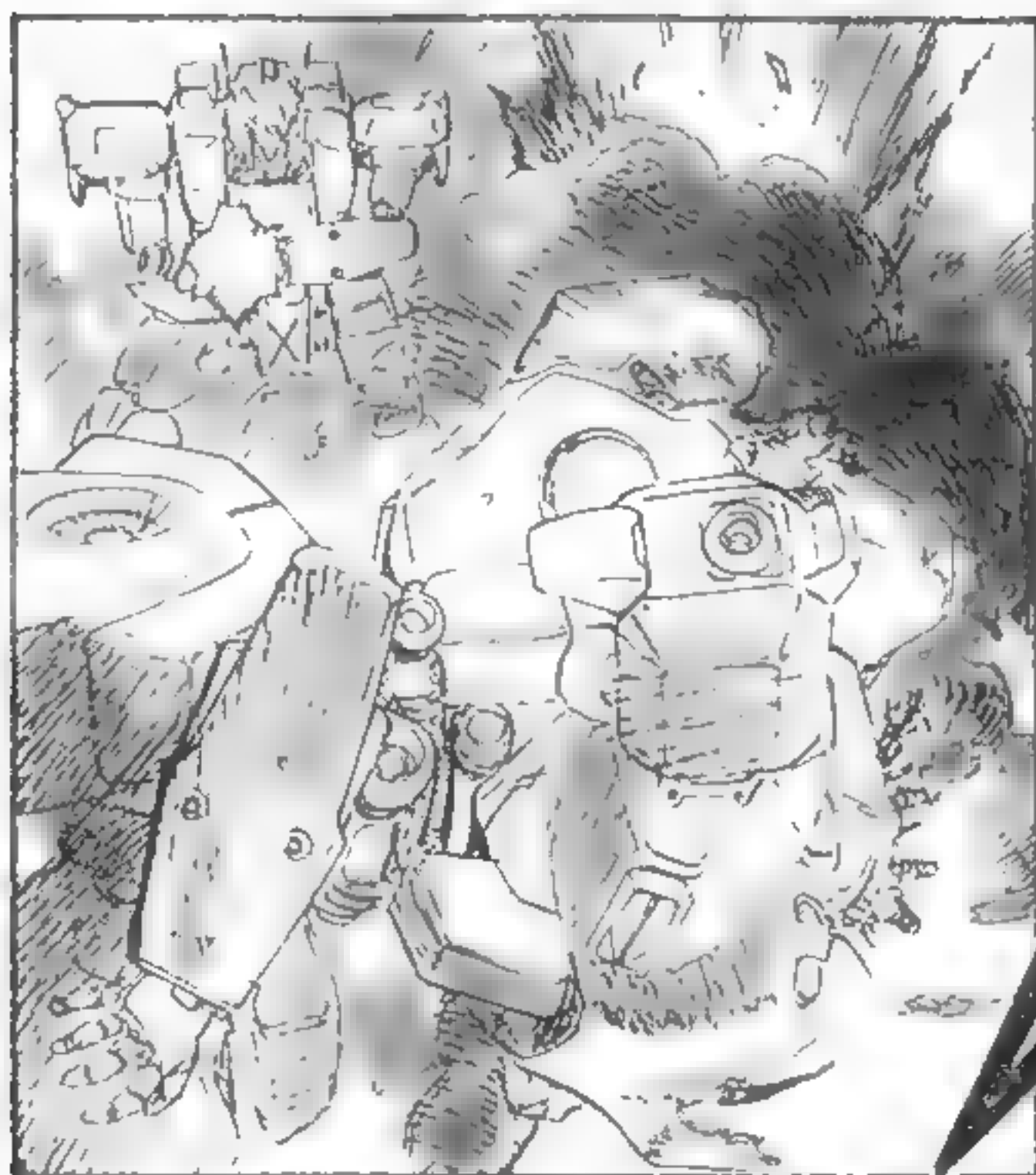
PMS-007B

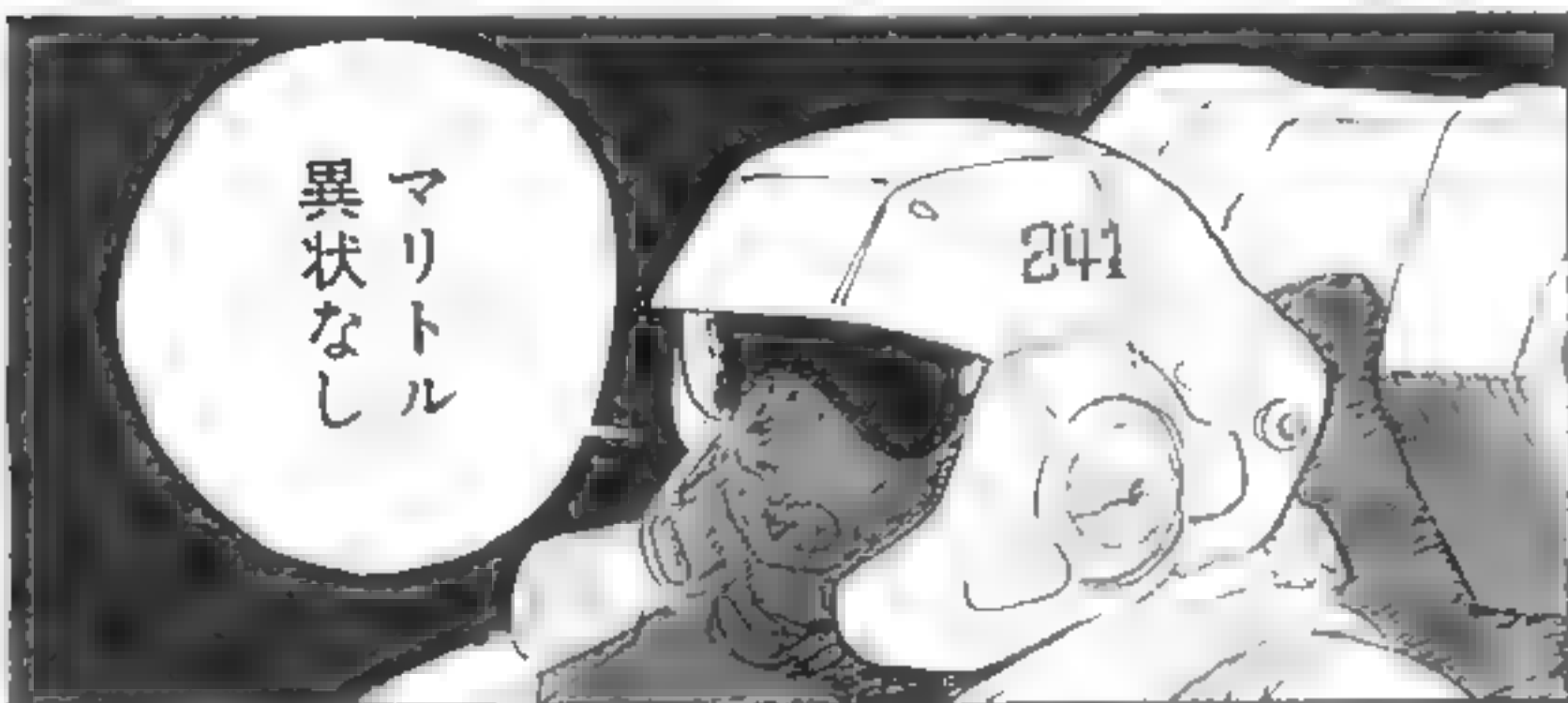
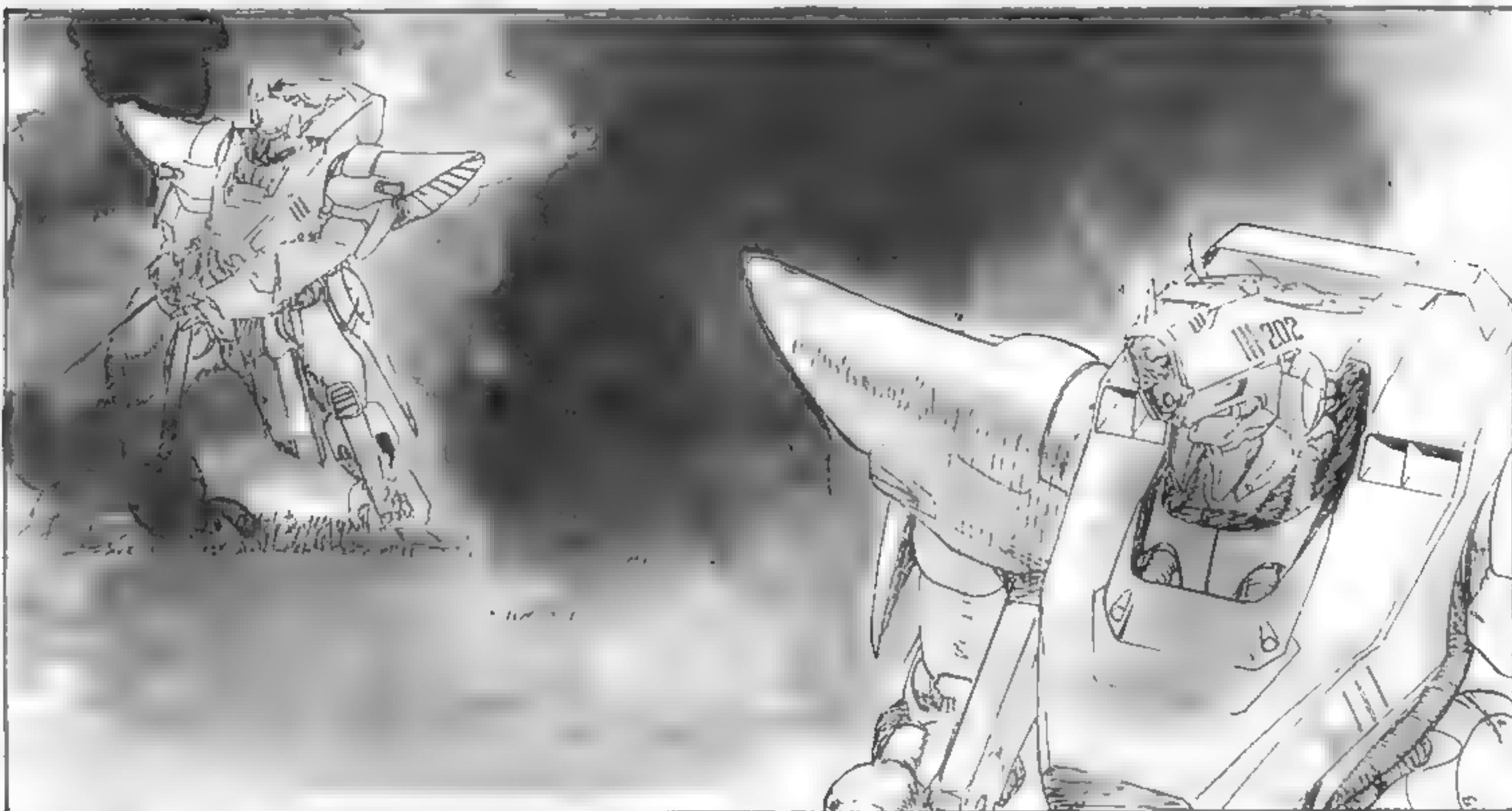
SPECIFICATIONS

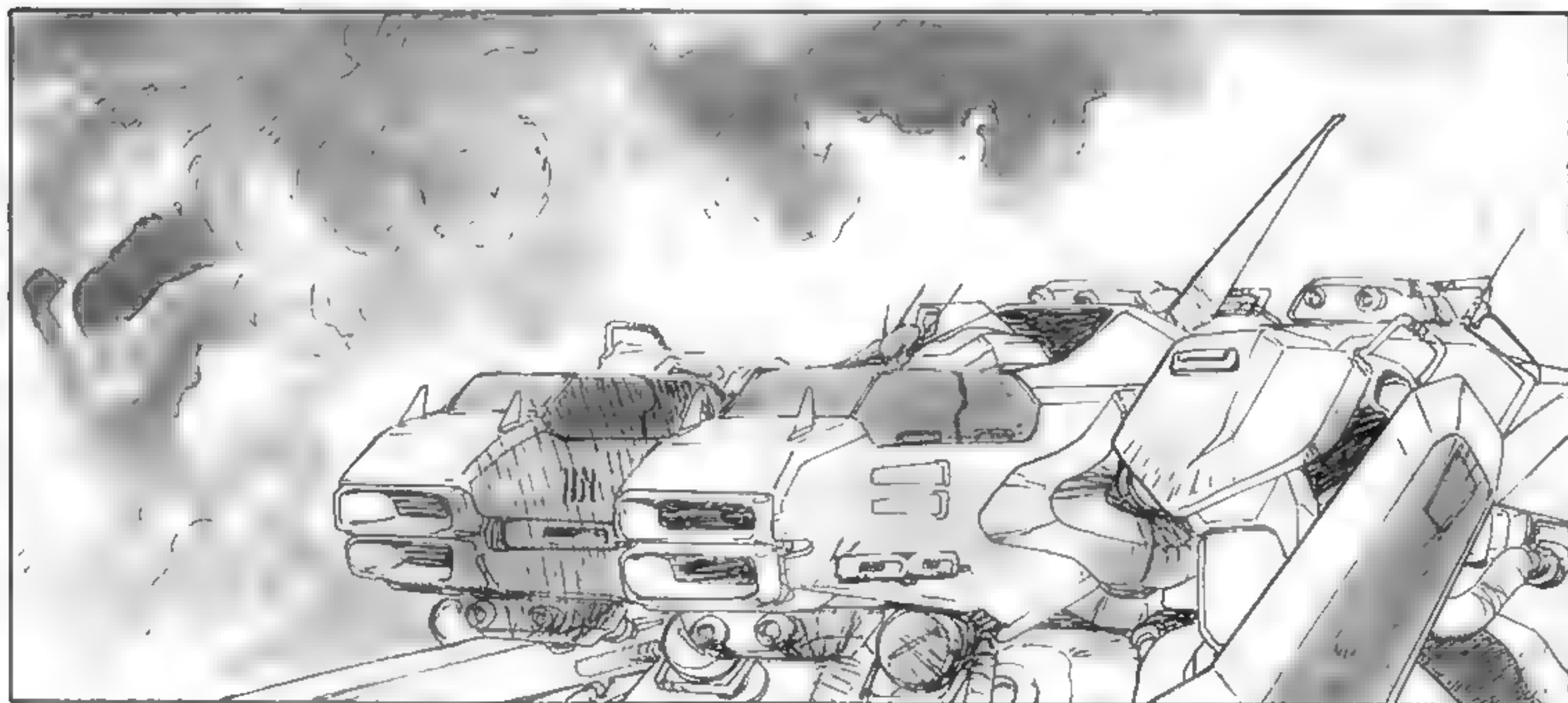
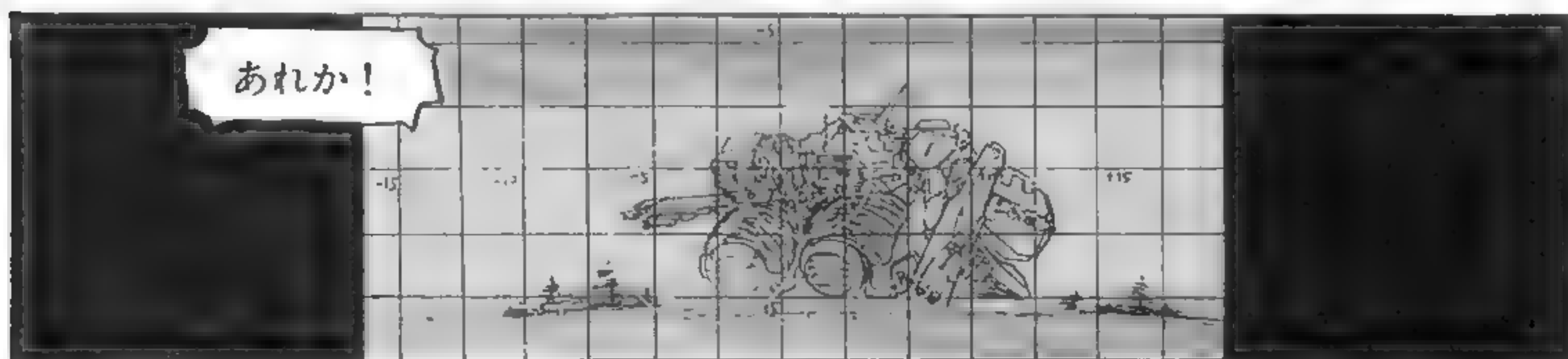
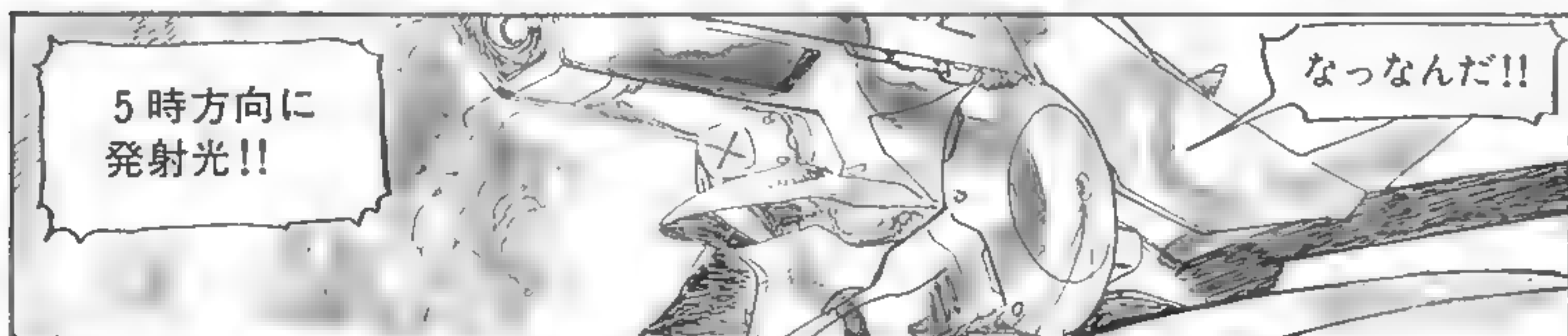
- 頭頂高/20.8m
- 本体重量/30.0 t
- 全備重量/65.5 t
- ジェネレータ出力/4,200kW
- スラスター出力/14,000kg×2
13,800kg×4
9,000kg×6
- センサー有効半径/37,000m
- 武装/バルカンショットライフル

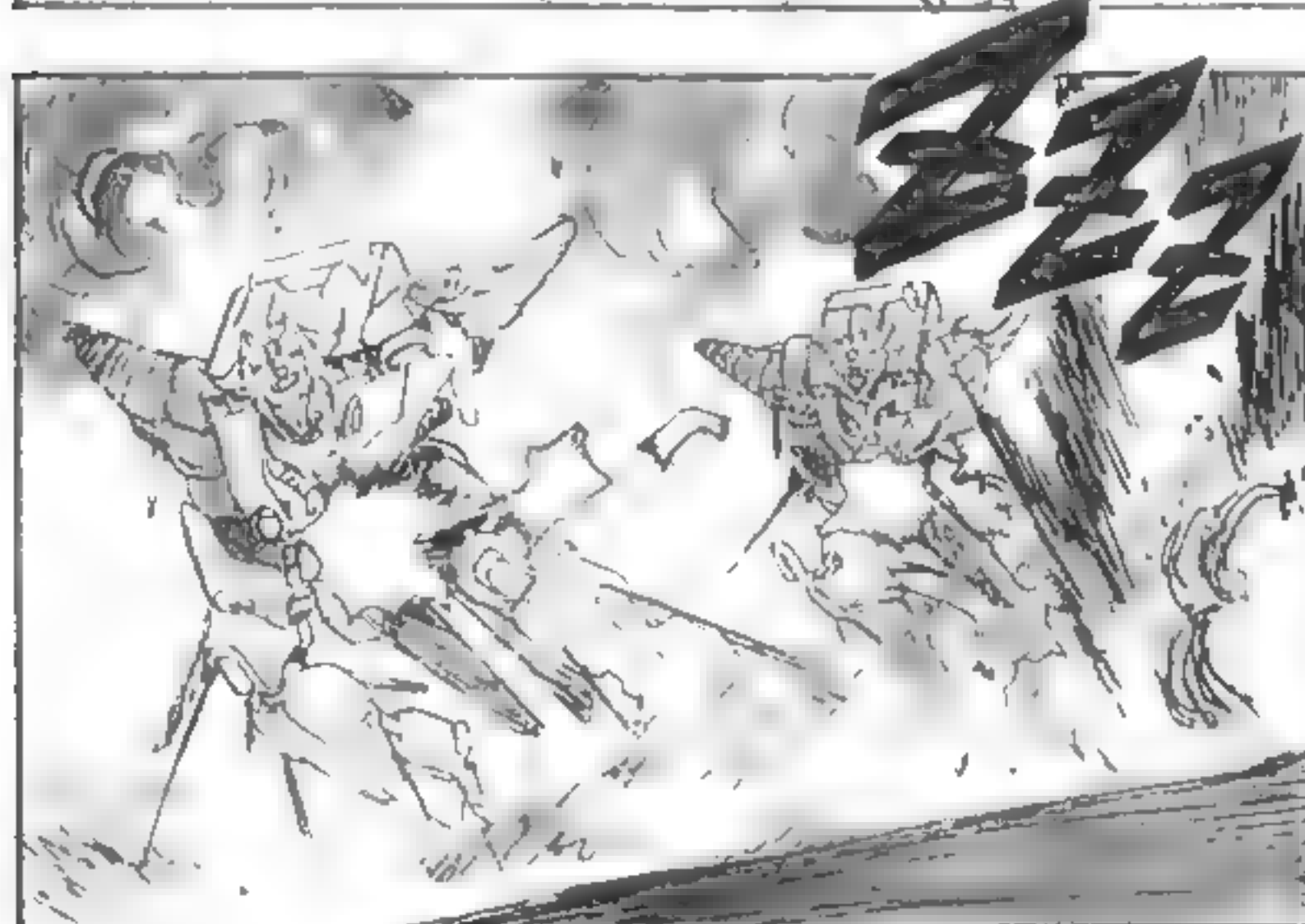
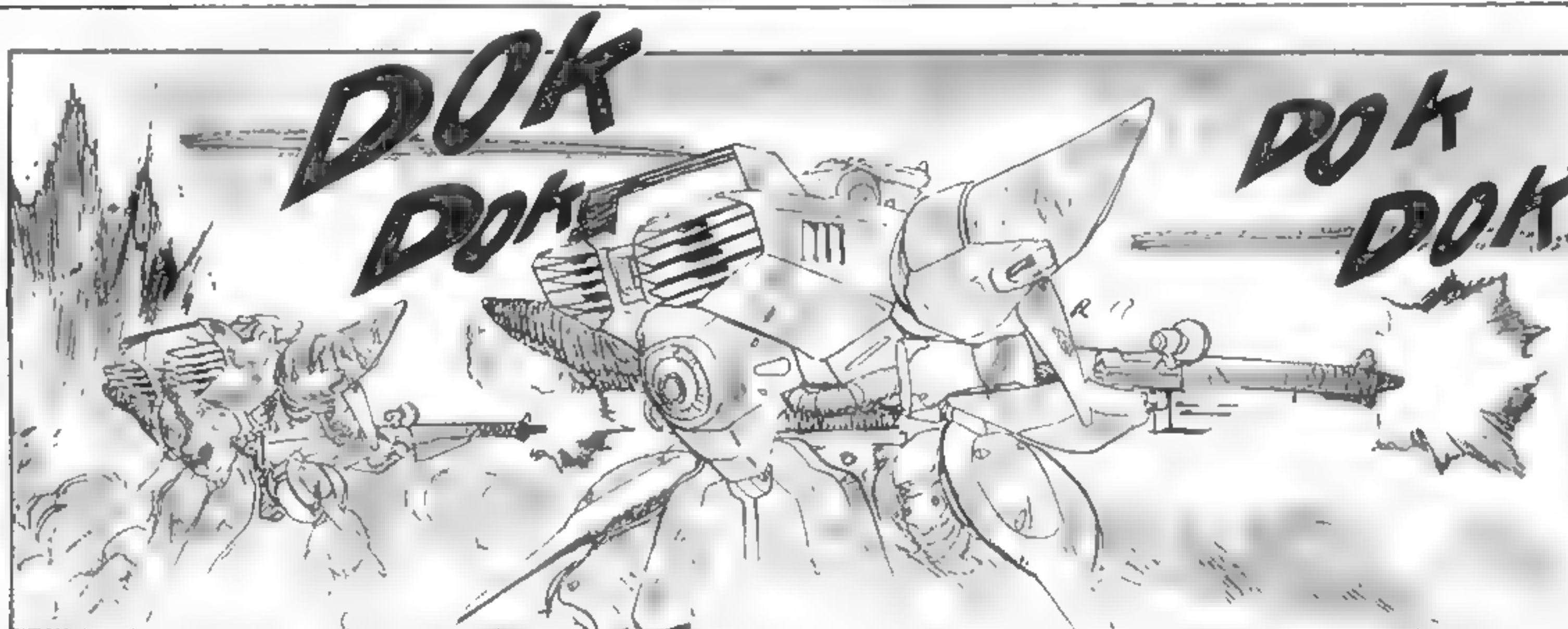
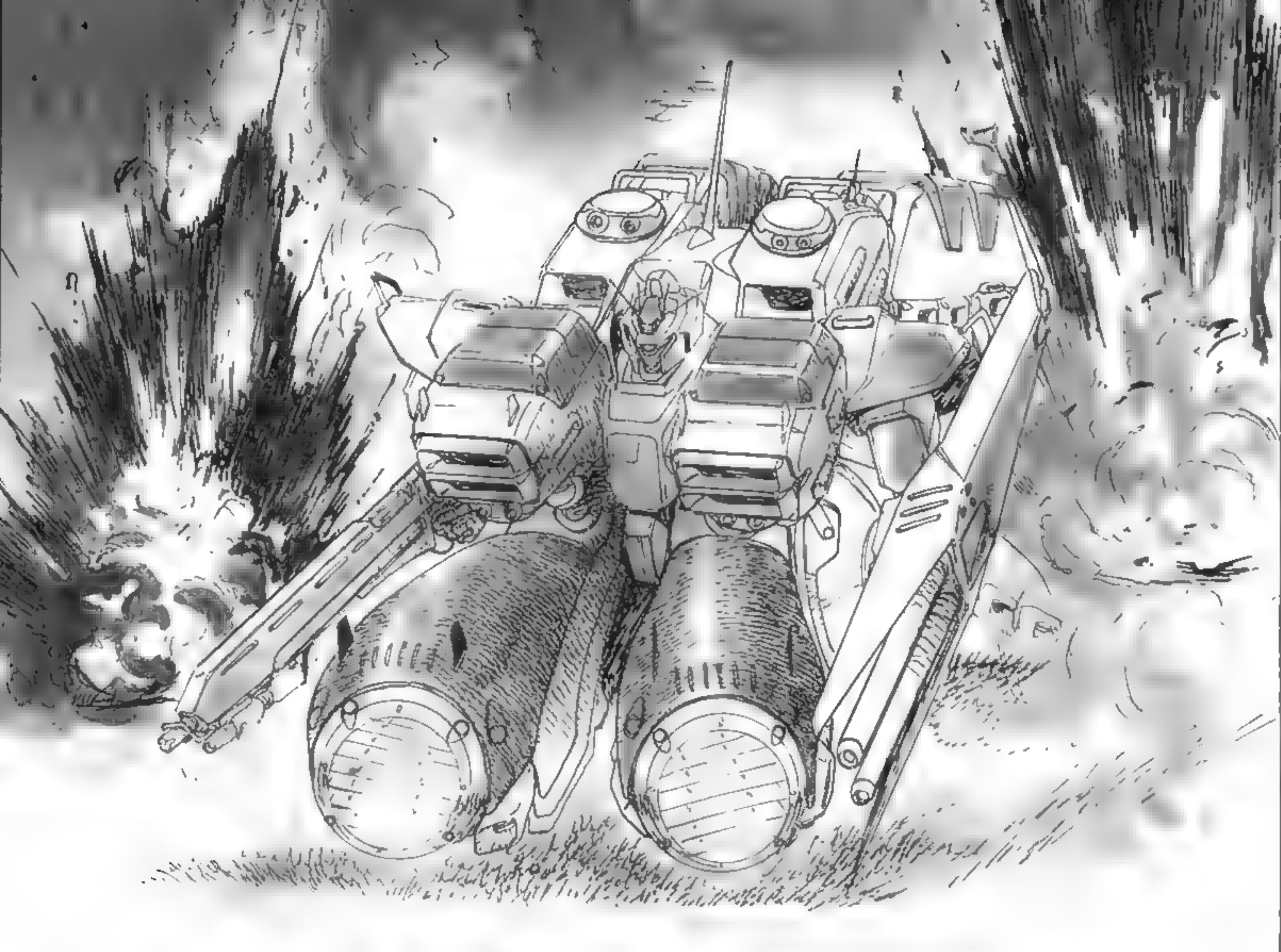


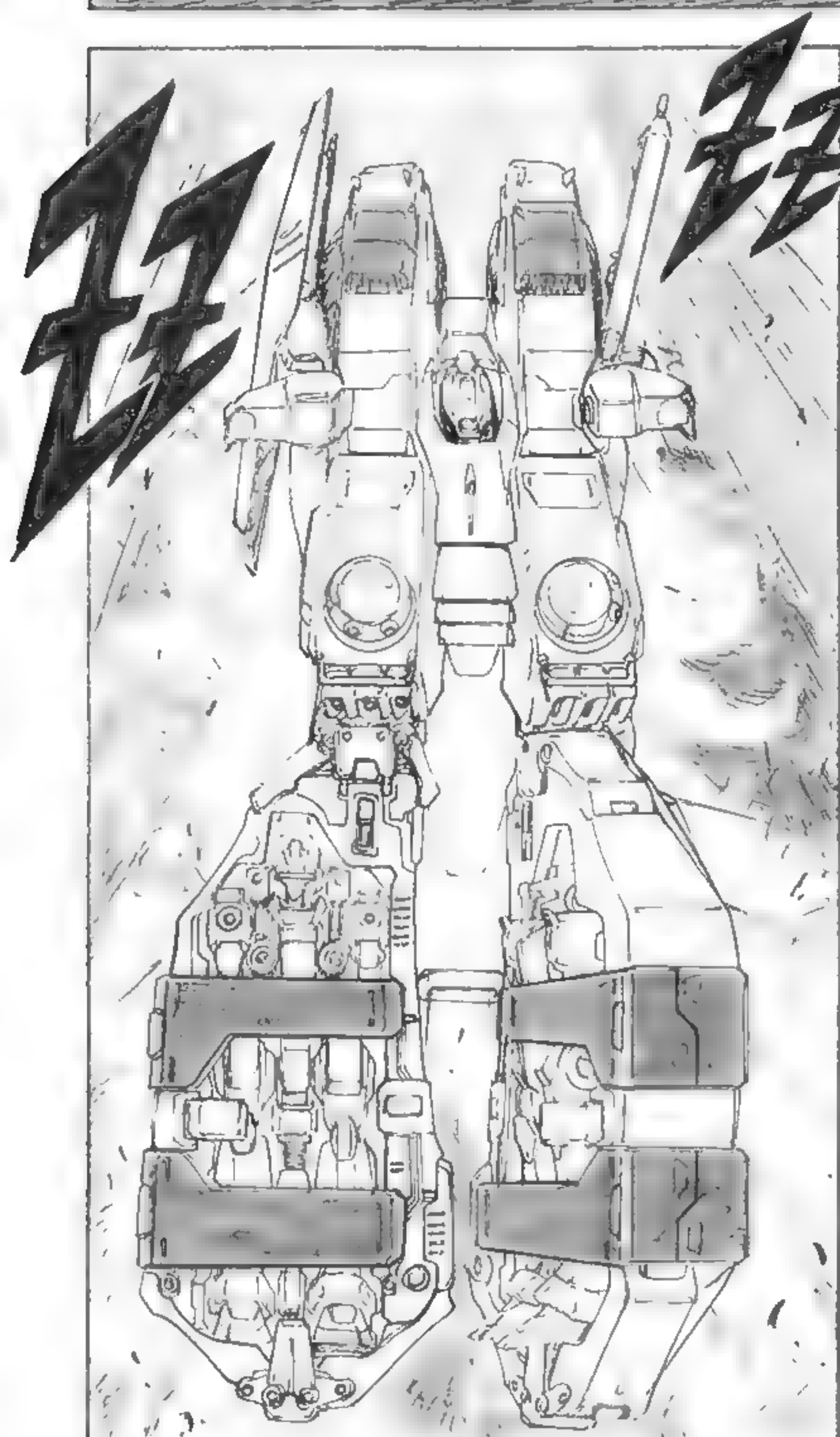
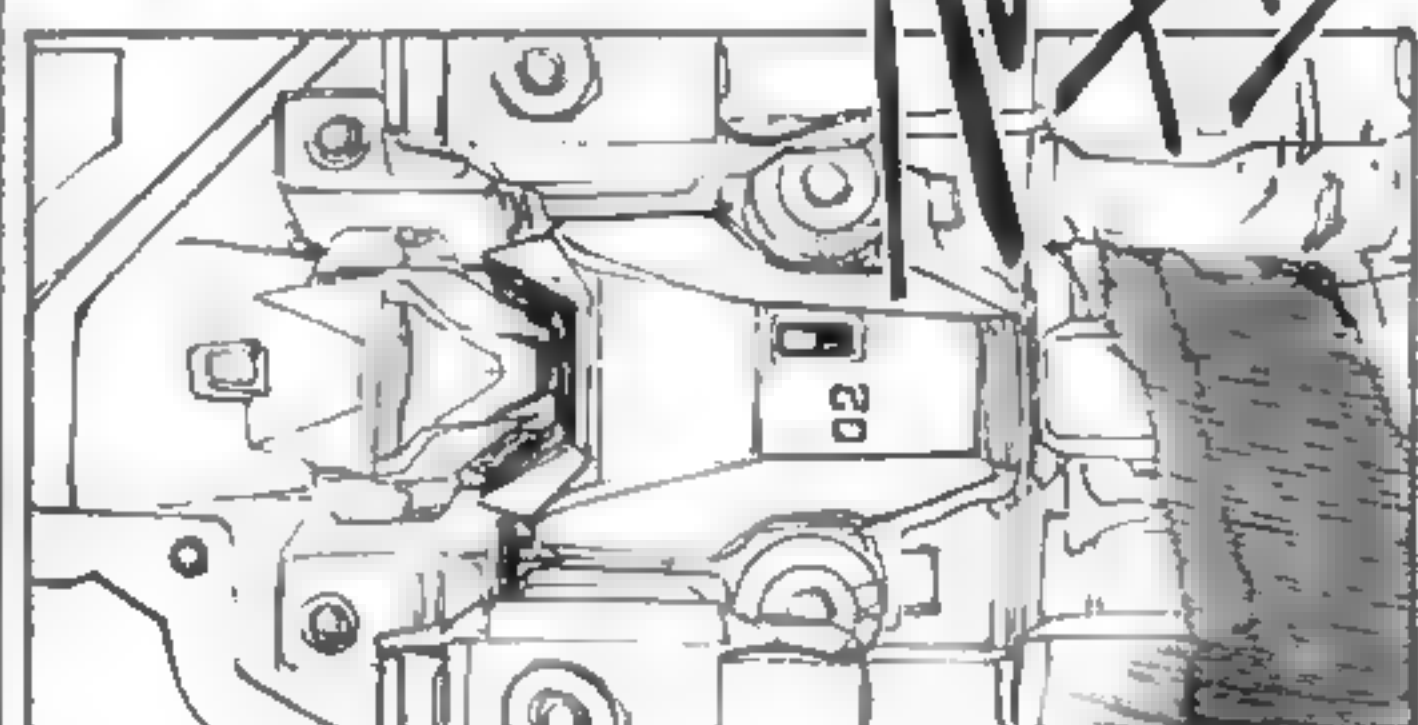
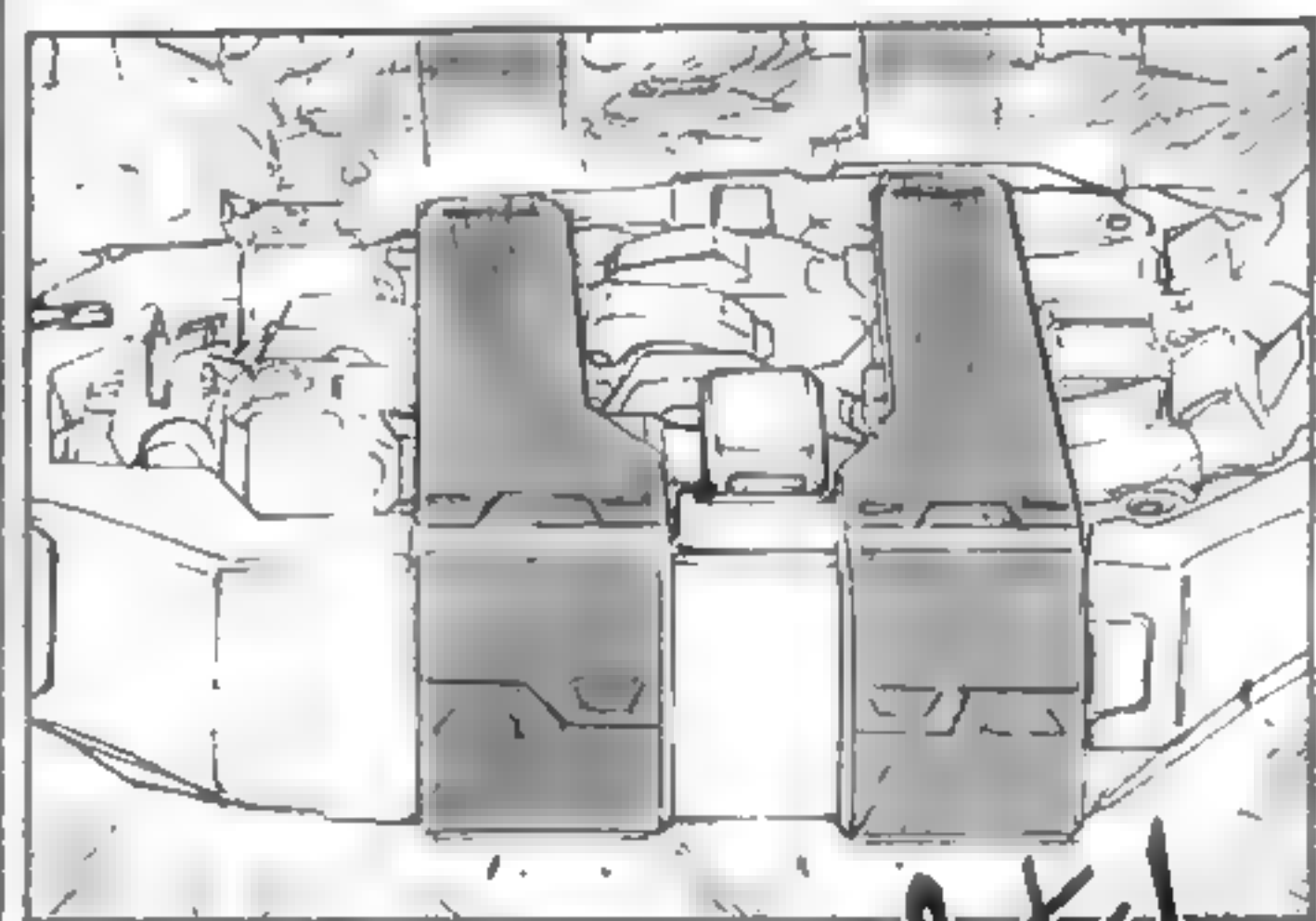
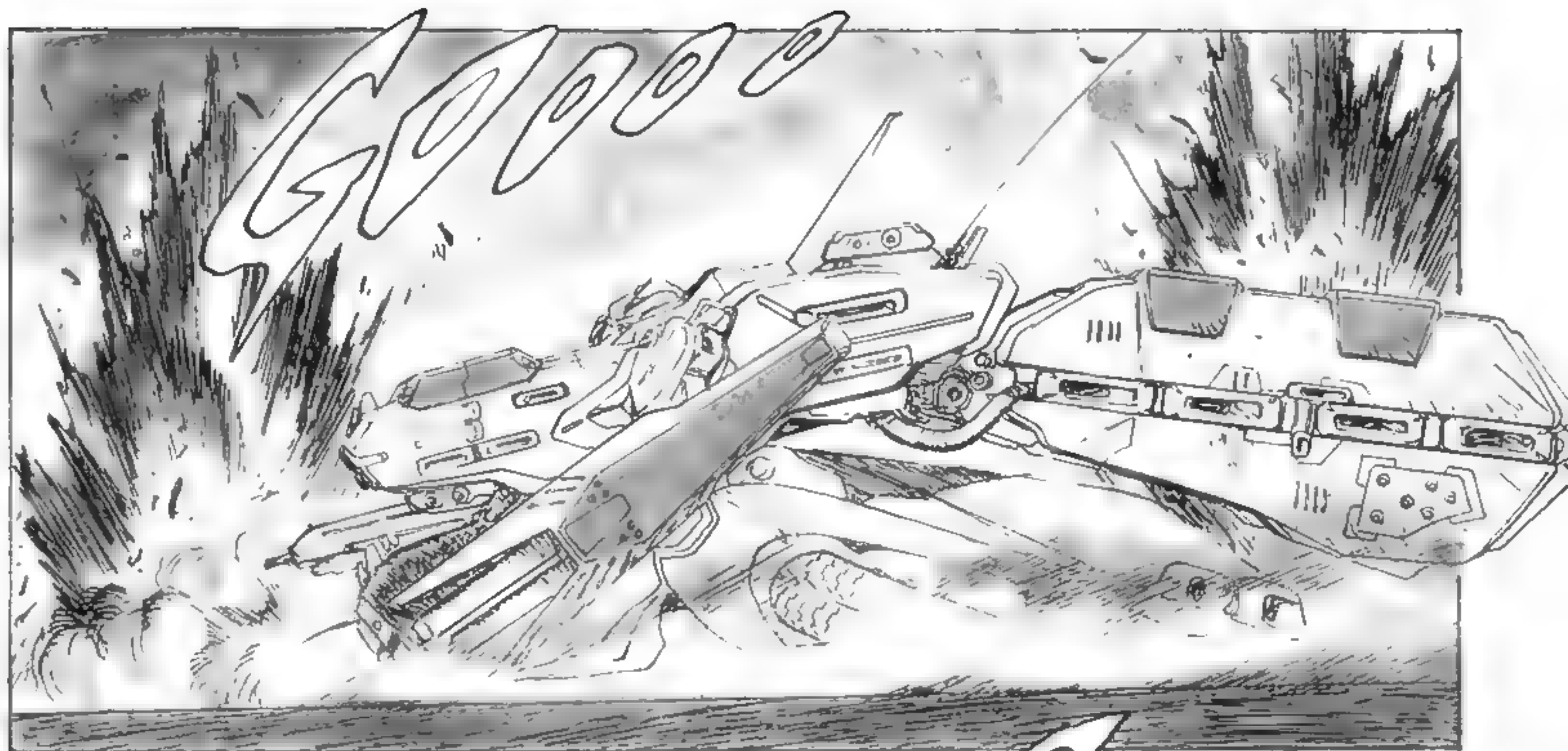












ガレリア軍

M4AA2_R

BG_R [Body Guard Radiobeam]

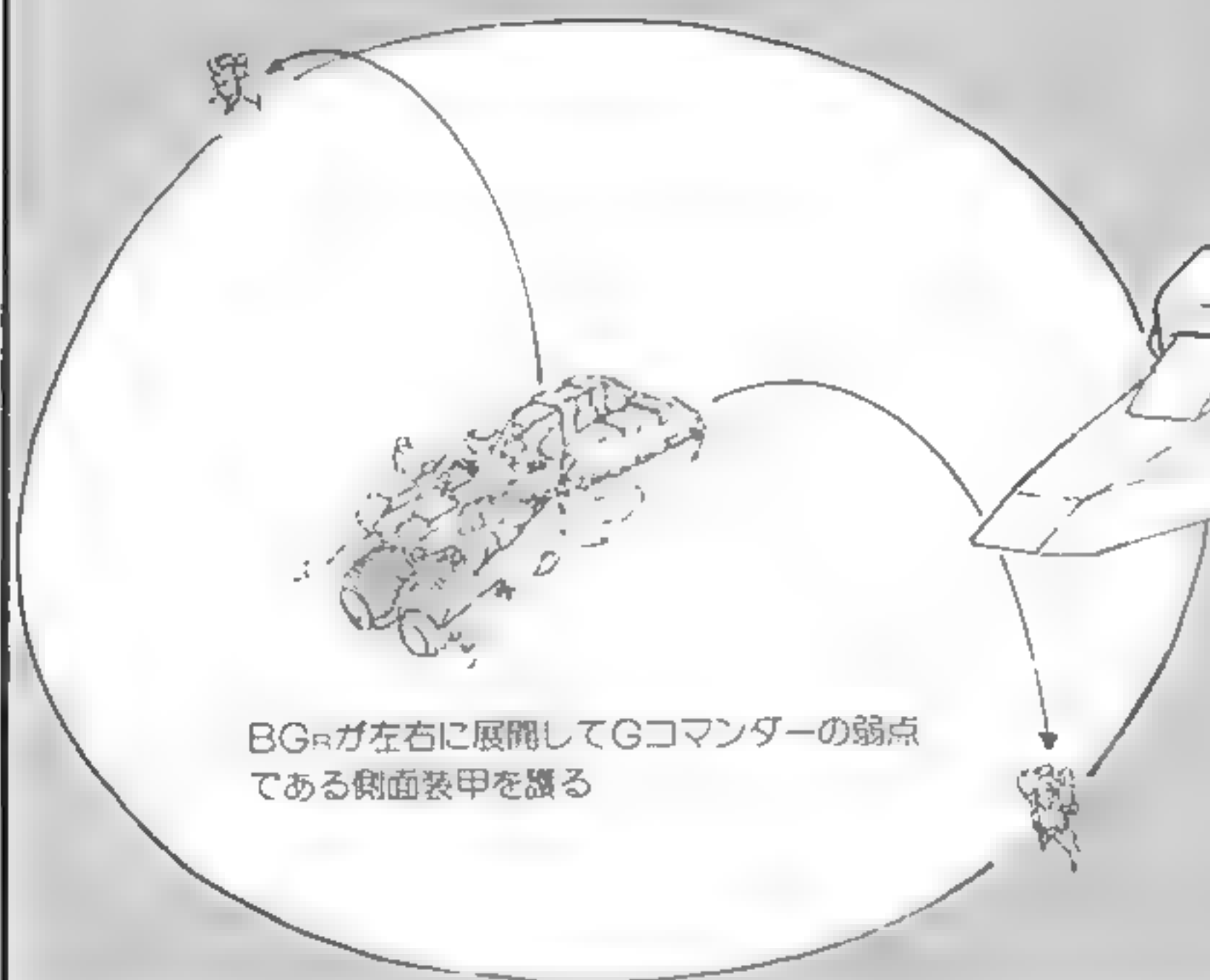
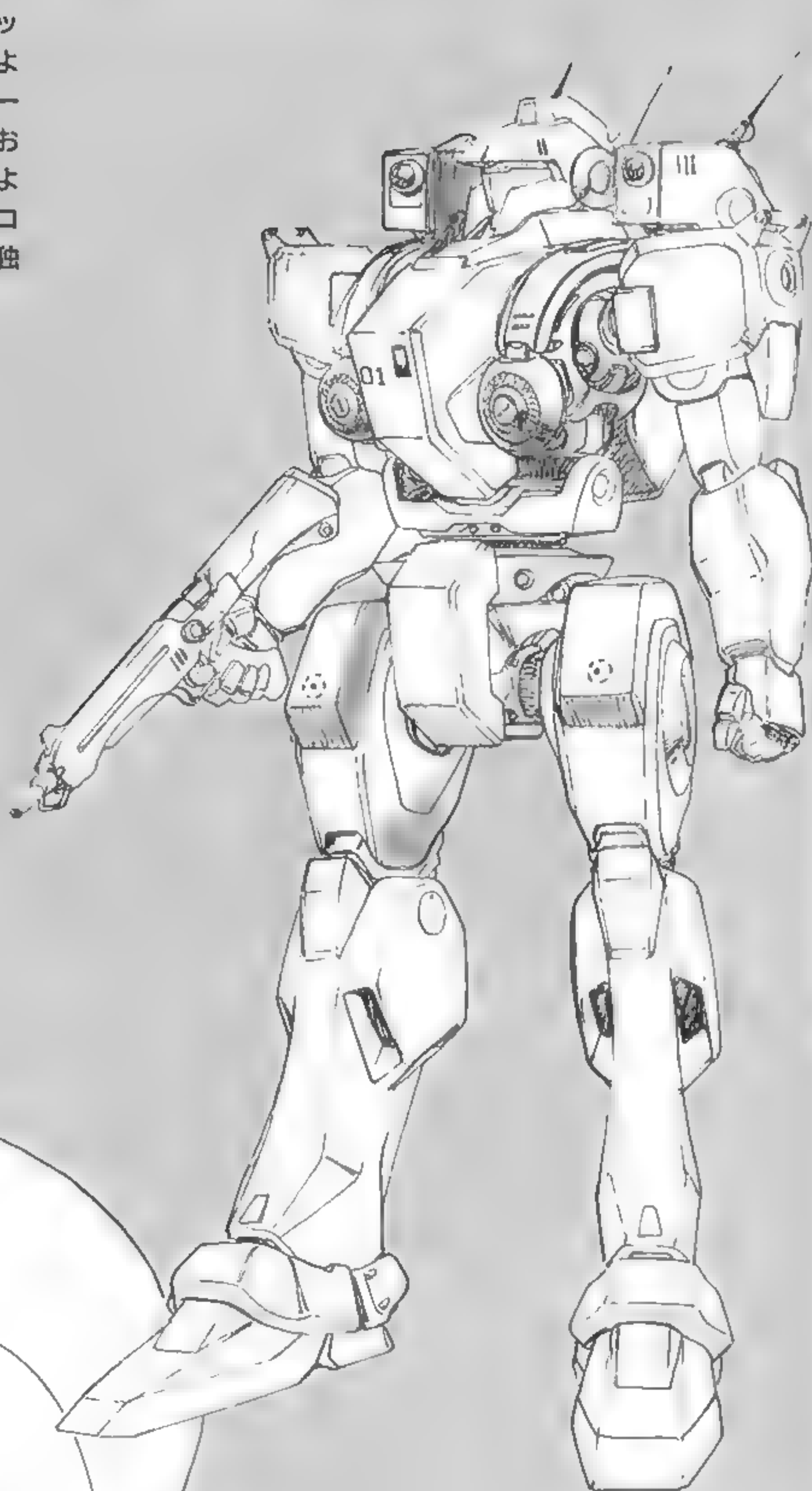
大型機動兵器“Gコマンダー”用バンツァーヴァッフェン。Gコマンダーのメインコンピュータによりラジオコントロールされている。Gコマンダーの弱点である接近戦を避けるために開発されており、なおかつ無人機であるがゆえに通常のPWよりも対応速度に優れ、機動性も高い。本機はGコマンダー1機に2機ずつ搭載されているが、単独で使用されることは全くない。

The Organization of GARELIA

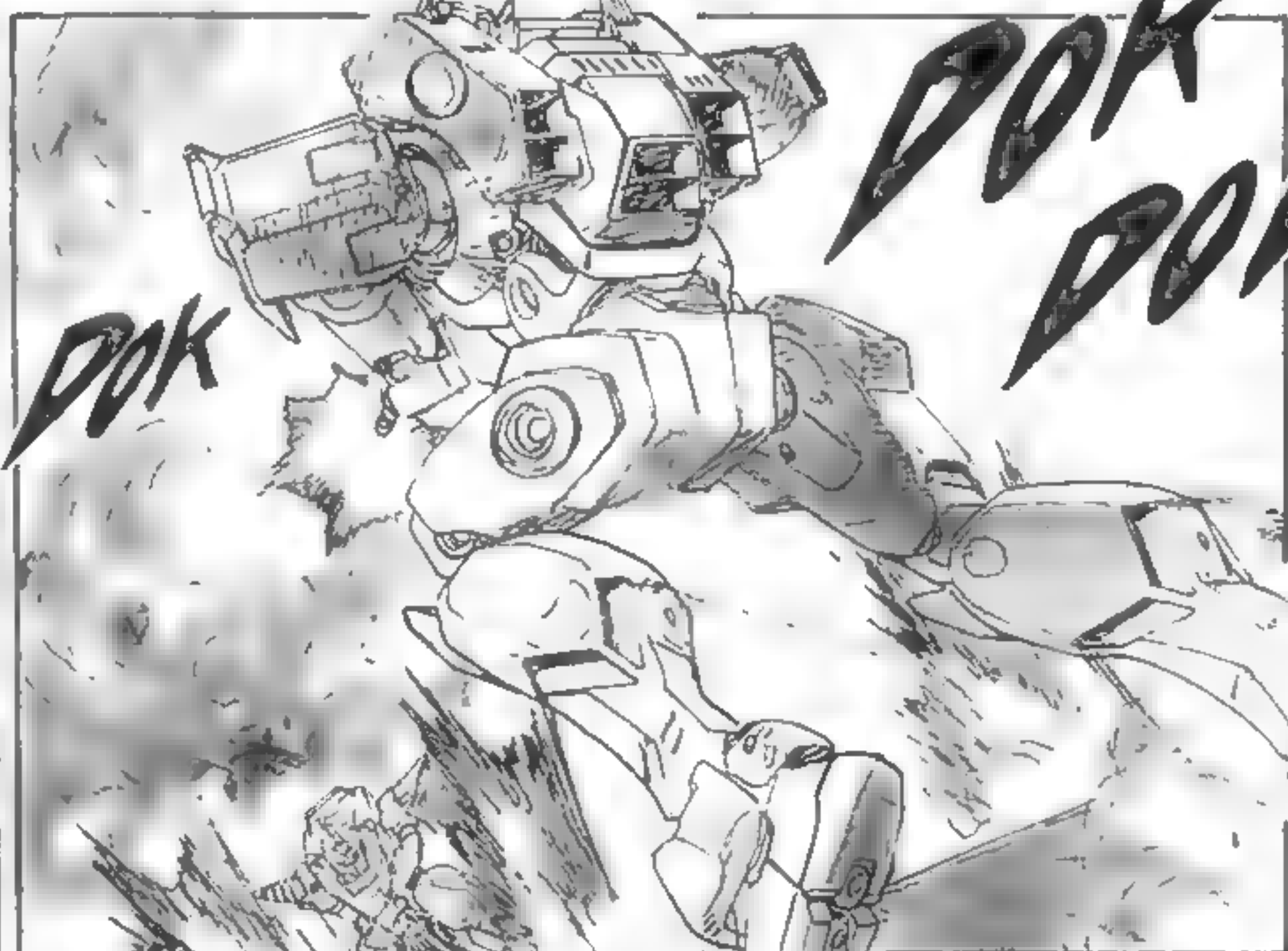
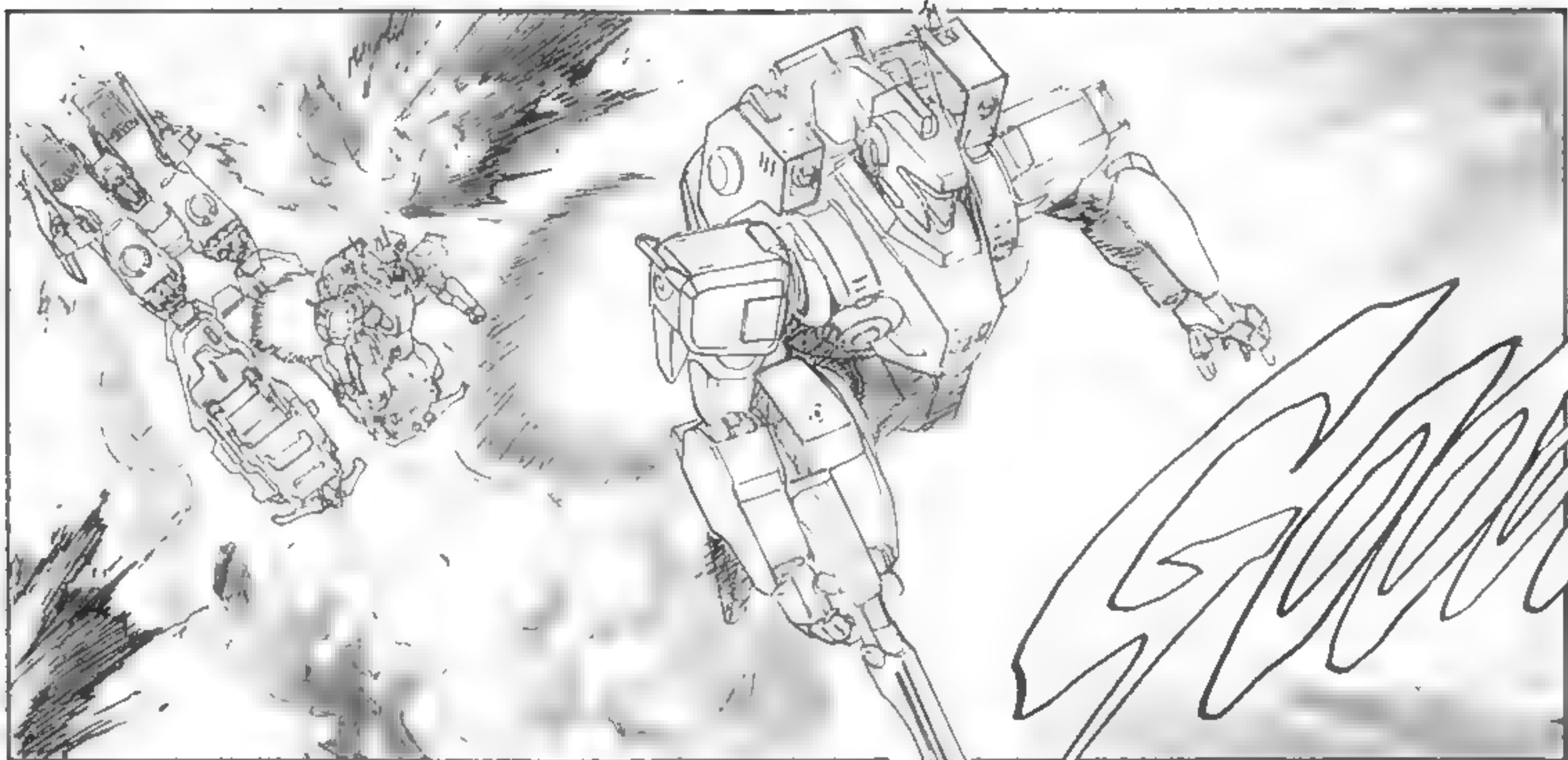
M4AA2_R

SPECIFICATIONS

- 頭頂高/10.3m
- 本体重量/18.0 t
- 全備重量/36.6 t
- ジェネレータ出力/3,800kW
- スラスター出力/12,000kg×1
10,000kg×2
8,000kg×4
- 武装/バルカンライフル×1



BG_Rが左右に展開してGコマンダーの弱点である側面装甲を襲る



全機小型PW
との距離をとれ
接近戦では
こちらが不利だ

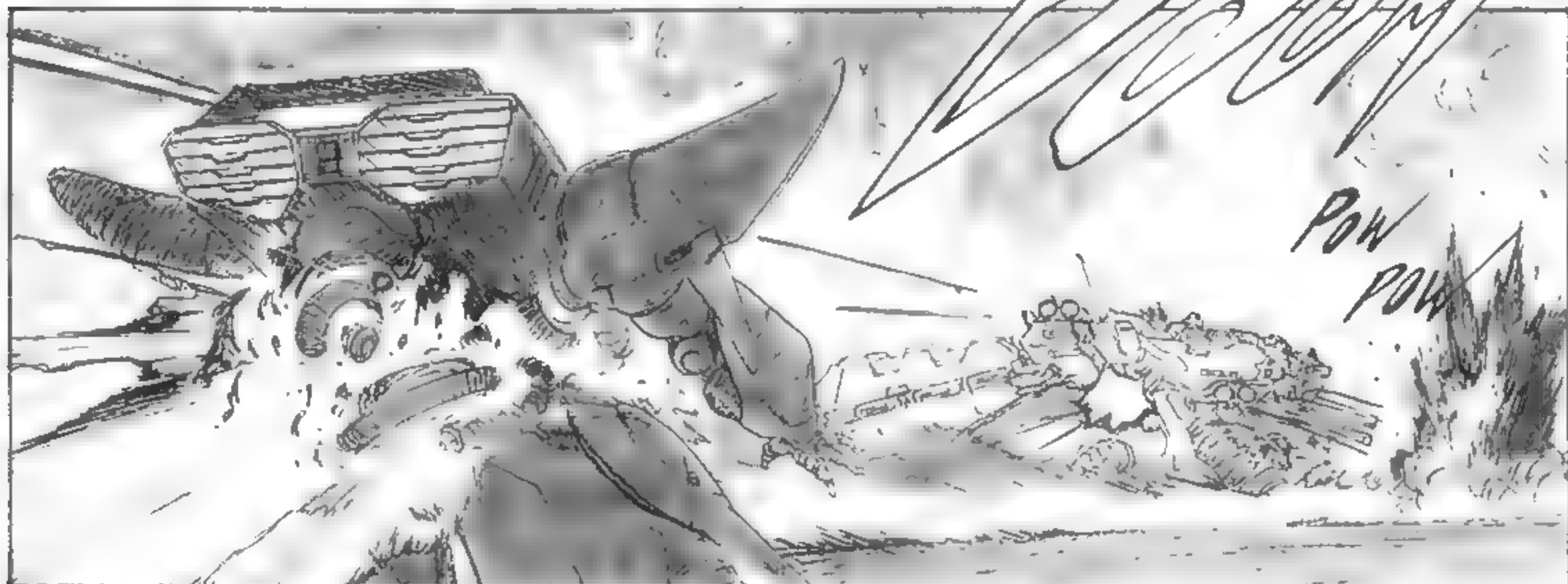
なんて
すばしっこい
奴だ
まるで人が
乗っていない
ようだ

DOK
DOK



ZZZZ

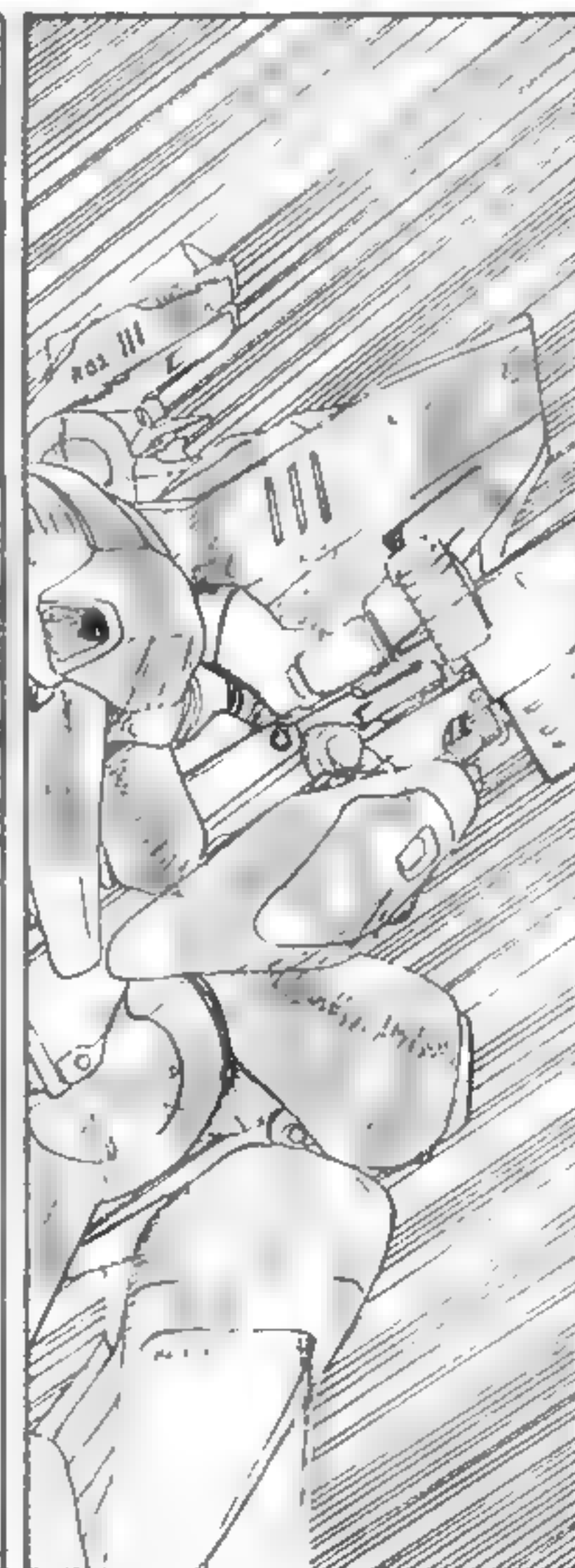
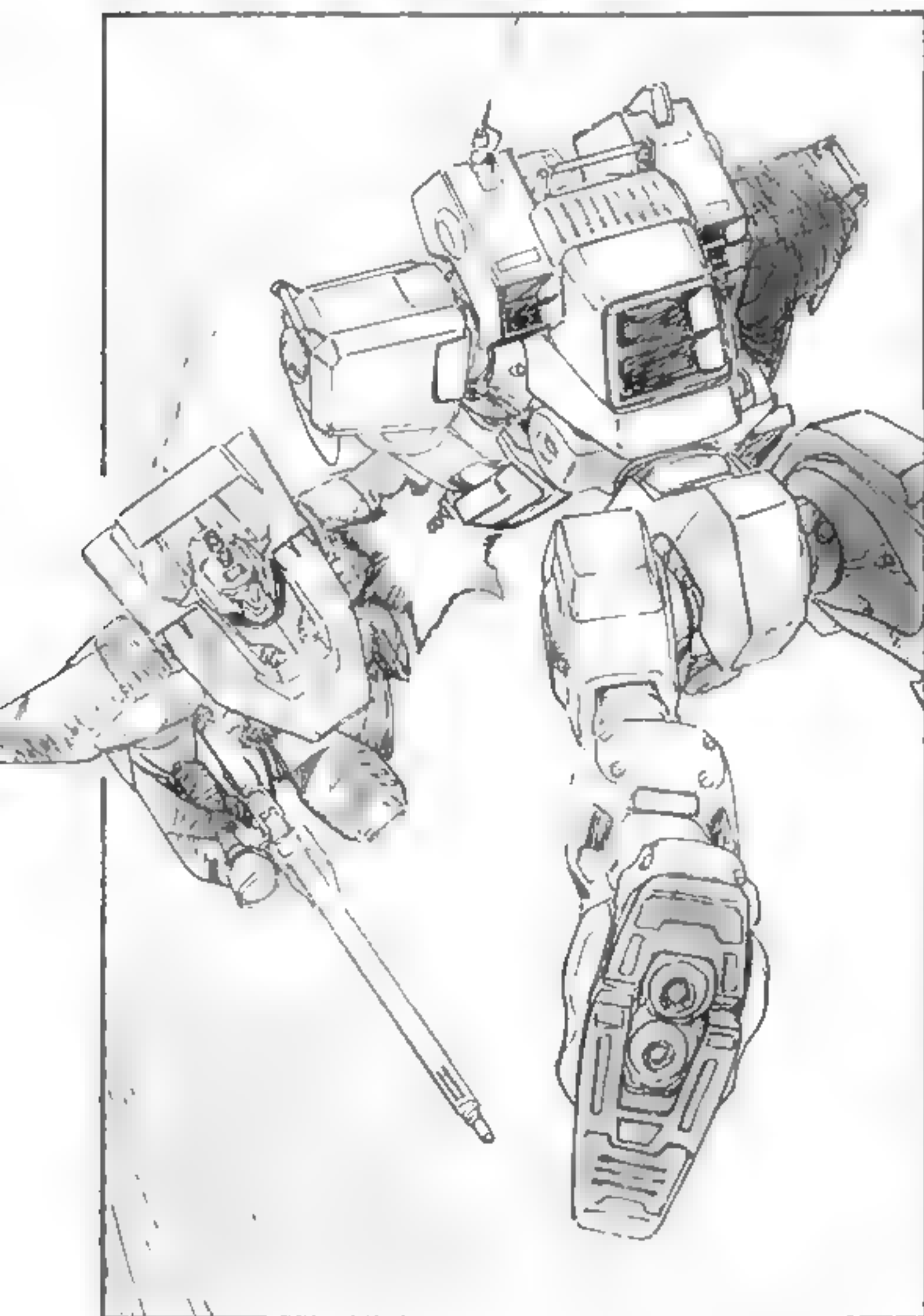
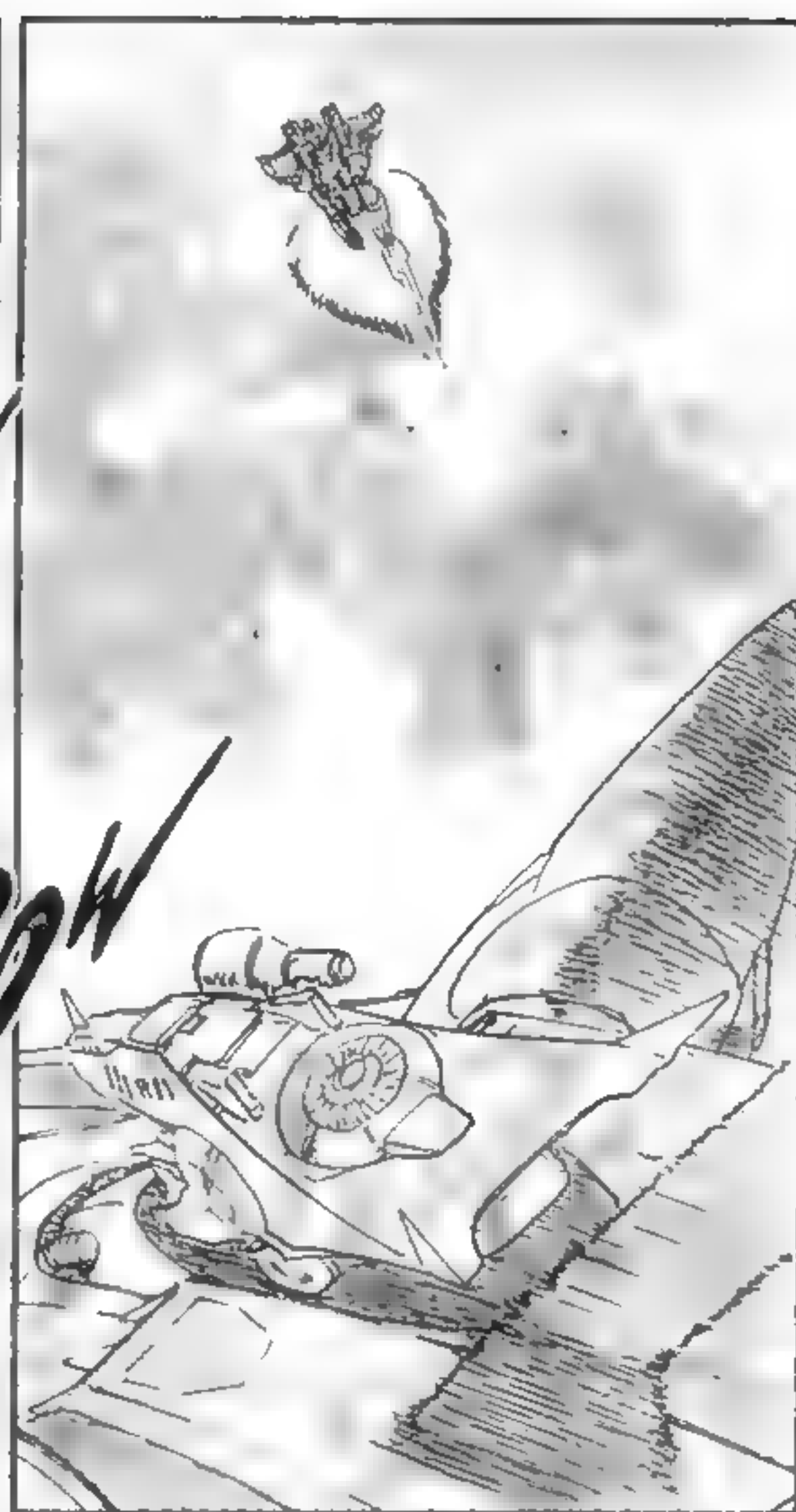
POW
POW

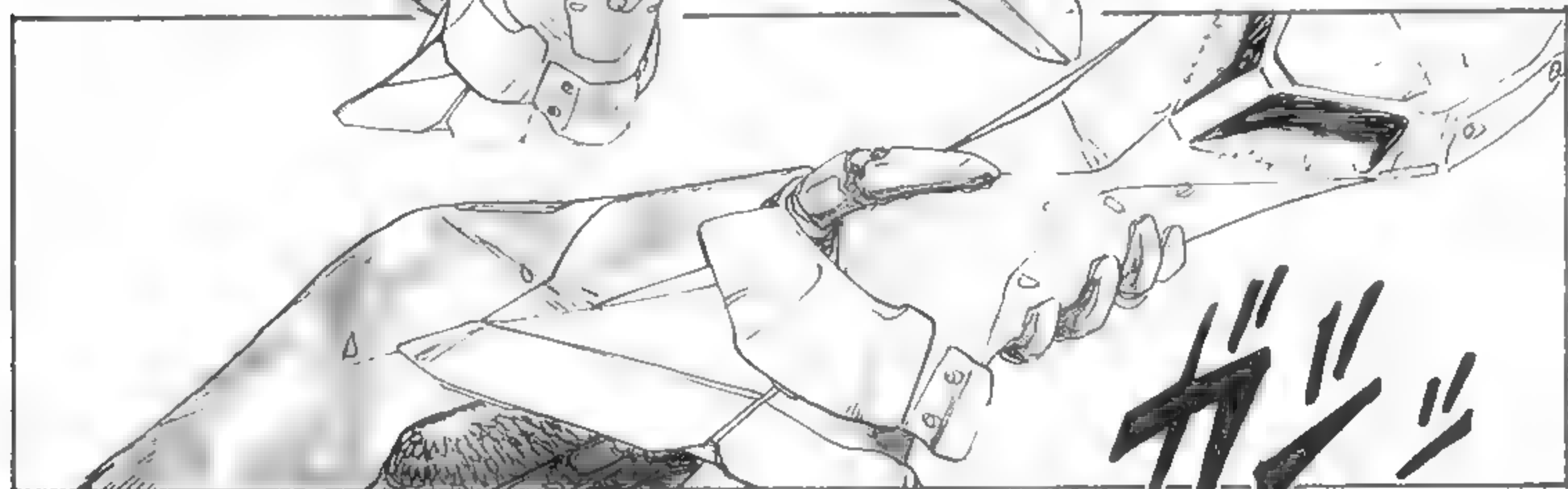


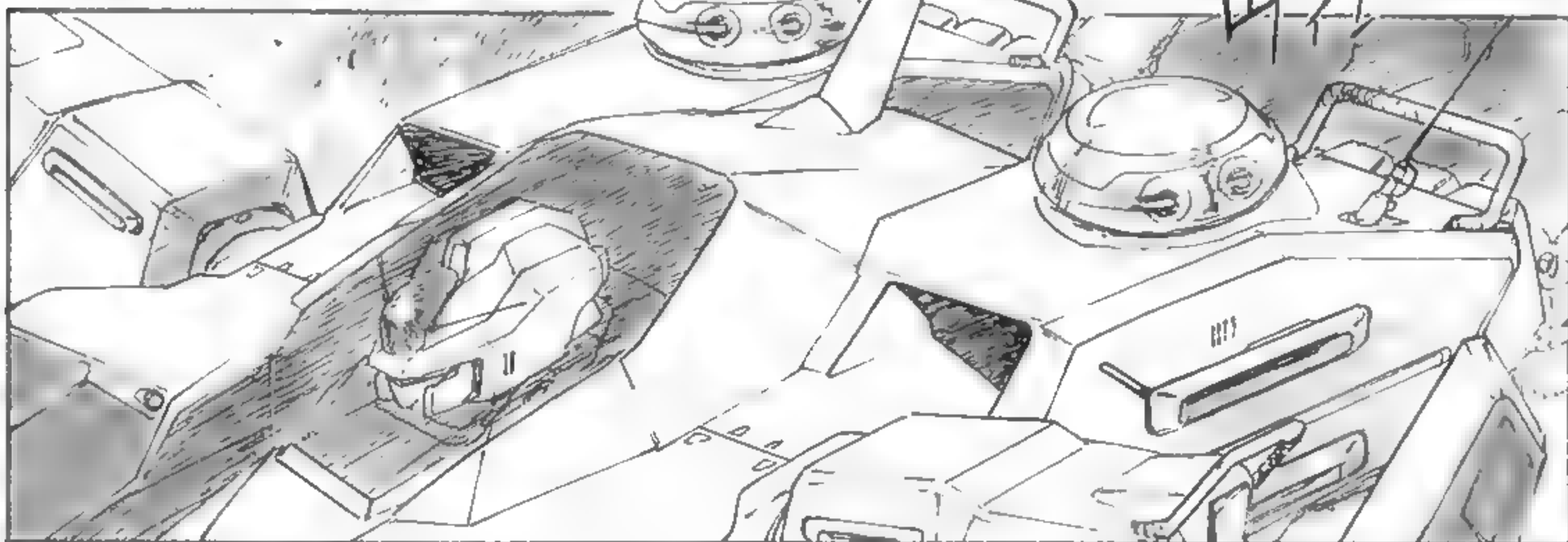
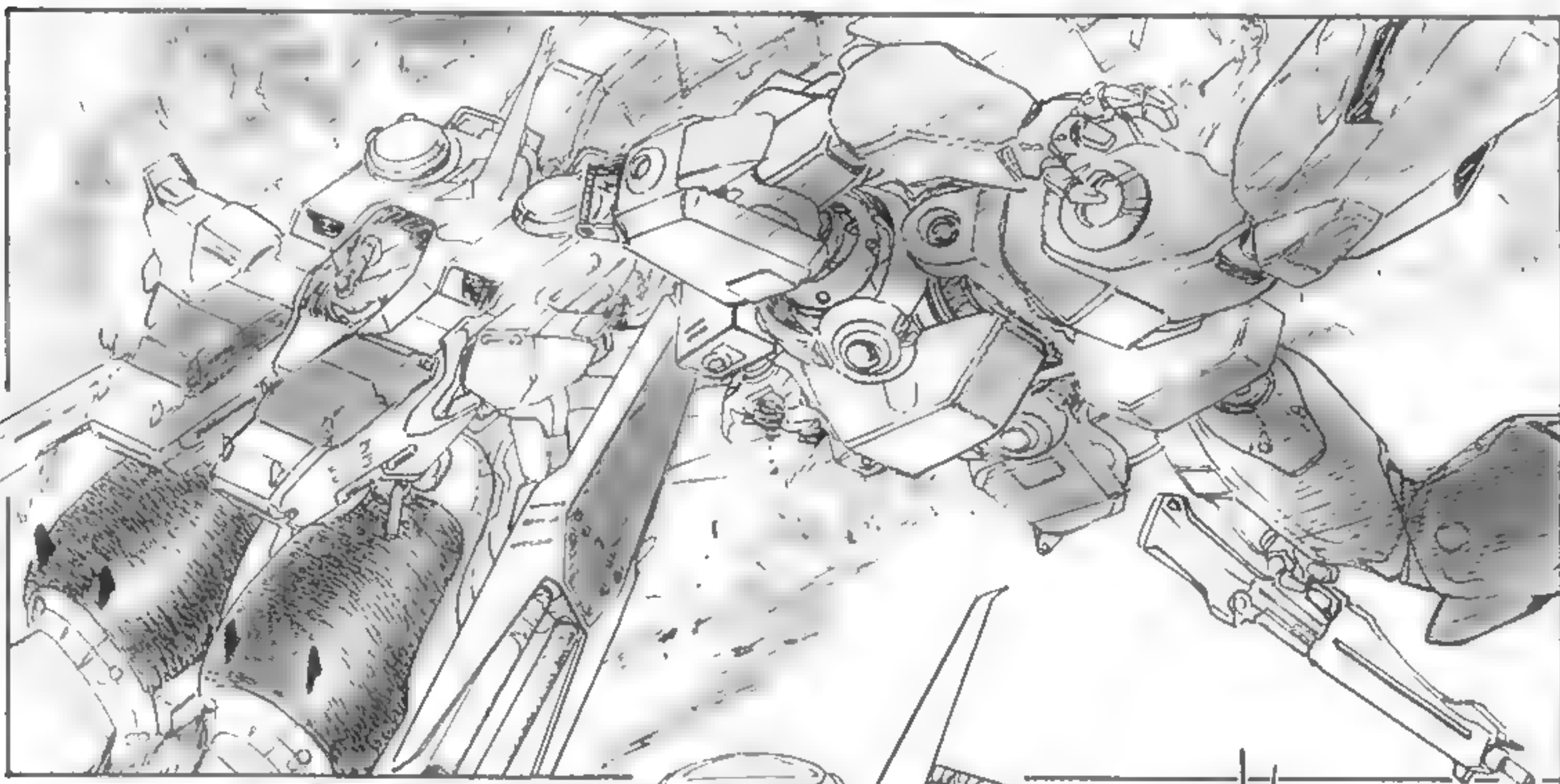
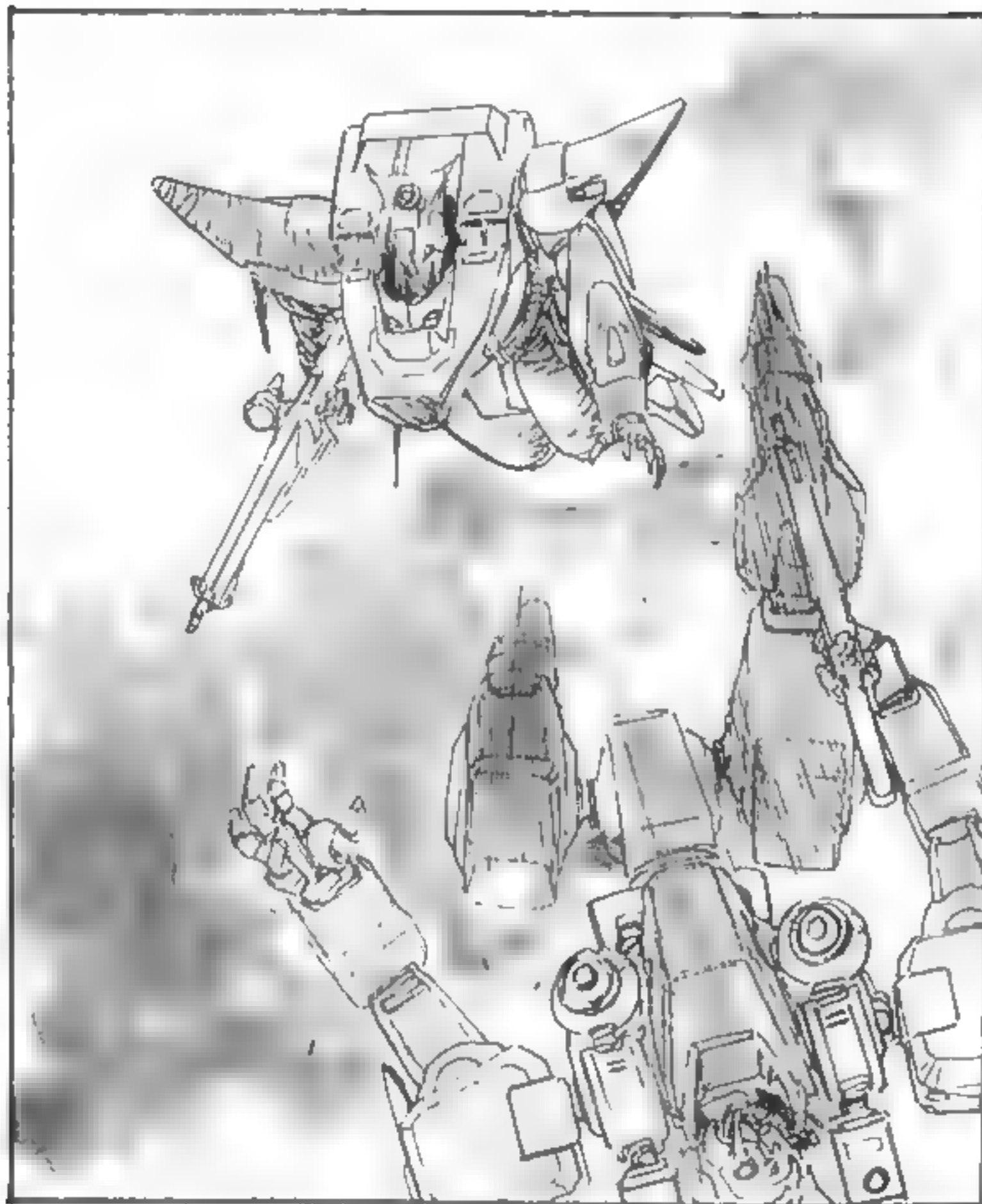
奴を倒すには
奴の懐へ入るしかない

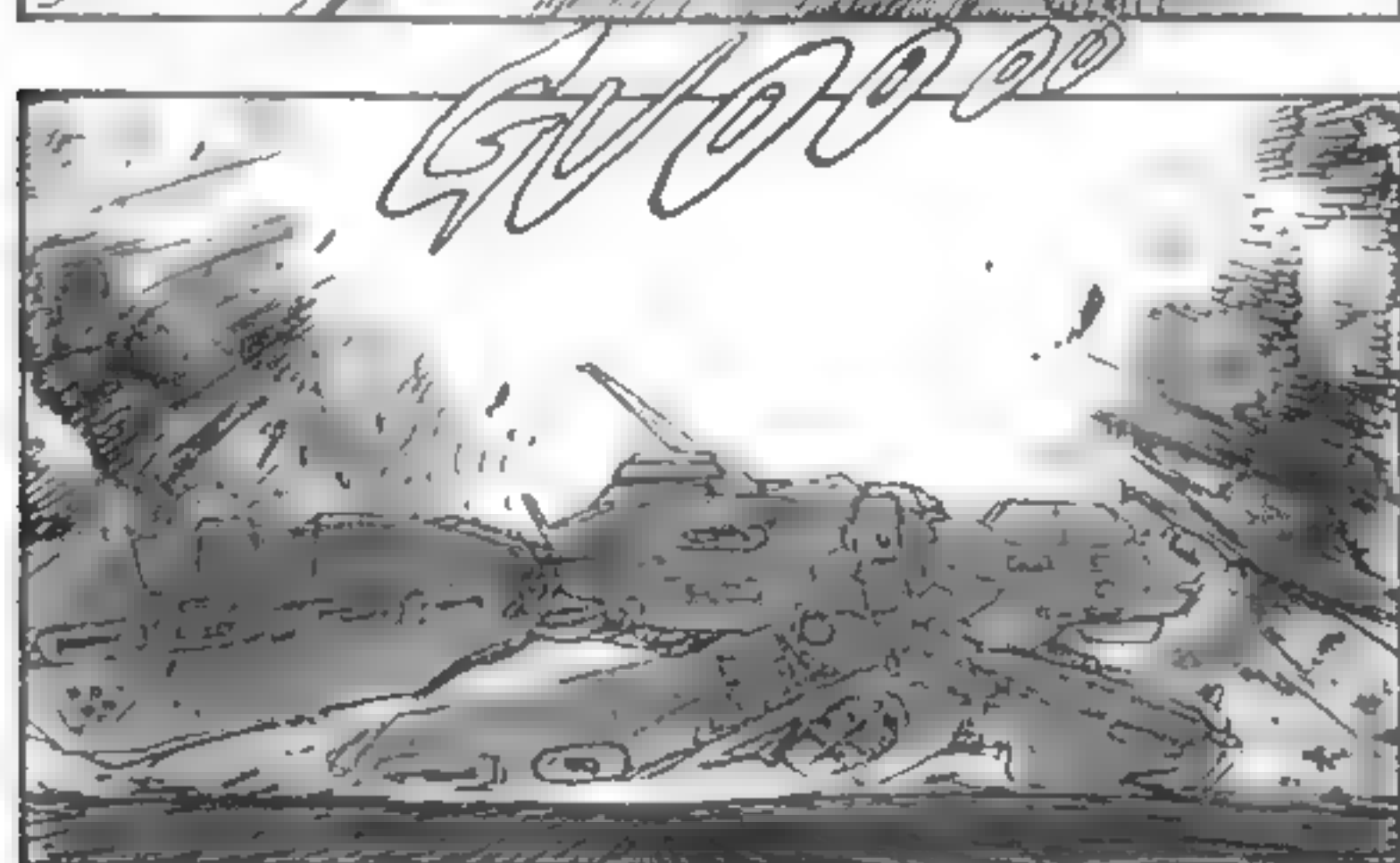
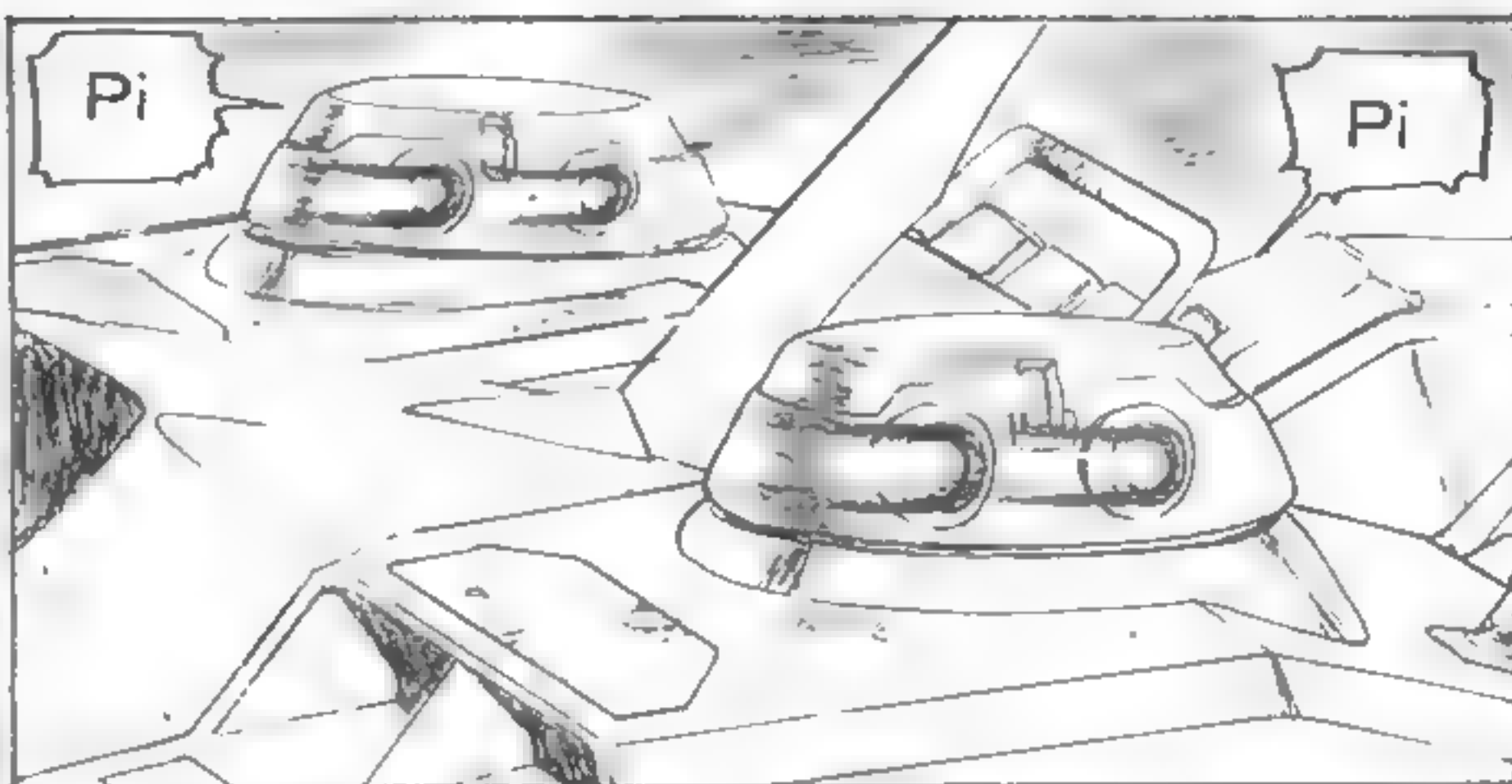
小型のPWで
我々を分散させ
一機ずつ
潰してゆく気だ
ますい!
このままじゃ
全滅する!!

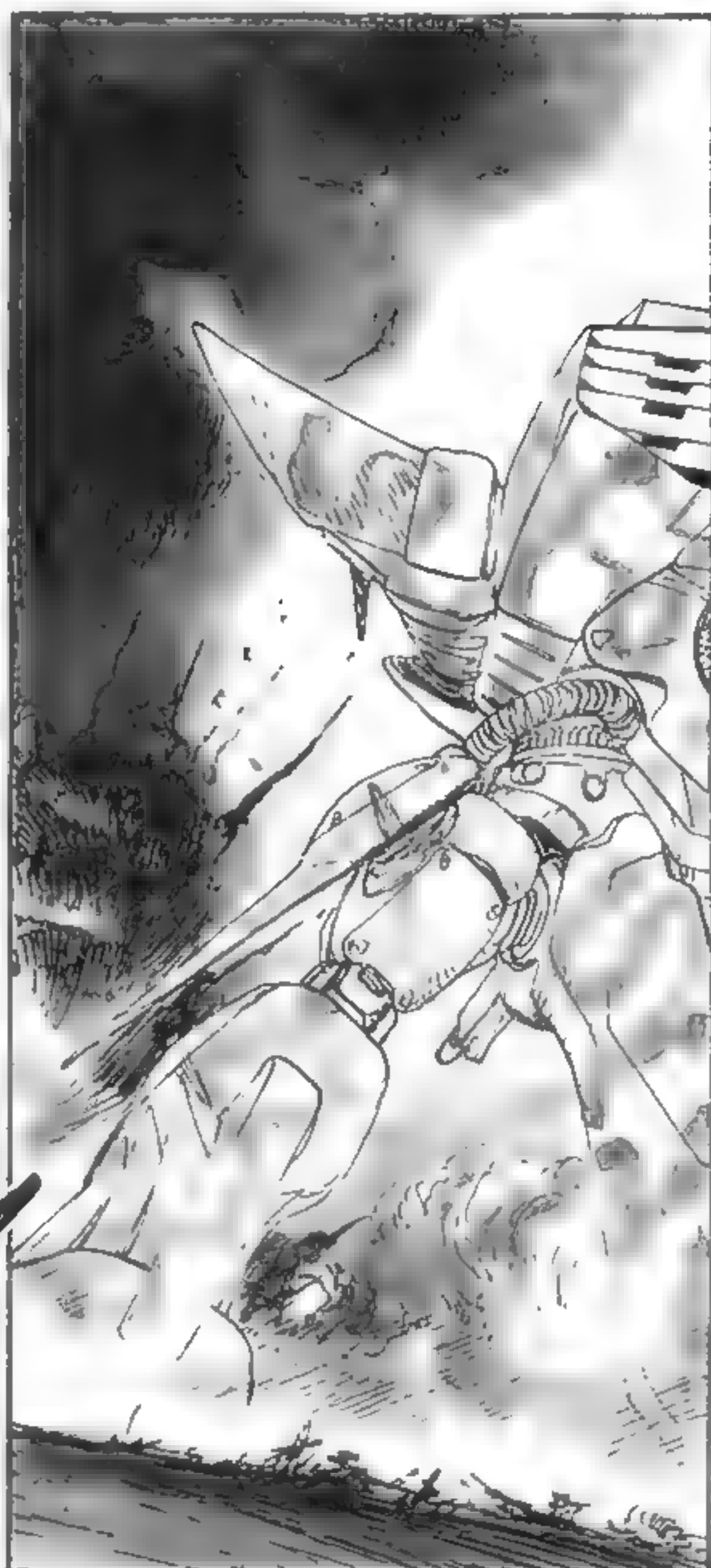
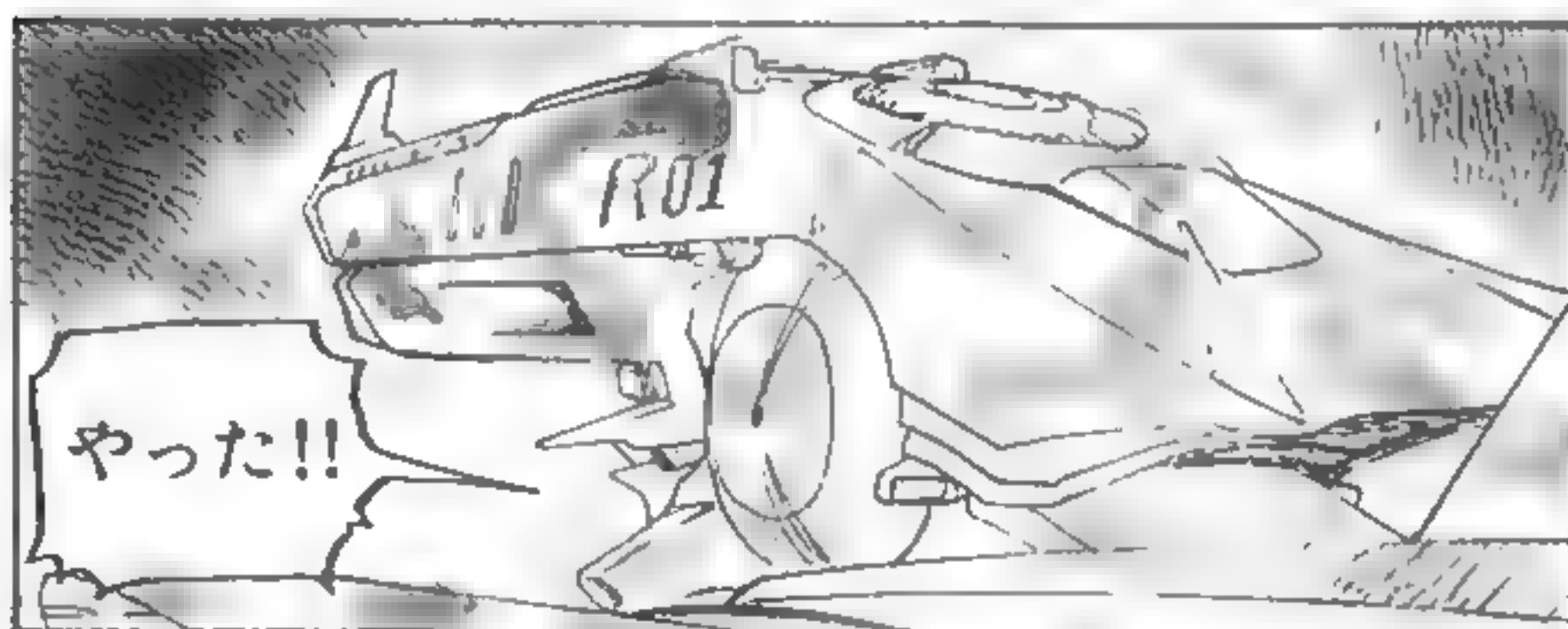


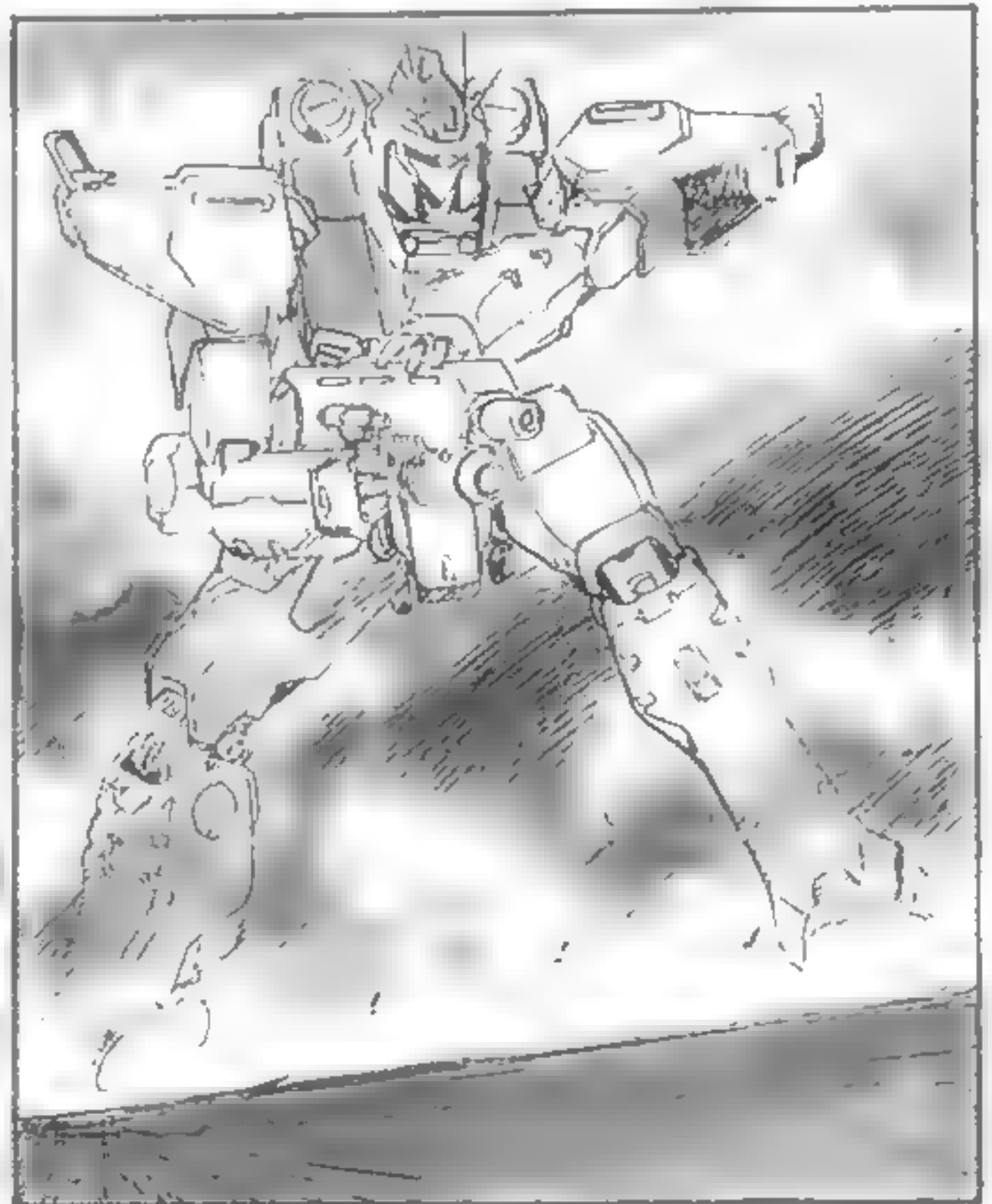
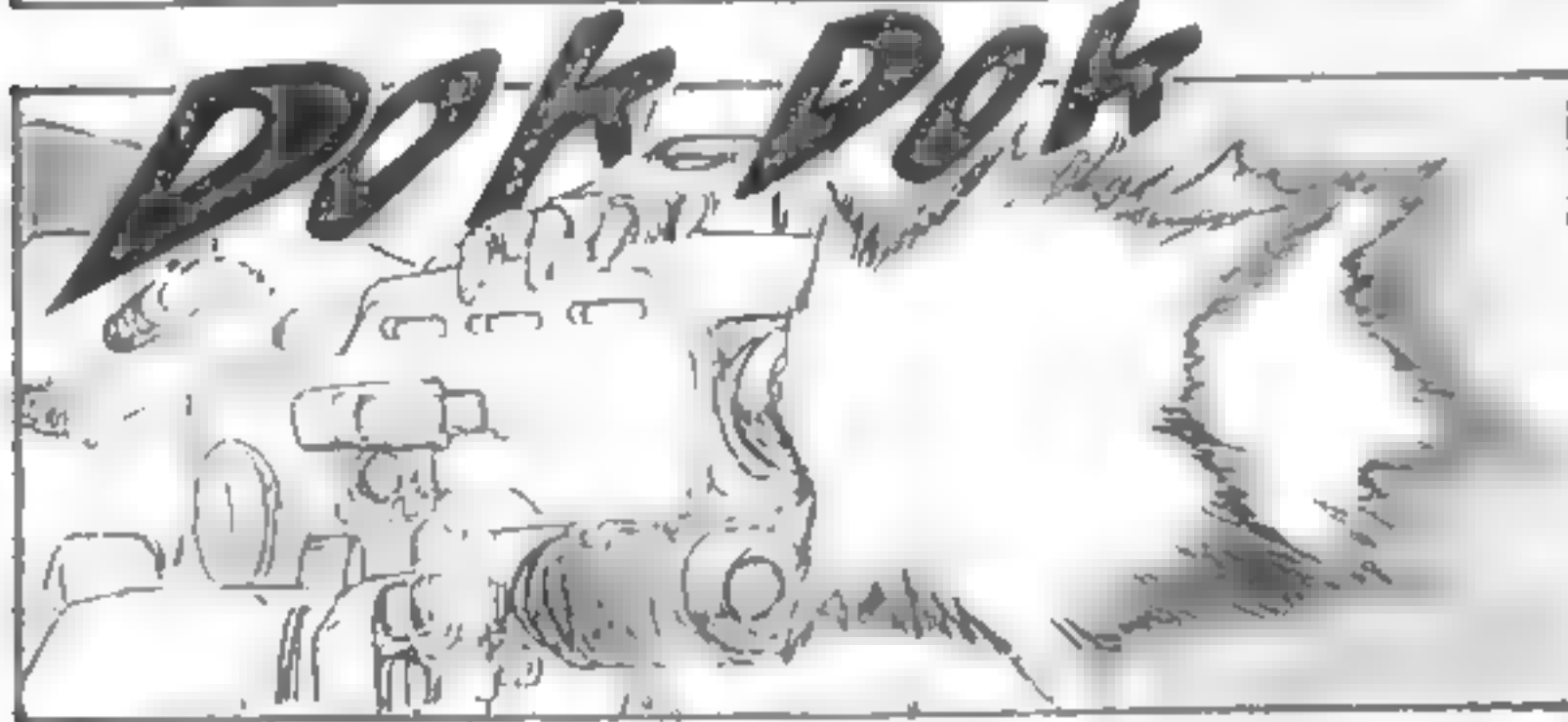
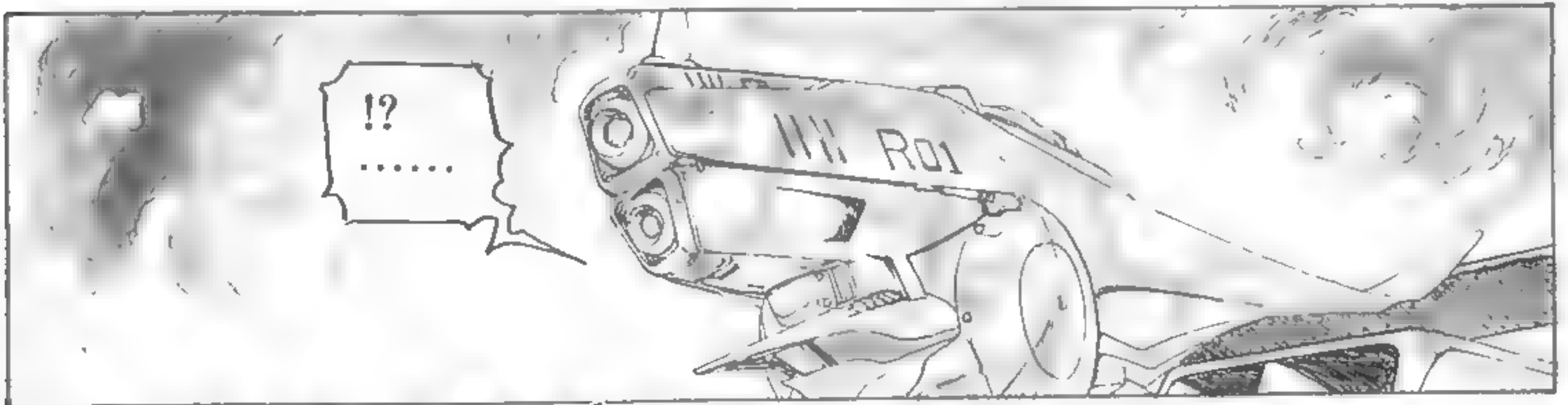
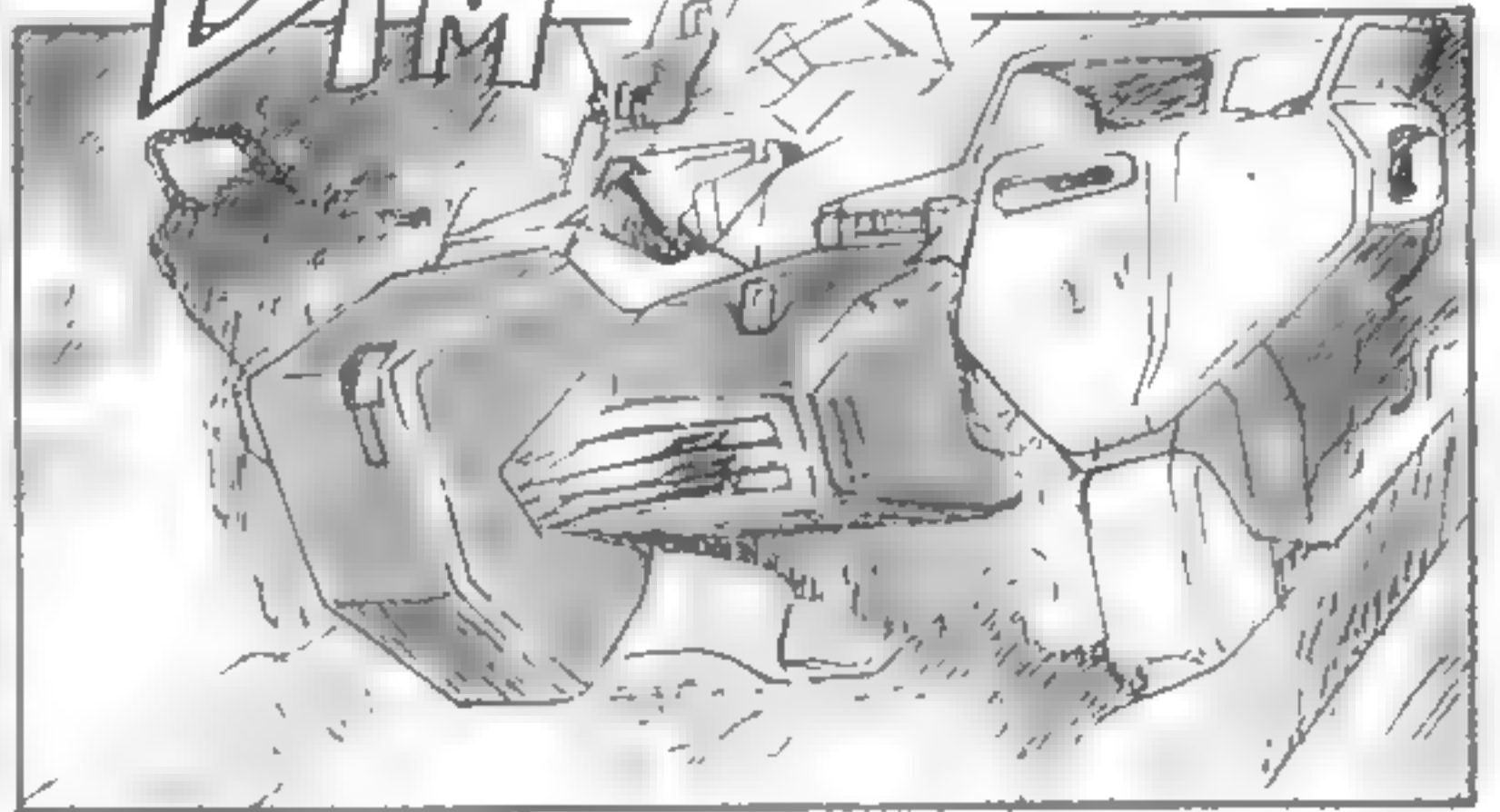
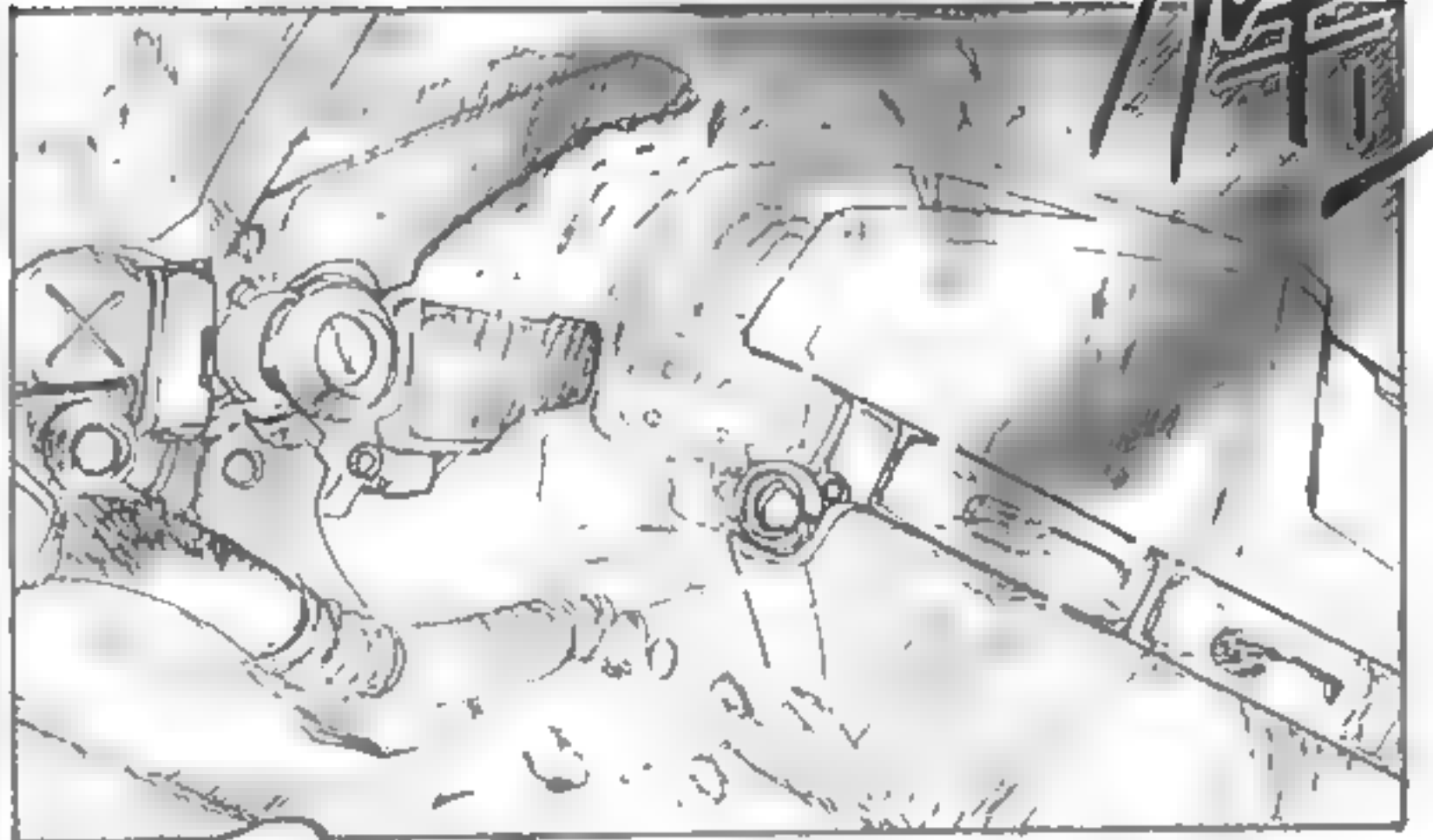
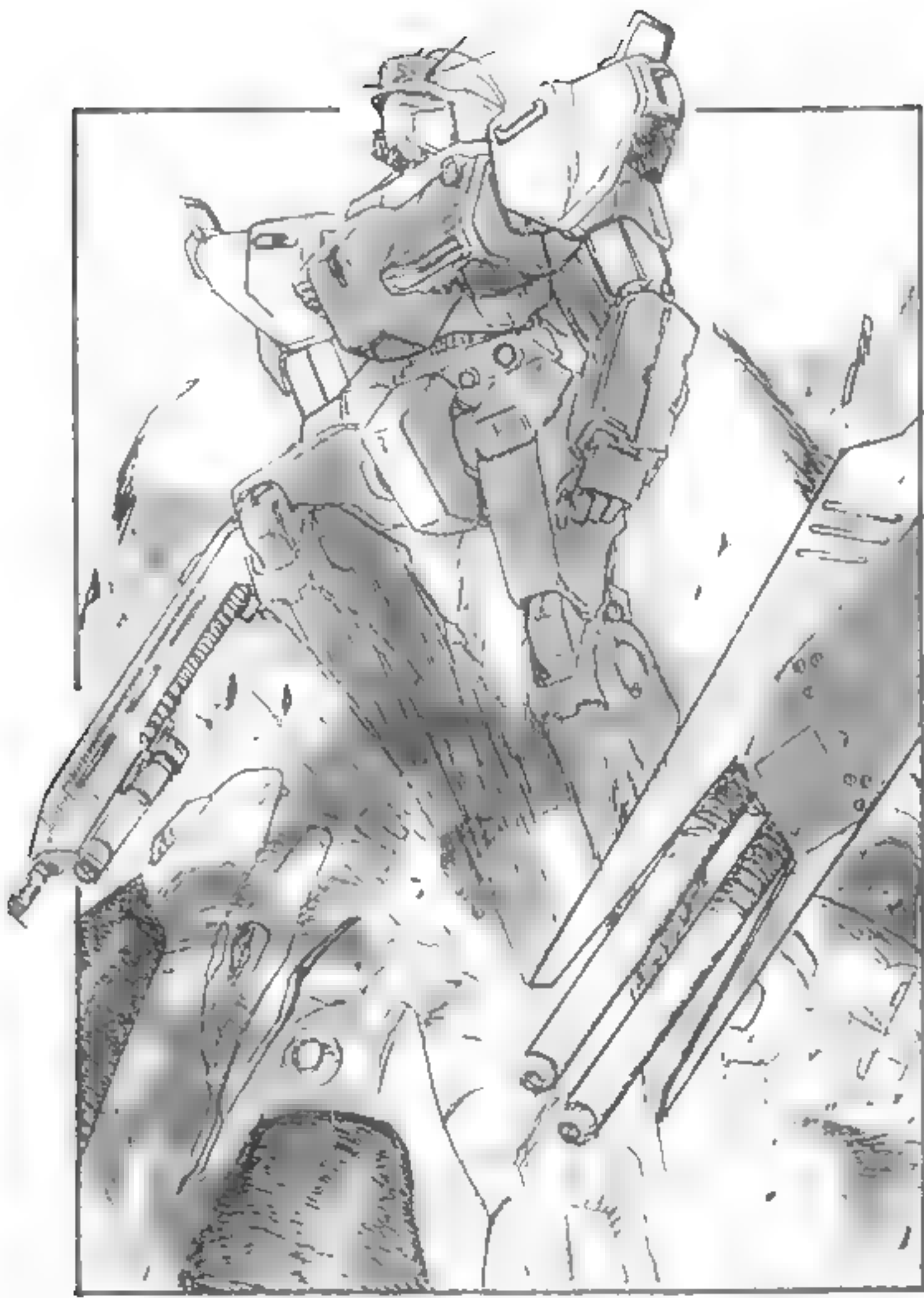




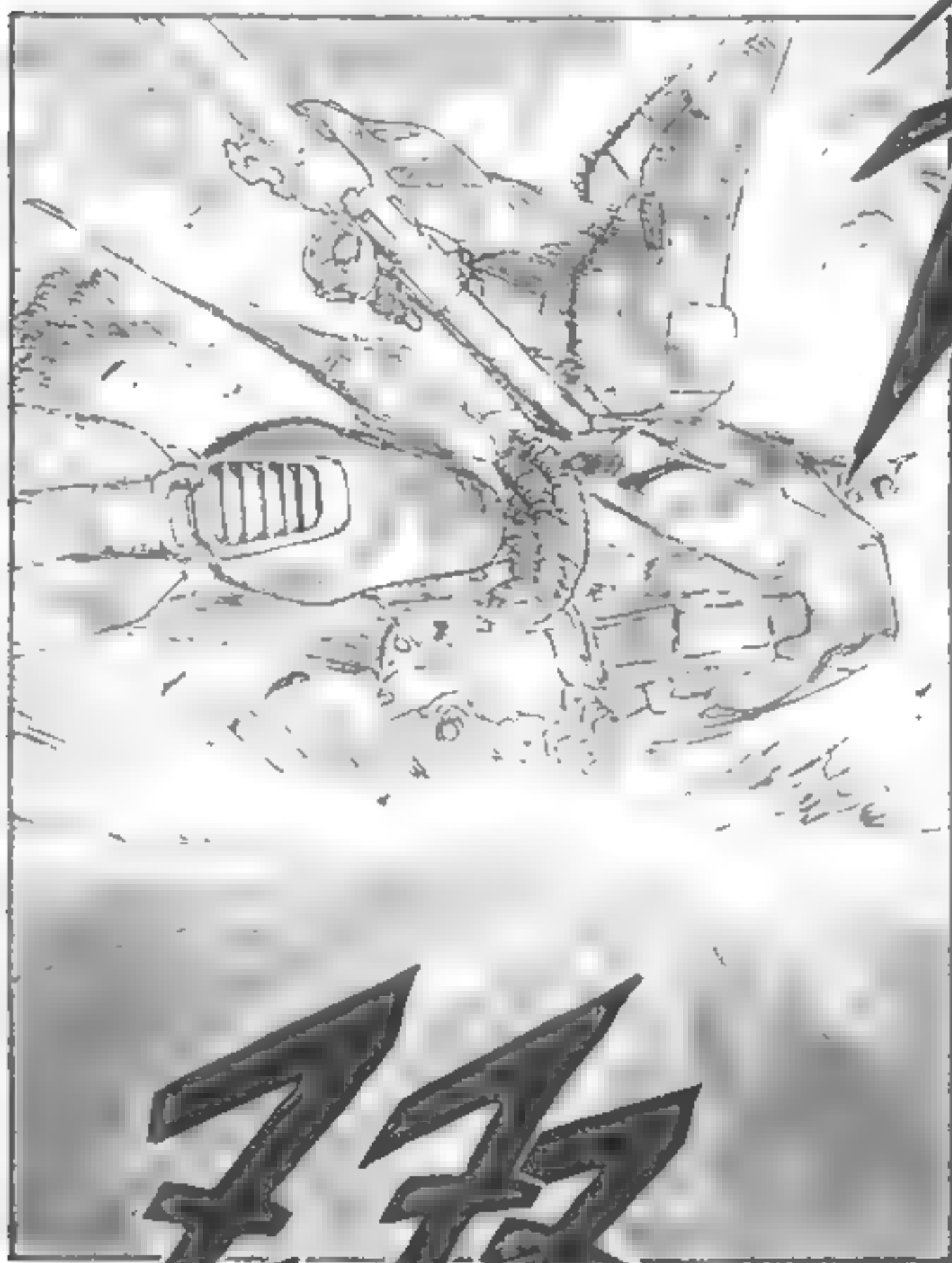
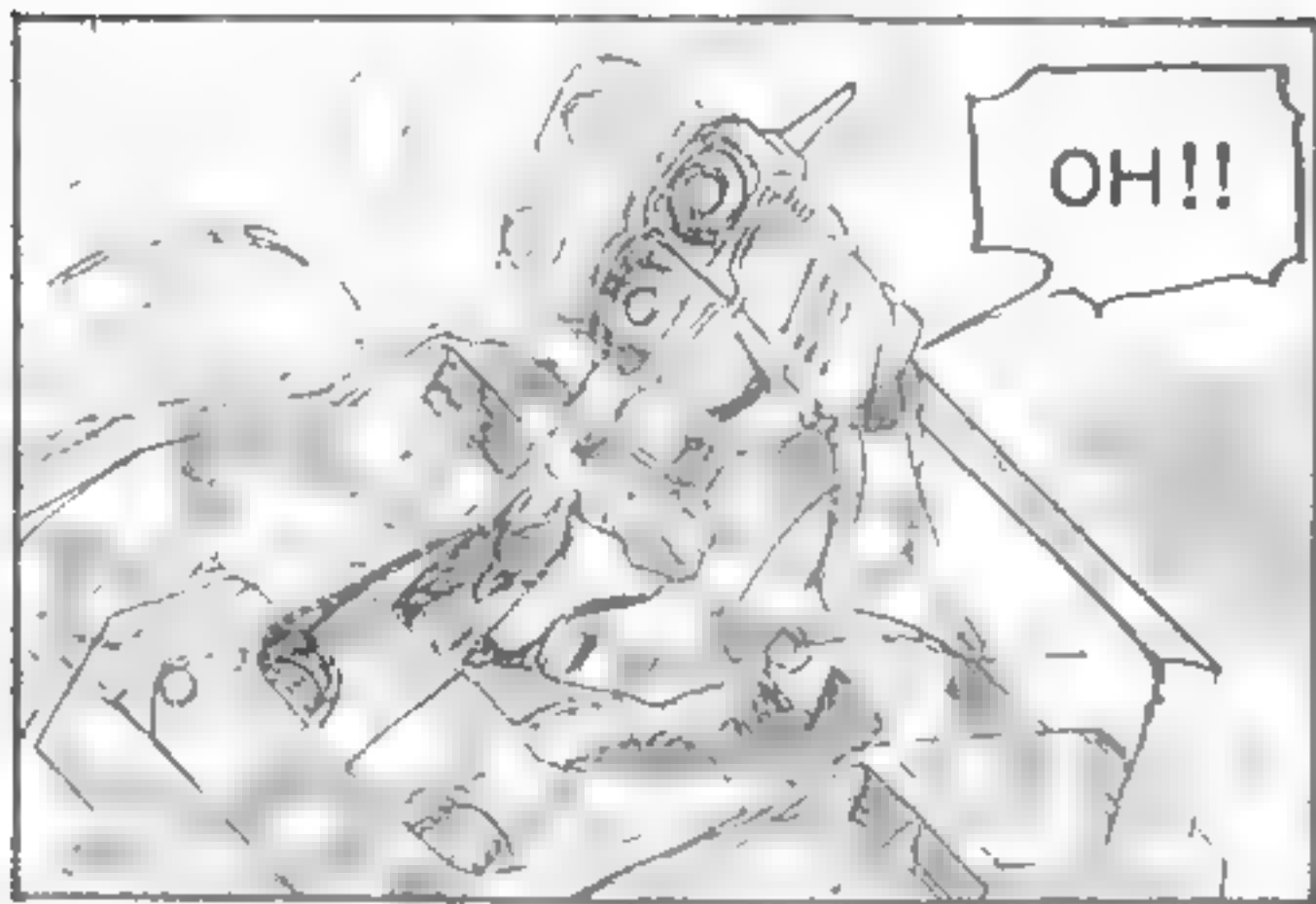


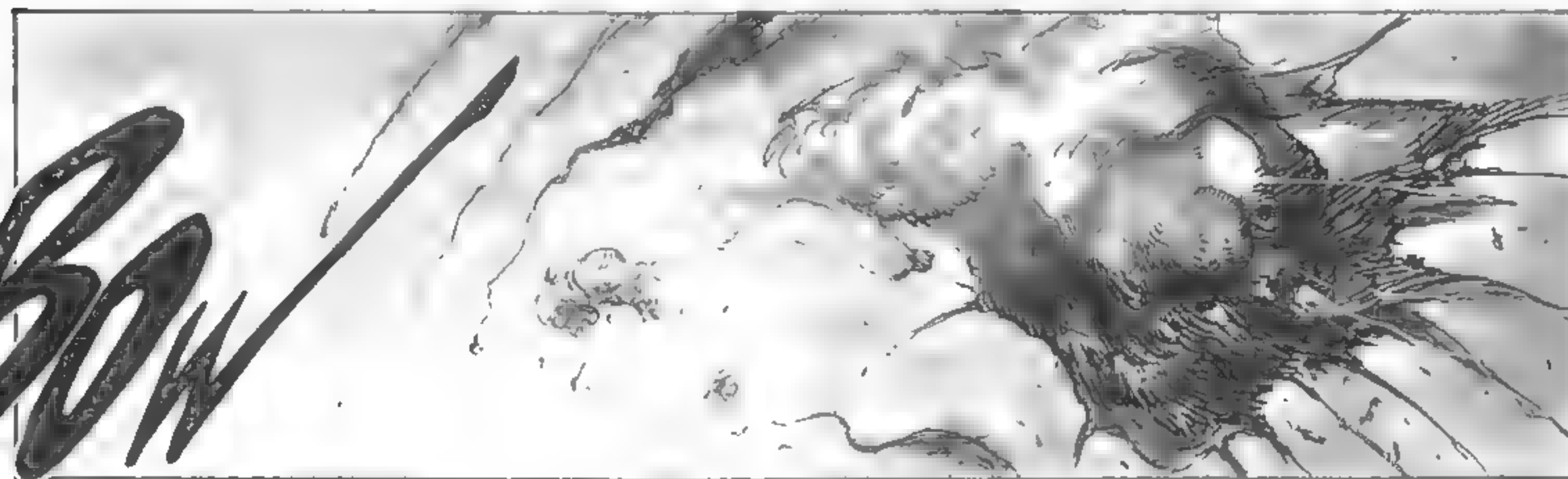
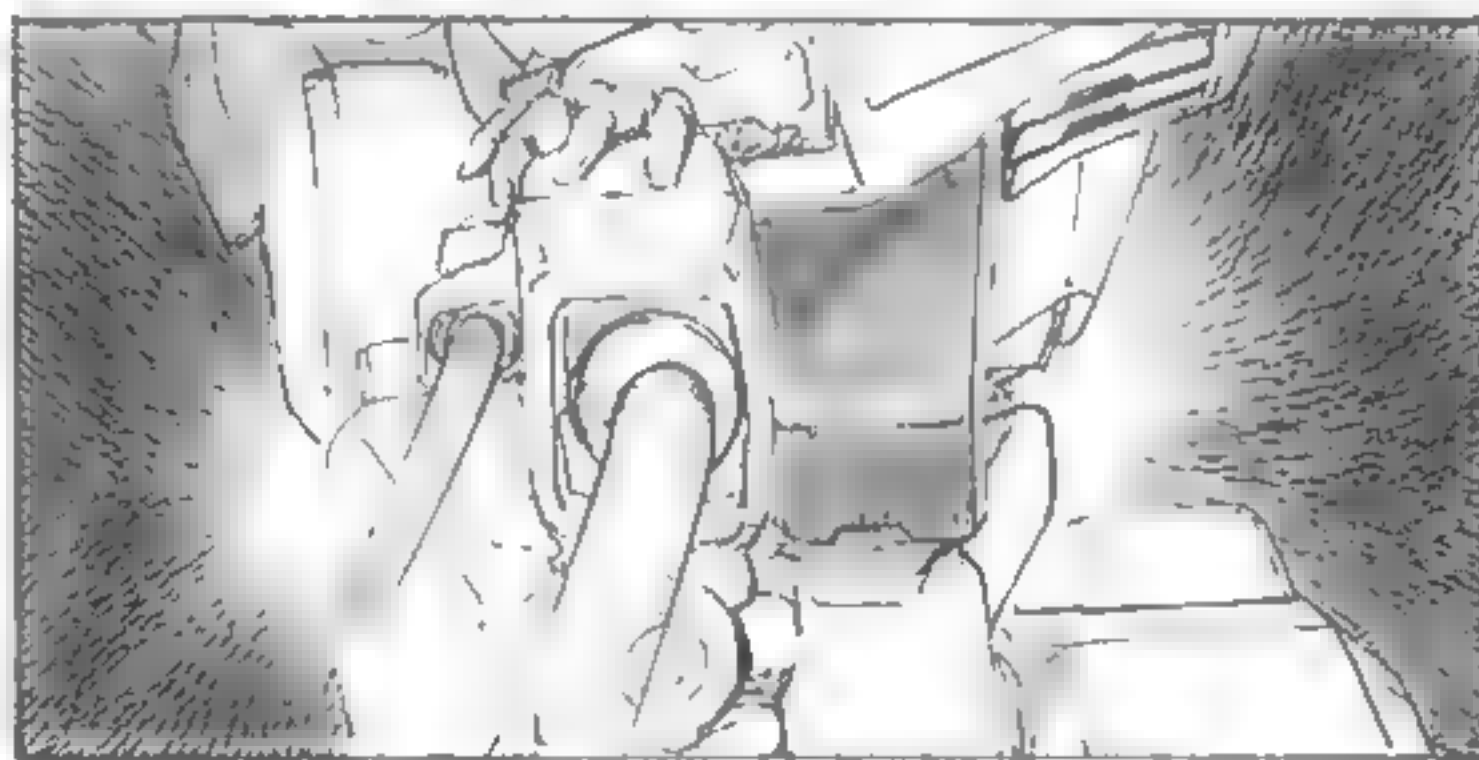
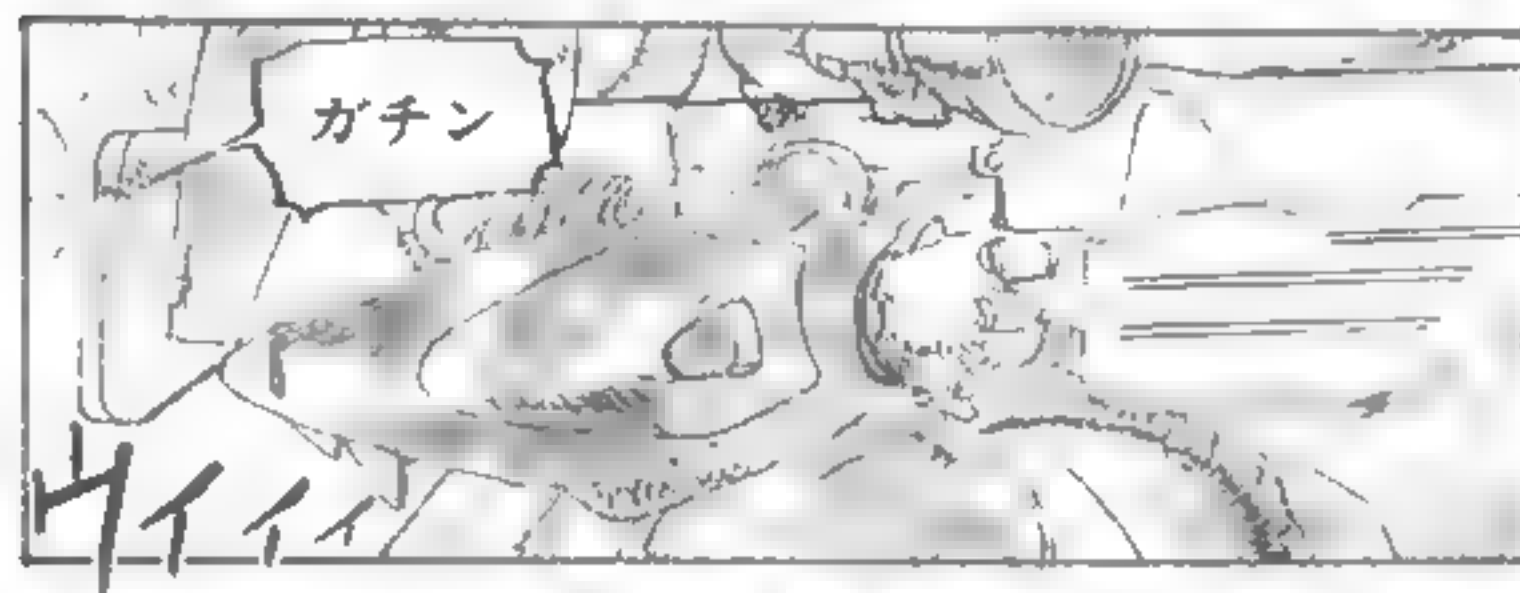
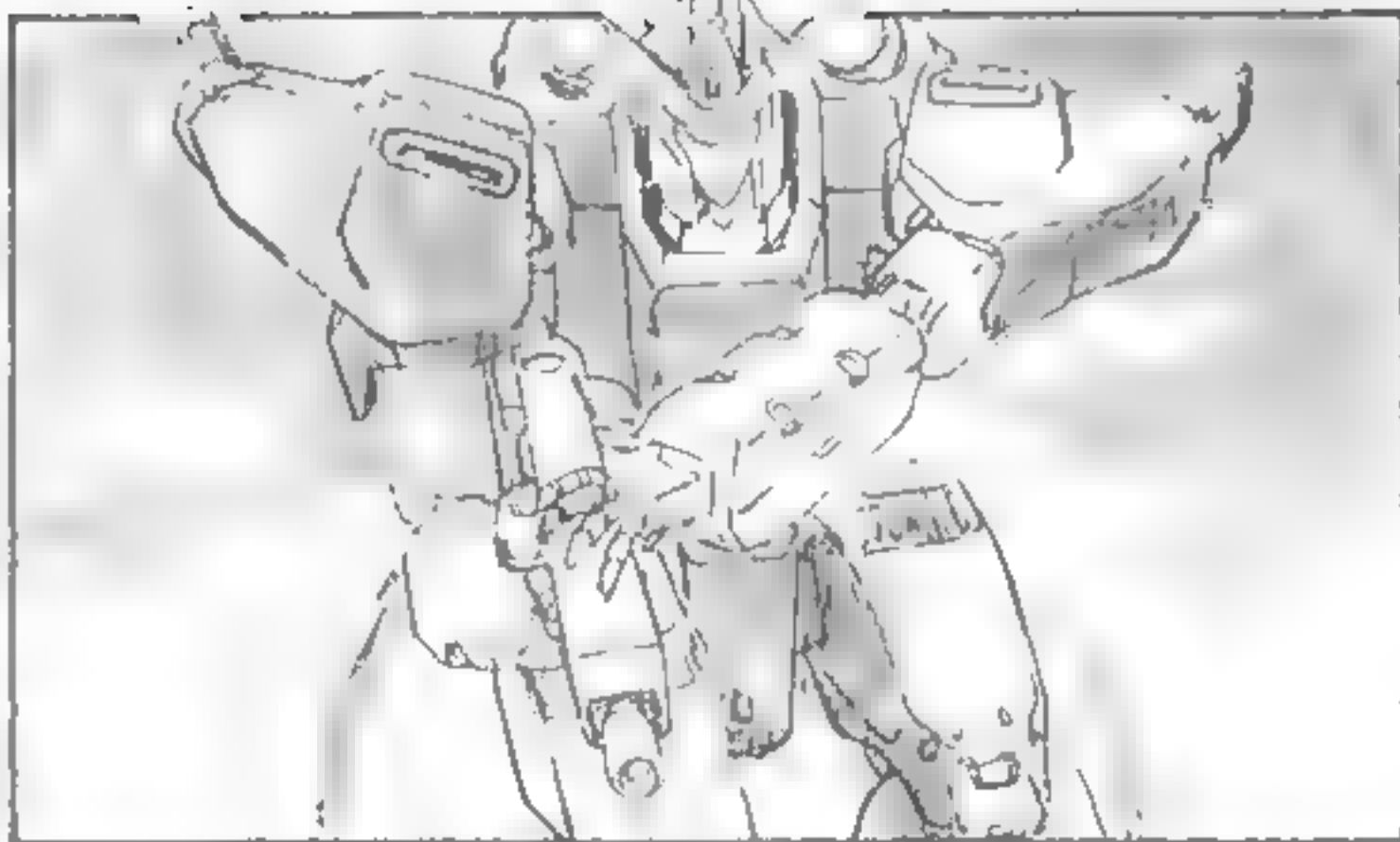
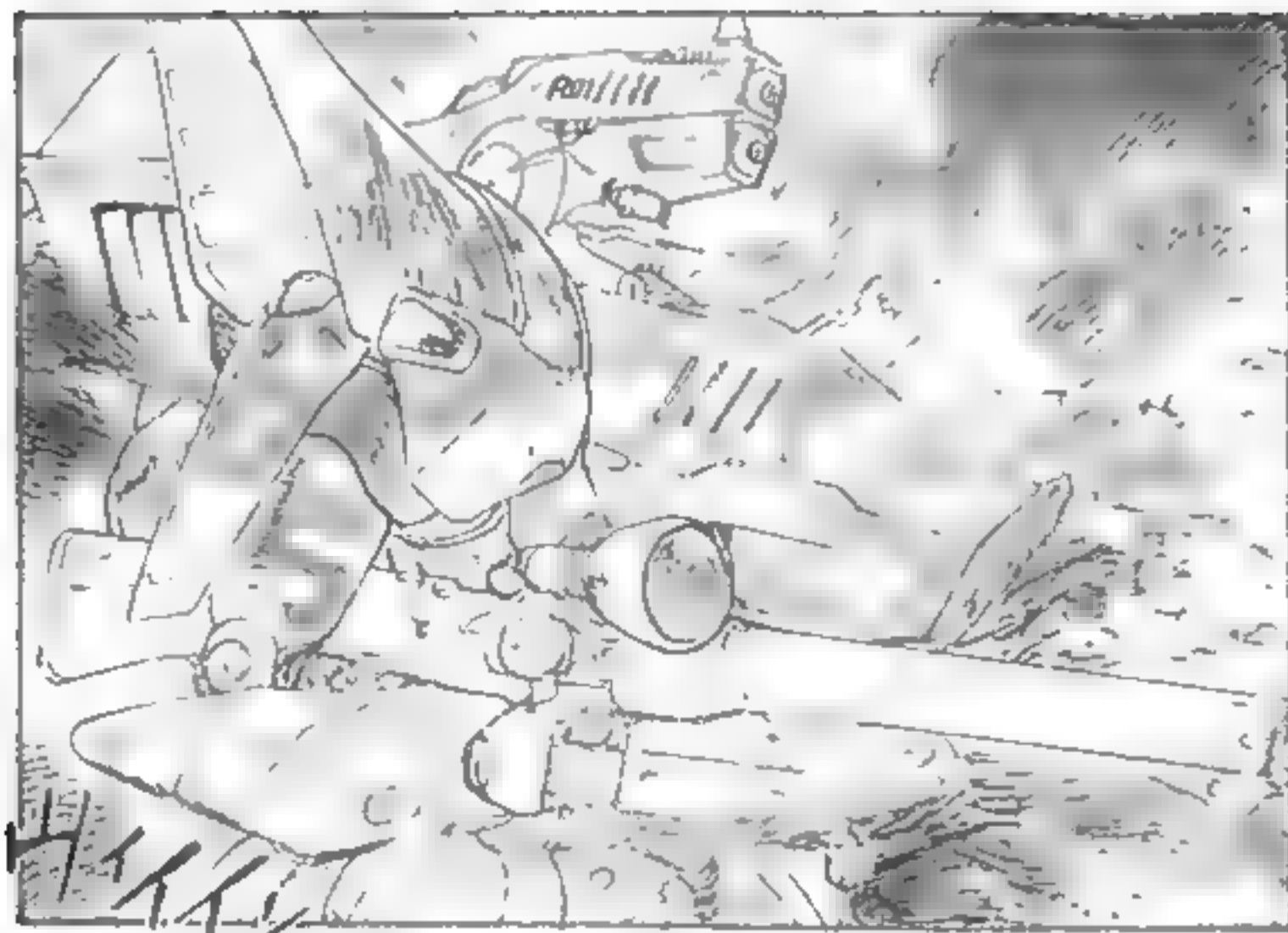


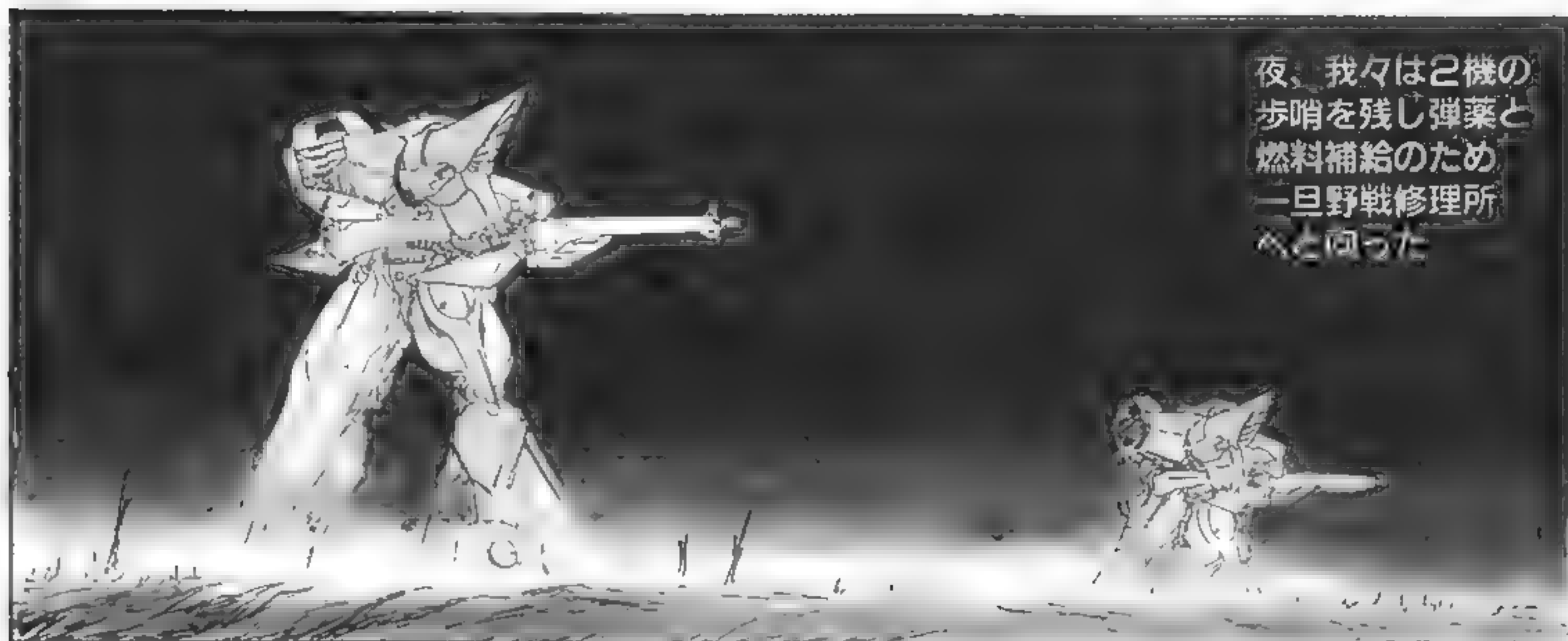




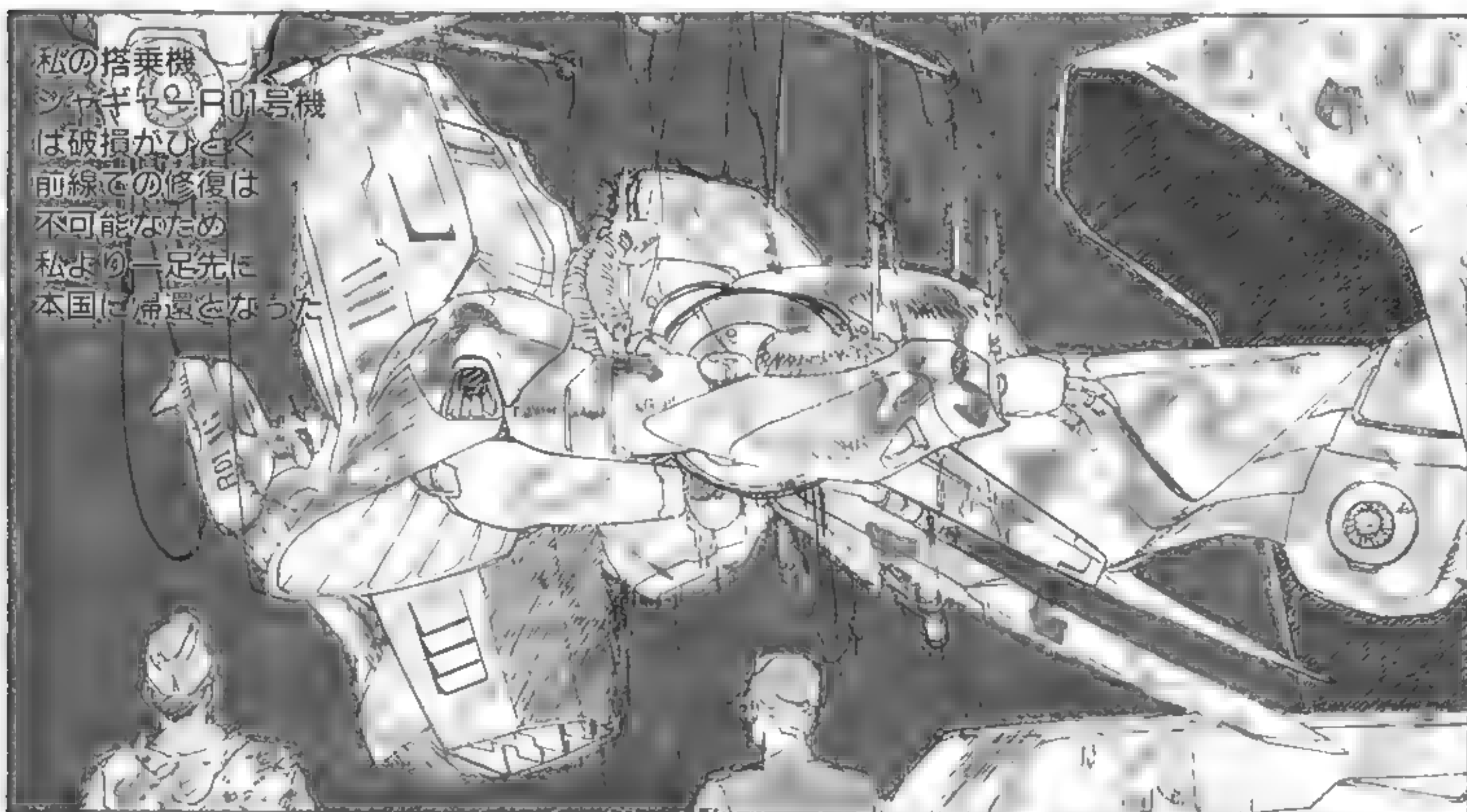








夜、我々は2機の
歩哨を残し弾薬と
燃料補給のため
一旦野戦修理所
へと向った



私の搭乗機
シャギーR01号機
は破損がひどく
前線での修復は
不可能なため
私より一足先に
本国に帰還となった

戦果報告

パンツァーヴァン

25機破壊または破損

うち1機は新型PW

火砲 100門以上破壊または捕獲

車輛 200輦以上破壊または捕獲

捕虜 3000人

損害 シャギータイプPW 3機破壊

破損2機

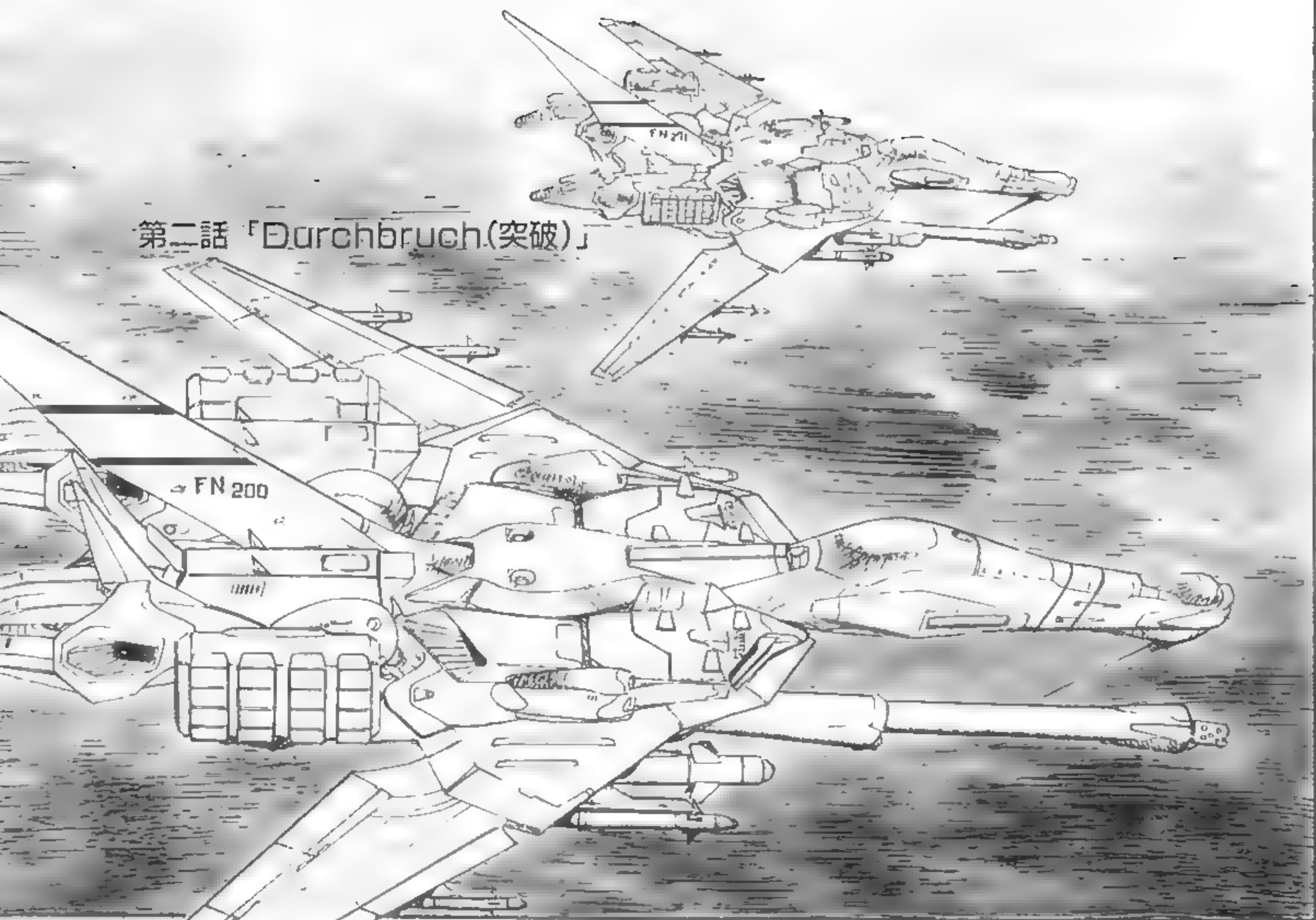
パイロット3名死亡

以上



しかし今日のような
強力なPWが現われた
以上、我々も早急に
対策を講じなければ

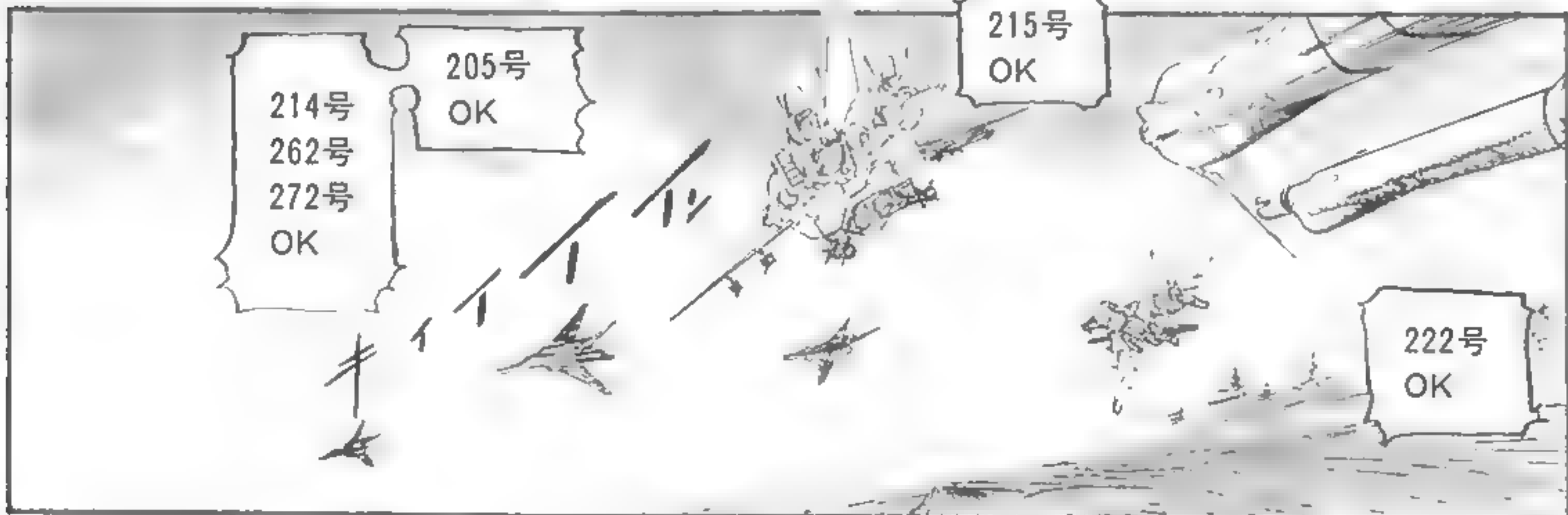
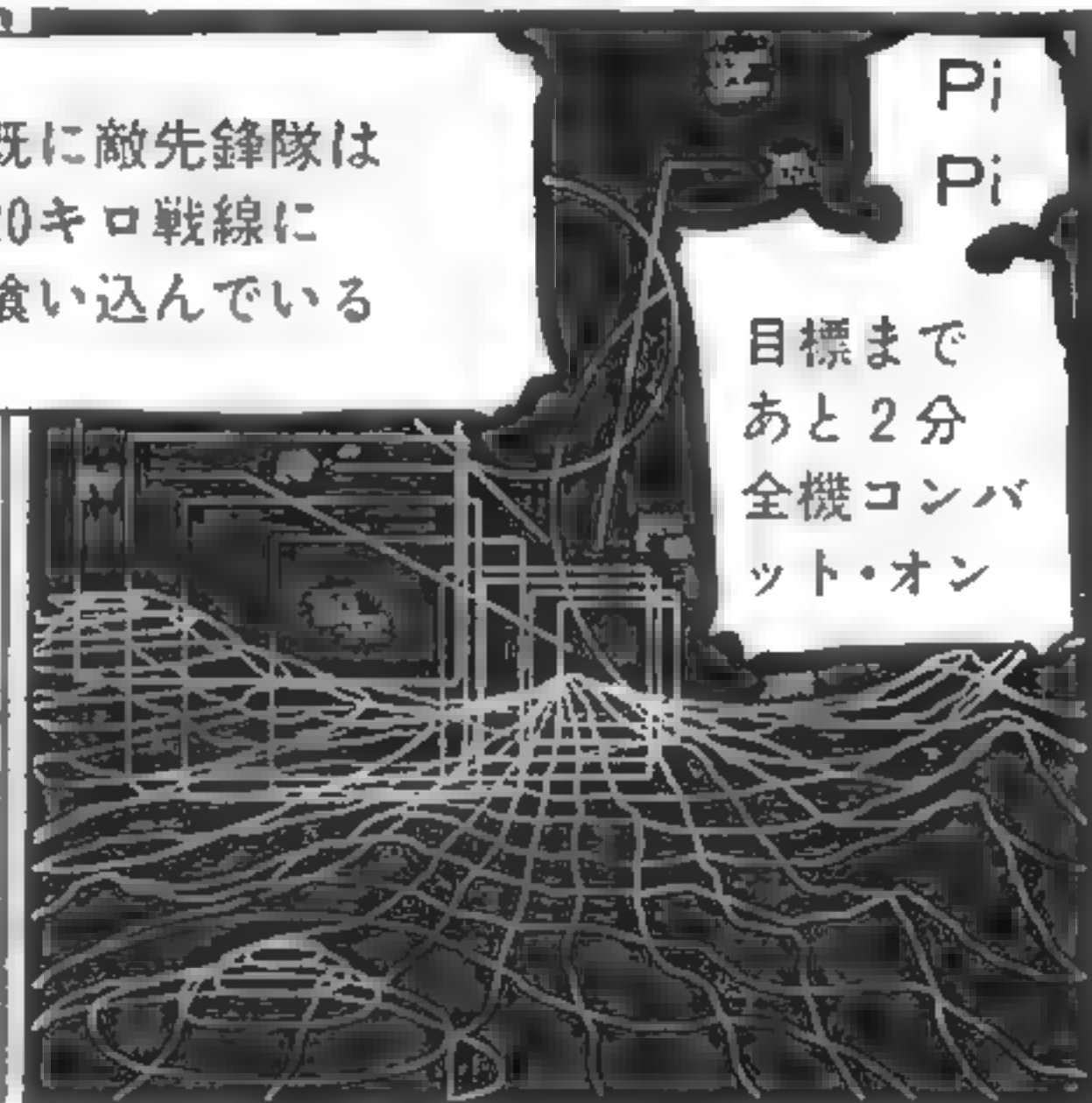
第二話「Durchbruch.(突破)」



既に敵先鋒隊は
20キロ戦線に
喰い込んでいる

Pi
Pi
目標まで
あと2分
全機コンバ
ット・オン

適、味方の距離はわずかしかない
正確にトムボムせよ、以上



214号
262号
272号
OK

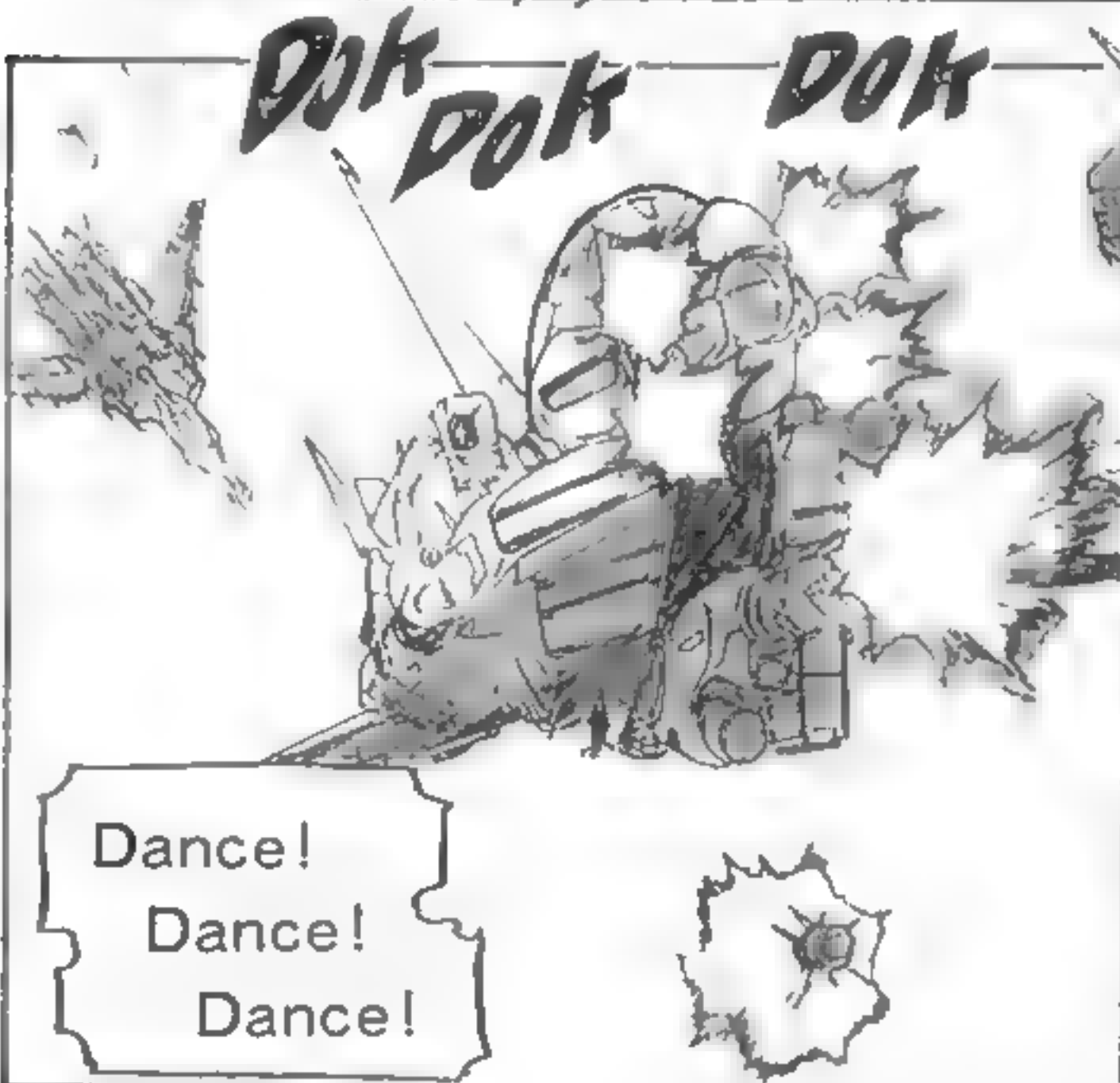
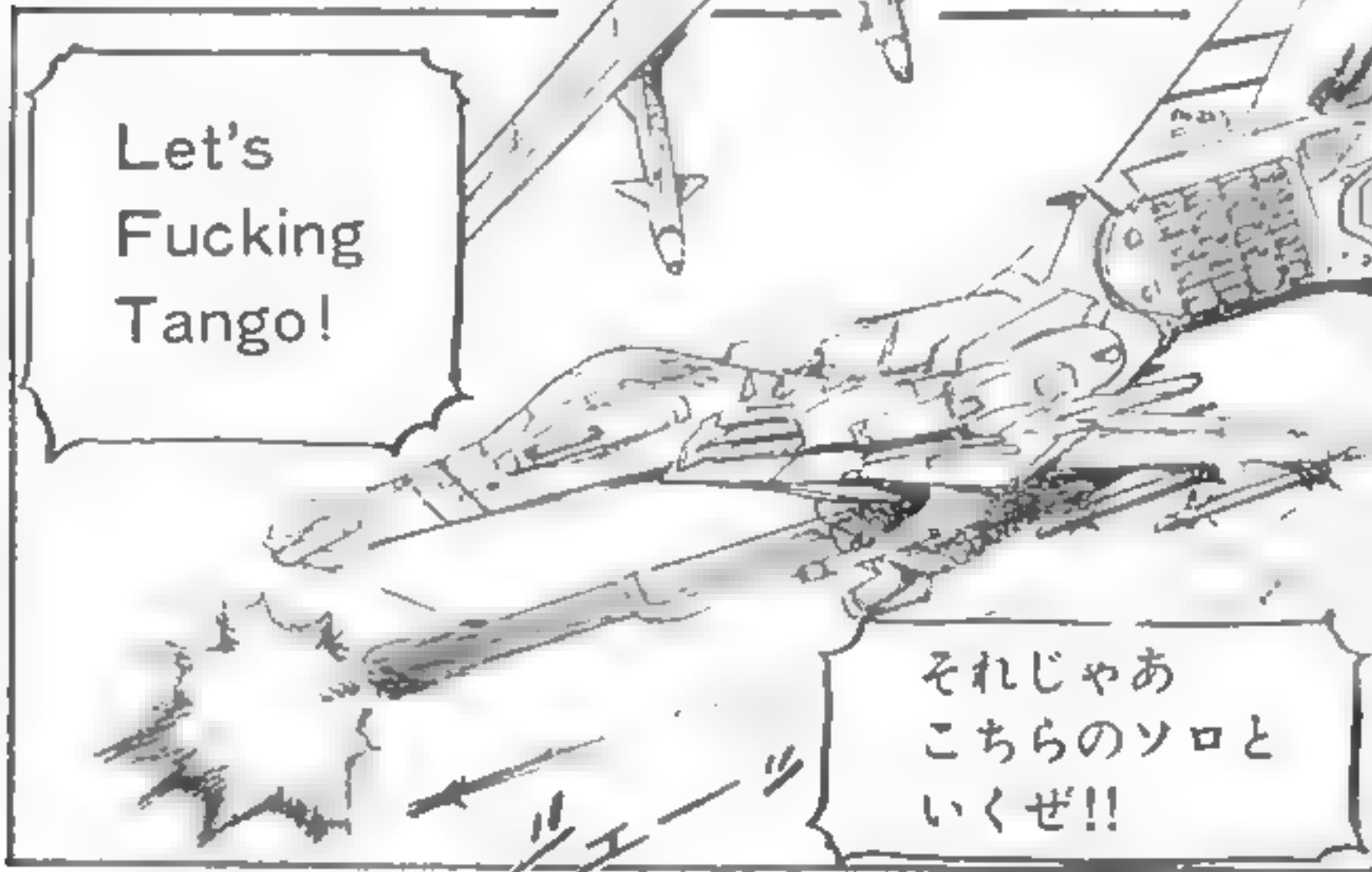
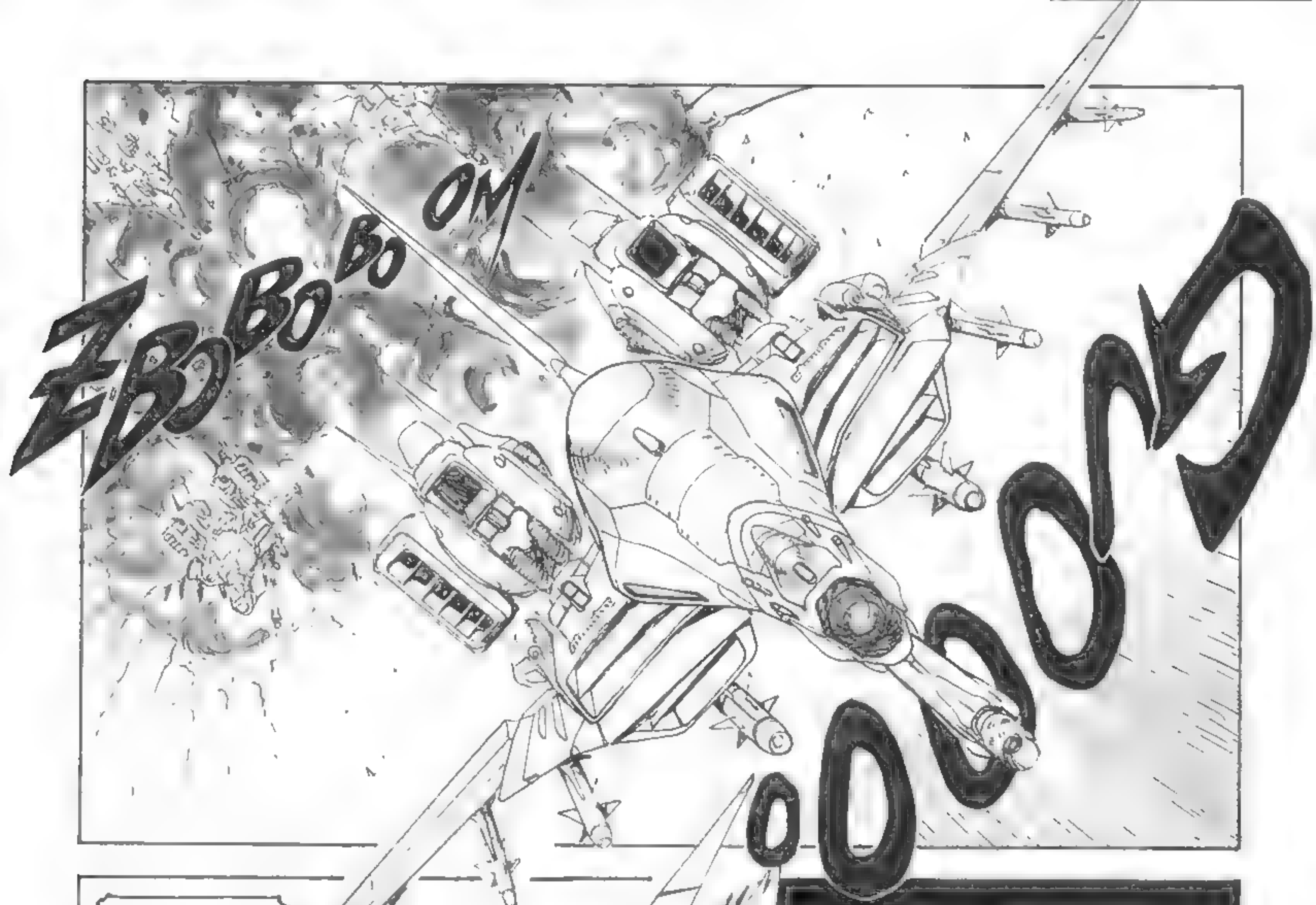
205号
OK

215号
OK

222号
OK



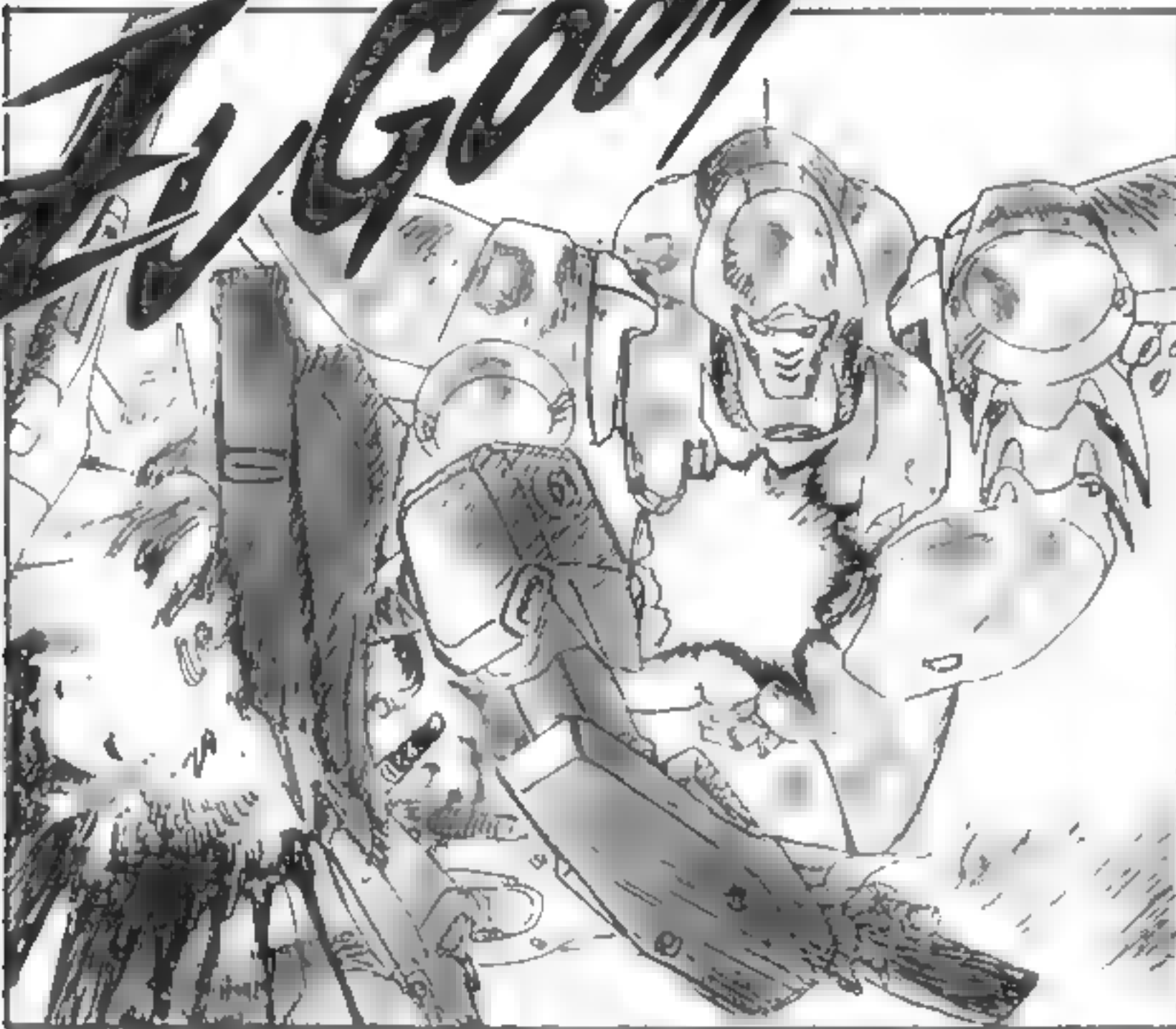
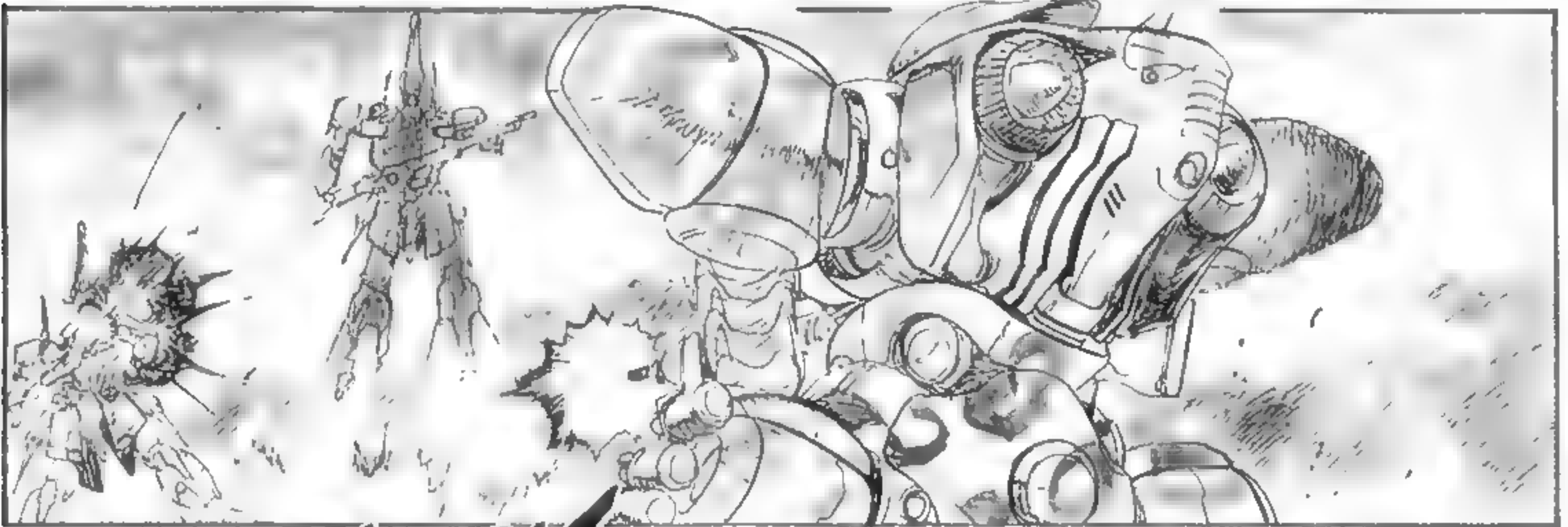
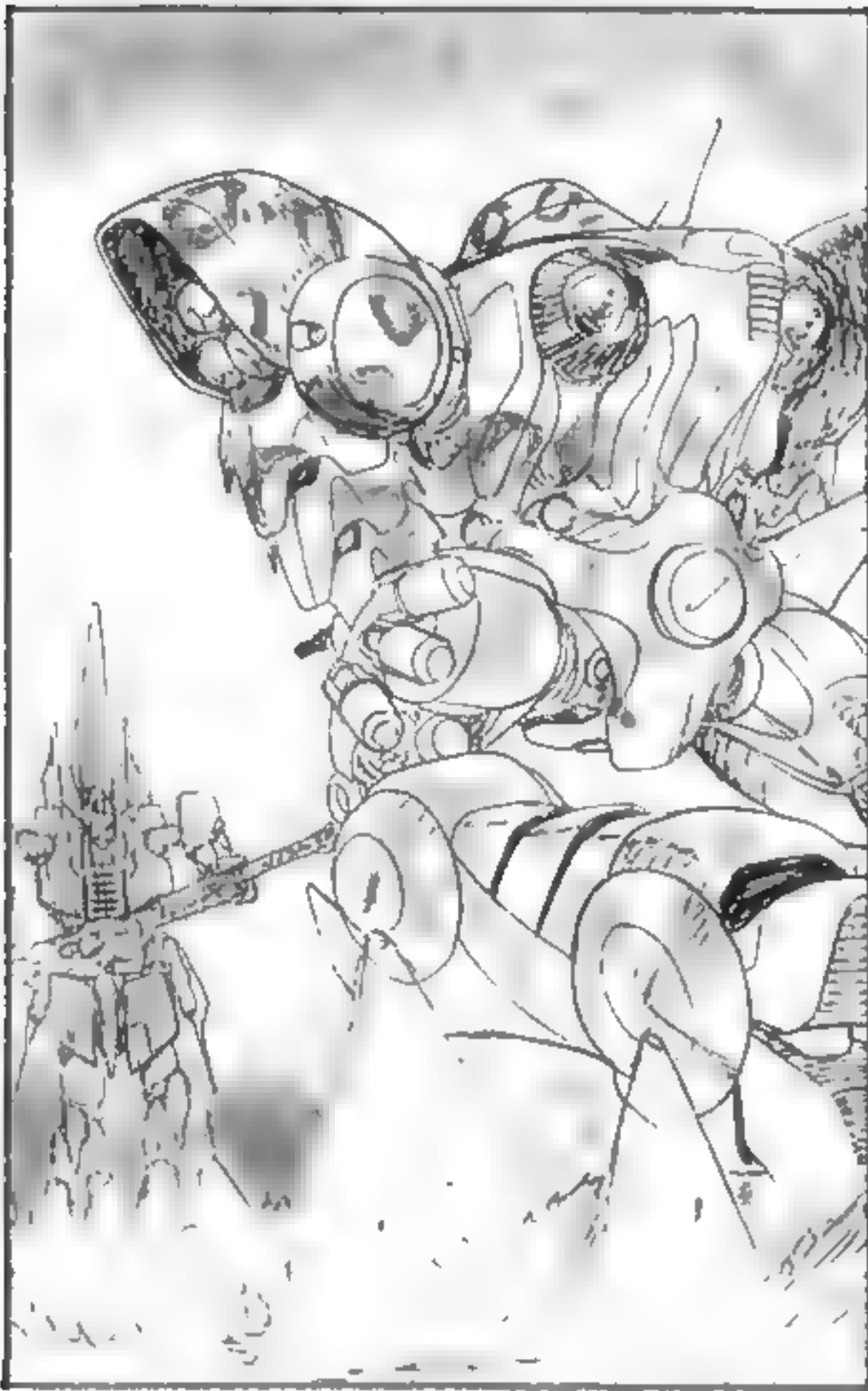


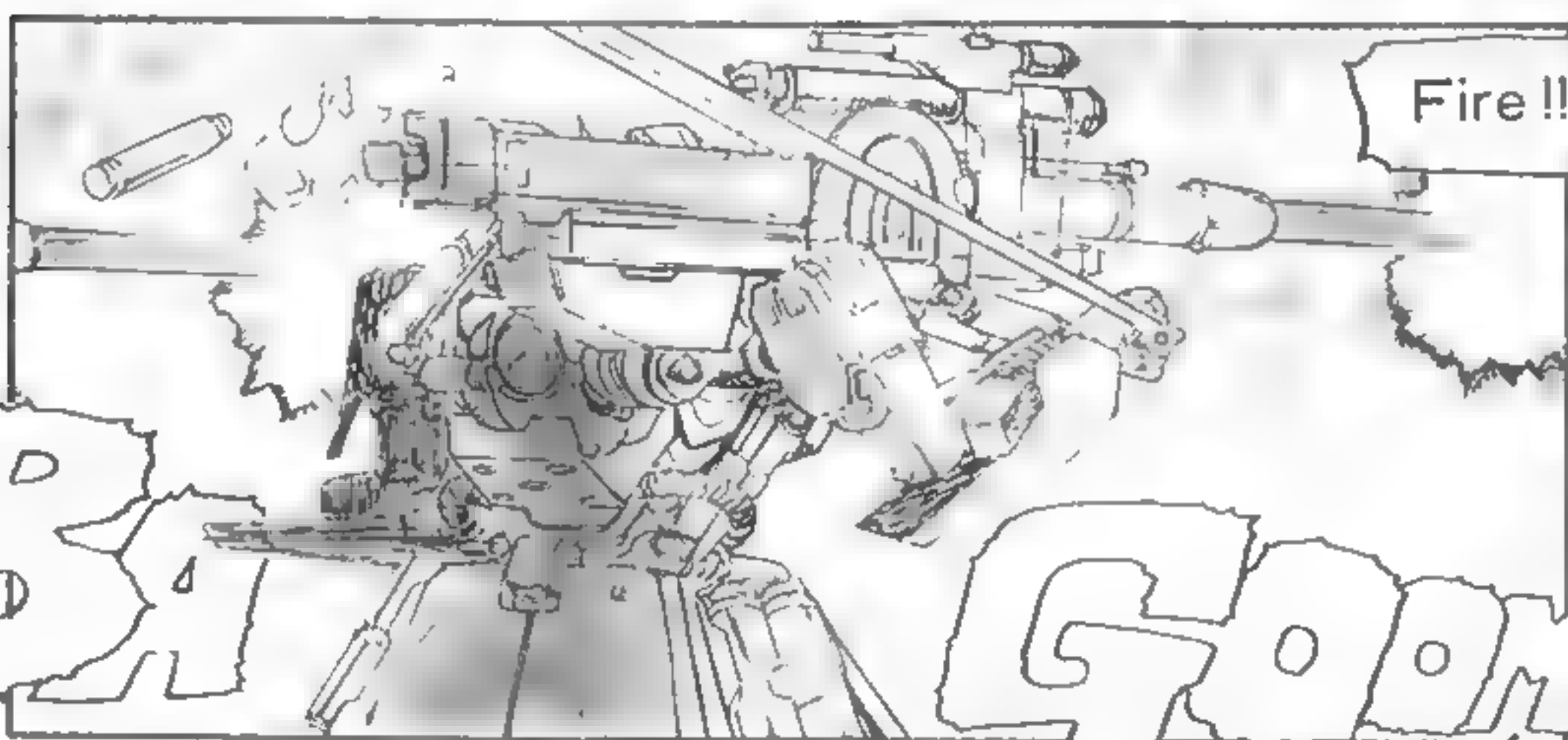
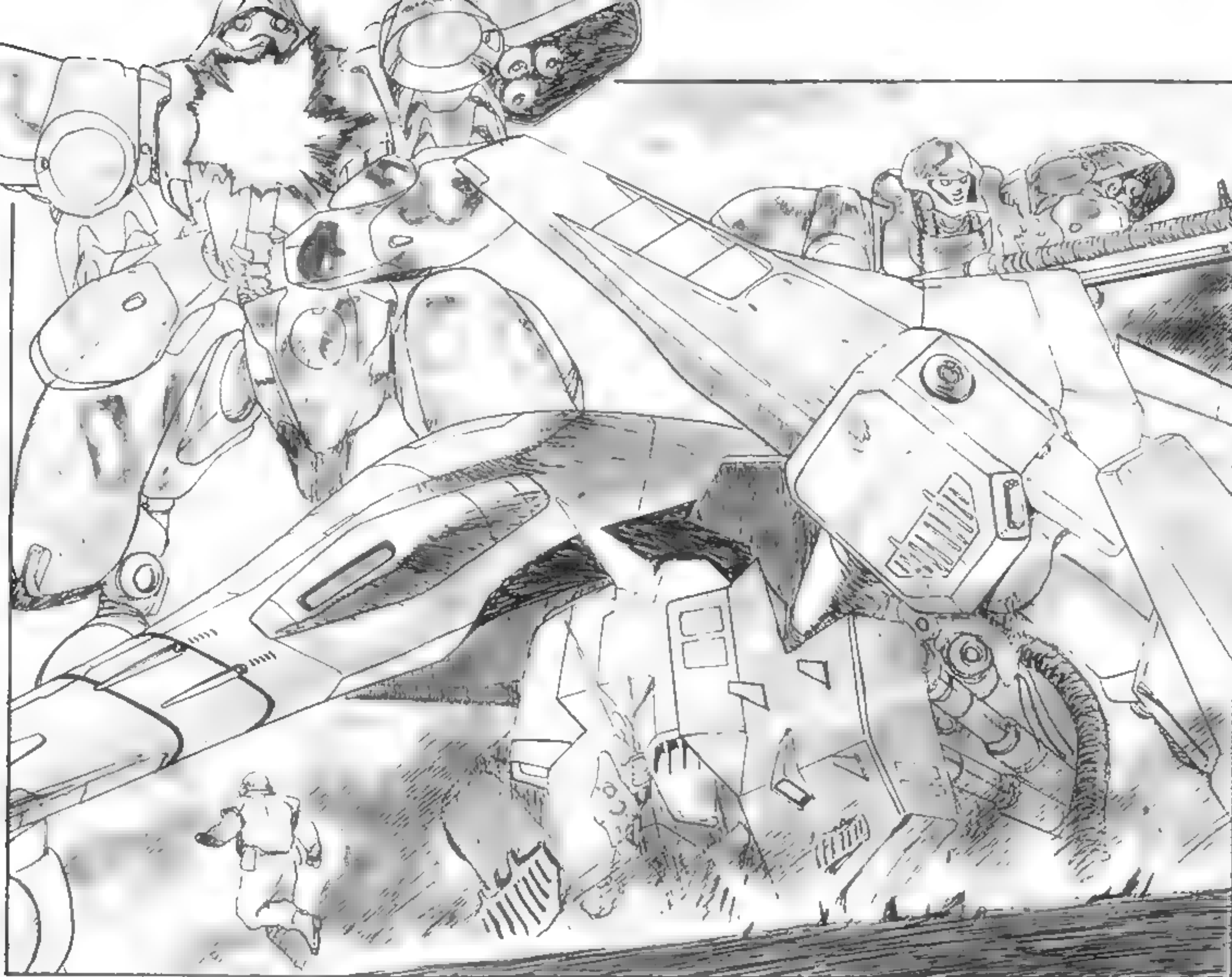




エア・ディフェンサーだ
高度を上げろ！

アルファ-1から
ハマーへ、この客は
気が荒いぜ！
アフターケアを
回してくれ





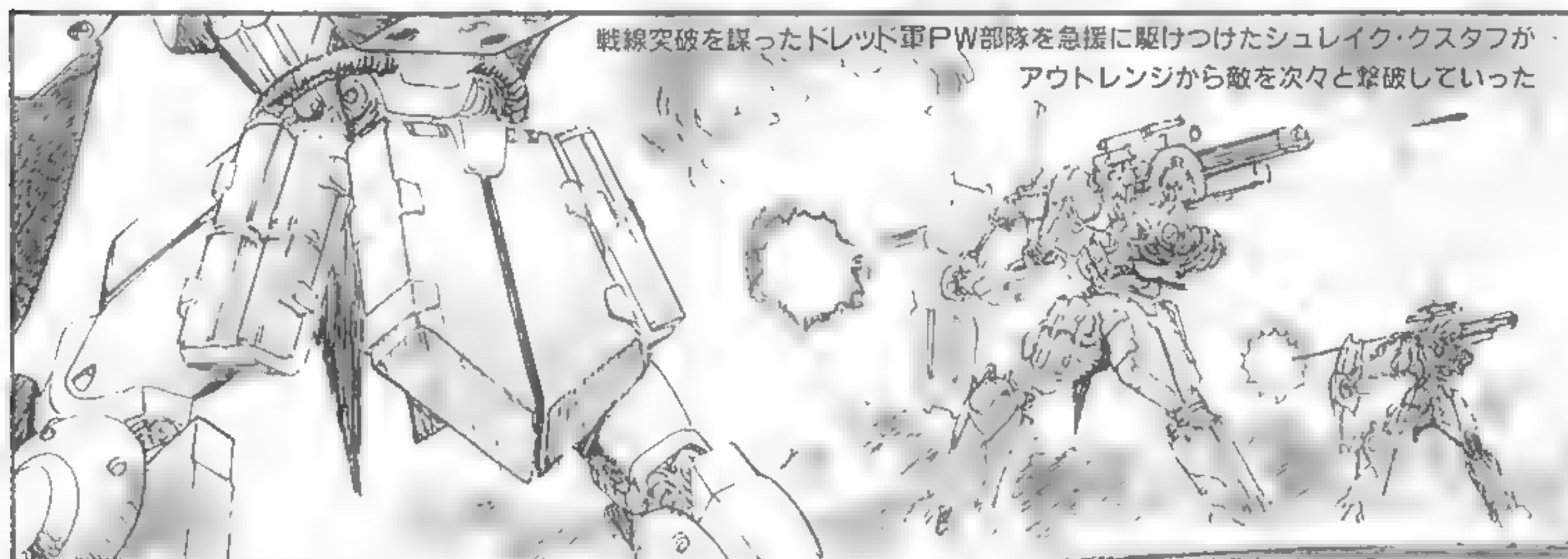
Fire!!

目標捕捉
距離3000
LOCK ON

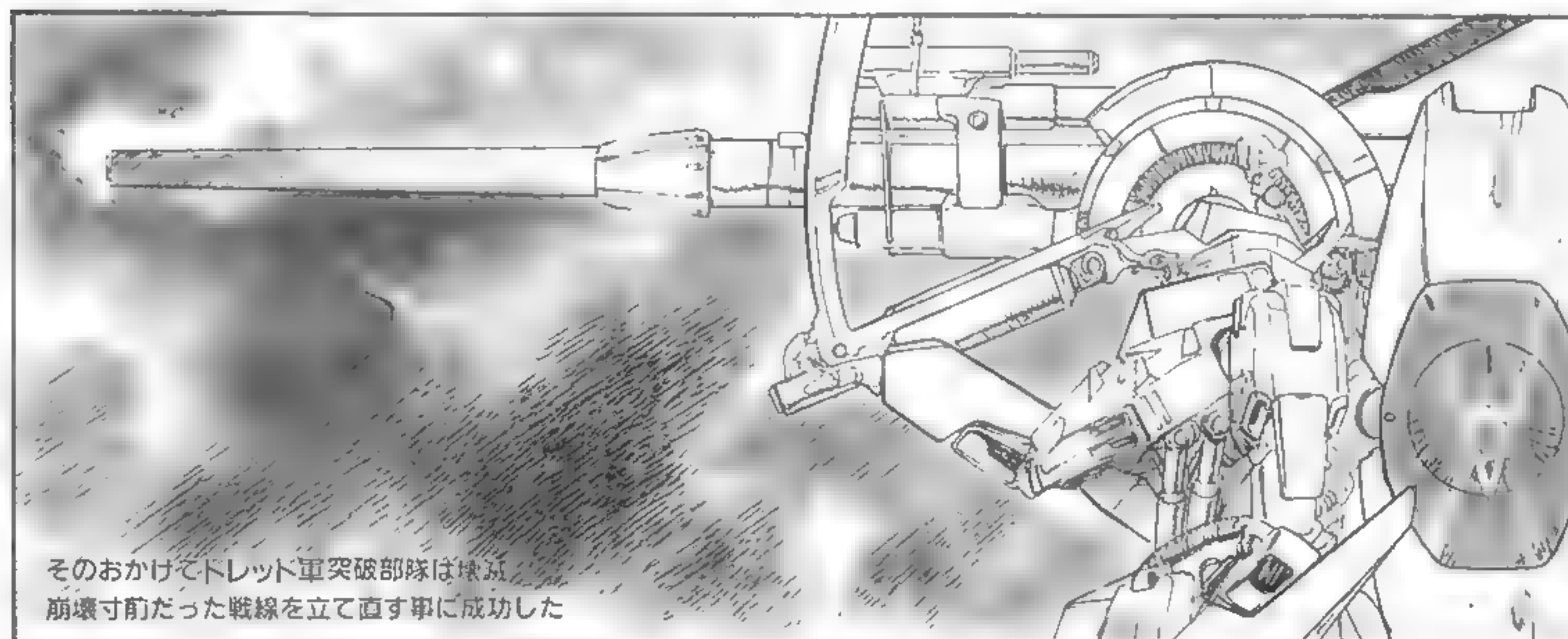




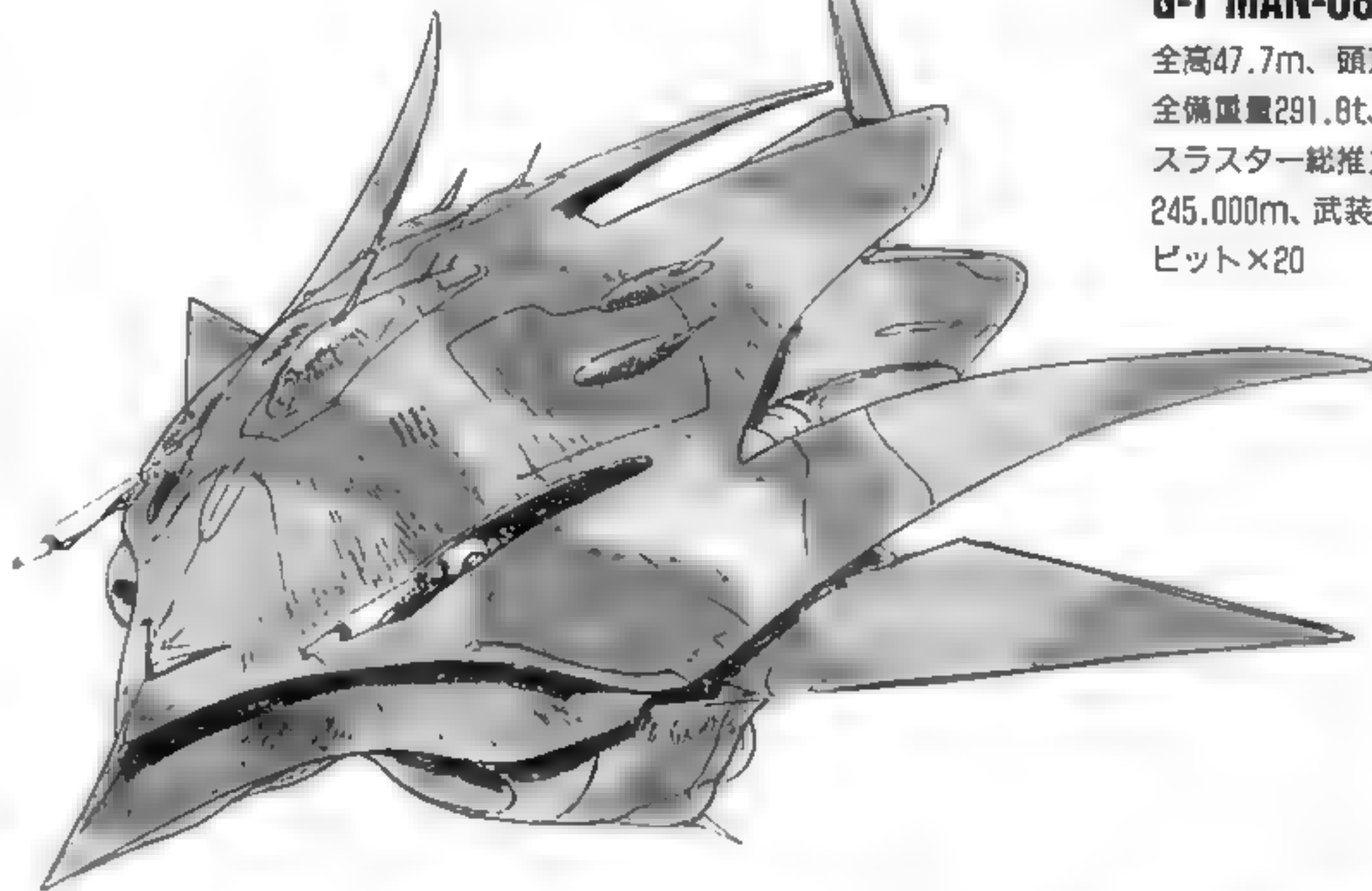
第二部隊
攻撃用意



戦線突破を謀ったドレット軍PW部隊を急援に駆けつけたシュレイク・クスタフが
アウトレンジから敵を次々と撃破していった



そのおかげでドレット軍突破部隊は壊滅
崩壊寸前だった戦線を立て直す事に成功した

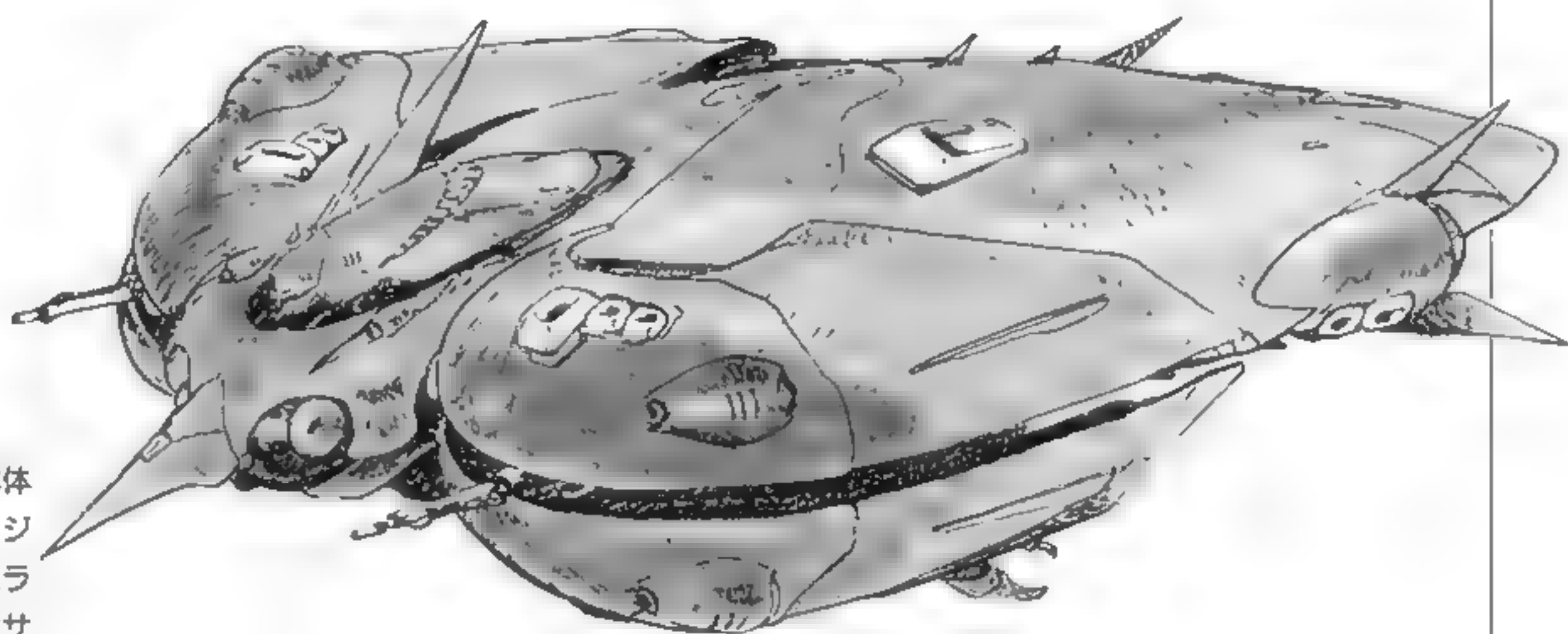


G-1 MAN-08 (ELUMESU)

全高47.7m、頭頂高85.4m、本体重量163.7t、
全備重量291.8t、ジェネレータ出力14,200kW、
スラスター総推力645,200kg、センサー有効半径
245,000m、武装メガ粒子砲×2、無線誘導火器
ビット×20

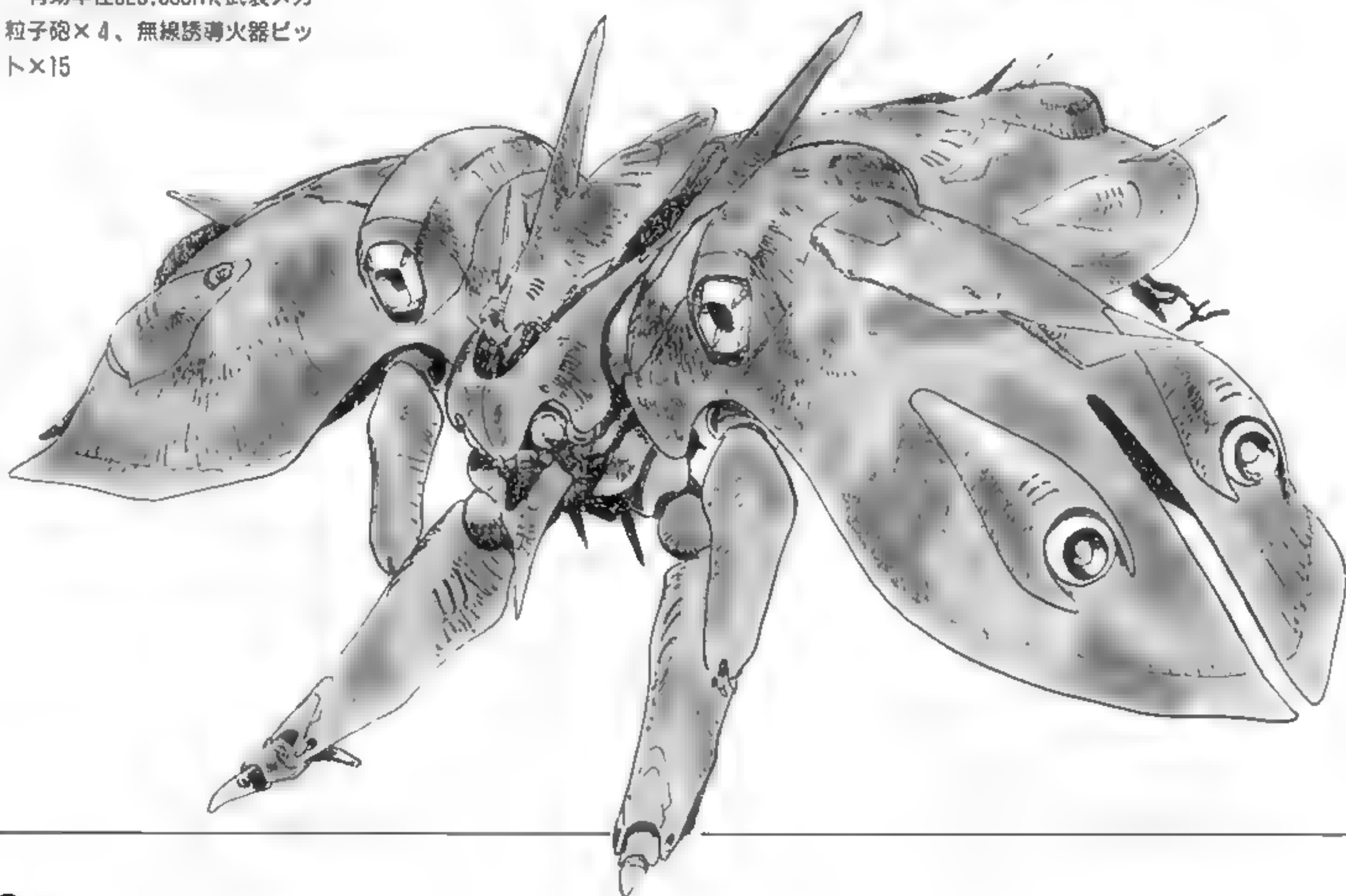
G-3 MAN-010 ARMOR MODE

全高19.4m、頭頂高25.5
m、本体重量110.3t、全
備重量25.0t、ジェネレー
タ出力25,400kW、スラス
ター総推力755,300kg、セ
ンサー有効半径320,000
m、武装メガ粒子砲×12、
無線誘導火器ビット×10



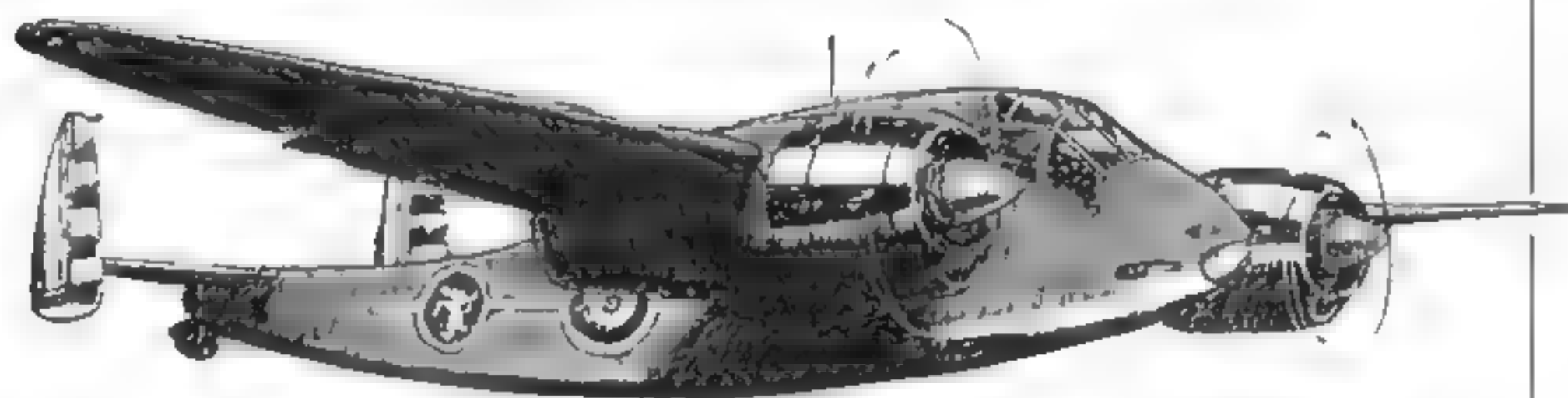
G-2 MAN-09

全高48m、頭頂高60.2m、本体
重量350t、全備重量510.0t、ジ
ェネレータ出力25,400kW、スラ
スター総推力755,300kg、センサ
ー有効半径320,000m、武装メガ
粒子砲×4、無線誘導火器ビット
×15





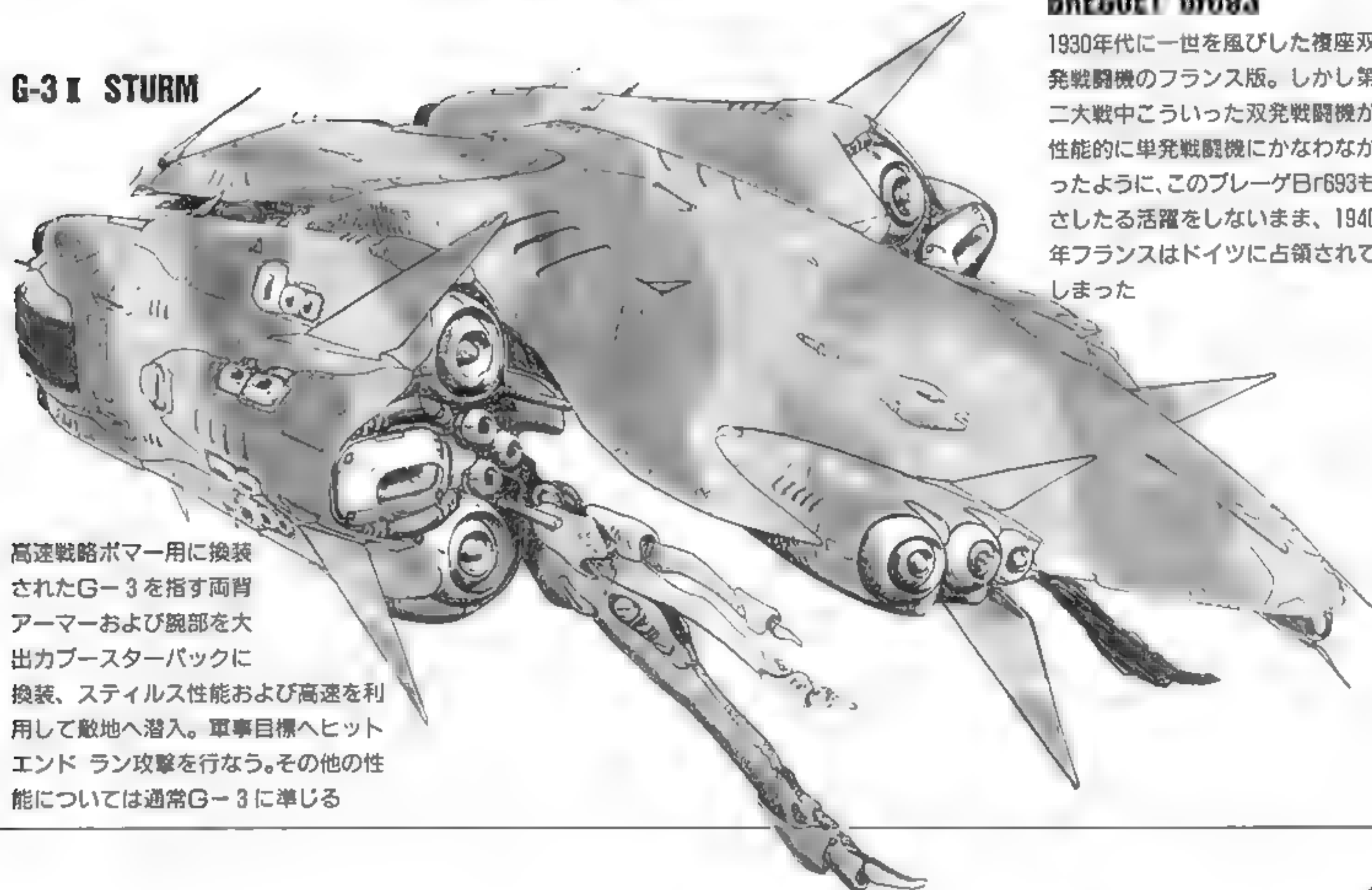
MSN-010 G-3



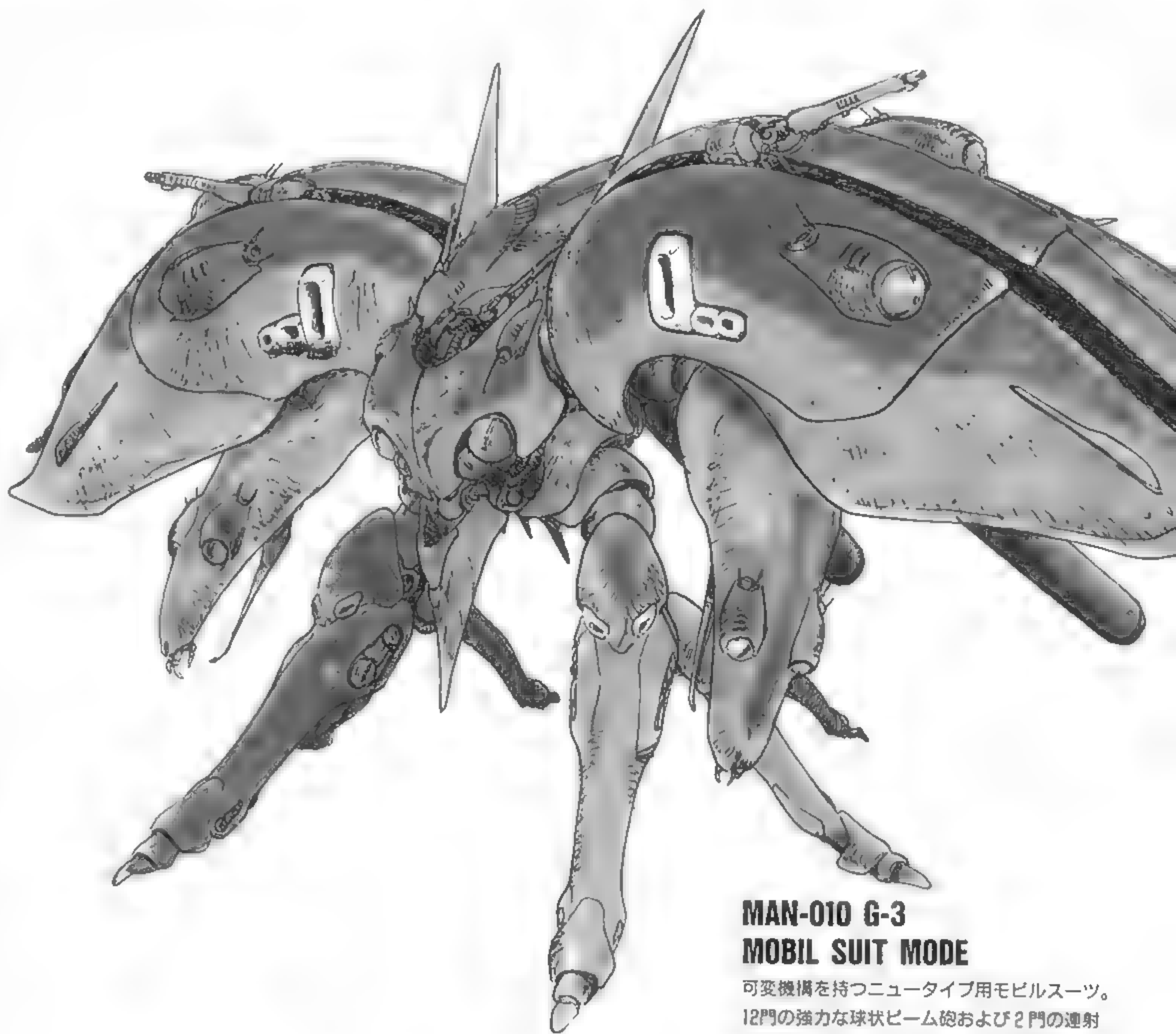
BREGUET Br693

1930年代に一世を風びした複座双発戦闘機のフランス版。しかし第二次大戦中こういった双発戦闘機が性能的に単発戦闘機にかなわなかったように、このブレーゲBr693もさしたる活躍をしないまま、1940年フランスはドイツに占領されてしまった

G-3 I STURM

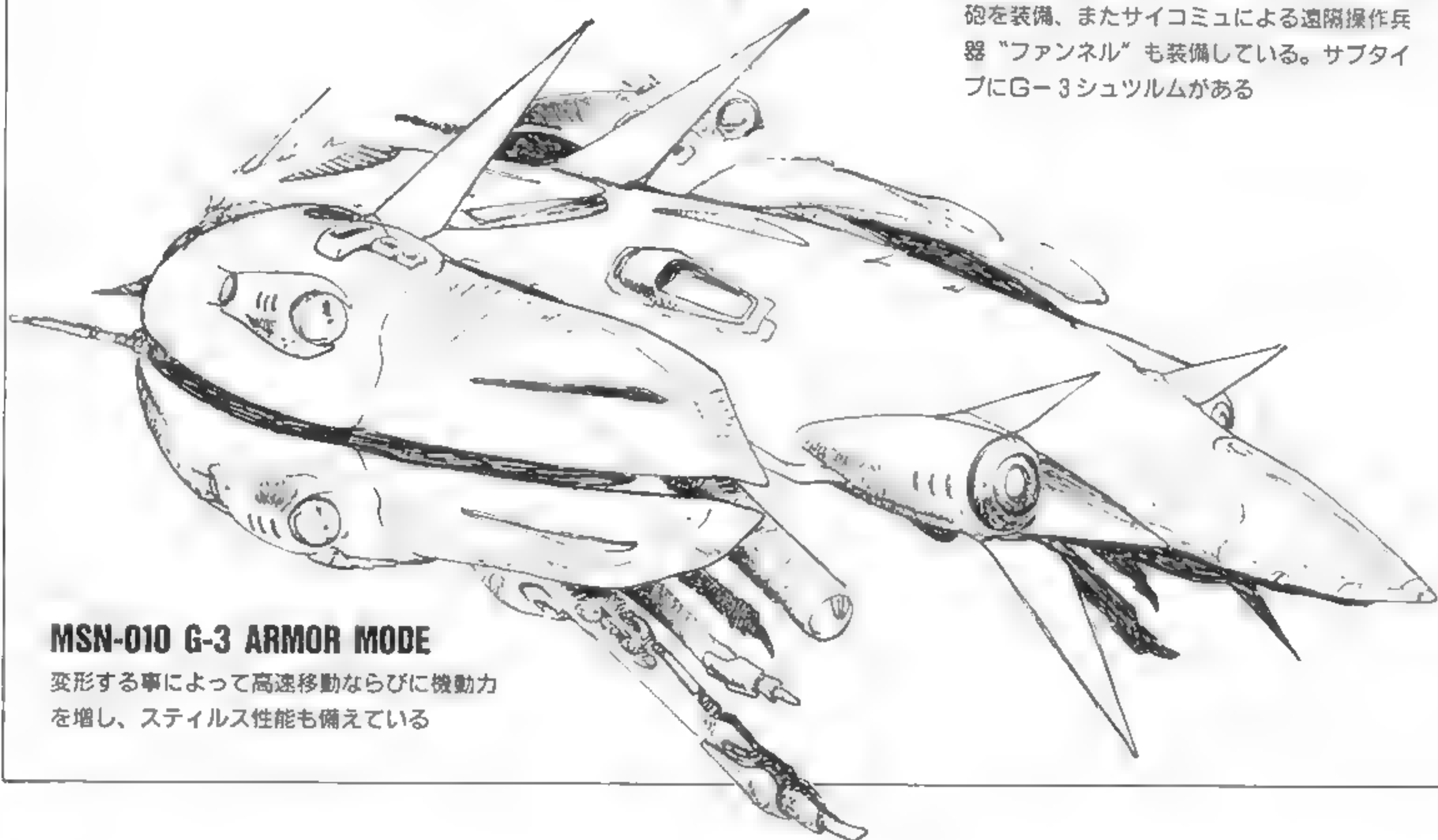


高速戦略ボマー用に換装されたG-3を指す両背アーマーおよび腕部を大出力ブースターバックに換装、ステルス性能および高速を利用して敵地へ潜入。軍事目標へヒットエンドラン攻撃を行なう。その他の性能については通常G-3に準じる



MAN-010 G-3 MOBIL SUIT MODE

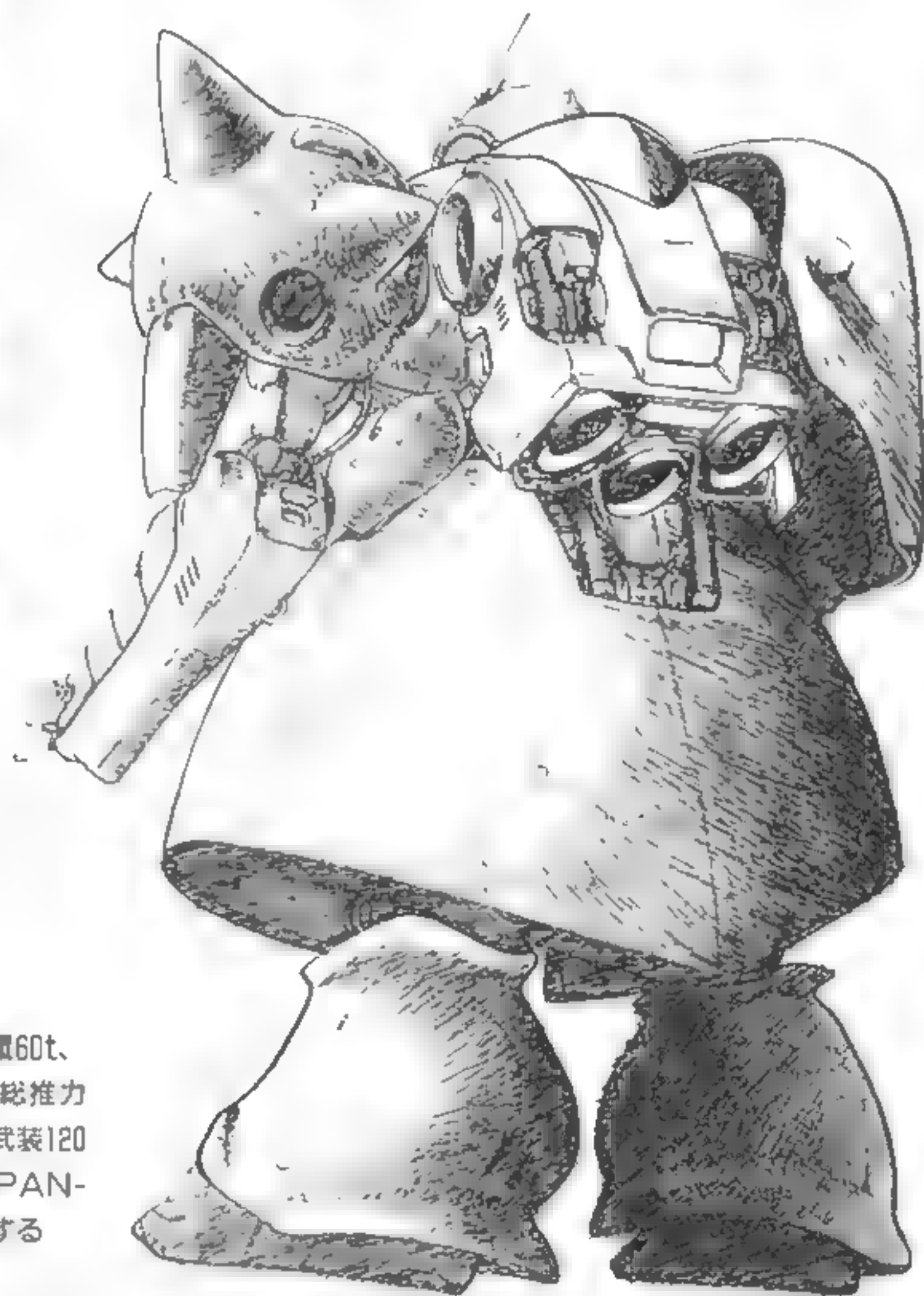
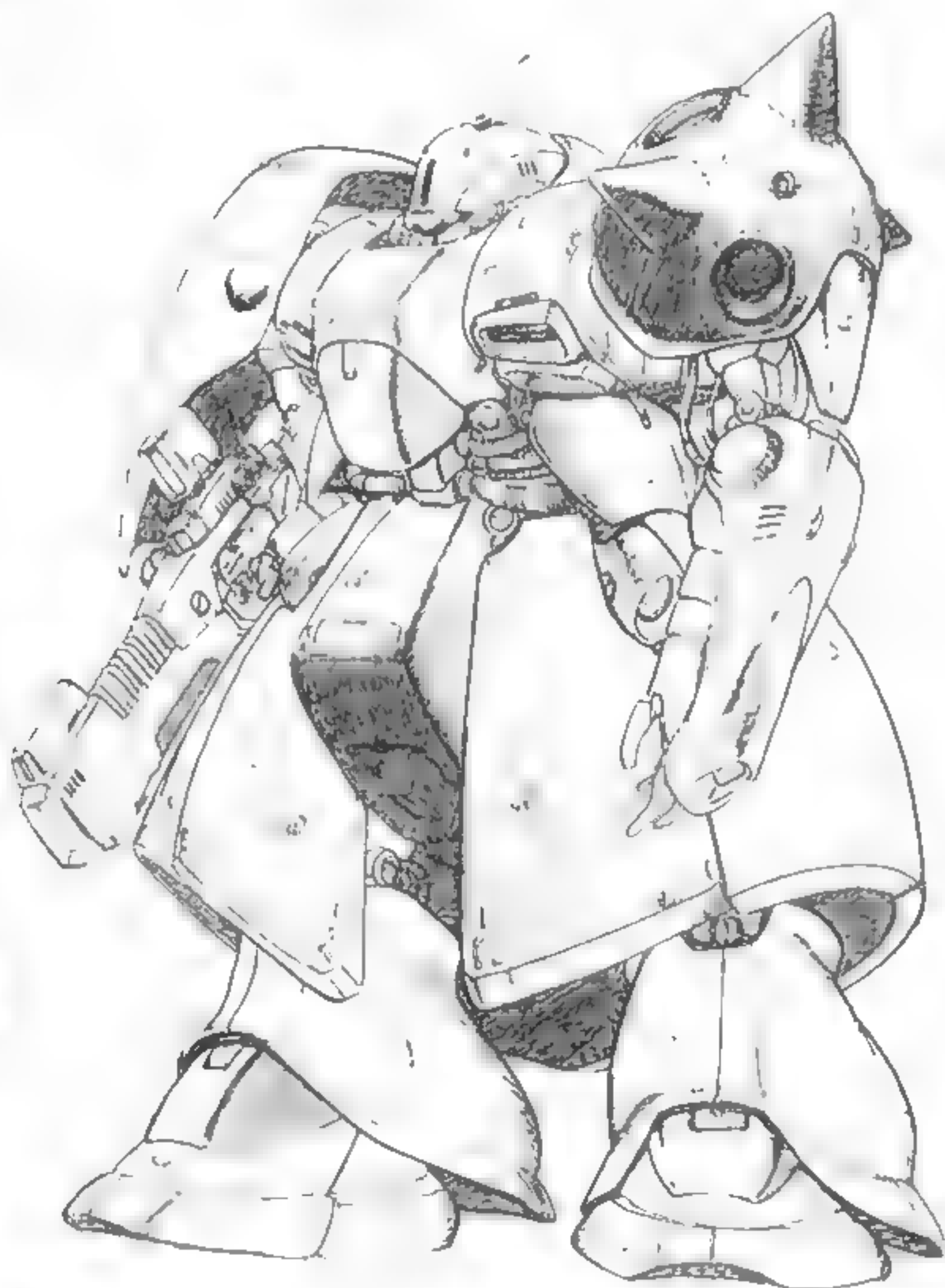
可変機構を持つニュータイプ用モビルスーツ。
12門の強力な球状ビーム砲および2門の連射
砲を装備、またサイコミュによる遠隔操作兵
器“ファンネル”も装備している。サブタイ
プにG-3シュツルムがある



MSN-010 G-3 ARMOR MODE

変形する事によって高速移動ならびに機動力
を増し、ステルス性能も備えている

**CHERKASSY
OCTOBER U.C.0079
ZION PANZER GRENADEIER**



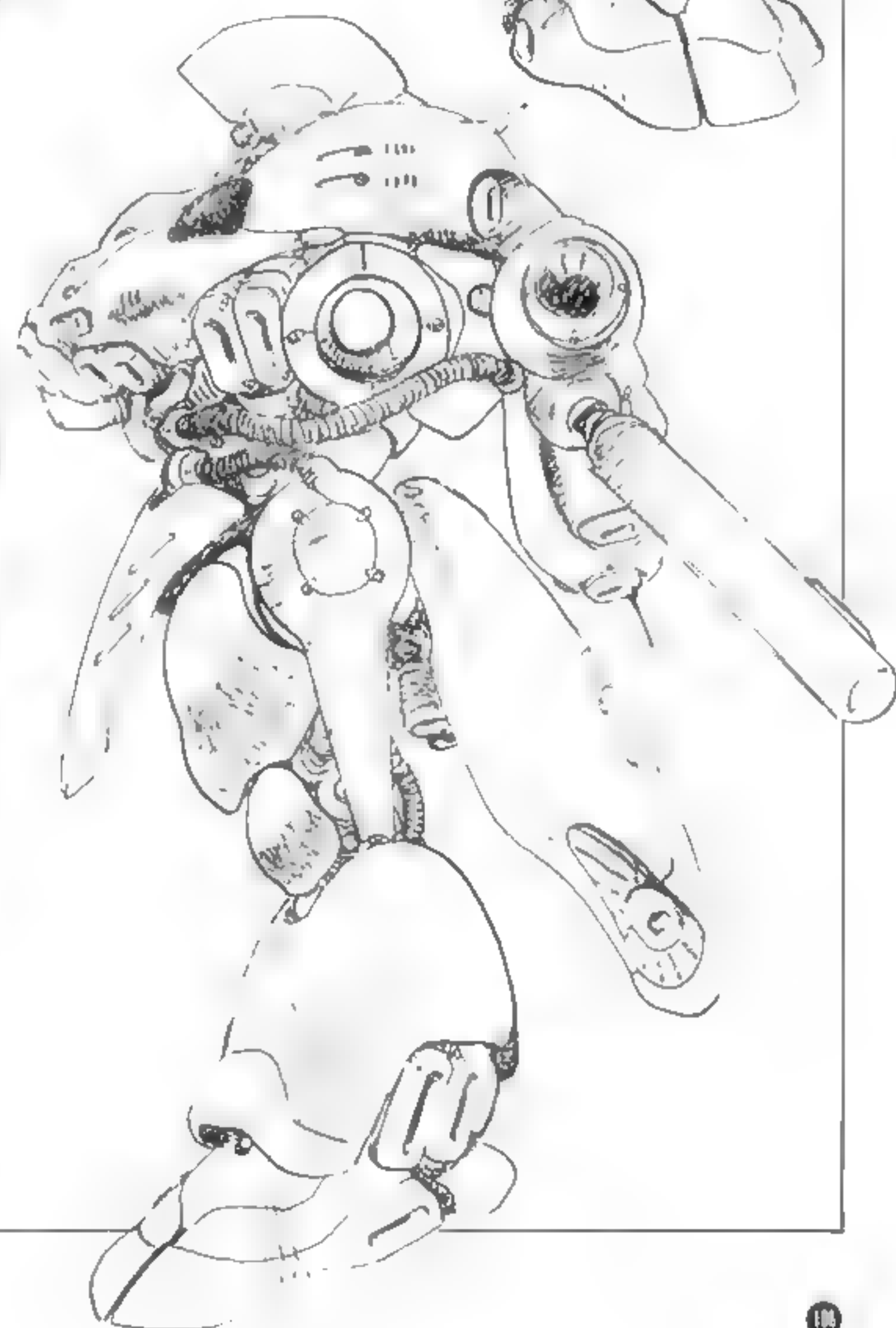
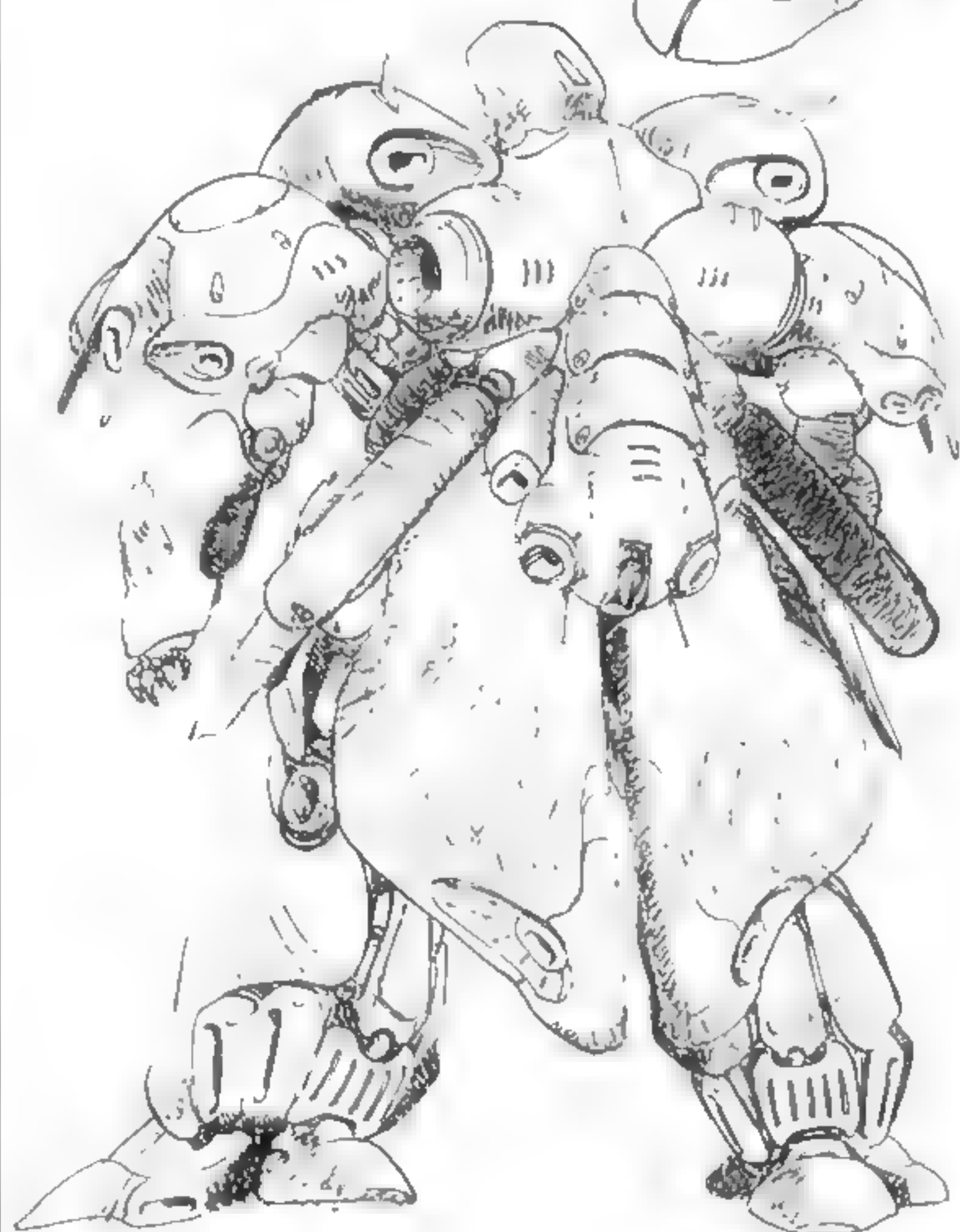
MS-100 GOBLIN

頭頂高15.5m、本体重量45t、全備重量60t、
ジェネレータ出力976kW、スラスタ総推力
43,300kg、センサー有効半径3,200m、武装120
mmバズーカ、サブタイプとして支援用PAN-
ZER WAFFENガフタイプが存在する



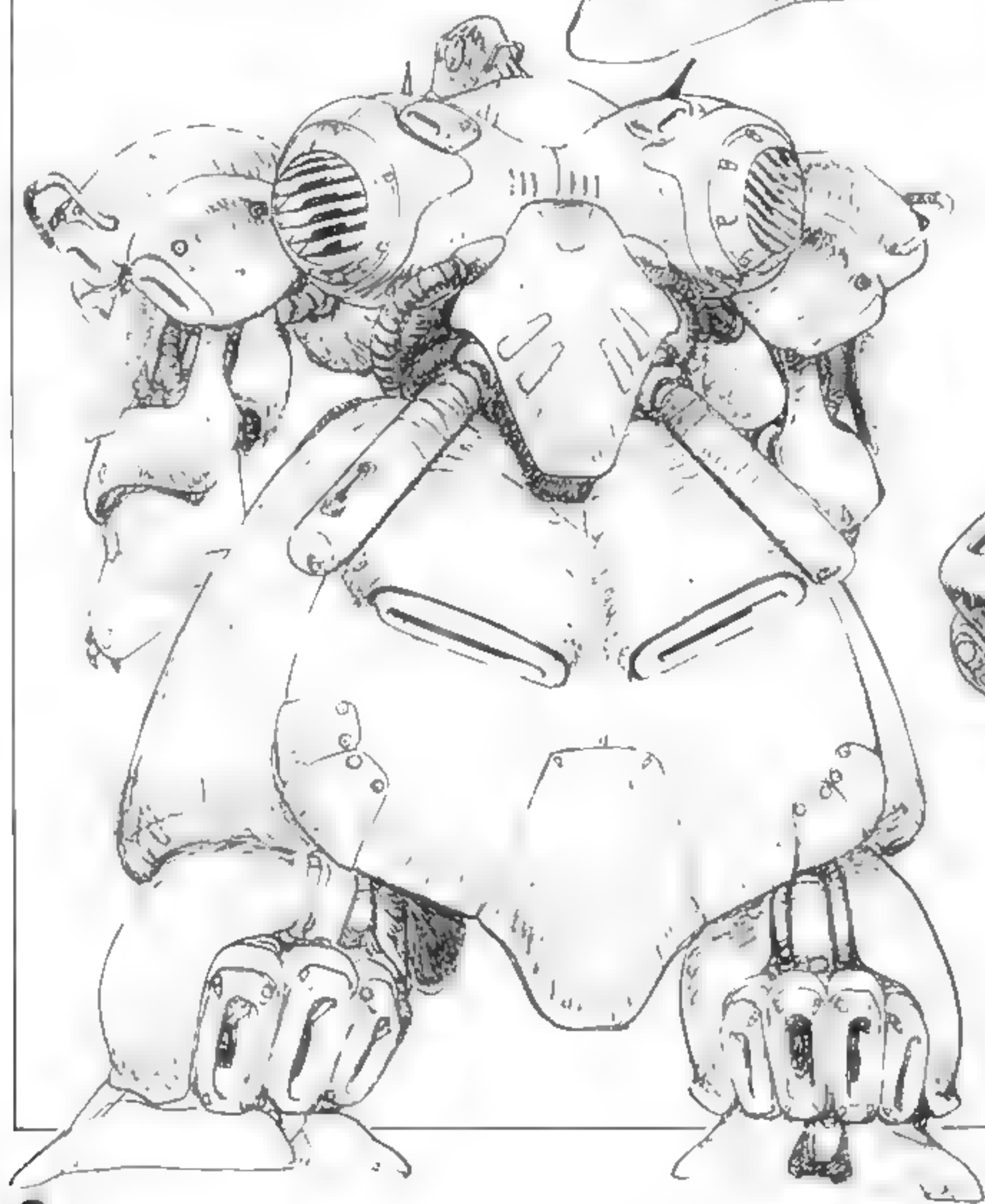
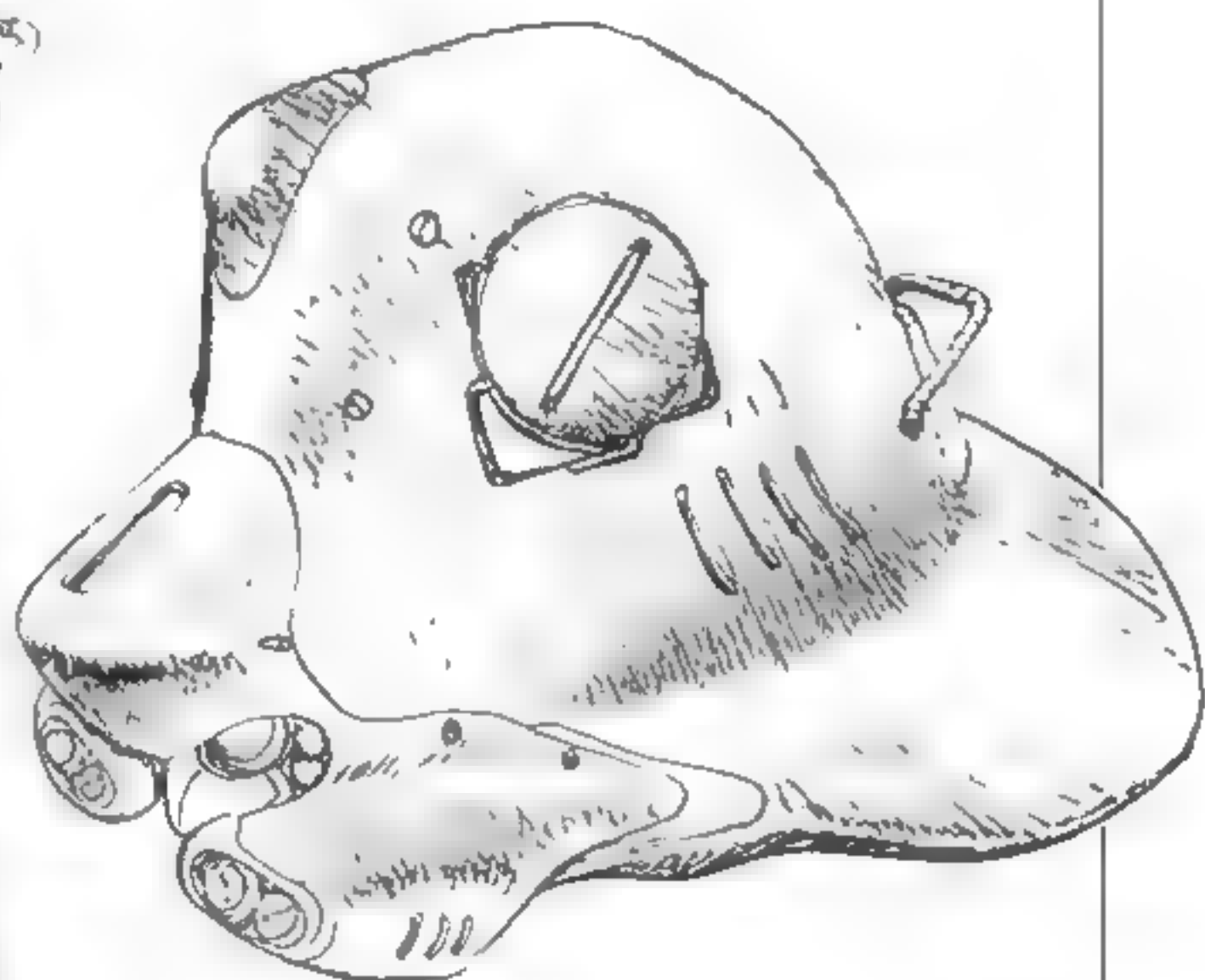
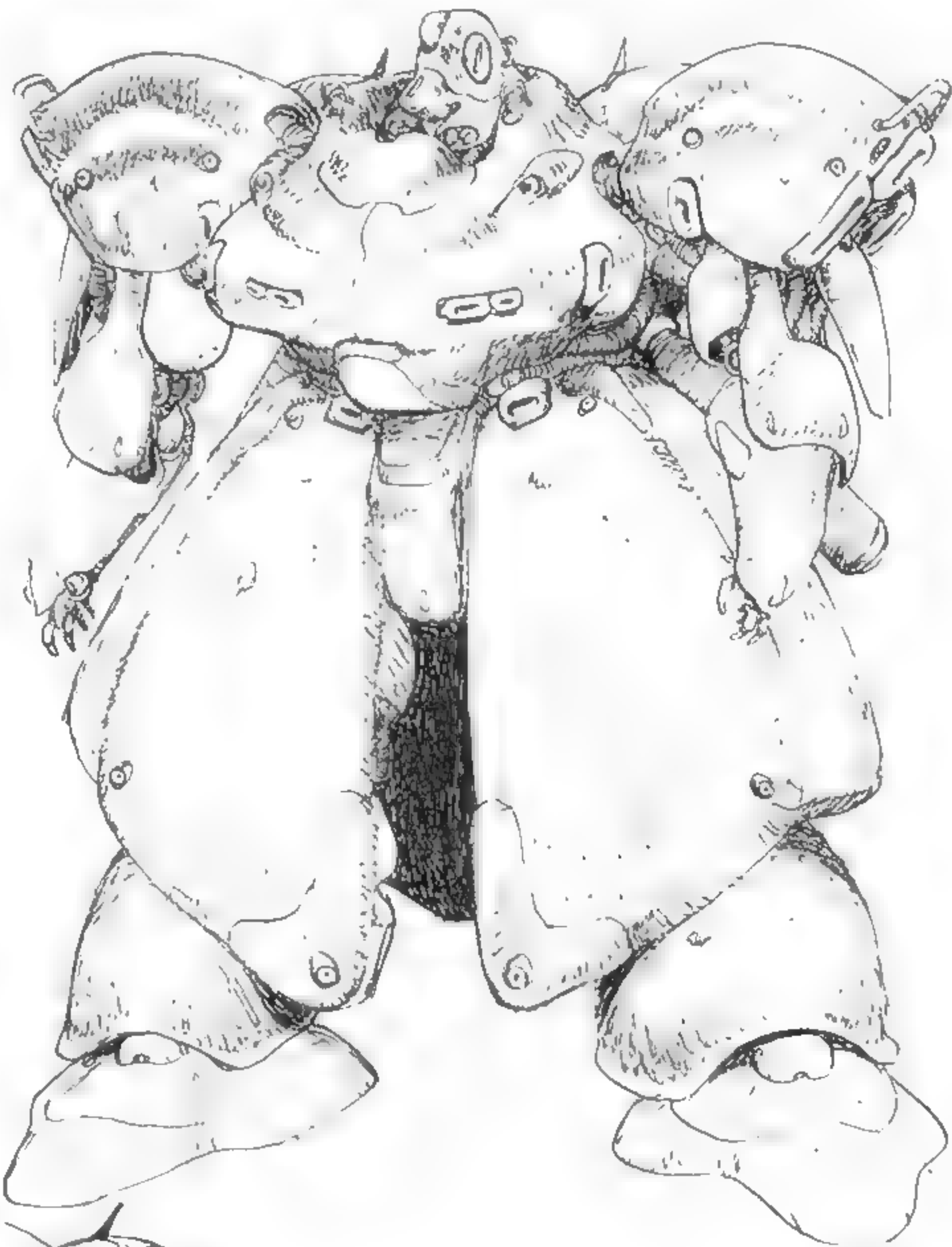
PMS-007 JAGUAR-1

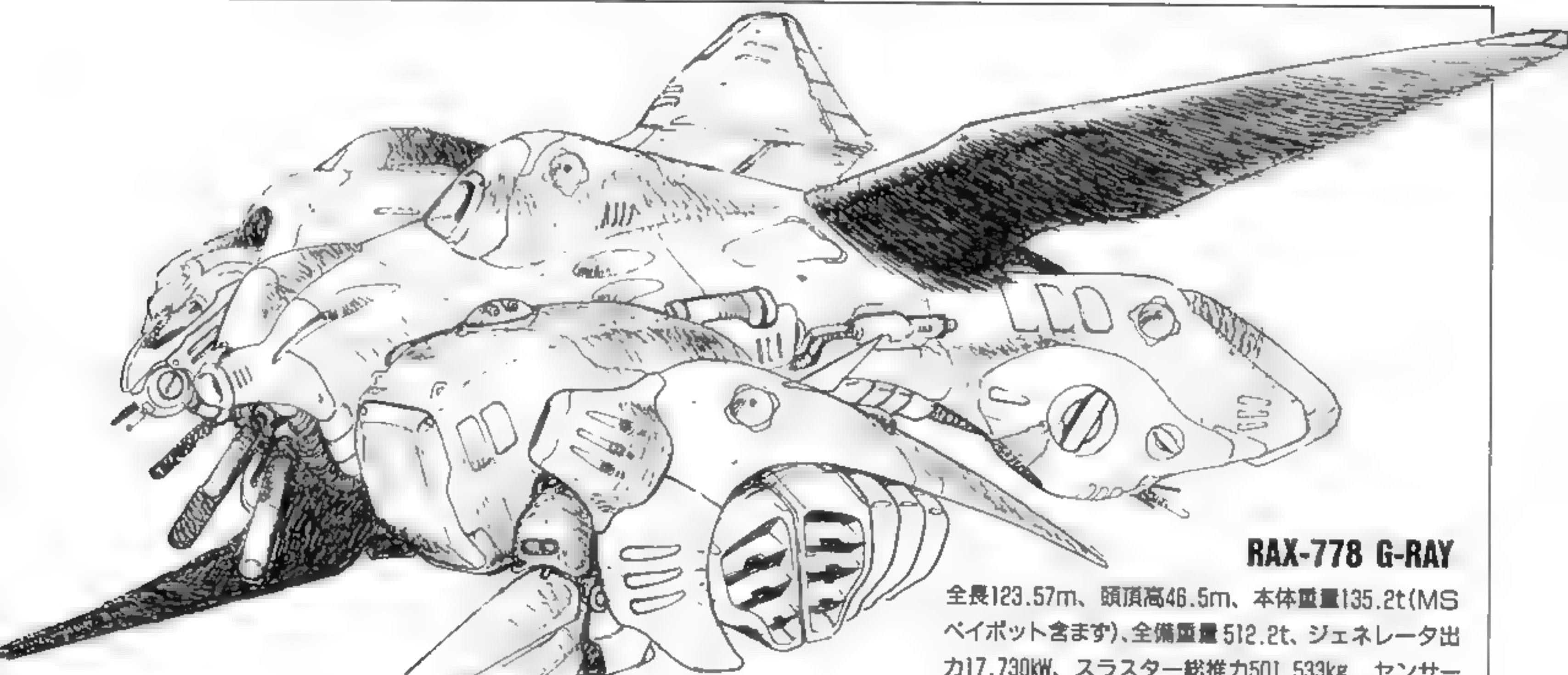
頭頂高21.0m、本体重量32.0t、全備重量
74.5t、ジェネレータ出力3.900kW、スラ
スター総推力13,800kg×2、13,800kg×
4、8,900kg×6、アボシモーター数26、
センサー有効半径12,300m、武装120mmマ
シンガン



PMX-005 BREDA

頭頂高22.3m、本体重量34.2t、全備重量
75.6t、ジェネレータ出力3,880kW、スラ
スター総推力13,800kg×2、12,800kg×
4、9,200kg×4、アポジモーター数25、
センサー有効半径12,200m、武装120mmマ
シンガン





RAX-778 G-RAY

全長123.57m、頭頂高46.5m、本体重量135.2t(MS
パイロット含まず)、全備重量512.2t、ジェネレータ出
力17.730kW、スラスター総推力501,533kg、センサー
有効半径19,000m、武装単装ビーム砲座×6、2連装
ビーム砲座×2、メガビームキャノン×2 ミサイル
ハーガン×2

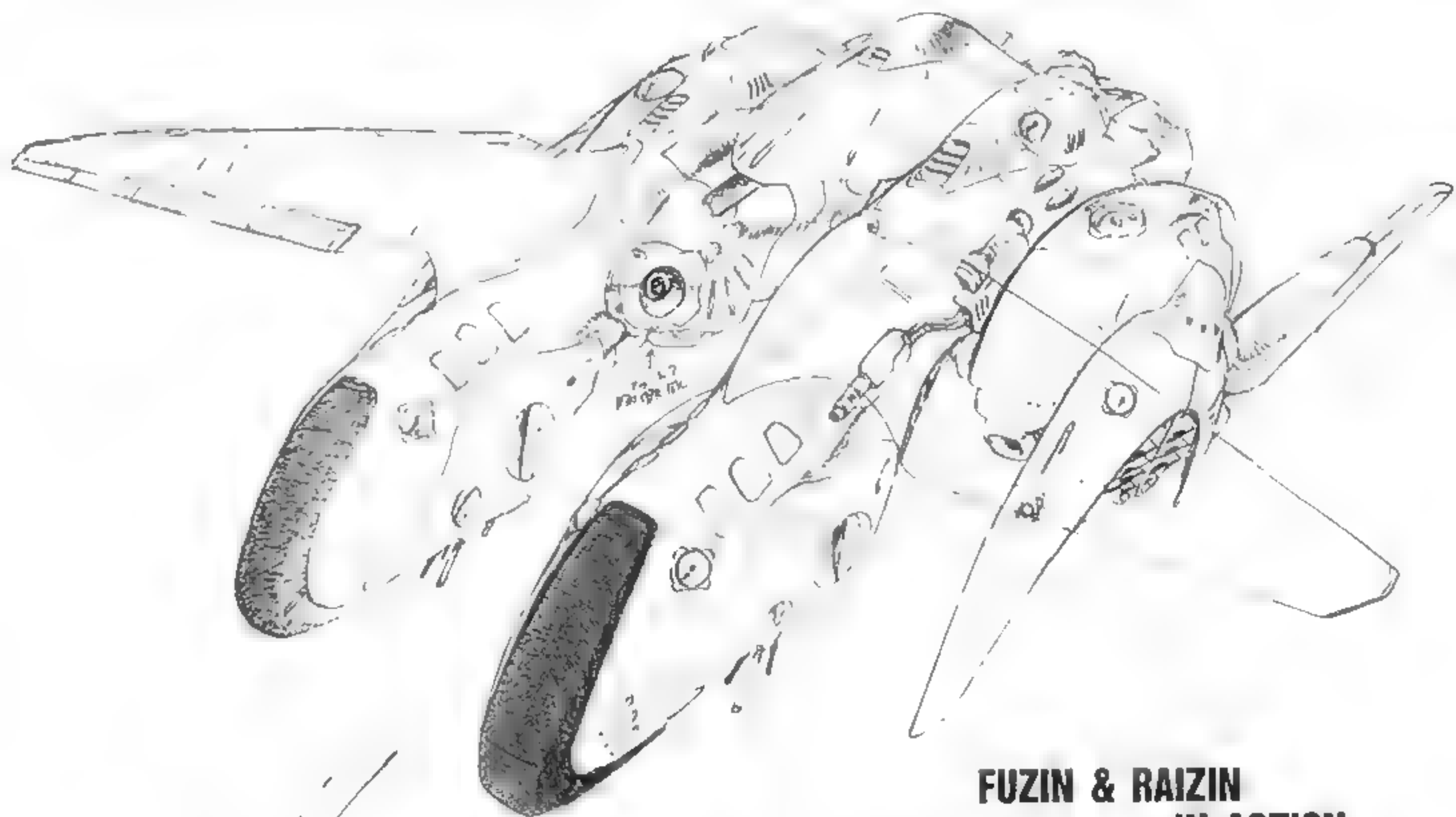
Mig-15 FAGOT

第二次世界大戦後ソ連
は、ドイツが研究して
いたジェット機に関す
るデータを本国に持ち
去っていった。そして
1950年に起きた朝鮮戦争に登場したソ
連のジェット戦闘機Mig-15こそがその
技術の結晶といえる。西側のほとんどの
ジェット機はMig-15にとって敵では
なかった。この時受けた西側のショッ
クはその後も尾を引いたことは衆知の
とおりである

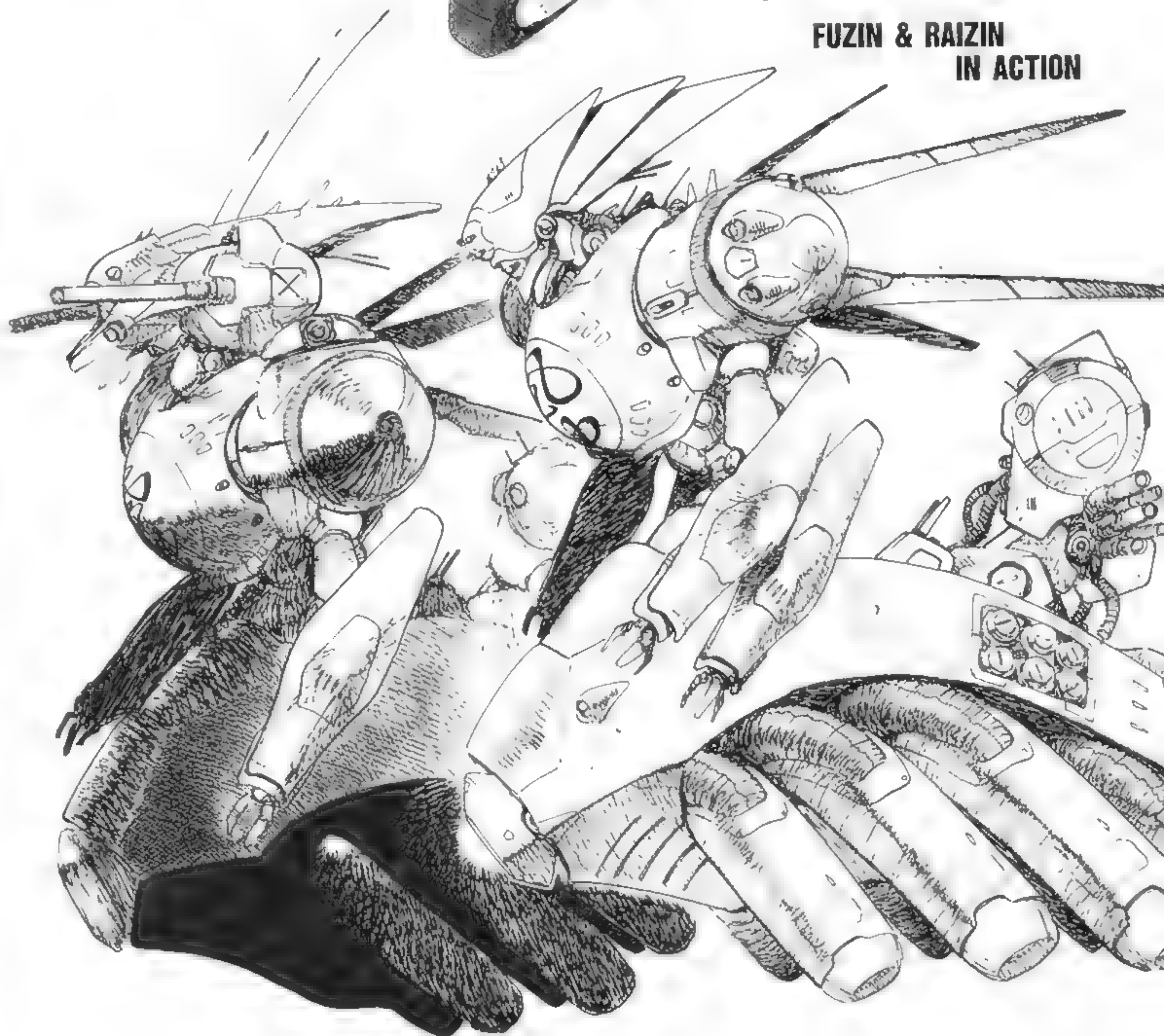


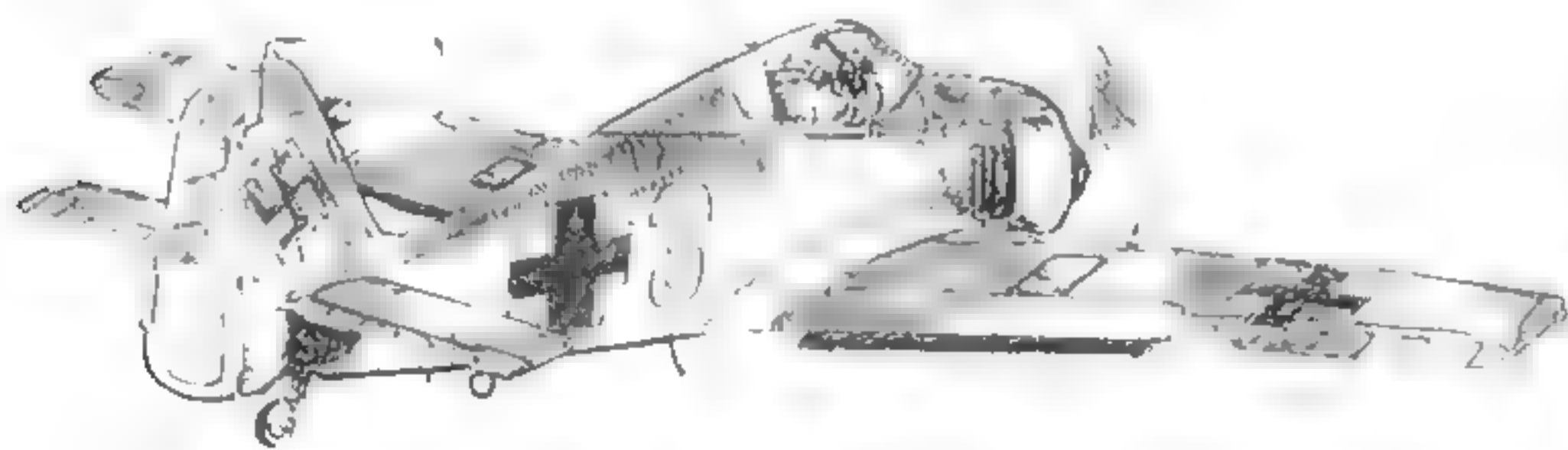
NRX-055 BAUND DOC

頭頂高27.3m、本体重量82.7t、全備重量
129.4t、ジェネレータ出力2.260kW、スラ
スター総推力145,800kg、センサー有効半
径9,840m、武装ビームライフル、メガ拡
散粒子砲



**FUZIN & RAIZIN
IN ACTION**





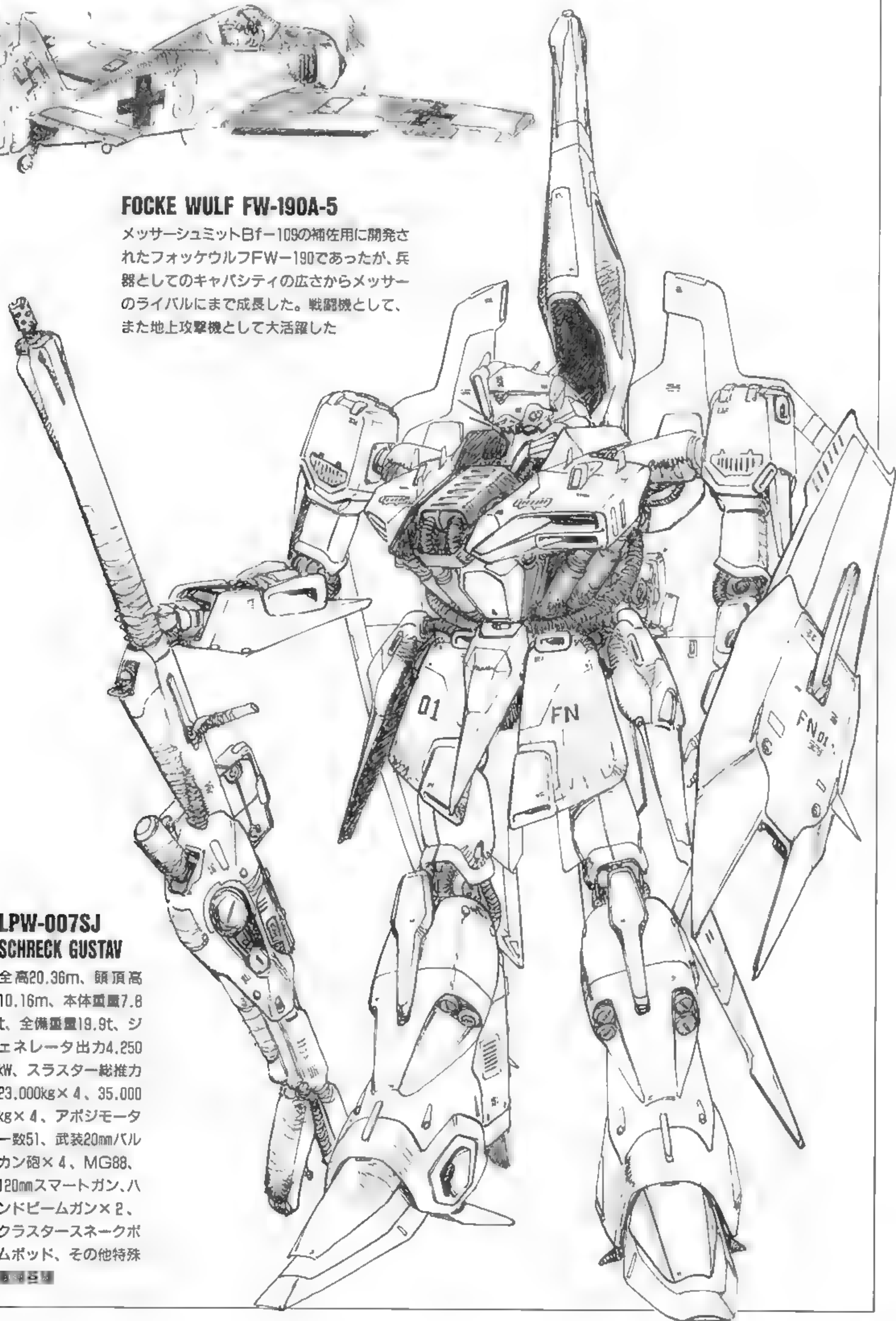
FOCKE WULF FW-190A-5

メッサーシュミットBf-109の補佐用に開発されたフォッケウルフFW-190であったが、兵器としてのキャパシティの広さからメッサーのライバルにまで成長した。戦闘機として、また地上攻撃機として大活躍した

LPW-007SJ SCHRECK GUSTAV

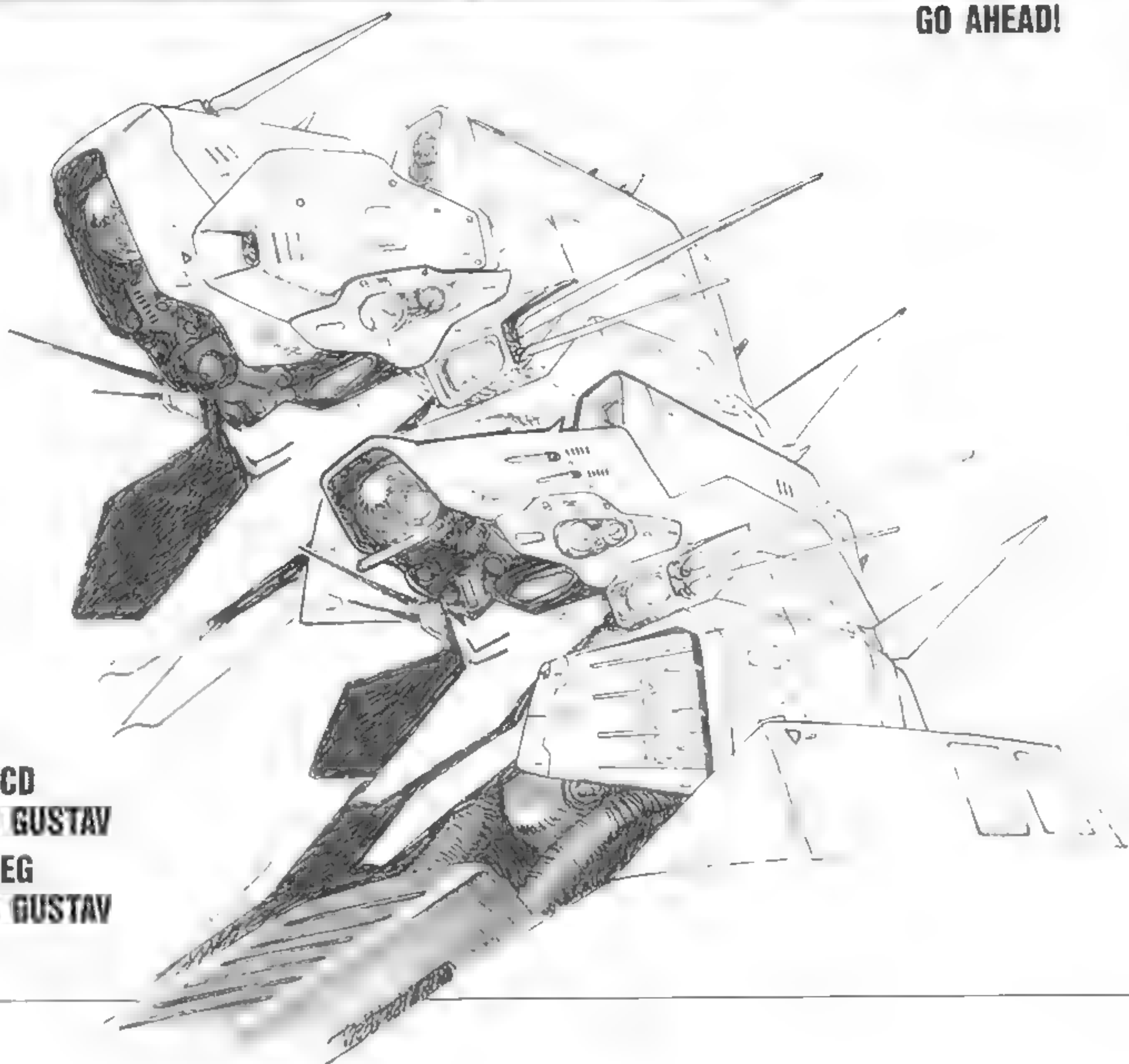
全高20.36m、頭頂高10.16m、本体重量7.8t、全備重量19.9t、ジェネレータ出力4.250kW、スラスタージェット推力23,000kg×4、35,000kg×4、アポジモーター数51、武装20mmバルカン砲×4、MG88、120mmスマートガン、ハンドビームガン×2、クラスタースネークボムポッド、その他特殊

007SJ





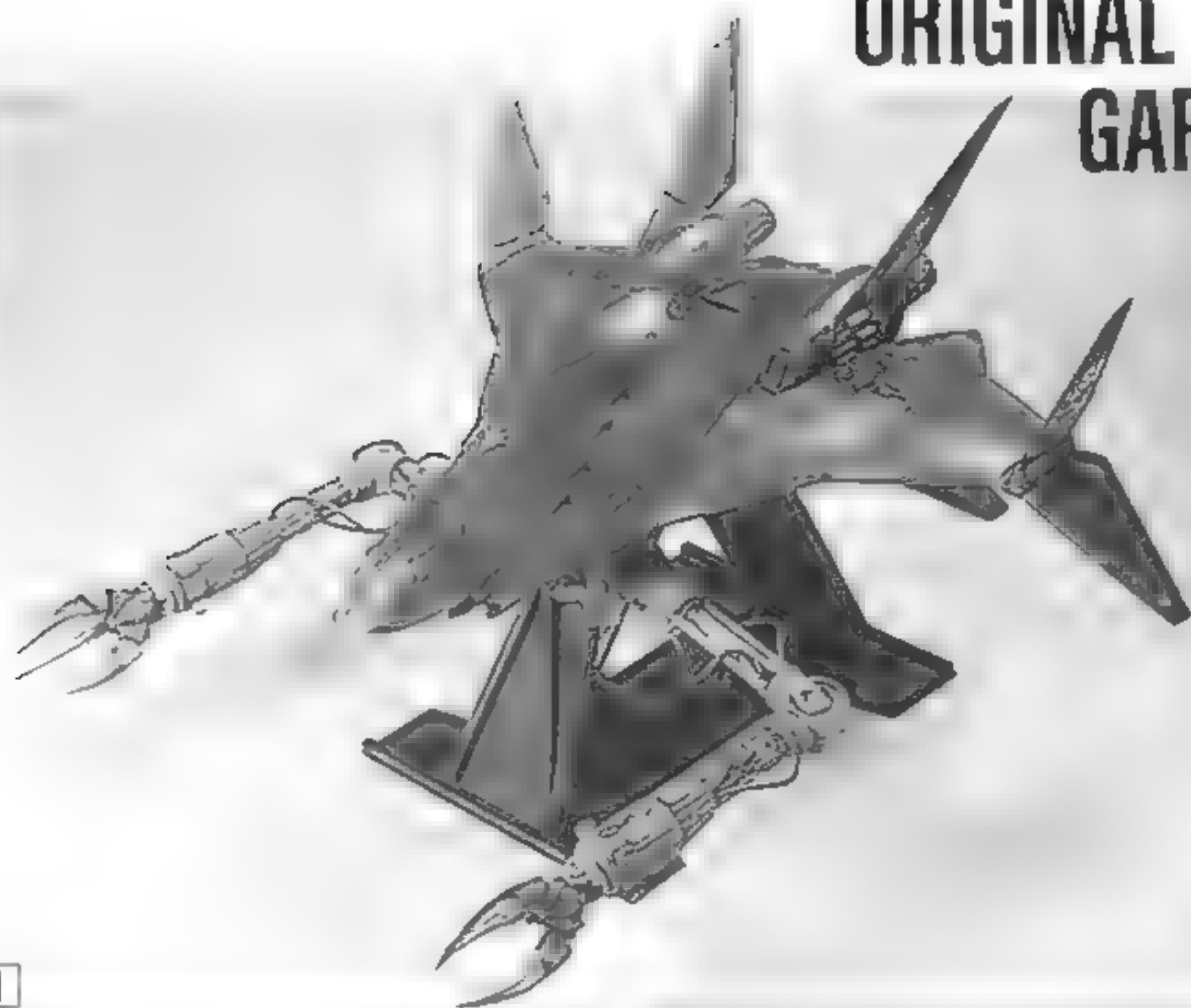
GO AHEAD!



**LPW-007CD
SCHRECK GUSTAV
LPW-007EG
SCHRECK GUSTAV**

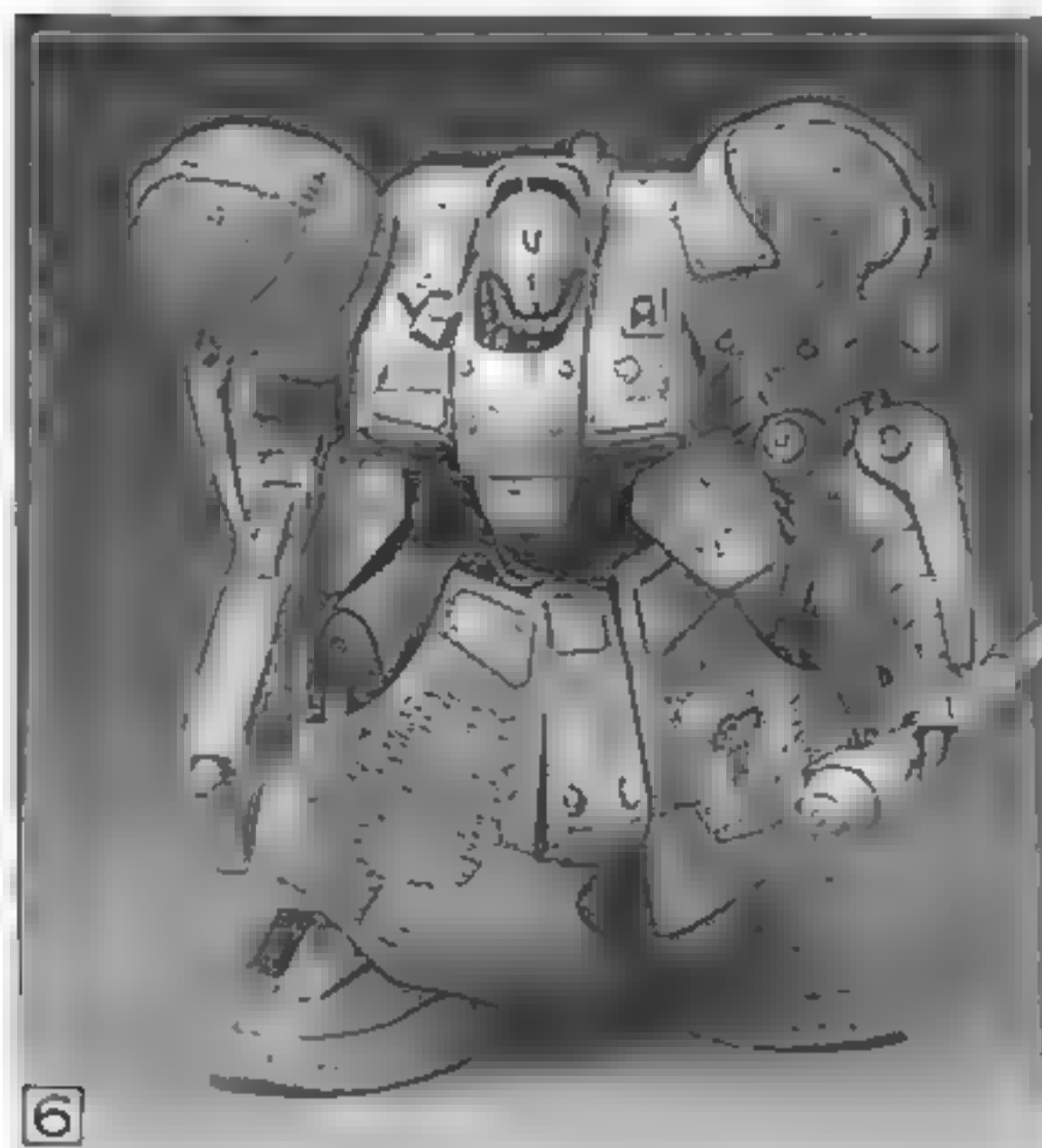
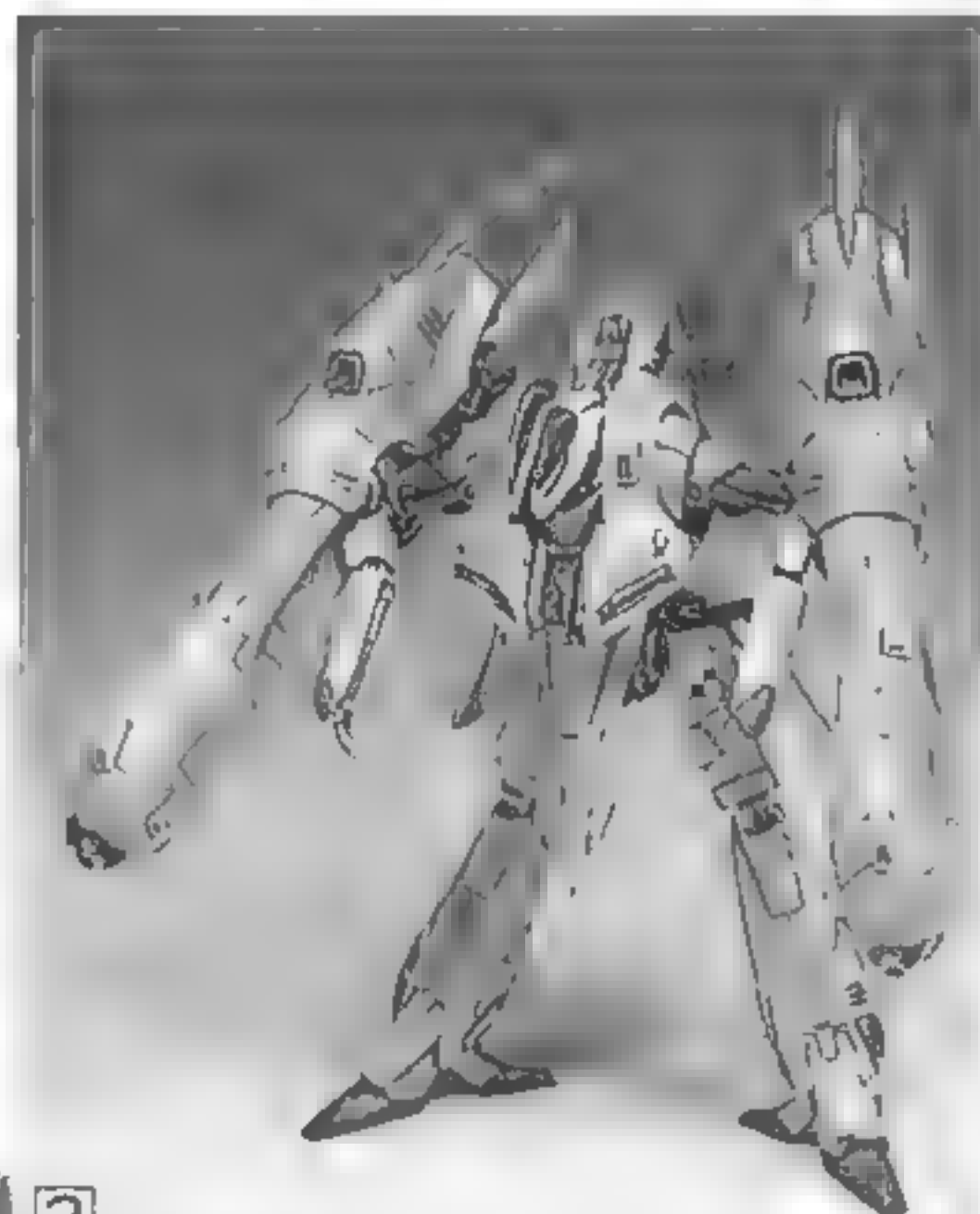
ORIGINAL MECHANISM 3D MODELS GARAGE KIT COLLECTION [2]

[御意見無用ファクトリー]



- ① ブラン(BURAN) ▶ 全長40cmの大型モデル①鎌田勝②1/220③16,000円④コトブキヤ
- ② シュツルム・イエーガー(STURM JAGUAR) ▶ 人型形態と飛行形態とのコンバチブルキット①鎌田勝②1/220③5,800円④コトブキヤ
- ③ シュレイク・グスタフ(SCHLEG GUSTAV) ▶ 人型と飛行形態のコンバチブルキット①鎌田勝②1/220③4,800円④コトブキヤ
- ④ ブレッタ(BREDA) ▶ ジャギヤーの2倍はある大型兵器①鎌田勝②1/220③5,800円④コトブキヤ
- ⑤ ゲルブ(GELUB) ▶ 量産型の兵器①入沢正浩②1/220③3,900円④コトブキヤ
- ⑥ ゴブリン(GOBLIN) ▶ トローベントタイプとのコンバチ①鎌田勝②1/220③3,500円④コトブキヤ

[原型製作者 ②スケール ③価格 ④発売元]



問い合わせ先▶ ●コトブキヤ 〒190 東京都立川市曙町2-2-25第一デパート 3 階 ●ボークス本社 〒617 京都府長岡京市開田1-18-27
☎0425 22-3500 ☎075-955-6869

LEGEND OF GUNHEAD

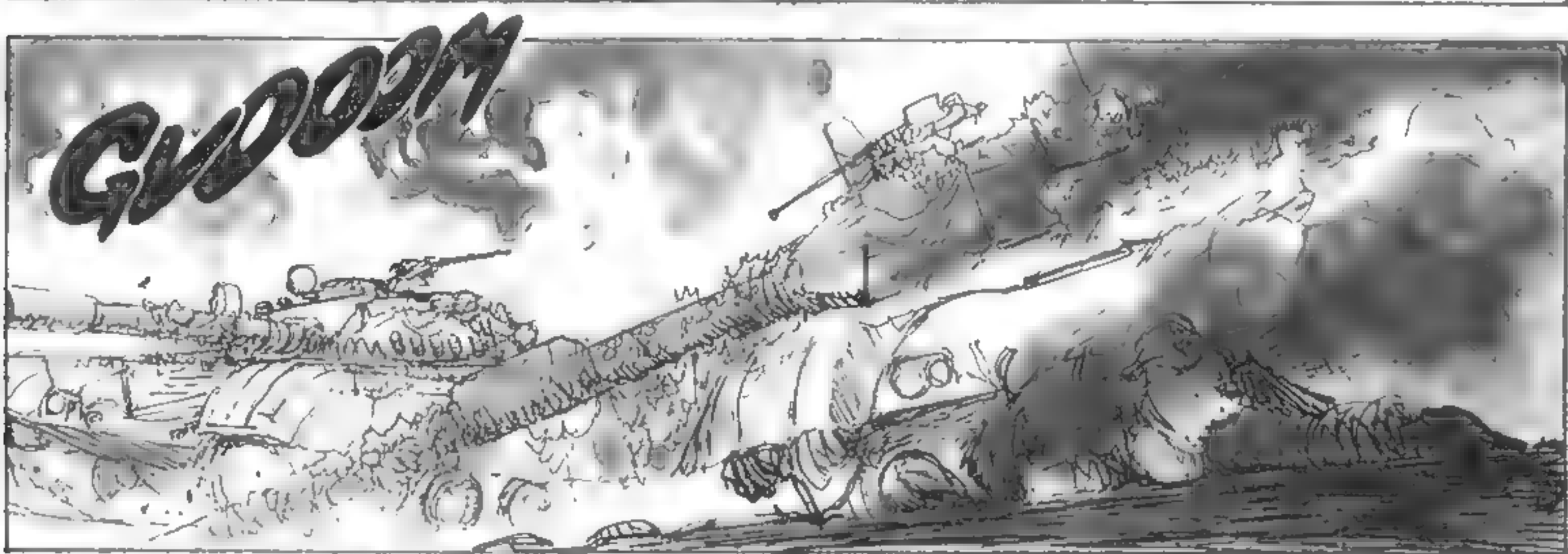
〔ガンヘッド外伝〕

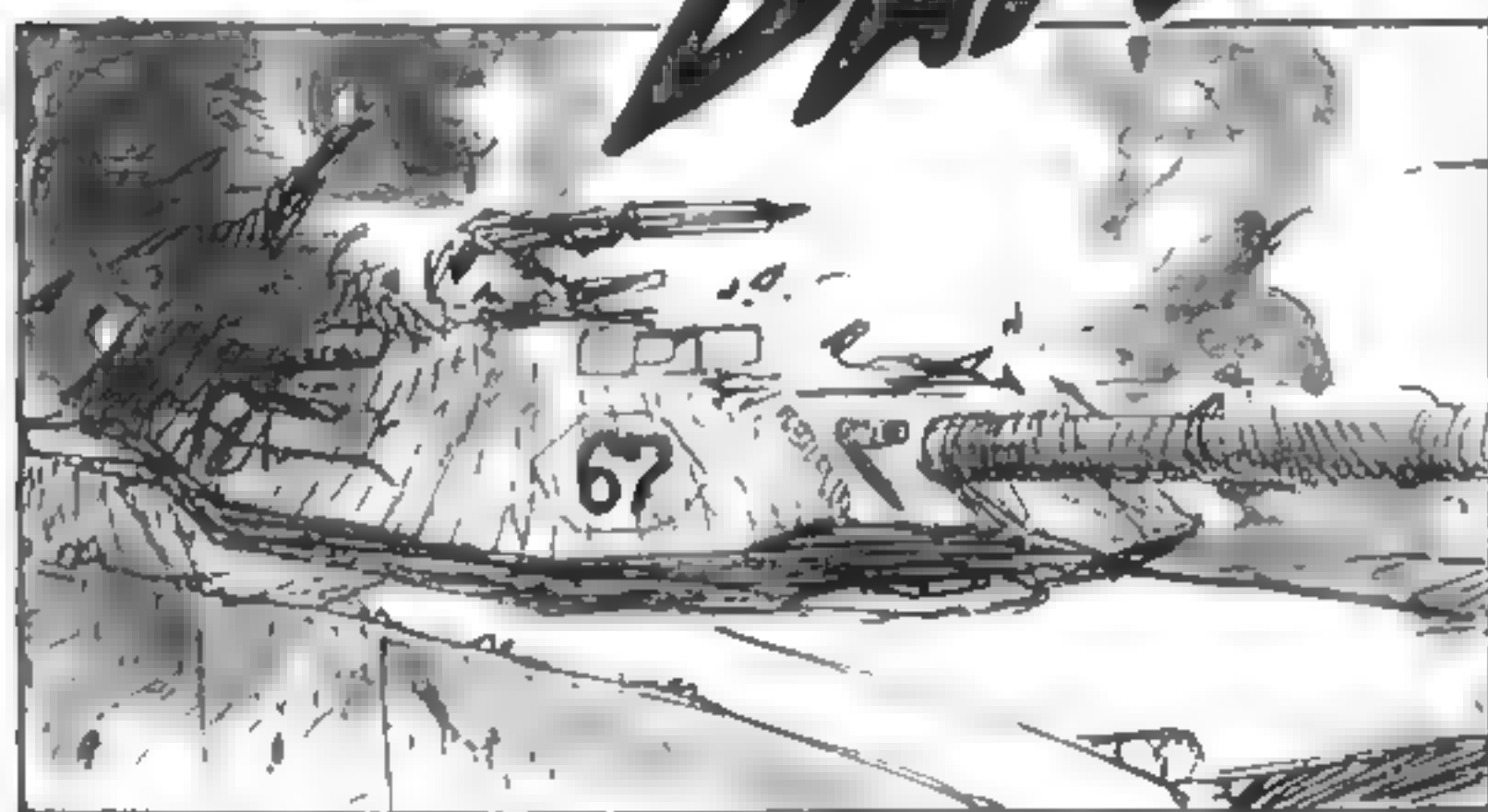
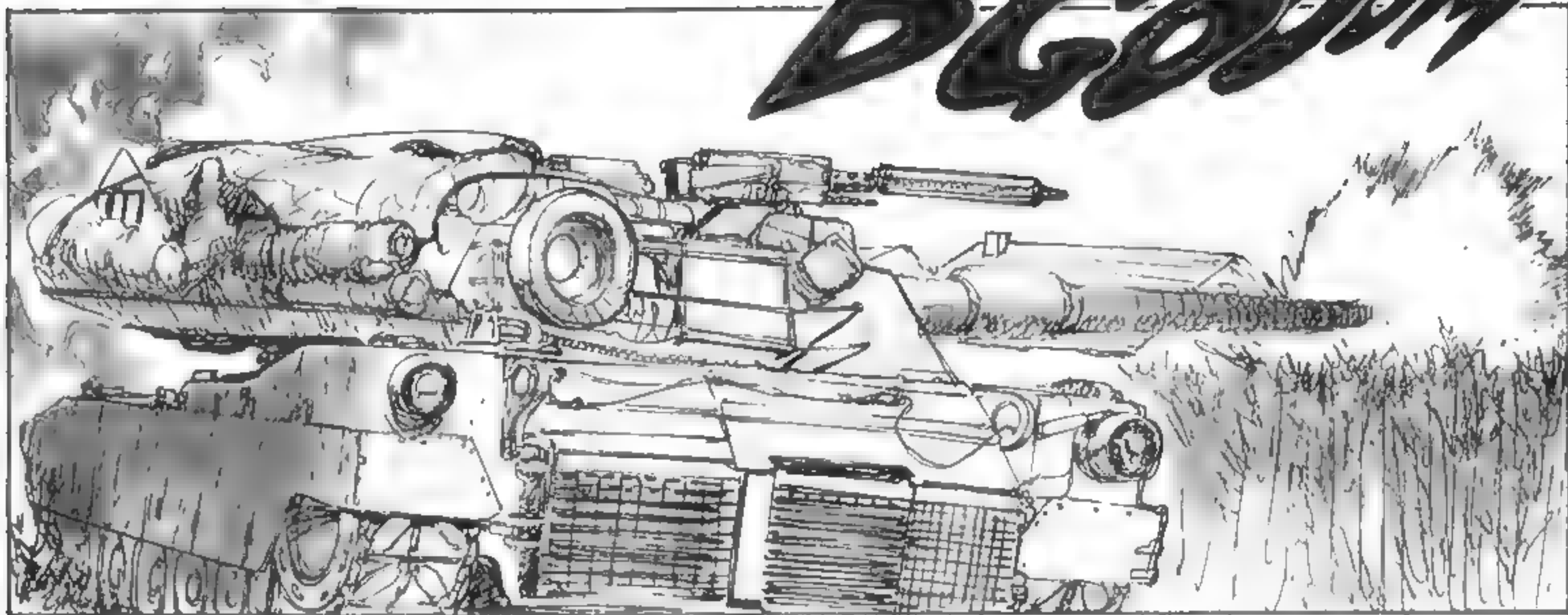
設定/泉 博道

© TOHO SUNRISE

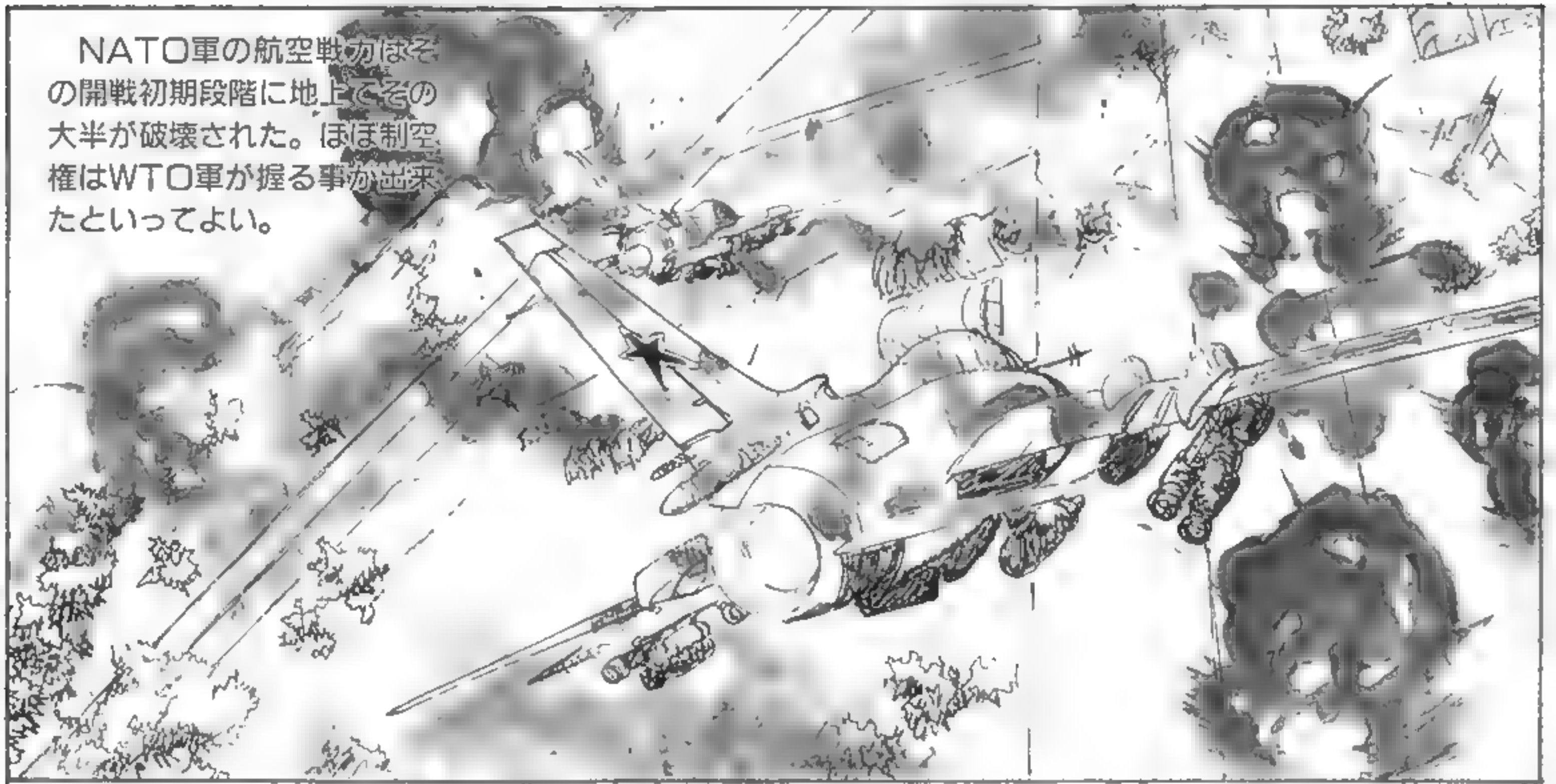
西暦2027年6月25日、午前4時32分。WTO（ワルシャワ条約機構）機甲師団25個師団が三方面より、旧西独国境のゲルマンドーム防衛線を突破し欧州警備のNATO（北大西洋条約機構）軍と戦闘状態に入った。世界連邦の樹立と共にかつての国家は州と名を変えたものの、東側と西側の対立は依然として続いた。ことに東西ドイツ統一によるゲルマンドームの成立により、ヨーロッパでは1990年代よりも、さらに嫌悪な関係になっていたのである。







NATO軍の航空戦力はその開戦初期段階に地上でその大半が破壊された。ほぼ制空権はWTO軍が握る事が出来たといつてよい。



WTO軍の迅速な展開に、終始、NATO軍は押され気味であった。



WTO第1梯団はNATO軍防衛線に50kmにもおよぶ突破口を開いた。



NATO軍はアメリカからの増援
が到着するまでの時間稼ぎにWTO
軍への遅滞行動に出た。



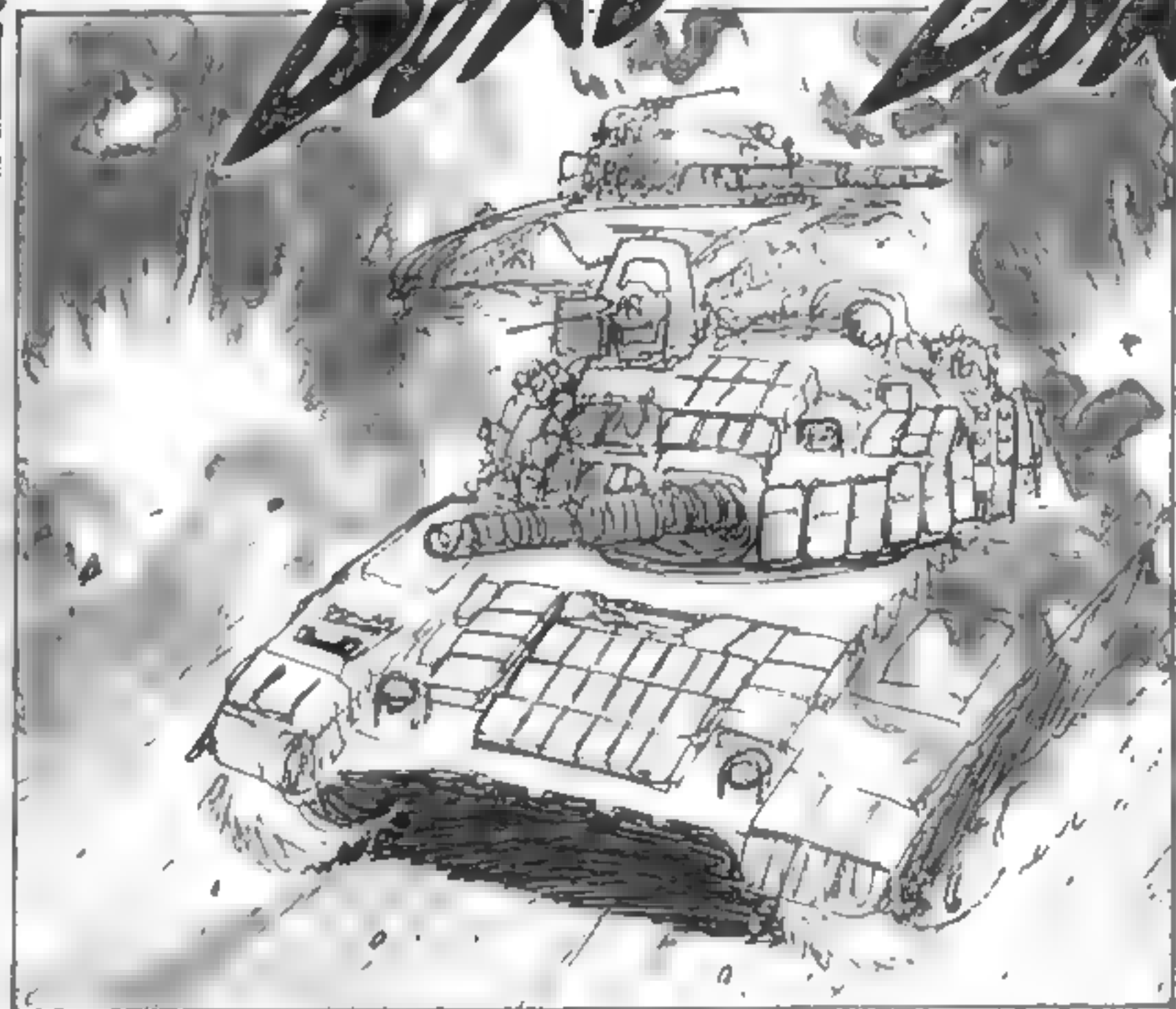
Hit !!

BAGON



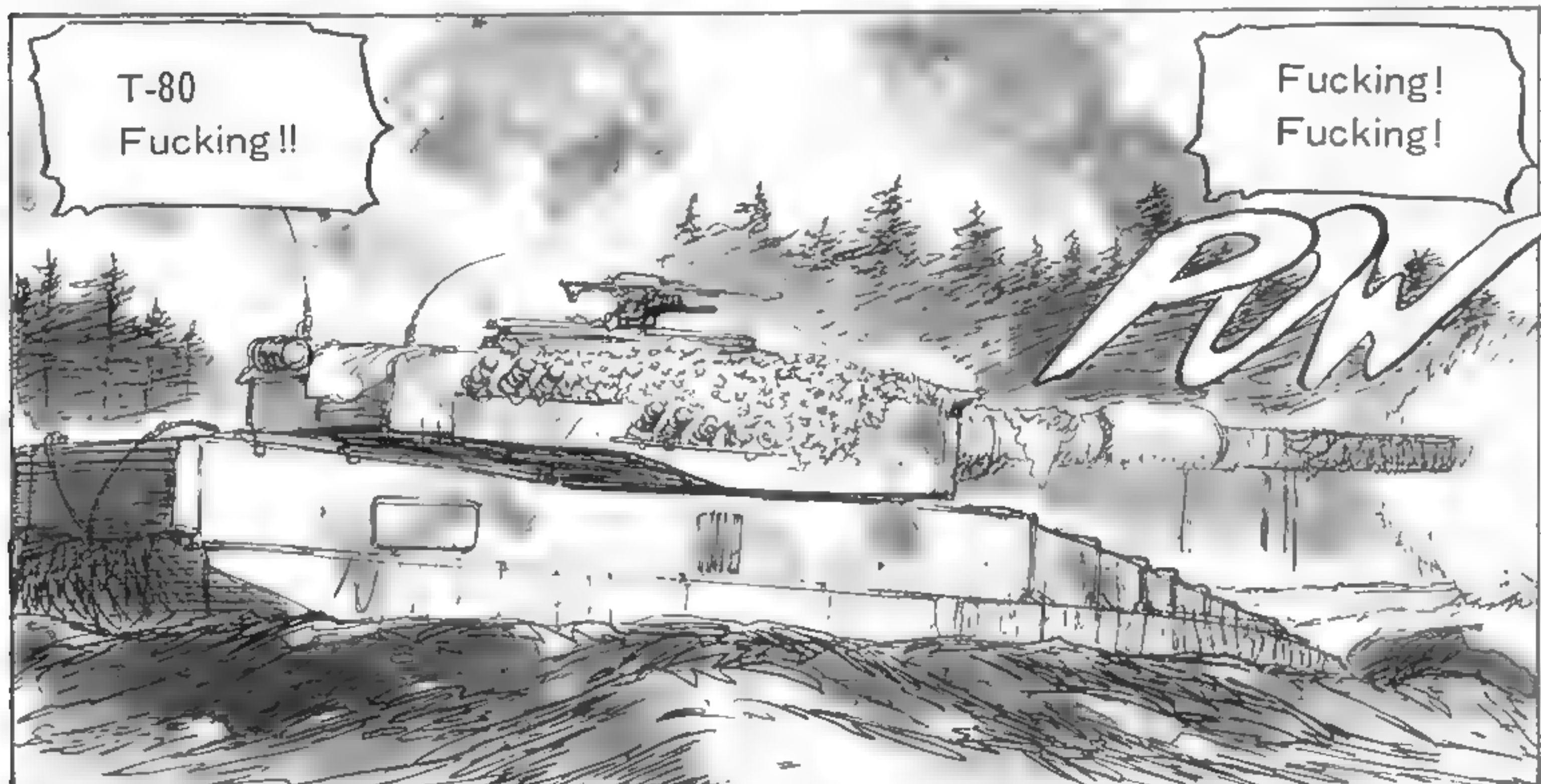
DOKO

DOKO



T-80
Fucking !!

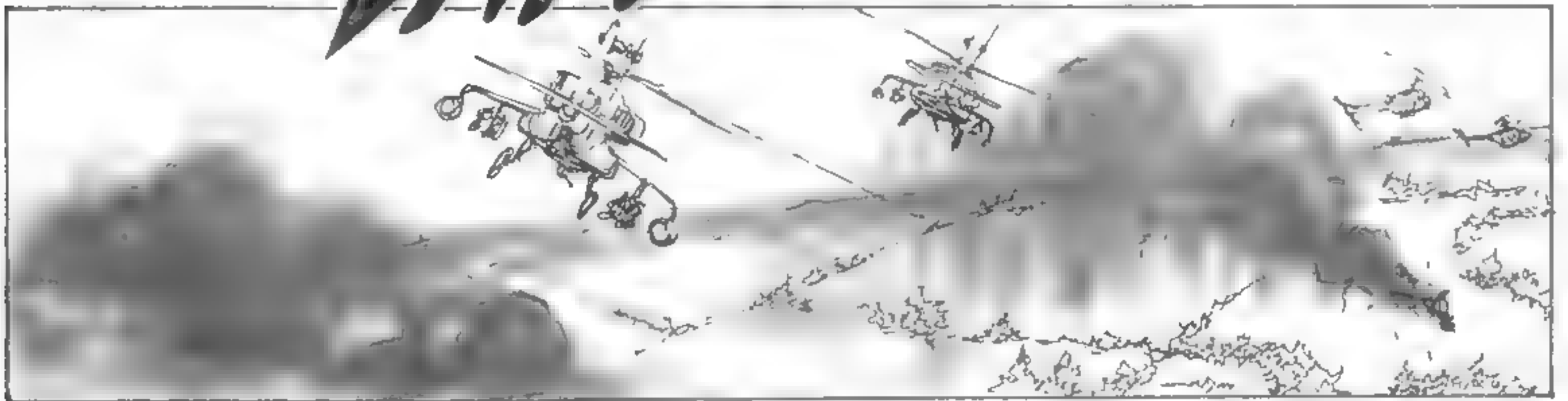
Fucking!
Fucking!

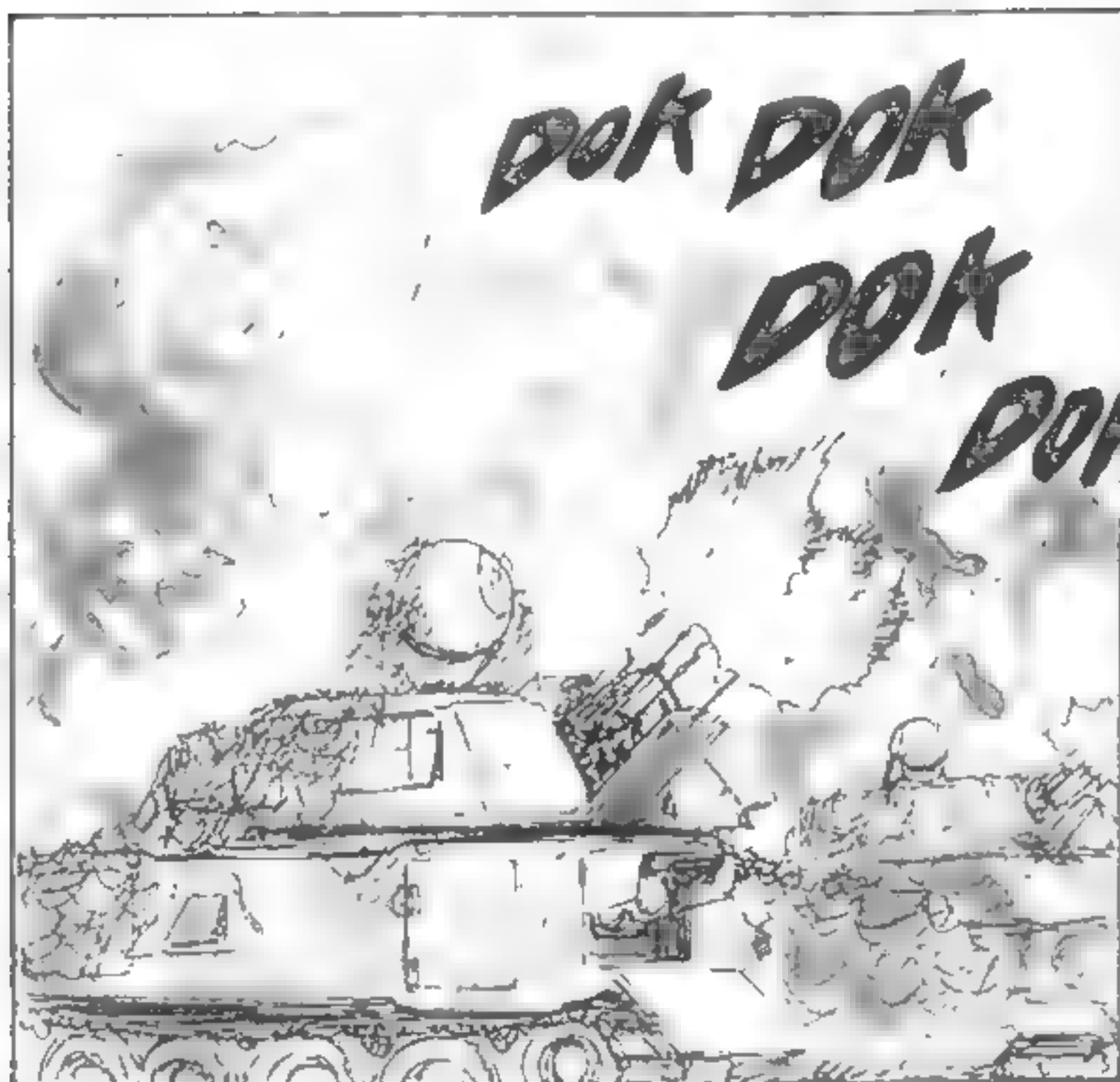


RW



BAKO!



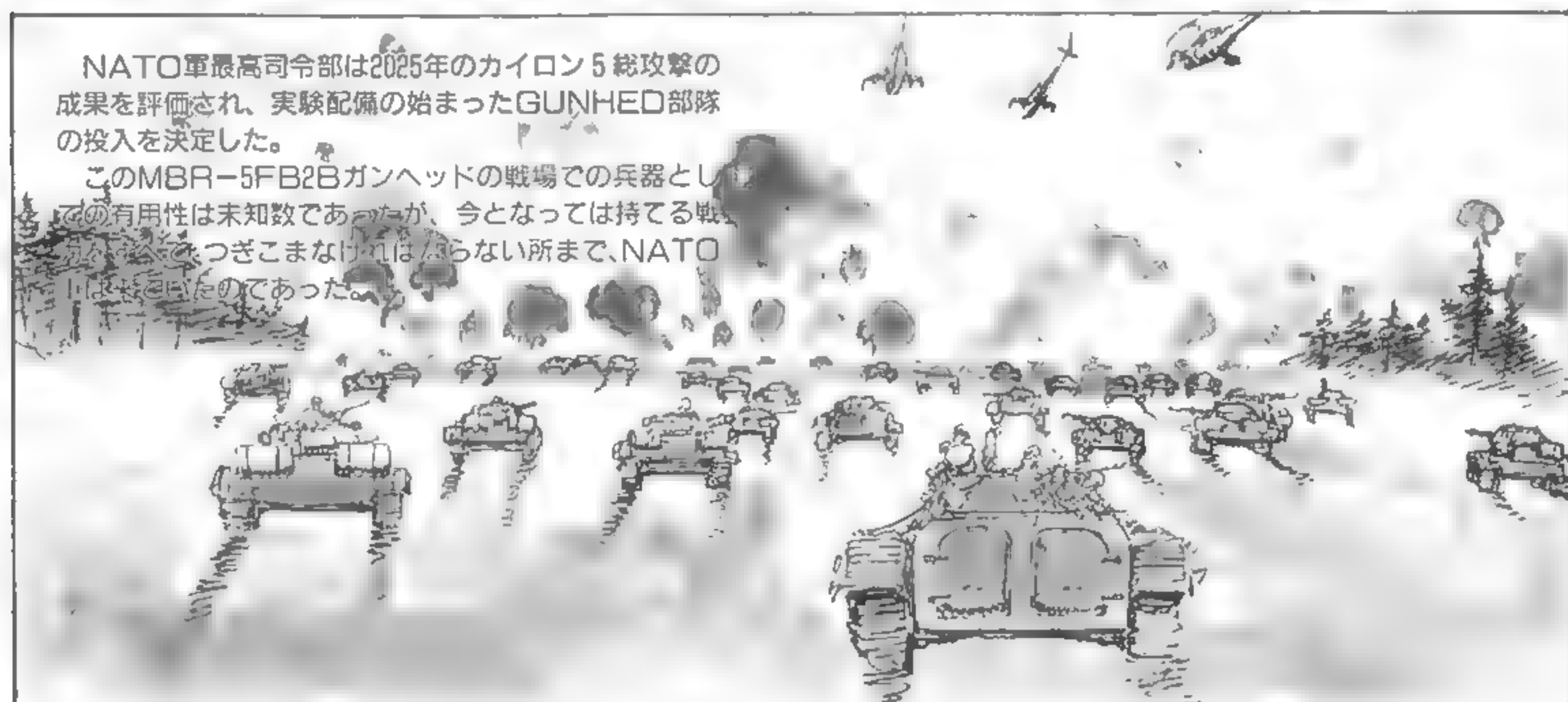


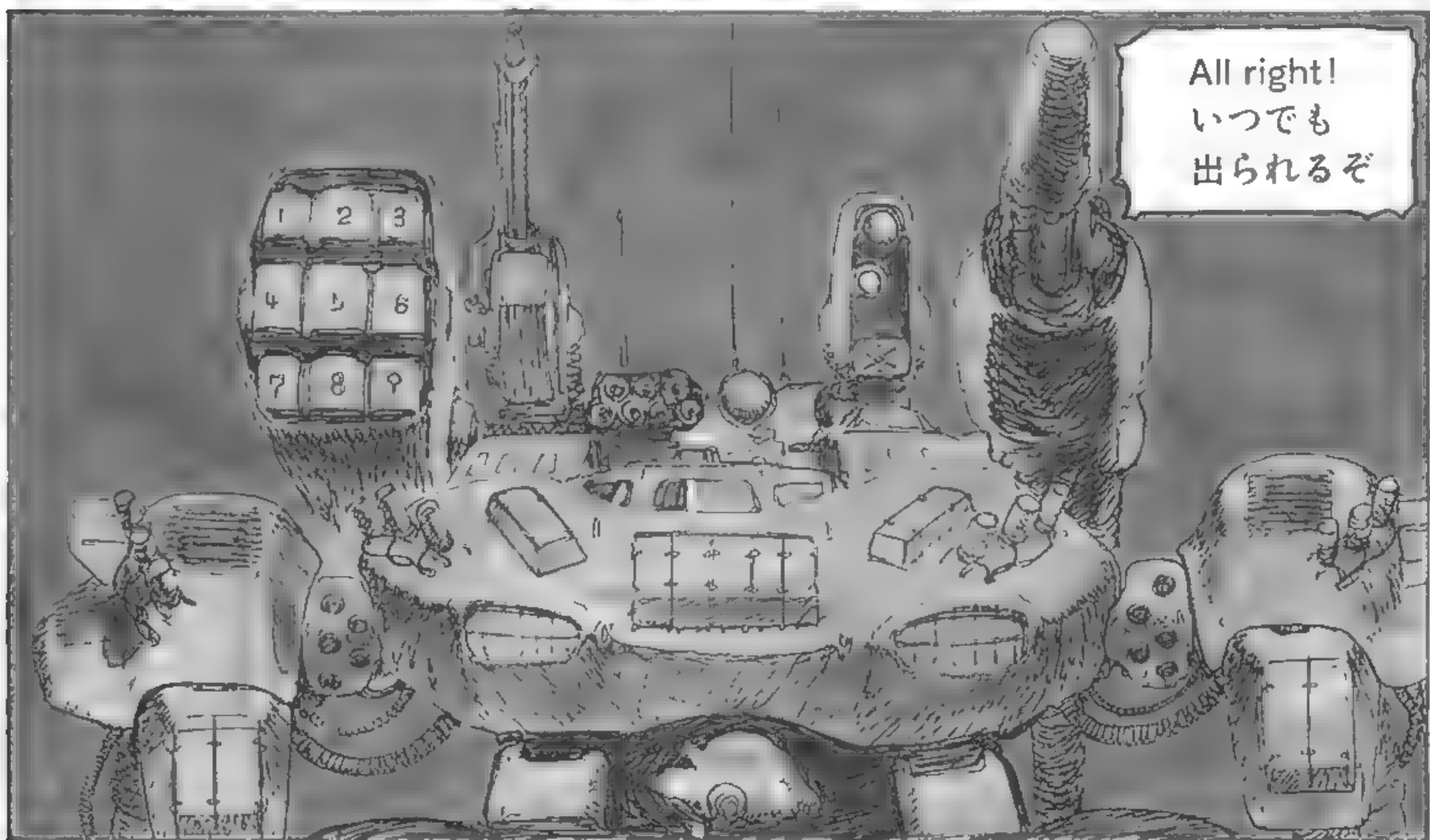
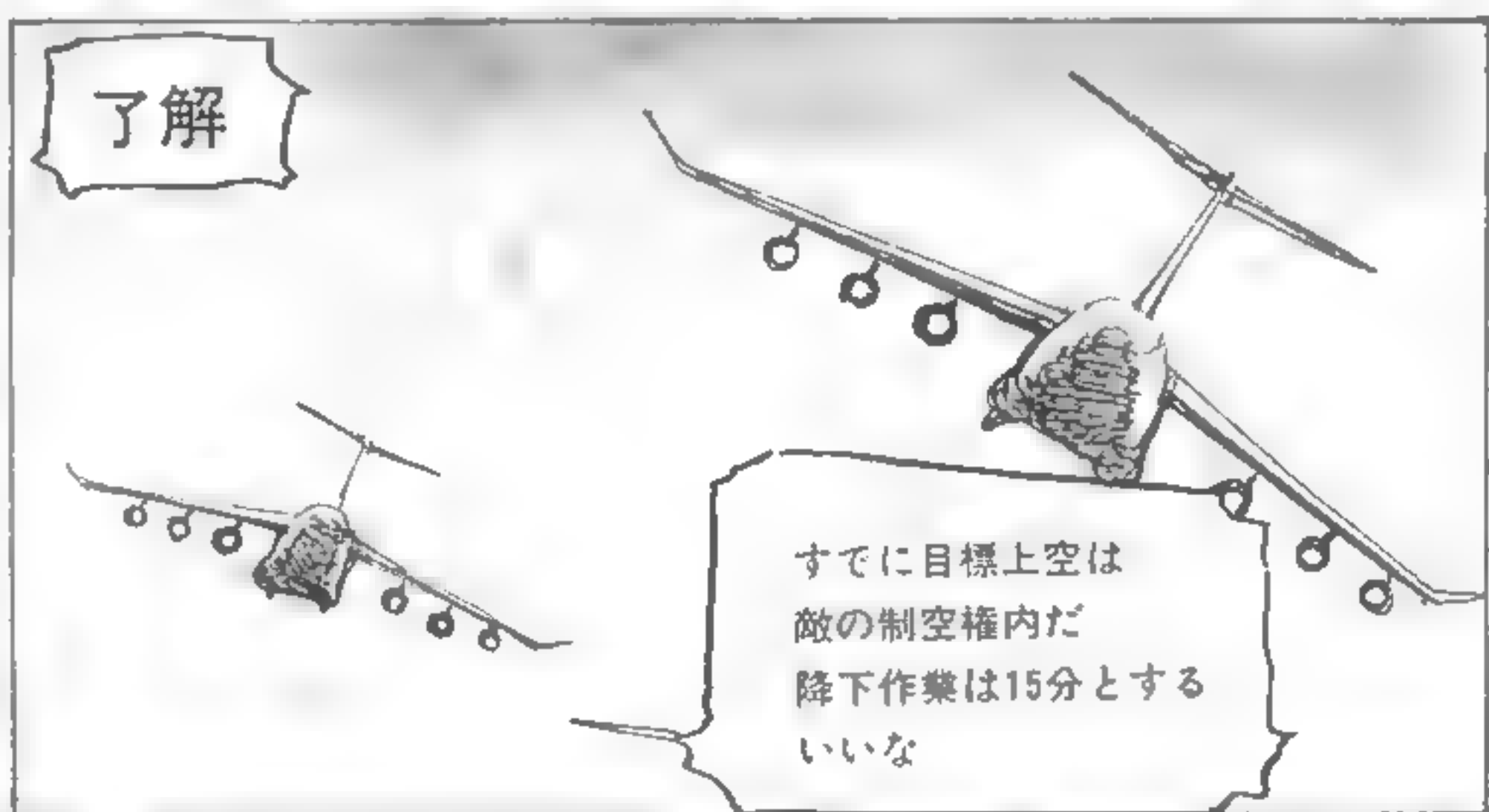
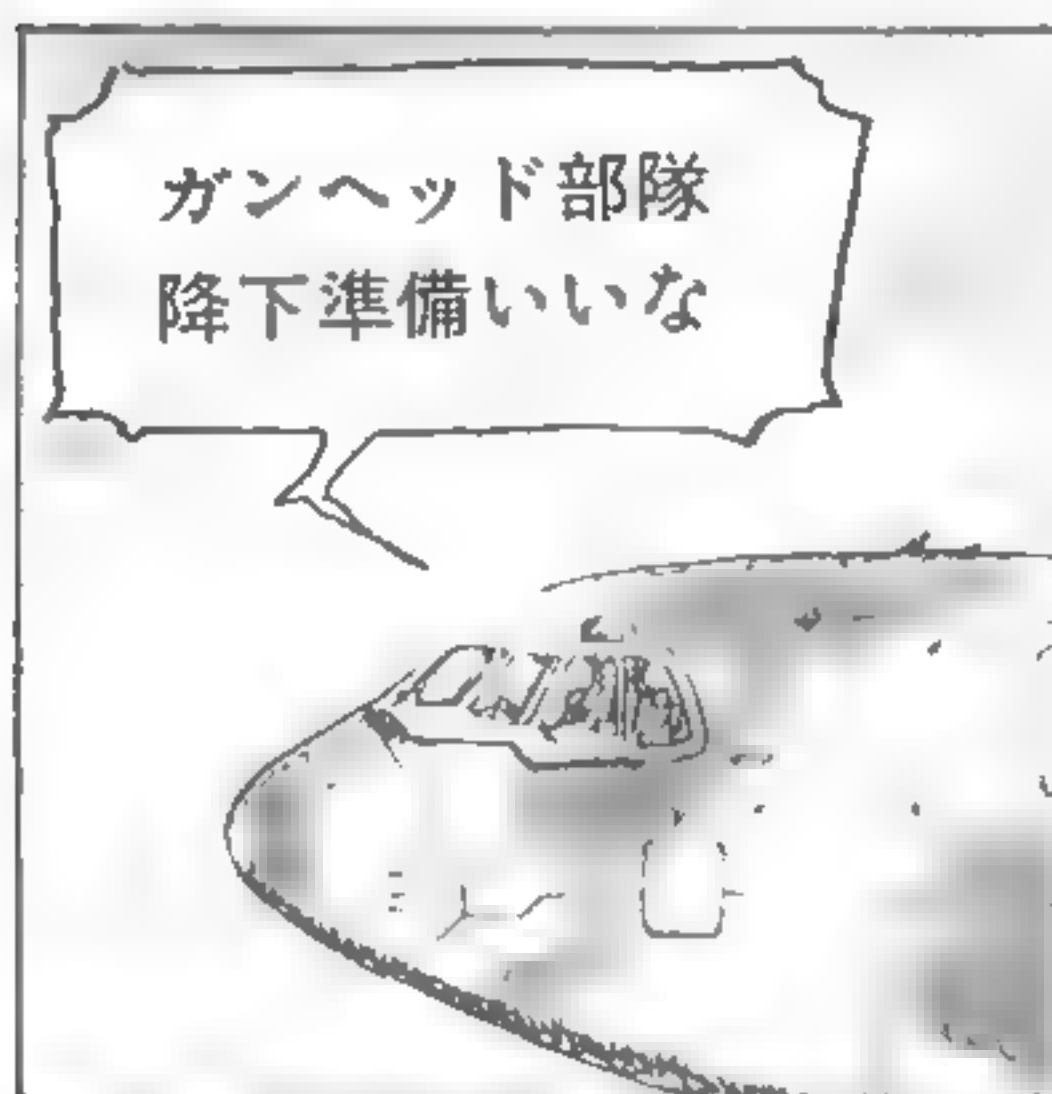
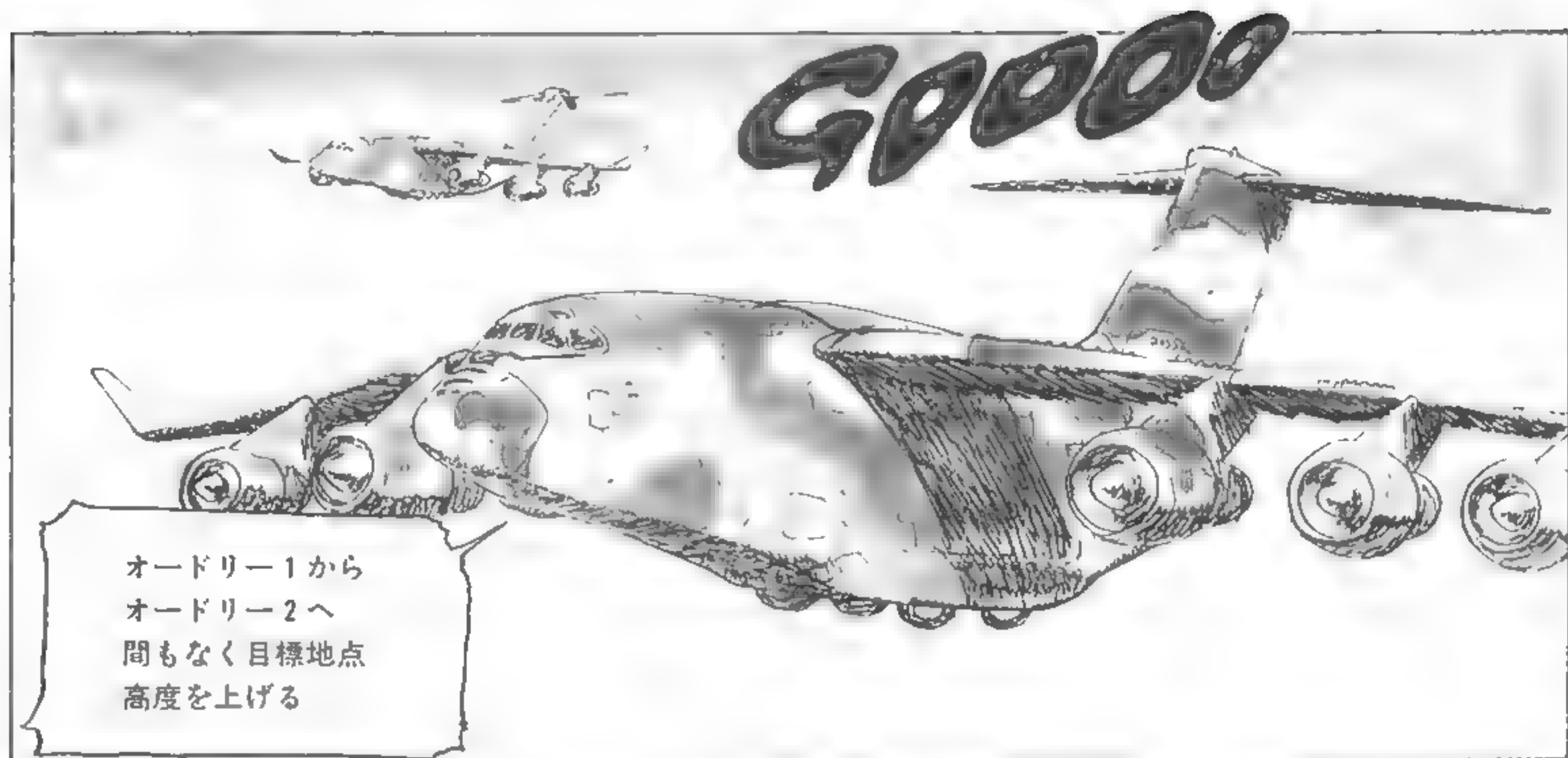
圧倒的な数で押し寄せる
WTO軍にNATO軍前線
部隊は崩壊寸前であった。

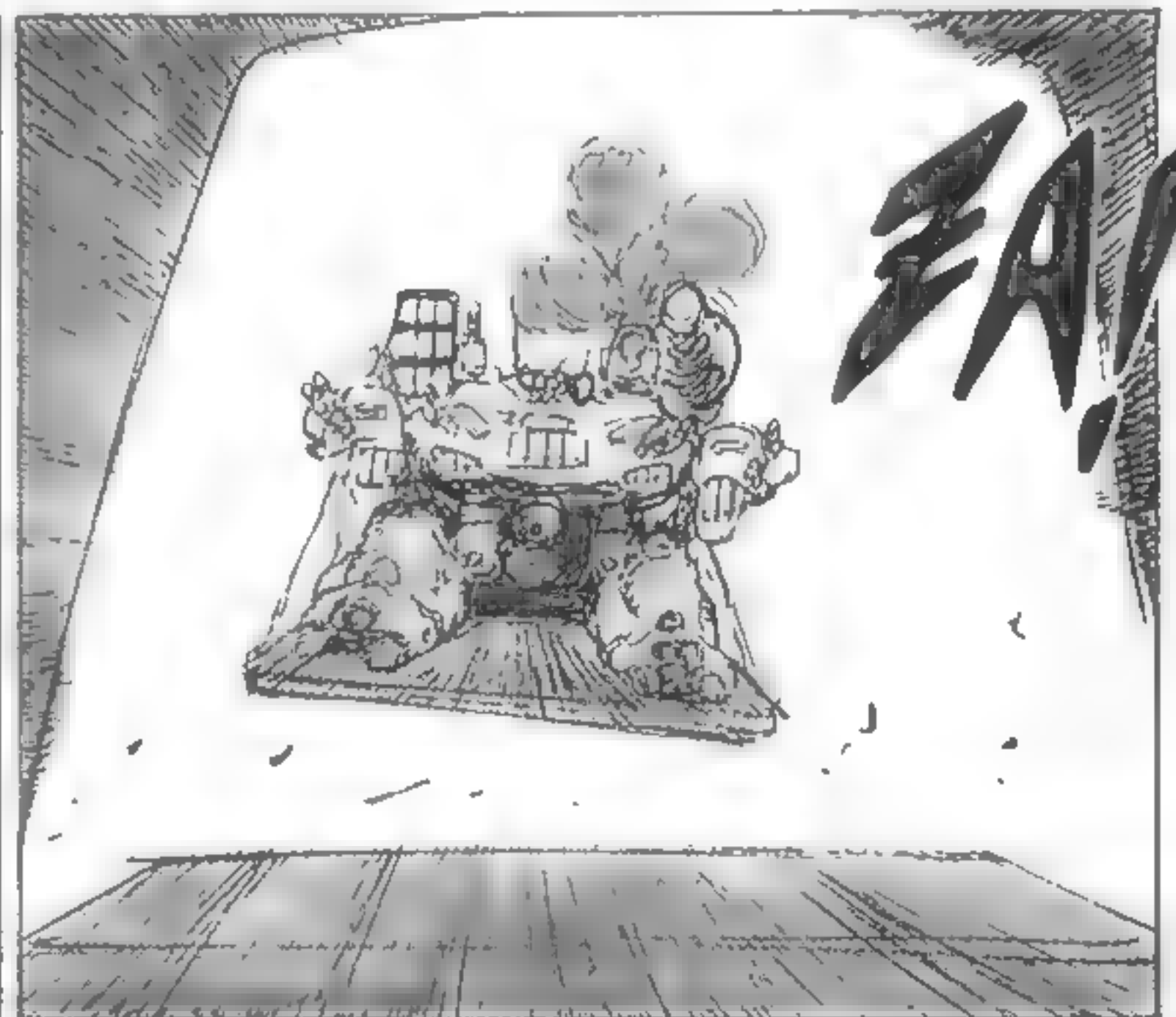
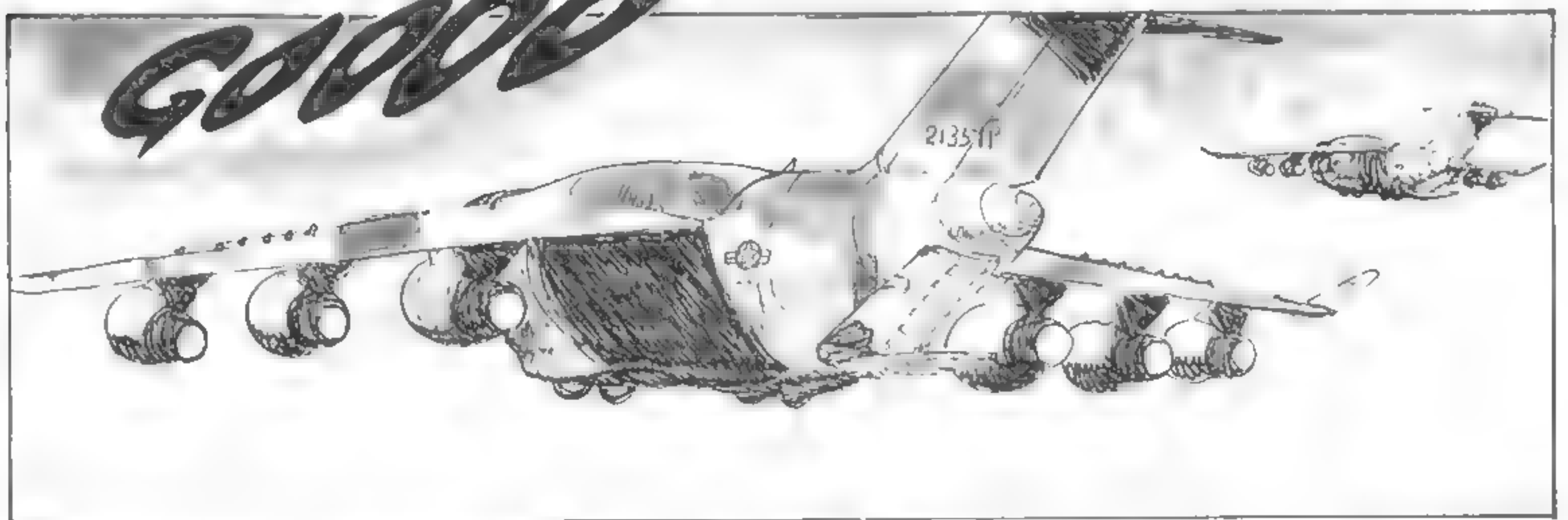
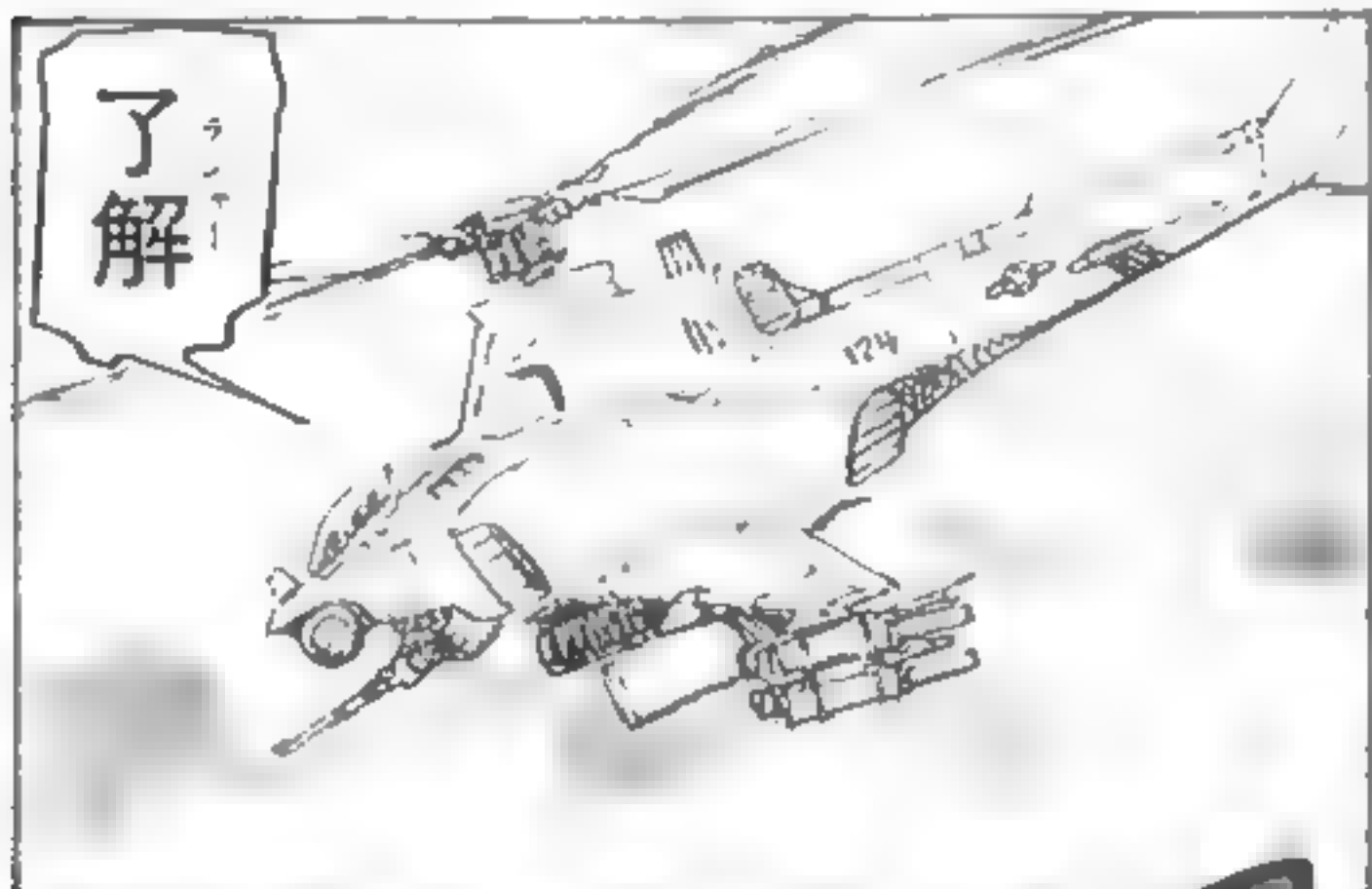
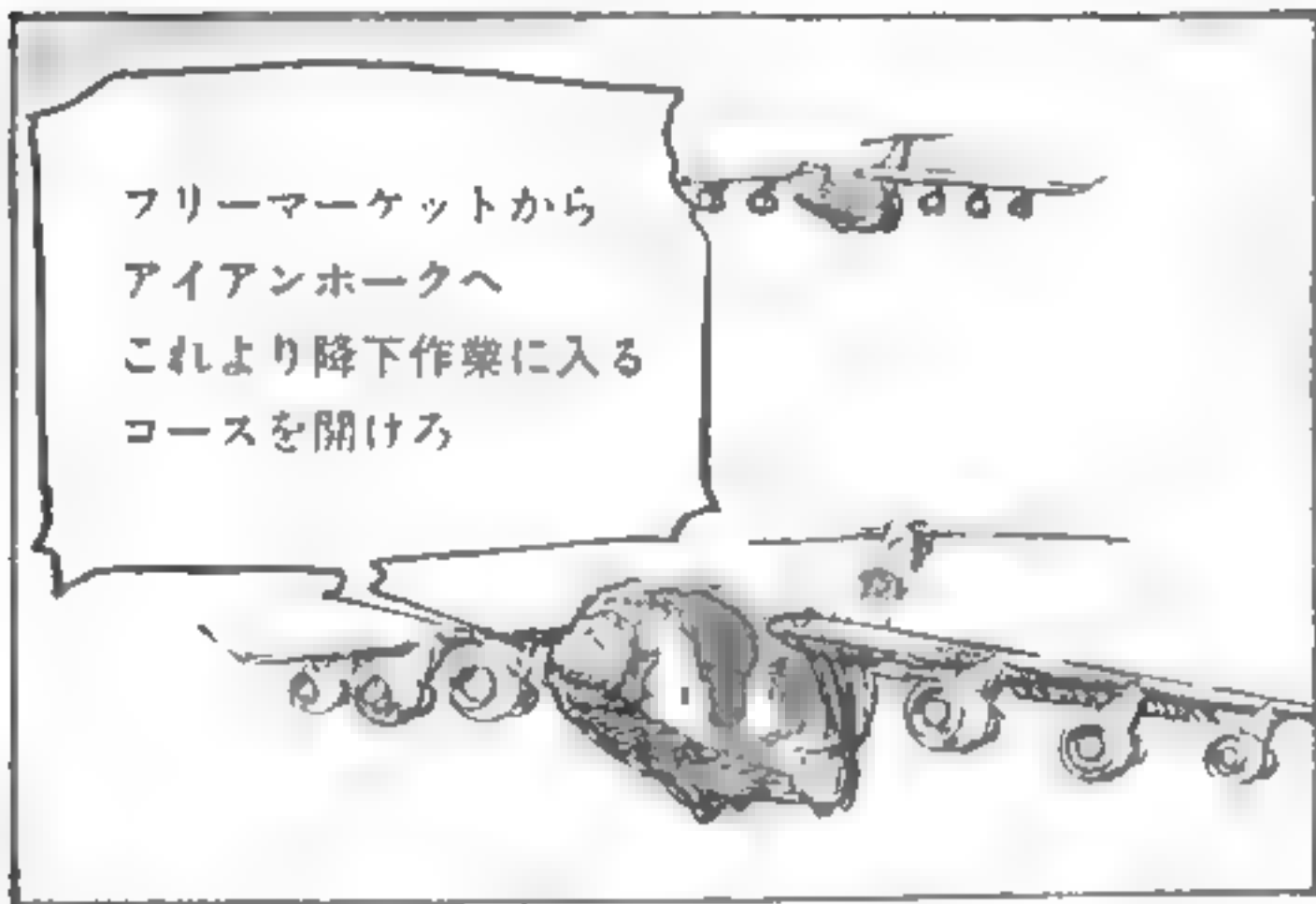
すでにWTO軍は第2梯
団の突撃体勢が整い戦局は
一刻の有余も許さぬ状況へ
となっていた。

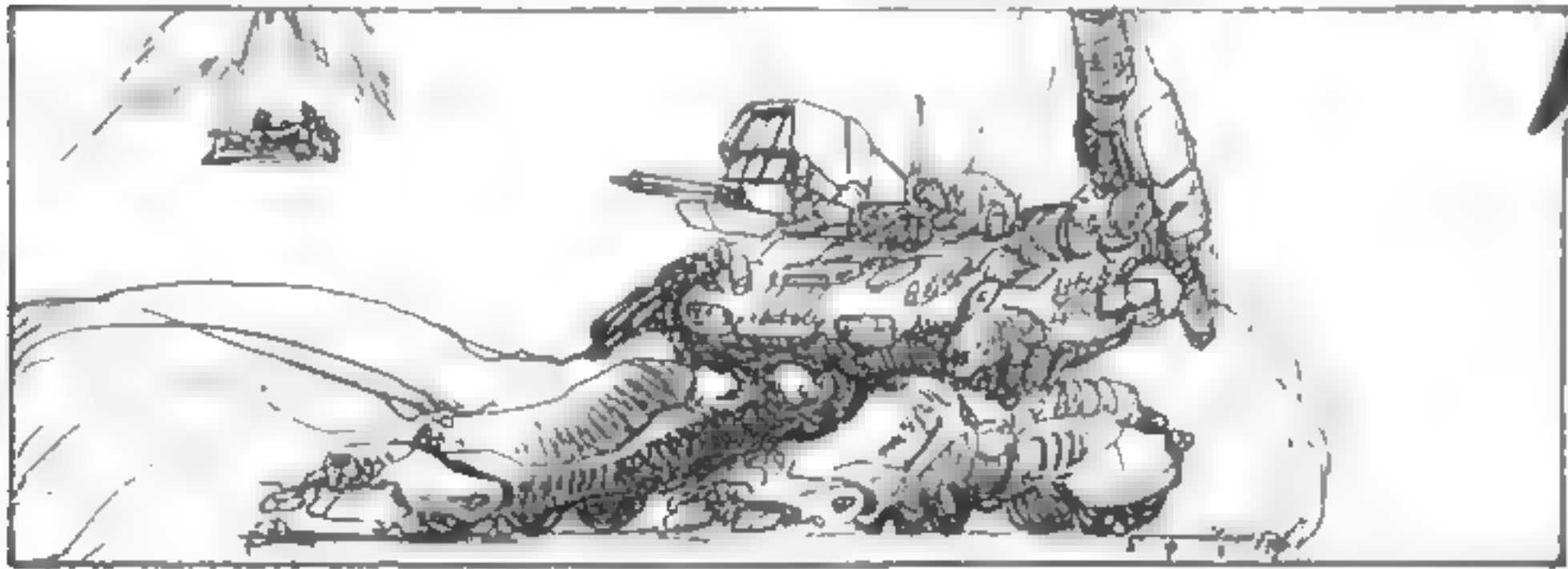
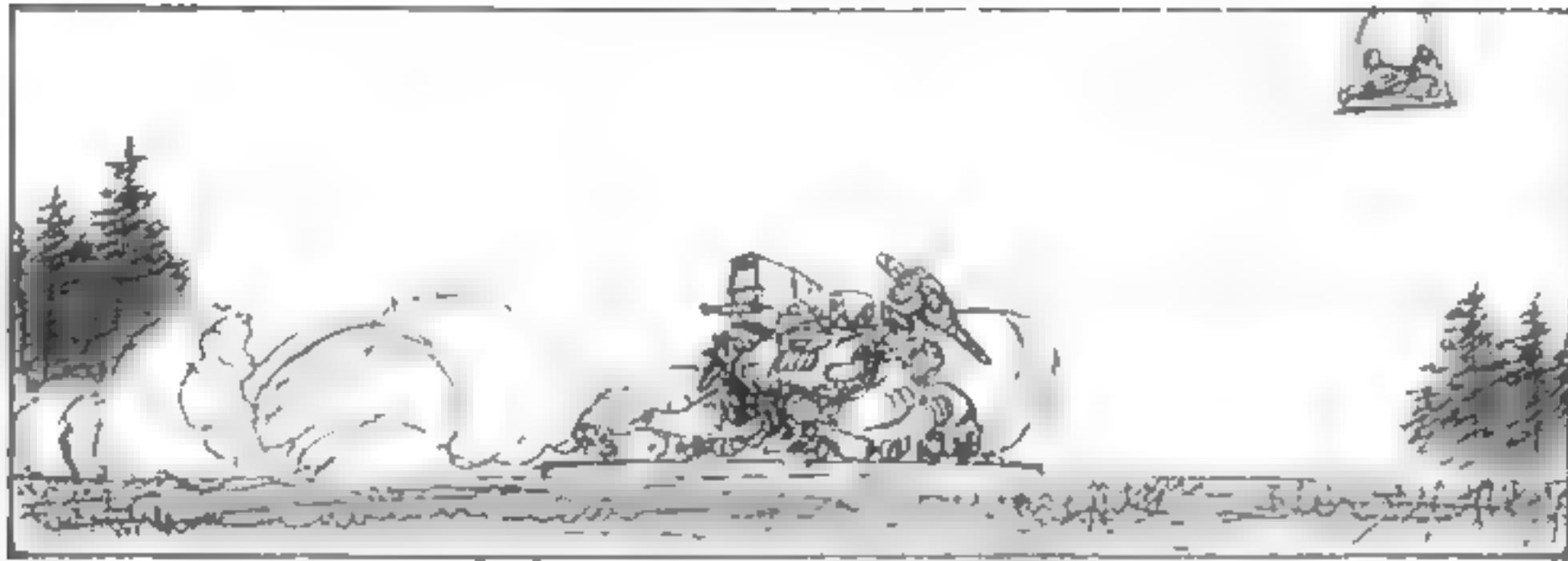
NATO軍最高司令部は2025年のカイロン5総攻撃の
成果を評価され、実験配備の始まったGUNHED部隊
の投入を決定した。

このMBR-5FB2Bガンヘットの戦場での兵器とし
ての有用性は未知数であったが、今となっては持てる戦
力をつぎこまなければならない所まで、NATO
軍は追い込まれていたのであった。



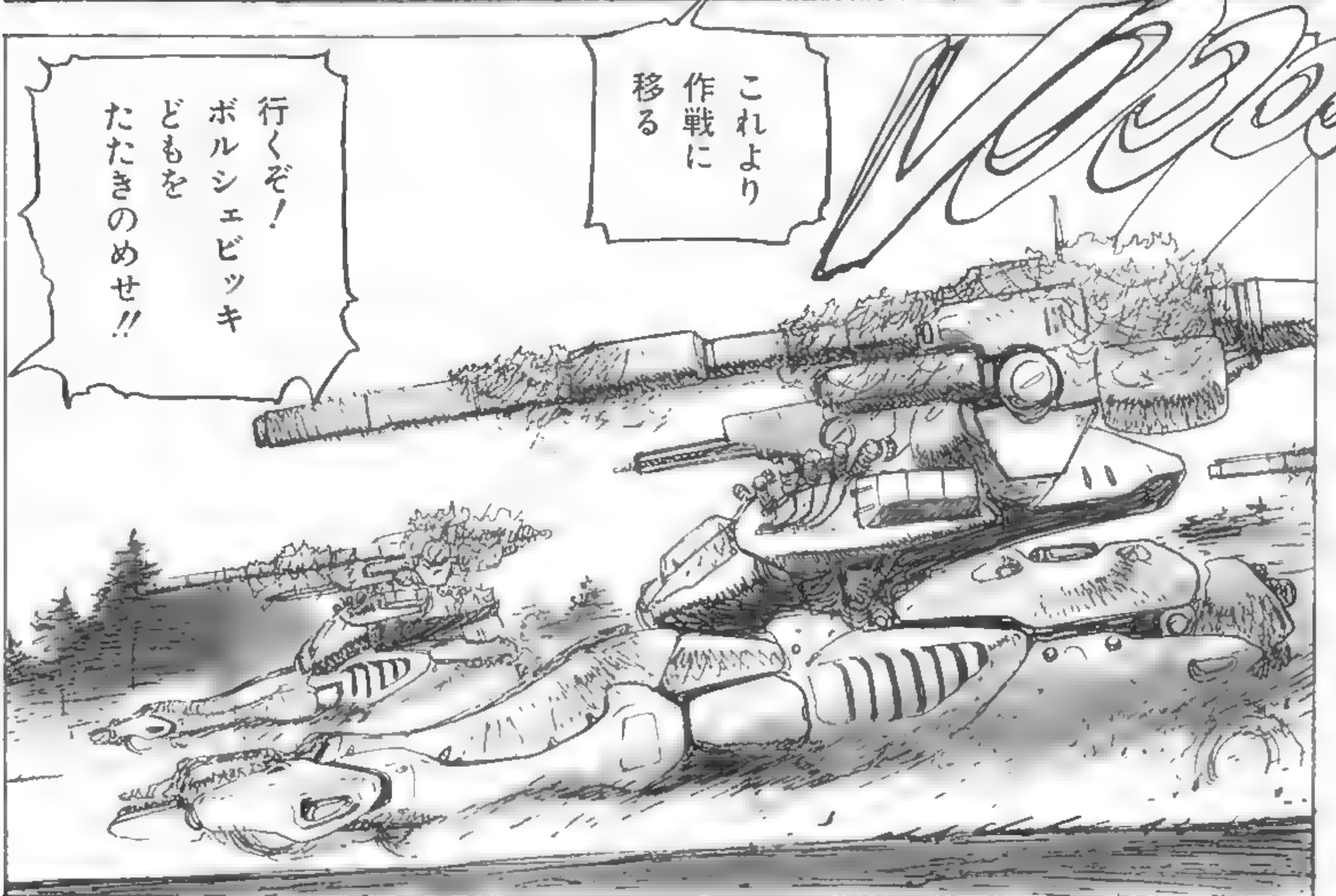






一号指揮車
無事着地
完了

無人戦闘車も
遂次着地完了
八号車のみ通信
状況が悪いため
放棄する

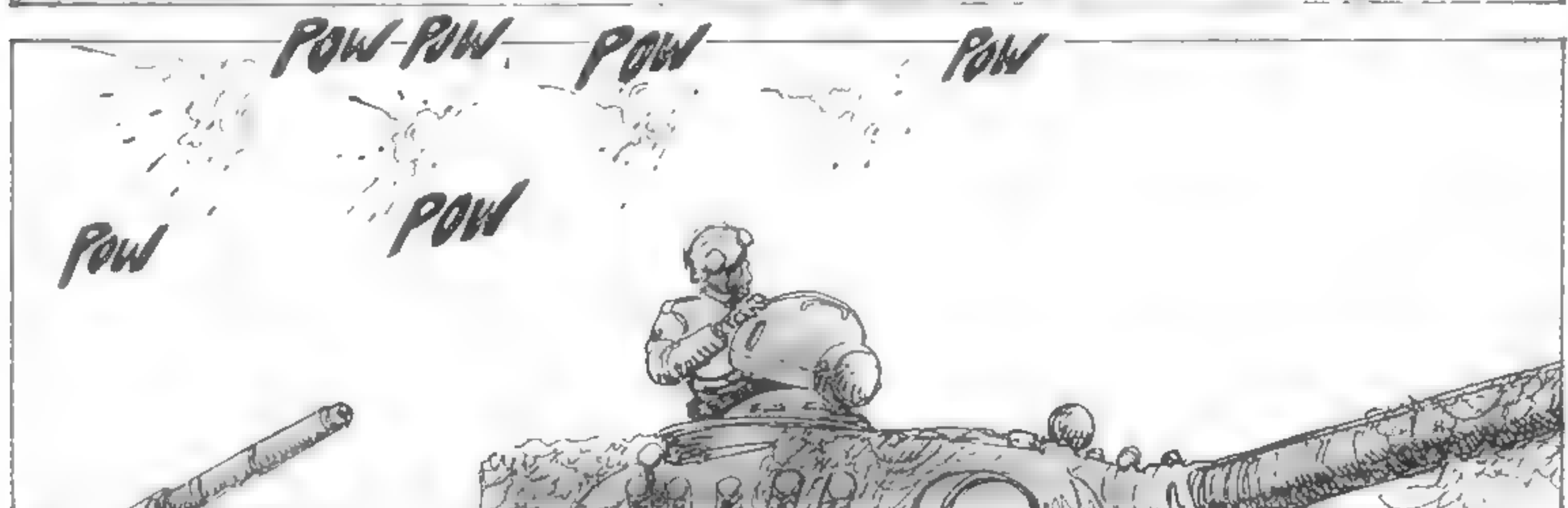
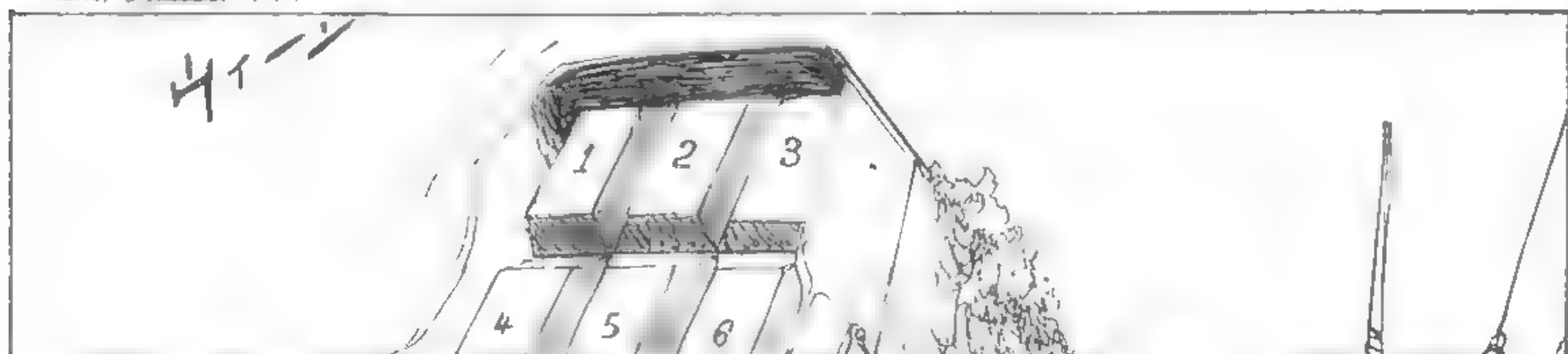


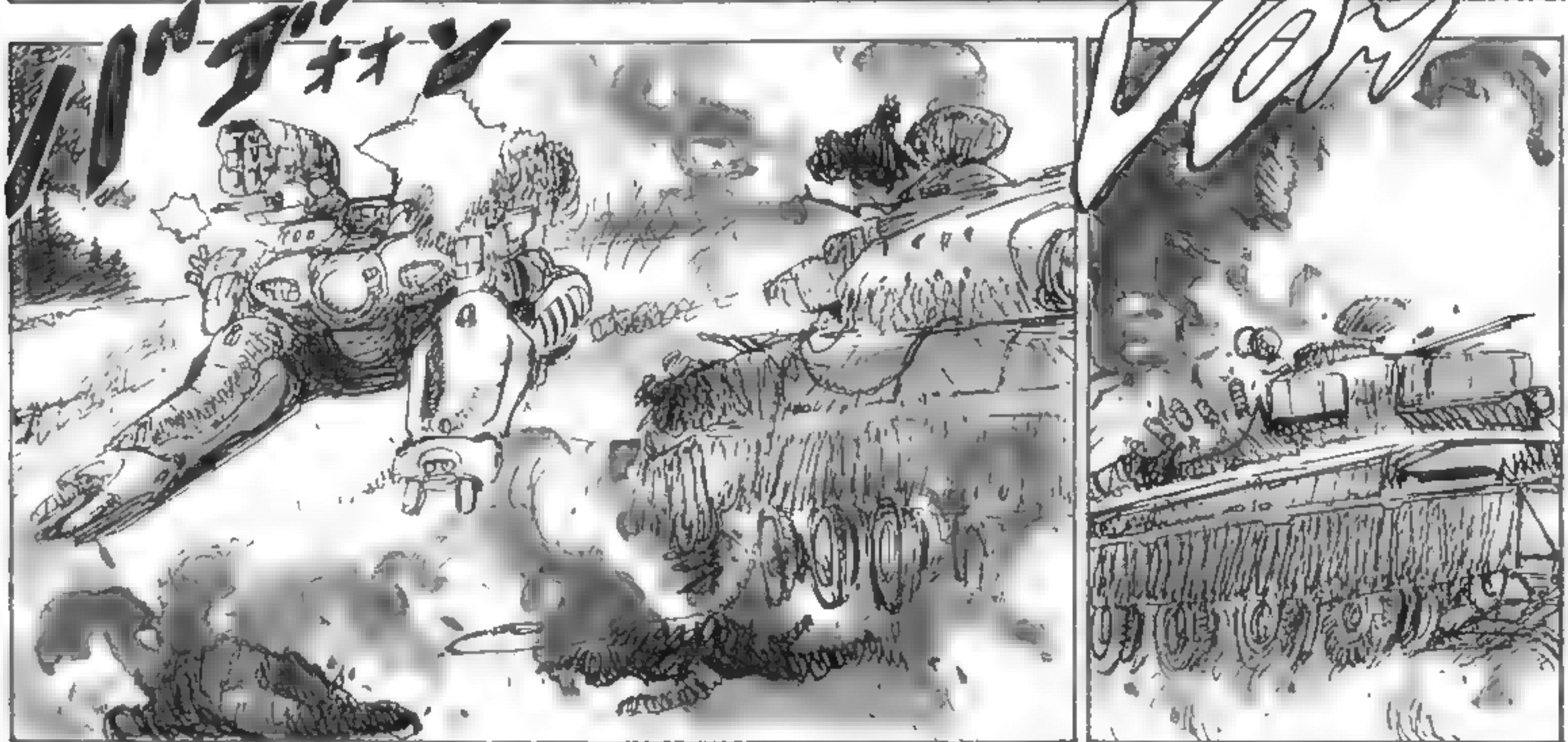
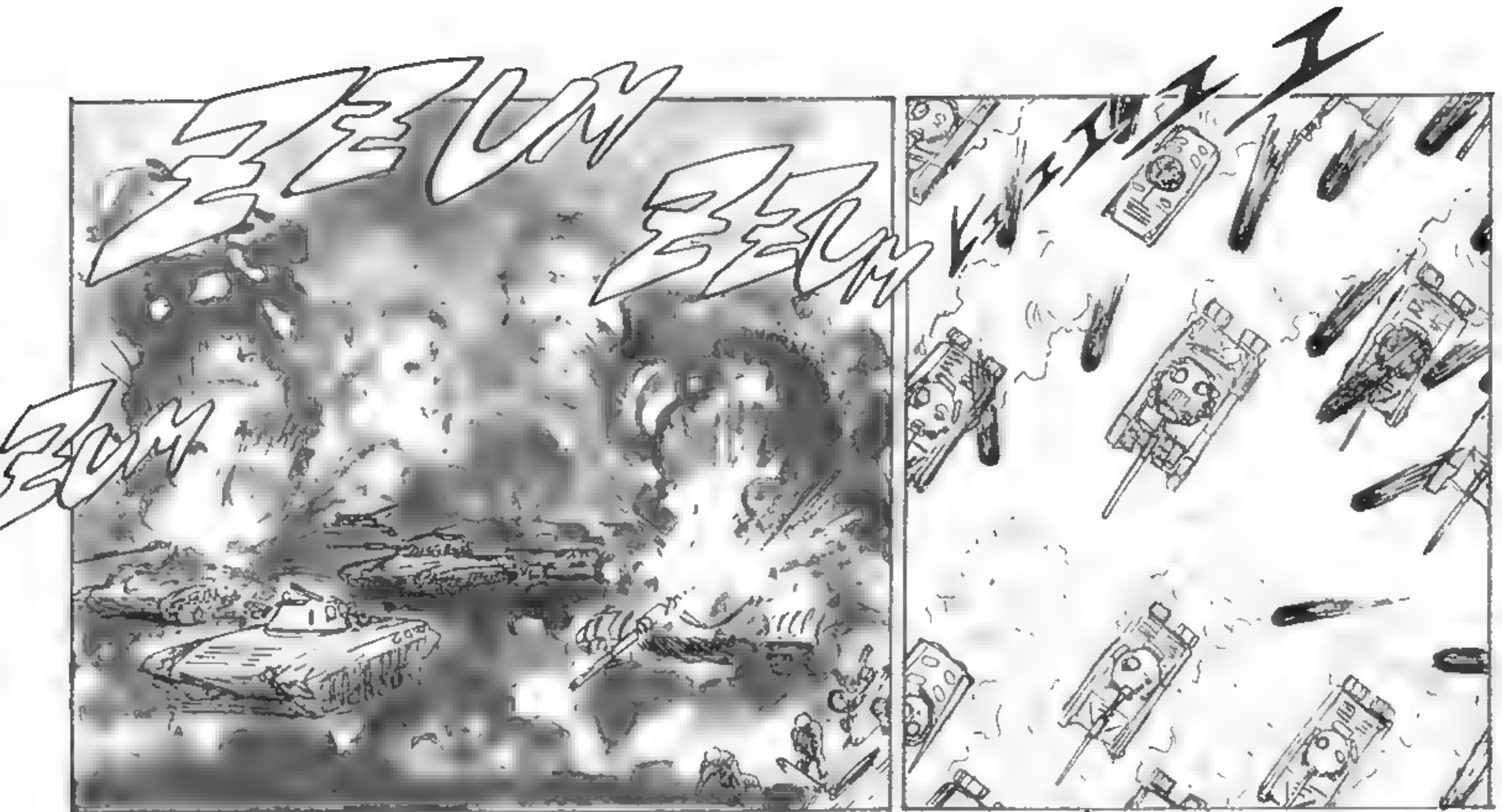
これより
作戦に
移る

行くぞ！
ボルシェビッキ
どもを
たたきのめせ！！



* MLRS / 多弾頭誘導ロケット

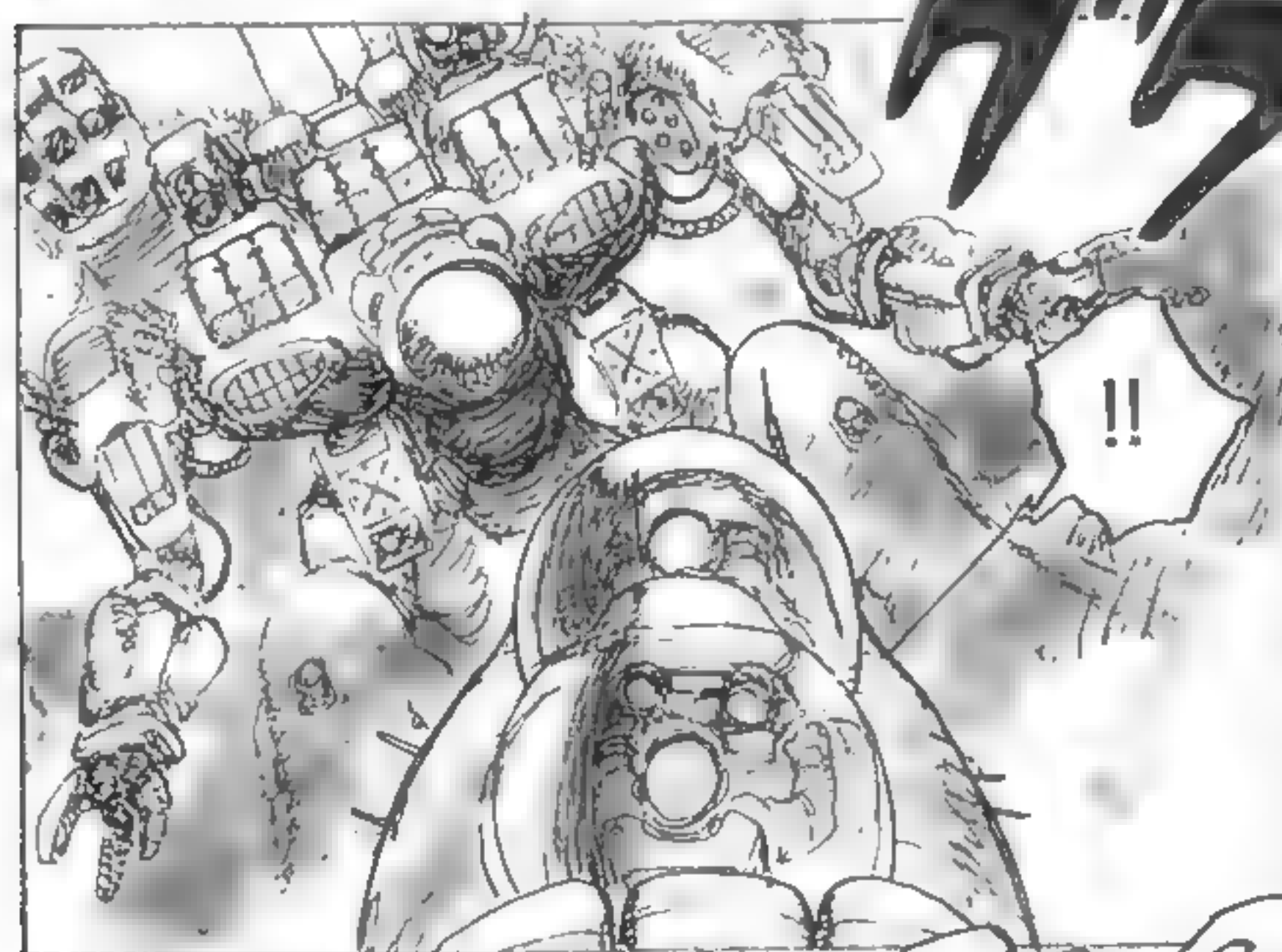




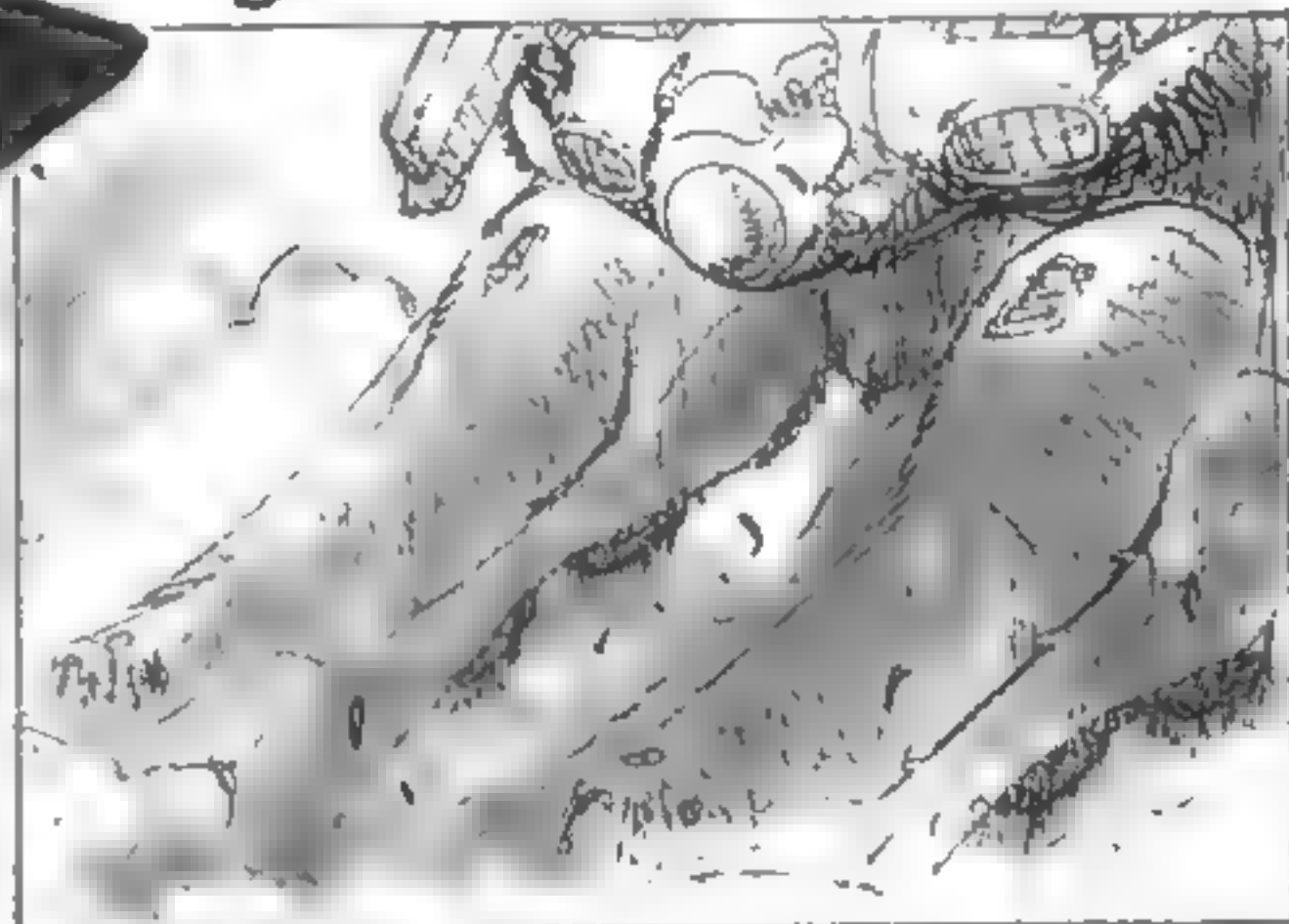
BIG BOOM



QWA QWA QWA



アッ



POPOPOPOPOPO



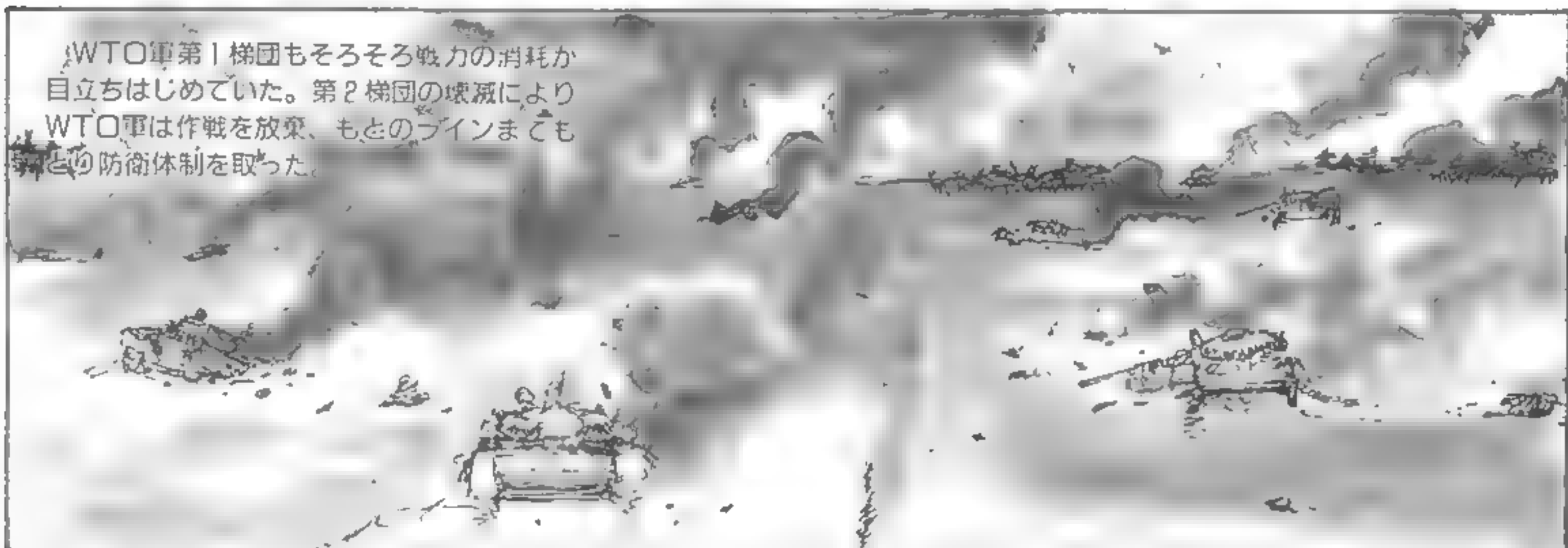
BOOM



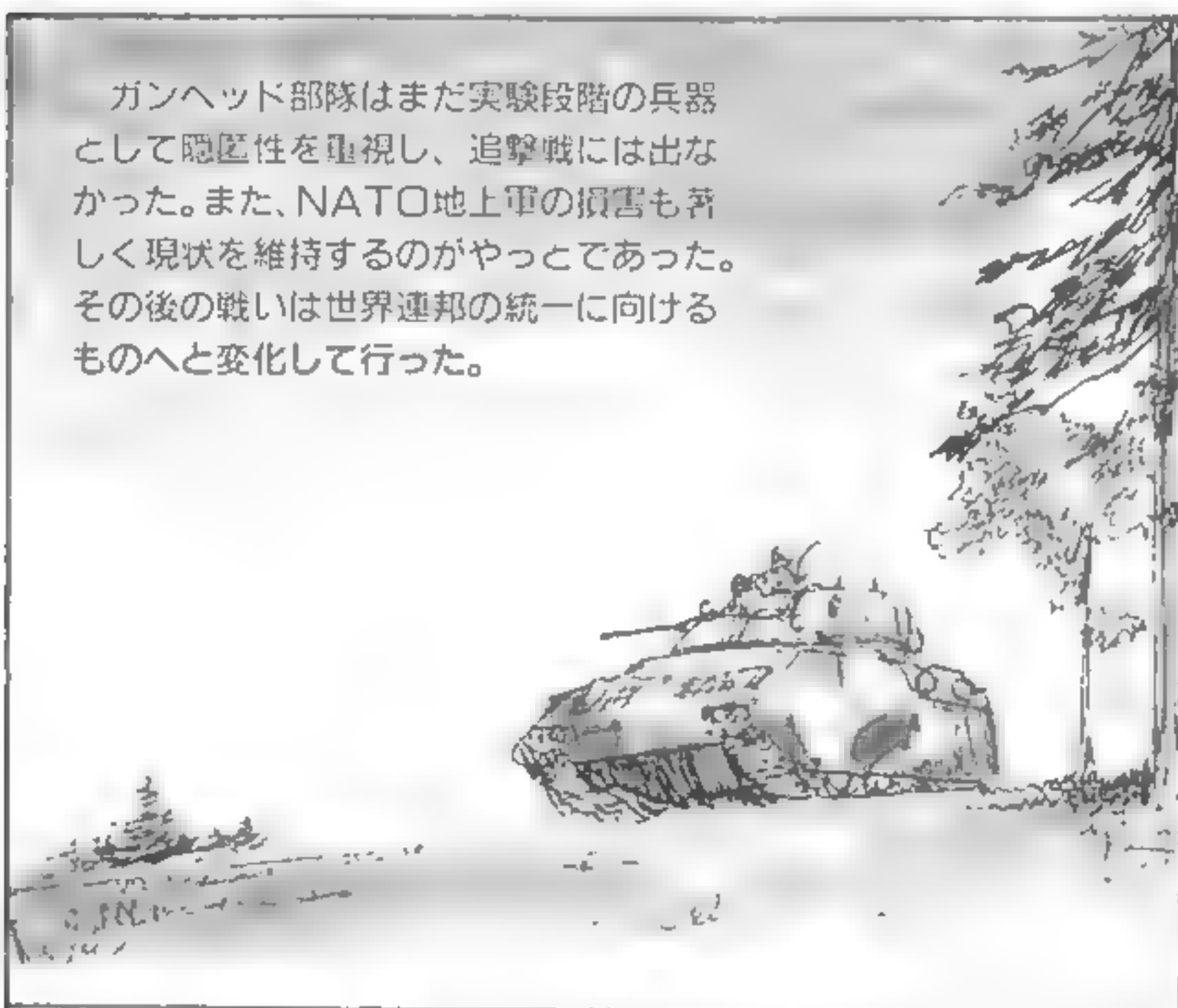
特別装甲兵団ガンヘッド部隊により、WTO軍の第2 梯団は壊滅的な損害を出した。



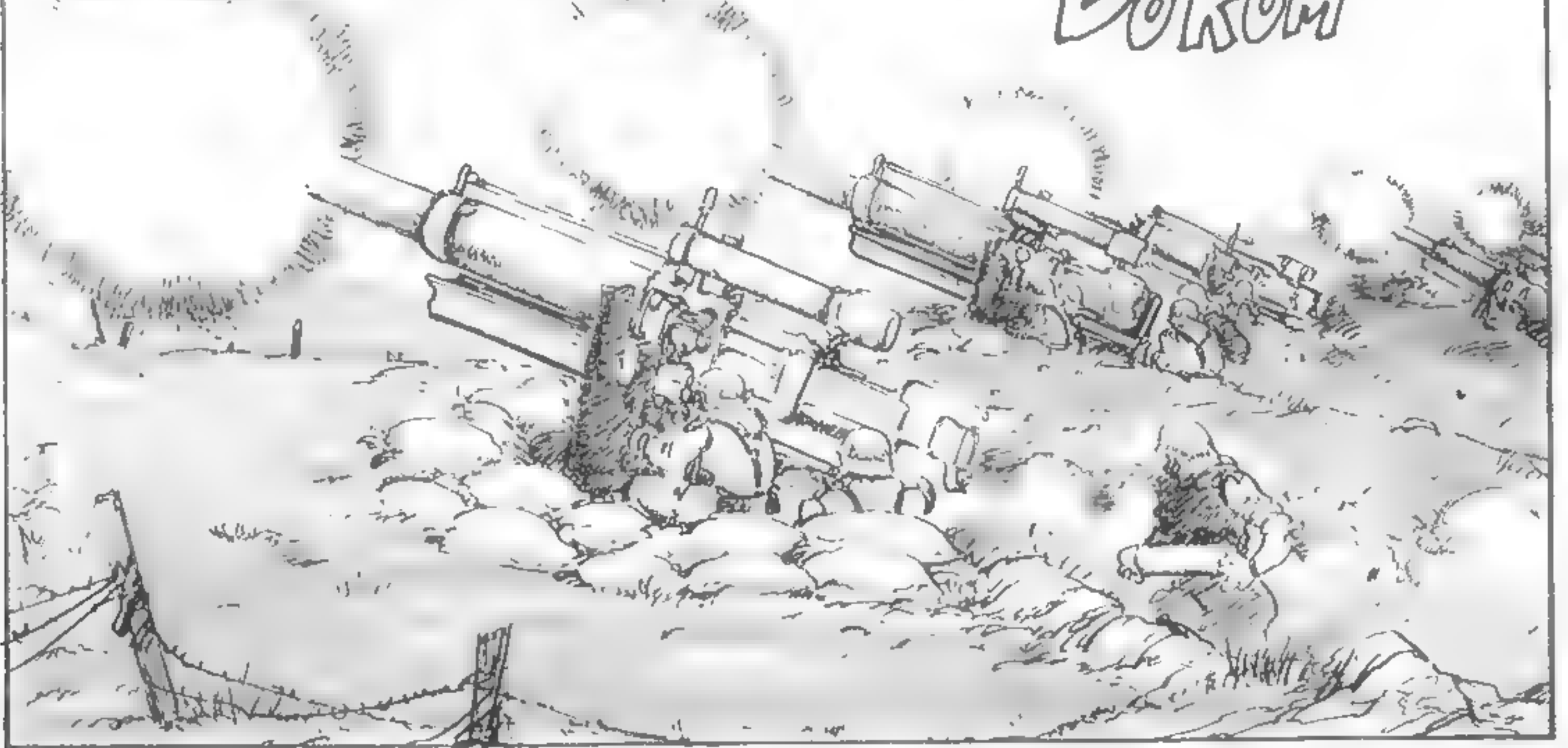
WTO軍第1 梯団もそろそろ戦力の消耗が目立ち始めていた。第2 梯団の壊滅によりWTO軍は作戦を放棄、もとのブインまでも取り防衛体制を取った。



ガンヘッド部隊はまだ実験段階の兵器として隠匿性を重視し、追撃戦には出なかった。また、NATO地上軍の損害も著しく現状を維持するのがやっとであった。その後の戦いは世界連邦の統一に向けるものへと変化して行った。



Dokom Dokom
Dokom



BAFUM

BARW

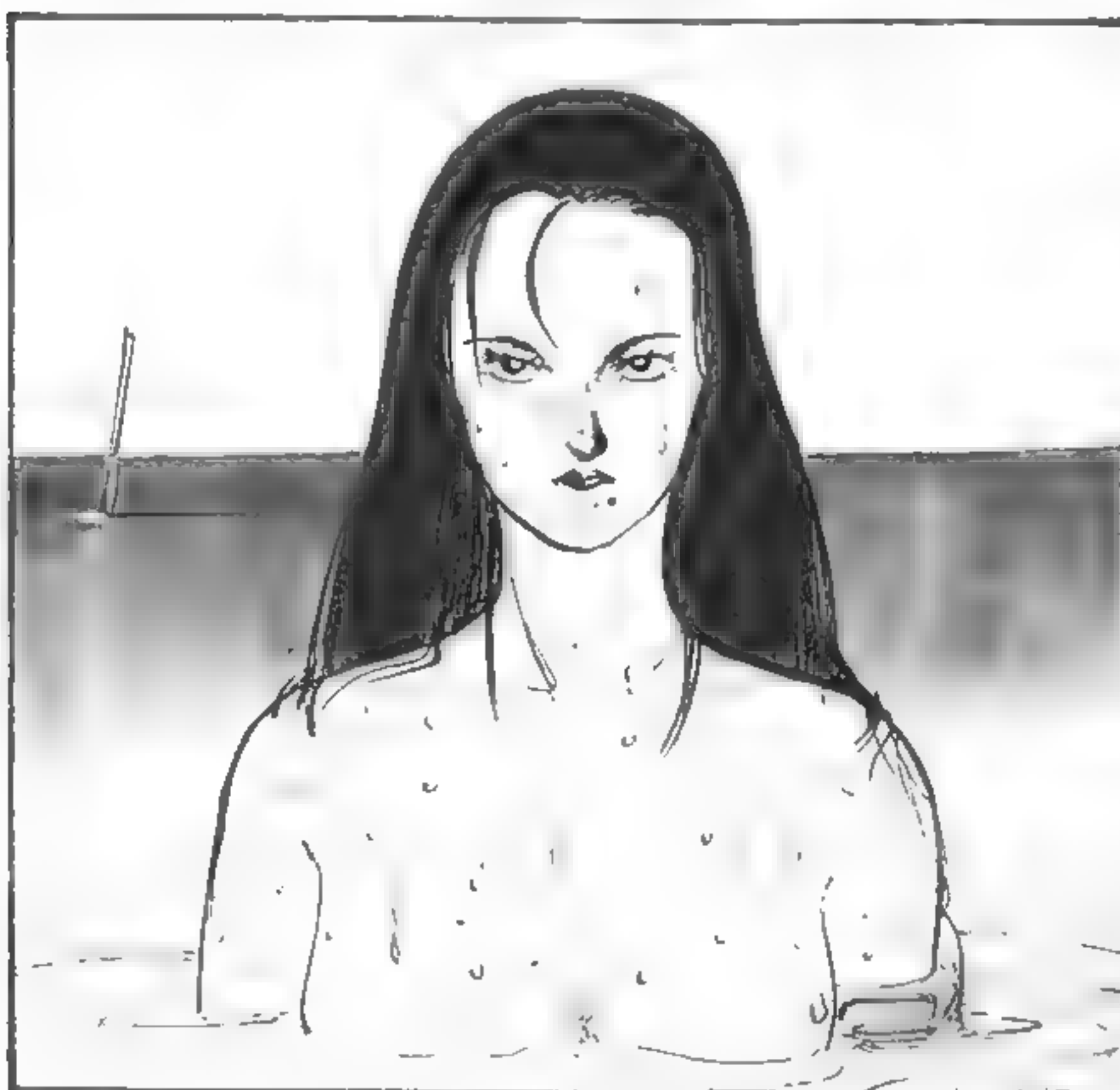
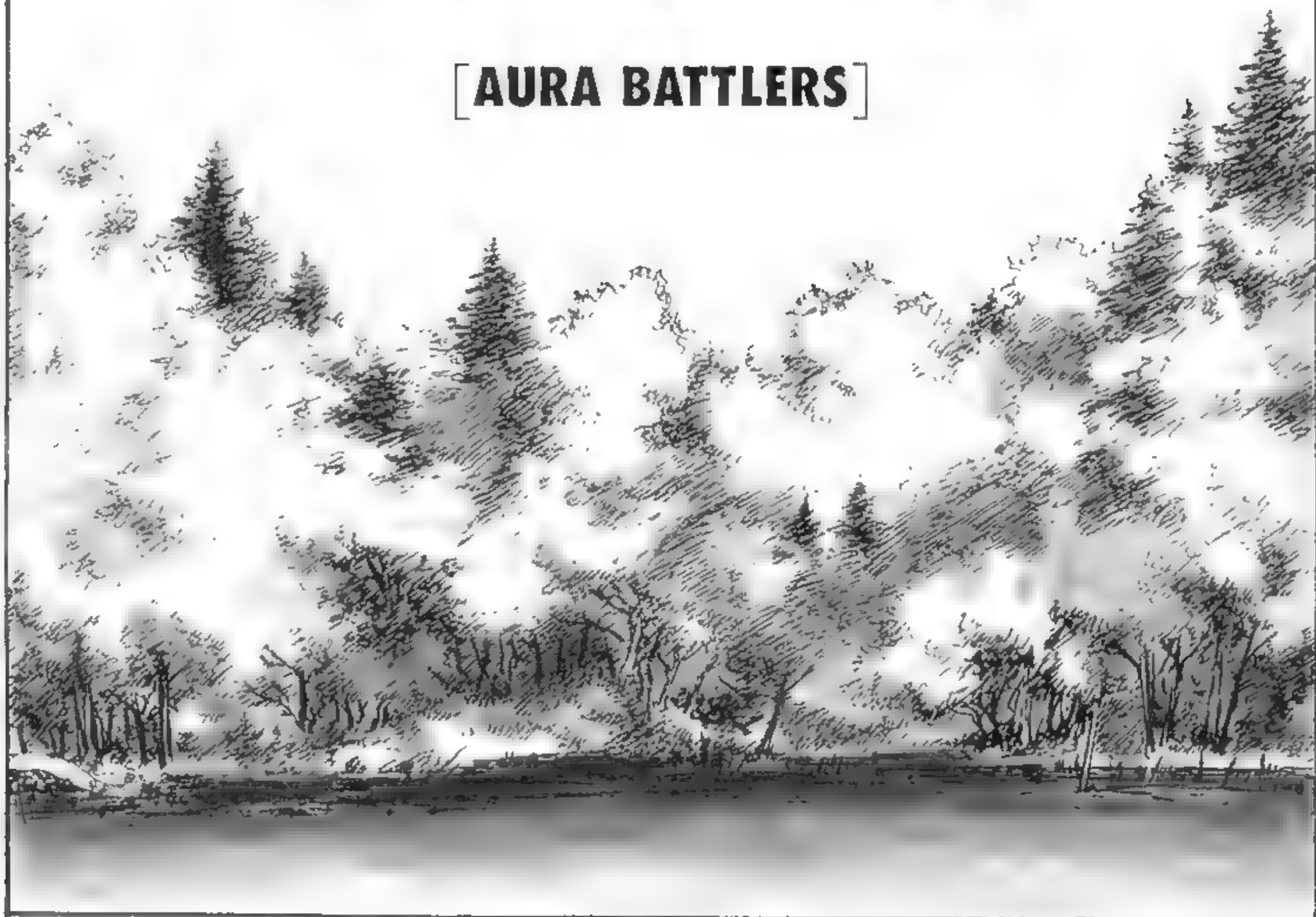


Dok
Dok
Dok

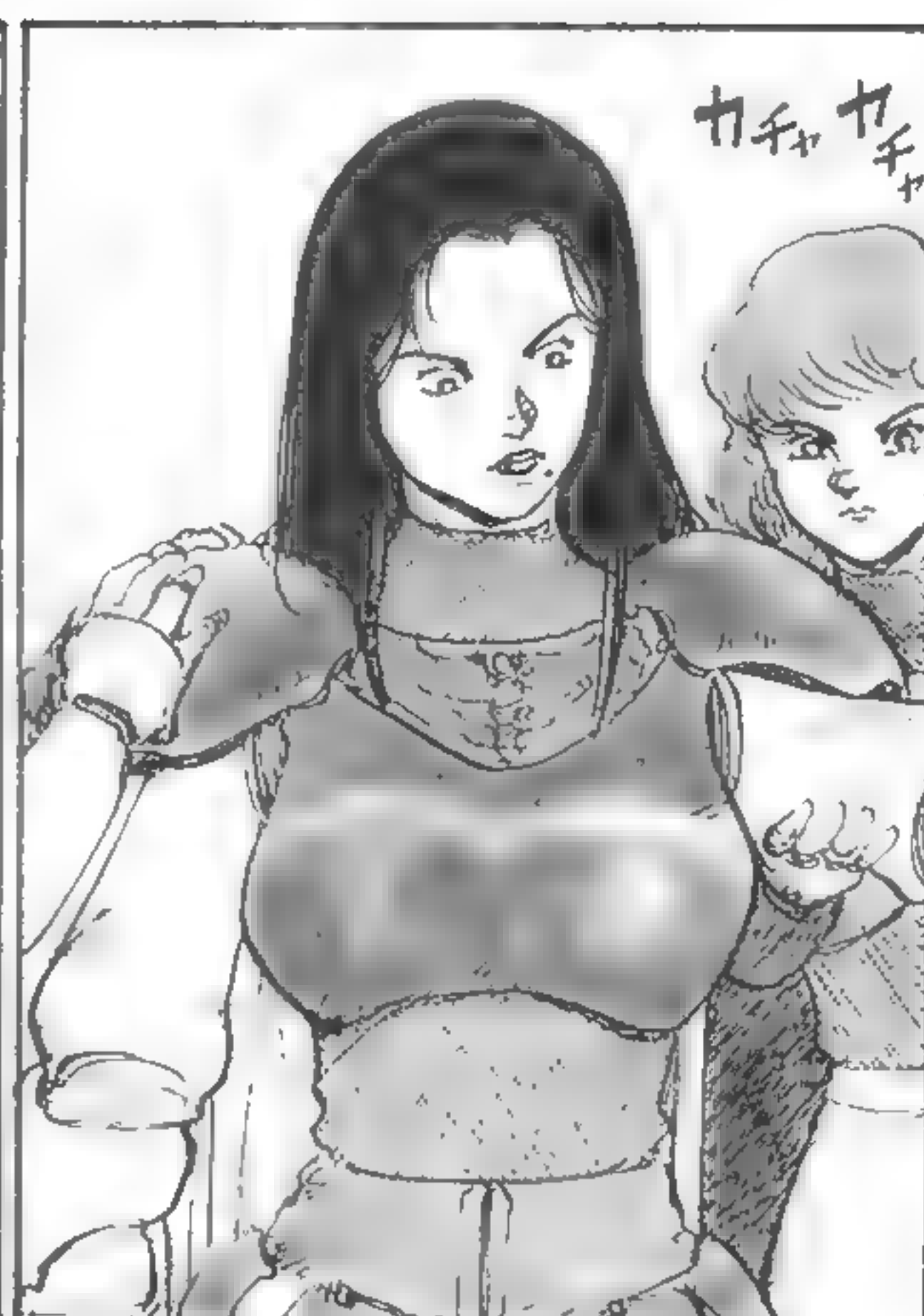


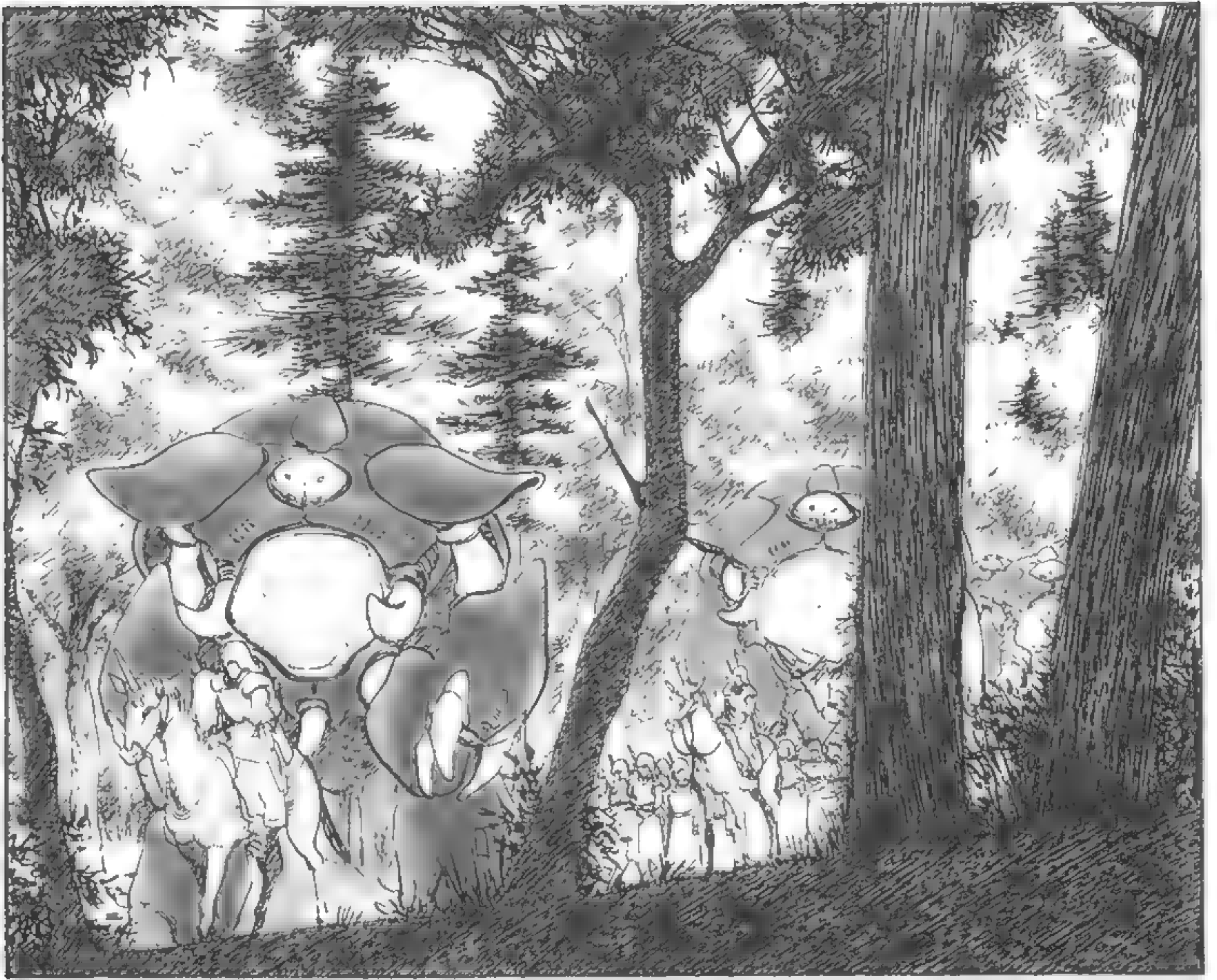
ARMORED ARMY

[AURA BATTLERS]

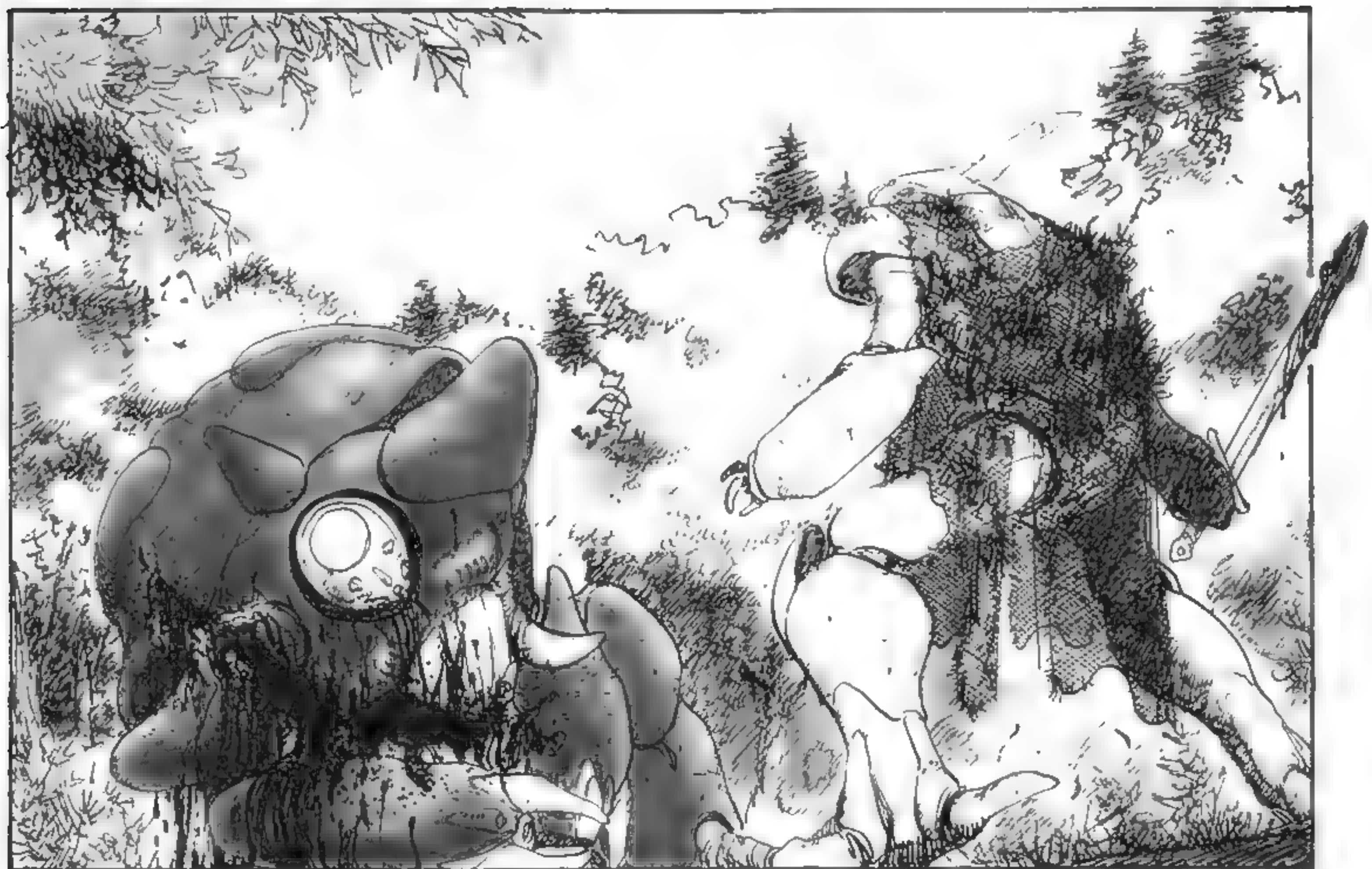


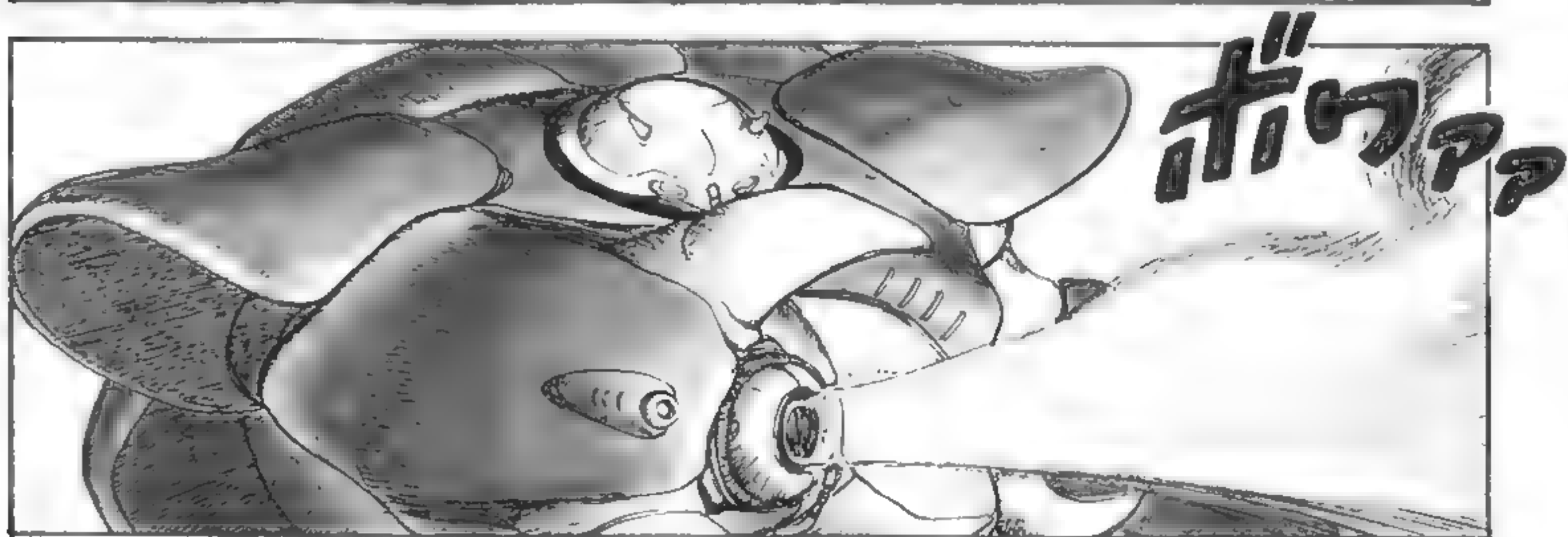
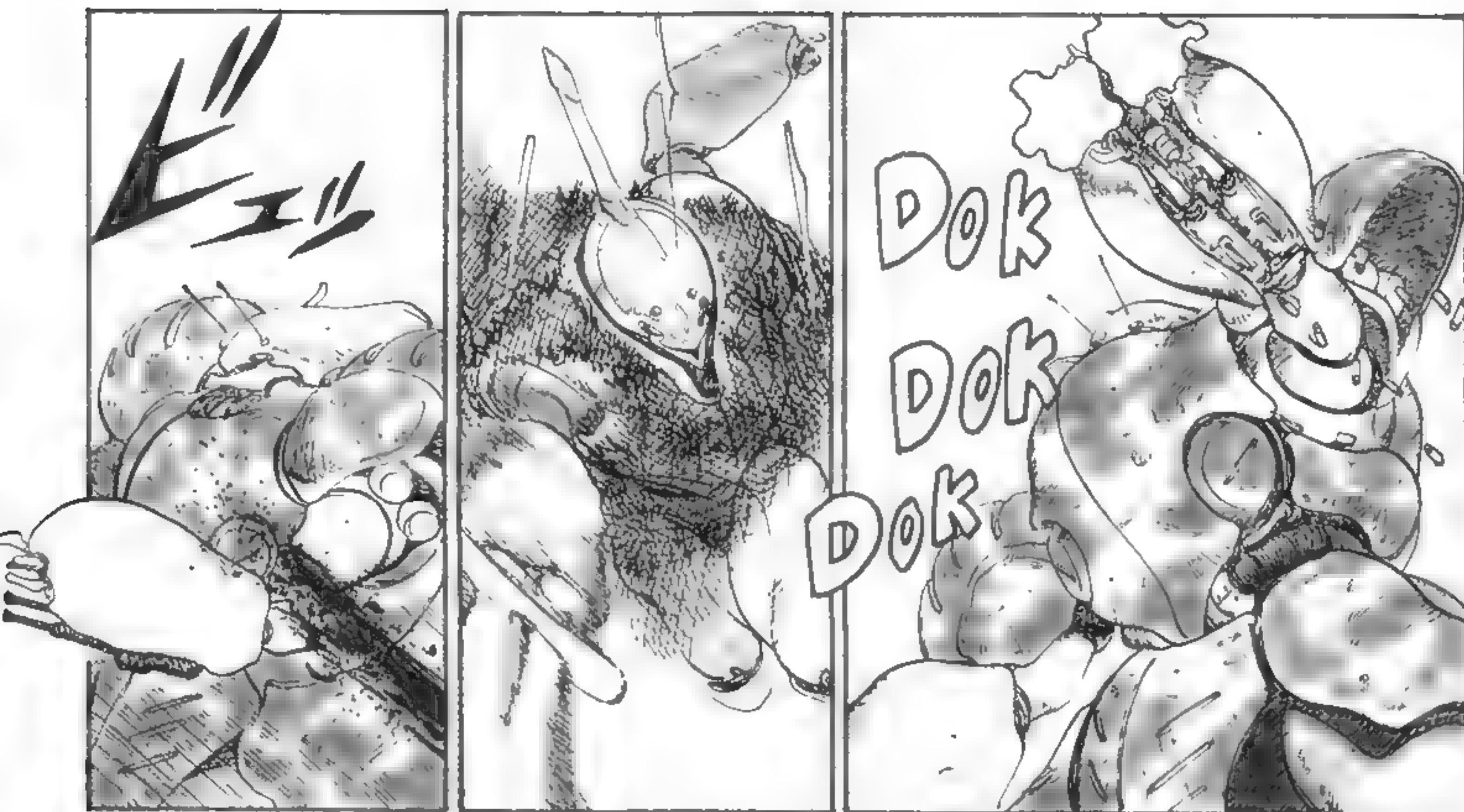


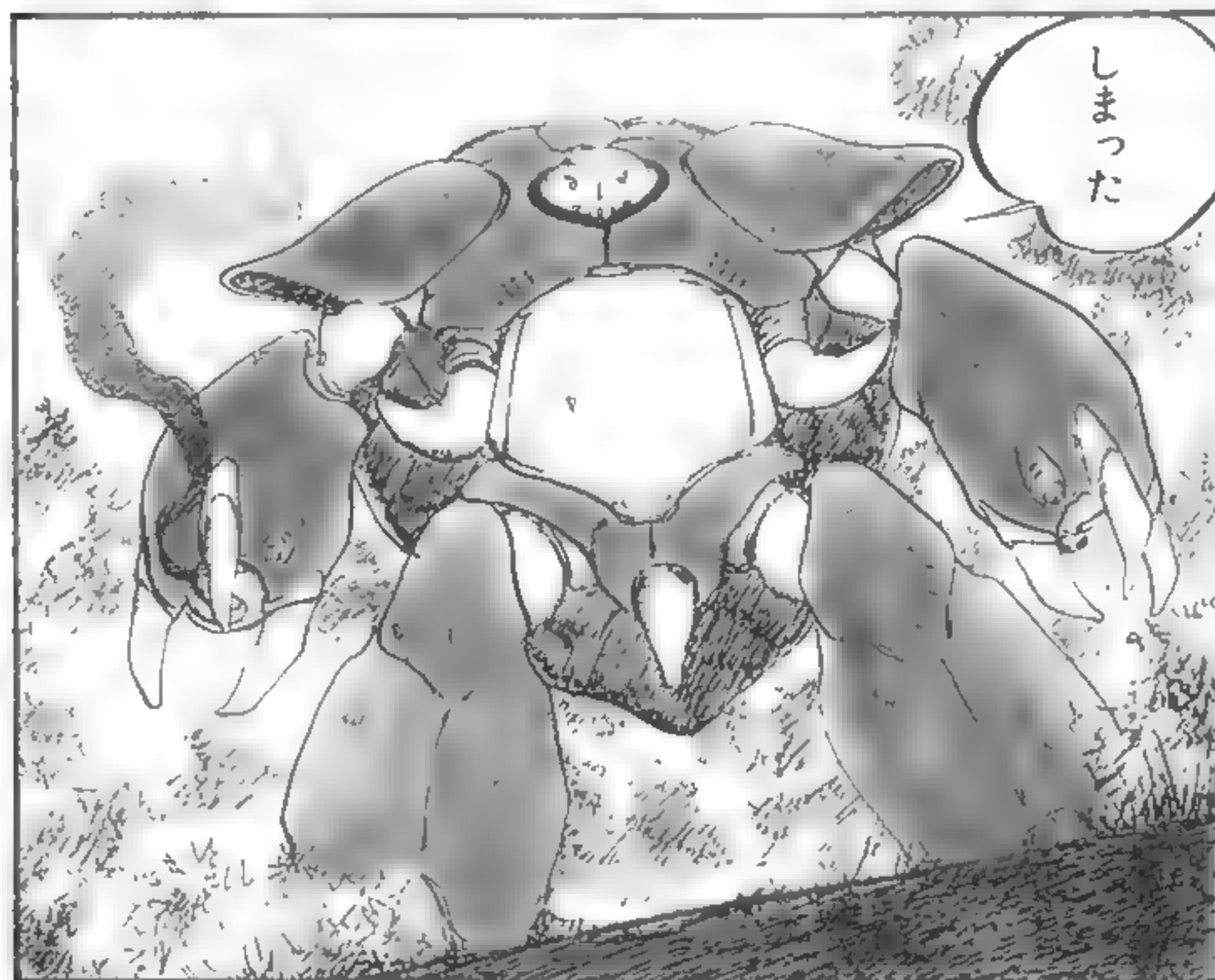


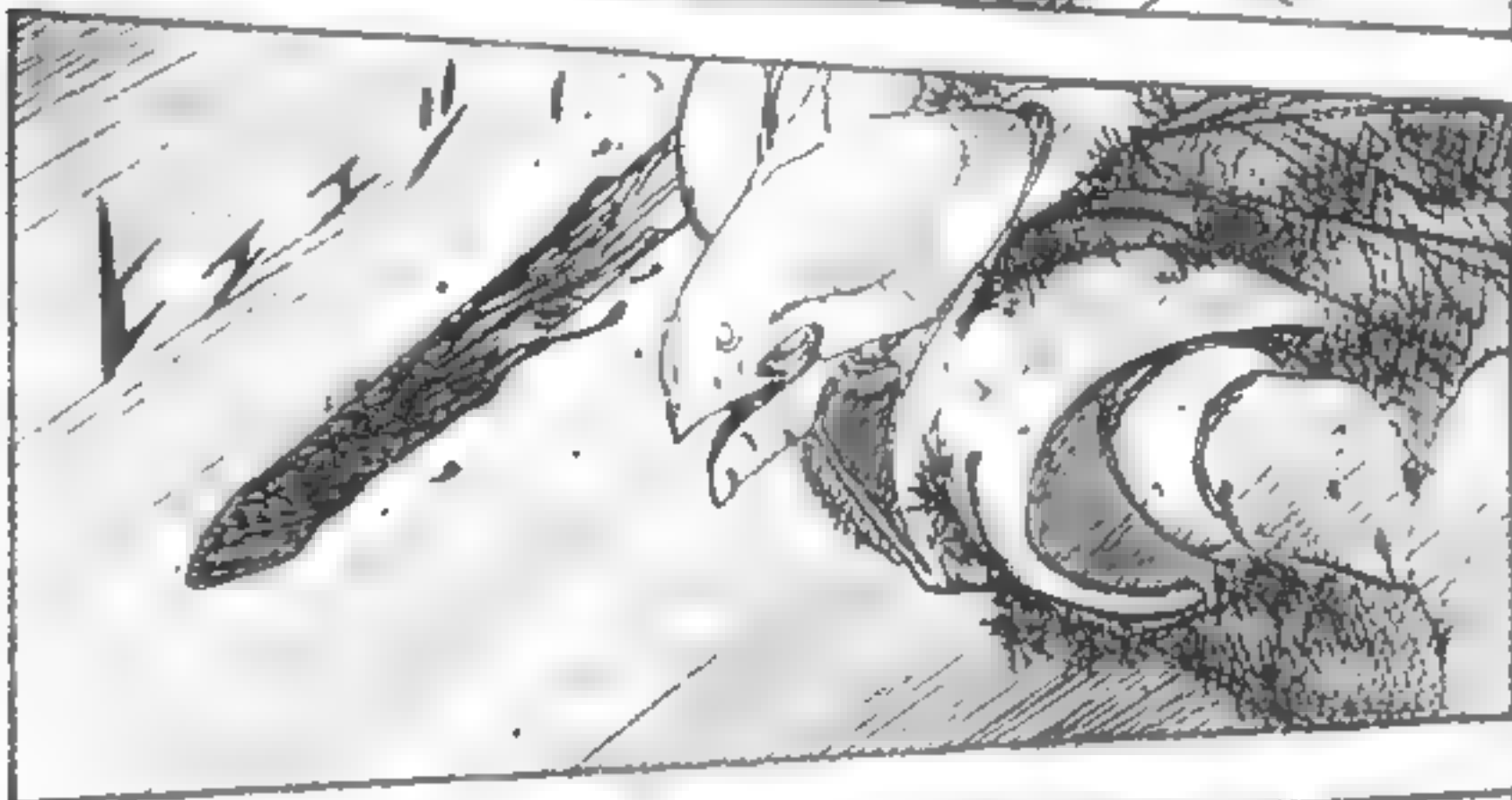
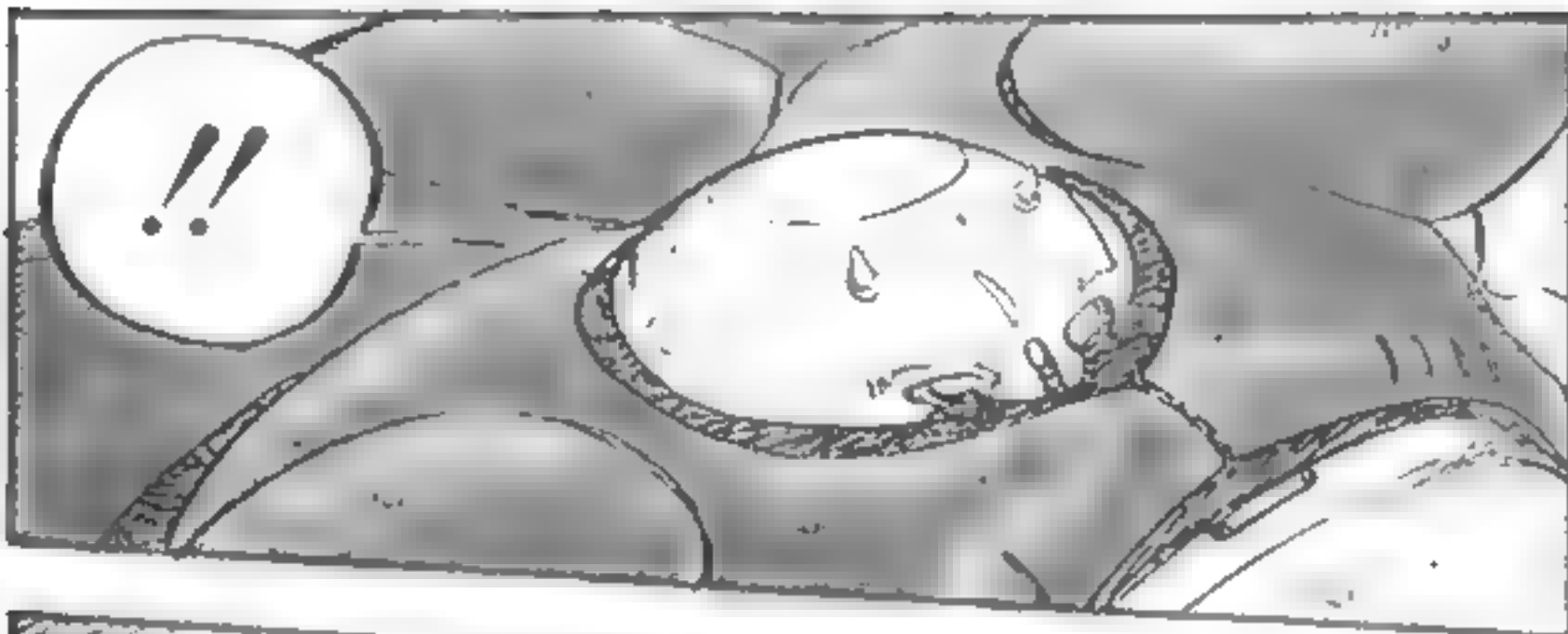




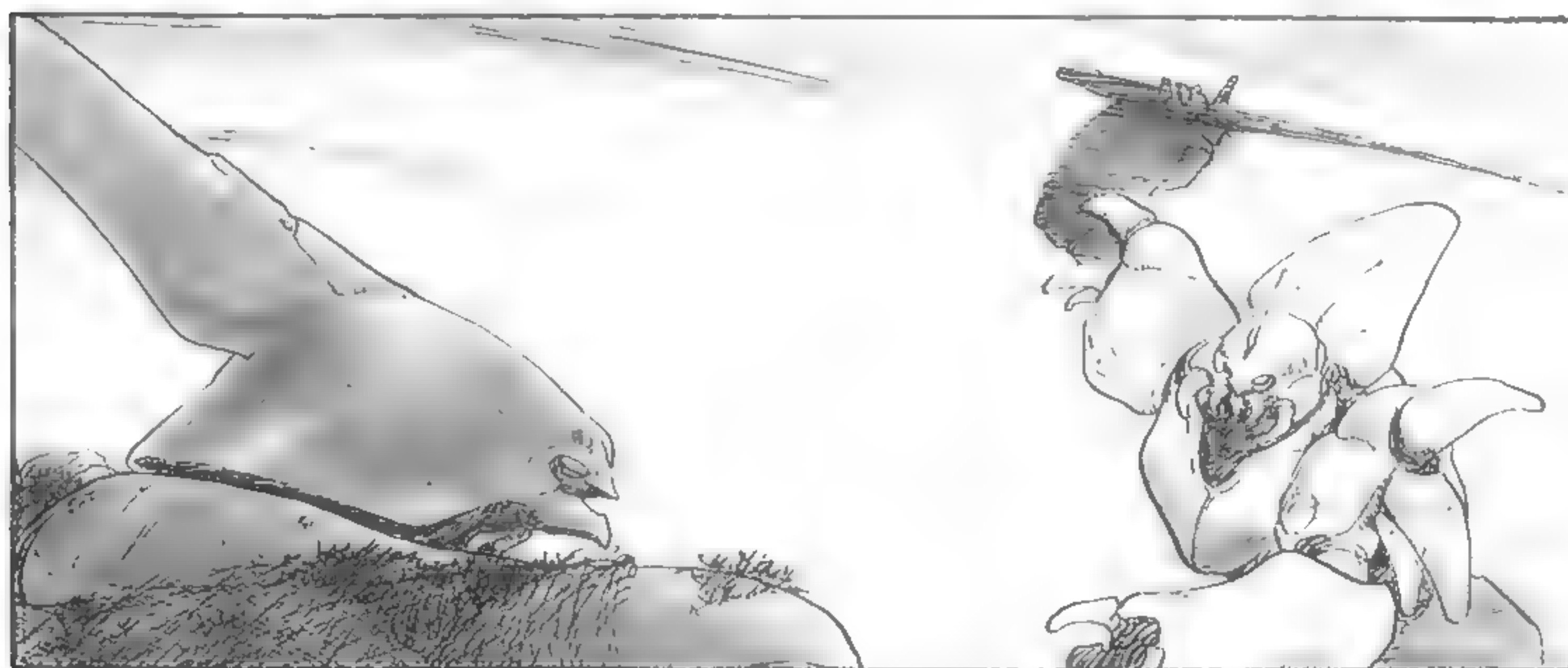
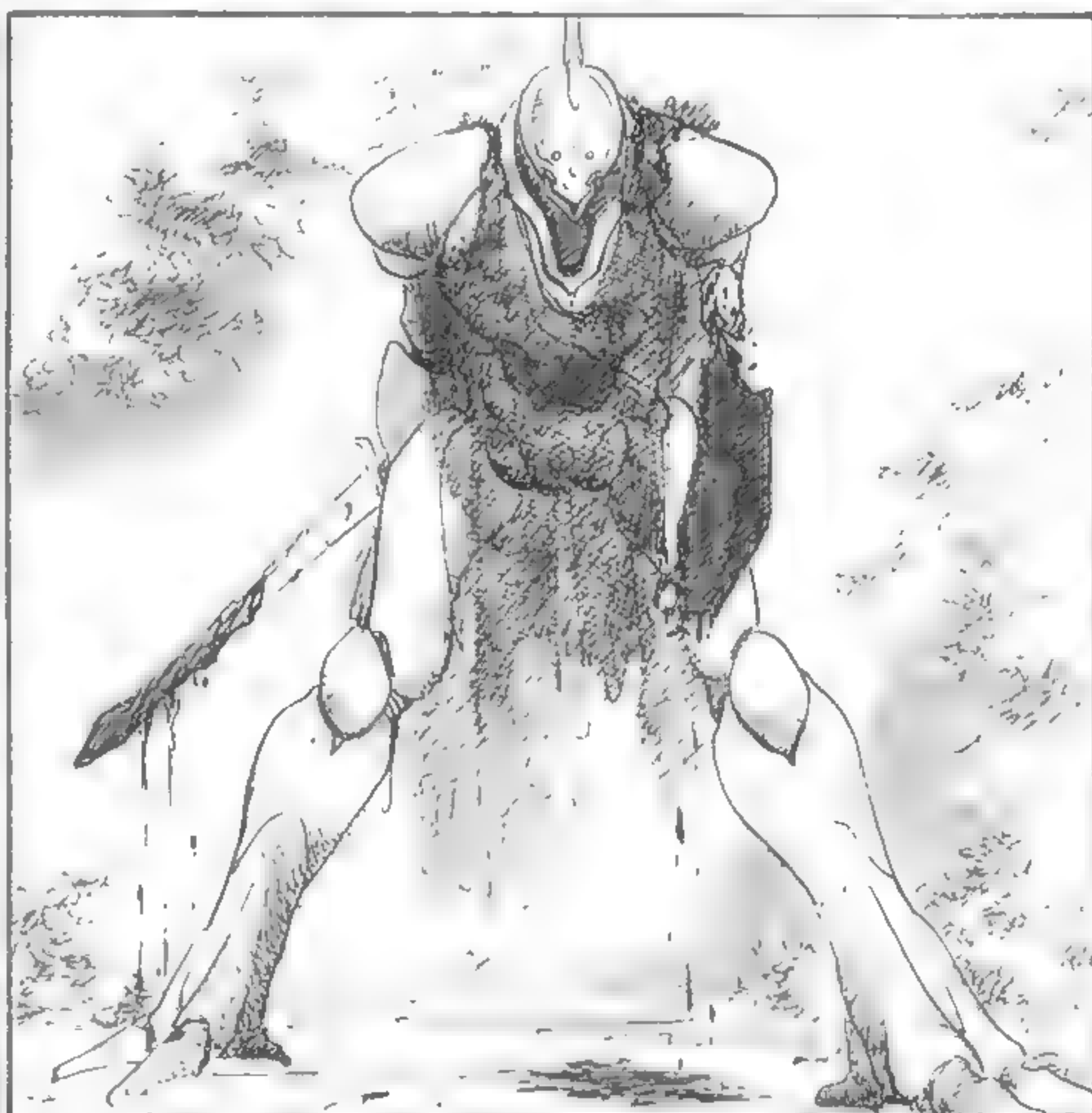
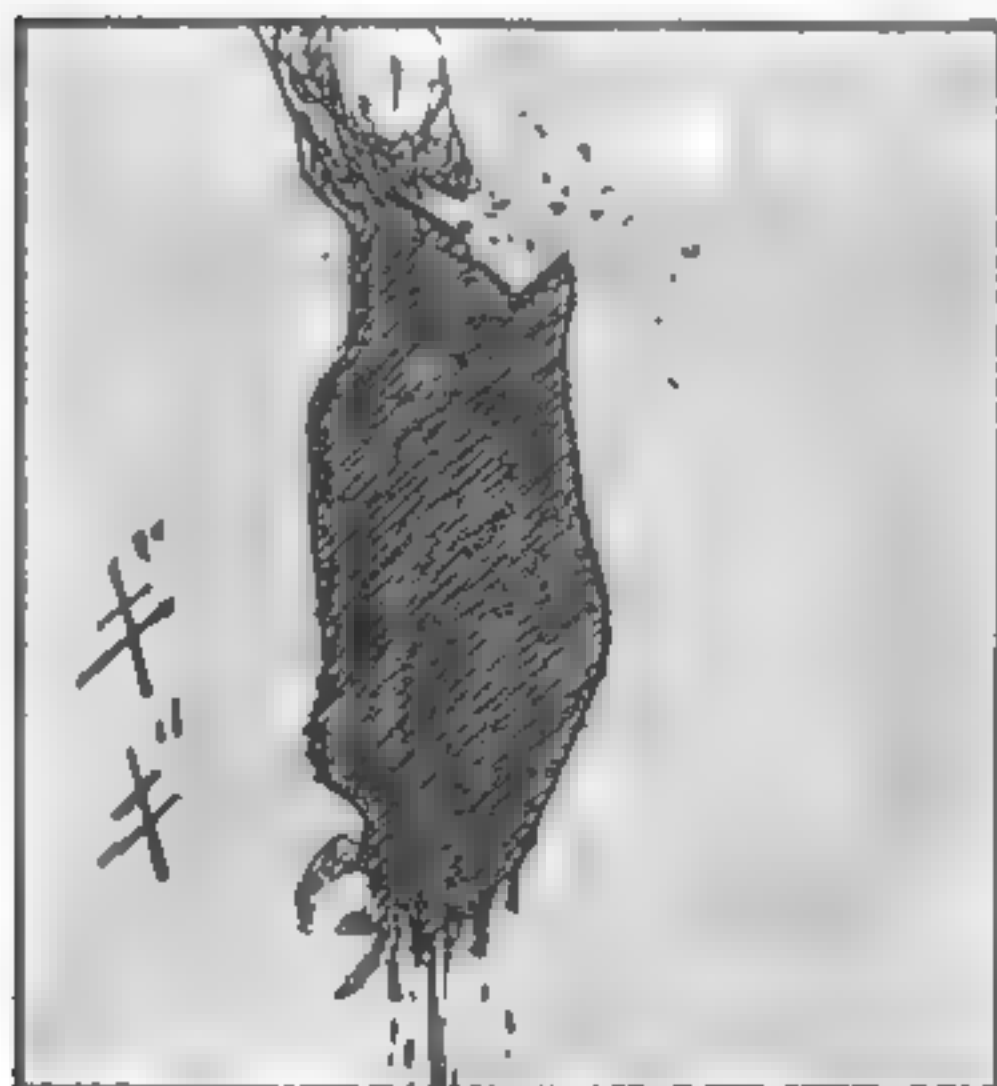


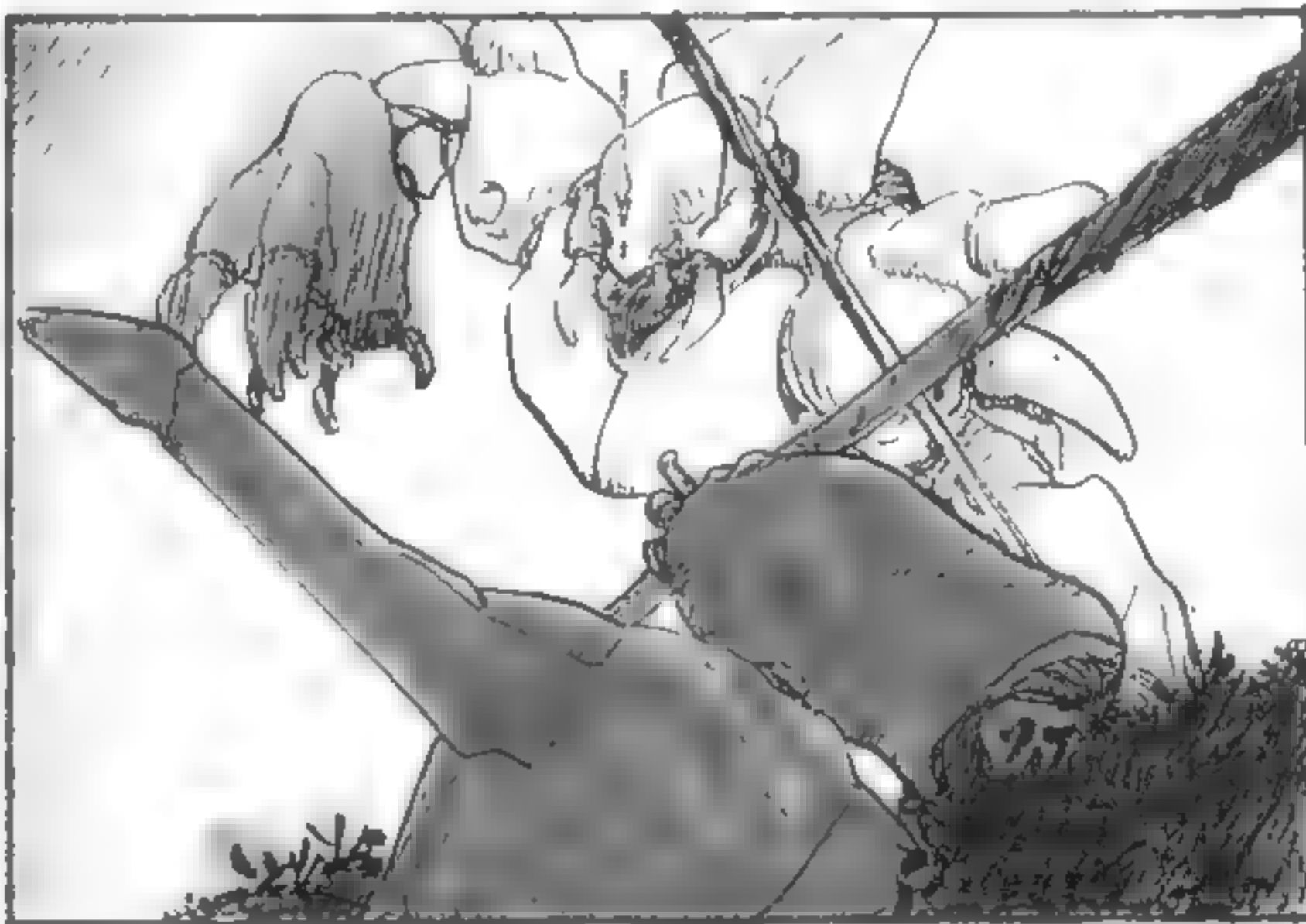
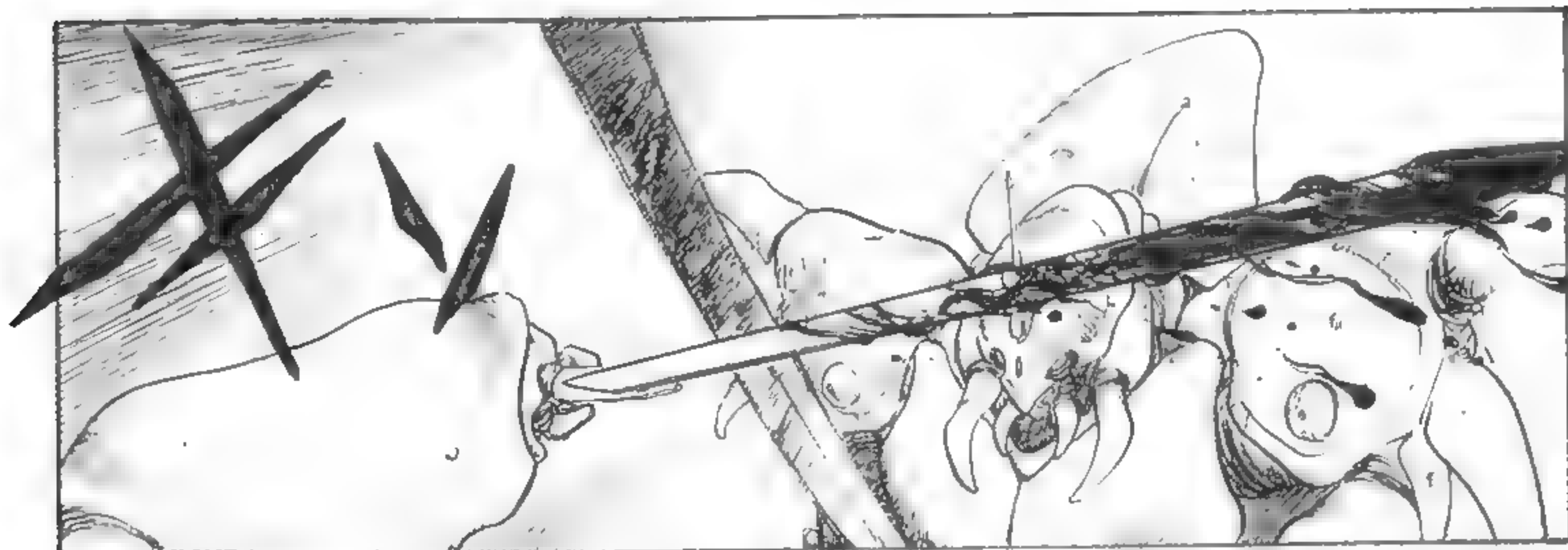




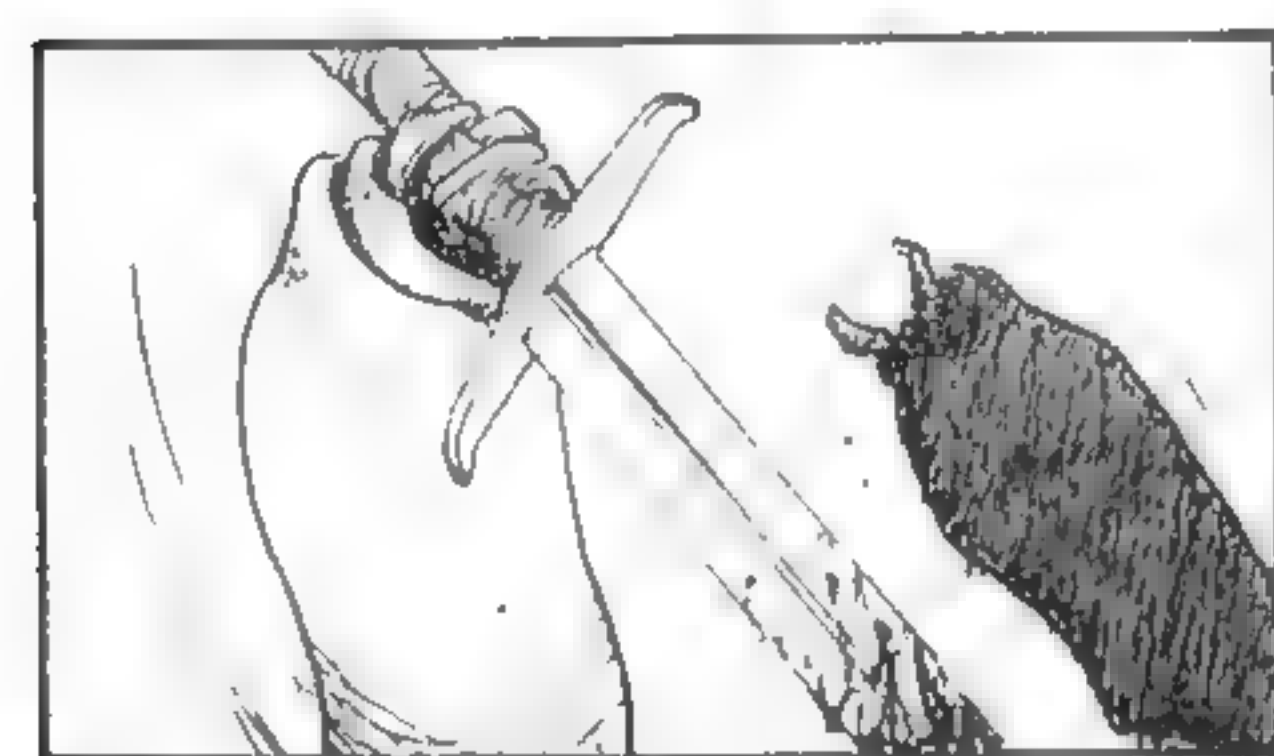
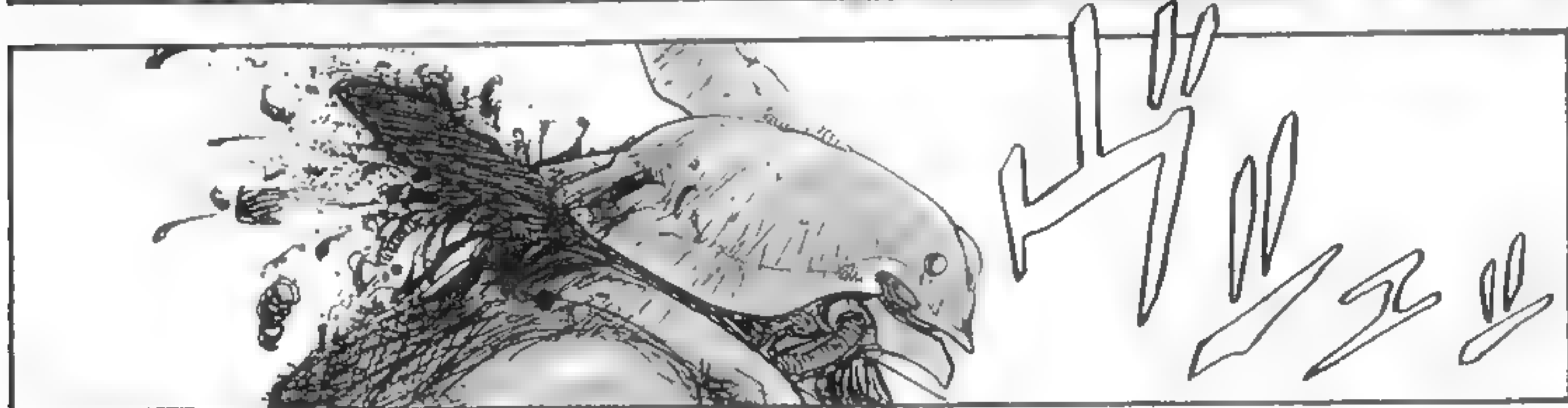














PRODUCTION NOTE

『プロダクション・ヘート』

さて、この作品集の最後は、この本自体の解説を中心に少し裏話をしていきたいと思います。本来ならば近藤先生御自身に「あとがき」を書いていただくのが常識的な線だとは思いますが、それが出来なかった最大の原因は、この本の制作進行が平成4年12月という、一年で最もあわただしい時期と重なってしまったからです。ですから、ここではこういった形をとらせていただきました(実際、近藤先生とレイアウトを担当した佐藤さん(晴蔵)達は年末年始もずっと今回の作業を続けていました)。

この作品集の企画が持ち上がったのが平成4年の春先でした。その時点ですでに今回のような形式の本にしようという話がまとまっていました。

最初は7月に開催されたJAF CON'92にて発売しようというアイデアも出たのですが、日程的に折り合いがつかなかったために、その案は流れてしまいました。まあ、それ以前に私自身がそのJAF CONで天手古舞だったものですから……

といった事もあって、春先に外堀の部分は埋まっていたにもかかわらず、結局夏も終って秋に入ってから改めて進行になったのです。でも気がついたらすでに10月、いくら再録が多いからと

いつても本当に1月に出せるのか不安でしたが、人間、頭で考えるよりは体を動かした方が良いという事で、強引に作業に入ったのでした。それでも近藤先生は仕事の早い方なので、そういった面での不安は全くありませんでした。

では、前置きが少々長くなりましたが、本書の内容について話をしていきたいと思います。

表紙のカバー用のカラーイラストはもちろんこの作品集のための描き下ろしです。今回の作品集では、「機動戦士ガンダム」のモビルスーツをベースにしたオリジナルMSと近藤先生自らのアイデアによるオリジナルメカで構成されています。そこで、表紙ではその2つの要素が同時に楽しめるように、パノラマイラスト(?)にしています。

表紙はZZガンダムと対峙するネオ・ジオ、裏側は近藤オリジナルメカのラチュバム、ジャギヤーⅡ、Gコマンドー、シュレイク・グスタフ、シュツルム・イエーガー、そしてよく見るとゴ布林もいます。なんか得した気になるイラストでしょ? 続くカラーピンナップも本書用の描き下ろしのシュレイク・グスタフです。実質的にはこの2点が新作なのです。実質的、という理を入れた部分については後で説明するとして、立体の方の説明に行きましょう。

カラーピンナップから続いているフォト・ストーリーは以前、1988年の夏に出した別冊「機動戦士ガンダム・逆襲のシャア/新世代へ捧ぐ」で同タイトルのフォト・ストーリーを掲載していますが、今回のそれはリメイクなのです。何故リメイクしたかと言うと、前回の別冊の時は1/144スケール統一(Gレイのみ1/550)でのキット改造もしくはスクラッチのモデルです。もちろんこの時点でそれらの作品の完成度は高いレベルにあったのですが、やはり近藤先生描くところの独得のフォルム、ディテールが今ひとつ充分な物ではありませんでした。その後、そのオリジナルストーリー「サイド・オペレーション・オブ・ジオン0092」に登場したMSは鎌田勝氏原型製作によってGK化されていきます。通常のガンブラサイズ(1/144スケール)よりも2回り程小さい、1/220スケールでまとめられ、コレクション性を高めた内容になっています。当時はサザビーをはじめ、映画「逆襲のシャア」に登場したMSの近藤版は、ビークラフショップのオリジナルGKとしてリリースされていきました。その後、近藤氏の完全オリジナルである、ゴ布林やブレッタなどは、自らのオリジナル・ブランド「御意見無用ファクトリー」企画製作によりコトブキヤから発売されていたのです。

小スケールながら、そのディテールは見事で、近藤先生のデザインを忠実に再現しています(詳しくは66、194ページのラインナップを見て下さい)。それに、コレクション性に優れ、ディオラマにしても楽しめる点で人気を博しています。

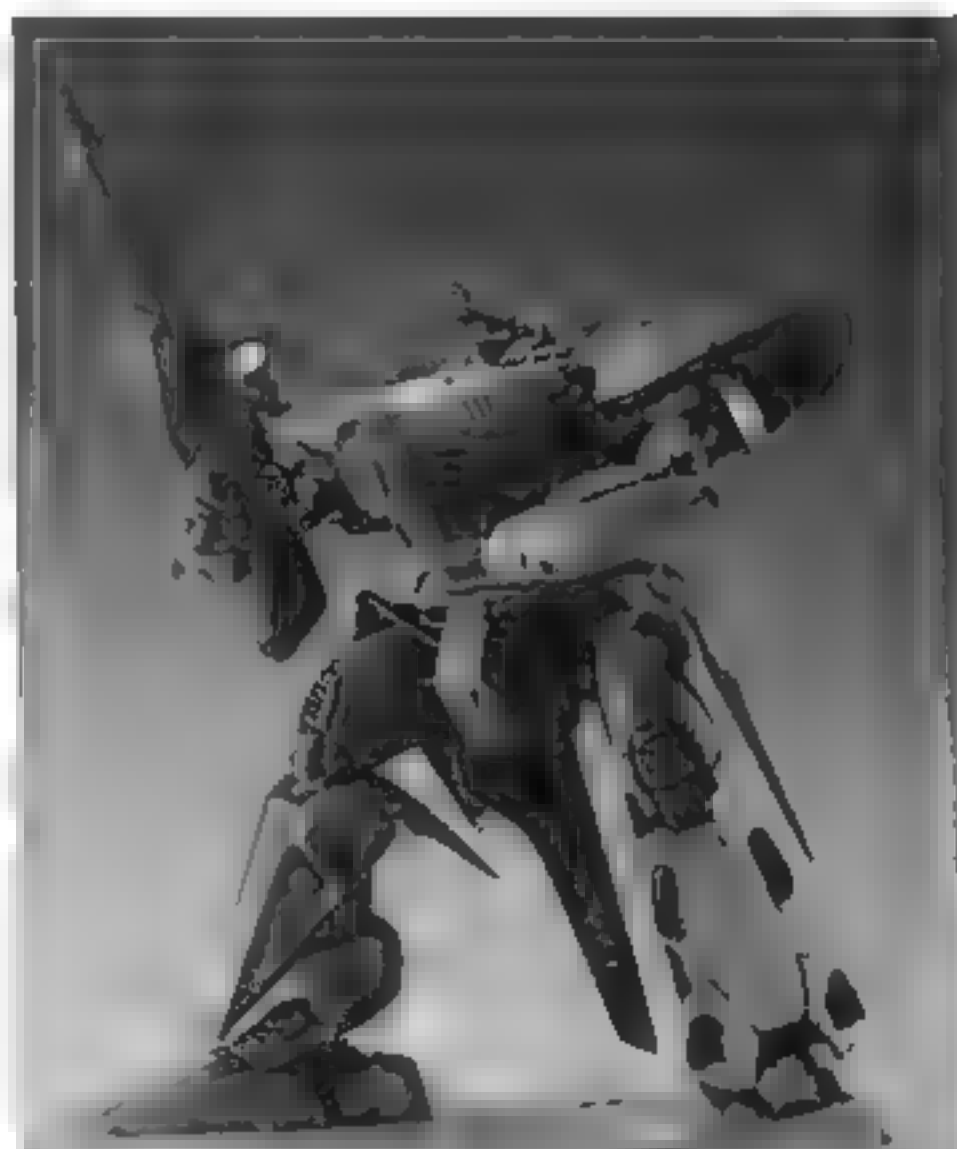
こういった下地が出来上っていたので、今回のリメイクとなったのです。

別冊当時「ジャギヤー」だった主役ブラウン大尉の乗るメカは、今回はジャギヤーⅡに変更されています。その他のメカもすべて変更されていますが、中にはハイザックなんかもチラッと登場させています(どこにいるか判りますか?)。

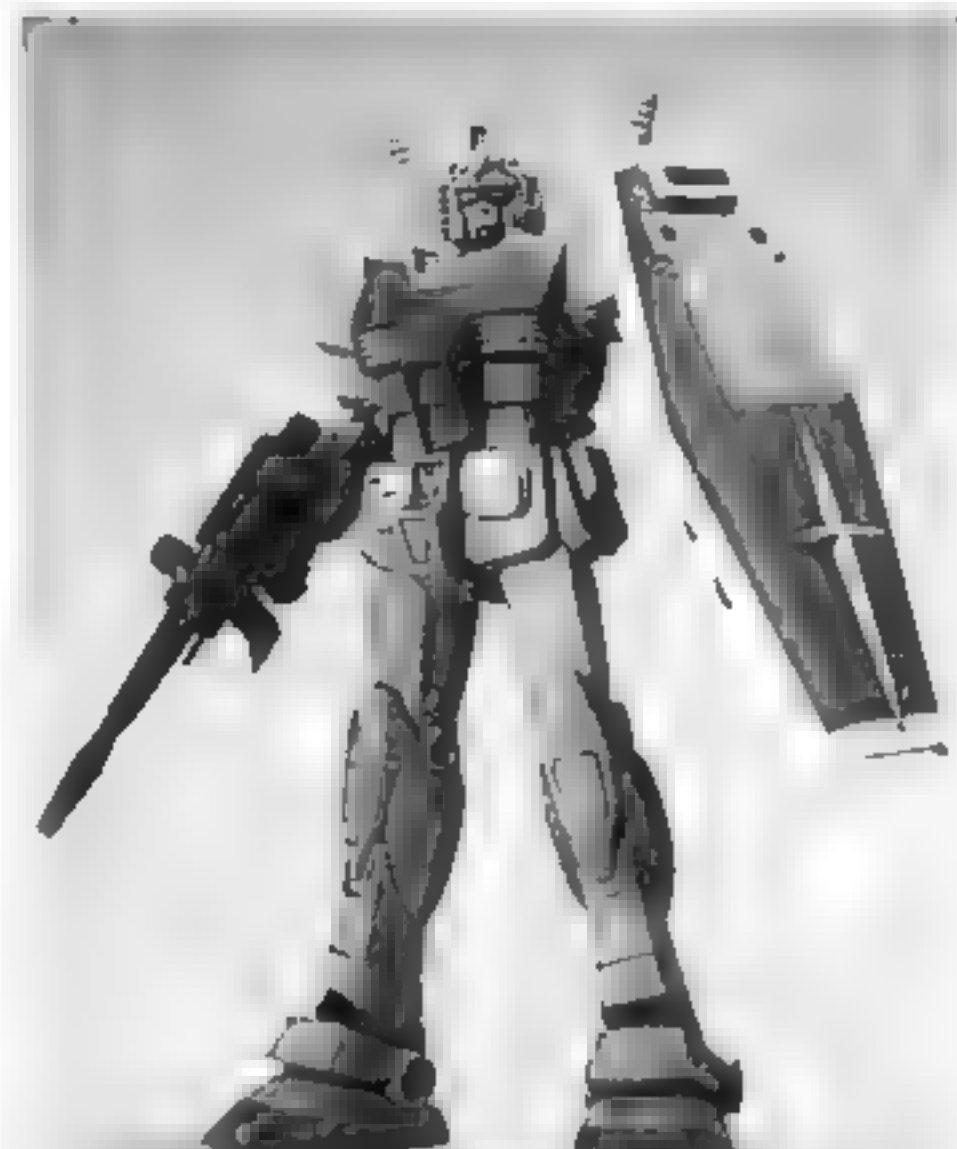
ジャギヤーⅡは「アナザーウォー」にも登場していますが、こちらはもちろん、MSではなくP



▲新作①1/100ラチュバム。モーターヘッドの原型製作などでおなじみの今井将之によるGKの原型。2月にボックスよりリリースされる



▲新作②1/220ジャギヤーII。御意見無用ファクトリー所属モテラー、鎌田勝の自働作



▲新作③1/144HGガンダム。実はかなり各部をいじっているのです。いずれ別の機会に詳しく紹介したいですね(製作 松村年信)

W(バンツァー・ヴァッフェン)として描かれています。よって同じ物でありながら、違う世界のメカなのです(ちょっと舌しかたたりして...)。

唯一キットを使わずにスクラッチモデルとして登場したものに、Gレイがあります。前回の別冊では揚田幸夫氏が1/500スケールの掌サイズで製作していたので、今回もそれがある程度手直して使用しようという案がありました。ところが揚田氏に聞いてみると、紛失してしまっただけという事。仕方なく新作を製作する事になったのですが、この時、大半のキャラ物ライターは平成4年12月に発売した別冊「ガンダムウェポンズ3」の作例にかかっていたため、作り手がいらない!というピンチに立たされてしまったのです。揚田氏にお願いしても良かったのですが、何せGKの原型師として活躍中のお忙しの方ですから、無理は言えず時間ばかりが過ぎて行きました。そこで白羽の矢が飛んだのが、若手の柳澤純君でした。まあ、正確に言うと編集部に来たところをとつかまえて、やる気確かめてからの発注でした。本来ならちゃんと近藤先生に監修を受けて製作しなければいけないのですが、それだけの余裕がなかったために、こちらサイドで進めさせていたただいています。写真では良く判らないかもしれませんが、今回の製作は基本的なフォルムは同じですが、ディテールは全く別になっています。実は近藤先生が新たにデザインを描き起こしたものをベースに製作しています。ちょっと気になるところも多いのですが、とりあえず今回はこれにて御勘弁という事で、特撮大会となるのです。

もう一つのフォト・ストーリー「アナザーウォー」のほうも新作が2点登場します。Gコマンドーは原口高陽氏による物で(お手伝いして初沢君他もがんばってくれています)、1/220とはいっても全長約25センチにもなる大型モデルです。これは御意見無用ファクトリーのGKとしてコトブキヤの方からリリースされる予定になっていますので、キットになった時に、また作例として本誌でもクロージアップしてみたいと思います。とりあえず

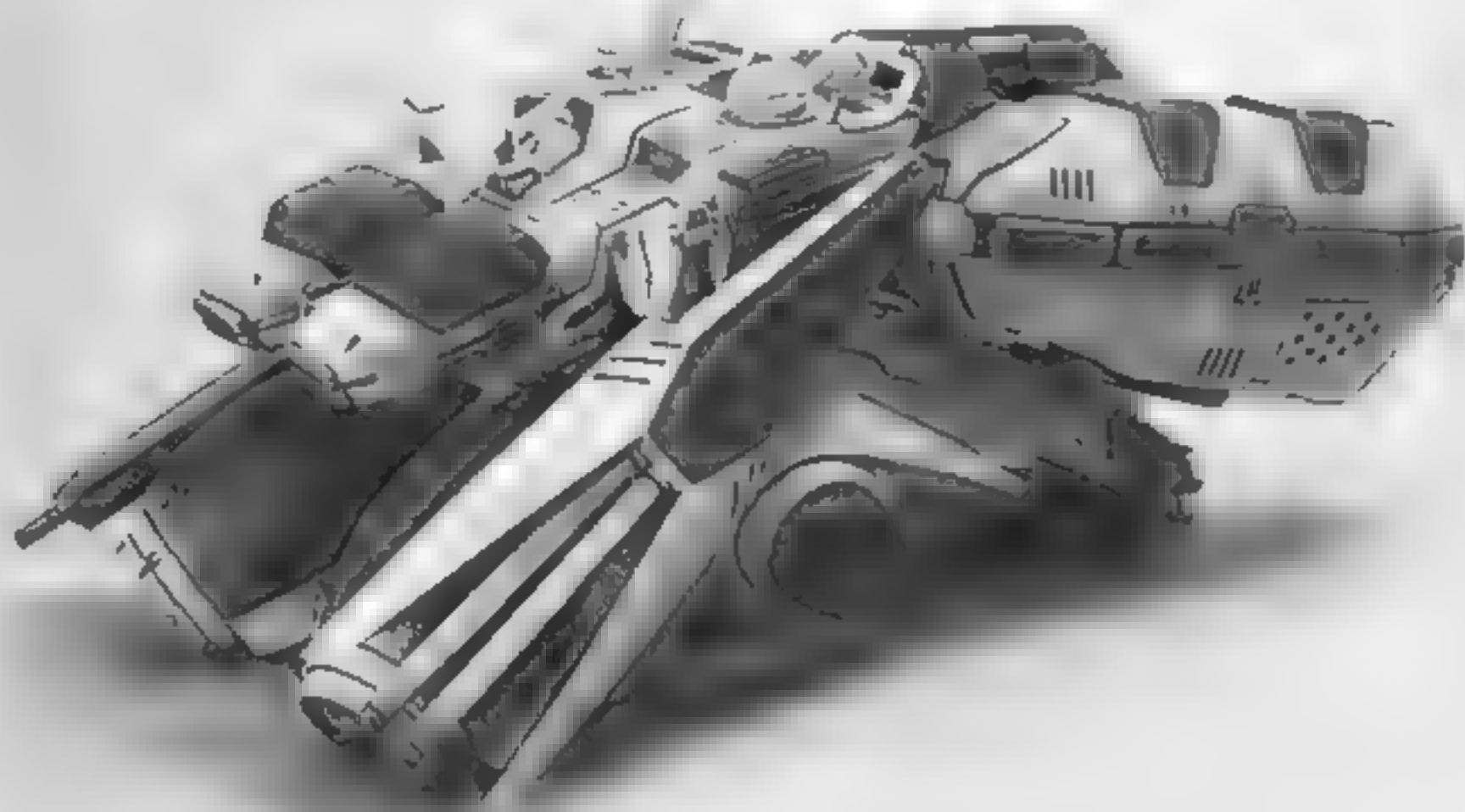
今回は撮影用という事で、オミットしている部分もあります。Gコマンドーの特徴である2つのコンテナの中にはBGRがちゃんと収納されています。キットでも別パーツになる予定だそうです。これも楽しみです。ラチュバムの方は他のGKと違い、さよっと大きめの1/100スケールでのキット化です。キット紹介はいずれ本誌の方でやりますが、オブショナル・パーツも付属しているかなり楽しめるキットになりそうです。原型は今井将之氏によるもので、2月には発売の予定です。ちなみに「ラチュバム」という名前ですが、もともとこの言葉は簡単に言うと大砲などの発する「ドカイン」とかと同じ擬音だそうで、第二次大戦中のドイツ軍の兵士などが使っていたスラングだそうです。これに関しては市川にあるマキシムの主人、高田氏に聞いて確認したのですが、断言は出来なかったようです(マキシムの高田氏はAFVに關してめちゃくちゃ詳しい方ですから、間違いはないと思いますけど)。

12ページからの作品はすべて過去HJ本誌に収録されていたものの再録で、G-3(ゲイ・ドライ)のように古い物もあります。それとお気付きでしょうか? どの特撮写真も当時のままではなく、後から近藤先生自ら手を加えています。もし手元に1988年頃の本誌があったら比較してみてください、必ずどこかが違うはずです。

写真の手直しどころじゃないのが、104ページからの「オペレーション・プラン」。連載当時の1990年12月号から1991年の3月号では、HJ本誌の綴じに合わせて「左」から読むようになっていましたが、本書に合わせて「右」から読むように変更しています。その作業だけでも大変なのですが、加えて、中に挿入されている特撮写真もプランによる処理を施しています。それと、今回はガンダムの部分は、ガンダム自体を新に製作した上で撮り直しています。わずか4カットしか使っていないですが、ポーズ付けなどを考えて、バンダイの1/144スケールHGモデルを松村年信氏に製作してもらっています(それにしても贅沢な使い方



▲巻頭のフォト・ストーリー「サイドオペレーション・オブ・ジオン0092」は一度この別冊で掲載されたもののリメイク



▲新作①1/220 Gコマンダー。全長25cmにおよぶ大型モデル。原口高陽製作によるGKの原型（プロトタイプ）

ですね」

また、当時、特撮写真、だった部分でも、一部新たに描き起こしています。どの部分なのかは、やはり本誌の方と比較してみてください

ようするに、これも今回の新作な訳です。たから最初に理を入れたのです

立体関係のページはこれくらいにして、次にイラストの方を見ていくことにしましょう

この部分に関しては他の出版社等の協力を得て作品を収録させていただいていますが、すべて近藤先生自らが選んだもののみとなっています

各作品に関しては近藤先生が解説していますので、ここでは省きますが、こういった形で使われていたのかは、ちょっとばかり説明しておきましょう。

バンダイで使用されているのは、ピークラブやサイバーコミックスの他には、「機動戦士Zガンダム」の単行本などです。ファミリースフトでは主にコンピュータゲームのパッケージとして使用されています（ちなみに、ファミリースフトはHJでコミックマスターの編集もやっている会社です）。他にアニメージュでは、ポスター、カラーのトビラ、ムービックでは、やはりポスター、テレホンカードなどで使用されたイラストを収録しています。近藤ファンの方なら一度は目にした事のある物ばかりだと思います。

もちろん、御意見無用ファクトリーのGKのパッケージイラストもありますし、中にはめずらしいところで、ZⅡ（ゼツ）のインストラクション用に描き下したコミックなんか貴重な品かもしれません。

そのコミックの方は、先にも紹介したHJ本誌に連載されていた「オペレーション・プラン」や「アナザーウォー」の他、1992年の3月に発売された別冊「ガンダムウェポンズ」に掲載された「オペレーション・タイタン」やピークラブ44号に掲載された「ガンヘッド外伝」、そして古いところでは、1987年のホビージャパンエクストラ秋の号に掲載された「アーマード・アーミー」

も収録しています。この作品なんかは貴重なはずですよ。何といってもこの本は絶版で入手は困難ですから

考えてみれば近藤先生と本格的に仕事させていたいたのも、このエクストラのあたりからだと思っています。早いもので今年でもう6年にもなります。私と近藤氏は同じ1959年生まれで、何かと話の合う部分も多く、特にAFVとかミリタリー関係の話で盛り上がりつつあります。もちろん御本人もプラモデルが大好きで、本書に自ら製作した作例がいくつか掲載されています。本当に好きなんだなあ、と思ったのは自宅を訪ねた時に思いました。とにかく模型専用の部屋からはみ出る程のプラモデルがびっしりと置かれていましたから。最近引っ越したので、そのたくさんあったプラモは別な場所にあつてお客さんには見る事はできなくなりましたが、今でもその情熱は全く冷めていないようです。

あの独得のディテールも、こういった立体物を自分自身で作る事で自然に生まれてきたものかもしれないですね。ましてや自分のブランドである御意見無用ファクトリーの原型製作を担当する鎌田勝君に対して厳しいのは当然のことかも。その鎌田君もすでに社会人3年目で、仕事と遊びの間をぬって（笑）原型製作をしてもらいました。ジャギヤーⅡは最終の監修を先生にしてもらえば、キットとなります。これも楽しみの一つですね。

と長々と話をしてきましたが、近藤ファンのみならず、ガンダムファンの方にも満足のゆく作品集に仕上がったと思っています。また作品が増えてきたら第二弾、第三弾と出していきたいですね。

そして近藤先生にはいつまでも、プラモデル大好き人間で漫画やカッコイイメカを描き続けていてもらいたいですね。

最後に協力していただいた、モテラー、デザイナー、その他大勢の方々に感謝しつつ終わりたいと思います

1993年1月5日

ORIGINAL MECHANISM COLOR ILLUSTRATION

- 128 ジャギヤー (ホビージャパン別冊 1988年6月)
- 129 ジャギヤーII (バンダイ 1991年6月)
- 130 シュレイク・グスタフ (バンダイ 1991年6月)
- 131 シュレイク・グスタフ (御意見無用ファクトリー 1991年4月)
- 132 ファウスト・グスタフ (御意見無用ファクトリー 1992年10月)
- 133 マシンロックG (ビークラブ 1989年7月)
- 134▶135 シュツルム・イエーガー (バンダイ 1991年6月)
- 136 シュツルム・イエーガー (御意見無用ファクトリー 1990年10月)
- 137 ゴブリン (御意見無用ファクトリー 1990年9月)
- 138 ブレッダ (御意見無用ファクトリー 1991年1月)
- 139 ゲルブ (御意見無用ファクトリー 1990年12月)
- 140▶141 G-3 (バンダイ 1990年9月)
G-3 (ファミリーソフト 1990年5月)
- 142 ドラグナー (ビークラブ 1987年2月)
- 143 AT (ビークラブ 1989年7月)
- 144 ガンヘッド (ビークラブ 1989年5月)
- 145 オリジナル (タイトー 1989年7月)

ORIGINAL MECHANISM ILLUSTRATION

- 183 G-1、G-2、G-3 (模型情報 1988年3月)
- 184▶185 G-3 (コトブキヤ 1988年3月)
G-3 (ホビージャパン 1988年3月)
G-3 (コトブキヤ 1988年3月)
G-3 (ホビージャパン 1988年3月)
- 186▶187 ゴブリン (ホビージャパン別冊 1986年10月)
ジム、61式戦車 (ホビージャパン 1990年6月)
- 188 ジャギヤー (ホビージャパン別冊 1988年6月)
- 189 ブレッダ (ホビージャパン別冊 1988年6月)
- 190 Gレイ (ホビージャパン別冊 1988年6月)
バウンド・ドック (ホビージャパンEX 1987年6月)
- 191 風神、雷神 (ビークラブ 1990年3月)
Gレイ (ホビージャパン別冊 1988年6月)
- 192 グスタフ (ビークラブ 1989年3月)
- 193 マシンロックG (ビークラブ 1989年3月)
オリジナル (タイトー 1989年5月)

COMICS

- 67▶82 オペレーション・タイタン (ガンダムウェポンズ2 1992年1月)
- 100▶102 ZIIインスト用コミック (コトブキヤ 1988年11月)
- 104▶124 オペレーション・ブラン (ホビージャパン 1990年10月~1991年1月 改訂版)
- 151▶182 アナザーウォー (ホビージャパン 1992年7月~8月、10月~11月)
- 195▶208 ガンヘッド外伝 (ビークラブ 1989年6月)
- 209▶224 アーマード・アーミー (ホビージャパンEX 1987年8月)

3D MODELS and PHOTO STORY

- 5▶10 サイドオペレーション・オブ・ジオン (新作)
- 12▶13 ネオ・ジオII (ホビージャパン 1990年5月)
- 14▶15 ゴブリン (ホビージャパン 1990年9月)
- 16 ギラ・ドーガ (ホビージャパン 1990年6月)
- 17▶19 サザビー (ホビージャパン 1990年8月)
- 20▶21 アレックス (ホビージャパン 1990年8月)
- 22▶23 ズゴック (ホビージャパン 1990年11月)
- 24▶25 シュツルム・イエーガー (ホビージャパン 1991年4月)
- 26▶28 G-3 (ホビージャパン 1988年6月)
- 29 サイコガンダムMkII、サザビー、ギラ・ドーガ (ホビージャパンEX 1990年10月)
ズゴックE、ソック (ホビージャパン 1989年5月)
- 125▶127 ガンダム、ブラン (ホビージャパンEX 1990年10月)
- 146▶150 アナザーウォー (新作)

GO AHEAD

作品リスト

表紙 ゴアヘッド (新作)

3▶4 シュレイク・グスタフ (新作)

GUNDAM COLOR ILLUSTRATION

- 30▶31 ガンダム、シャアザク (バンダイ 1992年10月)
- 32▶33 ガンダム、グフ (ファミリーソフト 1992年10月)
- 34▶35 ジオング、シャア (ホビージャパン EX 1990年10月)
- 36▶37 デザートGM (ファミリーソフト 1990年11月)
- 38▶39 Zガンダム (ファミリーソフト 1989年4月)
マラサイ (ファミリーソフト 1988年11月)
ガンダムMkII (ファミリーソフト 1989年4月)
- 40▶41 Zガンダム (ムービック 1989年7月)
- 42▶43 Zガンダム (バンダイ 1990年9月)
ウェーブライダー (バンダイ 1989年3月)
百式 (コミックボンボン 1985年7月)
メタス (コミックボンボン 1986年1月)
- 44▶45 ガンダムMkII、ガフ (ファミリーソフト 1992年2月)
- 46▶47 ガンダムMkII (バンダイ 1989年5月)
ZII (コトブキヤ 1988年10月)
- 48▶49 ガンダムMkII、シャア (コミックボンボン 1985年7月)
ZZガンダム (ビークラブ 1989年4月)
- 50▶51 リガンダム (ムービック 1989年9月)
- 52▶53 ガンダムF91 (アニメージュ 1990年11月)
- 54▶55 ガンダムF91、ビギナ・ギナ (アニメージュ 1991年2月)
- 56▶57 ガンダムF91、ラフレシア (アニメージュ 1991年11月)
- 58▶59 Gコマンダー、ジェガン (ファミリーソフト 1991年3月)
ギャン、ドム (ファミリーソフト 1991年3月)
Zガンダム、G-3 (ファミリーソフト 1991年2月)
バーザム (コミックボンボン 1986年1月)
Gコマンダー (バンダイ 1988年11月)
- 60▶61 オールガンダム (ムービック 1992年6月)
- 62▶63 オールガンダム (アニメージュ 1990年6月)
- 64▶65 オールガンダム (ファミリーソフト 1992年3月)

GUNDAM ILLUSTRATION

- 84 ガンダム (バンダイ 1988年7月)
- 85 ジム (バンダイ 1988年7月)
- 86 ザク (バンダイ 1988年7月)
- 87 グフ (バンダイ 1988年7月)
- 88 ドム (バンダイ 1988年7月)
- 89 スゴック (バンダイ 1988年7月)
- 90▶91 ザク (コミックボンボン 1985年3月)
ガンダムMkII (コミックボンボン 1984年12月)
ハイザック (コミックボンボン 1984年12月)
ガンダム (コミックボンボン 1985年3月)
- 92▶93 ジ・オ (バンダイ 1990年8月)
Zガンダム (バンダイ 1990年10月)
ガザC (コミックボンボン 1986年1月)
Zガンダム (コミックボンボン 1984年12月)
メタス (コミックボンボン 1984年12月)
- 94▶95 アプロ・ランカスター (模型情報 1988年2月)
ギラ・ドーガ (模型情報 1988年2月)
- 96▶97 アルバ・アジール (模型情報 1988年3月)
ユンカース・スツーカー (模型情報 1988年4月)
- 98▶99 X-91XC (模型情報 1988年4月)
キングコブラ (模型情報 1988年1月)
広告用コミック (ファミリーソフト 1992年4月)

GO AHEAD

CONTENTS

1 GUNDAM“3D”

- PHOTO STORY
サイド・オペレーション・オブ・ジオン 5
- ORIGINAL MOBILE SUIT 3D MODELS 11
- COLOR ILLUSTRATION 29

2 GUNDAM ILLUSTRATION

- ORIGINAL COMICS
オペレーション・タイタン 67
- GUNDAM ILLUSTRATION 83
- 2D & 3D COMICS
オペレーション・プラン 104

3 ORIGINAL MECHANISM

- COLOR ILLUSTRATION 128
- PHOTO STORY
アナザーウォーU.C.0044 146
- ORIGINAL COMICS
アナザーウォーU.C.0044 151
- ORIGINAL MECHANISM ILLUSTRATION 183

4 ORIGINAL COMIC

- ガンヘッド外伝 195
- アーマード・アーミー 209

- PRODUCTION NOTE 225
- 作品リスト 228

近藤和久

〔こんどうかずひさ〕

1959年4月2日、愛知県豊田市生まれ。血液型A型。1984年『血を吸うマンション』でマンガ家としてデビュー。『機動戦士ガンダム』のコミック化で一躍注目をあび、模型ファンの間に“近藤ディテール”なるものを流行させた。自らもプラモタルのファンで“ひま”があれば模型作りに励む(?)。最近は月刊ホビージャパンの連載(「アナザーウォー」)をはじめ、格好の良いメカを描く作家として活躍中。

HAZUHISA KONDO 2D & 3D WORKS

GO AHEAD

——「機動戦士ガンダム」からオリジナルメカまで——

STAFF



MODEL MAKER

鎌田 勝
原口高陽
今井将之
松村年信
柳澤 純

ART WORKS

佐藤晴美〔晴蔵〕
田村幹代〔晴蔵〕

PHOTOGRAPHERS

本松昭茂〔スタジオR〕

EDITOR

佐藤忠博

SPECIAL THANKS to

株式会社バンダイ ホビー事業部出版課
株式会社ファミリーソフト
株式会社ムービック
株式会社講談社
株式会社徳間書店
株式会社タイトー

コトブキヤ
ボークス
株式会社サンライズ

- 〔発行日〕 1993年1月30日 初刷
- 〔著 者〕 近藤和久
- 〔発行人〕 佐藤光市
- 〔編集人〕 佐藤忠博
- 〔発行所〕 株式会社ホビージャパン
〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-26-5
☎ 03-3354-9341(代)
振替 東京106531
- 〔印刷所〕 株式会社三友社
- 〔製本所〕 株式会社丸山製作所

落丁乱丁本はおとりかえいたします

定価はカバーに明記してあります

無断転載・複製を禁じます

©サンライズ・創通エージェンシー

©近藤和久 1993

©Hobby Japan 1993

ISBN4-938461-21-8 C0079 P2000E

電子書籍版奥付

KAZUHISA KONDO 2D&3D WORKS
GO AHEAD

-「機動戦士ガンダム」からオリジナルメカまで-

本電子書籍は 1993 年 1 月 30 日初版発行の『KAZUHISA KONDO 2D&3D WORKS GO AHEAD-「機動戦士ガンダム」からオリジナルメカまで-』に基づいて制作されています

2017 年 12 月 29 日配信

編集人 木村 学

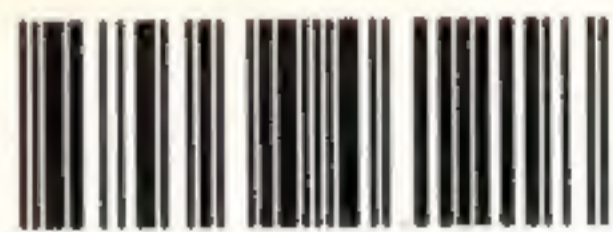
発行人 松下大介

発行所 株式会社ホビージャパン

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-15-8 新宿 Hobby ビル

電話 03-5304-7601[編集] 03-5304-9112[営業] (月～金 13:00～17:00)

©創通・サンライズ



9784938461218



1910079020009

ISBN4-938461-21-8

C0079 P2000E

HOBBY JAPAN SPECIAL EDITION
2D & 3D WORKS

GO AHEAD

From "MOBILE SUIT GUNDAM" to "ORIGINAL MECHANISM"
KAZUHISA KONDO



Hobby
JAPAN

ホビージャパン 定価2,000円(本体1,942円)

©サンライズ・創通エージェンシー